

公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書 (52)

東九州自動車道建設（志布志 I C～鹿屋串良 J C T間）に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

こ まき 小牧遺跡 4

(鹿屋市串良町)

縄文時代前期～弥生時代初頭編

第2分冊

(全3分冊)

2023年3月

鹿児島県教育委員会
公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター

総目次

【第1分冊】

巻頭図版（カラー）

序文

報告書抄録

遺跡位置図

例言

目次

第I章 発掘調査の成果	1
第1節 発掘調査の経過	1
第2節 整理・報告書作成の経過	6
第II章 遺跡の位置と環境	11
第1節 地理的環境	11
第2節 歴史的環境	11
第3節 志布志IC～鹿屋申良JCT間の遺跡	15
第III章 調査の方法と層序	21
第1節 調査の方法	21
第2節 層序	21
第3節 層序についての補足	29
第IV章 遺構および遺物の分類	31
第1節 遺構の分類	31
第2節 土器の分類	32
第3節 石材および石器の分類	36
第V章 縄文時代前期～中期の調査	41

第1節 遺構	41
第2節 遺物（土器）	51
第VI章 縄文時代後期前半の調査	71
第1節 遺構	71

【第2分冊】

第VI章 縄文時代後期前半の調査	1
第2節 遺物（土器）	1
第VII章 縄文時代後期末から弥生時代初頭の調査	109
第1節 遺構	109
第2節 遺物（土器）	120
第VIII章 縄文時代前期から弥生時代初頭の石器	155

【第3分冊】

第IX章 自然科学分析	1
第1節 概要	1
第2節 分析結果の報告	1
第X章 総括	71
第1節 縄文時代前期～中期	71
第2節 縄文時代後期前半	73
第3節 縄文時代後期末～弥生時代初頭	88
第4節 発掘調査からみえる小牧遺跡	89
補遺	94
写真図版	95
奥付	

第2分冊目次

第VI章 縄文時代後期前半の調査	1	第1節 遺構	109
第2節 遺物（土器）	1	第2節 遺物（土器）	120
第VII章 縄文時代後期末から弥生時代初頭の調査	109	第VIII章 縄文時代前期から弥生時代初頭の石器	155

挿図目次

第2-1図 縄文時代後期前半遺構配置図および土器出土状況	2	第2-6図 Va類土器	7
第2-2図 縄文時代後期前半分類別土器分布図(1)	3	第2-7図 Vb類土器	8
第2-3図 縄文時代後期前半分類別土器分布図(2)	4	第2-8図 Vc類土器	9
第2-4図 縄文時代後期前半分類別土器分布図(3)	5	第2-9図 VIa類土器(1)	10
第2-5図 IV類土器	6	第2-10図 VIa類土器(2)	11
		第2-11図 VIa類土器(3)	12

第2-12図	VIb類土器(1)	13	第2-57図	VIIIb, c類土器(胴部)(1)	58
第2-13図	VIb類土器(2)	14	第2-58図	VIIIb, c類土器(胴部)(2)	59
第2-14図	VIb類土器(3)	15	第2-59図	VIII類土器(波頂部・装飾)	60
第2-15図	VIb類土器(波頂部)	16	第2-60図	IXa類土器(1)	61
第2-16図	VIc類土器	17	第2-61図	IXa類土器(2)	62
第2-17図	VI類土器(胴部)	18	第2-62図	IXa類土器(3)	63
第2-18図	VIIa類土器(1)	19	第2-63図	IXb類土器(1)	64
第2-19図	VIIa類土器(2)	20	第2-64図	IXb類土器(2)	65
第2-20図	VIIa類土器(3)	21	第2-65図	IXb類土器(3)	67
第2-21図	VIIa類土器(4)	22	第2-66図	IXb類土器(4)	68
第2-22図	VIIa類土器(5)	23	第2-67図	IX類土器	69
第2-23図	VIIb類土器(1)	24	第2-68図	X類土器	69
第2-24図	VIIb類土器(2)	25	第2-69図	XI類土器	70
第2-25図	VIIb類土器(3)	26	第2-70図	縄文時代後期の無文土器(1)	71
第2-26図	VIIb類土器(4)	27	第2-71図	縄文時代後期の無文土器(2)	72
第2-27図	VIIb類土器(5)	28	第2-72図	縄文時代後期の無文土器(3)	73
第2-28図	VIIb類土器(6)	29	第2-73図	特殊な底部・脚	75
第2-29図	VIIa類土器(1)	30	第2-74図	特殊器種および写真	76
第2-30図	VIIa類土器(2)	31	第2-75図	底部片分布図	77
第2-31図	VIIa類土器(3)	32	第2-76図	後期前半の底部(1)	78
第2-32図	VIIa類土器(4)	33	第2-77図	後期前半の底部(2)	79
第2-33図	VIIa類土器(5)	34	第2-78図	後期前半の底部(3)	80
第2-34図	VIIa類土器(6)	35	第2-79図	後期前半の底部(4)	81
第2-35図	VIIa類土器(7)	36	第2-80図	後期前半の底部(5)	82
第2-36図	VIIa類土器(8)	37	第2-81図	後期前半の底部(6)	83
第2-37図	VIIa類土器(9)	38	第2-82図	後期前半の底部(7)	84
第2-38図	VIIa類土器(10)	39	第2-83図	後期前半の底部(8)	85
第2-39図	VIIa類土器(11)	40	第2-84図	円盤状土製加工品重量, 直径計測値	86
第2-40図	VIIa類土器(胴部)	41	第2-85図	円盤状土製加工品分布図	86
第2-41図	VIIIb類土器(1)	42	第2-86図	円盤状土製加工品(1)	87
第2-42図	VIIIb類土器(2)	43	第2-87図	円盤状土製加工品(2)	88
第2-43図	VIIIb類土器(3)	44	第2-88図	円盤状土製加工品(3)	89
第2-44図	VIIIb類土器(4)	45	第2-89図	円盤状土製加工品(4)	90
第2-45図	VIIIb類土器(5)	46	第2-90図	円盤状土製加工品(5)	91
第2-46図	VIIIb類土器(6)	47	第2-91図	円盤状土製加工品(6)	92
第2-47図	VIIIb類土器(7)	48	第2-92図	円盤状土製加工品(7)	93
第2-48図	VIIIb類土器(8)	49	第2-93図	円盤状土製加工品(8)	94
第2-49図	VIIIb類土器(9)	50	第2-94図	円盤状土製加工品(9)	95
第2-50図	VIIIb類土器(10)	51	第2-95図	円盤状土製加工品(10)	96
第2-51図	VIIIb類土器(11)	52	第2-96図	円盤状土製加工品(11)	97
第2-52図	VIIIb類土器(12)	53	第2-97図	縄文時代後期末～弥生時代初頭の遺構 配置図および遺物分布図1	110
第2-53図	VIIIb類土器(13)	54	第2-98図	縄文時代後期末～弥生時代初頭の遺構 配置図および遺物分布図2(部分拡大)	111
第2-54図	VIIIc類土器(1)	55	第2-99図	土坑59・60号と土坑59号出土遺物	112
第2-55図	VIIIc類土器(2)	56			
第2-56図	VIIIc類土器(3)	57			

第2-100図	土坑61号	113	第2-141図	石匙(2)	169
第2-101図	土坑61号出土遺物	114	第2-142図	石匙(3)	170
第2-102図	土坑62号と出土遺物	115	第2-143図	石匙(4)	171
第2-103図	集石74・75号	116	第2-144図	スクレイパー(1)	172
第2-104図	石斧埋納遺構1号と出土遺物(1)	117	第2-145図	スクレイパー(2)	173
第2-105図	石斧埋納遺構1号出土遺物(2)	118	第2-146図	スクレイパー(3)	174
第2-106図	石斧埋納遺構1号出土遺物(3)	119	第2-147図	二次加工剥片	175
第2-107図	XII類土器	121	第2-148図	使用痕剥片(1)	176
第2-108図	XIII類土器	122	第2-149図	使用痕剥片(2)	177
第2-109図	XII・XIII類土器(浅鉢形土器)	124	第2-150図	石核・原石(1)	179
第2-110図	XIV類土器	125	第2-151図	石核・原石(2)	180
第2-111図	XIV類土器(浅鉢形土器)	126	第2-152図	磨製石斧(1)	183
第2-112図	XV類土器(1)	128	第2-153図	磨製石斧(2)	184
第2-113図	XV類土器(2)	129	第2-154図	磨製石斧(3)	185
第2-114図	XV類土器(3)	130	第2-155図	磨製石斧(4)	186
第2-115図	中華鍋形土器(1)	131	第2-156図	磨製石斧(5)	187
第2-116図	中華鍋形土器(2)	132	第2-157図	磨製石斧(6)	188
第2-117図	中華鍋形土器(組織痕土器)(1)	133	第2-158図	磨製石斧(7)	189
第2-118図	中華鍋形土器(組織痕土器)(2)	135	第2-159図	磨製石斧(8)	190
第2-119図	中華鍋形土器(組織痕土器)(3)	136	第2-160図	磨製石斧(9)	191
第2-120図	中華鍋形土器(組織痕土器)(4)	137	第2-161図	磨製石斧(10)	192
第2-121図	中華鍋形土器(組織痕土器)(5)	138	第2-162図	磨製石斧(11)	193
第2-122図	中華鍋形土器(組織痕土器)(6)	139	第2-163図	磨製石斧(12)	194
第2-123図	XV類土器(浅鉢形土器)(1)	141	第2-164図	磨製石斧(13)	195
第2-124図	XV類土器(浅鉢形土器)(2)	143	第2-165図	磨製石斧(14)	196
第2-125図	XV類土器(浅鉢形土器)(3)	144	第2-166図	磨製石斧(15)	197
第2-126図	XVI類土器(1)	146	第2-167図	磨製石斧(16)	198
第2-127図	XVI類土器(2)	148	第2-168図	磨製石斧(17)	199
第2-128図	XVI類土器(3)	149	第2-169図	磨製石斧(18)	200
第2-129図	XVI類土器(4)	151	第2-170図	磨製石斧(19)	201
第2-130図	縄文時代前期～弥生時代初頭の石器 分布図(1)	156	第2-171図	磨製石斧(20)	202
第2-131図	縄文時代前期～弥生時代初頭の石器 分布図(2)	157	第2-172図	磨製石斧(21)	203
第2-132図	縄文時代前期～弥生時代初頭の石器 分布図(3)	158	第2-173図	磨製石斧(22)	204
第2-133図	縄文時代前期～弥生時代初頭の石器 分布図(4)	159	第2-174図	打製石斧(1)	207
第2-134図	石鏃(1)	161	第2-175図	打製石斧(2)	208
第2-135図	石鏃(2)	162	第2-176図	打製石斧(3)	209
第2-136図	石鏃(3)	163	第2-177図	打製石斧(4)	210
第2-137図	石鏃(4)	164	第2-178図	打製石斧(5)	211
第2-138図	石鏃(5)	165	第2-179図	打製石斧(6)	212
第2-139図	石錐	166	第2-180図	打製石斧(7)	213
第2-140図	石匙(1)	168	第2-181図	打製石斧(8)	214
			第2-182図	打製石斧(9)	215
			第2-183図	打製石斧(10)	216
			第2-184図	打製石斧(11)	217
			第2-185図	礫器(1)	218

第2-186圖	礫器(2)	219	第2-202圖	石皿(2)	237
第2-187圖	磨·敲石(1)	222	第2-203圖	石皿(3)	238
第2-188圖	磨·敲石(2)	223	第2-204圖	石皿(4)	239
第2-189圖	磨·敲石(3)	224	第2-205圖	石皿(5)	240
第2-190圖	磨·敲石(4)	225	第2-206圖	石皿(6)	241
第2-191圖	磨·敲石(5)	226	第2-207圖	石皿(7)	242
第2-192圖	磨·敲石(6)	227	第2-208圖	砥石(1)	244
第2-193圖	磨·敲石(7)	228	第2-209圖	砥石(2)	245
第2-194圖	磨·敲石(8)	229	第2-210圖	擦切石器	246
第2-195圖	磨·敲石(9)	230	第2-211圖	石錘(1)	248
第2-196圖	磨·敲石(10)	231	第2-212圖	石錘(2)	249
第2-197圖	磨·敲石(11)	232	第2-213圖	石錘(3)	250
第2-198圖	磨·敲石(12)	233	第2-214圖	石製品(1)	251
第2-199圖	磨·敲石(13)	234	第2-215圖	石製品(2)	252
第2-200圖	磨·敲石(14)	235	第2-216圖	輕石加工品(1)	253
第2-201圖	石皿(1)	236	第2-217圖	輕石加工品(2)	254

表 目 次

第2-1表	後期包含層土器觀察表1	98	第2-16表	晚期包含層出土土器觀察表1	152
第2-2表	後期包含層土器觀察表2	99	第2-17表	晚期包含層出土土器觀察表2	153
第2-3表	後期包含層土器觀察表3	100	第2-18表	晚期包含層出土土器觀察表3	154
第2-4表	後期包含層土器觀察表4	101	第2-19表	包含層石器觀察表1	255
第2-5表	後期包含層土器觀察表5	102	第2-20表	包含層石器觀察表2	256
第2-6表	後期包含層土器觀察表6	103	第2-21表	包含層石器觀察表3	257
第2-7表	土器底部觀察表1	104	第2-22表	包含層石器觀察表4	258
第2-8表	土器底部觀察表2	105	第2-23表	包含層石器觀察表5	259
第2-9表	円盤狀土製加工品觀察表1	105	第2-24表	包含層石器觀察表6	260
第2-10表	円盤狀土製加工品觀察表2	106	第2-25表	包含層石器觀察表7	261
第2-11表	円盤狀土製加工品觀察表3	107	第2-26表	包含層石器觀察表8	262
第2-12表	円盤狀土製加工品觀察表4	108	第2-27表	包含層石器觀察表9	263
第2-13表	晚期遺構内出土土器觀察表	119	第2-28表	包含層石器觀察表10	264
第2-14表	晚期遺構内出土石器觀察表	119	第2-29表	包含層石器掲載一覽表	264
第2-15表	晚期遺構觀察表	119			

第Ⅵ章 縄文時代後期前半の調査

第2節 遺物（土器）

小牧遺跡からは、Ⅳa層～Ⅳb層を中心として、縄文時代中期末頃～縄文時代後期中頃までの多量の土器がバリエーション豊かに出土した。ただし今回報告する縄文時代後期前半の土器のなかにはⅤ・Ⅵ層から出土したものも含まれる。第Ⅲ章第3節にも記載したが、特に9～16区において、アカホヤ火山灰層（Ⅴ層）以上の残存状況が後世の攪乱の影響を受けて不安定な箇所がある。複数年に渡って接合を試みたが、口縁部～胴部までを復元できた資料は少なかった。そこで本報告では、先行の研究・編年を基に、主に口縁部の形態と文様の特徴に着目し出土土器をⅣ～Ⅹ類に分類した。また、縄文時代後期前半に帰属すると判断できるが、Ⅳ～Ⅹ類への分類が難しかったものをⅪ類とした。

本遺跡から出土した土器の遺跡における各分類ごとの分布の状況を第2-2～4図に示している。後期前半の土器全般の出土状況は、西側の竪穴建物跡に沿うエリア、東側の竪穴建物跡に沿うエリア、14～16区の3か所に集中して分布する様子がみられる。このうち3～5区の南壁近くの凹みの西側縁にあたる微高地のあたりに、特に多くが集中した。各分類ごとに分布の特徴がみられるが、詳細な分析は第Ⅲ章第3節と第Ⅹ章第2節にて述べる。

器種はⅣ～Ⅵ類とⅪ類は深鉢のみが出土し、Ⅶ～Ⅹ類は深鉢に加え、鉢形や台付皿形の特殊な形態のものも少数出土した。類別の特徴を示した模式図を第1分冊第Ⅳ章に示しているので参照いただきたい。

Ⅳ類（第2-5図 538・539）

二又状の工具による細い沈線文を施す。沈線文は部分的に鋸歯状に描かれる特徴がみられる。本遺跡では口縁部外面に段を有するものと、直口する口縁部片2点と、Ⅳ類の可能性のある胴部片が1点出土した。

Ⅳ類土器は、大平式と考えられる。

538は緩い波状口縁を呈し、波頂部が小さく隆起する。器壁はやや外傾しながら直線的に立ち上がる。口唇部は平坦に形成され連続刺突文を施す。539は口縁端部を欠く。胴部との境目に段を形成する。

Ⅳ類のなかでも古手のタイプは539のように、口縁部と胴部の境目に段を形成し文様帯は口縁部にのみ施され、新しいタイプは段を形成せず文様帯がやや下方に広がる。なかでも538のように縦位の文様を描くものはより新しい傾向がみられるとの研究がある（相美2017）。

Ⅴ類

口縁部に指頭幅の太幅の凹線によって、1帯あるいは2帯構成の文様帯を形成する。凹線の幅は太く、1cm以上のものが主流である。凹線と器面との境目を丁寧にナデて仕上げるものが多い。裏面に文様が浮き出るものが多く、口唇部に指や棒状工具による刺突を巡らせたものもみられる。口縁部～胴部の器壁の厚さが均一なものも多く、平坦口縁が主であるが、口唇部に突起を有するものもみられる。ナデ調整のものと、器面に条痕が残るものが出土し、調整の違いにより前者をⅤa類、後者をⅤb類に細分した。ただし本遺跡から出土したⅤa類は、ナデ調整がやや雑で、先に施した貝殻条痕をわずかに残す傾向がみられる。

Ⅴ類は、阿高式の系統であると考えられ、なかでもⅤb類は器面に条痕を残す宮ノ前タイプ（新東1988）に該当すると考えられる。Ⅴ類の胎土には金色の雲母を含むものが多い。また、円形の刺突文を施した突帯に区画された阿高系の凹線文（三角形のモチーフ）をもつものが1点のみ出土した。これはⅤ類との時期差が小さいと捉え、Ⅴc類に分類した。

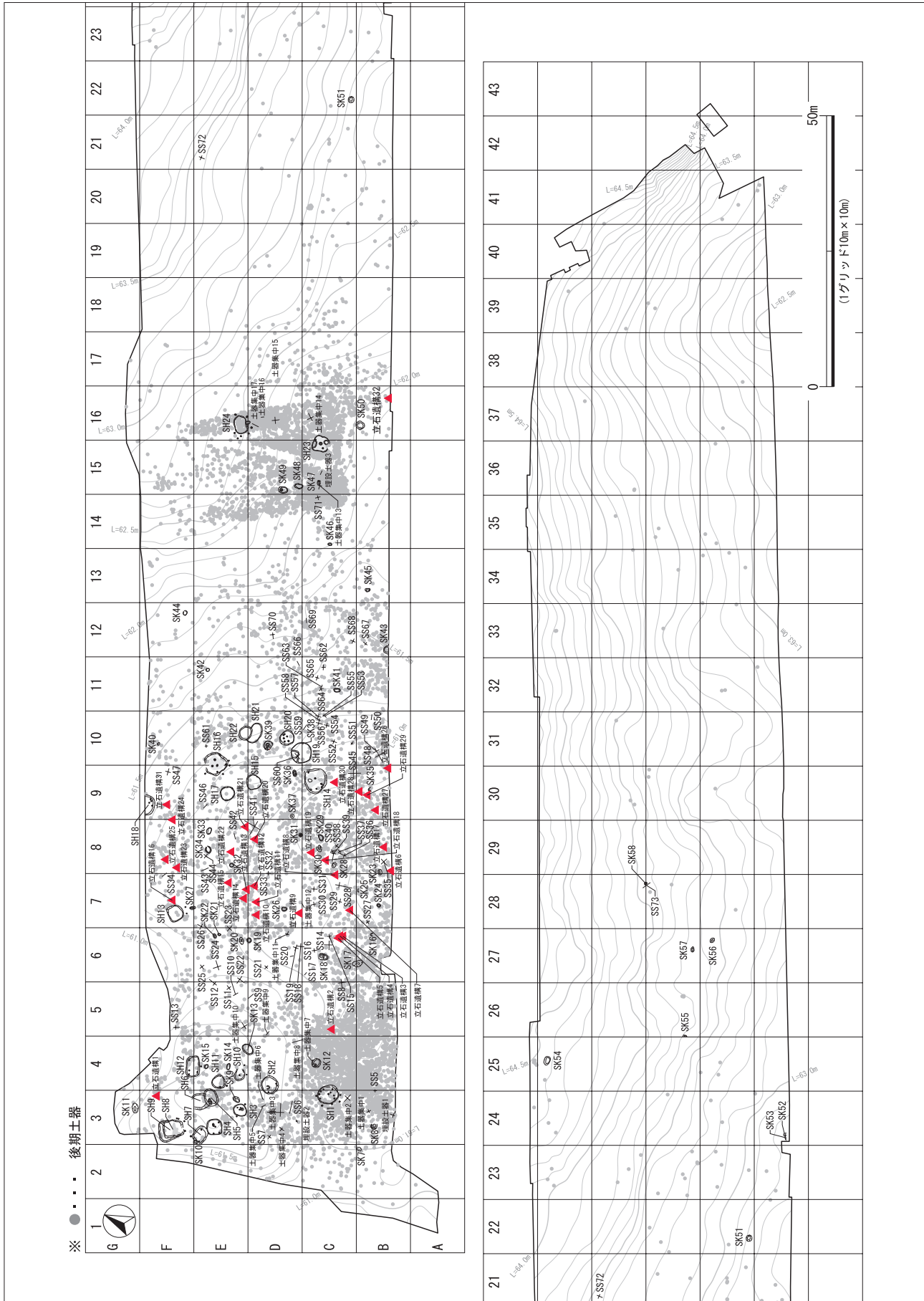
Ⅴa類（第2-6図 540・541）

口縁部が残存するものが少なく全体形は不明だが、文様帯の幅が広く、胴部下位に及ぶ傾向がみられる。掲載した2点ともに凹線幅が太く、線同士の間隔も広めである。凹線を施した後でよくナデて仕上げられ、凹線と器面との境目が滑らかである。同心円状あるいは三角形のモチーフを描く。口縁部が残存する540は、平坦口縁で口唇部に小さな突起を有する。

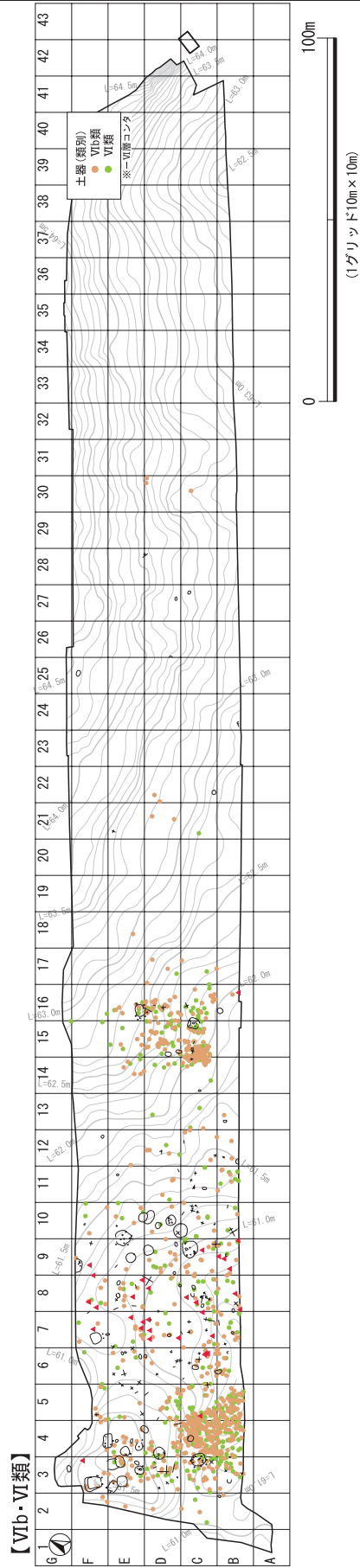
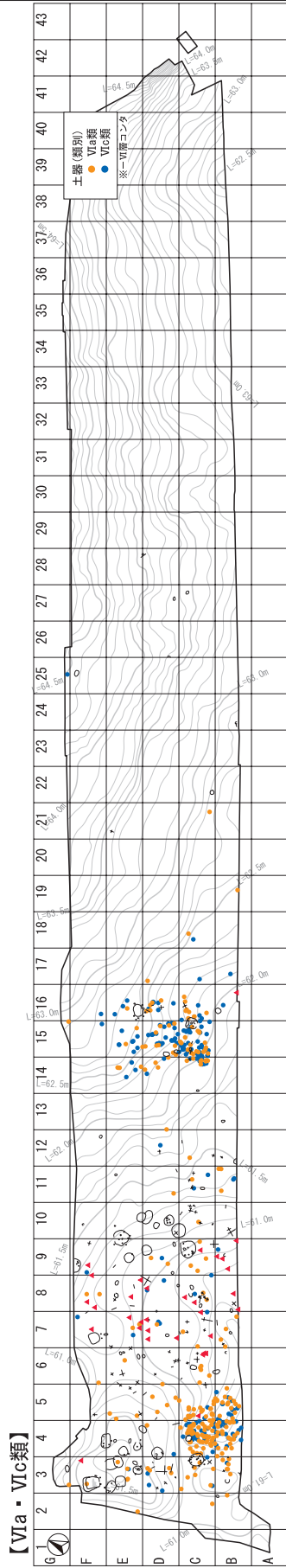
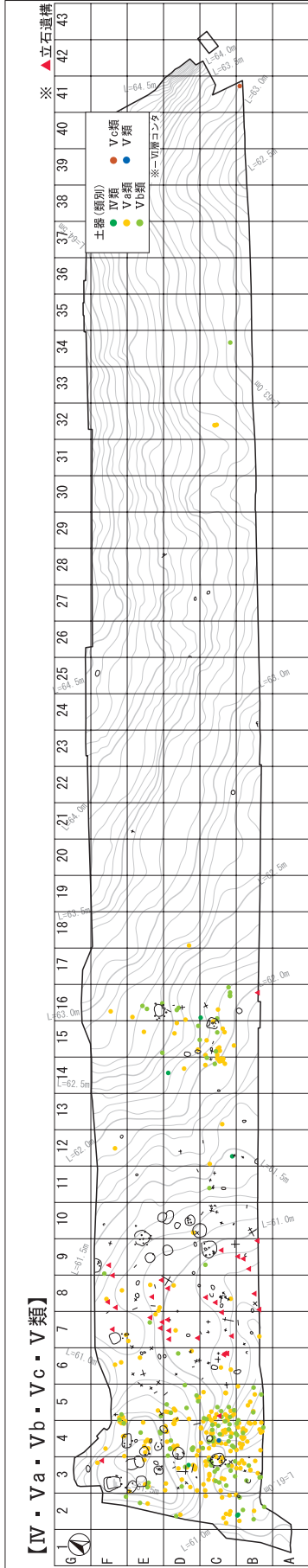
Ⅴb類（第2-7図 542～548）

出土点数は少ないが、平坦口縁で口縁部がやや外傾しながら直線的に立ち上がる傾向がみられる。凹線の幅がⅤa類より少し細くなり、凹線同士の間隔はやや密である。凹線と器面との境目はⅤa類と同様なもの（542・545）と、あまりナデられていないことからやや明瞭なもののみみられる。

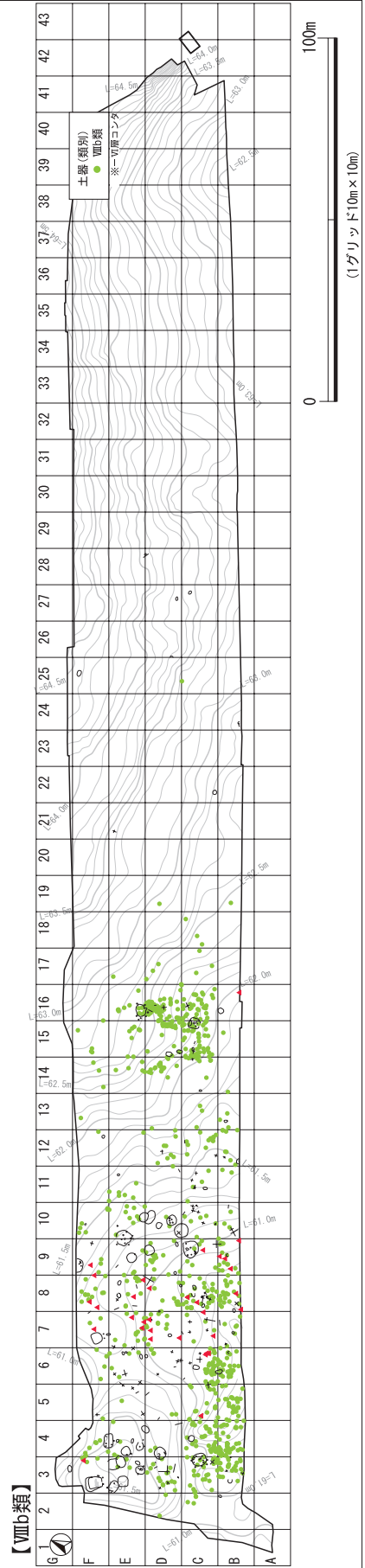
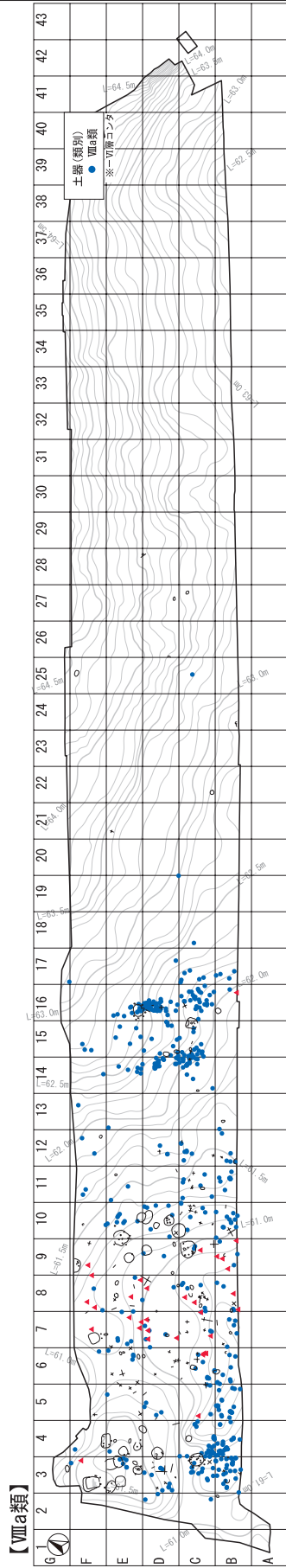
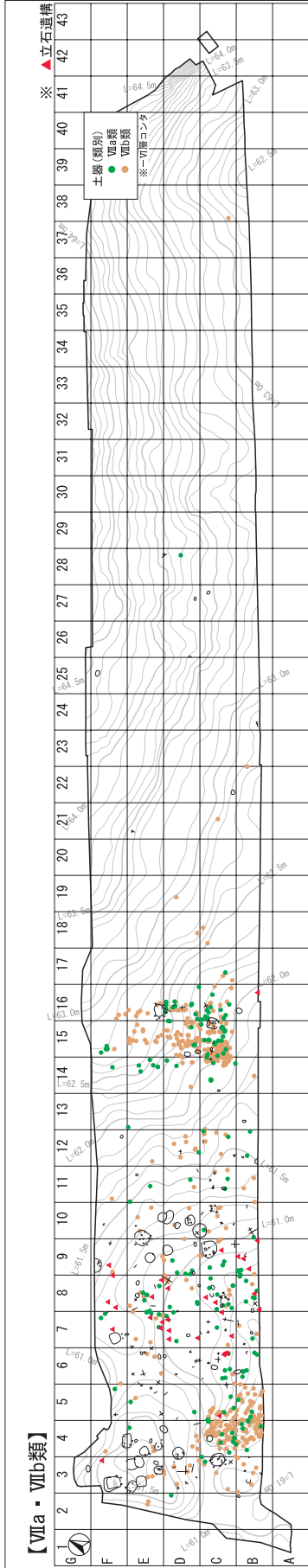
542・543は口縁部直下に2段の連点を巡らせ、その下に凹線文を描く2帯の文様帯構成である。544は口縁端部を指により連続して強く押圧することによって、波状に成形している。546は胴部最上位に縦位の高い突起を貼り付け、突起の外側を押圧する。口縁部直下に縦位の凹線を連続して施し、その下に凹点と曲線を描く。548は下胴部片で、縦位の凹線文が底部近くまで施される。



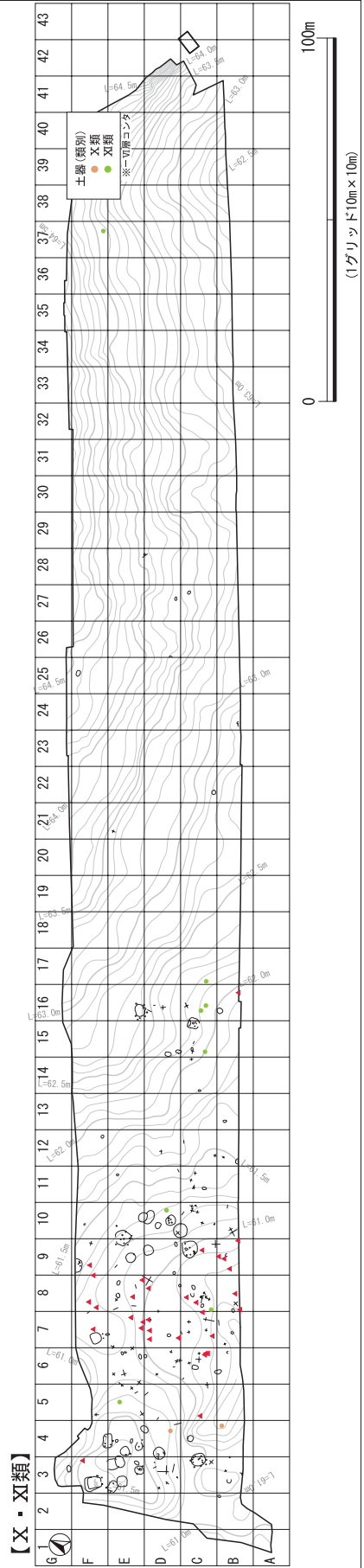
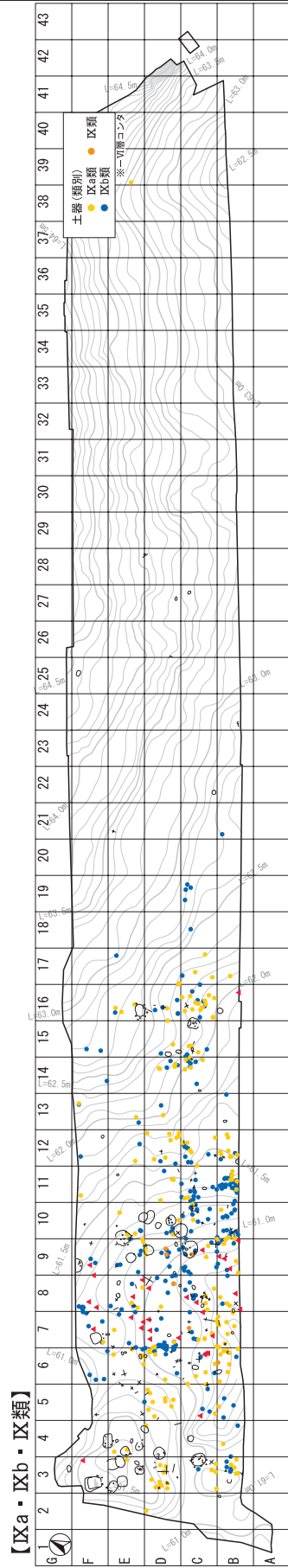
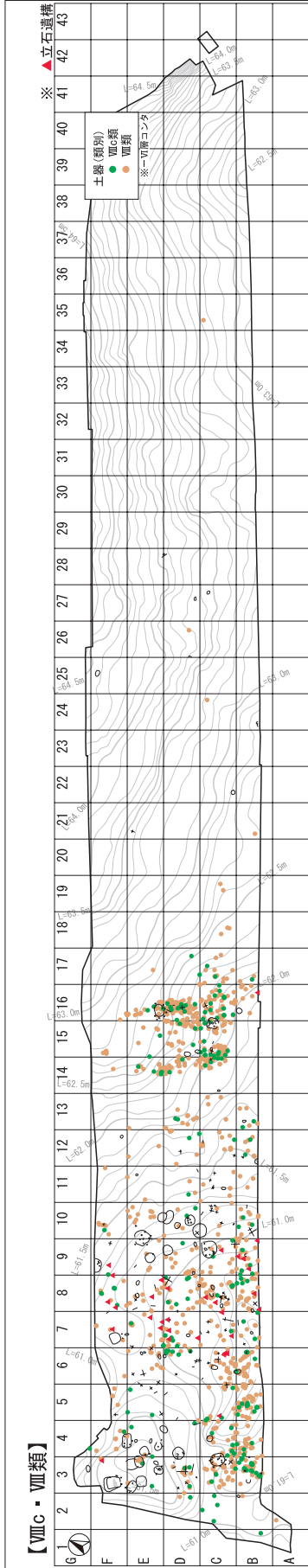
第2-1-1 図 縄文時代後期前半遺構配置図および土器出土状況



第2-2図 縄文時代後期前半分類別土器分布図(1)



第2-3図 縄文時代後期前半分類別土器分布図(2)



第2-4図 縄文時代後期前半分類別土器分布図(3)



第2-5図 IV類土器

Vc類 (第2-8図 549)

549は扁平で太幅の突帯に区画された凹線文を施す。凹線の幅はVa, Vb類と比較してやや細く、時期の差がある可能性も考えられるが、三角形状や四角形状のモチーフを一筆描き風に描く特徴からV類に分類した。文様は底部近くに及ぶと推測される。口唇部には円形刺突文を連続して施す。内外面ともにナデ調整である。混和材は粒子が細かく砂状に入る。搬入された可能性もある。外面に付着した煤を年代測定した結果(報告No.4)¹⁴C年代が $3900 \pm 30\text{yrBP}$ 1 σ , 2 σ 暦年代範囲が2466-2297 calBC (95.4%)である。

VI類

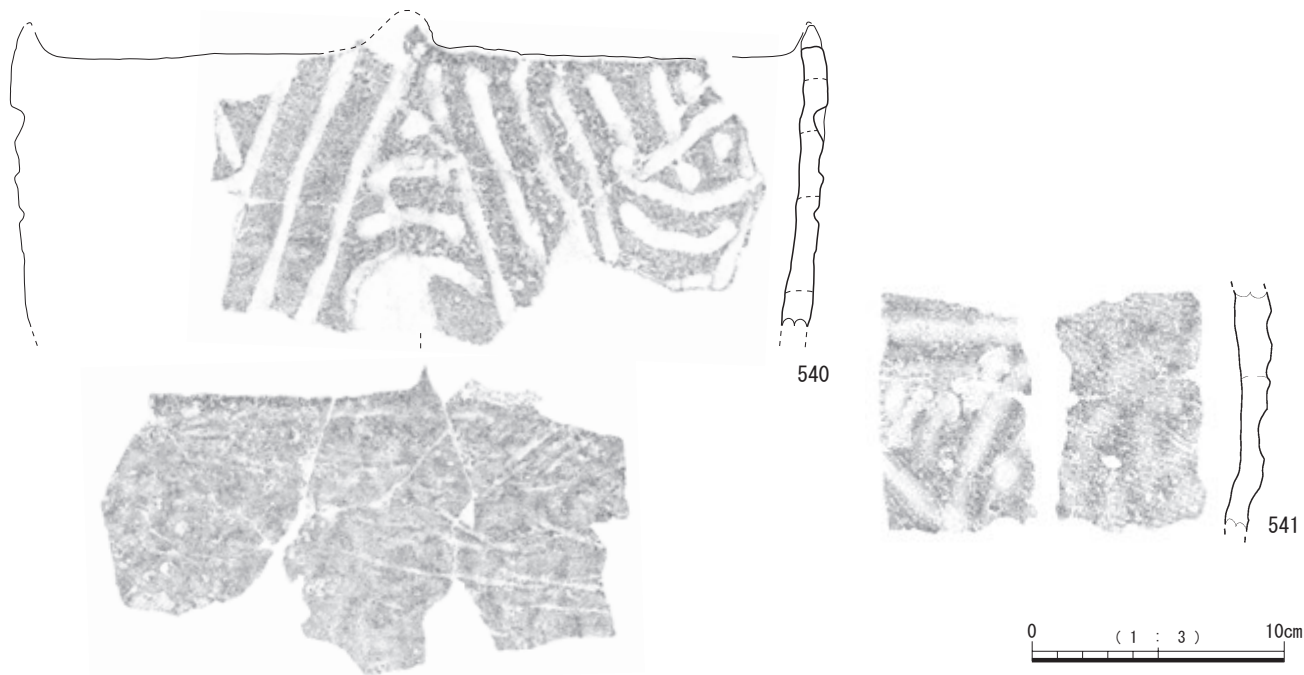
胴部上位に凹線により文様帯が形成される。文様帯は口縁部～頸部に集約され横位に展開する。凹線の幅はV類土器よりもやや細くなる傾向がみられ、幅4～5mm程度のもが主流である。線がさらに細いものもみられ、VIII類との分類が難しかったが、そのうち単沈線によるひと筆書き様のモチーフを横位に繰り返して展開させるものをVI類に分類した。円形・三角形・四角形状の渦巻文、鉤型文、多重の沈線文、大波文など文様のバリエーションも非常に豊かで、角に丸みのある幾何学文が描かれるものが多く出土した。V類よりも凹線同士の間隔が狭まり、文様の密度がさらに高い印象となる。口唇部や口縁部直下に棒状工具や貝殻腹縁による刺突文を巡らせるものも多い。口縁部の形態は、直口するものと外反するものがあり、平坦口縁と波状口縁のものが出土する。器面の調整は、特に外面に条痕を残すものの比率が高い。

VI類は、従来、岩崎下層式・上層式と呼称されていた一群、そして、それらを包括して捉えられる宮之迫式系統(金丸2006・2011, 真邊2010など)に該当すると考えられる。口縁部の形態・文様の特徴によりVIa類, VIb類, VIc類に細分した。

VIa類 (第2-9～11図 550～571)

口縁部の文様帯が2帯構成である。口縁部上位に爪や工具による縦位の連続刺突文を巡らせ、その下に凹線による文様帯を形成する。口縁部はやや外傾しながら直線的に立ち上がるもの、ごく緩く外反するもの、わずかに内湾するものなど様々な形態がみられる。口縁部をあまり肥厚させないが、幅広あるいは断面三角形の小さな突帯を貼り付け、突帯上に連続刺突を施すものも出土した。河口貞徳氏が提唱した岩崎下層式を含むと考えられる(河口1953)。

550～554は口縁部外面の最上位に小さな突帯を貼り付け、斜位に連続刻目を施す。その下には多重の凹線を水平に描く。552は文様のパターンは同様であると推測されるが、口縁部外面をわずかに肥厚させて口唇部よりやや下がる位置に連続刺突文を施す。550はわずかに右上がりの凹線文を描き文様の一部に曲線や入組状の部位が確認できる。553も同様に文様の一部に曲線が確認できる。551の口唇部と外面には赤色顔料が付着し、分析の結果、鉄が多く含まれ、ベンガラを塗布した可能性がある。556は波状口縁で、口縁部を肥厚させ、縦位の連続刺突文を施す。口唇部には円形の深い刺突文を連続して施す。沈線の一部を円形に変形させたモチーフを横位に展開させ、残存部の状況から4～5か所にモチーフを施している可能性が考えられる。モチーフ中央の崩れた円形の部分は波頂部の真下ではない。555とは文様の雰囲気類似する。557は口縁部外面に幅広の薄い突帯を貼り付けた痕が残る。558～561は口縁部を肥厚させずに縦位の連続刺突文を巡らせる。559は爪による、560は棒状の工具による刺突と推測される。558～568は縦位の連続刺突の直下に一重・平行・多重の凹線を横位に巡らせ、その下に幾何学文や曲線文を描く。558は外傾しながら直線的に立ち上がり、丸い山形の突起を有することから波状口縁となると推測される。561も残存部は少ないが波状口



第2-6図 Va類土器

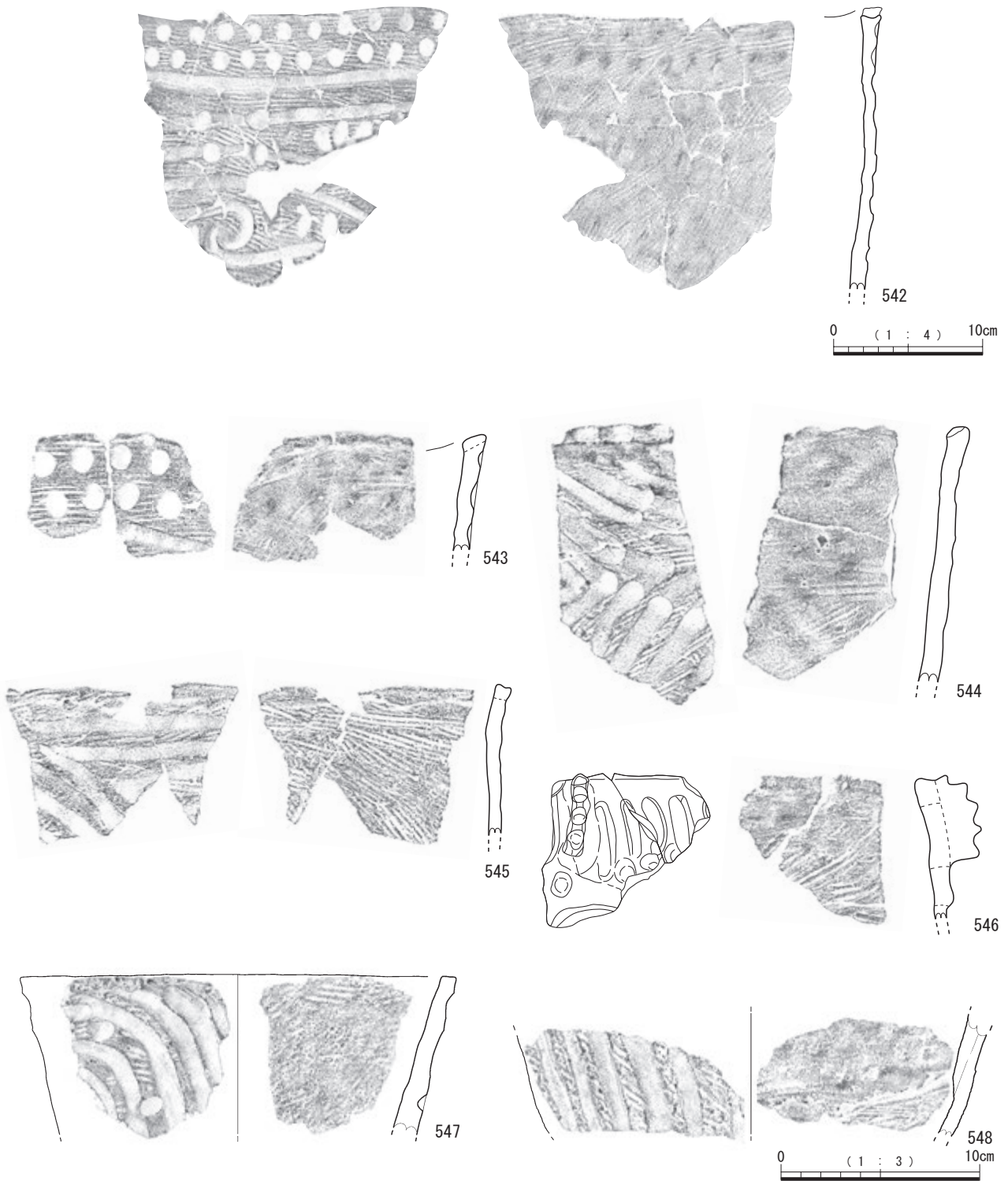
縁である。563は細幅の突帯を口縁部最上位に貼り付け、平坦口縁で、部分的に突起を有する。口唇部には平坦面を形成する。円形のモチーフを囲むように、大型の貝殻の腹縁による刺突文を放射状に施す。円形のモチーフはさらに下位にも展開させると推測される。口縁部よりわずかに下がる位置に粘土紐を粗く貼り付けて巡らせ、突帯上をハの字状に連続して刻む。566と568は同一個体と判断したもので、波状口縁を呈し波頂部に突起を有する。568の口唇部の沈線様の拓影は、粘土の貼り付けの痕跡である。胴部には四角の渦巻き状のモチーフを横位に連続させて施すと推測される。564, 565, 567は器形・文様・胎土の特徴が類似するため同一個体と判断した。平坦口縁に低い突起を有し、突起直下の口縁部は他の箇所にくらべて厚みをもたせて口唇部に平坦面を形成する。突起直下に同心円文を描く。569・570はここに分類したが、569は上→下、570は下→上の方向で線を描いたもので、施文の技法には違いが見られる。ともに口縁部直下に横位の凹線を施しその下に縦位の凹線を描き、線の終点と始点を強く押圧する特徴は本遺跡から出土したⅧ類にもみられることから、時期が若干下る可能性もある。570は口縁部がすぼまり胴部が張り出す丸みを帯びた形態であり、口唇部をやや肥厚させて平坦面を形成する。胴部上位の縦位の凹線文は2重に構成される。胎土は550・552・554・561・562・566・570には白色の粒子が目立つ。556・552・553・560・570には金色の雲母を含む。558・569は角閃石を多く含み粒子の細かな混和材が砂状に入る。571は口縁部外面を幅広く肥厚させ、W字状の凹線文を連続させる。南福寺式土器に該当すると考えられる

が、ここでは形態、文様の特徴からⅥa類と併行する時期の遺物と考えられるため、ここに含めた。

Ⅵb類 (第2-12~14図 572~599)

口縁部外面の文様帯が1帯構成のものが多く、胴部上位に集約される。口縁端部を平たく成形し刻目や円形刺突文を巡らせるもの、口縁部に突起や粘土紐による装飾を施すものが多く出土した。器形は口縁部が外反しながら開くタイプが増加する。Ⅵ類のなかでも文様のバリエーションが特に豊かな一群である。河口貞徳氏が提唱した岩崎上層式を含むと考えられる(河口1953)。

572~577は口縁部~胴部の器壁が均一で、口唇部を丸くおさめるかやや角張らせて形成し、凹線により曲線を描く。572・573には大波文を、575・577には曲線文を横位に連続して施す。573・576は口縁部直下に横位の凹線を巡らせる。576には補修孔が施される。578~587は口縁部を肥厚させず、口縁端部の外面や口唇部に連続刺突を施すものである。582~585のように、口縁端部に連続する刺突が大きく深いものは、口唇のラインが小さく波打つような見た目であり、Ⅵb類との類似性もみられる。582・583の文様はやや細めの沈線により描かれ、部分的に入組状となる。588・589は平坦口縁を呈する。588は外面に篋状工具による連続刺突を等間隔に施す。589は小片により全体的な施文の状況は不明だが、内外面の調整や、文様の凹線の特徴によりここに分類した。器壁が非常に薄い。590~599は波状口縁を呈し、凹線が細めである傾向がみられる。590は欠損のため形態不明だが、口唇部に透かしのような装飾を有すると推測される。外



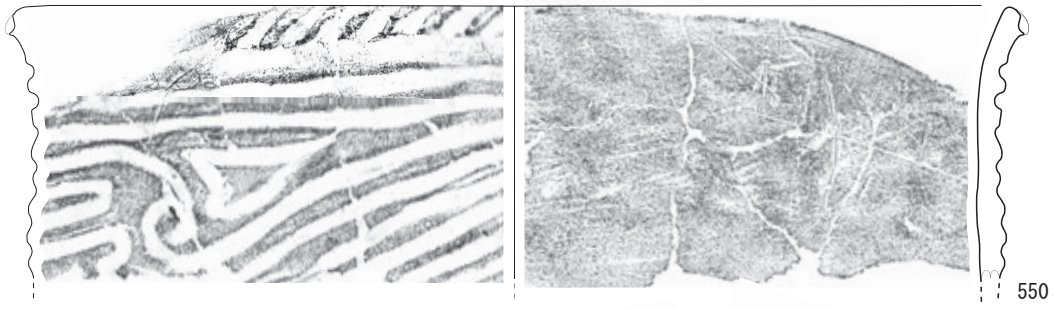
第2-7図 Vb類土器

面に付着した煤を年代測定した結果(報告No.4)¹⁴C年代が $3760 \pm 20\text{yrBP}$ 1 σ , 2 σ 暦年代範囲が2208-2131calBC(74.02%)である。591・594は波頂部に粘土紐を貼り付ける。592は波頂部と、波頂部口唇部と波頂部同士の間あたり2~3条のごく細い沈線による刻目を施す。VIIIb類(指宿式系)に類似する特徴である。596, 597も、

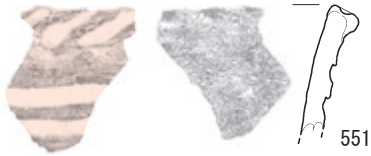
VIII類(指宿式系)に近い印象の平行沈線文や連点文を描くが、口縁・口唇の形態はVI類の特徴を有する。593・594は貝殻腹縁を用いて連続刺突を施す。胎土は572~575・579・581・582・586・587・596には金色の雲母を含む。580・591は角閃石を多く含み粒子の細かな混和材が砂状に入る。



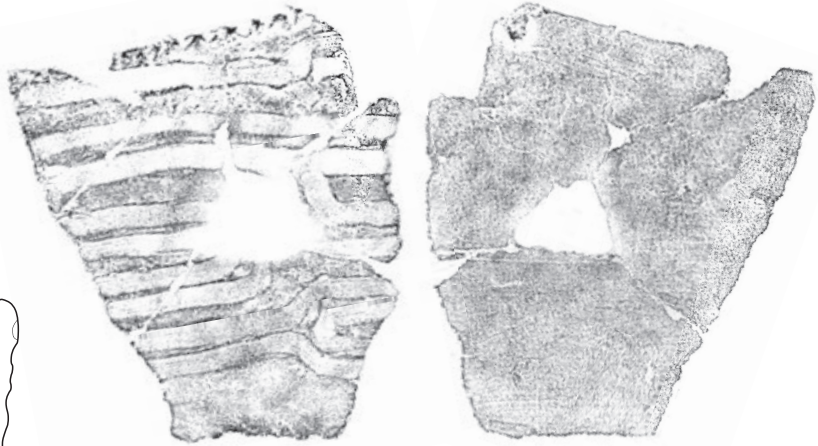
第2-8図 Vc類土器



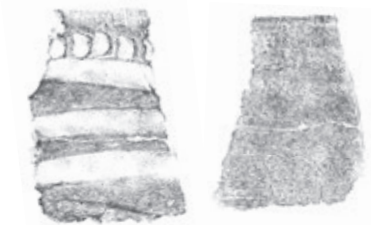
550



551



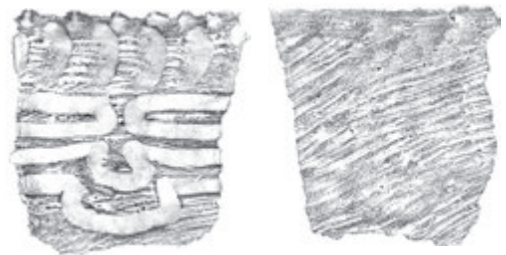
553



552



554



555



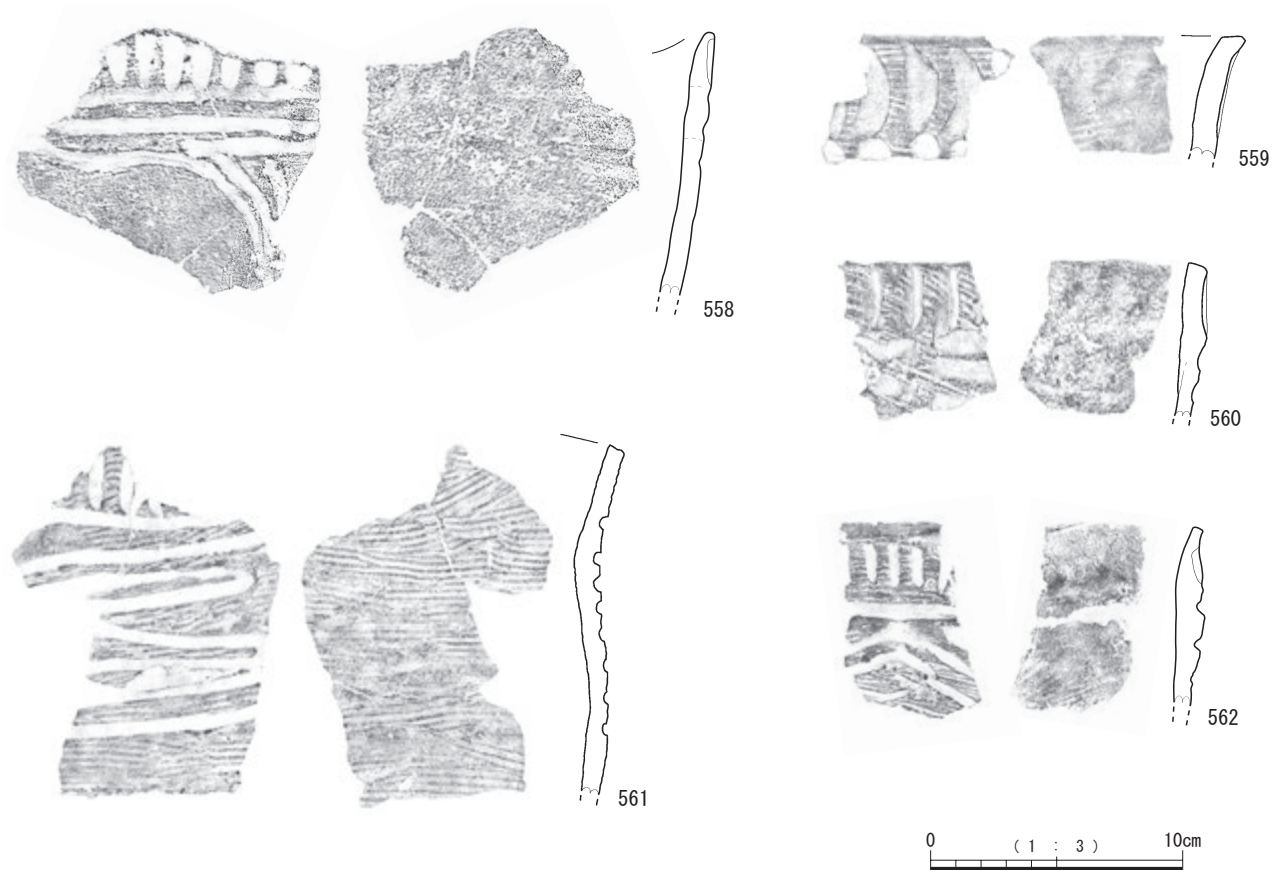
556



557



第2-9图 VIa類土器(1)



第2-10図 VIa類土器(2)

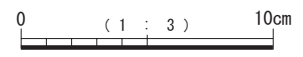
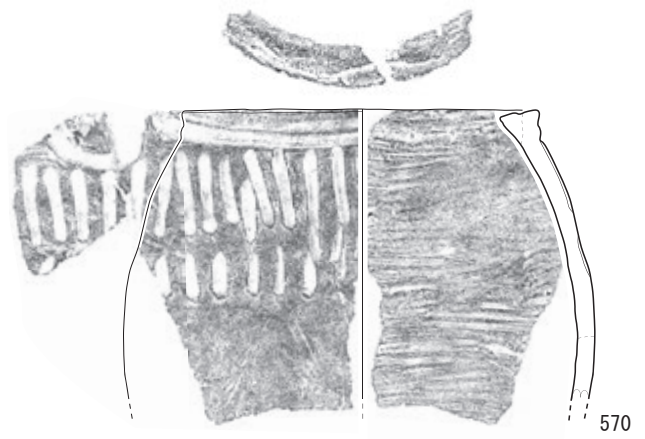
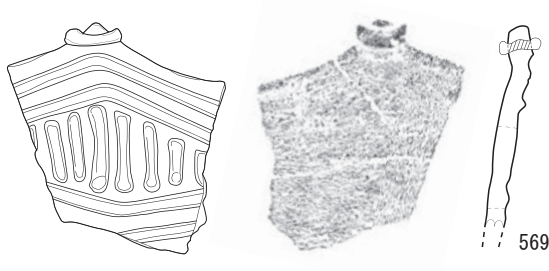
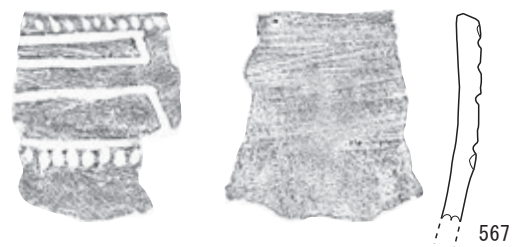
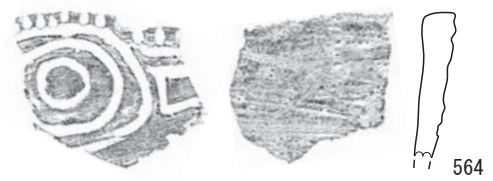
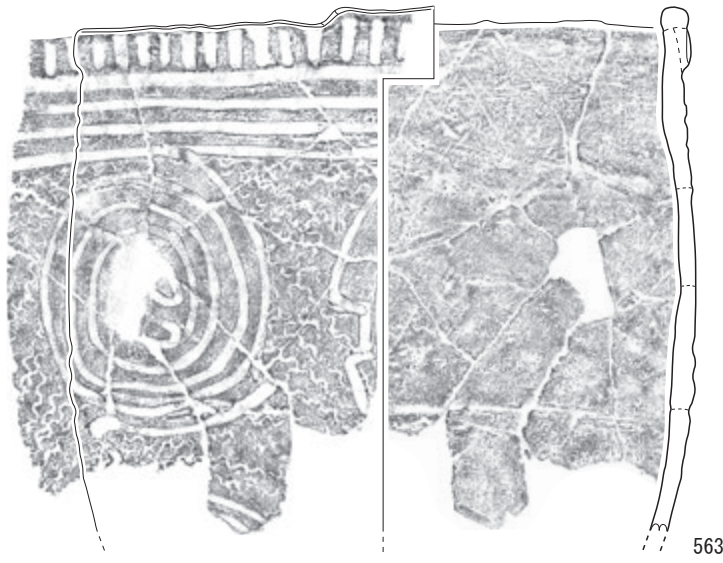
VIb類波頂部 (第2-15図 600~607)

口唇部に粘土紐を貼り付けて装飾を施すもののうち、粘土紐上の刺突文や胴部の凹線の特徴がVI類に類似するもの。600~603は粘土紐を口唇部に巻き付けるように貼り付ける。600・601は口縁部が内湾する。600は2本の粘土紐をねじり、口唇部に巻き付ける。外面には口縁部直下に太めの凹線による曲線文を描く。内面には工具によるケズリを施す。601は外面にも粘土紐を曲線的に貼り付け、大きな刻目を入れる。残存部下位に貝殻腹縁刺突が数か所確認できる603は、丸い粘土紐を口唇部に波状に貼り付ける。602・604は、細い竹管状の工具を用いて下から突き上げる様に刺突を施す。602は口唇部に粘土紐を貼り付け、大きな刻目を施す。604は口唇部の突起部分である。605・606の胴部外面の上位には凹線文が描かれる。605は波頂部に大きな突起をつくり、棒状工具で深い刺突を施し、小さな孔を形成する。VIII類にも類似する形態のものが出土するが、孔の小ささや刺突文の状況からここに含めた。606は大きく開く器形で、浅い鉢状の形態である可能性がある。607は波頂部に縦位の突起を有する。3条の凹線が小さな山を描くように施される。文様帯は口縁部上位に集約され、外面には貝殻条痕が残る。600・602~604には角閃石を多く含み粒子の細

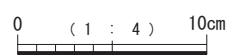
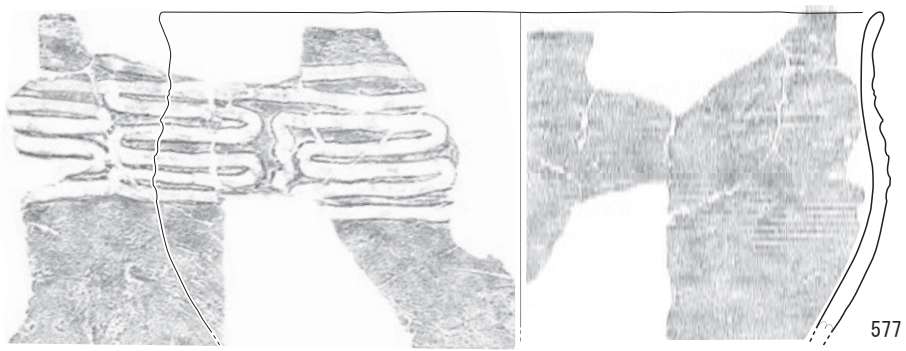
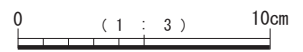
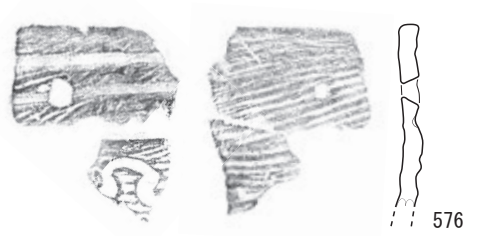
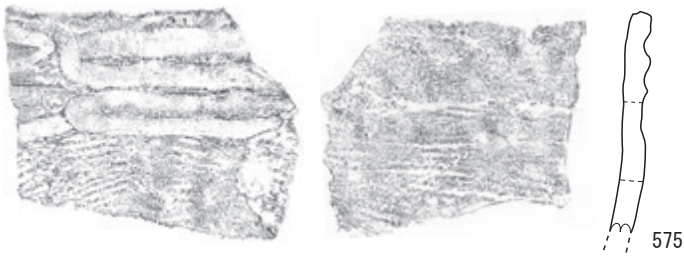
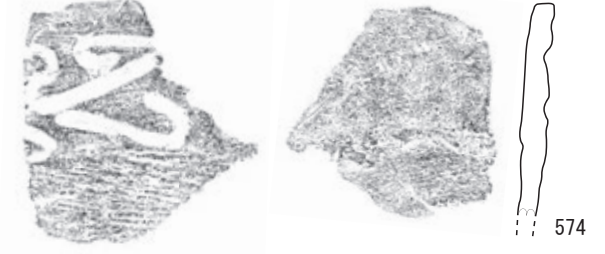
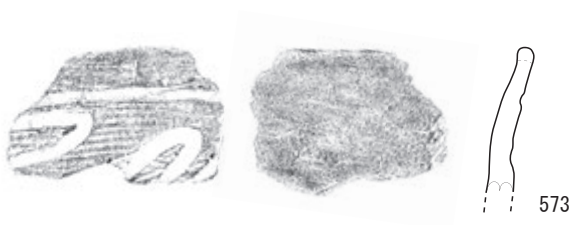
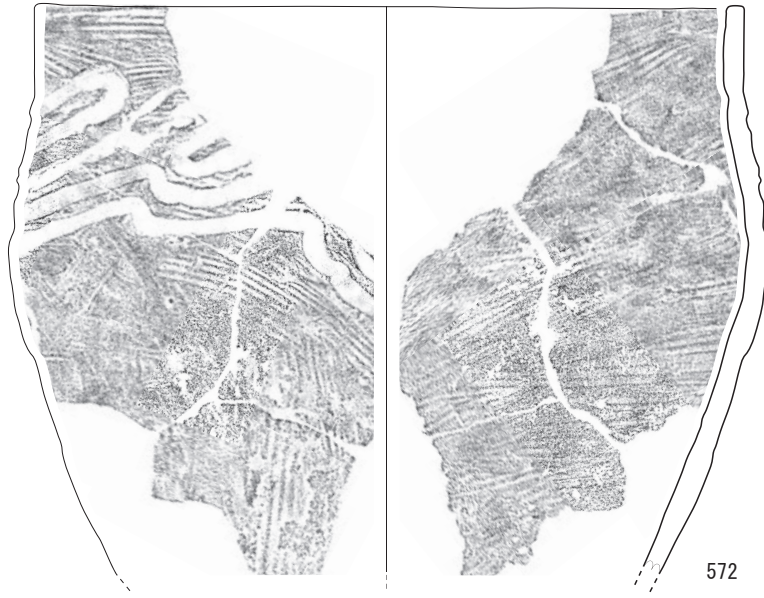
かな混和材が砂状に入る。

VIc類 (第2-16図 608~618)

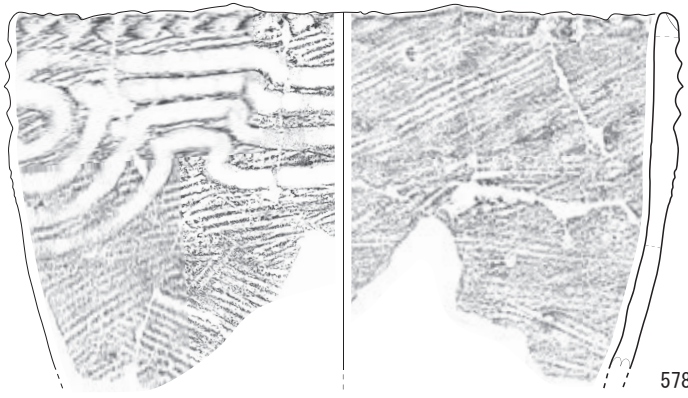
口縁部の文様帯が2帯構成である。本遺跡の場合は平坦口縁のものが主流である。口縁部直下に貝殻腹縁刺突文を巡らせる。胴部の文様は多条の平行沈線文の一部に曲線的な部分が見られるものが多く、VIa類550~554とも雰囲気に近いが、やや右上がりに描かれる。宮之迫遺跡(曾於市)や山ノ中遺跡(鹿児島市)などで類例が多く報告される一群である。口縁端部を丸くおさめて器面に直接刺突するもの(608・611・614・615)と、口縁端部を角張らせてわずかに肥厚させるもの(609・612)とが見られる。612はごく緩い波状口縁を呈する。補修孔が施される。613は半円形のモチーフ上の口唇部に小さな隆起を形成する。隆起の頂点とモチーフの中央の位置はわずかにずれる。口縁部最上位に貝殻背面押圧文を巡らせた小さな突帯を有するものも少数出土(616~618)し、胴部の文様の類似からここに含めた。617と618は胎土や施文具が一致し、同一個体と考えられる。色調が他と比較して白っぽく明るい。胎土は610には金色の雲母を含む。609・613には角閃石を多く含み粒子の細かな混和材が砂状に入る。



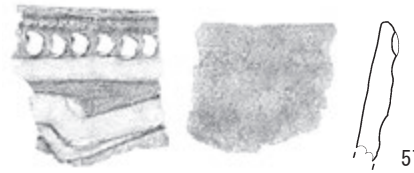
第2-11図 VIa類土器 (3)



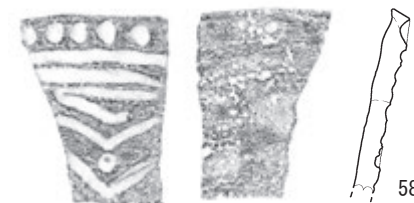
第2-12図 VIb類土器(1)



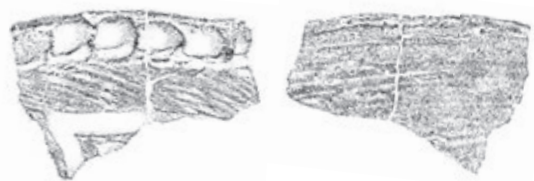
578



579



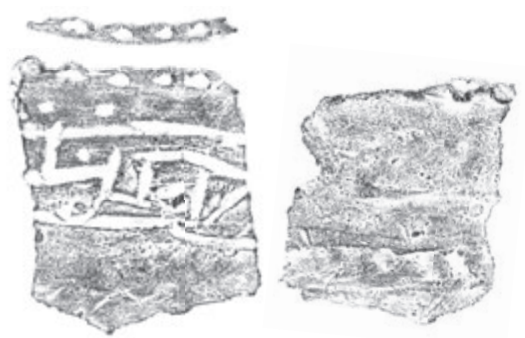
580



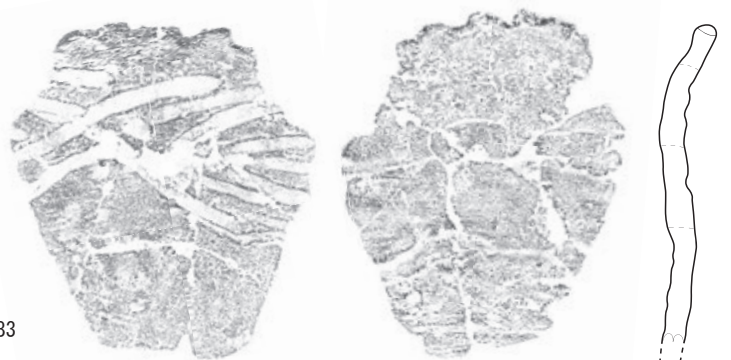
581



582



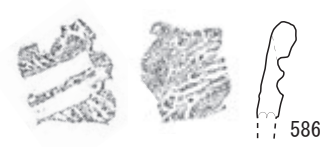
583



584



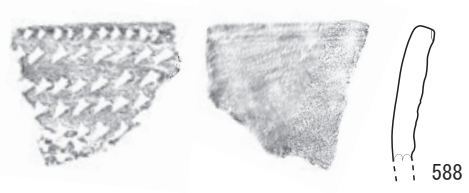
585



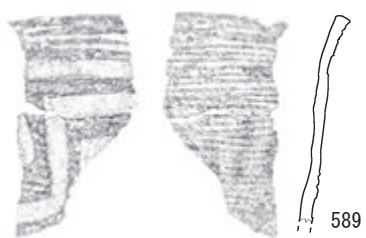
586



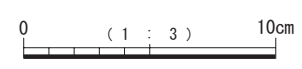
587



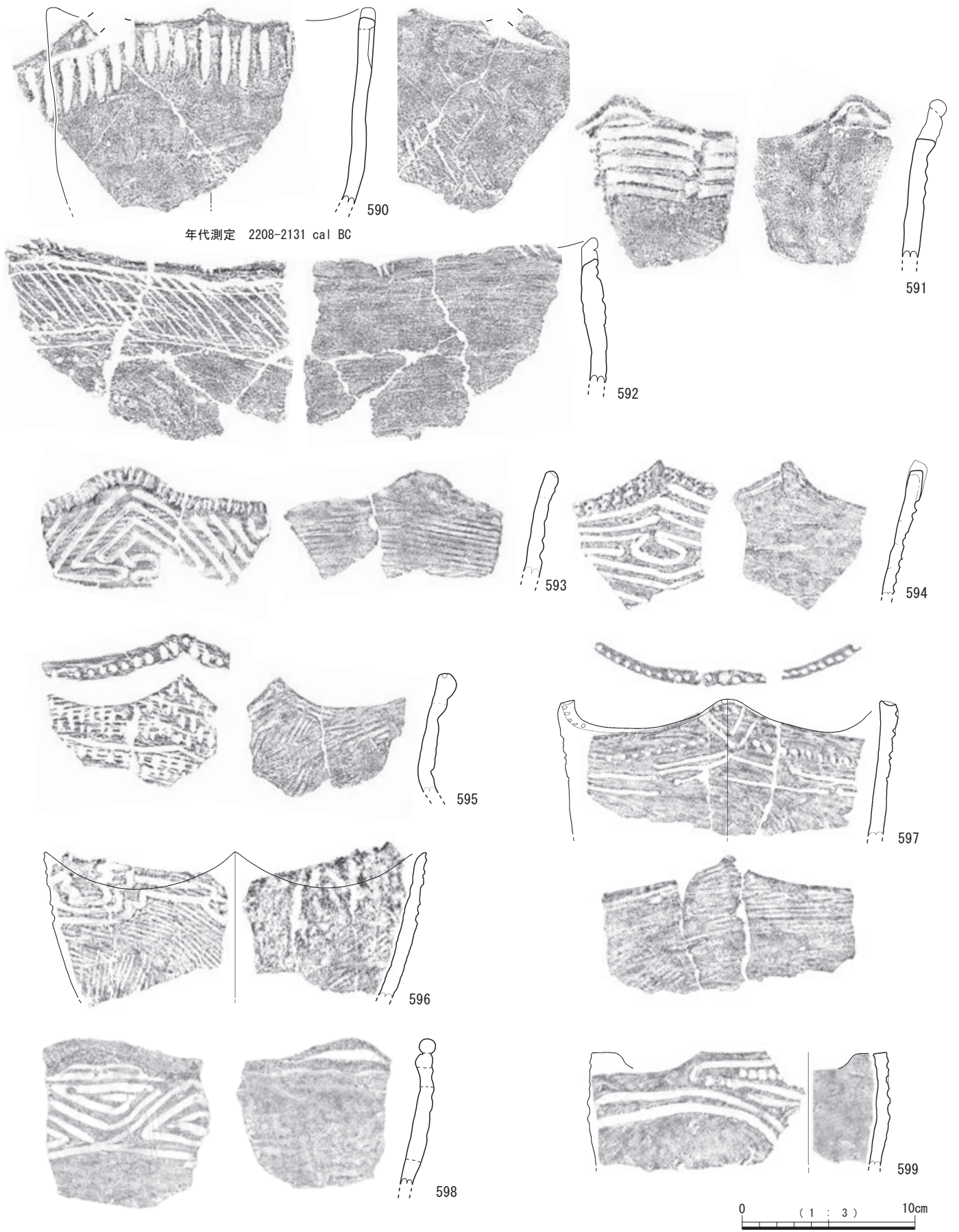
588



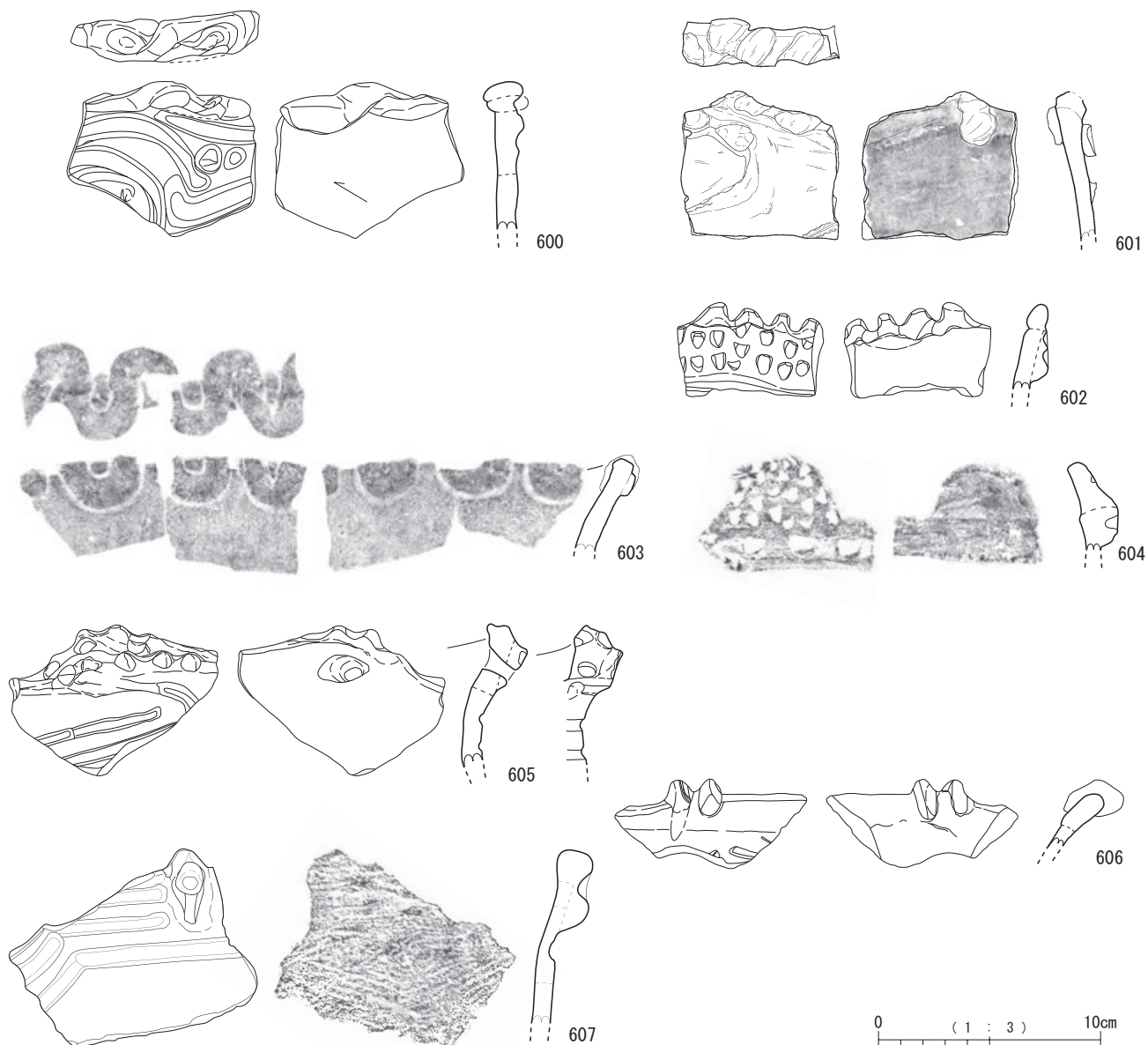
589



第2-13図 VIb類土器 (2)



第2-14図 VIb類土器 (3)



第2-15図 VIIb類土器（波頂部）

VI類胴部（第2-17図 619～623）

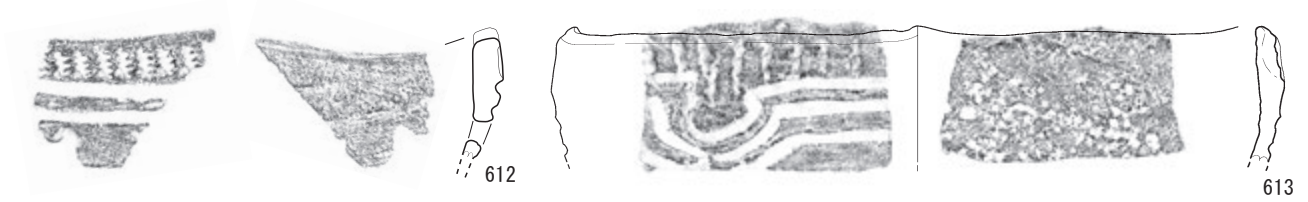
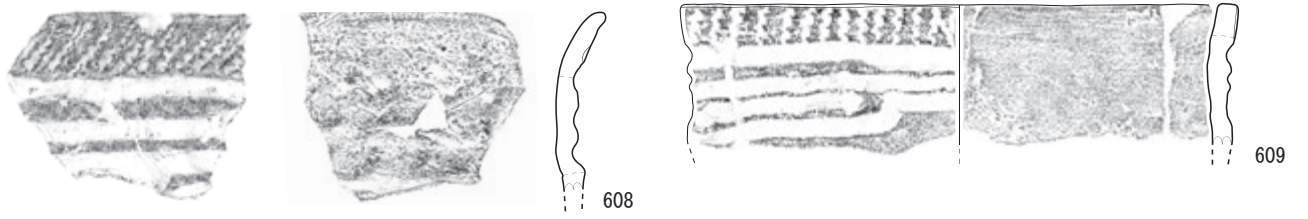
619～623は胴部片である。619・620・622には平行線と曲線の組み合わせによる文様を、621には細い沈線により三角形の渦巻文を描く。文様の一部が鉤手状となる。619は凹線間に貝殻腹縁刺突を施し、VIIb類（擬似縄文系）の範疇に入る可能性もある。623は、施文具は不明だが、サークル状の部分は押引文である。外面に赤色顔料が付着し、蛍光X線分析の結果、鉄を多く含有しベンガラの可能性がある。なお620の外面に付着した煤を年代測定した結果（報告No.4）¹⁴C年代が 4120 ± 30 yrBP 1σ , 2σ 暦年代範囲が2708-2578calBC (51.5%)である。

VII類

口縁部や頸部～胴部に縄文あるいは貝殻腹縁などによる密な刺突文を施す。巻貝の表面を回転させた可能性をもつものも少数出土した。頸部から胴部には2条単位の平行沈線文が描かれ、その間を縄文や貝殻腹縁刺突文などで充填させる。縄文が施されるものをVIIa類に、貝殻により施文したものをVIIb類に細分した。

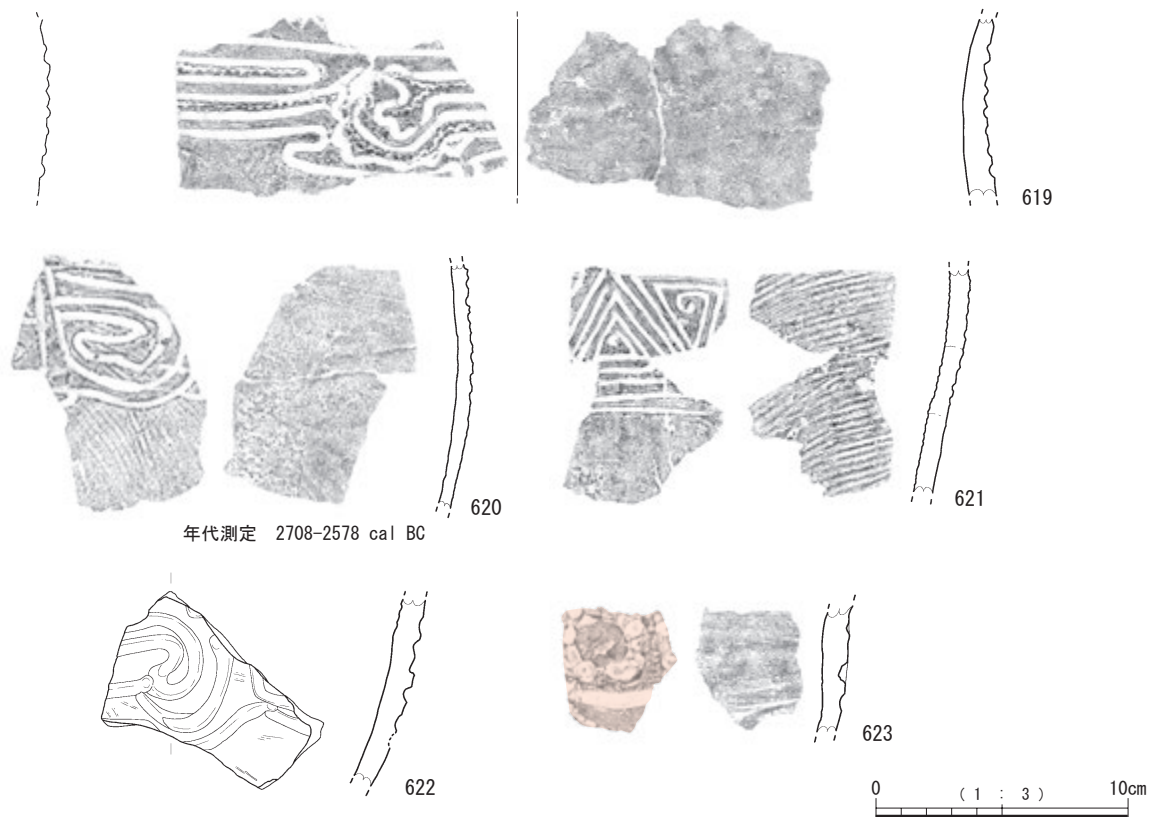
VIIa類（第2-18～22図 624～677）

文様原体として、縄文を使用したもの。
625～635は頸部で外反し開き、口唇部と外面頸部以下に縄文を施す。口縁部は短く、口縁端部の内面側がごくわずかに内湾する傾向がみられる。口唇部に深い凹線を巡らせるものが主流であり、これらは頸部外面の屈曲部



0 (1 : 3) 10cm

第2-16図 Vic類土器



第2-17図 VI類土器（胴部）

付近に沈線を巡らせて、それ以下を文様帯とする特徴がみられる。口唇部の凹線は、棒状工具などで描かれたものと、粘土を貼り付けて形づくるものがみられる。瀬戸内系の磨消縄文土器のなかでも主に福田K2式の影響を受けて製作された一群であると考えられる。625は残存率の高い資料である。緩い波状口縁を呈し、波頂部に棒状工具による刺突を施す。口縁部は外反しながら開き、胴部がわずかに張り出す器形である。胴部の縄文を窓枠状に磨り消す。624・626の口唇部には沈線ではなく曲線文が描かれ、これらは色調が黒っぽく薄手で硬質なため搬入品の可能性をもつ。629も同様の胎土であり、これらは特に内面の調整がミガキ様につややかで非常に丁寧である。627～629・631・632は頸部の沈線の中に連点文を施す。633は外面にコクゾウムシ圧痕が分析により同定されている。

638～650は口縁部に凹線を施さず口縁部外面をさほど肥厚させないものである。638～642は直線的に立ち上がる口縁部片で、口縁端部付近に縄文を施すものである。642はわずかに外反しながら開く。639・640は胎土や施文の状況から同一個体であると考えられる。この4点は見た目上、縄文に非常に近く見えるが、方向性にわずかなばらつきが見て取れるため、施文具として貝を使用した可能性も考えられるが、ここに含めた。643は口縁端部がわずかに内湾する。口縁端部の縄文を磨り消す。

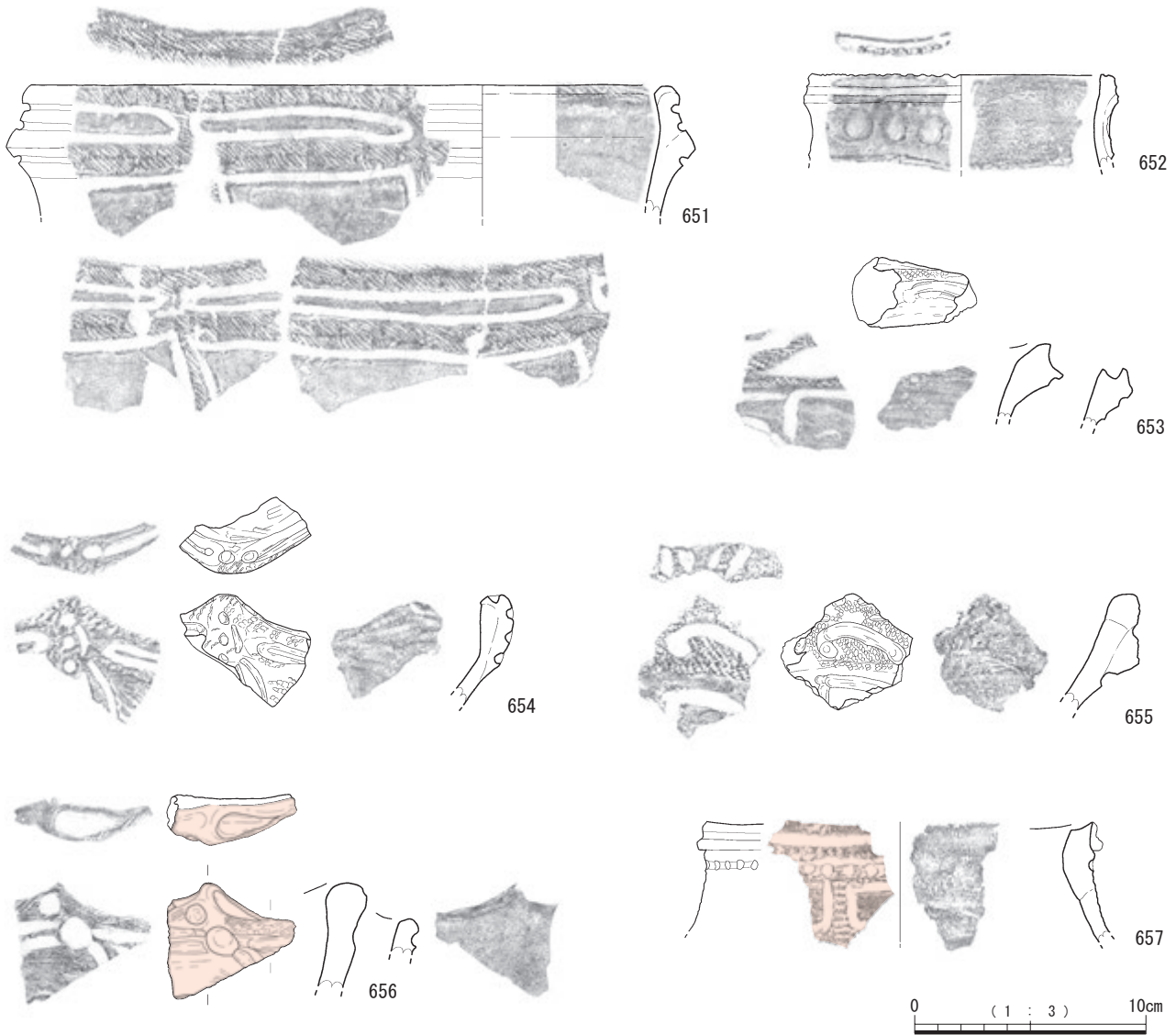
644は丸みを帯びた口縁部の外面側に縄文と縦位の短い沈線を連続させる。645～648は口縁部が外反しながら開く。647は口縁端部に縄文を施す。口縁部上位を無文とし、頸部屈曲部付近に横位の沈線を巡らせて以下に文様帯を形成する特徴はⅧb類（指宿式）と同様である。646は沈線より上位に縄文と連続刺突文による文様帯を有する。650は、波頂部を2か所円形に押し、口縁部～頸部を無文とし、胴部～底部が急な角度ですぼまる特徴はⅧ類土器に類似するが、胴部の凹線文の特徴はⅥ類にも似る。649は口縁部がごく短く外反し、3条の沈線を横位に巡らせる。円形のモチーフの一部が残存する。丸みを帯びた浅鉢形である。器面に縄文は確認できないが、小池原上層式の影響を受けた磨消縄文系の土器であると判断しここに含めた。山ノ中遺跡（鹿児島市）で類例が報告される。口縁部内面を三角形状に肥厚させる。651～657は口縁部の外面側を肥厚させ、沈線や刺突等による文様帯を形成する。651は口縁部がやや内傾する。頸部がわずかに反るため深鉢であると推測される。平行沈線は数か所胴部側にも下垂する。下垂部分は残存部の状況から必ずしも均等に割り付けられているものではないと考えられる。縄文には638～642と同じような特徴がみられ、ヘナタリなどの巻貝を回転して施文した可能性もある。福田K2式のなかでも新しい段階の影響を受けて製作された可能性も考えられる。654～656は波頂部あたりの破片



第2-18図 VIIa類土器 (1)



第2-19図 VIIa類土器(2)



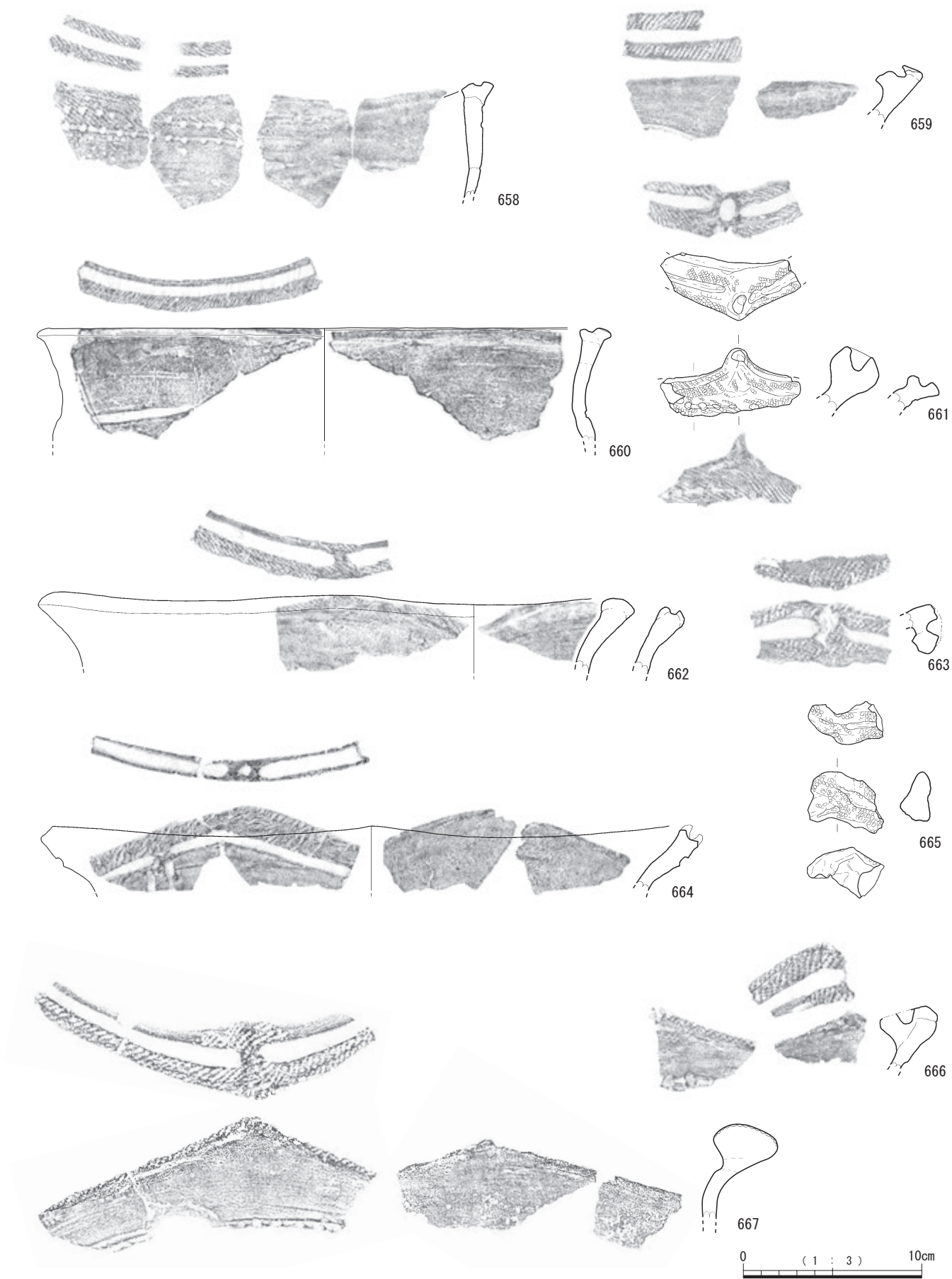
第2-20図 VIIa類土器 (3)

である。文様は凹線により描かれVI類土器の特徴に類似する。654・655は口縁部外面を肥厚させ、口唇部に凹線文や刻目を施す。656は山ノ中遺跡（鹿児島市）に報告される「ミミズク」をモチーフとしたとされる土器に文様が似る。内外面ともに丁寧なナデ仕上げである。657は口縁部がすぼまる器形で、口縁部肥厚帯の部分には貝殻腹縁刺突が施されており、頸部の縄文様の文様にも貝殻が使用された可能性がある。外面には赤色顔料が付着し、蛍光X線分析の結果、鉄を多く含有し、ベンガラの可能性はある。

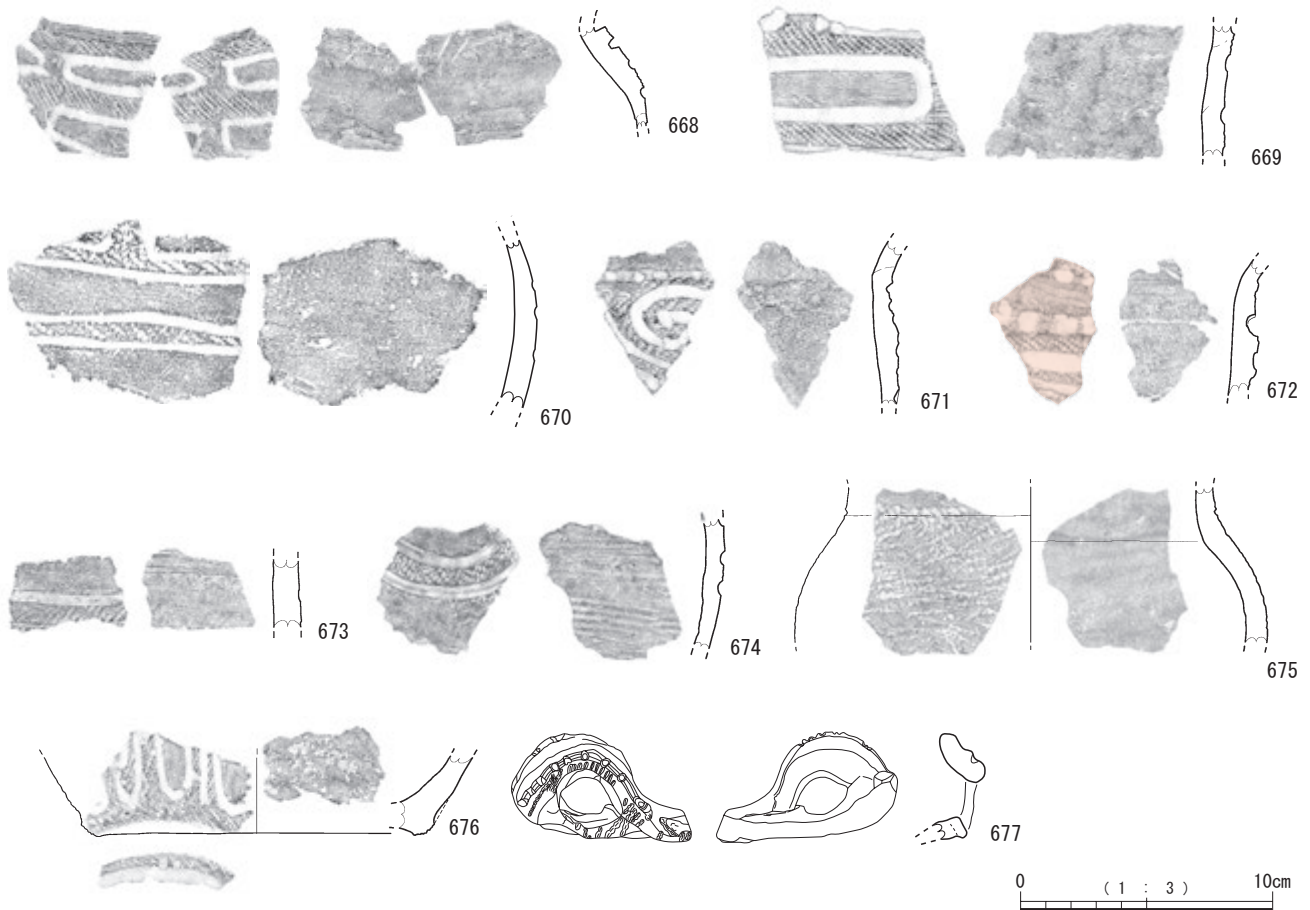
658～667は口唇部を肥厚させて、幅広の文様帯を形成するものである。これらは瀬戸内地方の初期縁帯文系の影響を受けた一群であると考えられる。緩い波状口縁を呈するものが多い。658～664は上面に文様を施す。胴部に文様を施すものもみられ、664は撚りの甘い縄文を口縁部外面上位にも施す。658・660は巻貝による施文の可

能性をもつ。659～667は口唇部文様帯の幅がより太い。659・666・667の頸部あたりには沈線や連点が巡る。口唇部の形態差はあるものの、頸部の文様にはVII類に共通した特徴がみられる。なお、657にも外面に赤色顔料が付着する。

668～675は胴部片である。668・670は胴部が大きく張り出し、口縁部がすぼまる浅鉢状の形態であると推測される。669～672は頸部片で、直線的に立ち上がる。672の外面には赤色顔料が付着し、蛍光X線分析の結果、鉄を多く含有し、ベンガラの可能性はある。675は口がすぼまる鉢状の器形で、形態としては668や670に類似する。粗い撚糸文が地模様として施されており、宮崎県を中心に分布する縄文時代早期の白ヶ野式の可能性もあるがここに含めた。内面は粗いミガキによって調整され、胎土は赤みが強い。677は口縁部分に施された装飾で、残存部分の状況から、口唇部に平坦面を形成し、凹線を巡ら



第2-21図 VIIa類土器(4)



第2-22図 VIIa類土器 (5)

せるタイプであると推測される。径約2.0cmの孔を有し、突起の外面上には沈線を施し、沈線の中に連点文を施す。676はやや上げ底の底部片である。縦位の沈線の間を目の細かな縄文により充填して、底部接地面近くまで文様帯を形成する。

VIIa類の胎土の特徴としては、625・628・632・634・641・645・646・648・650・653・654・657・658・663～667・669・670・672・673には金色の雲母を含んでいる。また、赤色粒・白色粒の粒子に透明感をもつものが多く、石英や玉随の粒子を混和剤とした可能性も考えられる。観察表を参照していただきたい。

VIIb類 (第2-23～28図 678～733)

文様原体として、貝殻を使用したものである。口縁部上位に小さな突帯を形成し刺突を施すタイプと、口縁部上位の器面に直接刺突を施すタイプとがみられる。平行沈線文の間に貝殻腹縁刺突文を整然と施すものが主流である。一部に沈線で区画せず、低い突帯により文様を描き、その突帯上や際を刺突するものがみられる。残存率の高いものに限られ、その点数は少ないが、頸部で緩く外反しながら開き、胴部～底部に向かって急な角度ですぼまる。平行沈線間を貝殻腹縁刺突で充填する技法につ

いては、宮崎県に広く分布する綾式土器との関連も考えられる。綾式土器についてはVI類と同様に宮之迫式土器に包括する考え方もある(真邊2011など)。

678～694は口縁部最上位に断面三角形の小さな突帯を巡らせて、その上に刻目を施すものである。

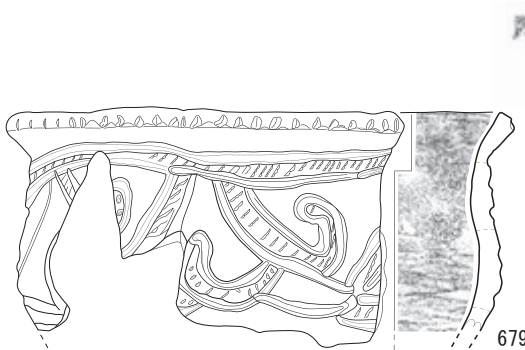
678～684は口縁部突帯上に貝殻背面(678・679・681～684)や棒状工具(680)を使用して刻目を巡らせる。679・680は頸部を横位の平行沈線により区画し、沈線間を貝殻腹縁刺突により充填させる。胴部には平行沈線による円形や鉤手状のモチーフを横位に幾何学的に展開させる。文様帯の幅が広めで、胴部下位に及ぶものもみられる。678は頸部を区画する凹線が単沈線で、胴部にはVI類土器の572に類似した大波文を描く。文様帯は胴部上位に収まる。683は頸部を沈線で区画しない。文様は678と同様に斜位に描かれると推測される。

685～694は口縁部突帯上に貝殻腹縁連続刺突を密に施す。頸部を平行沈線で区画せず、幾何学的文様を横位に描く。文様の一部が鉤手状となる。口縁部の直下から平行沈線文が描かれるものもみられる。693・694の口唇部には細い粘土紐を巻くように貼り付けて装飾を施す。

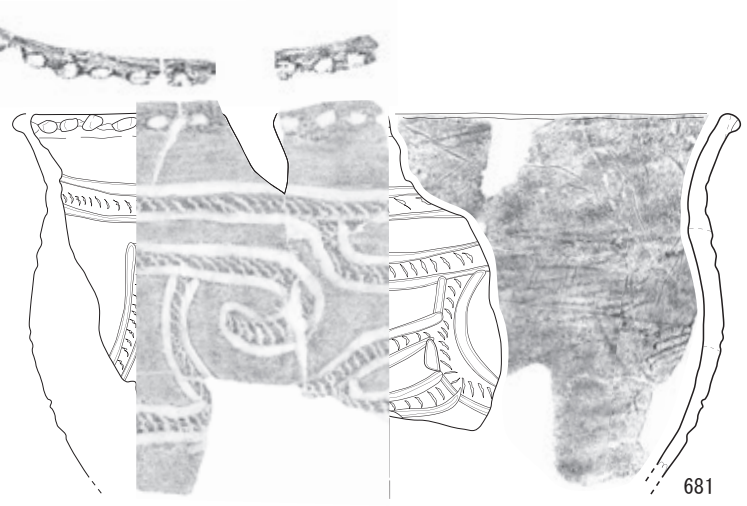
697～701は口縁部外面の器面に直接貝殻腹縁刺突を施す。695～697は口縁端部の外面側に面取りにより平坦面



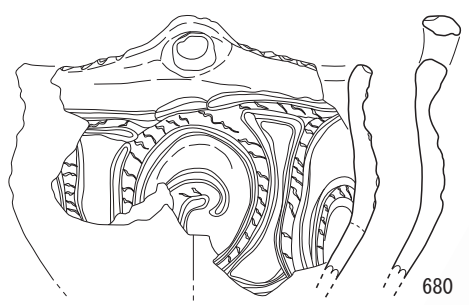
678



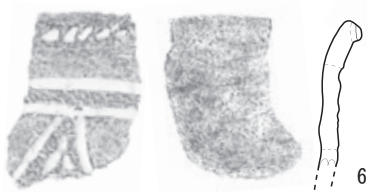
679



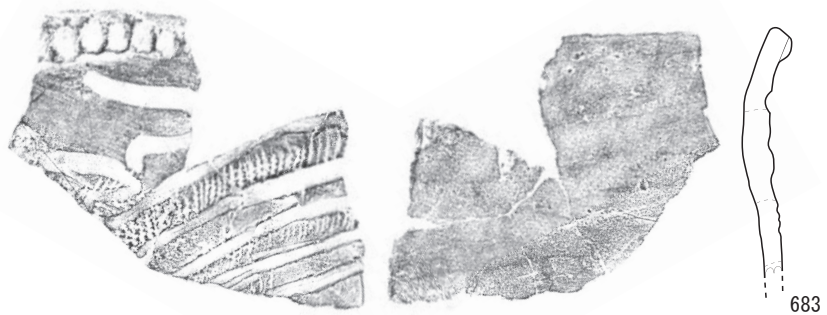
681



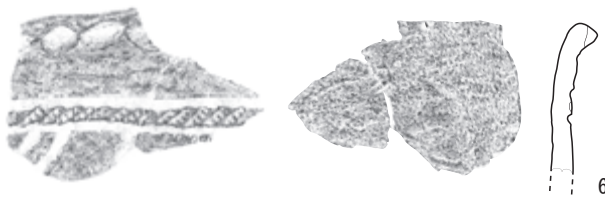
680



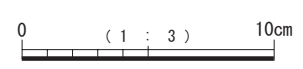
682



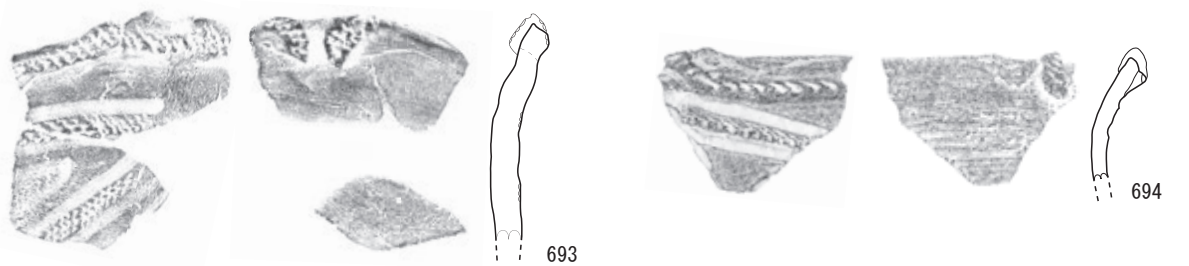
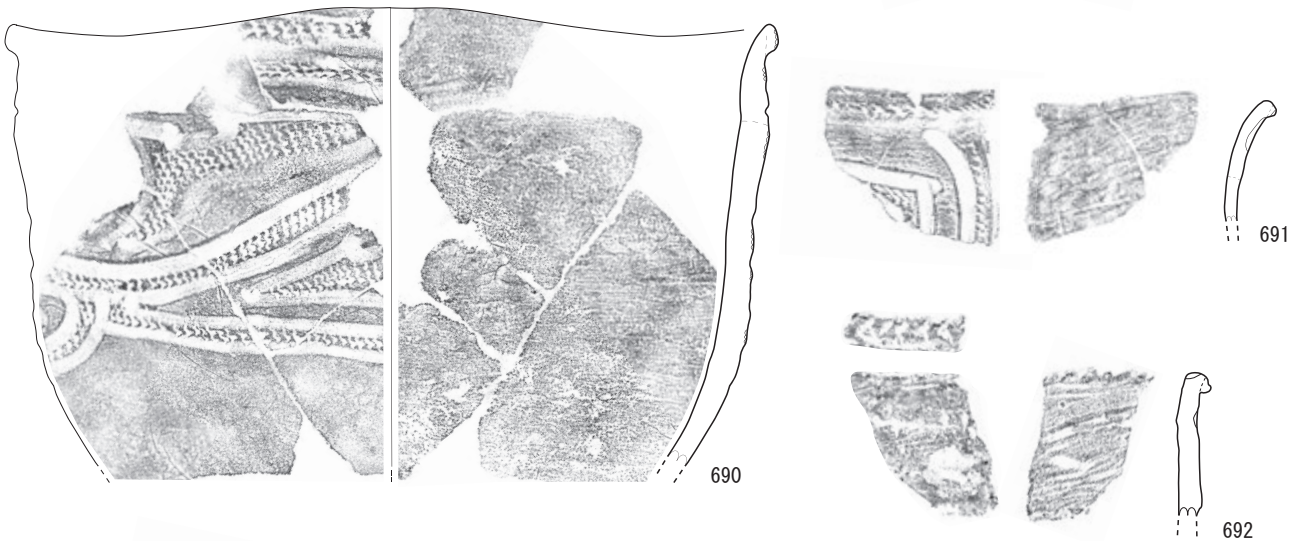
683



684

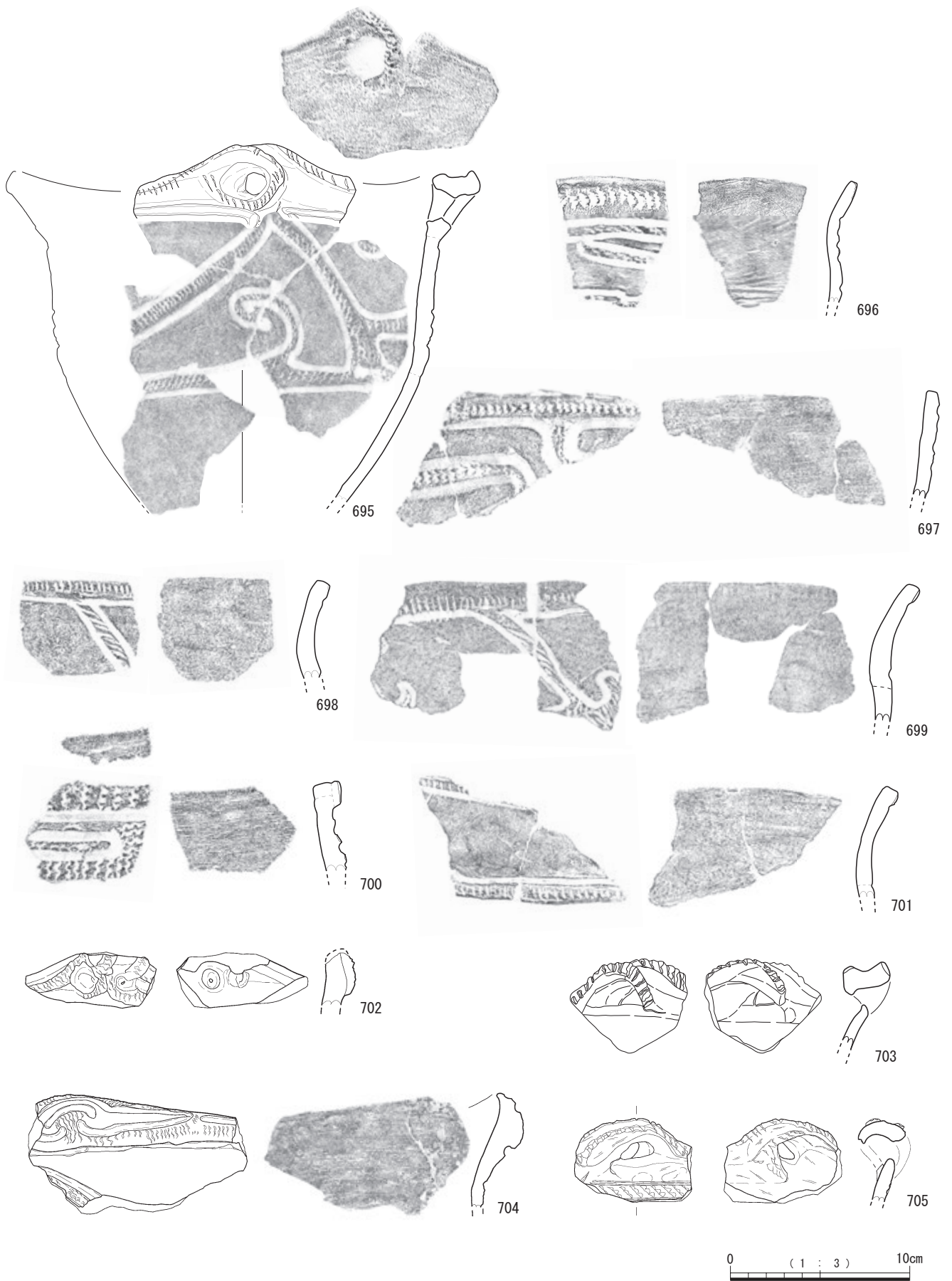


第2-23图 VIIb類土器(1)

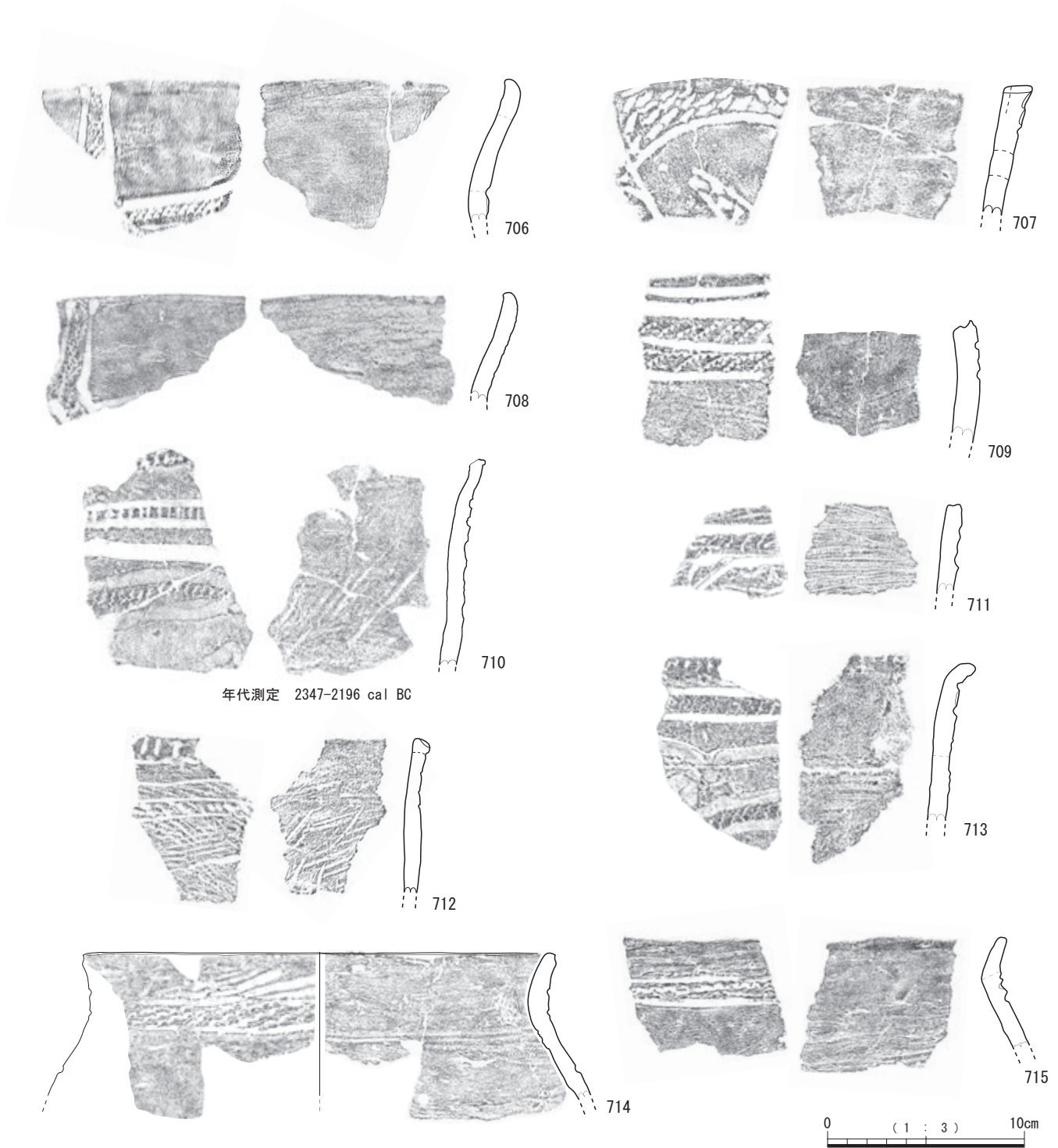


0 (1 : 3) 10cm

第2-24図 VIIb類土器(2)



第2-25図 VIIb類土器(3)



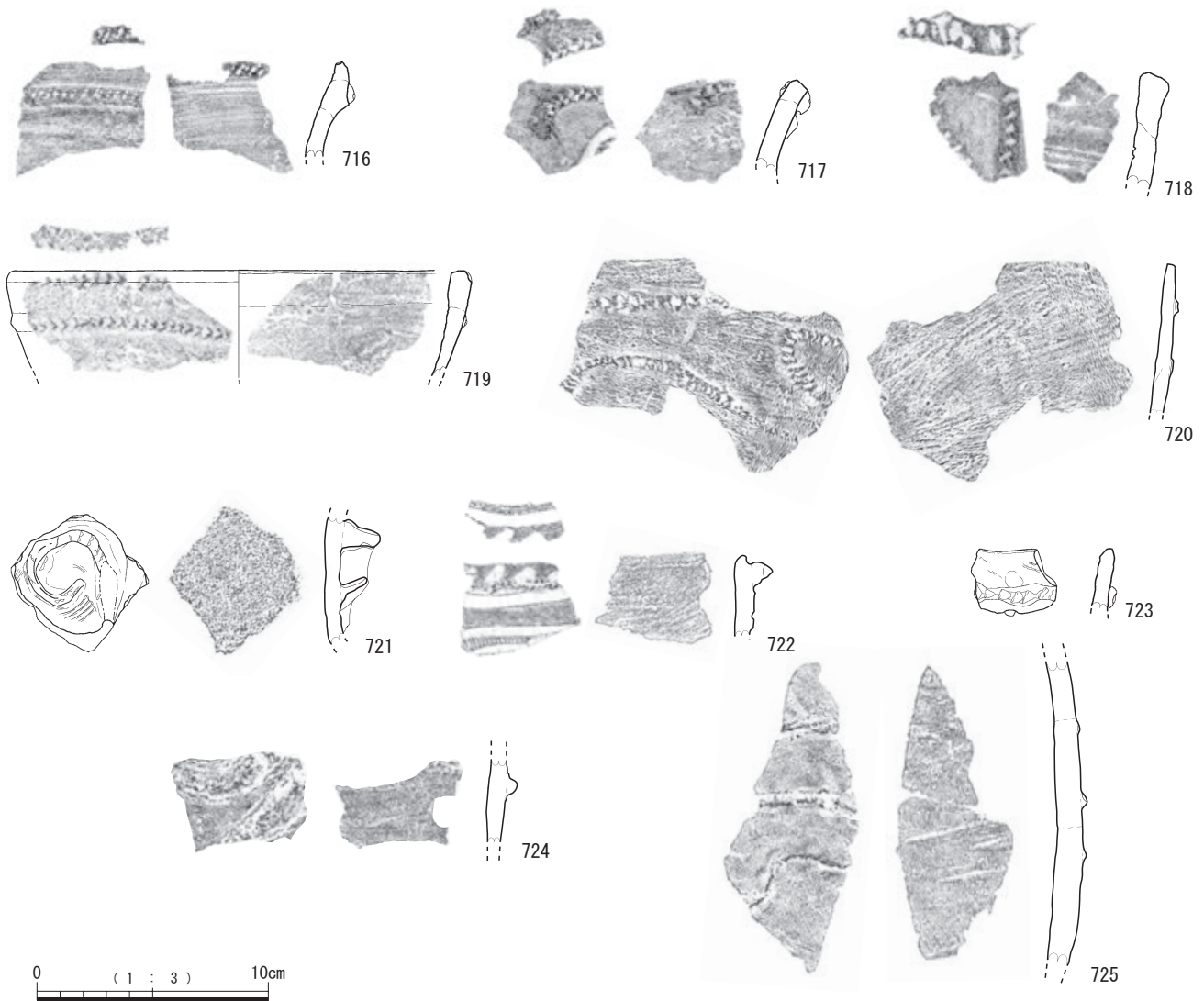
年代測定 2347-2196 cal BC

第2-26図 VIIb類土器 (4)

をつくり、698~701は口縁端部を「コ」の字状に形成する。696は平行沈線により、その他は単沈線により口縁部直下を横位の沈線・凹線(697)により区画する。胴部には斜位に平行沈線を下垂させる破片が多い。695は波状口縁で、波頂部~胴部下位までを復元できた。口縁部は緩く外反しながら開く。胴部はあまり張らず、底部に向かい急な角度ですぼまる。波頂部を突起させ、径1.5cmの孔を有する。胴部下位に文様帯が及び、鉤手状のモチーフを含む平行沈線文を横位に幾何学的に展開させると推測される。699には鉤手状のモチーフが横位に連続

する。700は口縁部最上位に扁平な幅の広い突帯を貼り付け、口唇部に平坦面を形成する。突帯直下を横位の凹線により区画する。

702~705は口唇部の装飾に貝殻腹縁刺突を施すものである。702は内外面から2か所穿孔を施すものの、そのうち左側は貫通しない。外面の孔の周りや波頂部の口縁端部に細幅の粘土紐を巻き付けるように貼り付け、貝殻腹縁により密な刺突を施す。口縁部最上位にも同様の小さな突帯を貼り付ける。704は口縁部外面を大きく肥厚させて、沈線と貝殻腹縁刺突による文様帯を形成する。

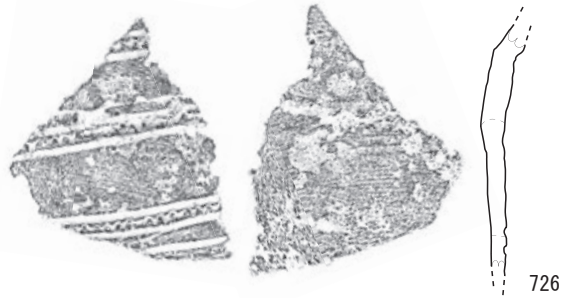


第2-27図 VIIb類土器(5)

沈線の始点と終点は入組状に施される。胴部に平行沈線文が曲線的に描かれると推測される。口縁端部は内湾する。703・705は695と同じ形態の波頂部突起である。705は突起に細幅の突帯を貼り付け、その上に貝殻腹縁刺突文を施す。外面の沈線は細い二又状の工具により描かれる。胎土は明るく白っぽい色調で、搬入品の可能性がある。第2-23~28図に掲載した土器の胎土の特徴としては、金色の雲母を含むものの割合がVIIa類と比較して高く、含まないものは696・700・704である。観察表を参照していただきたい。

706~708は口縁部外面最上位に刺突文を巡らせず、縦に文様帯を形成する。706・708は同一個体であると判断した。口縁部は外反しながら開き、口縁端部は内湾する。口縁端部の内面の際を始点か終点とする平行沈線文を数か所垂下させて描き、頸部外面に施す横位の文様帯につなげると推測される。707は外傾しながら直線的に立ち上がる口縁部片で、器壁は口縁端部側がわずかに厚

く、口縁端部には平坦面を形成する。残存部右端にかかり図化が難しいが、口唇部に施した縦の沈線が1か所確認できる。曲線的なモチーフを口縁部直下から描くと推測され、施文具は篋状の工具であるが、沈線で区画し連続刺突を充填させる技法からここに含めた。709は口縁部外面の最上位に2本の貝殻腹縁刺突文と横位の沈線を2段施す。口唇部には凹線を巡らせる。710~715は胴部上位や頸部に棒状工具により細幅の平行沈線文を水平に巡らせ、その中に貝殻腹縁刺突を等間隔に施すものである。710と713は胎土や文様の特徴から同一個体であると判断した。口縁部はわずかに外反しながら開く。口縁端部に小さな突帯を粗く貼り付け貝殻腹縁により刻む。残存部下位にはごく浅い凹線により平行線を描きその間に貝殻腹縁を等間隔に刺突する。外面に付着した煤を年代測定した結果(報告No.4)¹⁴C年代が $3820 \pm 30 \text{yrBP } 1 \sigma$, 2σ 暦年代範囲が $2347\text{--}2196 \text{calBC}$ (87.8%)である。712はつくりが粗く、内外面に貝殻条痕を施す。714・715は



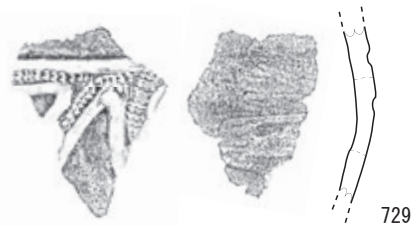
726



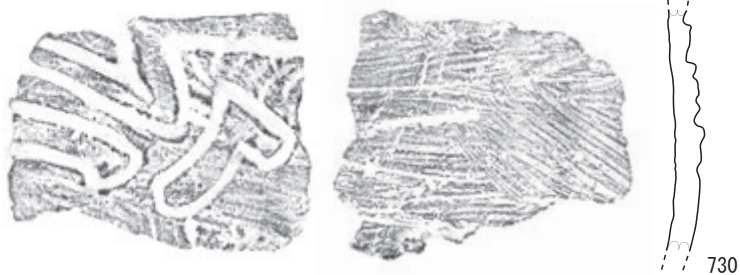
727



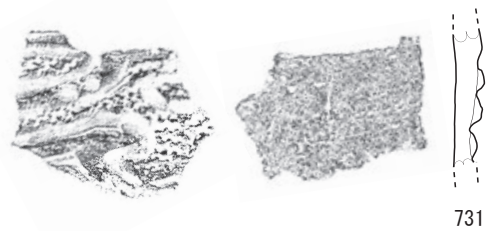
728



729



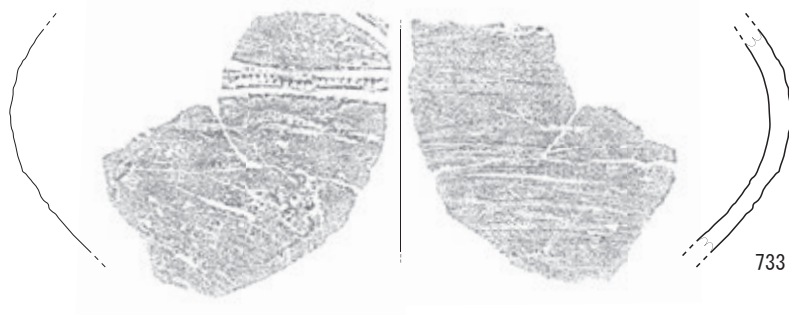
730



731



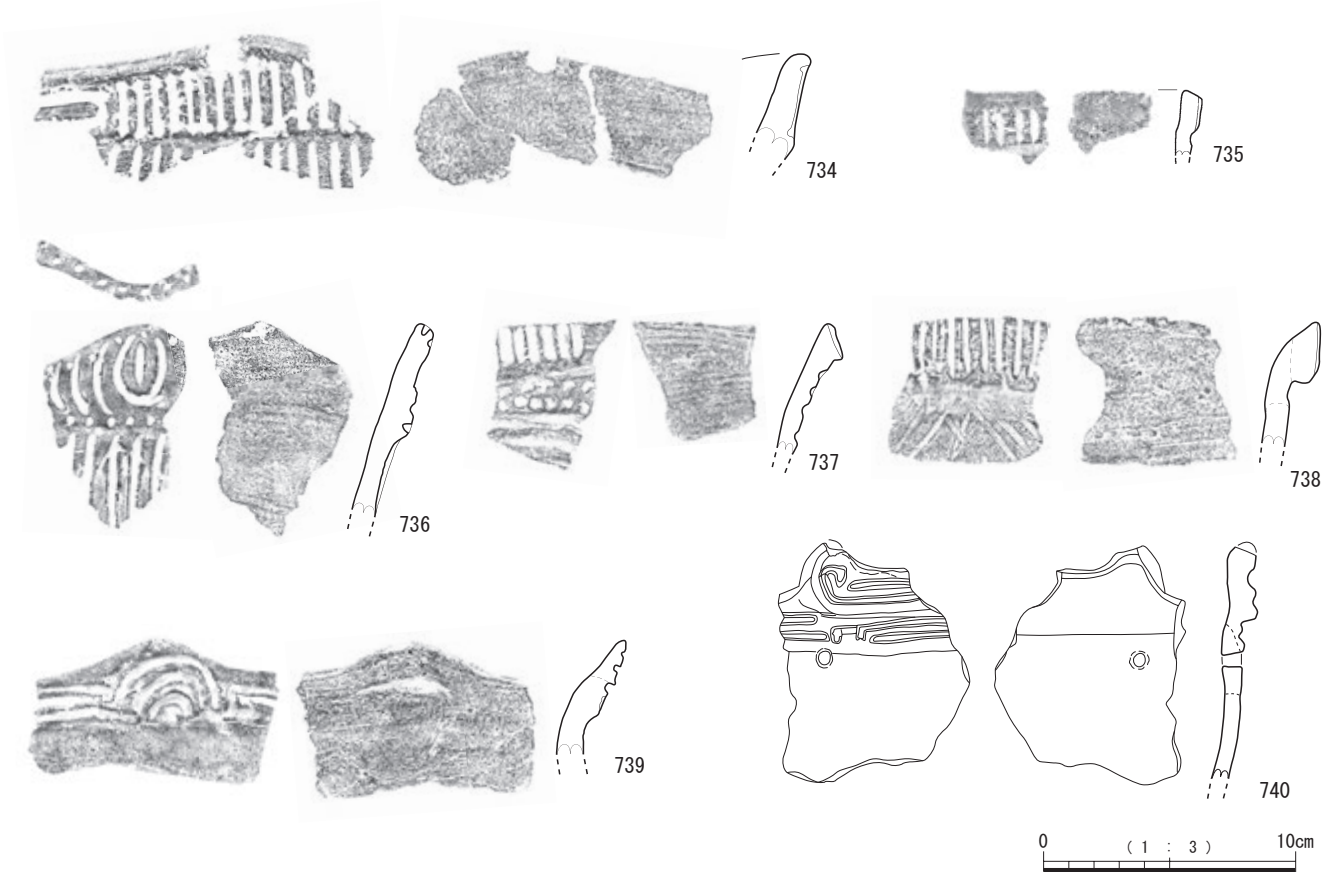
732



733



第2-28図 VIIb類土器(6)



第2-29図 VIIIa類土器(1)

口縁部が外反しながら開き、714と715は同一個体であると判断した。胴部が口縁部よりも外側へ張り出す丸みを帯びた器形で、残存部の状況から、口唇部に突起をもつ可能性もある。

716～725は細い突帯を貼り付けて、貝殻腹縁刺突文を施す一群である。各類への分類が難しかったものを集めたことを否めないが、施文具に貝殻を使用することに着眼しここに含めた。717は残存部下位に凹線による曲線文が描かれると推測される。718は口縁部片で小さな山形の突起をもつ。722は突帯が高く、口唇部に平坦面をつくり凹線を施す特徴は、VIIa類とも共通する。721は部位は不明だが、器面に貼り付けた渦巻き状の高い突帯である。突帯の上や側面に貝殻腹縁をまばらに刺突する。723は細い突帯を粗く貼り付ける。724と725は胴部片で、天地・傾きは不明である。ともに突帯の際に貝殻腹縁刺突を施す。

726～733はVIIb類に該当する胴部片である。730の胎土には大粒のシャモットが混じる。731は沈線を深く施すため、器面の凹凸が著しい。732は沈線間を貝殻腹縁を押し充填する。縄文時代早期に該当する可能性も考えられるが、内面の条痕が早期に出土するものと比べて整然と施されることからここに含めた。733のように大きく張り出す器形のものも出土している。

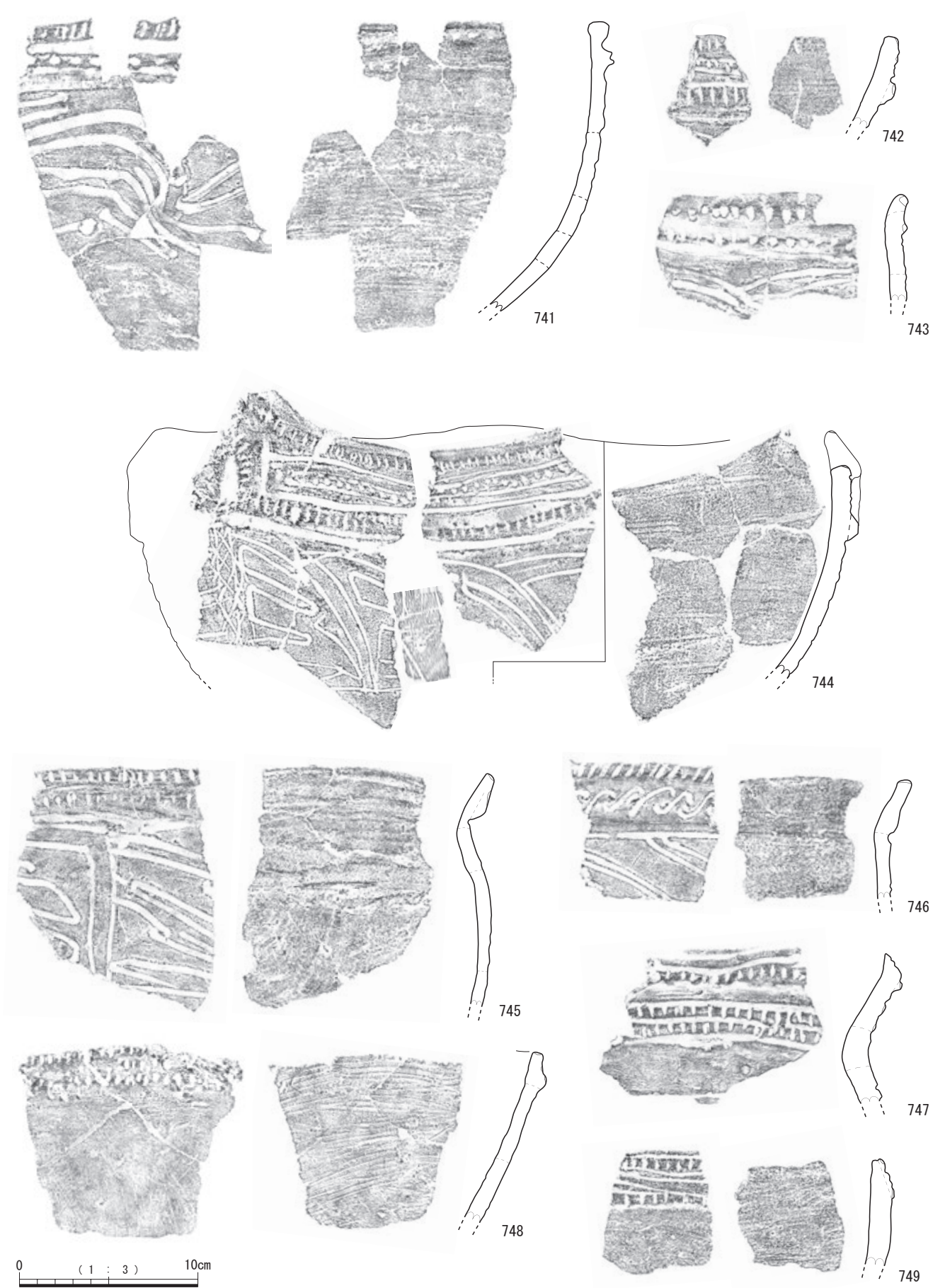
VIII類

頸部以下に、平行沈線や単沈線により文様を描くもの。線の始点・終点をやや深く刺突し、入組状に施す傾向がみられることは、VII類の一部にも共通する特徴である。文様を描く線の太さについては本遺跡の場合、VI類と同様の凹線によるものも多く出土するが、文様的な特徴が上記に該当するものをVIII類と判断し、報告する。器形は、胴部が張り出し丸みを帯びるプロポーションのものがVI類と比較して多い。平坦口縁と波状口縁のものがあり、口唇部の一部や口縁部上位に把手などの装飾を施すものも多い。口縁部の形態は直口、内湾、外反とバリエーションが非常に豊かで、頸部で絞まり外反するものの比率が高い。口縁部の厚みが均一なものと、肥厚させたものがある。また胴部とは別の口縁部文様帯を形成するものも多く出土した。胴部文様はVIII類の特徴をもち、かつ口唇部に1条の凹線を巡らせるものも一定数確認される。

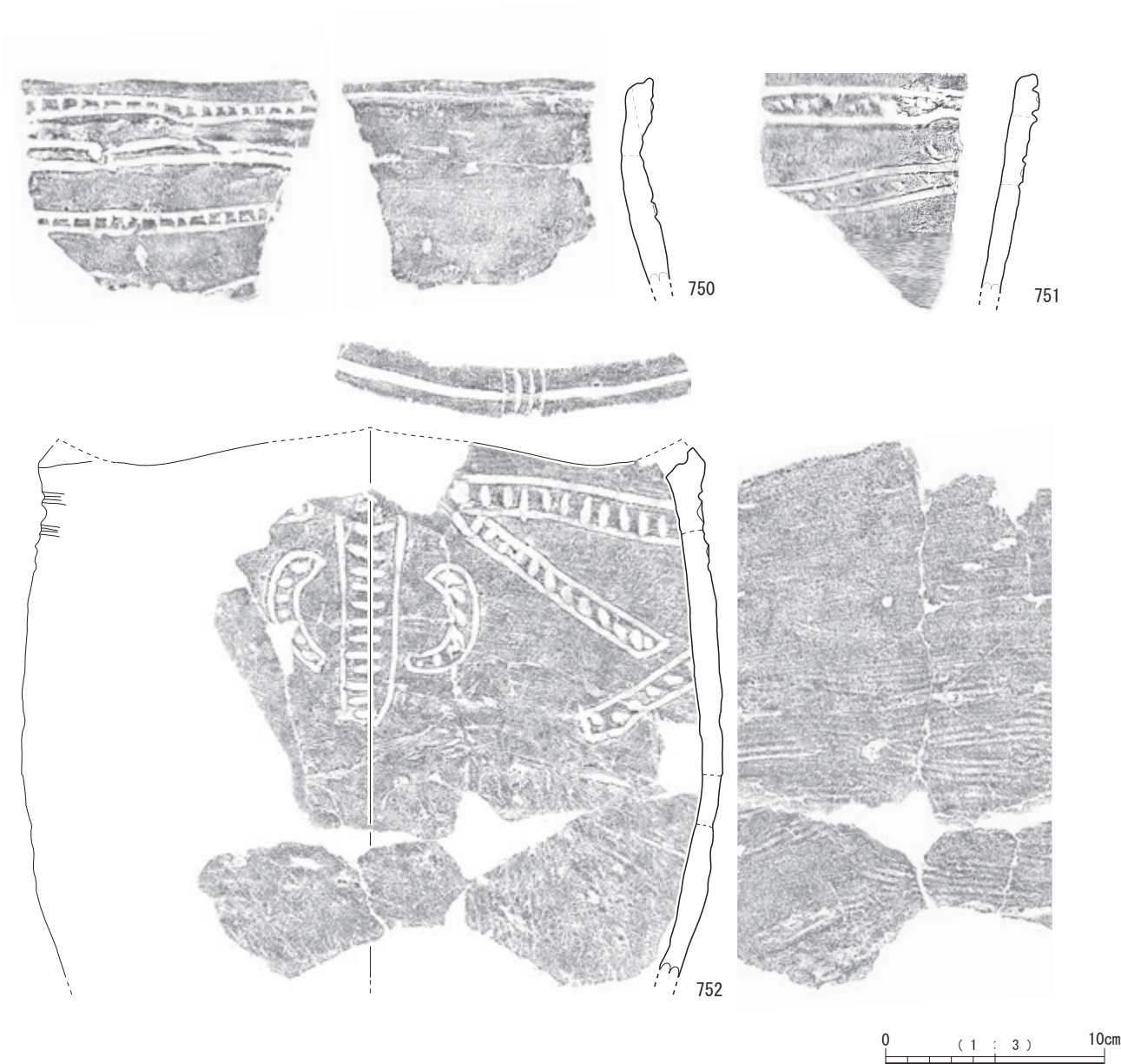
VIII類は概ね指宿式に該当すると考えられる。口縁部の形態と口縁部文様帯の特徴からVIIIa類、VIIIb類、VIIIc類に細分した。ただし、VIIIc類のなかには、VI類の文様の特徴をもつものも少量ながら出土する。

VIIIa類(第2-29～40図 734～807)

口縁部上位に、胴部とは別の文様帯を有するもの。口縁部を肥厚させたものが多い。多くは口唇部にも文様を



第2-30图 VIIa類土器(2)



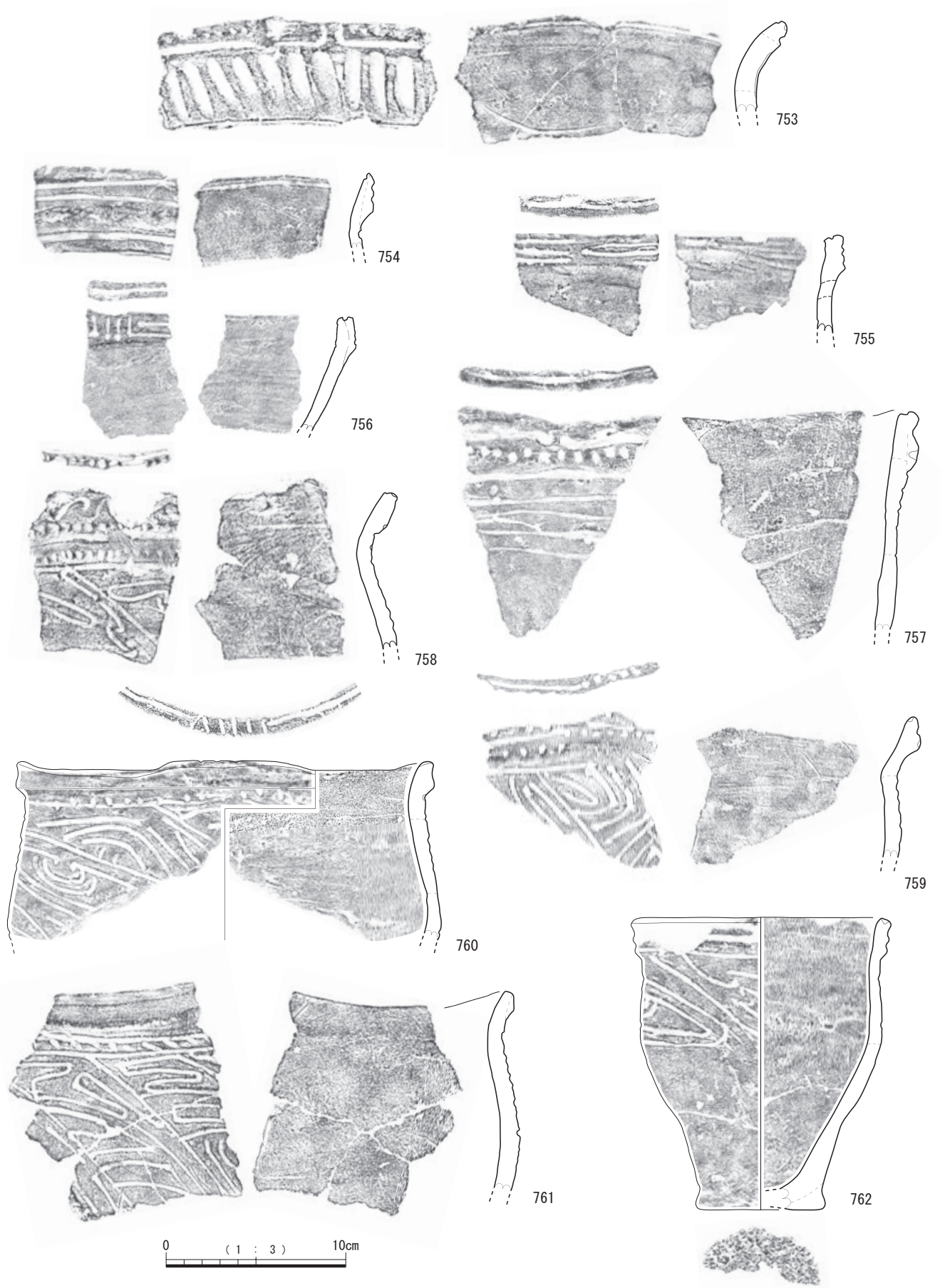
第2-31図 VIIIa類土器(3)

施す。文様を描く沈線が細い傾向が顕著である。口縁部外面の文様は、横位の平行沈線、巻貝などによる連続刺突を巡らせるものが主である。胴部には斜位の平行沈線を基調にした大胆な幾何学文を描くものが多い。胴部文様帯の幅は広く、胴部下位に及ぶものもみられる。縁帯文系の土器の影響を受けていると考えられ、中原遺跡(志布志市)で報告されたIV-a, b類に該当する一群であると考えられる。

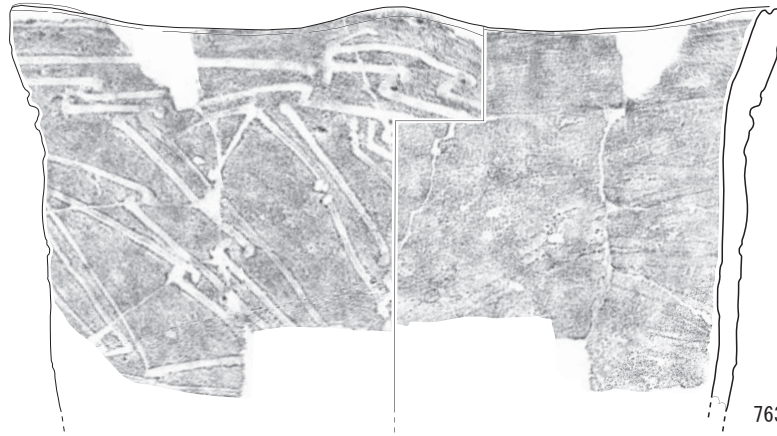
734~738は口縁部外面に縦位の沈線を連続して施し、突帯直下に文様を施す。736は平たく形成した口唇部に連点文を施し、VI類の範疇に入る可能性もあるが、波頂部直下に円形のモチーフを描き、口縁部文様帯の上下に連点文を横位に巡らせる特徴からここに含めた。739と740は波頂部直下に曲線的なモチーフを描き、数条の平行沈線を施す。740は文様帯が胴部上位に集約されており、補修孔が内外面から施される。

741~748は口縁部文様帯の上部や下部に粘土紐を貼り付けて見た目上の肥厚帯を形成し、その上に貝殻腹縁や篋先による連続刺突を施すものである。このタイプは口縁部が内湾気味の器形のものが多い。741・744はともに浅めの丸みを帯びた鉢となると推測され、胴部下位に文様帯が及ぶ。741はやや太めの平行沈線により横位に、744は細い平行沈線により斜位に文様が描かれる。743・748は口縁部の文様の特徴が類似する。743の胴部上位には平行沈線による曲線文が描かれ、748の胴部は無文である。

745~747は口縁部文様帯の上部・下部に篋先による粗い刺突を連続させる特徴は741~748に類似するが、口縁部外面に明瞭な肥厚帯を形成するものである。746は口縁部外面に「S」字上の文様を連続させるもので、このモチーフは本遺跡のVIII類に多くみられるものの一つである。747は口縁端部を尖らせ、強く内湾させる。口縁部



第2-32図 VIIa類土器(4)



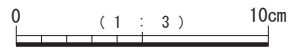
763



764



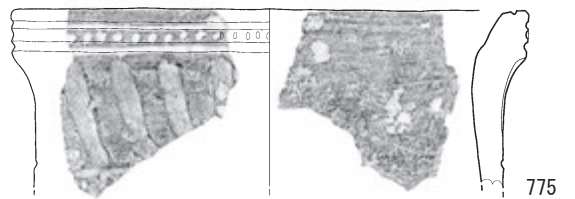
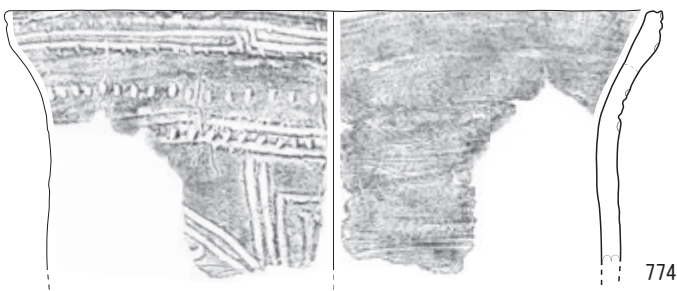
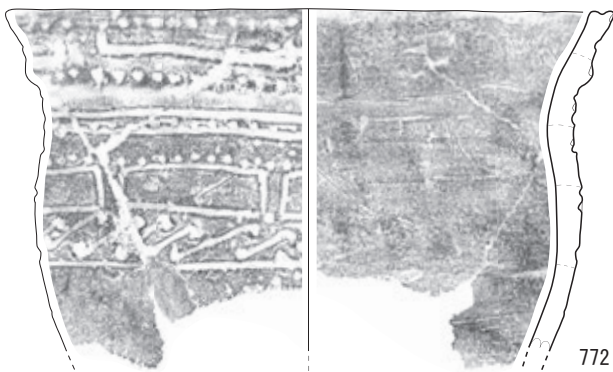
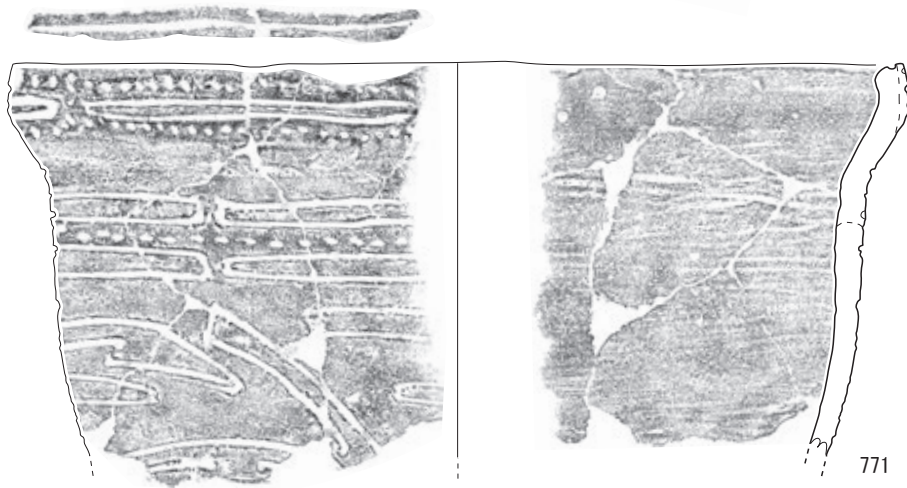
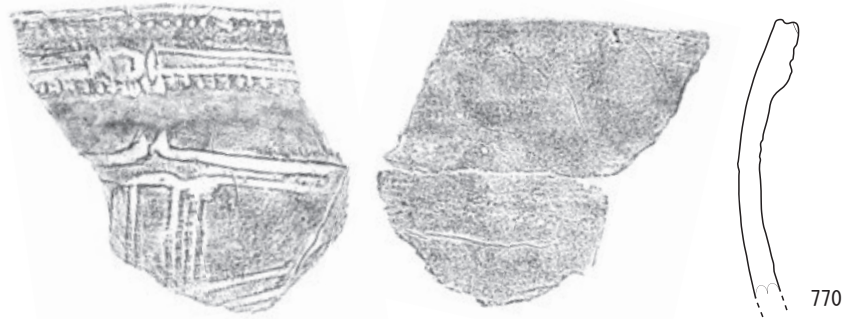
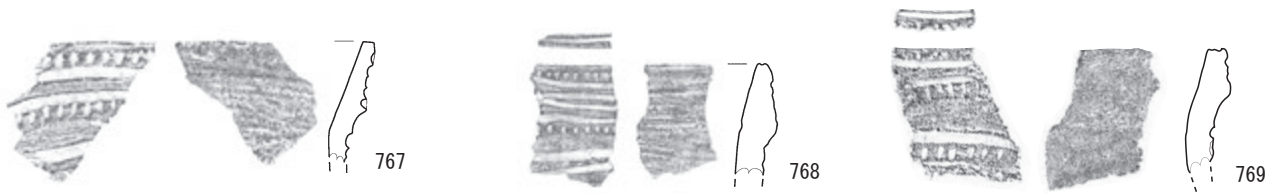
765



766



第2-33図 VIIa類土器(5)



0 (1 : 3) 10cm

第2-34图 VIIa類土器(6)

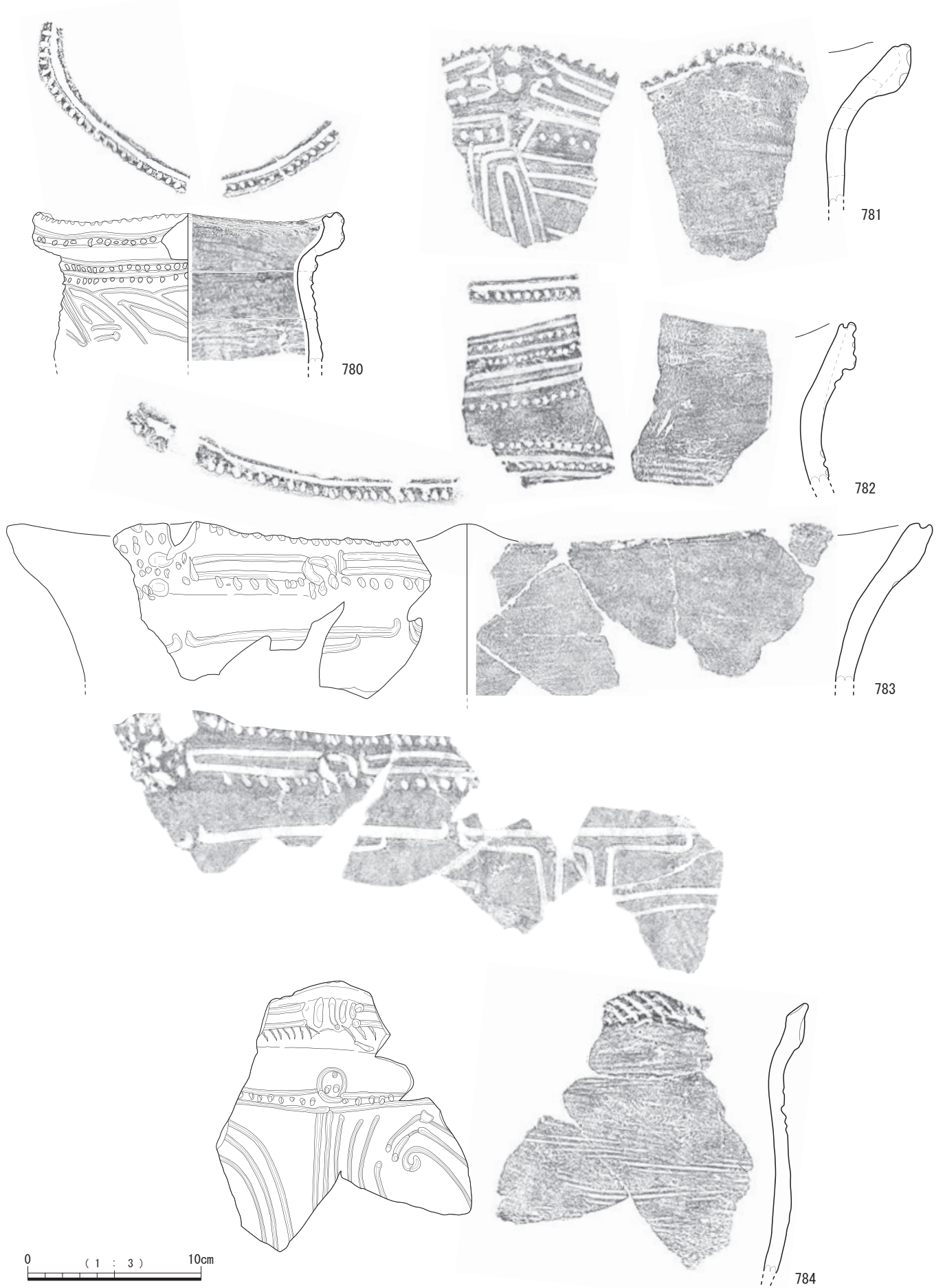


第2-35図 VIIIa類土器(7)

肥厚帯は外傾する。頸部が大きくくびれ、胴部が張り出す器形となると推測される。

750～752は細い平行沈線間に篋先による刺突を等間隔に施すもので、施文具は違うがVIIb類(擬似縄文系)にも類似する文様パターンがみられる。ともに口縁部外面をわずかに肥厚させ、口唇部に平坦面をつくる。平坦面はやや内傾する。750の口唇部にはごく浅い凹線が粗く施される。751は外傾しながら開く直口のタイプである。752は波頂部を中心に左右対称の文様が描かれ、やや内傾する口唇部平坦面には、凹線を巡らせ、波頂部に縦位の沈線を4本施す。口唇部内面の胴部との境目の量は明瞭で、口縁部の形態はⅡ類(松山式)の範疇に入る可能性もあるが、胴部文様帯の特徴からここに含めた。

753・754は口縁端部の内面側の際にごく細い凹線を施すものである。753は外反しながら開く。口縁部上位に横位の沈線と刺突による文様帯をもち、その下に、棒状工具を使用したと考えられるための凹線を縦位に連続して施す。758は口唇部外面側に円形刺突文を巡らせ、やはり1段下がった位置に浅い凹線を巡らせたものである。759・760・762は丸みを帯びた口唇部に明瞭な凹線を巡らせるものである。761は凹線をもたないが無文の口縁部肥厚帯の直下に連続刺突や凹線を巡らせる文様の特徴が類似するためここに含めた。757は雑な作りであり、胴部上位に細い沈線が4条平行に描かれる。759～762は左上がりの斜位の平行沈線文を基調とする幾何学的文様が密に描かれる。762は底部まで器形の分かる資料で小

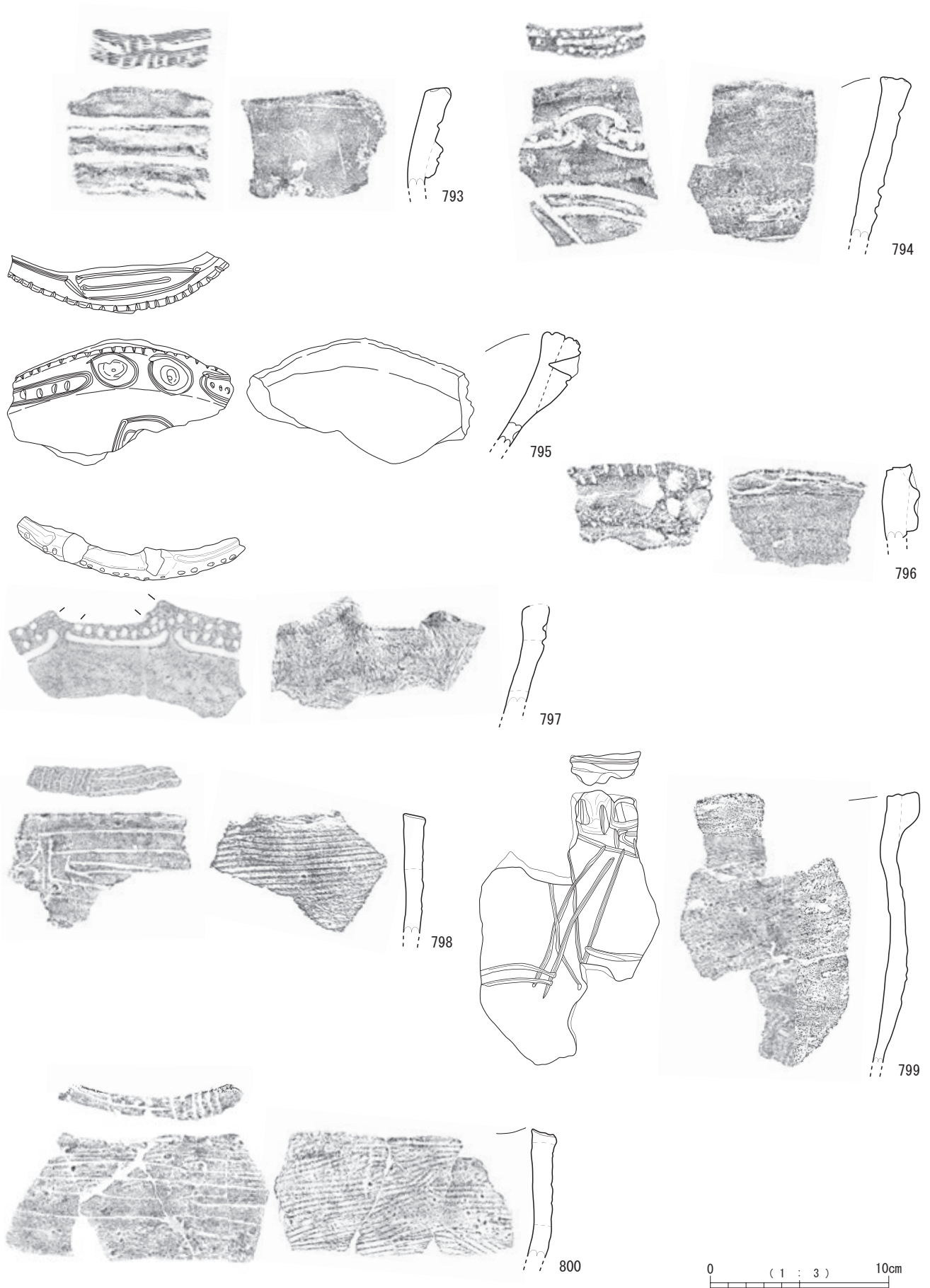


第2-36图 VIIa類土器(8)

年代測定 2502-2436 cal BC



第2-37図 VIIa類土器(9)



第2-38图 VIIa類土器 (10)



第2-39図 VIIIa類土器 (11)

形の深鉢である。胴部上位に帯状に煤が付着する。文様帯は頸部～胴部最大径あたりに及ぶ。

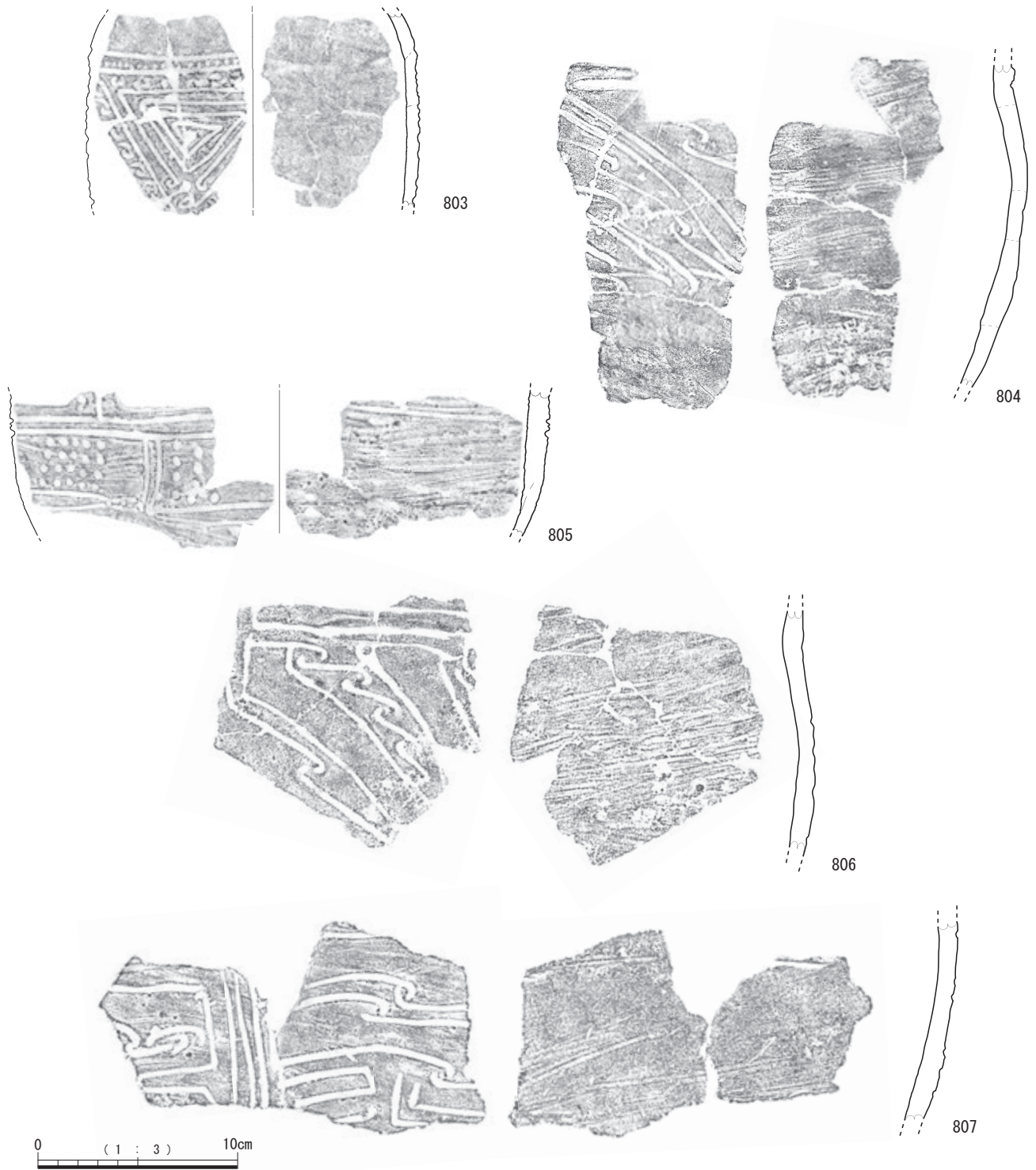
763～766は口縁部外面を肥厚させて横位の沈線文を巡らせる。胴部には平行沈線文を主体とした文様帯が下位に及んで描かれる。763は口縁部肥厚帯に平行な入組文を粗く描き、764・765は波頂部の直下に刺突と凹線による円形のモチーフを描く。764は波頂部裏側にも、2本の沈線を施す。これらは口唇部をあまり肥厚させず、凹線を巡らせる。766は口縁部外面上位に沈線を描き、口唇部の全周ではなく一部に凹線を施す。

767～779は口縁部外面肥厚帯に沈線や円形刺突文・貝殻や籠状工具による連続刺突文を組み合わせた文様帯を形成するものである。767～775は平坦口縁で776・777は口唇部凹線がごく細い沈線で、778・779は凹線をもたない。767・768・771・772・774・777・779の口縁部肥厚帯の文様構成には、上下を連続刺突文を巡らせて中位に沈線を描く特徴が共通している。胴部の文様も平行沈線や連点文を主体とするものが多い。口縁部肥厚帯のすぐ下やくびれの部分に平行沈線を巡らせるものが多い。772・776にみられるような「S」字状のモチーフは本遺跡から出土したVIII類に多くみられるものの一つである。775は指頭で描いた縦位の凹線を描き、778は渦巻文を描く。胴部の文様は3本単位の平行沈線で描かれている可能性がある。波状口縁の776～779の波頂部直下には孔・

円形刺突・渦巻き状のモチーフなどが描かれる。

780～784は口縁部・胴部の文様がVIIIb類の特徴をもつもののなかで口唇部がやや肥厚し、上面からみると凹線と連点文や貝殻腹縁刺突文を組み合わせて持つものである。外面側に連点・連続刺突を施し、内面側に凹線を巡らせる。波状口縁である。口唇部にはIX類とも類似する特徴の文様を描くが、口縁部肥厚帯・文様の特徴からVIIIb類に該当すると判断した。口縁部肥厚帯と胴部との境目のくびれた部分には平行沈線文や連点文を描き、その下に平行沈線による文様を描く。残存部が少なく、全容は不明だが、781・784の胴部の平行沈線文は3条単位である可能性がある。ともに金色の雲母を特に多く含み、外面は丁寧なナデ調整で滑らかな仕上げである。

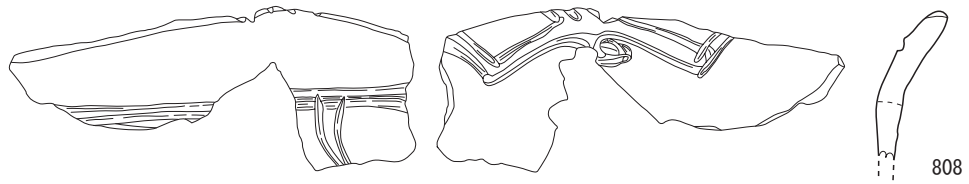
785～790は波頂部を含む破片である。785～787はやや内湾気味の口縁部で、口縁部肥厚帯と胴部との境目の段が緩い。785は、波頂部外面に孔を有し、786・788・789には大きな円形の刺突や同心円状のモチーフを描く。785の外面に付着した煤を年代測定した結果（報告No.6）¹⁴C年代が 3962 ± 25 yrBP 1 σ 、2 σ 暦年代範囲が 2502 – 2436 calBC (48.2%)である。786と788は文様が似るが、胎土の混和材の量や種類、色調に違いが見られ、別個体の可能性もある。787は波頂部に小さな連点を施す。790は口縁部外面と口唇部を平坦に形成する。口縁部肥厚帯と胴部との境目の稜は明瞭である。口縁部の文様は波頂



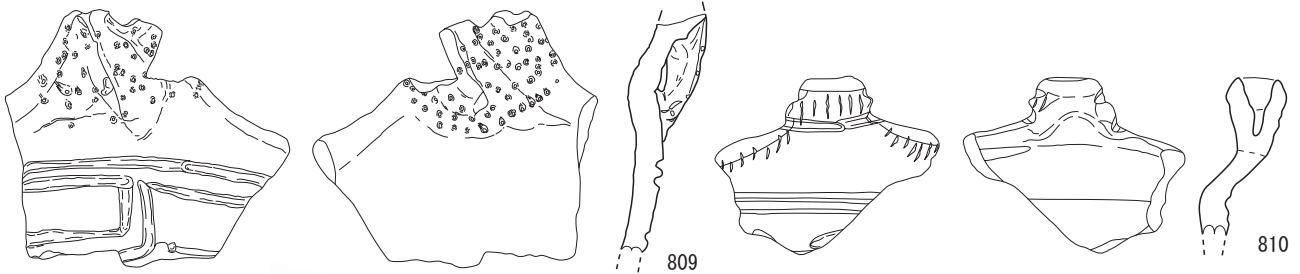
第2-40図 VIIa類土器（胴部）

部を中心に左右対称に描かれており、文様のパターンとしてはVI類の範疇である可能性もあるが、ここに含めた。791・792は口縁部内面に貝殻腹縁刺突による文様を施す。ともに口縁部肥厚帯の直下に横位の文様が描かれ、その下は無文である。形態としてはIX類にも類似するが、平行沈線を主体とする胴部の文様の特征からここに含めた。793～802は口唇部が上面を向き、平坦に形成される。

796のように口唇部が粗く面取りされるものもあるが、沈線・刺突を組み合わせた文様を施す傾向がみられる。797は波頂部に突起を有すると推測される。798と800は矩形的文様を横位に展開させ、800は文様を描いた後を強くナデて仕上げているため文様が一部判然としない。801, 802は口唇部を幅広く肥厚させる。ともにごく緩い波状口縁で、波頂部を外側に張り出させて縦位の沈線文

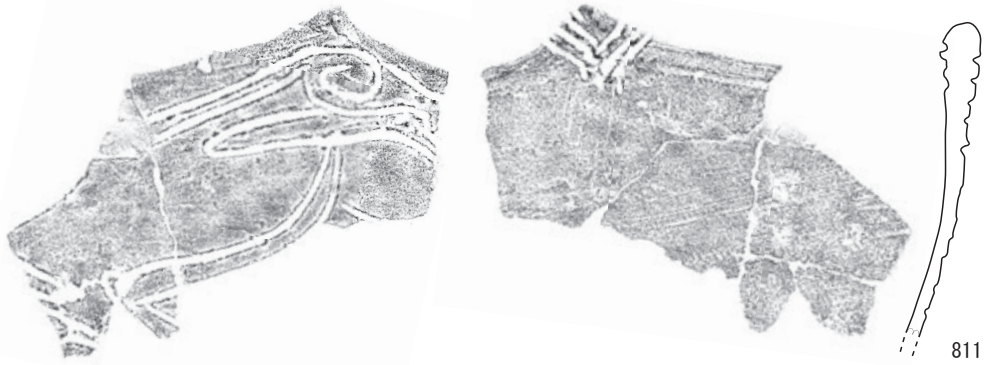


808

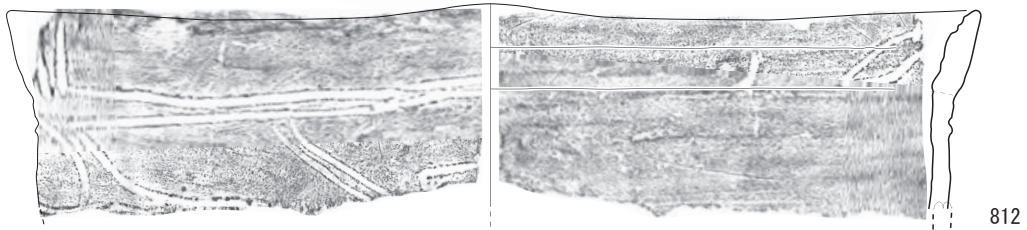


809

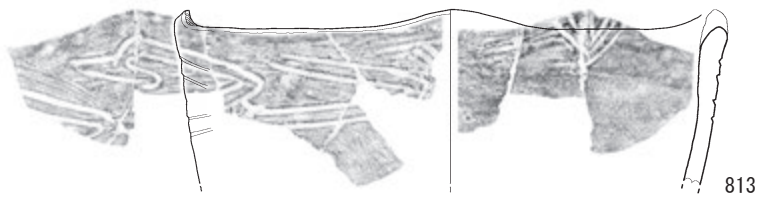
810



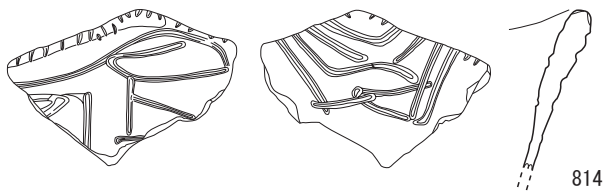
811



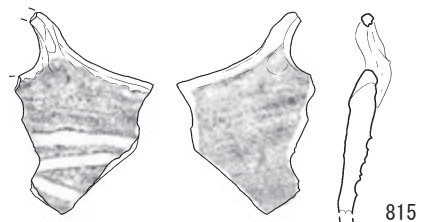
812



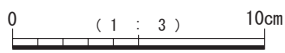
813



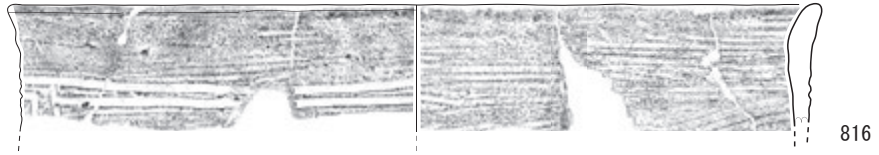
814



815



第2-41图 VIIIb類土器(1)



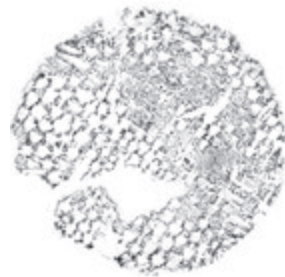
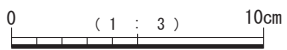
816



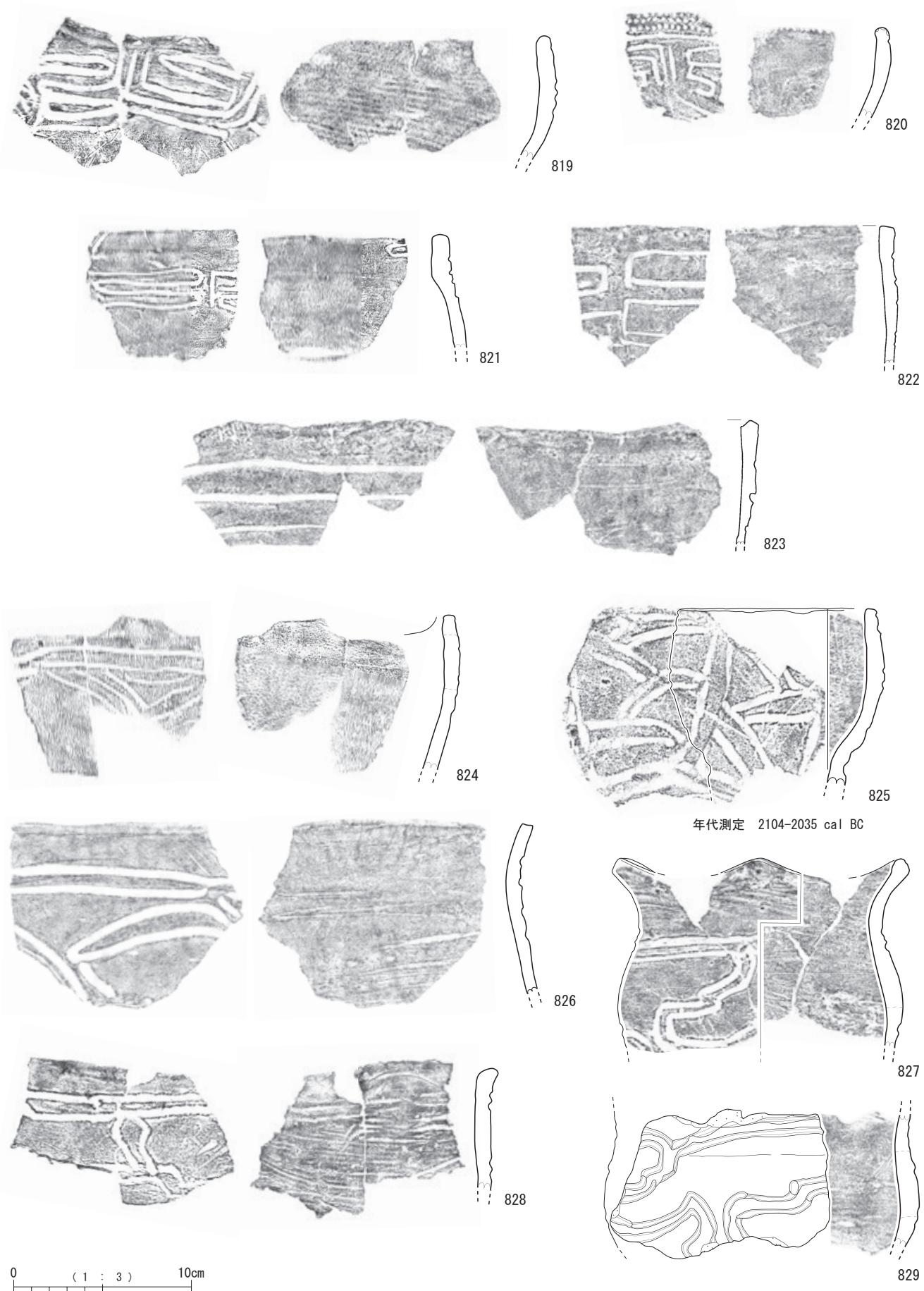
817



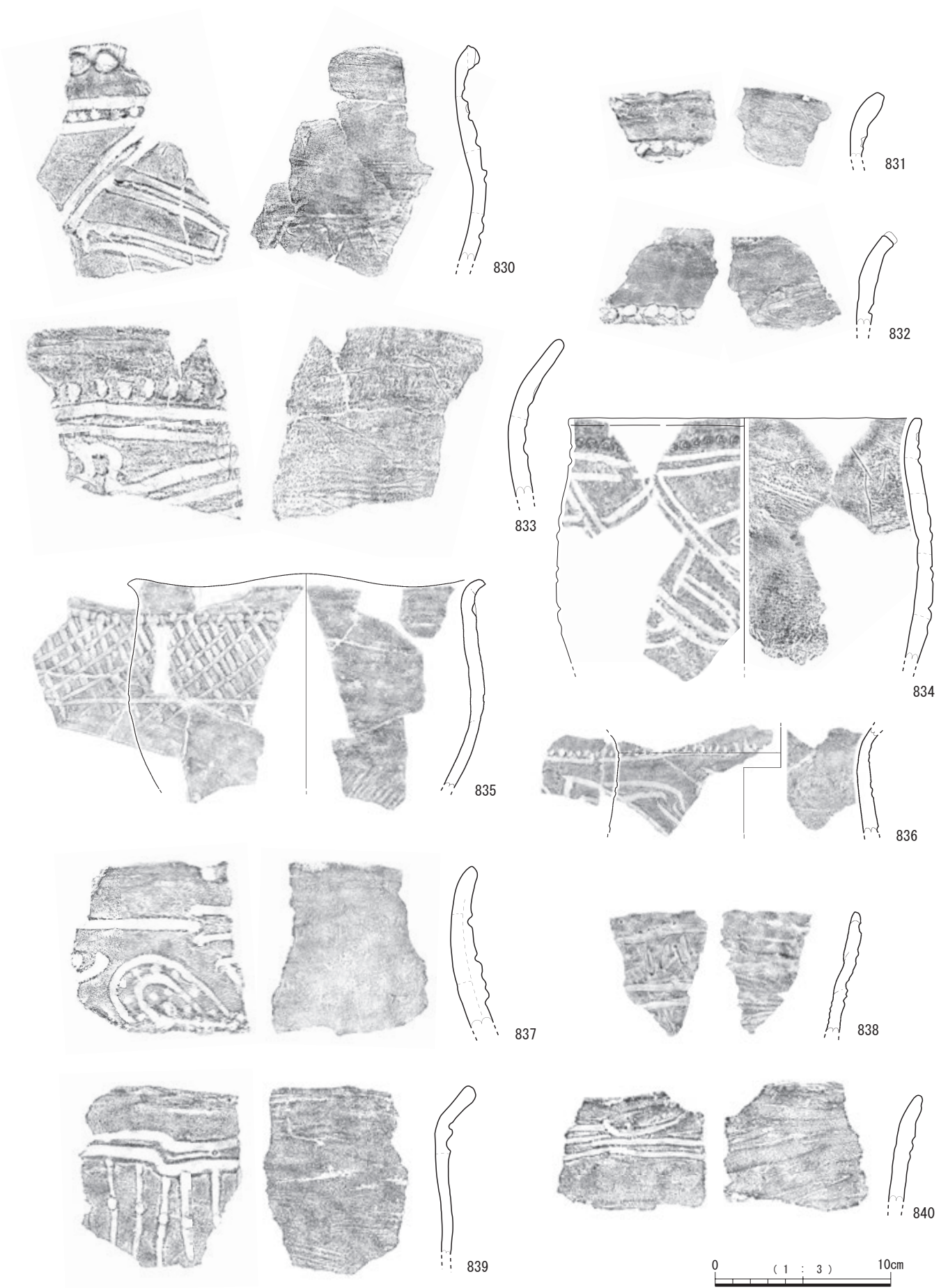
818



第2-42図 VIIIb類土器(2)



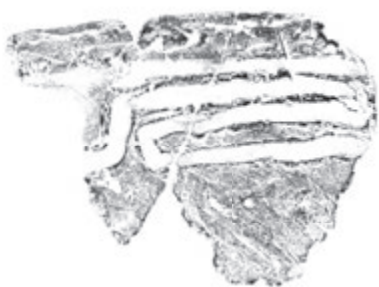
第2-43図 VIIIb類土器(3)



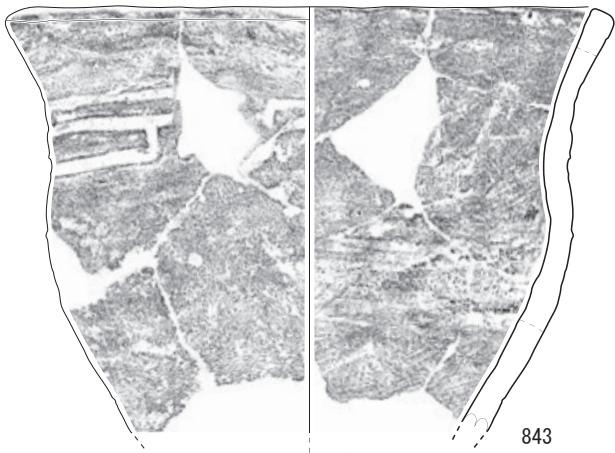
第2-44图 VIIIb類土器(4)



841



842



843



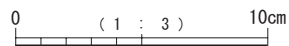
844



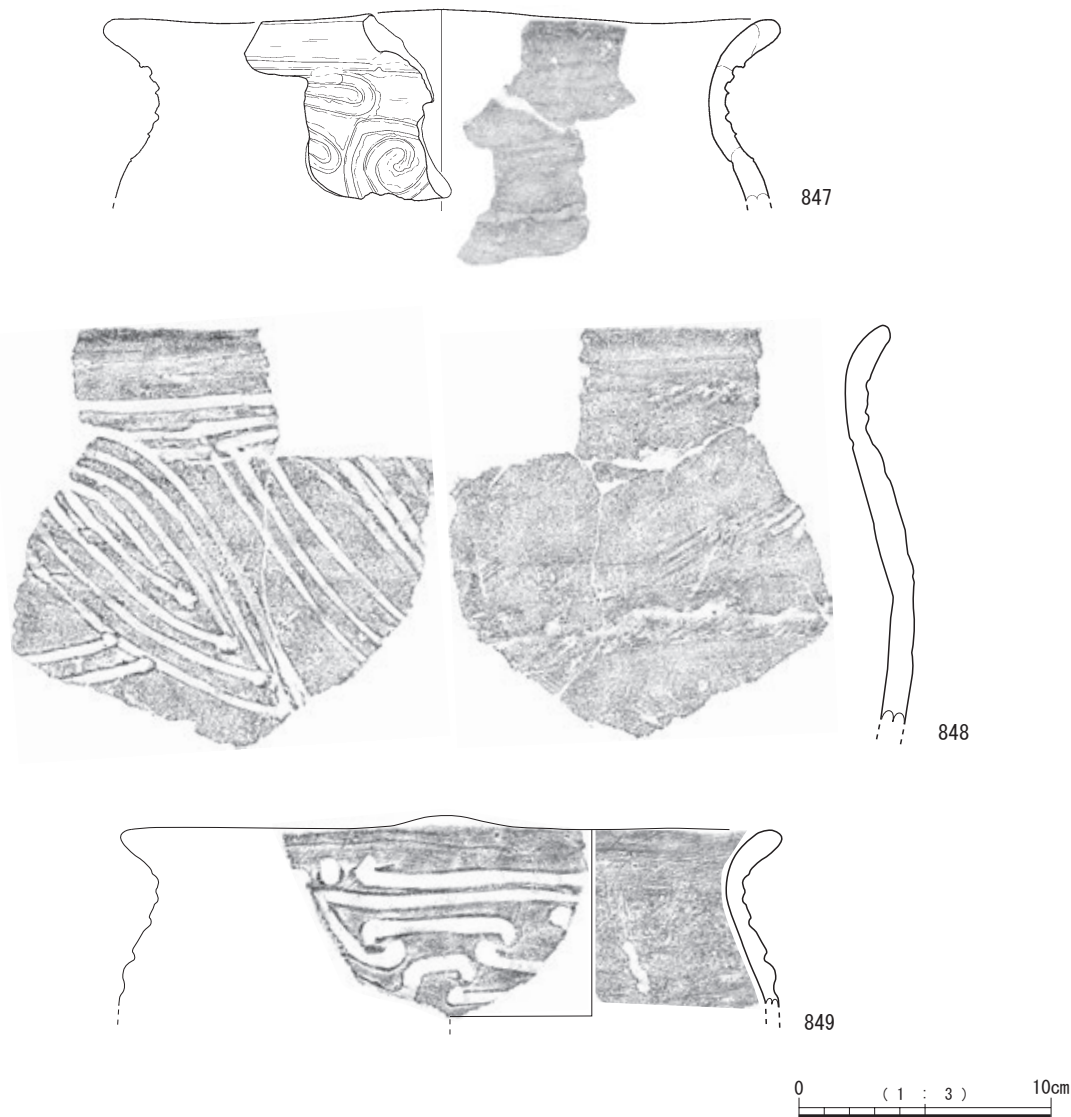
845



846



第2-45图 VIIIb類土器(5)



第2-46図 VIIIb類土器(6)

や渦巻文を施す。胴部上位に横位に曲線的な文様を描くと推測され、一部に矩形のモチーフが確認できる。

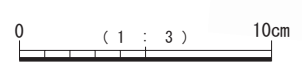
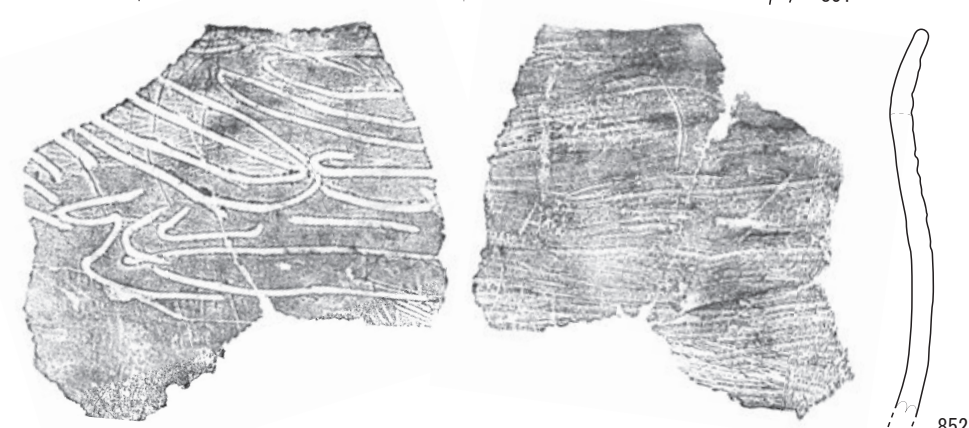
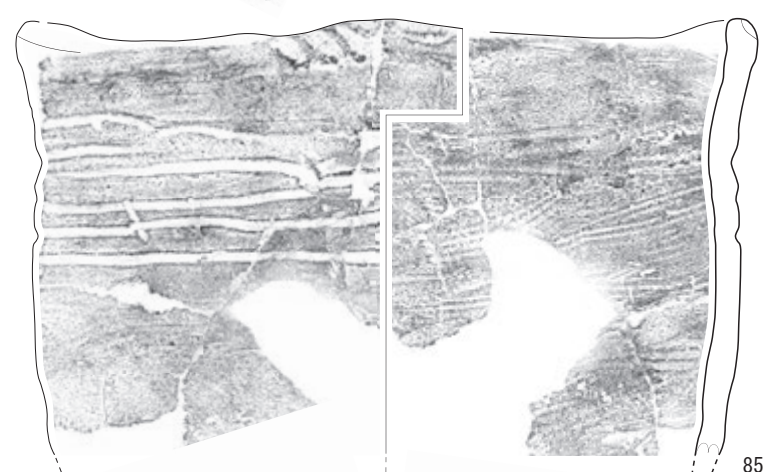
803~807は、細い沈線による文様が胴部下位に及び、密に描かれることからVIIIa類土器の文様の特徴をもつと判断した胴部片である。「S」字状の入組文や刺突文が描かれるものが多い。807は下胴部片でそのほかは上胴部片である。

VIIIb類 (第2-41~53図 808~878)

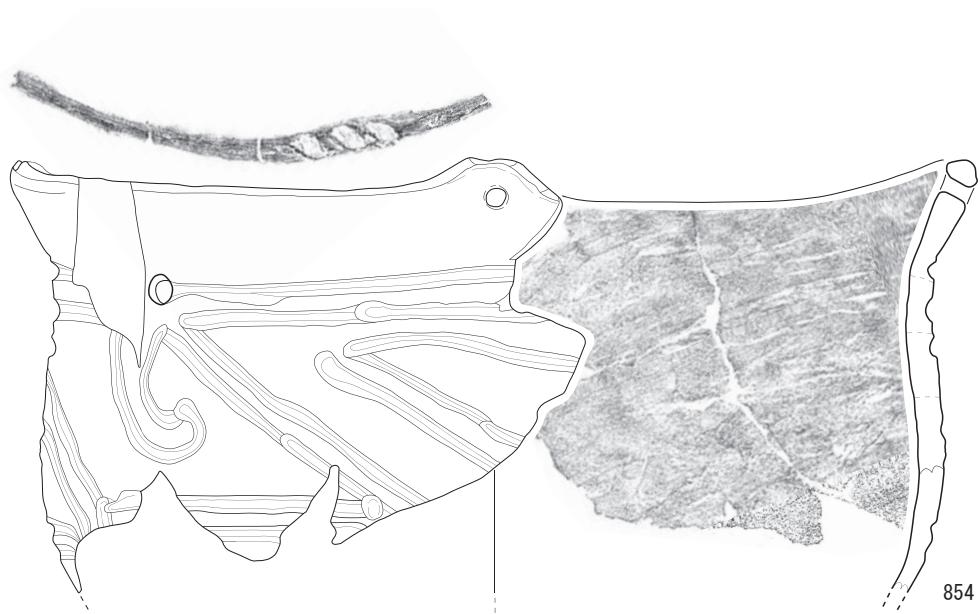
口縁部の形態は直口、内湾、外反と様々であることを先述したが、外反するものの比率が特に高い。頸部でくびれ、胴部がやや張り出し、丸みを帯びる傾向も著しい。波状口縁と平坦口縁とがある。波頂部内面に文様を描くものや、波頂部に数個の刻目を施すものが多く出土している。口縁端部を丸くおさめるものが多く、外面は、口縁部直下を無文とし、頸部あたりに1条ないし2条の横

位の沈線を巡らせて区画した直下を胴部文様帯とするパターンのもので多く出土する。胴部の文様のバリエーションは多く、平行沈線文を主体とする。南薩地域の同じ時期の遺跡で出土するような、長靴文や矩形の文様パターンを横位に展開させるものも一定数出土するが、胴部に斜位の大胆な平行沈線を基調とした文様を描き、線の連結部分を鉤手状に入り組ませるもの(VIIIa類とも文様パターンが似る。ただし口縁部の形態的な特徴はVIIIb類である。先述の中原遺跡IV-c類に該当する一群)が特に多く出土する。また、平行沈線が曖昧に描かれた、規則性の弱い崩れた文様パターンのもも確認できる。

808~818は薄手で硬質な一群で、胎土の色調や混和材の特徴から指宿地方をはじめとした他の地域で製作されたものと考えられる。総じてシャープな細幅の平行沈線によって文様が描かれている。808・811~814・817の口縁は、端部にむかって器壁に厚みをもたせて丸くおさめ



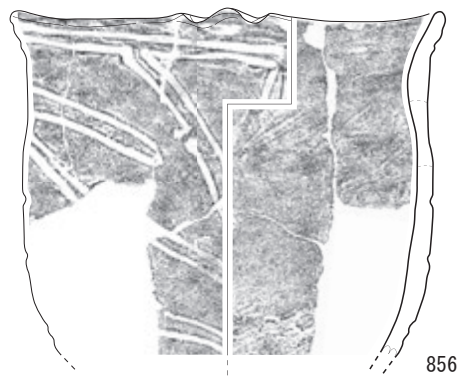
第2-47図 VIIIb類土器 (7)



854



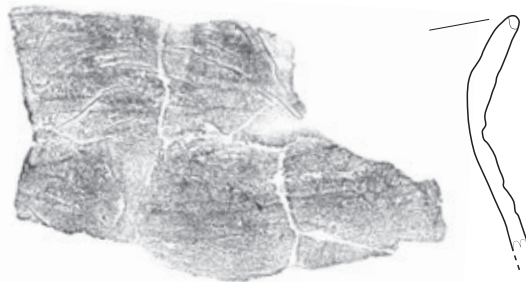
855



856



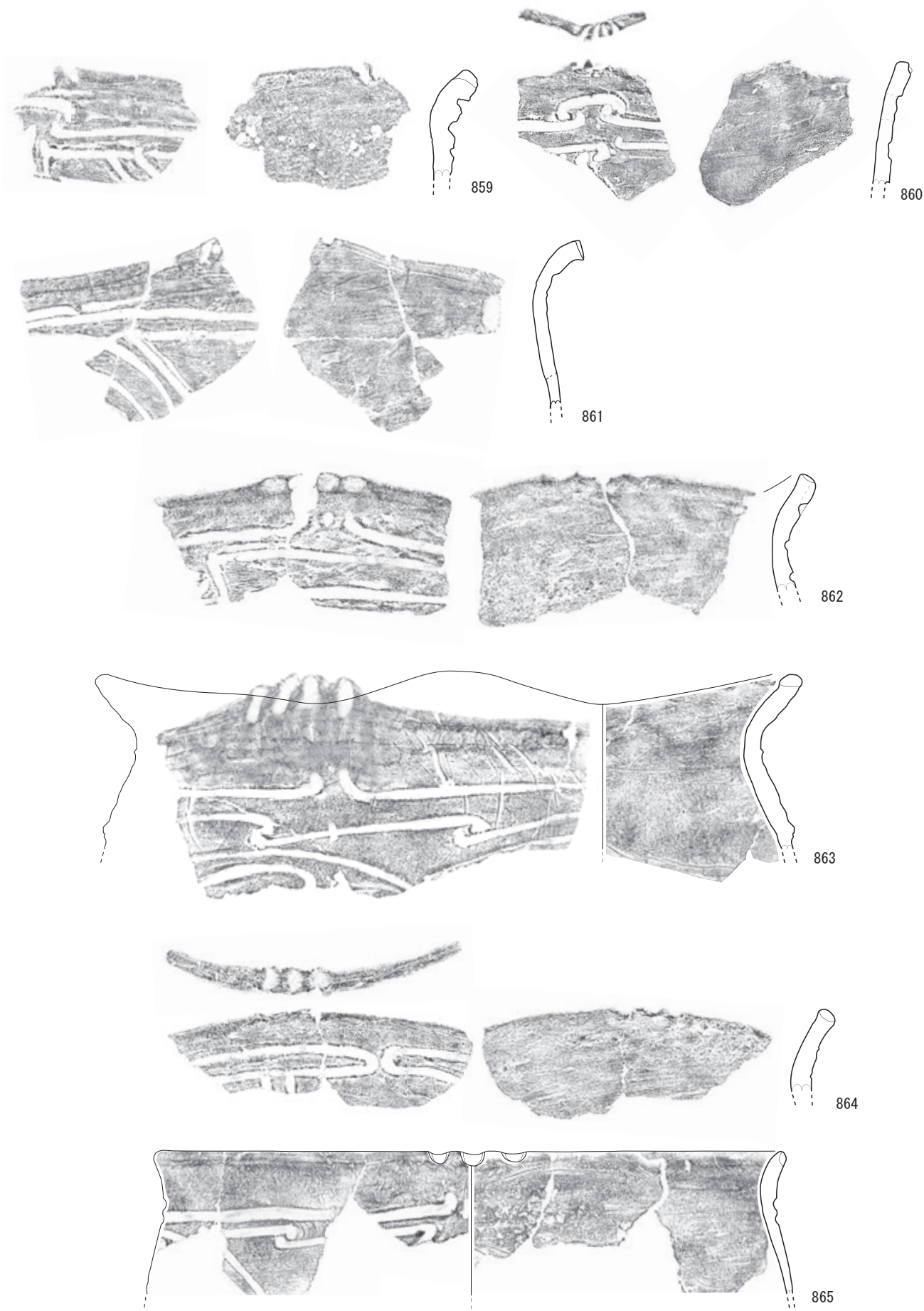
857



858

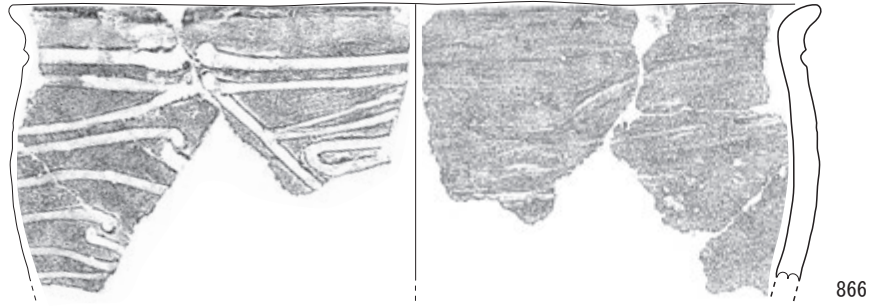


第2-48図 VIIIb類土器(8)

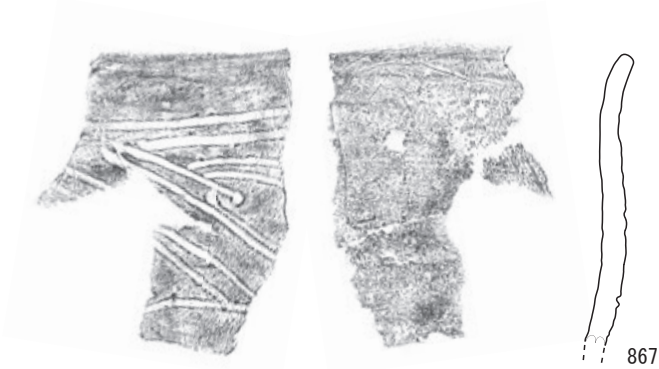


第2-49図 VIIIb類土器(9)

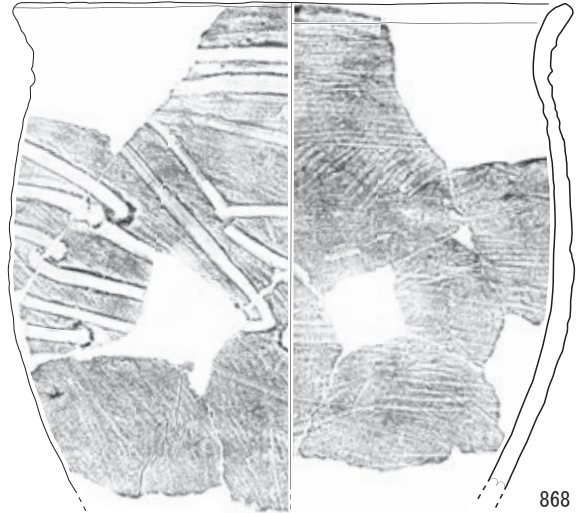
0 (1:3) 10cm



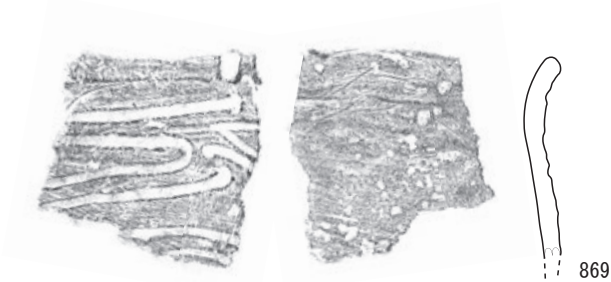
866



867



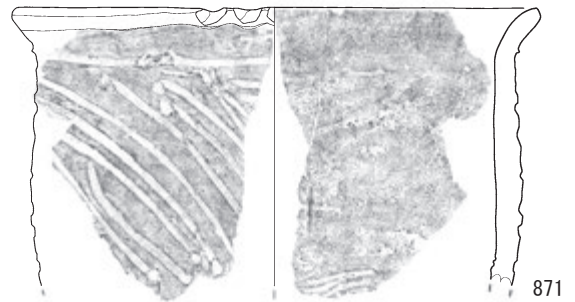
868



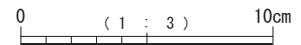
869



870



871

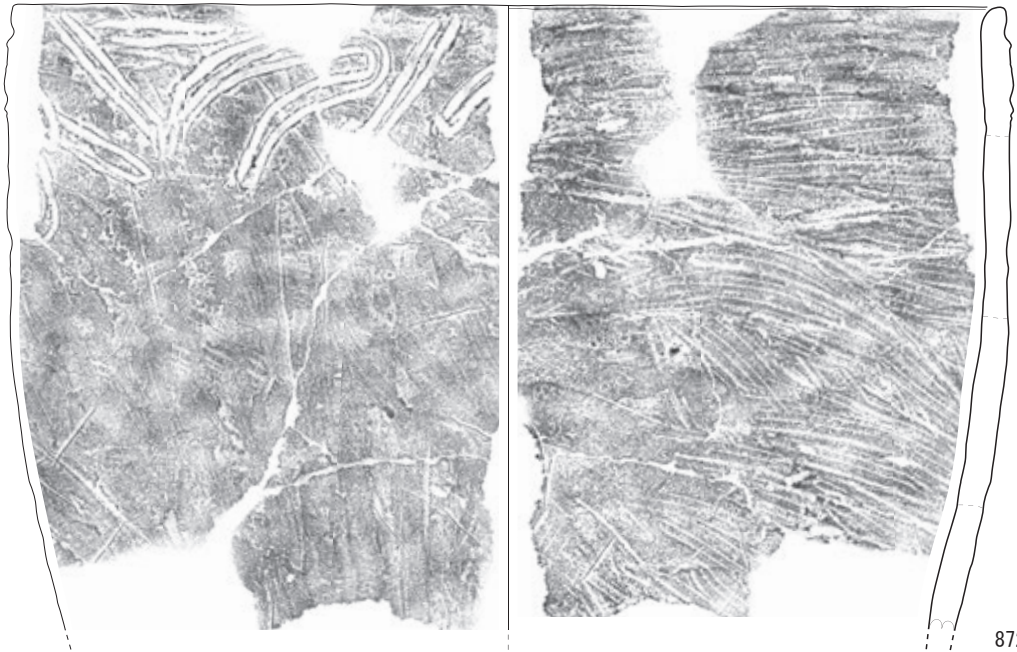


第2-50図 VIIIb類土器 (10)

る。波状口縁で、波頂部裏面にも文様を描く。809・810・815は波頂部に突起を有し孔を施す。809・812は色調が桃色で、指宿地方からの搬入の可能性もある。818は完形に復元できた。口唇部は平坦に形成される。波頂部は4か所均等につくられ、波頂部直下に渦巻き文を描く。胴部は底部に向かって急な角度ですぼまるため、丸みを帯びたプロポーションとなる。平底で網代痕が付く。渦巻文同士のほぼ中間に2本1組の文様を垂下させる。

810にのみ微量な金色の雲母が混じり、そのほかは角閃石が多く含まれる特徴的な胎土である。

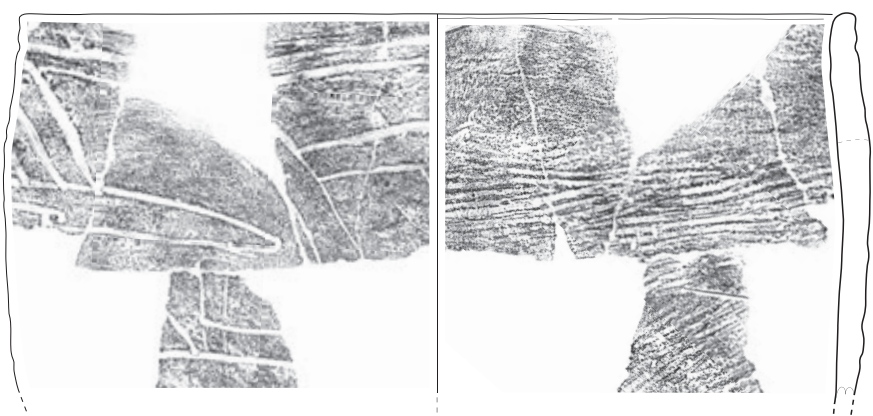
819~822は矩形の文様を横位に展開させるもので、819・820は丸みを帯びた浅い鉢状の器形となると推測される。821は口縁部がすぼまる。820は丸い口縁端部に小さな連点を密に施す。823はやや粗いつくりで、ごく緩い波状口縁を呈する。口縁端部にむかって器壁に厚みをもたせる。口唇部は粗く面取りされる。824は平坦口縁



872



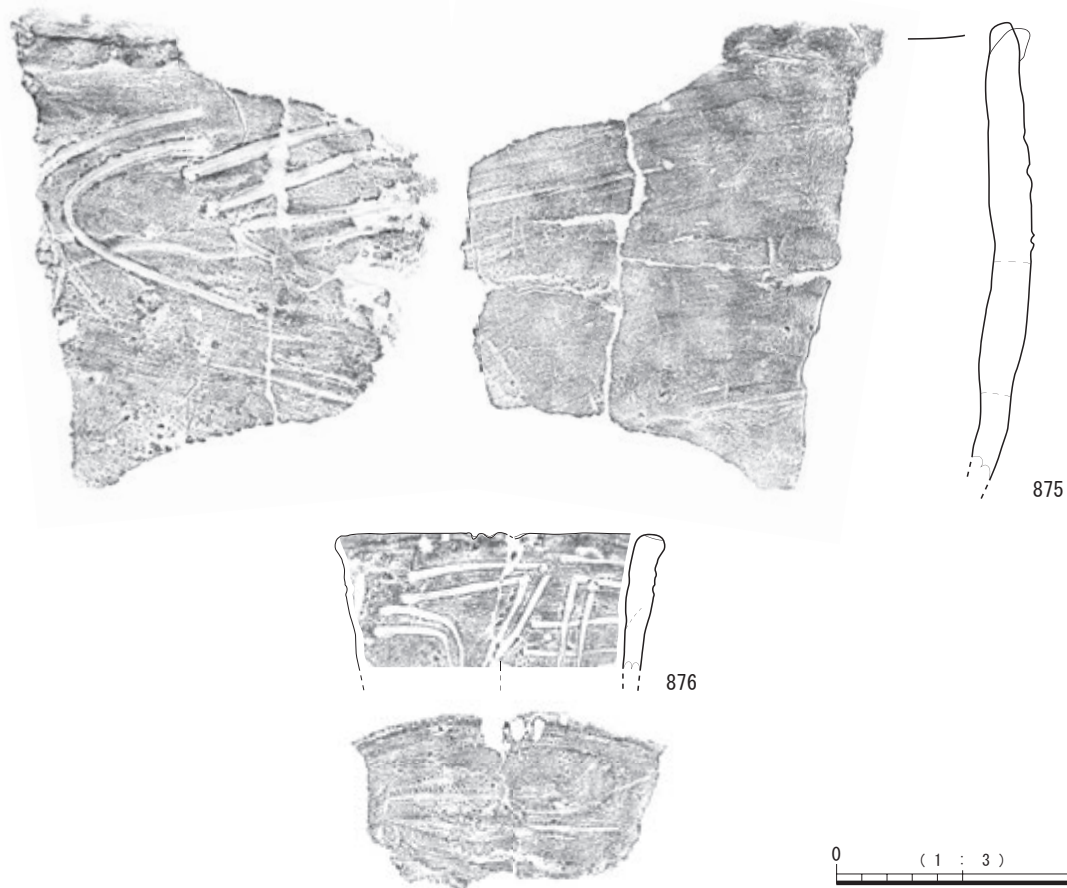
873



874

第2-51図 VIIIb類土器 (11)

0 (1 : 3) 10cm



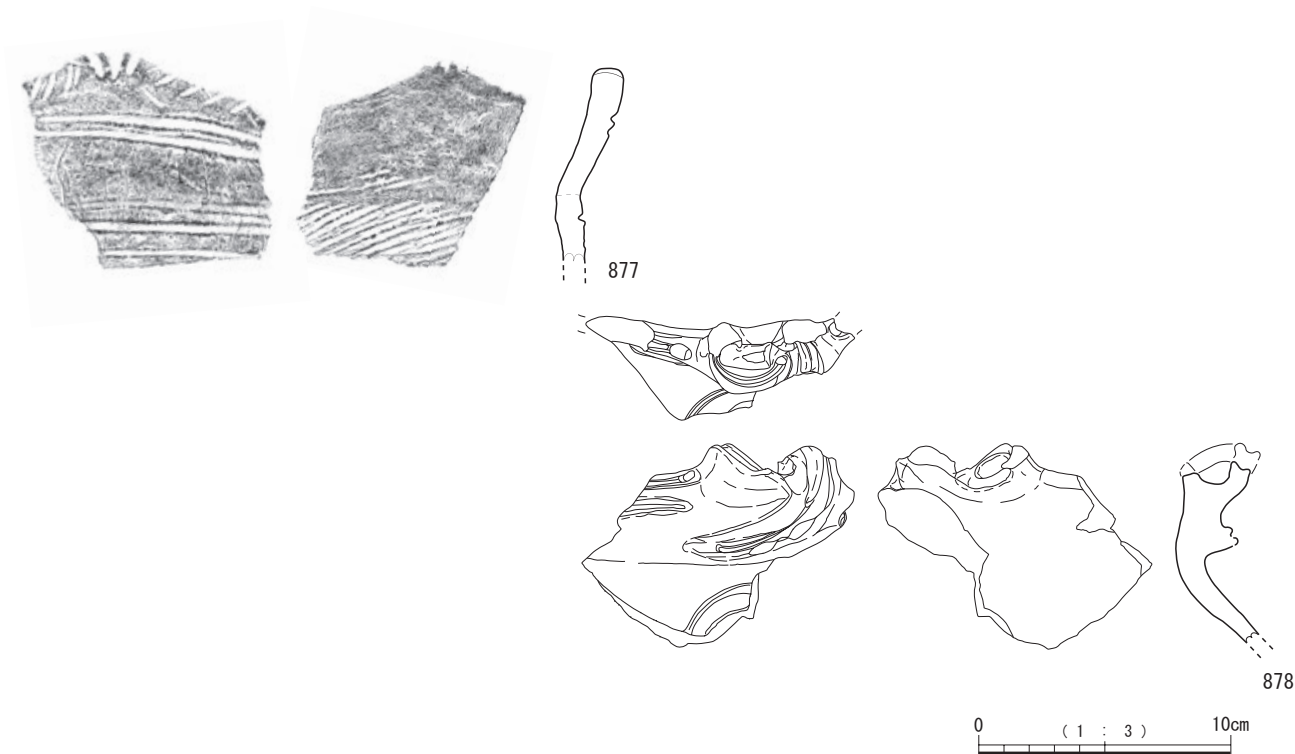
第2-52図 VIIIb類土器 (12)

の口唇部に小さな丘状の突起を有し、逆三角形のモチーフが3条の平行沈線により描かれる。826・828は口縁部を短く外反させ、頸部外面に二重の沈線を巡らせその下にやや崩れた平行沈線文を描く。825・827は小形品である。825は口がすぼまり丸みを帯びた器台状の器形で、外面には煤が多量に付着する。祭祀などの特殊な用途に使用された可能性もある。外面に付着した煤を年代測定した結果（報告No.3）¹⁴C年代が $3725 \pm 20\text{yrBP } 1\sigma$, 2σ 暦年代範囲が2104-2035calBC (49.40%)である。827・829は同一個体である。波頂部外面に小さな円形の突起を有する。文様は胴部下位に及ぶ。826～829は胴部文様帯の幅は広いが密度は低い。

830～840は文様の特徴にVI類やVII類の要素を併せもつ。分類に迷うものであったが、頸部に沈線を巡らせてその下に文様帯をもつことや、胴部の文様が平行沈線文を主体とすることをVIII類の範疇であると判断し、ここに含めたものである。830～836は頸部のくびれ部分の外面に連点文・あるいは連続刺突文を巡らせるものである。830は口縁部外面の最上位に突帯を巡らせて、貝殻背面による大きな刺突を連続して施す。頸部に巡らせた平行沈線間を巻貝によって等間隔に刺突する。837の胴部にも同様の文様パターンがみられる。これらの特徴はVIIb類に

多くみられ、VIIIa類にも少数出土する。また、833・837は金色の雲母とともに白色粒子を特に多く含み、胎土の色調も明るいため搬入品の可能性も考えられる。831・832・835は頸部に凹線を巡らせ、その上に連続刺突を施す。VIIa類に多くみられる文様パターンである。835は緩い波状口縁で口縁端部が短く強く外反する。胴部上半に斜格子状の文様を帯状に描く。833・834・836は頸部に巡らせた端・平行沈線文の直上に貝殻刺突文を等間隔に施す。VI類にも多くみられた文様パターンであるが、貝殻腹縁を明瞭に刺突しVI類よりも小さな刺突である。胴部の文様は平行沈線によって描かれる。838・840は直線的に立ち上がる器形でかなり粗いつくりである。わずかに外反する頸部外面に平行沈線をもつことからここに含めた。

841～844は長靴文や、矩形の文様を横位に展開させるものである。頸部でわずかにくびれ、口縁部は外反する。841～843は文様帯が胴部上位に集約される。841は830と同様に口縁部に突帯をもつ。縦位の平行沈線間に貝殻腹縁刺突を充填させる。VIIb類の範疇である可能性もあるが胴部の文様の特徴からここに含めた。また、この文様パターンのものはやや線が太い傾向がみられるため、VI類との関連性も窺える。845には平行沈線による垂下文



第2-53図 VIIIb類土器 (13)

を描く。846・847は同心円状や渦巻き状の円形のモチーフを描く。なお、847～849は口縁部が短く外反し、頸部の屈曲度が大きく胴部が大きく張り出す丸みを帯びた器形である。849は薄手で硬質である。線の始点と終点を明瞭に刺突し、太めの沈線を深く施す。器面をしっかりとナデて調整して仕上げた丁寧な作りである。なお、内面の調整には工具が使用される。SS27から出土した、色調が黒色を呈し搬入品の可能性をもつ413と形態・文様・調整の特徴が似る。褐色の胎土で金色の雲母が混じる。

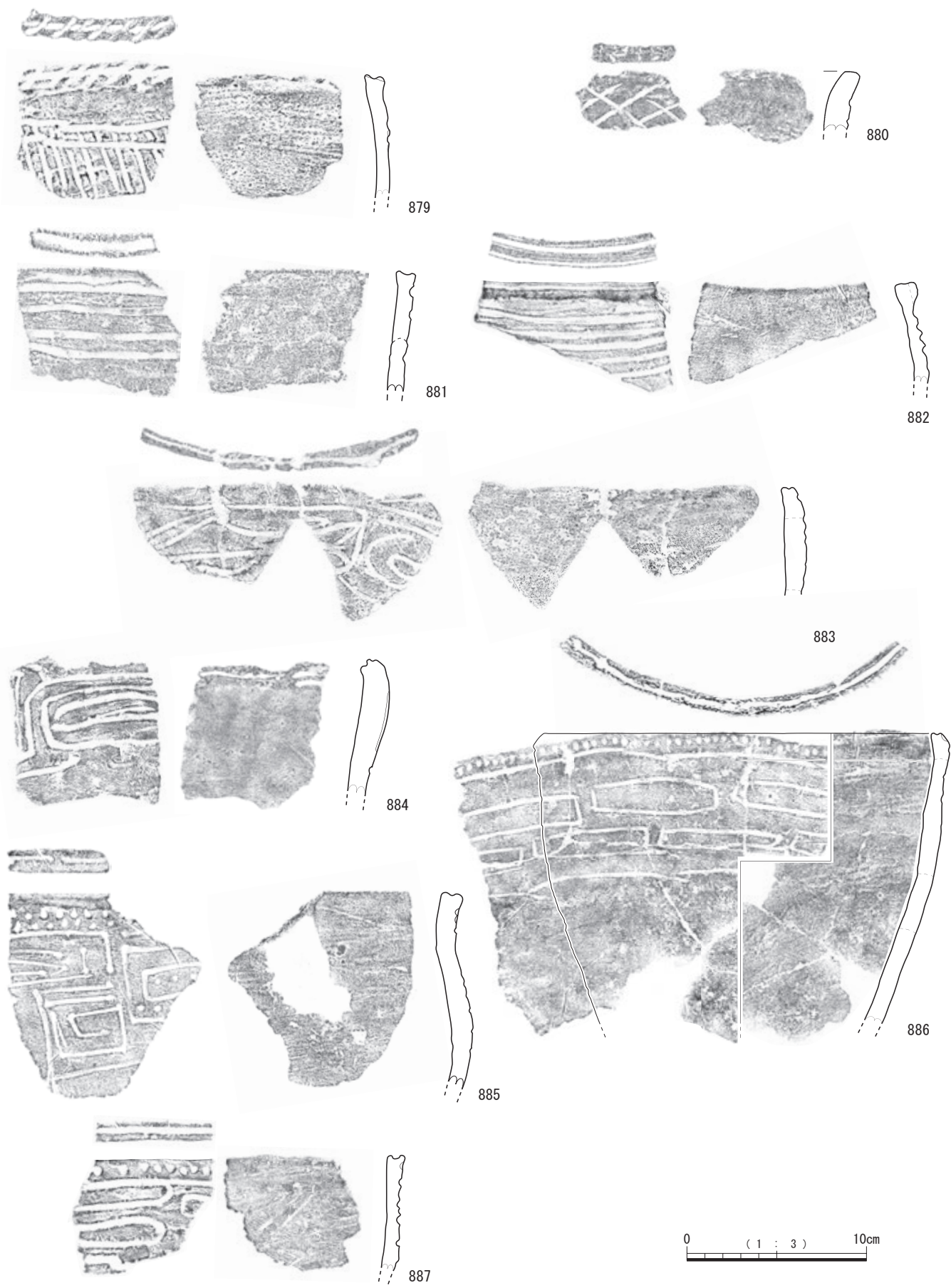
850は大きく外傾しながら直線的に開く器形で、鉢状の形態となる可能性もある。文様・胎土の混和材・調整の特徴は413と似るが色調は褐色である。内面には窺痕が多く残る。

851は口縁部上位を無文とし、頸部のくびれ部分に明瞭な単・平行沈線を巡らせ、それより下位に文様を描くものである。なかでも残存部分の多いものに着目すると、胴部が丸く張り出し、底部にむかって急な角度ですぼまる傾向がみられる。また、文様帯の幅も広く胴部下位に及ぶものが多い。平坦口縁と波状口縁とがあり、波頂部や口唇部に2～4条単位の刻目を等間隔に有するものが多い。残存率の高い資料から推測すると、口縁部の4か所程度に等間隔に施すものと推測される。851は多重の平行沈線を横位に描くもので、文様帯は胴部上位に集約される。沈線の所々を弧状に継ぐ。852は薄手で硬質である。内外面の調整には条痕を残す。やや崩れた平行沈

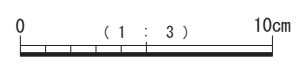
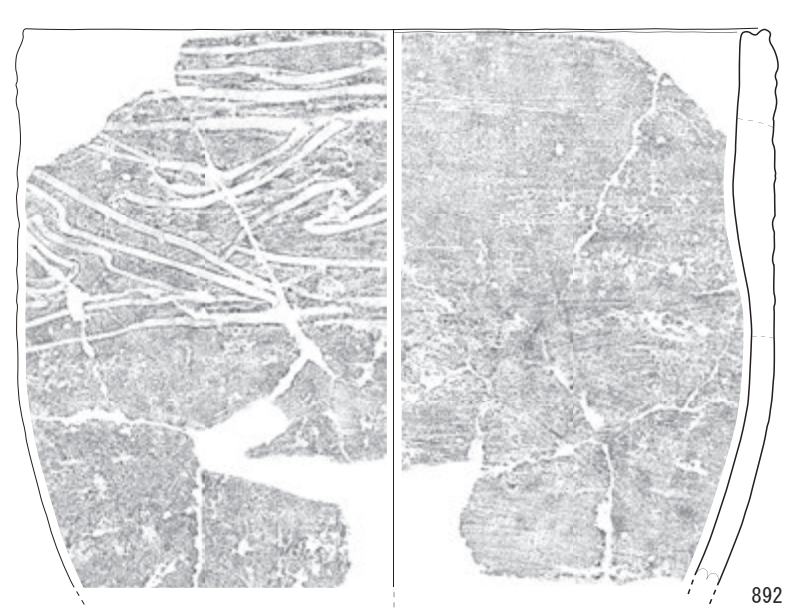
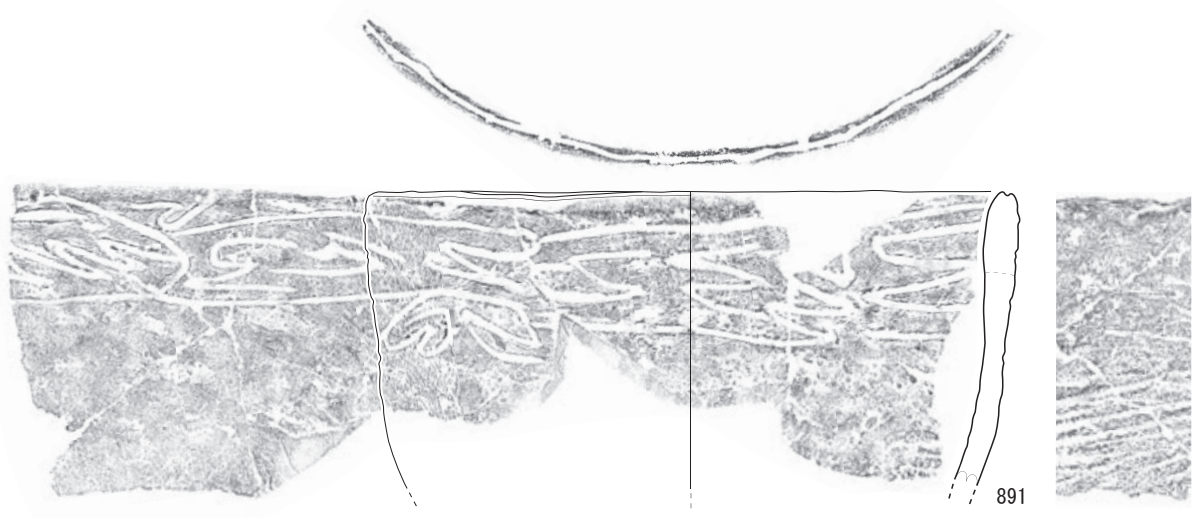
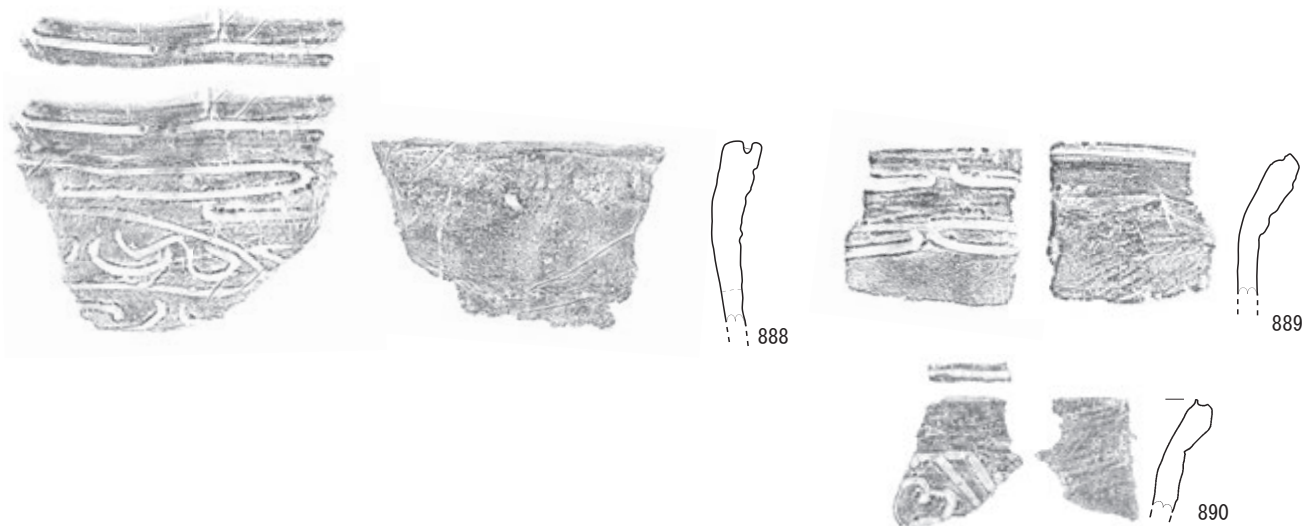
線文である。所々を弧状に継ぐ特徴は851と似る。853～856は胴部に斜位の大胆な平行沈線文を描くタイプで、本遺跡からの出土点数が最も多い一群である。細かい沈線で幾何学文が描かれるものも多く出土し、VIIIa類にも共通する特徴である。大きさは様々な規格がある。854には2か所の孔が確認できる。波頂部の孔は内外両側から、胴部の孔は外面側から施される。863は橙色の胎土で、白色粒と金雲母を特に多く含み、外面が滑らかな手触りである。搬入品の可能性も考えられる。

872～876は口縁部と胴部文様帯を区画する横位の沈線がやや不明瞭で、胴部上位に粗い平行沈線文を描く。872～874は器壁は急な角度で立ち上がり、口縁部の形態は内湾気味である。口縁部直下～胴部上位に文様帯をもつ。器面の調整が粗い。873は口唇部の内側に粘土を貼り付け肥厚させる。875・876は口縁部が外反するがその度合いは小さい。876は平坦口縁の一部をわずかに隆起させ、刻目を施す。876は小型である。875は、口唇部の一部がVIIIa類のように突帯状に形成されるが、突帯を器面になじませて一体化させており、全周に巡らせるものではない。DKS16から出土した514とは胎土、文様が類似し同一個体の可能性もある。

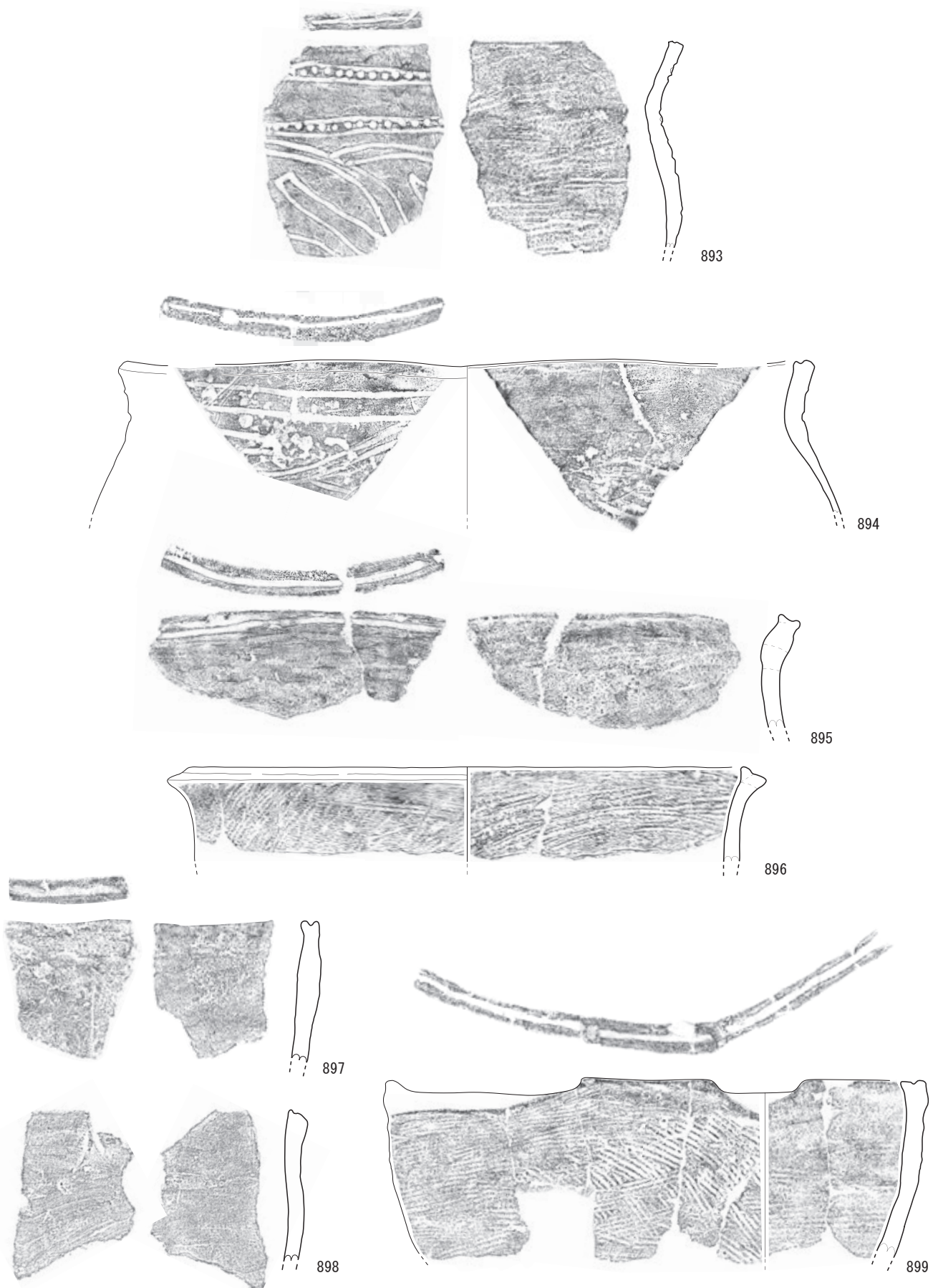
877、878は、ともに波状口縁で、頸部が大きく外反し、口縁部は明瞭に内湾する。877は波頂部に刻みを入れる特徴からここに含めた。口唇部に浅い刻目を巡らせることや、頸部のみではなく口縁部直下にも平行沈線文を巡らせることから、搬入品や時期差の可能性も否定できな



第2-54図 VIIIc類土器(1)

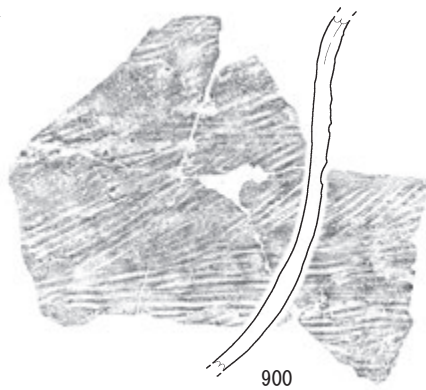
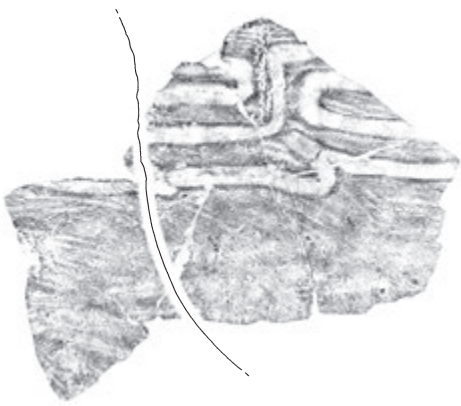


第2-55図 VIIIc類土器(2)



第2-56図 VIIIc類土器(3)

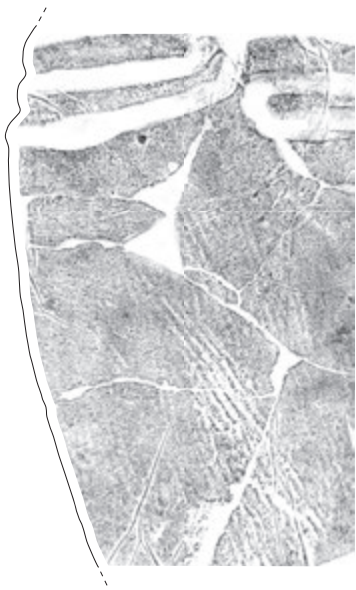
0 (1 : 3) 10cm



900



901

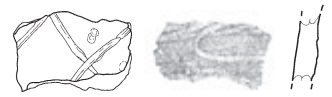


902



903

年代測定 2697-2567 cal BC



904

年代測定 2498-2398 cal BC

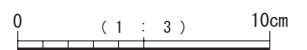


905

年代測定 2671-2554 cal BC



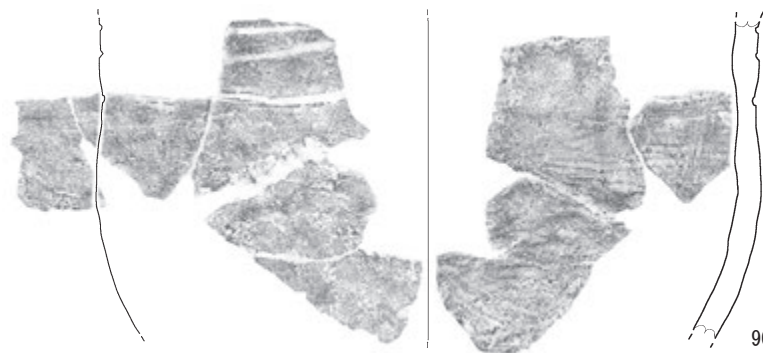
906



第2-57图 VIIIb, c類土器 (胴部) (1)

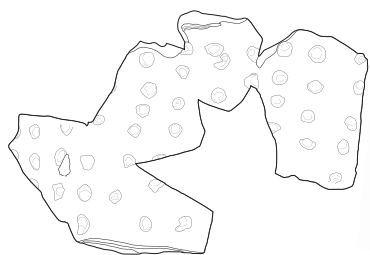


907



年代測定 2634-2473 cal BC

908



909



910



911

0 (1 : 3) 10cm

第2-58図 VIIIb, c類土器 (胴部)(2)



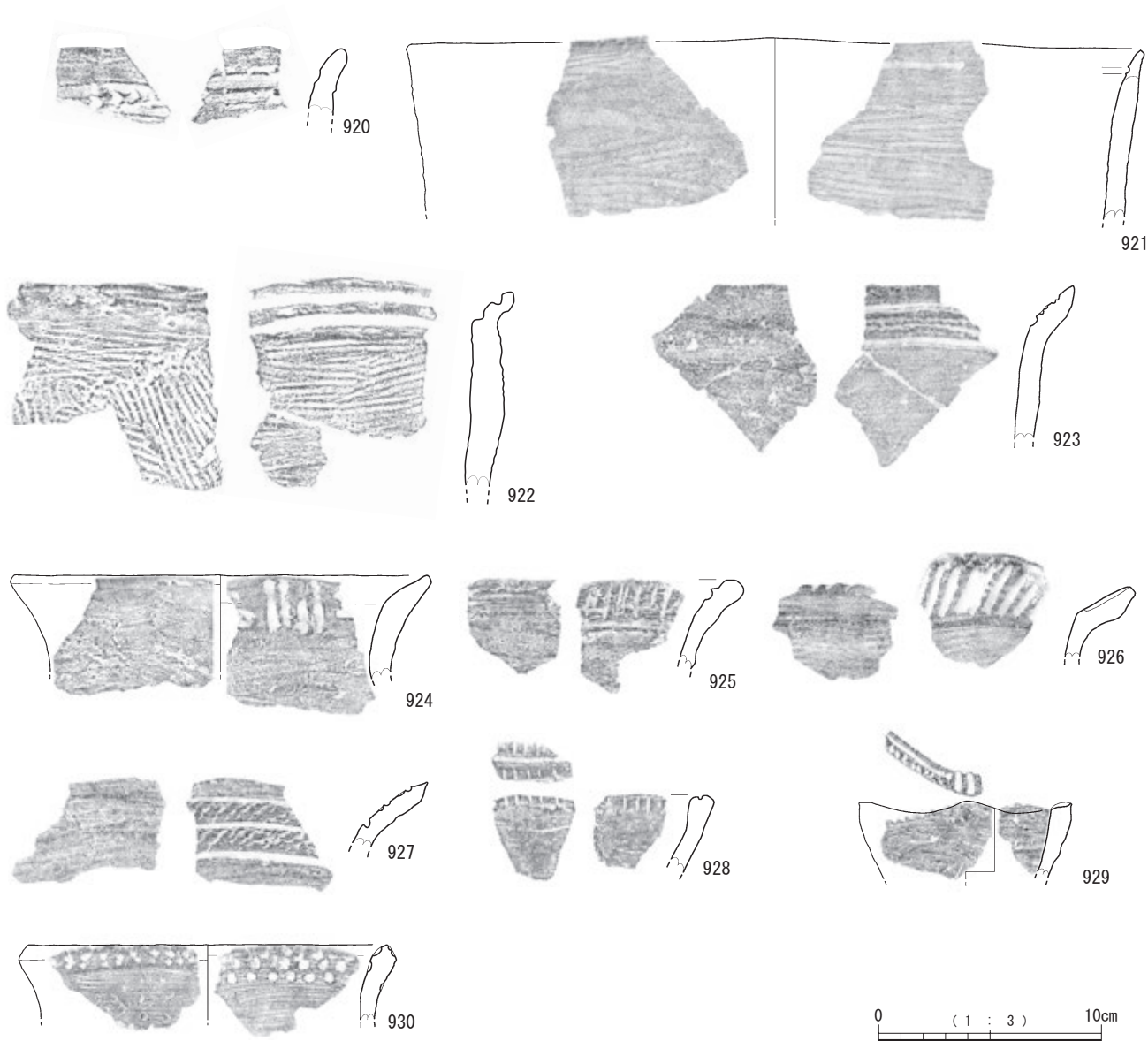
第2-59図 VIII類土器（波頂部・装飾）

い。878はわずかに残る胴部の文様が本遺跡のVI類にみられる凹線であるが、口縁部外面を肥厚させ、口唇部に凹線をもつVIIa類に似た口縁部の形態からここに含めた。878は頸部で大きく外反し口縁部はやや内湾気味に開く。波頂部には粘土紐による装飾が施され、上面からみると大きな輪状となる。装飾部分に凹線を施す。口縁部外面と口唇部にも凹線を巡らせる。胴部には平行沈線による曲線文が描かれると推測される。胎土には金色の雲母が混じる。

VIIIc類（第2-54～56図 879～899）

口唇部を上面に向けて形成し、沈線を1条巡らせるもの。口縁端部の角は丸みを帯び不明瞭である。口縁部外面の形態はVIIIb類に類似し、VIIa類のように明瞭には肥厚させない。胴部は、有文のものと無文のものとが出土する。

879～887は胴部上位に直線的な文様（879～882）や、矩形や窓枠状の文様を横位に展開させるもの（883～887）で、VIIIb類に類例の多い文様パターンである。879と880は口唇部に沈線を施した後に、前者は篋状工具、後者は貝殻腹縁により連続刺突を施す。885～887にみら



第2-60図 IXa類土器(1)

れるような口縁部直下に連続刺突を巡らせる特徴はVIa類、VIIIb類の一部にもみられる。884~886の口唇部には凹線のみではなく、円形の刺突や弧状の平行沈線が施される。

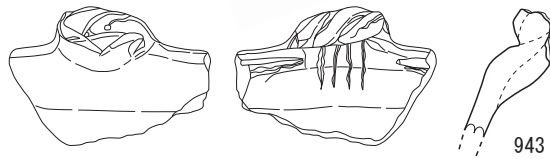
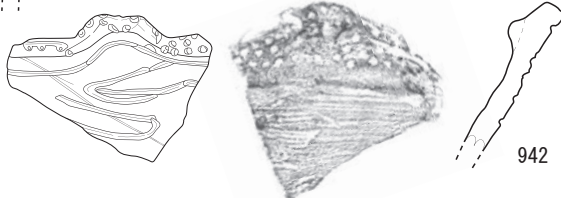
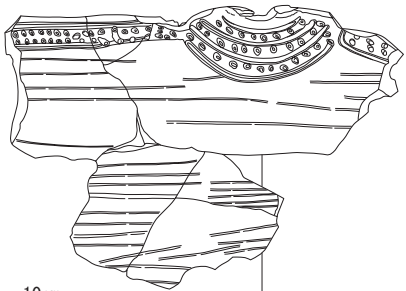
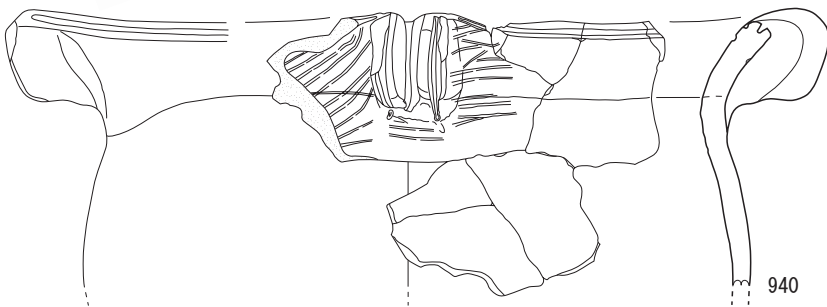
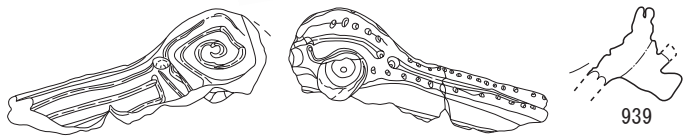
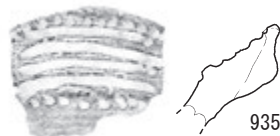
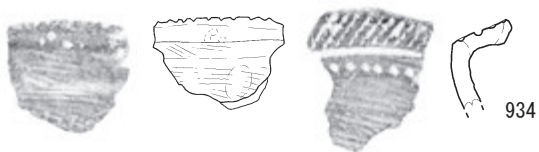
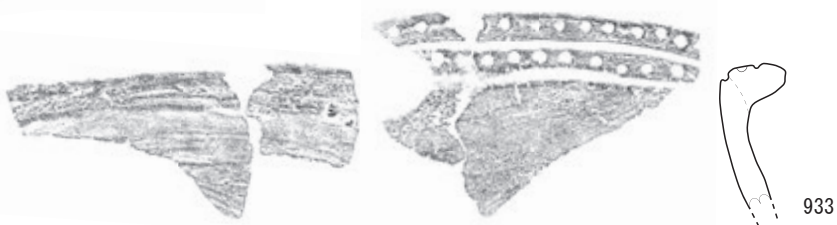
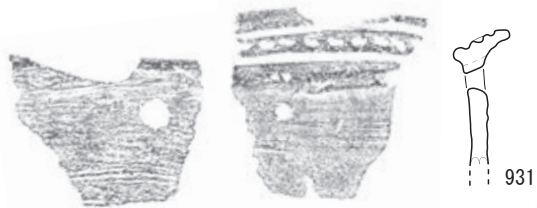
888~892は、崩れた印象の平行沈線文を描くものである。文様の沈線を部分的に波打たせる。口縁部の器壁は内面側にわずかに肥厚し、外反の度合いは低く、胴部はあまり張らない。

889・891は胴部の文様に曲線的なモチーフが確認できるものであるが、小片のため全容は不明である。VIIIa類と比較すると明瞭さには欠けるが、口縁部外面をわずかに肥厚させる。889の口唇部の沈線は、丸みを帯びた口縁部より少し下がった内面際に巡る。

893は細い平行沈線間に棒状工具による円形の連続刺突文を施したモチーフを描くものである。VIIIa類土器の750~752(第2-31図)には類似するモチーフが描かれる。

口縁部の器壁の厚みは均一で、形態としてはVIIIa類に類似する。胴部には斜位の平行沈線文が描かれる。894も頸部が大きくくびれて外反する。頸部のくびれた部分に平行沈線文を巡らせる特徴は893と類似する。胴部には斜位の平行沈線文を描く。

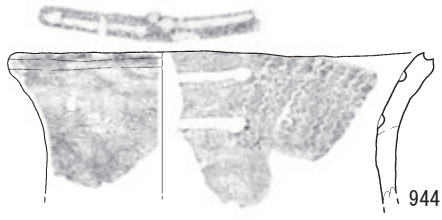
895~899は口唇部に凹線を巡らせるタイプのなかで、胴部が無文のものである。残存部の状況から、頸部の外反角度が小さく、胴部はあまり張らないものが多いと推測される。口縁端部をわずかに内湾させる傾向がみられる。IXa類にも類似する口縁部形態であるといえるが、比較すると口縁端部の稜は緩い。895は口縁部外面の直下に不明瞭だが浅い沈線を粗く巡らせる。外面には工具によるナデ調整が施される。897・898は粗いナデ調整で仕上げられる。898の外面にはハの字状の篋痕が確認できるが文様かは不明である。896は口唇部に平坦面を形成し、外傾させる。凹線をもたず、IXb類の範疇である



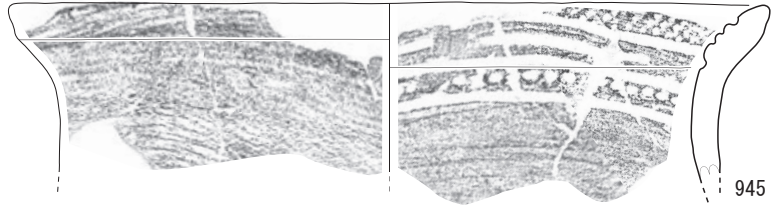
0 (1 : 4) 10cm
940

第2-61図 IXa類土器(2)

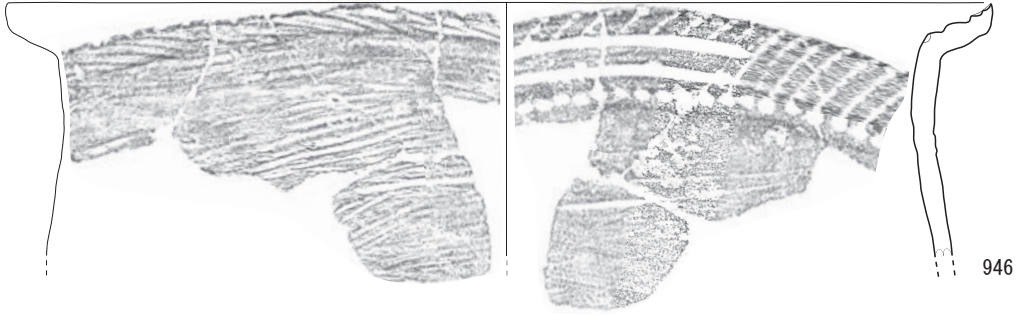
0 (1 : 3) 10cm



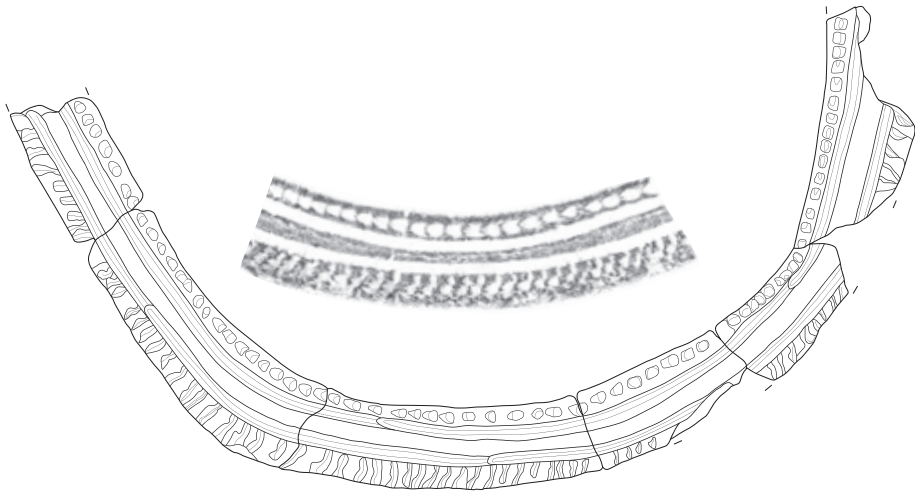
944



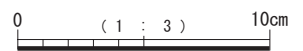
945



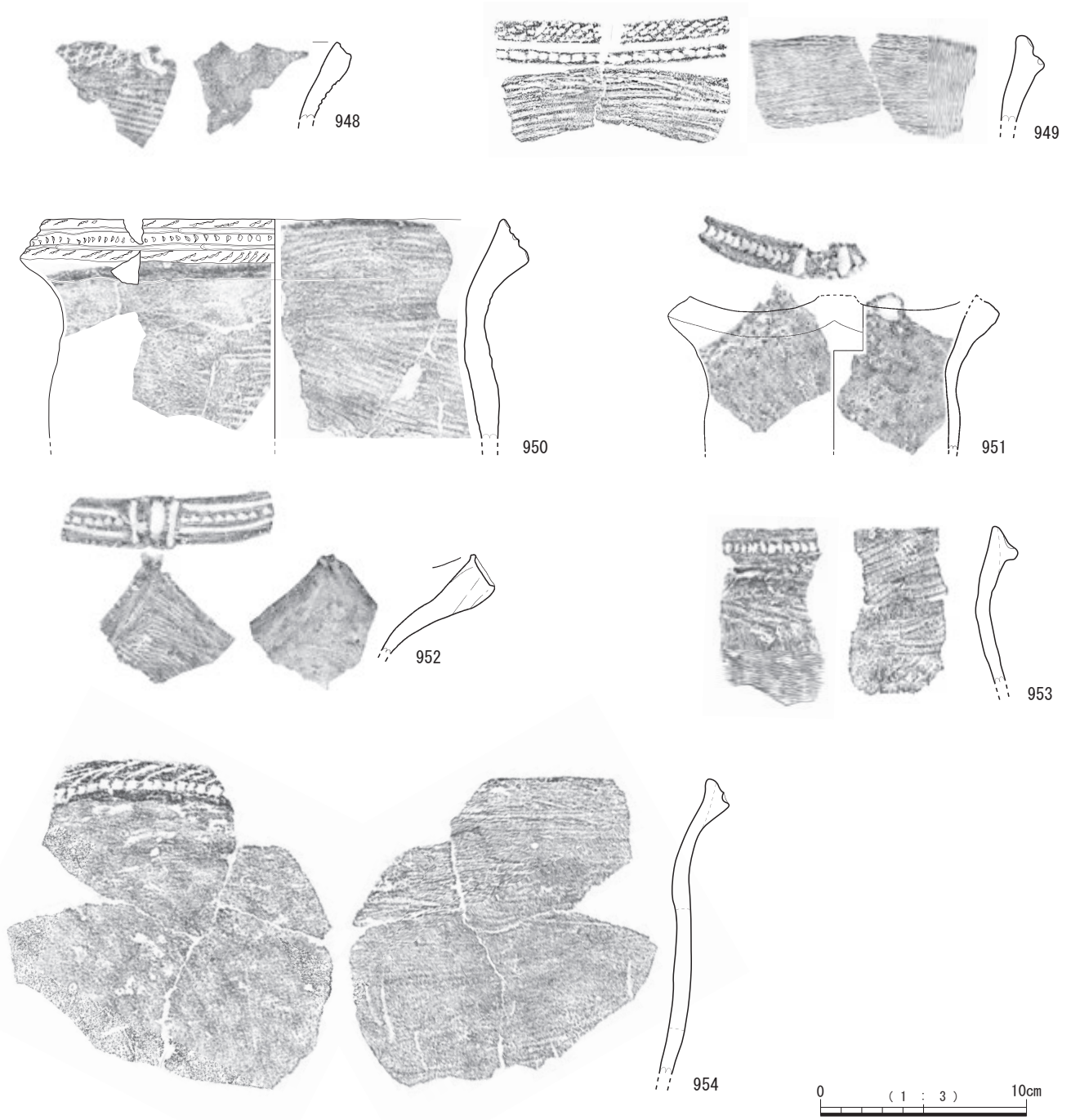
946



947



第2-62図 IXa類土器(3)



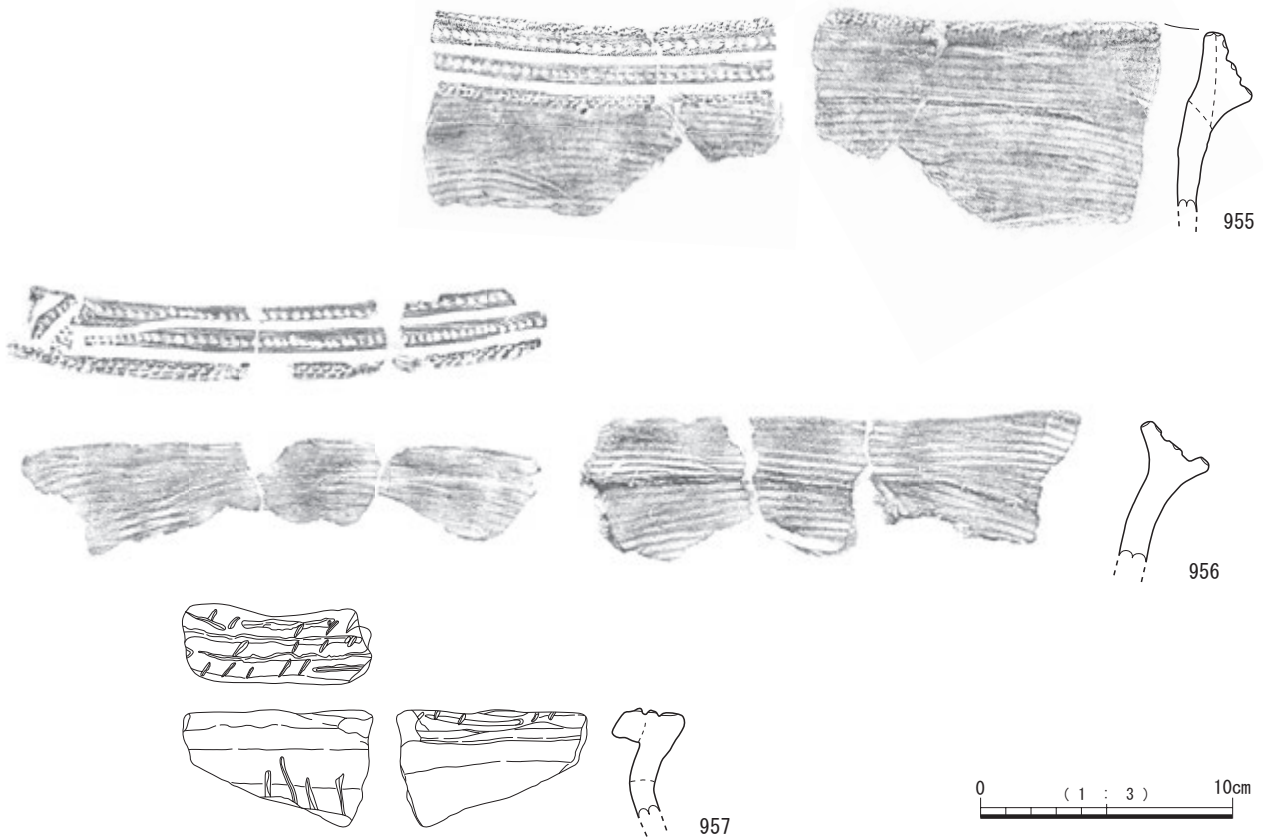
第2-63図 IXb類土器(1)

可能性もあるが、比較すると粗雑な仕上げであり、全体的な形態としてはVIIIc類に近いと判断し、ここに含めた。899は4か所に突起を有する緩い波状口縁を呈する。幅広の波頂部にも凹線が描かれる。内外面ともに貝殻条痕で調整される。焼けた破片と、焼けていない破片が接合しているため、破碎後に被熱している。

VIIIb, c類胴部 (第2-57・58図 900~911)

900~911はVIIIb類の胴部であると推測される。VIIIa類胴部と比較すると文様の密度が薄く横位に展開するパター

ンのものをここに含めた。901は器壁が非常に薄い。903~905は付着炭化物の年代測定の結果を得た資料(報告No.4)である。903の付着炭化物の¹⁴C年代は 4080 ± 30 yrBP 1 σ , 2 σ 暦年代範囲が2697-2567calBC (70.8%)で、904の外面上に付着した煤を年代測定した結果¹⁴C年代が 3950 ± 30 yrBP 1 σ , 2 σ 暦年代範囲が2498-2398calBC (59.2%)で、905の外面上に付着した煤を年代測定した結果¹⁴C年代が 4060 ± 30 yrBP 1 σ , 2 σ 暦年代範囲が2671-2554calBC (63.1%)である。小片のため確定的にVIII類とすることは難しかったが、文様のパターンからVIIIa類



第2-64図 IXb類土器(2)

に該当する可能性が高いと推測する。

900~908は胴部上位に文様帯が集約され、矩形・アーチ状・平行線状の文様が横位に展開される。907は明るい黄褐色の胎土で、白色粒と金色の雲母を特に多く含む特徴的な胎土である。搬入品の可能性も考えられる。908の外面に付着した煤を年代測定した結果(報告No.4)¹⁴C年代が $4050 \pm 30\text{yrBP}$ 1 σ , 2 σ 暦年代範囲が2634-2473calBC(91.7%)である。909~911は文様帯が胴部下位に及ぶものである。909はほぼ等間隔に円形刺突を施した破片で、外反すると推測される器形からここに含めたが、VI類の範疇に入る可能性も考えられる。911はやや太めの斜位の平行沈線を主体とし、曲線的なモチーフを描く。胴部が丸く張り出す器形であると推測される。

VIII類波頂部、装飾(第2-59図 912~919)

912~919はVIII類に該当すると考えられる波頂部装飾や、特殊な形態の土器片である。912~914のような橋状把手や、915・918のような穿孔をもつものも出土した。918は、穿孔部分の周りを内面側から打ち欠いて円形に成形する。916は深鉢の波頂部で、口唇部に凹線を巡らせるタイプであると推測される。口縁端部の稜は不明瞭で丸みを帯びる。917は調整の粗さから、穿孔を持つ筒状の把手として図化した。正面を上面に向けた注口部分である可能

性も考えられる。正面に曲線文、側面に短い平行沈線文が描かれる。919は丸みを帯びた深鉢の上胴部片であり、把手が剥離した痕跡が確認できる。外面には平行沈線による曲線文が描かれ、把手の付け根部分には貝殻腹縁刺突を数か所施す。赤みの強い胎土で内面には丁寧なミガキが施される。混和材の種類が少なく、粒子が細かな精製された胎土を使用しており、特殊用途が想定され、また搬入品の可能性も考えられる。

IX類

口縁部内面の上位、あるいは平坦面を作った口唇部に、平行沈線文、貝殻や篋状工具による連続刺突文、貝殻腹縁刺突文などの組み合わせによる文様帯を形成する。VIII類土器と比較すると文様のバリエーションが少ない。上面施文タイプ。平坦口縁と波状口縁とがある。胴部は無文が主流で、内外面に粗い貝殻条痕を施すものが多い。一部は口縁部外面にも文様を有する。口縁端部の形態は先細るものと、丸みを帯びるもの、面取りにより角張るものも出土する。口縁端部にまで口唇部の文様が及ぶものもみられる。口縁部の形態によりIXa類、IXb類に細分した。松山式に該当する一群である。

IXa類 (第2-60~62図 920~947)

口縁部の内側や、口唇部上面に文様帯をもつものうち、口唇部が内傾するもの。器面と文様帯との境目が緩く不明瞭なものや明瞭に角付けられるものが出土する。

920~929は口縁部内面の上位に文様帯を形成するものである。金色の雲母を含むものの比率が高い。920、921はわずかに外反する口縁部内面の内側に沈線を巡らせる。器壁は直線的に立ち上がる。Ⅷ類の口縁部内面際に凹線を巡らせるものと比較すると、その位置はさらに下がる。922~927は口縁部が短く外反し、外反した内面側に文様帯を形成する。内面の稜は緩く丸みを帯びる。922・923・926・927は口縁部外面にわずかな平坦面を形成する。930は口唇部や口縁部内外面に多重の連点文を横位に施す。巻貝を使用し、胴部にも浅く刺突する。928・929はともに小形の浅い鉢状の形態で、丸みのある口唇部を内径させ、文様帯を形成する。928は内外面が丁寧にナデて仕上げられ祭祀用の台付皿などの特殊な器種の可能性もある。

931~938は内傾する口唇部文様帯の幅がやや広くなり、その内面の稜が明瞭なものである。沈線の上下または平行沈線間に連点や貝殻腹縁刺突文を巡らせる傾向がみられる。934~936・938は口縁部の外面に平坦面を形成する。

939~942は波頂部で、口縁部の内面のみではなく外面にも文様を描く。939・940・943のように装飾をもつものも出土した。942の胎土は混和材の粒子が他と比較して細かく、金色の雲母の入らない特徴的なもので、薩摩半島で作られた可能性もある。外面の文様の特徴からはⅧ類の範疇である可能性もあるが、沈線と連点を組み合わせた口唇部の文様の特徴からここに含めた。943は大きく開く器形で、波頂部に細い粘土紐2本をねじり合わせた飾りを輪状にして貼り付ける。波頂部内面には貝殻腹縁刺突文を縦位に4条施す。口縁部内面の口唇部と胴部の境目の稜は緩い。金色の雲母が混じる。

944~947は口縁部内面の幅の広い文様帯をもつものである。このうち945~947の文様帯には、口縁部側から貝殻腹縁刺突文→平行沈線文→巻貝や篋状工具による連続刺突文を巡らせ、文様のパターンが共通する。口縁部外面に平坦面を形成する。944・945の口縁部は緩く外反し、屈曲部から上を文様帯とする。内面の稜は形成しない。946・947は口縁部を強く外側に屈曲させる。947の内面の稜は明瞭である。調整は944は内外面ともにナデ調整で、945・946は内面は丁寧にナデ、外面は貝殻条痕により調整される。947は内外面ともに貝殻条痕により調整される。

IXa類は胎土の色調に赤みが強い傾向がみられ、金色の雲母が多量に混じるものが多い。

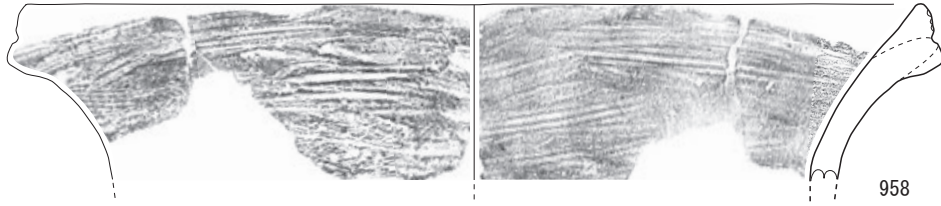
IXb類 (第2-63~66図 948~971)

口縁部内面に文様帯を有するものと口唇部に平坦面を形成し文様帯とするものなかで、平坦面が外傾するもの。IXa類と比較して、文様帯の幅が広いが、最大でも約4cm幅で、総じて細めである。口唇部の各稜が明瞭で断面が三角形のものが多い。口縁部は丸みを帯びるものが主流で、平坦面を作りそこに貝殻腹縁などを連続して刺突するものも少数出土した。内外面の調整は、貝殻条痕によるものが主流である。

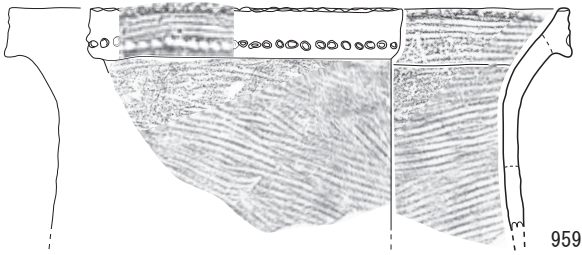
948~957は口唇部平坦面に描かれた文様帯の外傾する角度が小さく、より上面施文型であるといえるものである。948~954は文様帯の幅が狭い。948は口唇部に斜位の貝殻腹縁刺突文を少し押し引きながら密に施し、その後縦位の貝殻腹縁刺突文を規則的な間隔で施す。円形のモチーフの一部が残存する。949~954は文様の構成はIXa類に類似する。平行沈線間に連続刺突を施すもの(950・952)もみられ、また、連続刺突は半月状の形態で、篋状工具を使用したことが推測される。951・952は波頂部片で、ともに波頂部頂点あたりに数条の縦位の沈線を施す。波頂部は外側に大きく張り出す。955・956は文様帯の幅が広いものである。口径50cmを超える大型と推測される。955と956は胎土・文様・調整の特徴が一致するため同一個体の可能性が高い。口唇部は平たく形成され、貝殻腹縁刺突文を施す。平行沈線間には巻貝による連続刺突を施す。角閃石を多く含み、赤みの強い胎土である。957は口縁部の内面側に粘土を貼り付けることにより、口唇部文様帯を形成する。口縁部の断面形は逆「L」字状の形態である。沈線と刺突を巡らせる文様の特徴からここに含めた。胴部外面にも縦位の沈線が数条確認できる。

958~970は口唇部平坦面の外傾する角度が大きく、文様帯がやや横向きに形成されるものである。頸部で大きく外反しながら開く傾向がみられ、胴部はあまり張り出さない。この器形のもの、混和材に金色の雲母を含むもの(966、967、970)が少なく、角閃石が目立つ胎土を使用するものが多い。

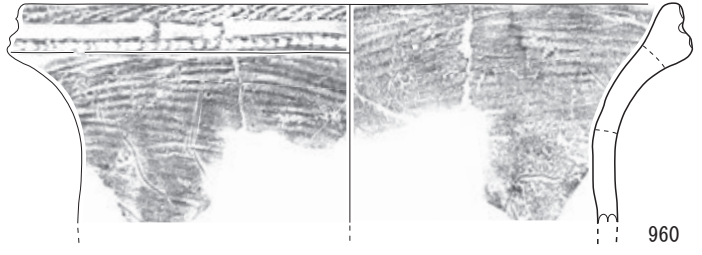
959と963の口縁部には平坦面を形成し、貝殻腹縁刺突を密に施す。961・963は他と比較すると粗い沈線が巡る。964は刺突輪郭がシャープである。半管状の工具による逆「C」の字状の連続刺突を施す。口縁部内側の内面にも平坦面を作り小さな円形の連続刺突を施す。胎土の色調が明るく、混和材が細かく端正なつくりであり搬入品の可能性も考えられる。また、965は波頂部片で、波頂部は外側に大きく張り出す。波頂部外面には粘土の貼り付け痕が明瞭に残る。962の外面に付着した煤を年代測定した結果(報告No.4)¹⁴C年代が3910±30yrBP 1σ、2σ暦年代範囲が2469~2337calBC(86.7%)、965の外面に付着した煤を年代測定した結果(報告No.4)¹⁴C年代



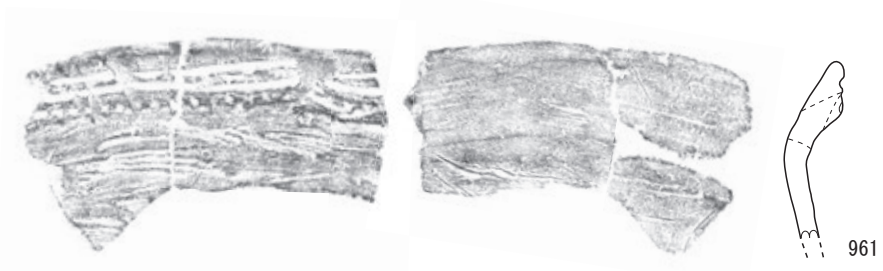
958



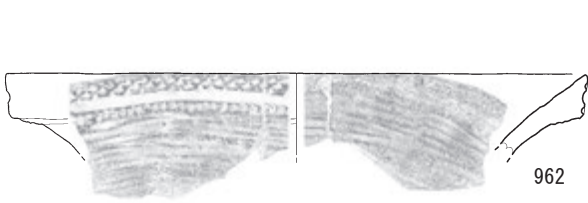
959



960



961

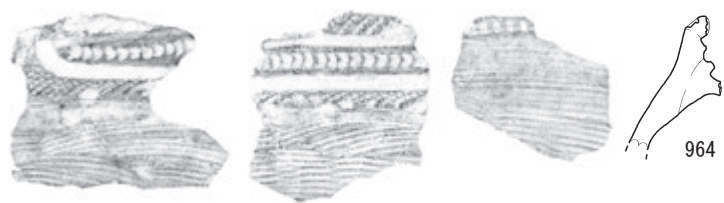


962

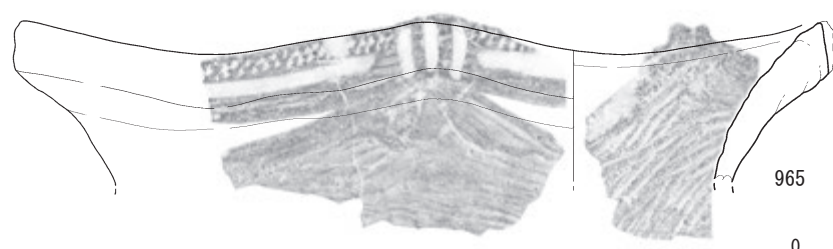


963

年代測定 2469-2337 cal BC

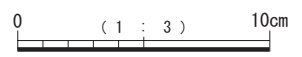


964

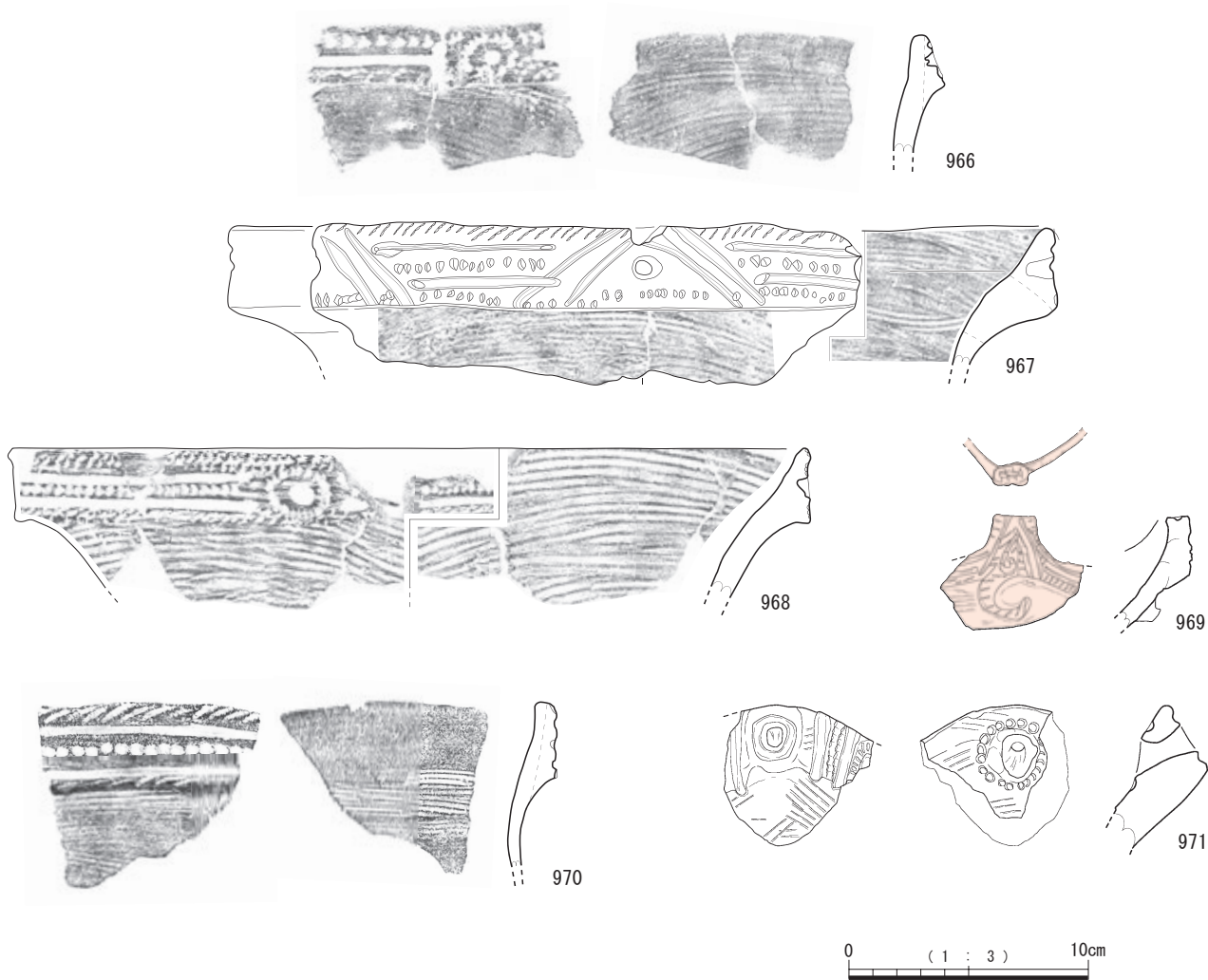


965

年代測定 2151-2029 cal BC



第2-65図 IXb類土器(3)



第2-66図 IXb類土器(4)

が 3710 ± 30 yrBP 1σ , 2σ 暦年代範囲が2151-2029calBC (79.7%)である。

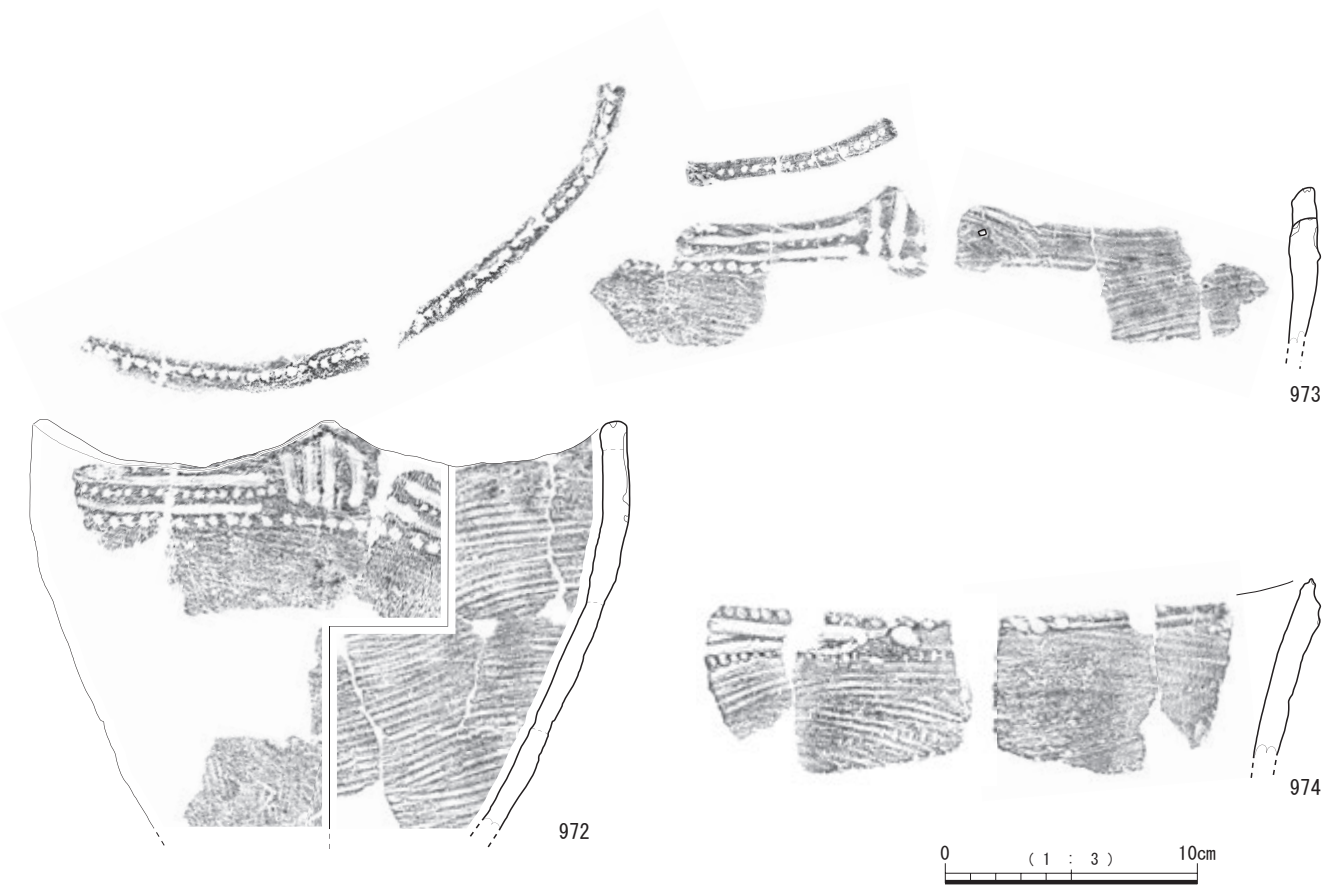
966~970は平坦口縁である。967~970は文様帯の幅が広い。966~968は文様帯のなかに円形の凹点を中心としたモチーフを描く。970は器壁が薄く。今回報告する包含層のIX類のなかでも口縁部の文様帯が最も横向きに形成されるものである。市来式の範疇である可能性も考えられる。969・971は波頂部装飾部分の破片で、文様構成や口唇部文様帯が外傾するタイプと判断しここに含めた。969は黒色を呈し、外面には赤色顔料が付着する。波頂部の平坦面の中心を巻貝により刺突し、浅い刻目を数条施す。文様は緻密に描かれ貝殻腹縁刺突を施す。内外面と断面に煤が付着する。大きく開く器形と推測され、台付皿などの特殊な形態であることや、祭祀用などの特殊な用途の遺物の可能性も考えられる。精緻なつくりで搬入品の可能性が高い。971は深鉢の装飾部分の小片である。孔を有し内面側は孔の周りを小さな円形刺突で囲む。

IX類 (第2-67図 972~974)

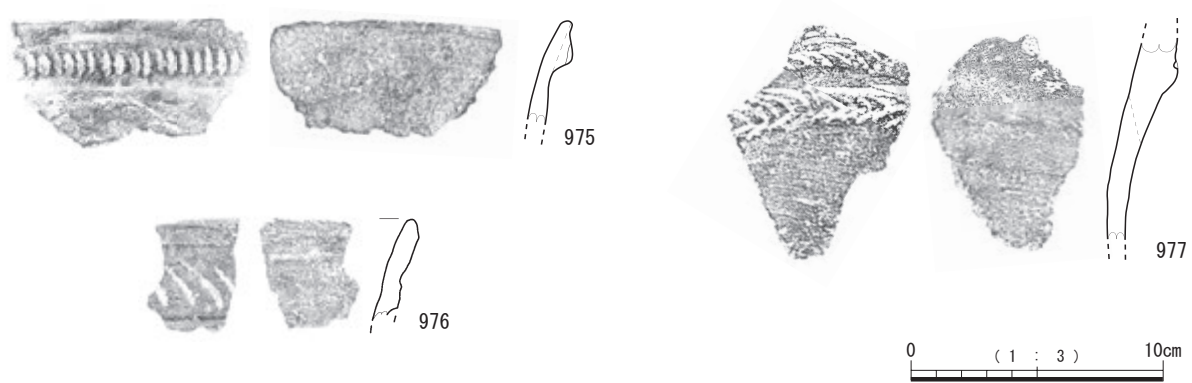
972~974は、口唇部や口縁部に肥厚帯をつくらず、口縁部~胴部の器壁はほぼ均一な厚みである。3点ともに波状口縁である。胴部最上位に集約され、口唇部にも施文する。972・973は胎土の特徴や文様の構成が同じで、同一個体の可能性も捨てきれないが、972は23.4cm、973は28.0cmと推定口径に差があり、口唇部に施される連点の大きさも違うため別個体の可能性もある。973の波頂部裏面には径約3mmの角張った孔が深さ2mm程度で施される。974は口唇部にごく細い沈線と刻目を施す。沈線文と連続刺突文で文様帯を構成することからIX類土器に併存すると捉えてここに含める。波頂部外面に縦位の沈線を施すことや、円形の凹点をもつことからIX類土器との関連が窺える。a類、b類への細分は難しかった。

X類 (第2-68図 975~977)

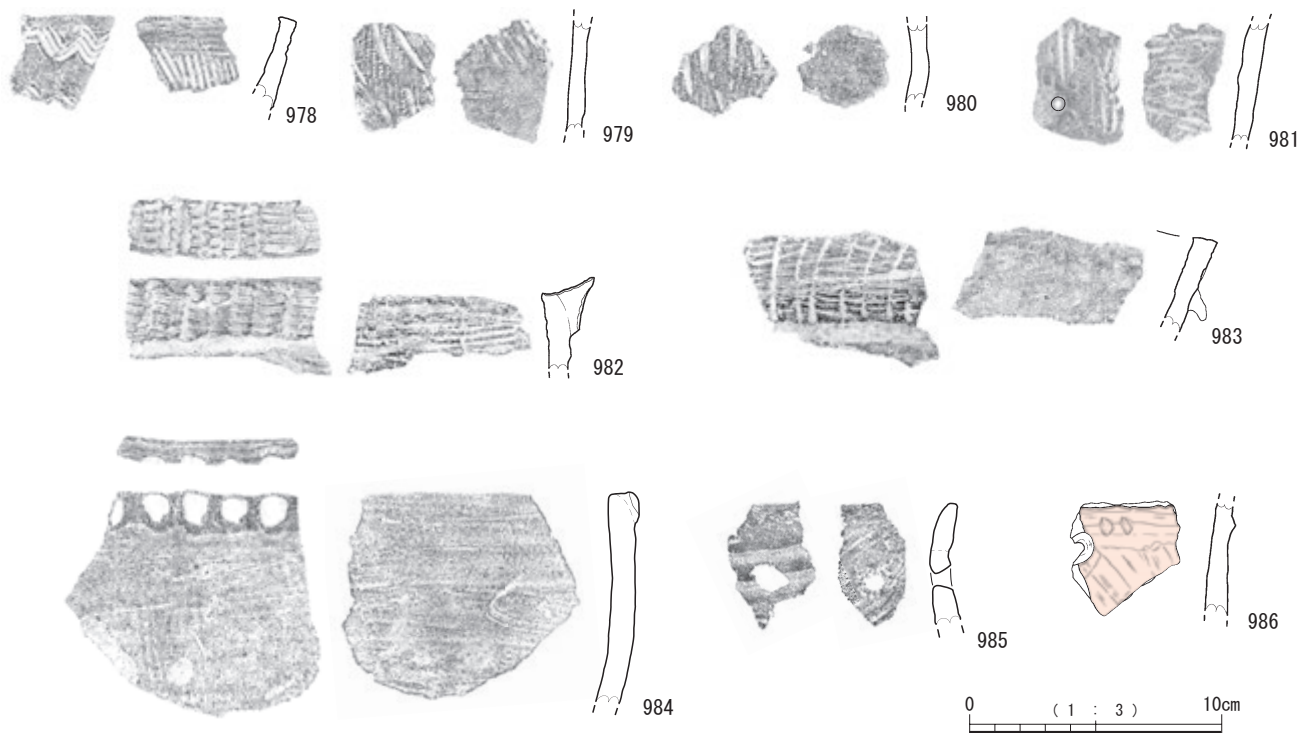
口縁部と頸部との境目に緩い逆「く」の字状の段を形成する。段の直上あるいは上下に貝殻腹縁刺突文を巡らせるものである。976・977は段の角度はごく緩く、丸尾



第2-67图 IX類土器



第2-68图 X類土器



第2-69図 XI類土器

式の範疇であると考えられる。975は976・977と比較すると外側に大きく隆起しており、屈曲角度も大きい。より古い段階（市来式）の特徴も併せもつがここに含めた。

XI類（第2-69図 978～986）

IV類～X類への分類は難しいが、形態的な特徴や胎土から縄文時代後期前半に該当する可能性をもつ遺物であると判断したもの。

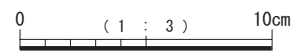
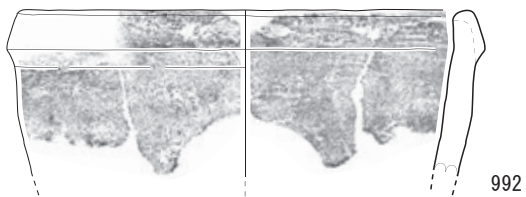
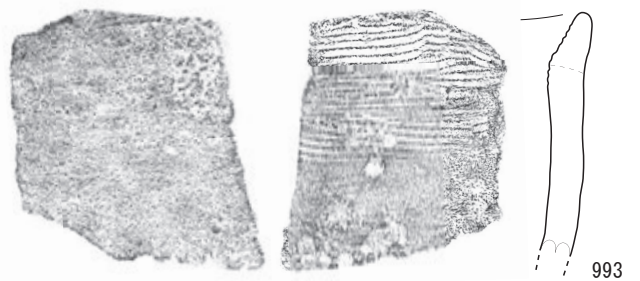
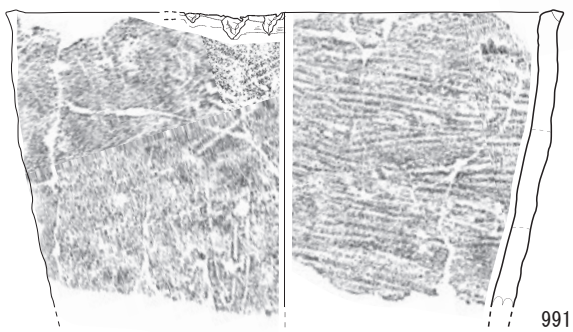
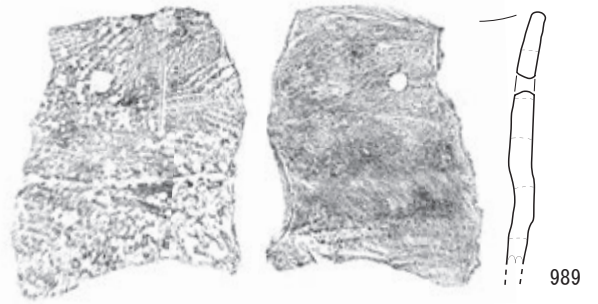
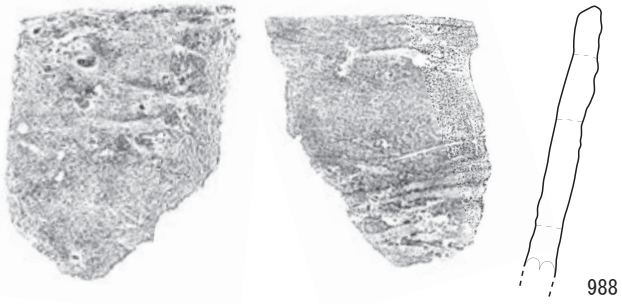
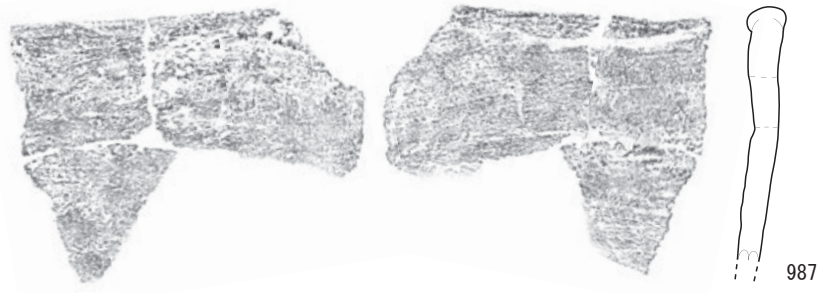
978は、直線的に立ち上がる口縁部片で、口縁端部を内面側に少し張り出させる。口唇部を平たく形成し明瞭に角付ける。外面上位に、波状の櫛描文を描く。内面は胴部上位に下→上の粗い条痕を施し、口縁部の付近は横ナデにより調整する。胎土の色調は明るく混和材は砂状に入る。979・980は同一個体の可能性が高い。C-15区の近世の溝の埋土に流れ込んだ状況で出土した。979は頸部片で、口縁部にむかって外反すると推測される。980は下胴部片で、底部に向かって丸みを帯びながらすぼまると推測される。器面には縄文を回転させ、その後で縦に短沈線を規則的に描く。沈線の施文具は巻貝の可能性もある。他の時期の遺物の可能性もあるためVIIa類（磨消縄文系）とは区別しここに含める。981は分類は難しいが胎土や調整の特徴により、縄文時代後期前半の土器片と捉えた。982・983は分類できたものとは形態の異なる突帯をもつものである。982は突帯の先端を尖らせ、外面と上面には貝殻腹縁を押し引く。983は口縁部外面の器面に直接縦位の貝殻腹縁刺突文を連続して施し、そ

の下に下垂する突帯を貼り付ける。胎土の色調が暗く少し紫がかかる特徴的なもので、搬入品の可能性も考えられる。VIIb類（擬似縄文系）とは区別しここに含める。984は口縁部最上位に薄い突帯を貼り付け大ぶりの円形刺突を巡らせる。口唇部に食い込ませるように口縁端部外面の際を刻む。焼成が良く明るい色調のため、第3分冊に報告する突帯文期の遺物の可能性もあるが、刻目の位置からVI類（宮之迫式系）の口唇を連続して押圧するタイプに該当する可能性を捨てきれずここに含めた。985・986は穿孔をもつ。985は薄く、口縁部が短く外反する。頸部に平行な凹線を施す。外面と穿孔部の内側に煤が付着する。986には外面に赤色顔料が付着する。蛍光X線分析の結果、鉄を多く含有し、ベンガラの可能性はある。

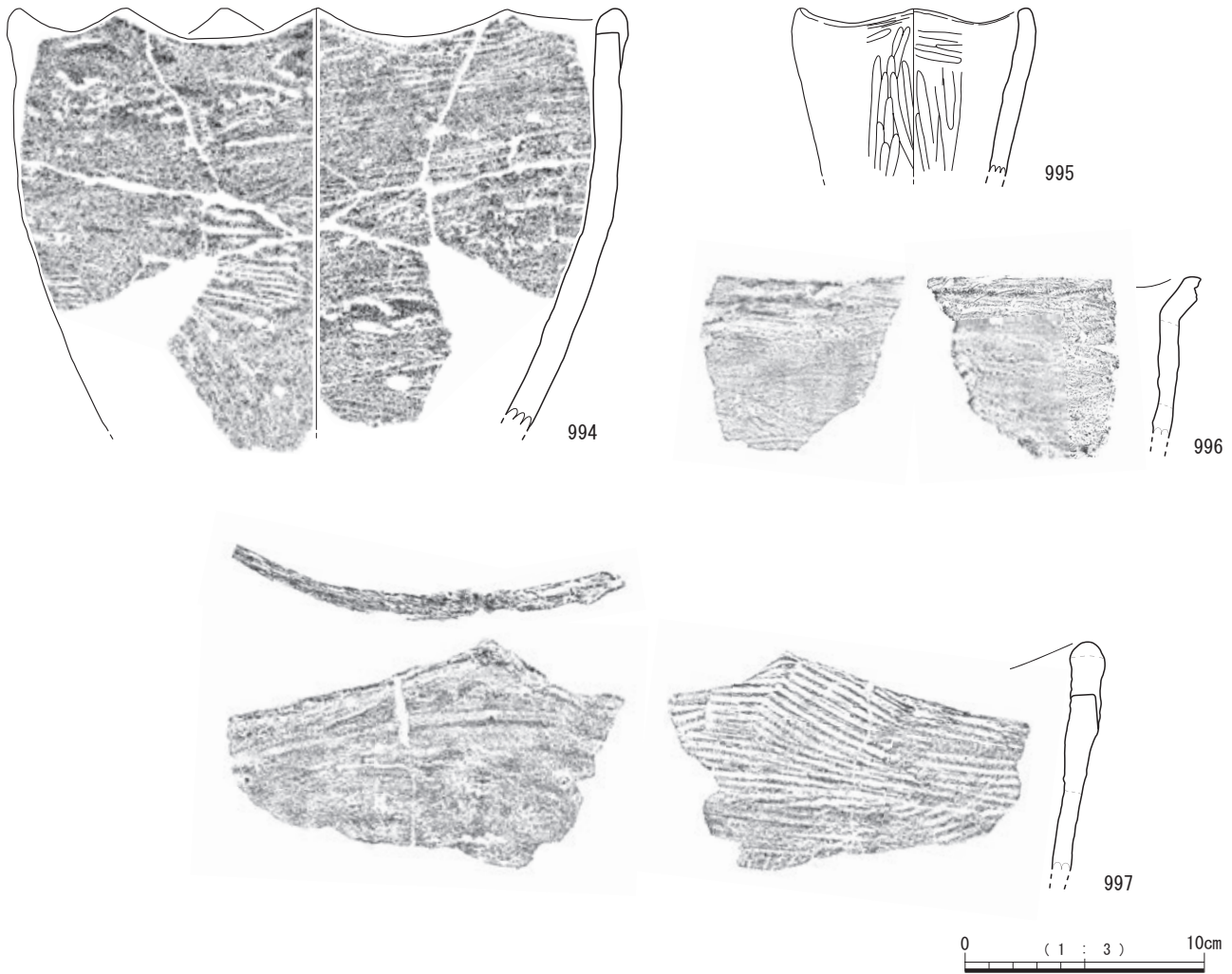
無文土器（第2-70～72図 987～1001）

口縁部～胴部に文様をもたないもの。平坦口縁・波状口縁ともに出土した。口縁部の形態は内湾、直口、外反と様々である。有文のものと同様に口縁部や口唇部を肥厚させる形態のものも出土した。粗いナデ調整か貝殻条痕により調整され、指頭痕の凹凸が残るものも多く、総じて粗雑なつくりである。帰属時期を判断することが難しいものを含むことを前置きする。

987～989, 993は緩い波状口縁であると推測できるものである。内外面は貝殻条痕後粗いナデ調整で仕上げる。989の孔は内外面から施される。外面は摩滅が著しいが貝殻条痕後にナデ調整を施したことが観察できる。胎土



第2-70図 縄文時代後期の無文土器(1)



第2-71図 縄文時代後期の無文土器(2)

の色調は暗く、やや硬質で灰色の小角礫を多く含み、後期前半のものとは違いがみられることから他の時期の遺物の可能性も考えられる。

990~992は平坦口縁のものうち口縁部が内湾するものである。990は器壁がやや外傾しながら立ち上がる。内面の貝殻条痕は斜格子状に施される。早期末~前期初頭の条痕系土器の可能性もある。988は外面に布目痕が付く可能性があり、内面はミガキ様のナデ調整である。粗製ではあるが焼成も良く胎土の色調が明るい。縄文時代晩期の遺物の可能性もある。991は口縁部がわずかに残存し、口縁部最上位にごく小さな山形の突帯を貼り付け、貝殻腹縁による深い刻目を入れる。そのほかは無文で、つくりの粗さからここに含めた。992は口縁部外面を肥厚させる。Ⅷa類のような口縁部の形態である。

994~997は明瞭に波状口縁とわかるものである。994・995・997は口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。波頂部の器壁にはわずかに厚みをもたせ、小さな山形に成形する。残存部の状況から大型の994には8か所、小型の995には4か所の波頂部をつくと推測される。995

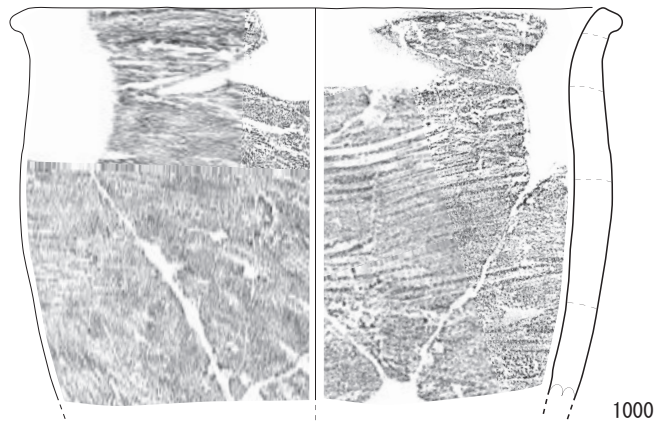
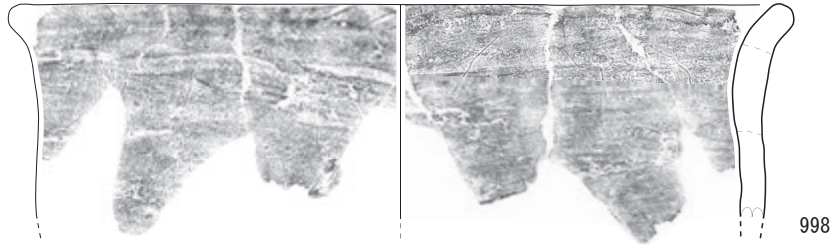
は内外面に丁寧にミガキを施し、外面上位には煤が薄く付着する。祭祀などの特殊な用途の遺物の可能性もある。996は波頂部を欠損する。口縁部外面をわずかに肥厚させる。肥厚帯の下位には粘土の貼り付け痕が残る粗雑なつくりである。赤みの強い胎土を使用し、金色の雲母を多く含む。

998~1000は頸部で緩いくびれを形成し、口縁部が外傾するものである。998・1000は器壁が厚く、口縁部は外反しながら開き、短い。1000は口縁端部のみ肥厚する。999は口縁部がやや長く、口縁端部でわずかに内湾する。998は内外面を工具によりナデて仕上げ、999、1000は貝殻条痕を施す。

1001は頸部~下胴部片で、穿孔は外面から施される。

特殊な底部・脚(第2-73図 1002~1018)

底部片や脚のなかで、特殊な形態のものをまとめた。1002~1009は深鉢や台付皿等の杯部あるいは脚や底部片である。1003は扁平な皿状の形態であると推測される。口縁部外面を肥厚させ、大きな凹みを形成しそのなかに



第2-72図 縄文時代後期の無文土器(3)

横位の沈線を描く。口唇部に凹線を巡らせ、棒状あるいは把手状の装飾をもつと推測される。1002は厚みのある底部片で、底面の剥離痕から6か所程度柱状の脚か突起をもつと推測される。1004は底面に脚部の剥離痕と突起による装飾が確認できる。突起の中央には深い凹みを形成する。1006はレンズ状の形態の底部で、残存部の状況から4か所の脚が付くことが想定される。脚の付け根には弧状の沈線を描く。赤色顔料が明瞭に付着する。分析の結果ベンガラの可能性もある。1009は、器壁が丸みを帯びながら立ち上がる鉢状の形態であると考えられる。底面には3か所の剥離痕が確認できる。内面には粗い貝殻条痕を施し粘土の痕が多く残る粗いつくりである。1003と1004は文様の特徴からⅧ類の範疇の可能性が考えられる。

1005～1010は接地面近くに文様をもつ深鉢の底部片である。Ⅴ類の時期に多くみられる形態である。1005は接地面近くに指頭による凹点を連続させる。底面には白い粉状の付着物が付き、まだら状の圧痕が確認できる。鯨の頸椎骨の圧痕の可能性もある。1010、1011は細い沈線による平行沈線文を描く。底部は丁寧なナデ仕上げである。

1007～1018は透かしを有する脚である。1007・1008はドーナツ状の台座にやや細めの棒状の脚を貼り付けるものである。つくりがやや粗い。1007には平行沈線文が描かれる。1012は貝殻腹縁刺突を横位に施す。埋設土器1号からはⅧc類土器と考えられる深鉢の底部に四か所の脚の剥離痕が確認できるもの(527)が出土しており、同じような形態の器種の脚部片であると推測される。1016～1018は沈線や刺突による装飾を施し、器面も丁寧に調整された精緻なつくりである。1017には赤色顔料が明瞭に付着し、蛍光X線分析の結果、ベンガラの可能性もある。また、白色の物質も所々に付着するが、成分は不明である。脚はⅧ類～Ⅸ類の時期の遺物と考えられる。なかでも、1014～1018の文様の特徴はⅨ類に近い。

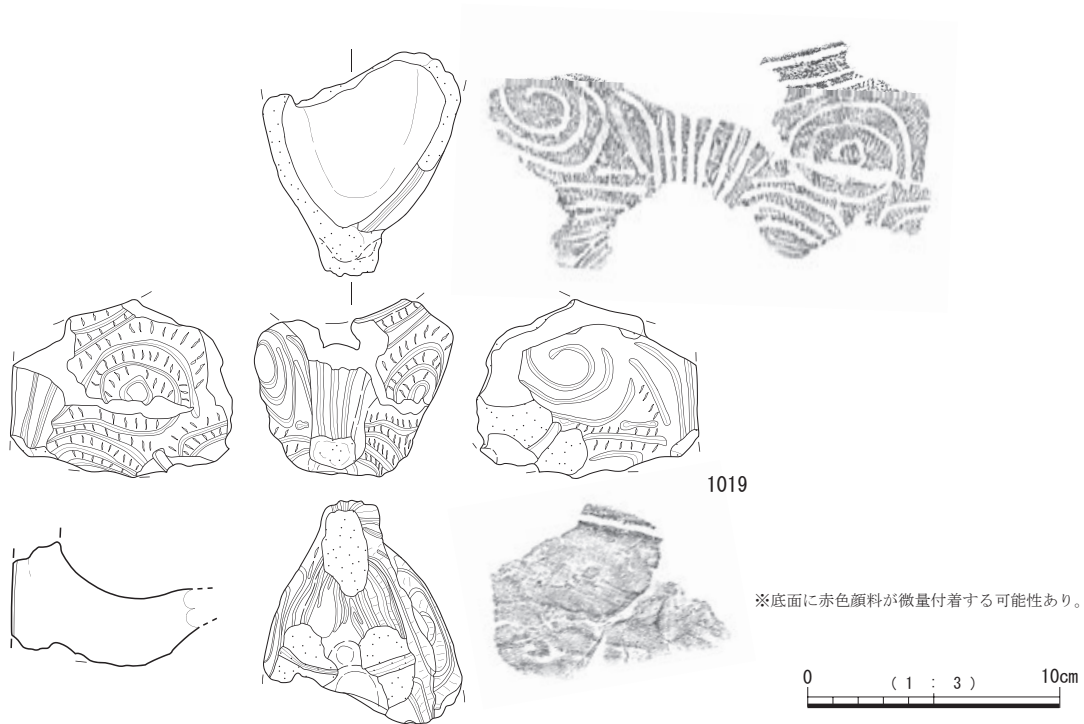
特殊な器種(第2-74図 1019)

1019は上面からみると湾曲しながら先端がすぼまり、残存部のみをみると、舟あるいは鳥の嘴や猪などの獣の鼻頭と似た形態の土器である。底面には剥離痕が確認できるため、脚または装飾が付き、その付根に孔径5mmほどの孔を貫通させると推測される。文様は渦巻文を主体とし、その間に緻密な貝殻による文様を充填させる。ヘナタリを回転させた可能性も考えられる。口唇部には凹線を施す。文様としては、Ⅶb類土器、Ⅷc類土器の特徴を併せもつ。また、同心円状のモチーフからは、小池原下層式などの磨消縄文系の土器との関連も考えられる。右側面の擬似縄文は明瞭に確認できるが、左側面はていねいにナデ消されている。胎土は青みがかかった明るい黄褐色で、断面は灰色を呈する。混和材は石英と角閃石を中心とし、白雲母も少量含む。混和材の粒子は細かく量も少ない。精良な胎土を使用する。搬入品の可能性が高い。また、底部は被熱により黒ずみ、内面も黒色を呈する。祭祀などの特殊な用途に使用されたことも窺える。底面にごく少量の赤色顔料が付着している可能性もある。

※スクリーントーン部は剥離面を示す。



第2-73図 特殊な底部・脚



上面



右側面



北側から見た出土状況



底面



左側面

第2-74図 特殊器種および写真

底部（第2-76～83図 1020～1106）

1020～1106は底部片である。出土エリアは先に報告した縄文時代後期前半の土器と同様に、包含層の土器と同様に3～17区に集中する。分布の状況と、胎土や形態そして底面に残る圧痕や調整の技法などから縄文時代後期前半の土器の底部であると考えられる。形態は接地面近くでややくびれ、胴部が大きく開きながら立ち上がるものが多い傾向にある。遺構内や包含層から出土した完形の土器の形態から鑑みてⅥ～Ⅷ類に該当する底部片が多いと推測する。

1020～1045は底面に網代痕を明瞭に残すものである。大きさの規格は様々で、約6～13cmの範囲に入る底径のものがほとんどである。1028・1029・1031・1033のように底面中心部を円形に欠くものも出土し、これは胴部器壁と一体化させて輪状に成形した中に、円盤状の粘土別塊を足して底面を作ったことによる。網代痕のついた円盤状の底部片も多く出土し、その一部を報告している（第2-94図など）。網代の編み方は1本ずつを垂直に交差させた籠目編み（1024～1040, 1045）、2本飛ばしの籠目編み（1042）、矢羽根編み（1037～1044）等様々である。1043は籠目編みと矢羽根編みを組み合わせる。また、1039のように細い蔓状のものを編んだ圧痕が残るものも出土している。1043には網代の継ぎ目をナデ消した痕跡がみられる。

1045の底面からはクロゴキブリの卵鞘の圧痕が検出、同定された。この種が、縄文時代後期前半の本遺跡で生息したことを示す資料である。1045の形態は接地面近く

でやや強くくびれ、胴部は外側に大きく開くと推測される。胎土は、金色の雲母や白色粒が多く混じりⅧ類やⅨ類に類似したものが多い。第Ⅸ章に分析の結果を報告する。

1046～1071は底面の網代痕をナデて仕上げたものである。これらは底径が10cm以下のものが多く、やや小形であることが推測される。1049～1061は底面の一部をナデ消す。網代痕の凹凸は滑らかになり、1020～1045ほど判然とししない。1046～1071はほぼ全面を丁寧にナデる。成形時に付いたと考えられる網代の凹凸が残るものも多い。

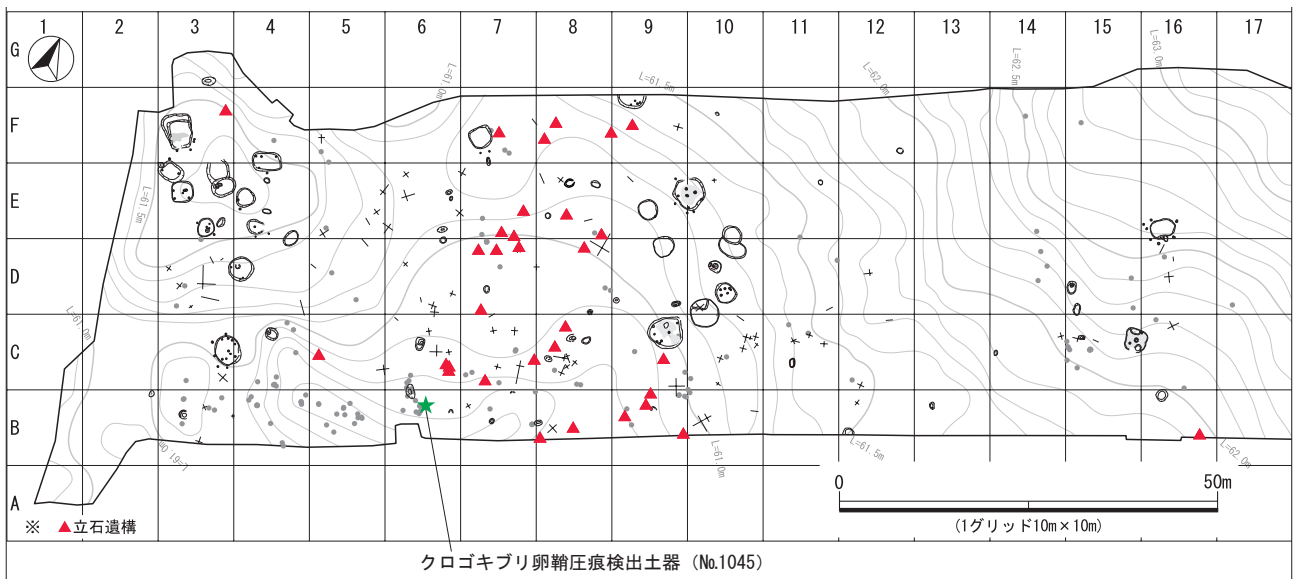
1072～1075は底面に中心から円形に編む振り編みの圧痕がつくものである。

1076～1078は底面に葉脈痕が付くものである。本遺跡で確認できたものは小形の傾向がみられる。

1079～1106は上げ底あるいは高台を有するものである。底面をナデて仕上げるものがほとんどだが、成形時に付いたと考えられる網代痕の凹凸がわずかに残るものも多い。1079～1085は明瞭な上げ底を呈し、底面をナデて調整する。1083のように指でナデた痕が残るものや、1085のように貝殻条痕を施すものが出土する。1082は胴部下位に平行沈線文が確認できるためⅧ類の範疇であると考えられる。

1086～1090は高台を有するもののうち、底面との境目がやや不明瞭なものである。

1091～1106は底面と高台の境目が明瞭に角付けられる。高台は約1cm程の高さのものが主流だが、1094・1097のように1.5cmを超えるものも出土する。



第2-75図 底部片分布図



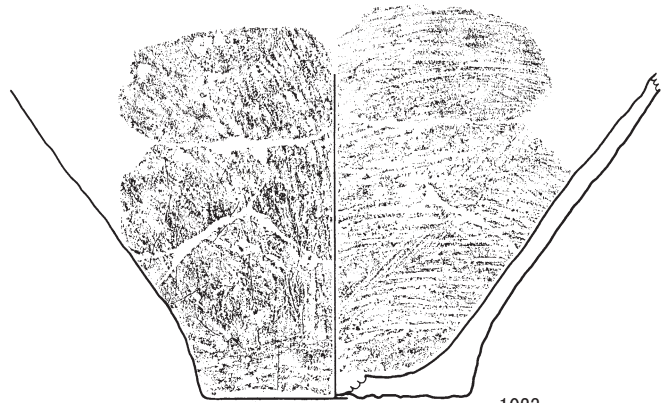
1020



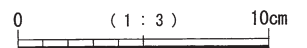
1021



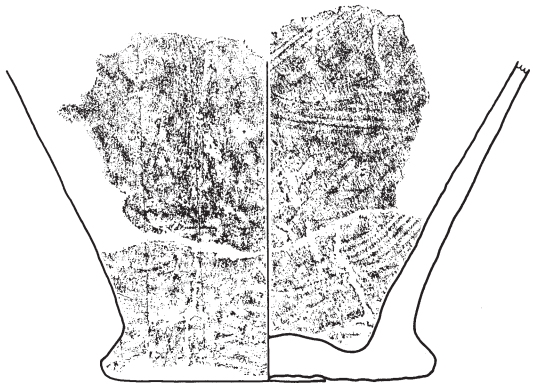
1022



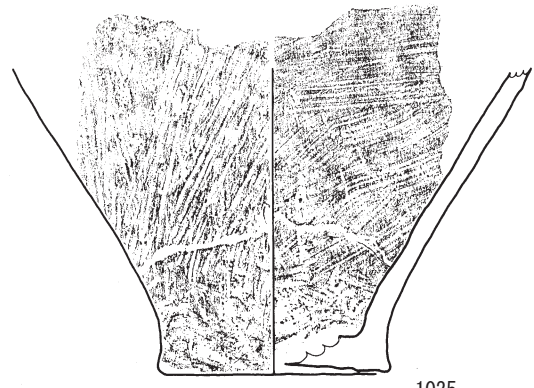
1023



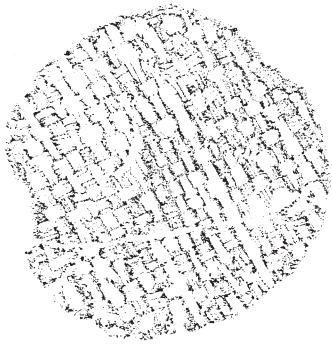
第2-76図 後期前半の底部(1)



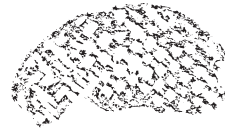
1024



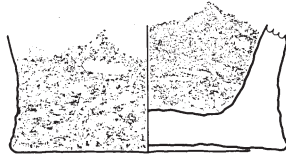
1025



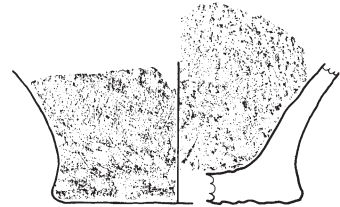
1026



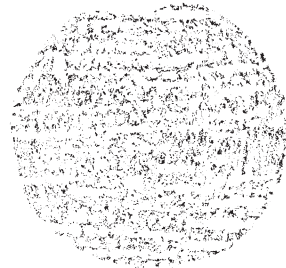
1027



1028



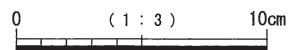
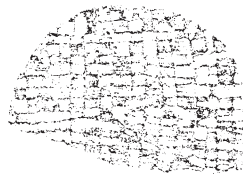
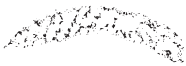
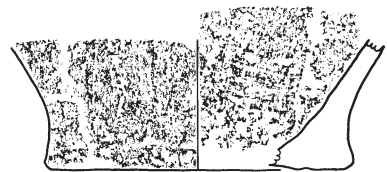
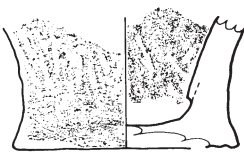
1029



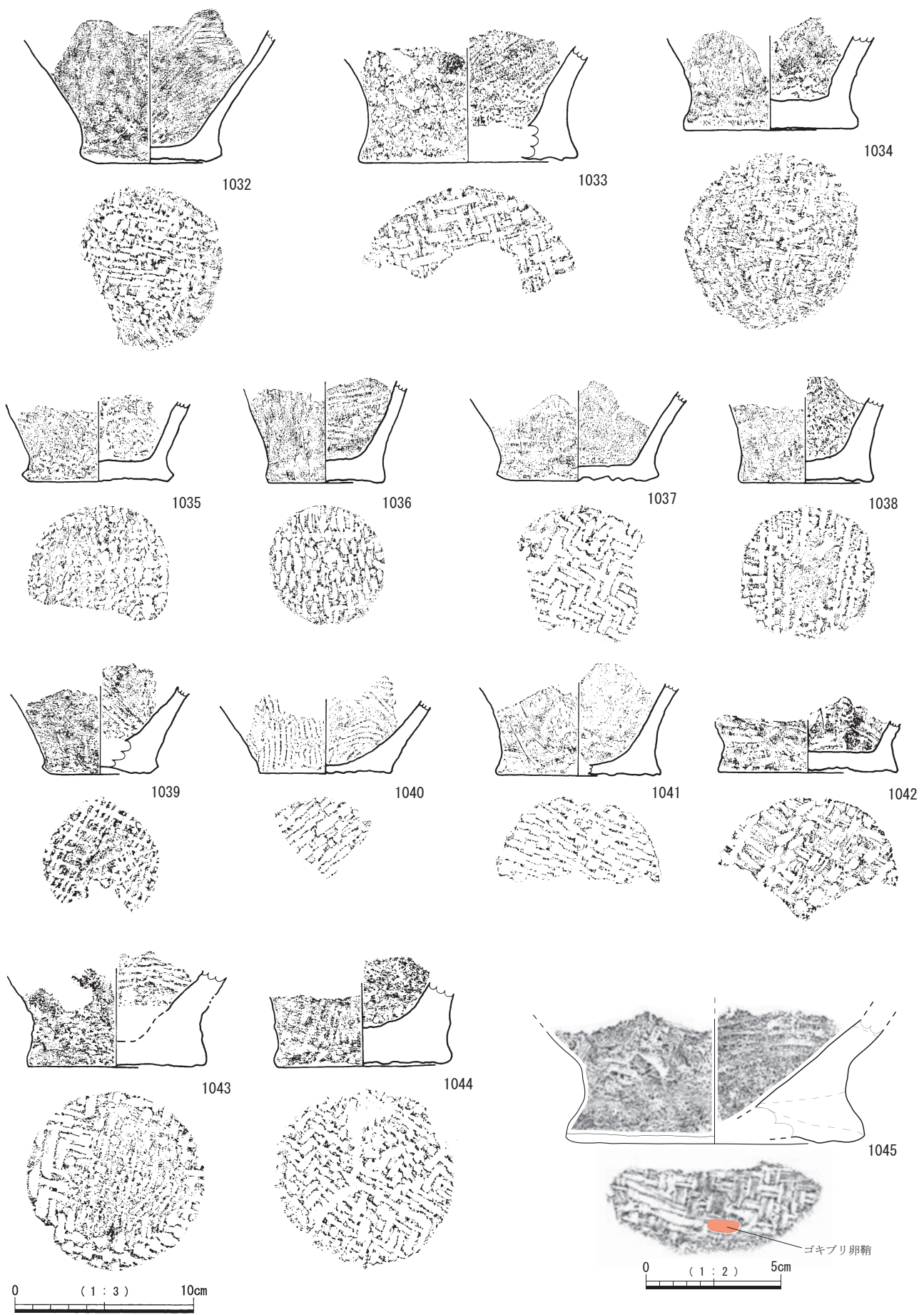
1030



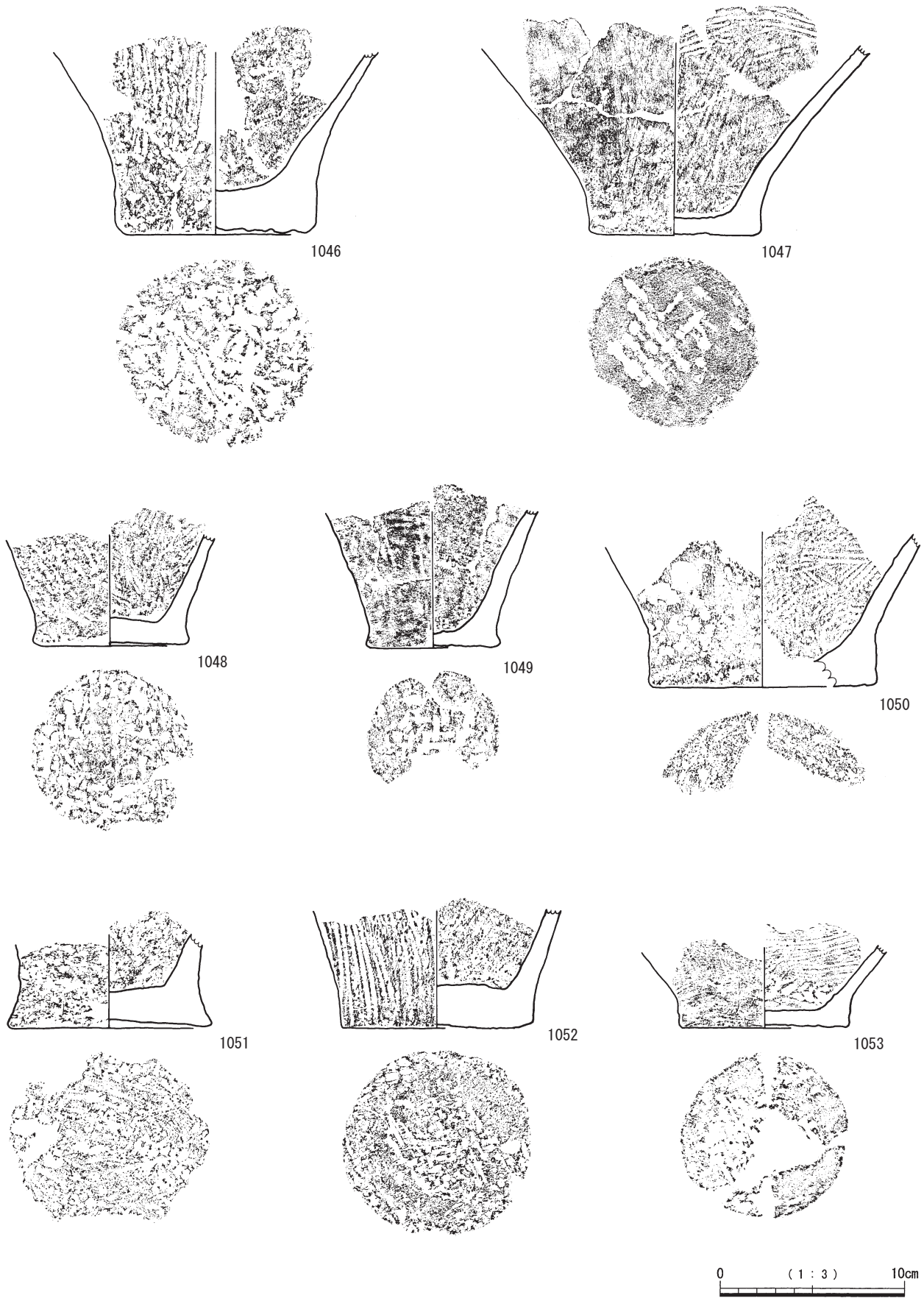
1031



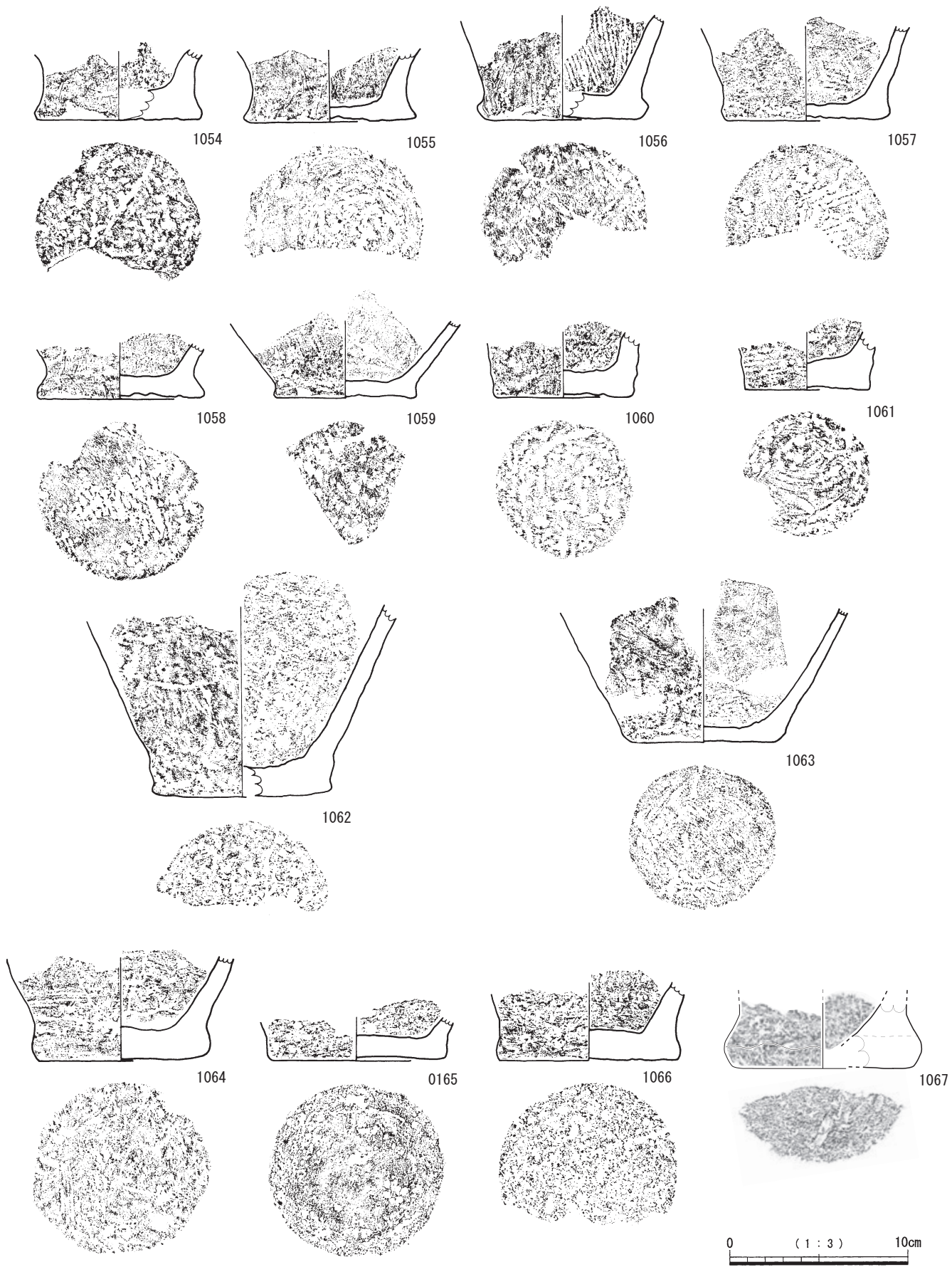
第2-77図 後期前半の底部(2)



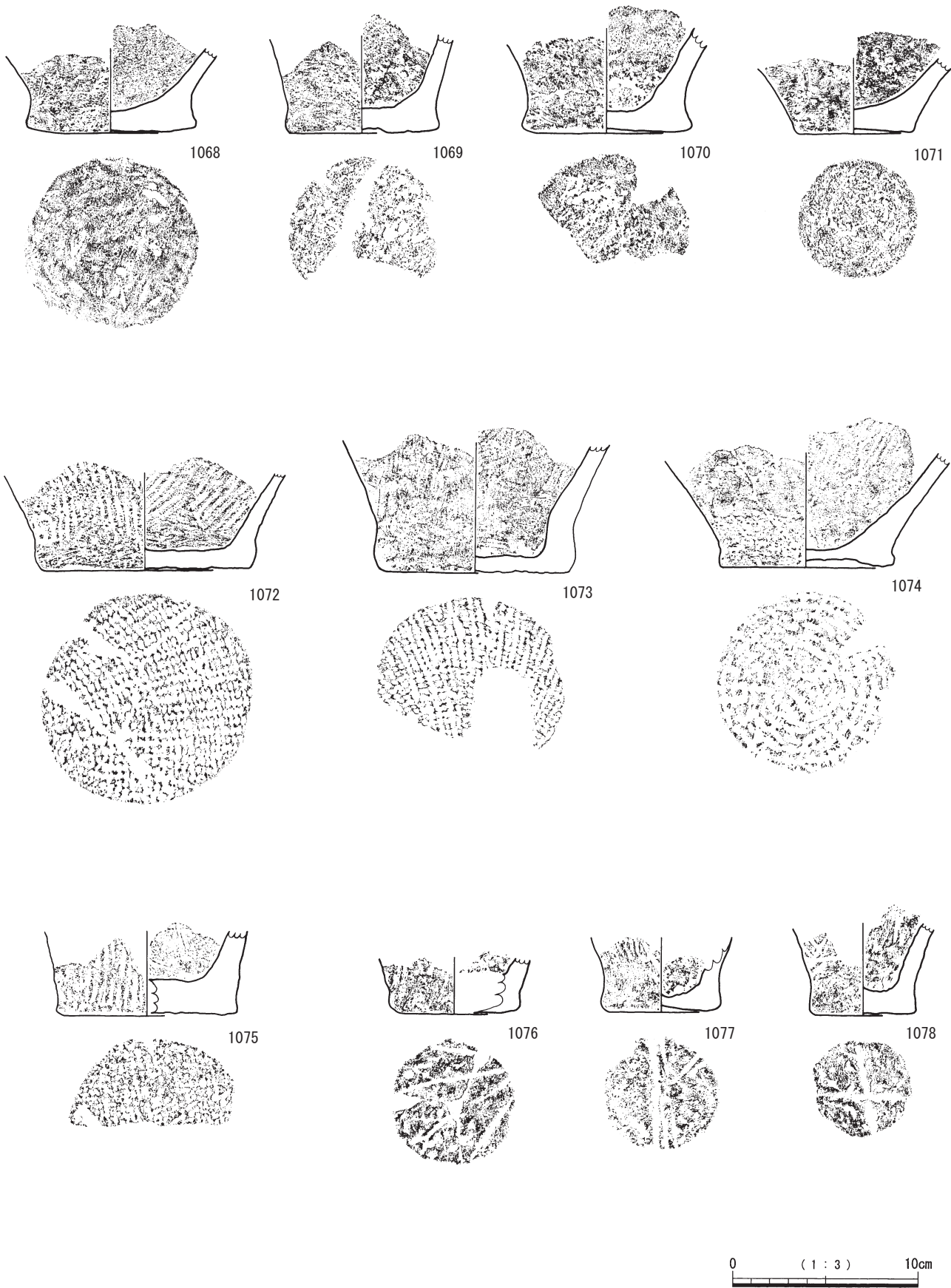
第2-78図 後期前半の底部(3)



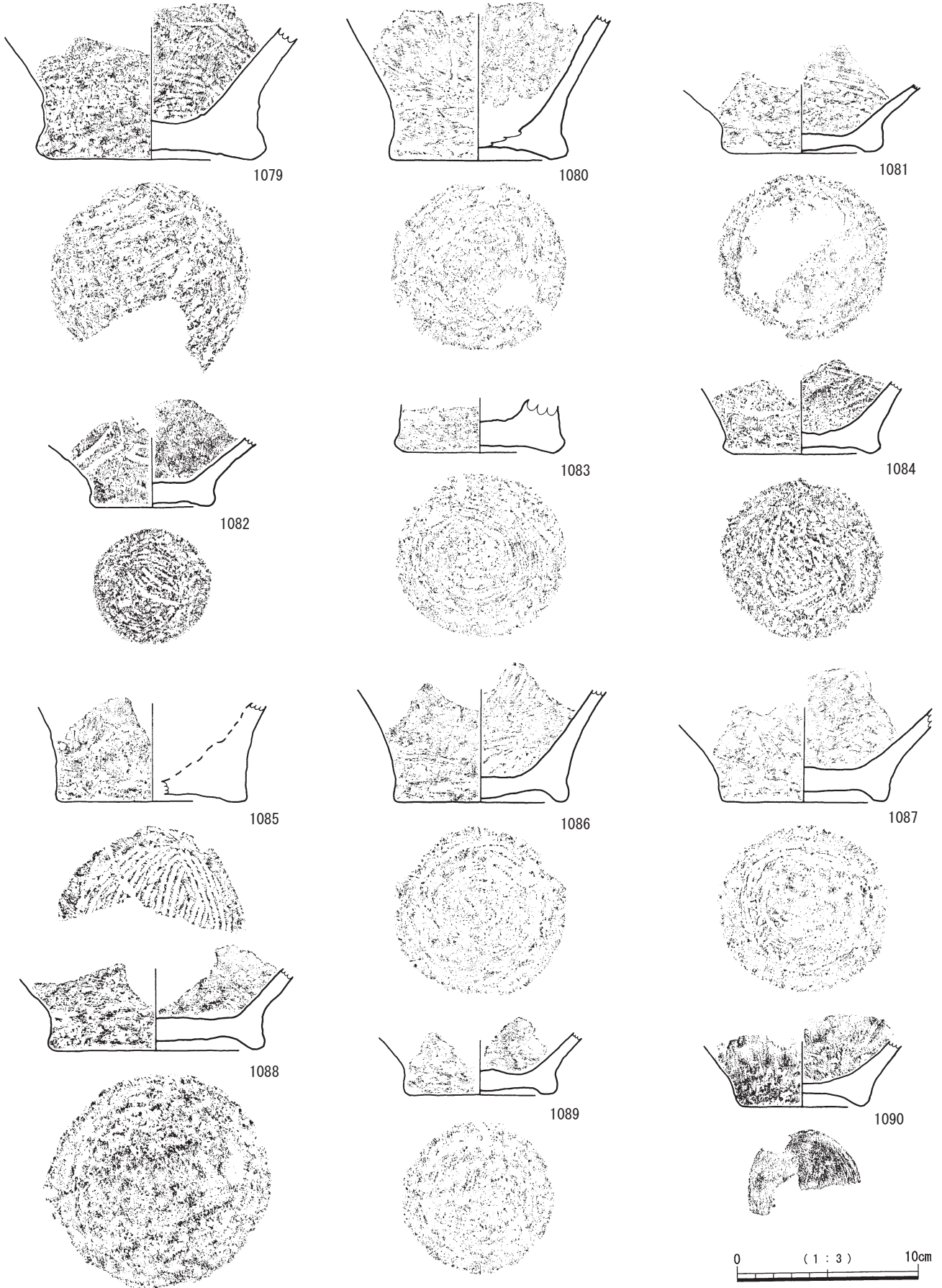
第2-79図 後期前半の底部(4)



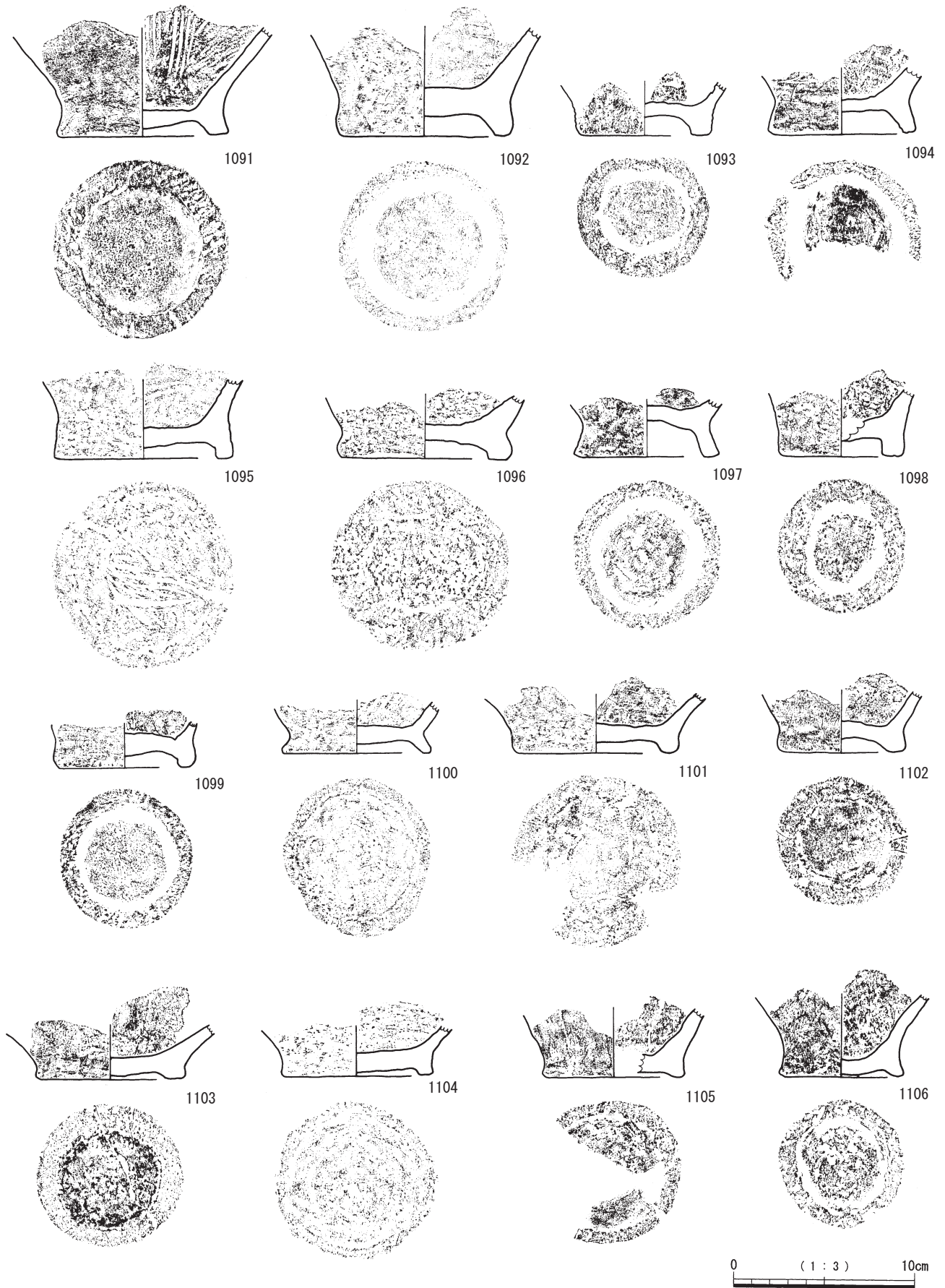
第2-80図 後期前半の底部 (5)



第2-81図 後期前半の底部 (6)



第2-82図 後期前半の底部 (7)



第2-83図 後期前半の底部(8)

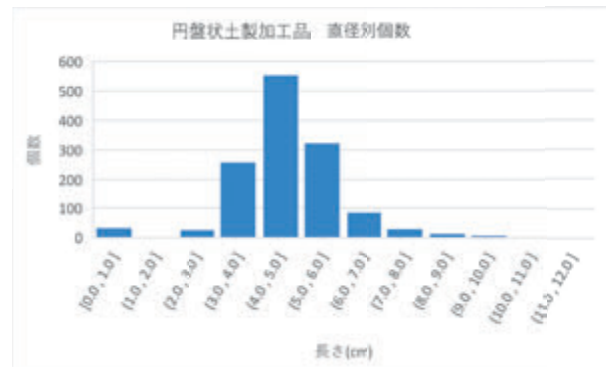
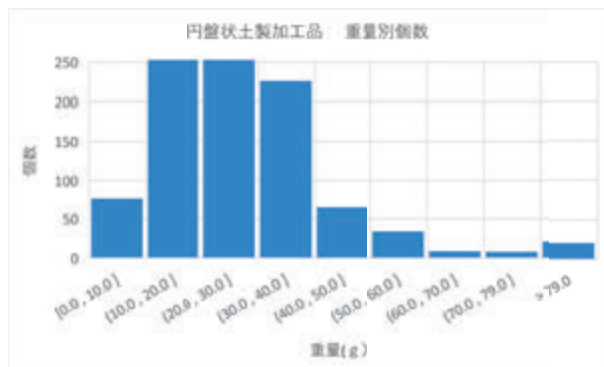
円盤状土製加工品（第2-86～96図 1107～1365）

本遺跡の包含層からは円盤状土製加工品（通称：メンコ）が多量に出土した。本報告ではうち1323点を無作為に抽出し、遺跡における分布状況（第2-85図）を調べ、重量、直径を計測した（第2-84図）。有文のものについては、分類が可能なものは観察表に示した。後期前半の土器と分布エリアが重なり、有文のものからはV～Ⅸ類すべての時期に製作されたことが窺える。また、そのうち258点について以下の分類を遺物の図の下に示して掲載する。

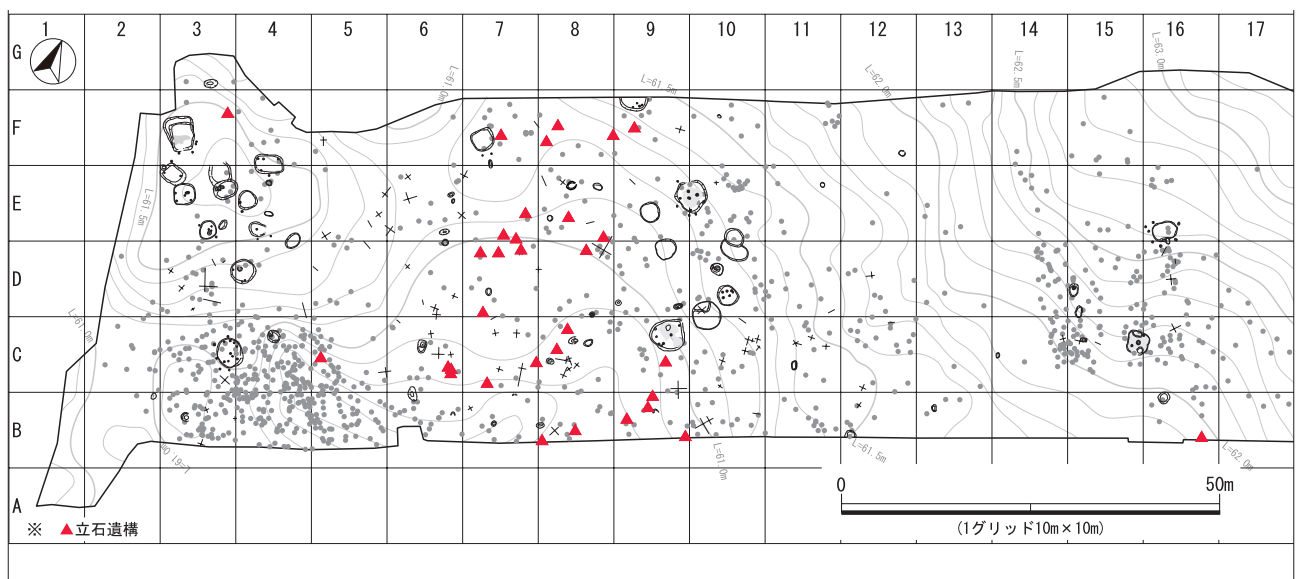
なお、Ⅰ類の口縁部片は必ずしも円盤状に丸みを帯びる形態ではないが、縁辺の一部を意図的に打ち搔いたり、研磨痕がみられて土製品であると判断したものについてここに含めた。また、Ⅲ類とした底部片のなかには、底部の項で示した底面を成形した際の粘土別塊の可能性をもつものもみられるが、口縁部片と同様に人為的な加工痕がみられるものをここに含めた。

【包含層出土の円盤状土製加工品の分類について】

部位等	文様	成形技法など	図版番号
Ⅰ類 口縁部片	A類 有文	a 縁辺を打ち搔いて成形	第2-86図
		b 縁辺の一部を研磨して成形	第2-86図
		c 全周を研磨して成形	第2-86図
	B類 無文	a 縁辺を打ち搔いて成形	第2-86図
		b 縁辺の一部を研磨して成形	第2-86図
		c 全周を研磨して成形	第2-86図
Ⅱ類 胴部片	A類 有文	a 縁辺を打ち搔いて成形	第2-87・88図
		b 縁辺の一部を研磨して成形	第2-88～91図
		c 全周を研磨して成形	第2-91・92図
	B類 無文	a 縁辺を打ち搔いて成形	第2-93図
		b 縁辺の一部を研磨して成形	第2-93図
		c 全周を研磨して成形	第2-93図
Ⅲ類 底部片		a 縁辺を打ち搔いて成形	第2-94図
		b 縁辺の一部を研磨して成形	第2-94図
		c 全周を研磨して成形	第2-94図
Ⅳ類 欠損品		加工された後に欠損するもの	第2-95図
Ⅴ類 未製品		加工の痕跡が確認できる土器片	第2-96図



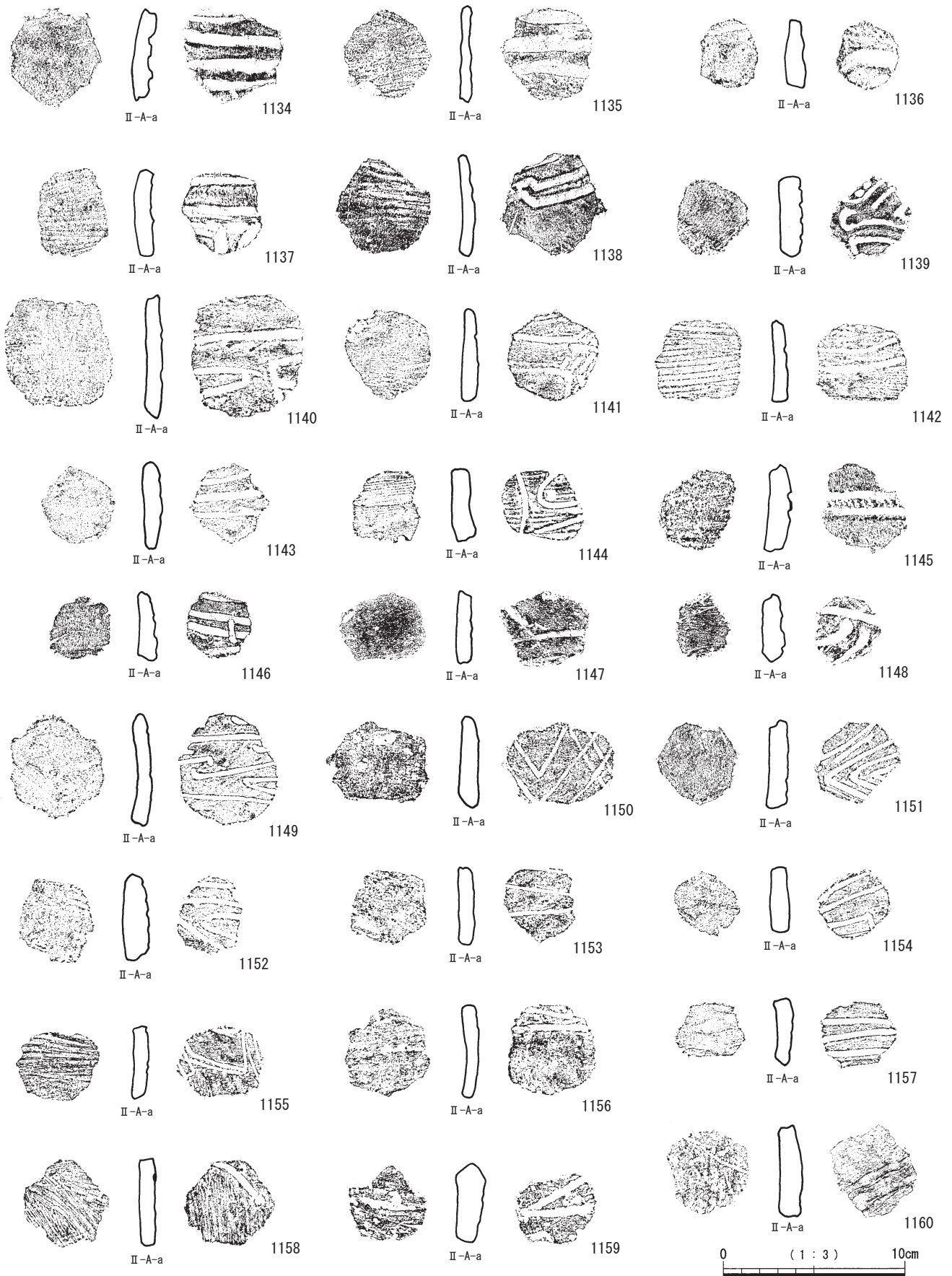
第2-84図 円盤状土製加工品重量，直径計測値



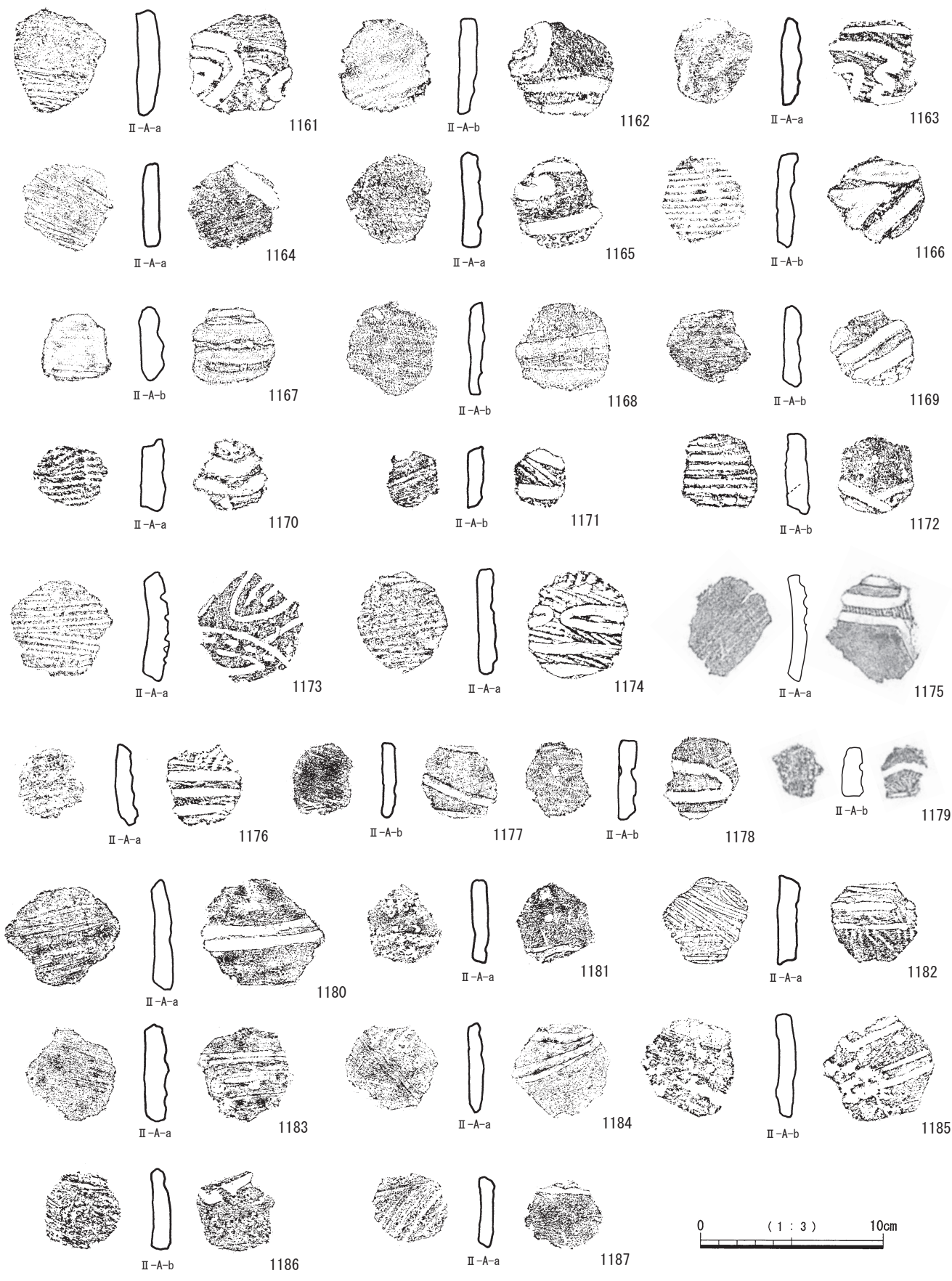
第2-85図 円盤状土製加工品分布図



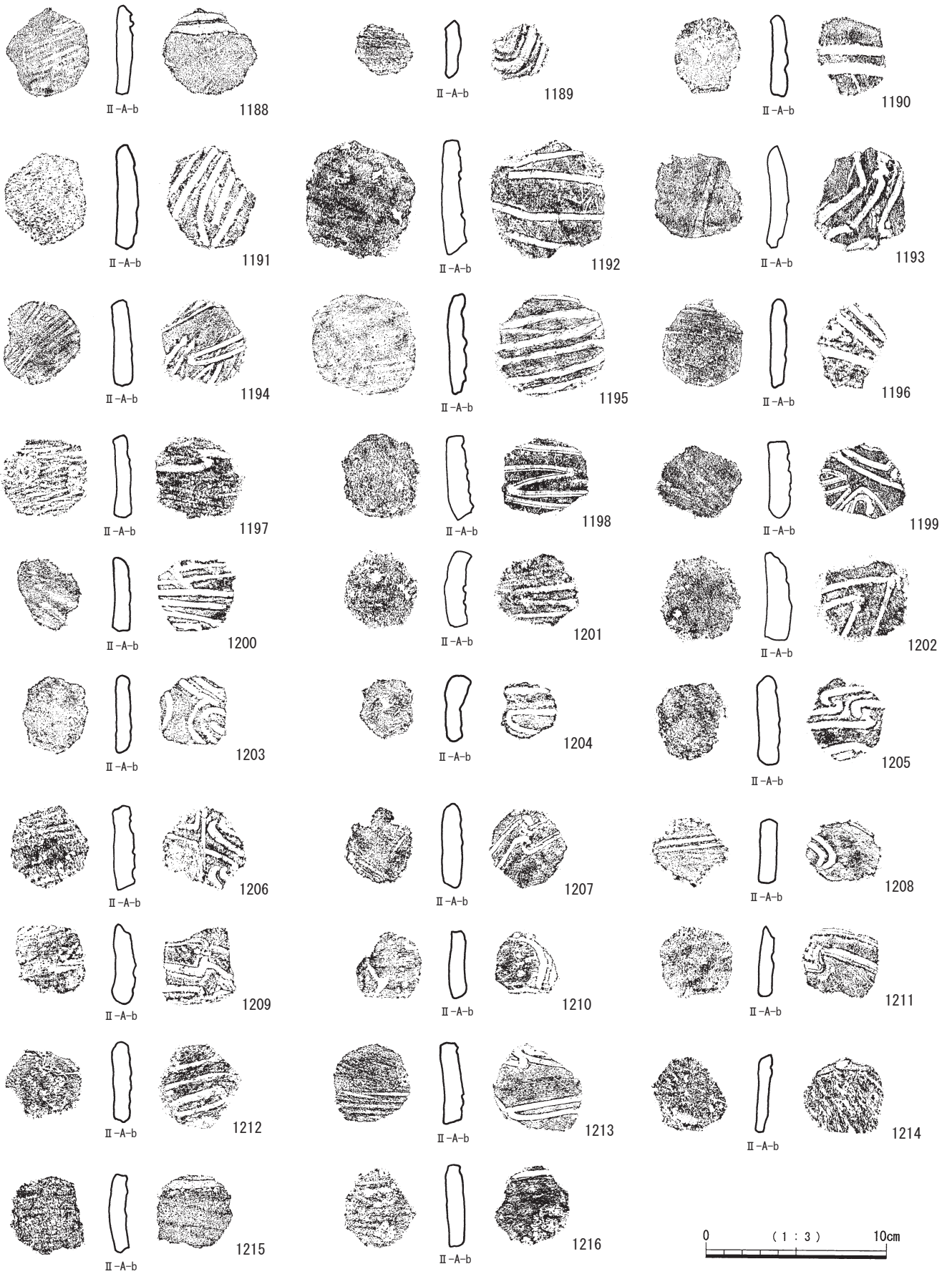
第2-86図 円盤状土製加工品(1)



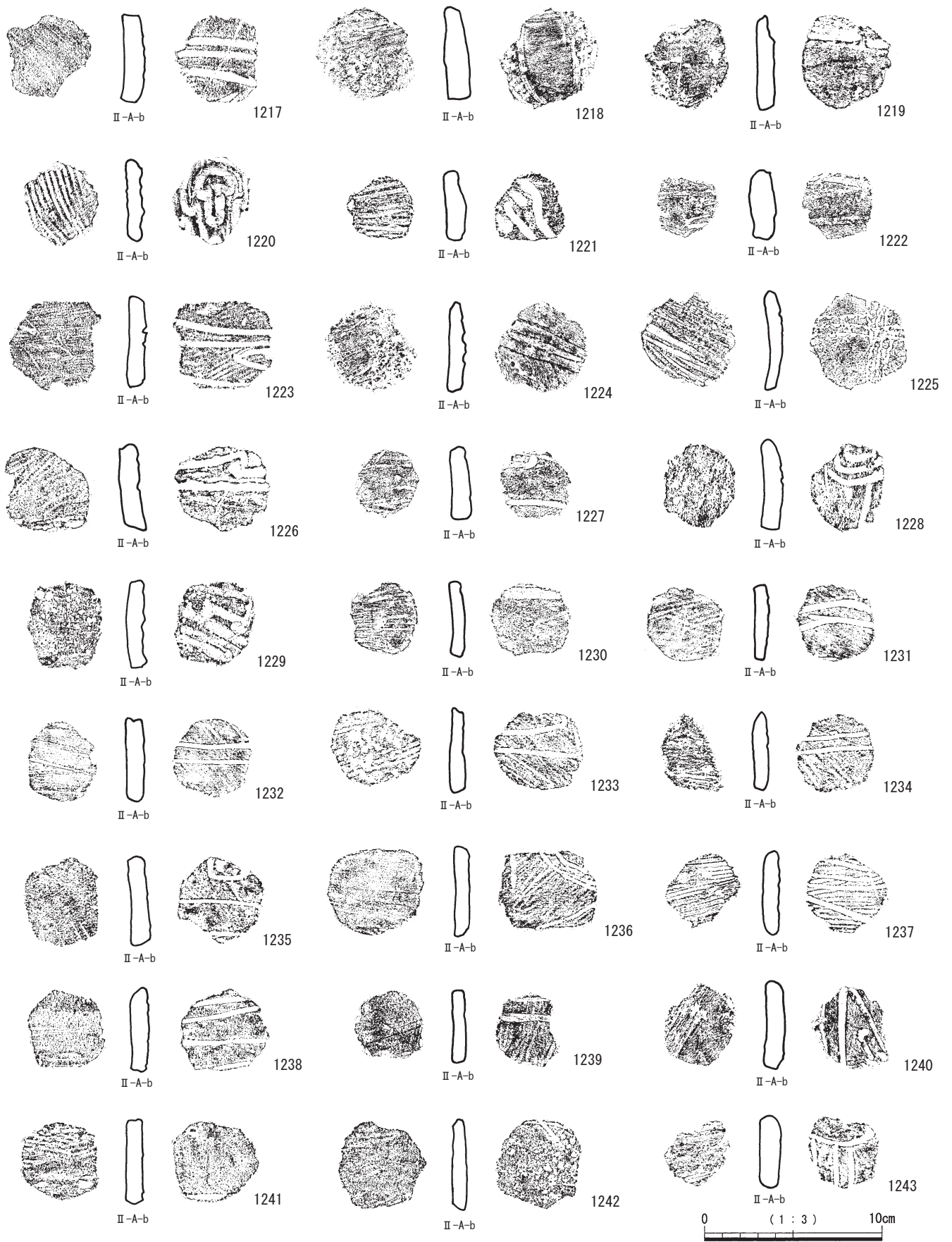
第2-87図 円盤状土製加工品(2)



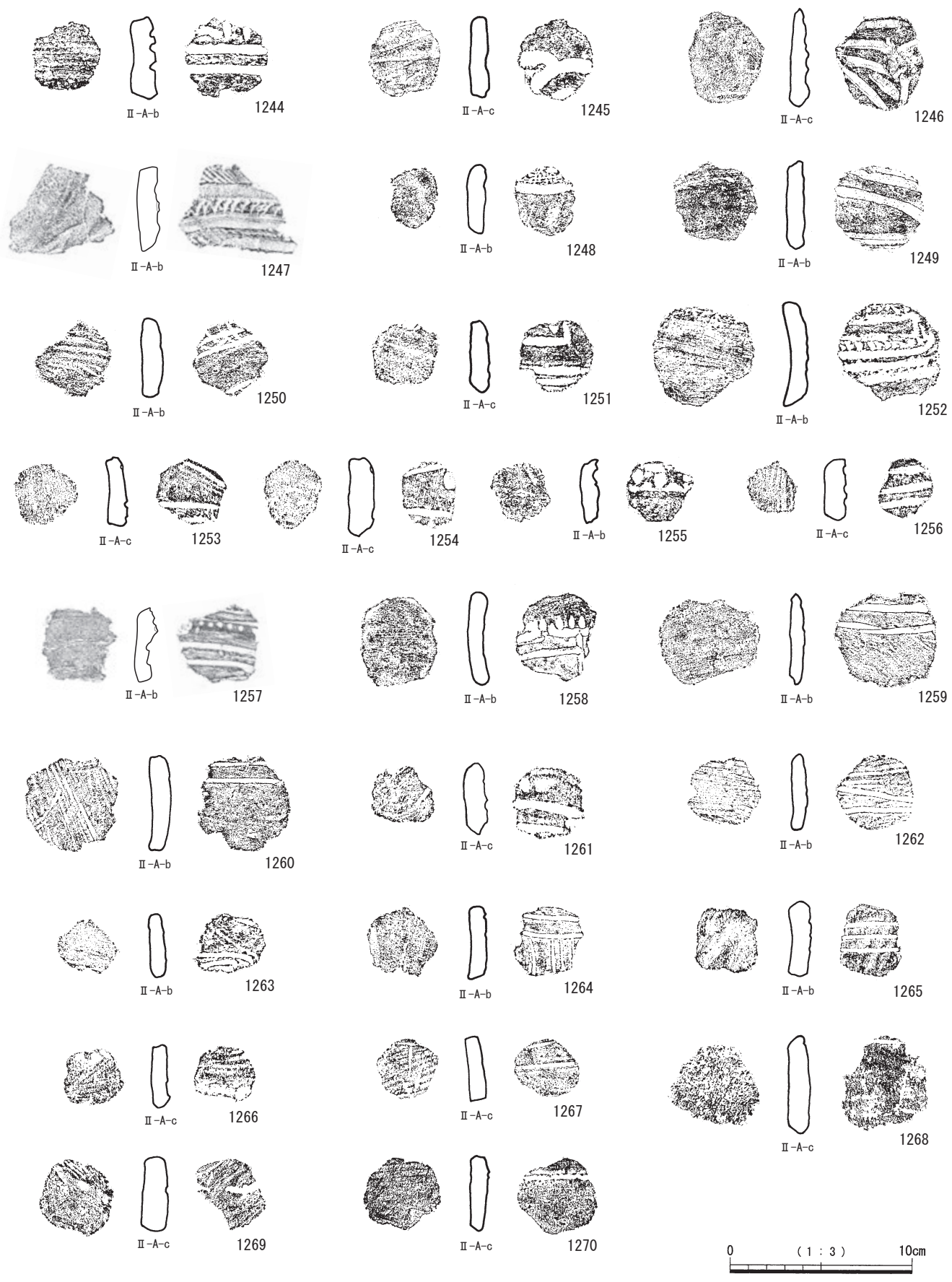
第2-88図 円盤状土製加工品(3)



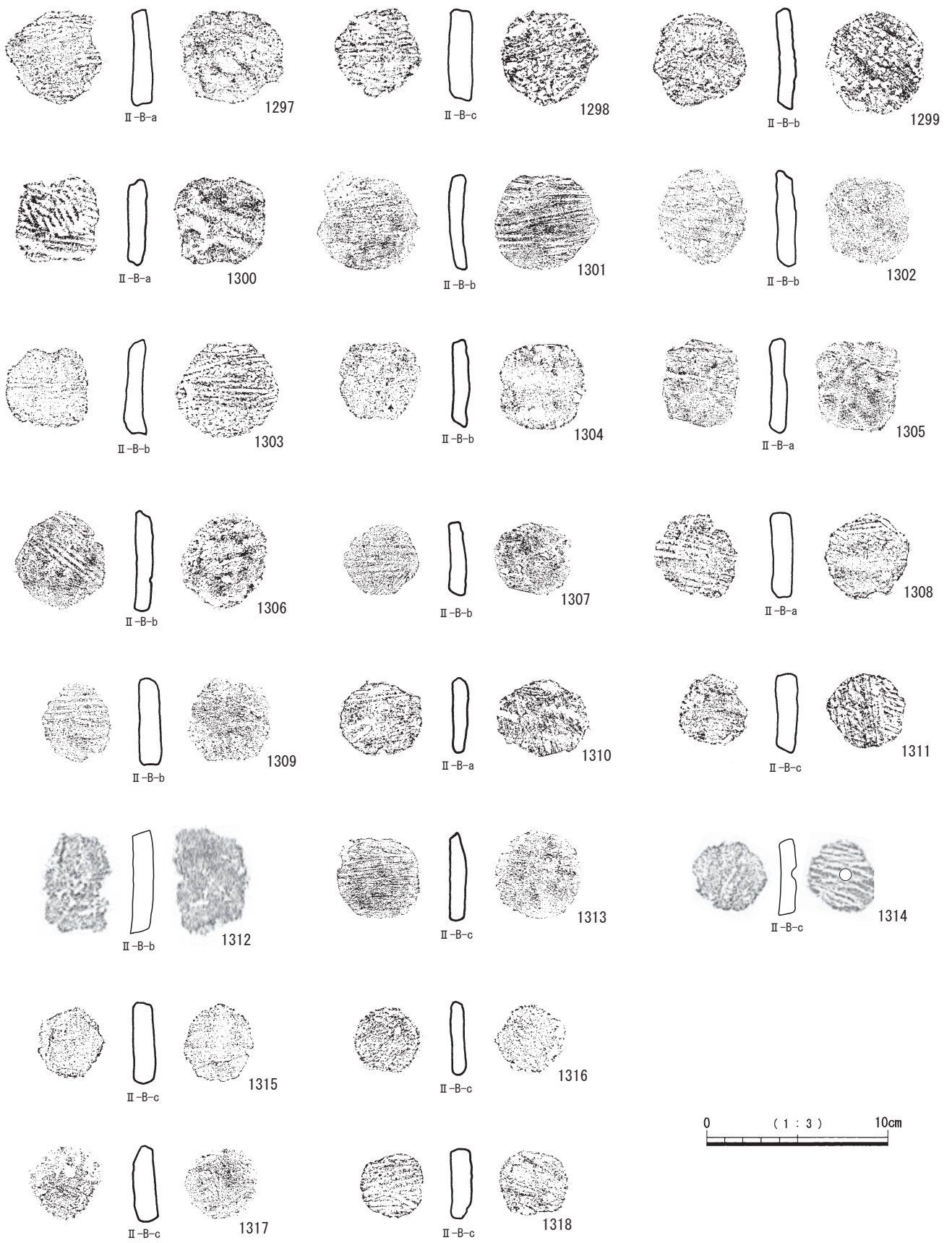
第2-89図 円盤状土製加工品(4)



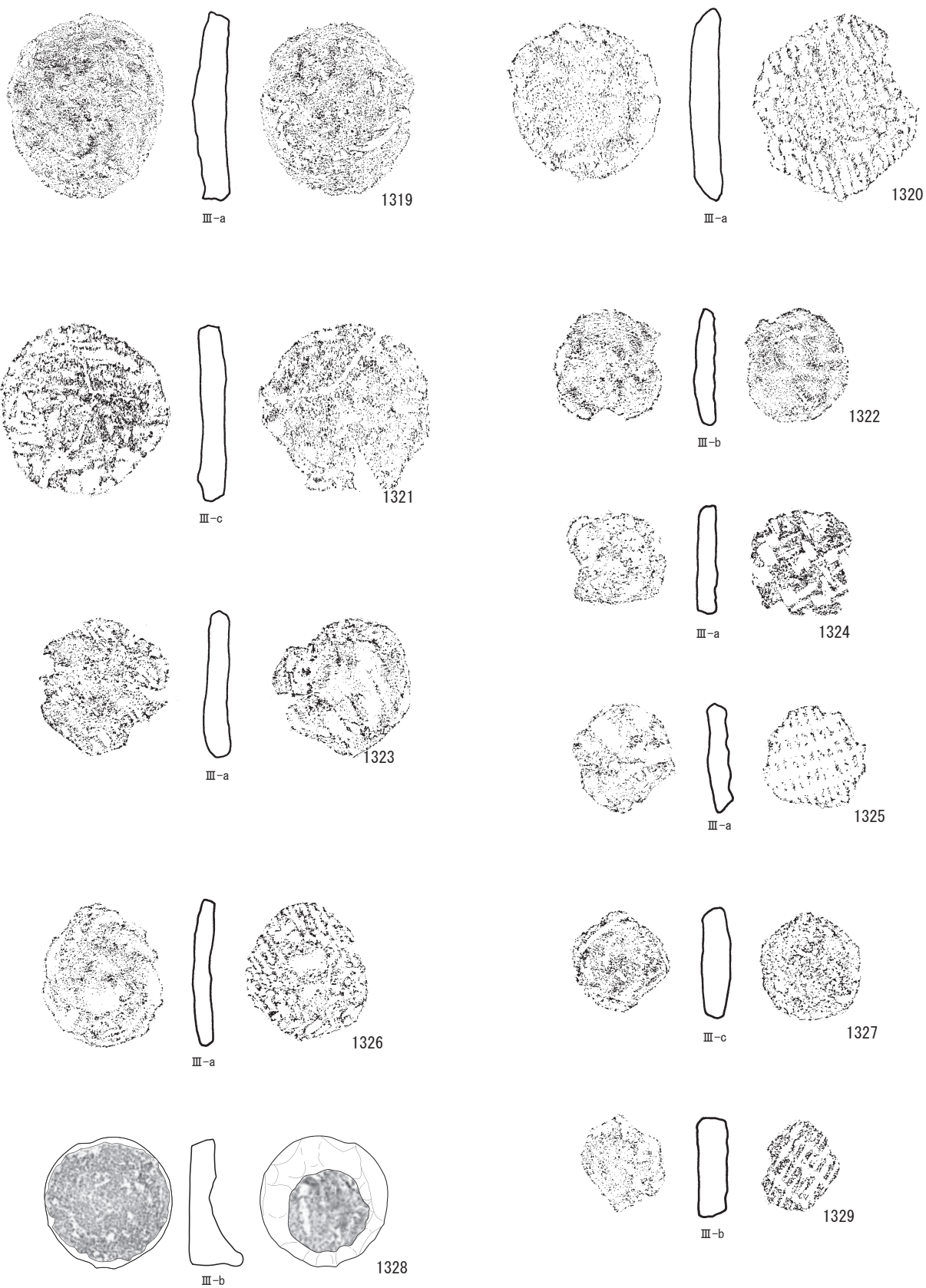
第2-90図 円盤状土製加工品(5)



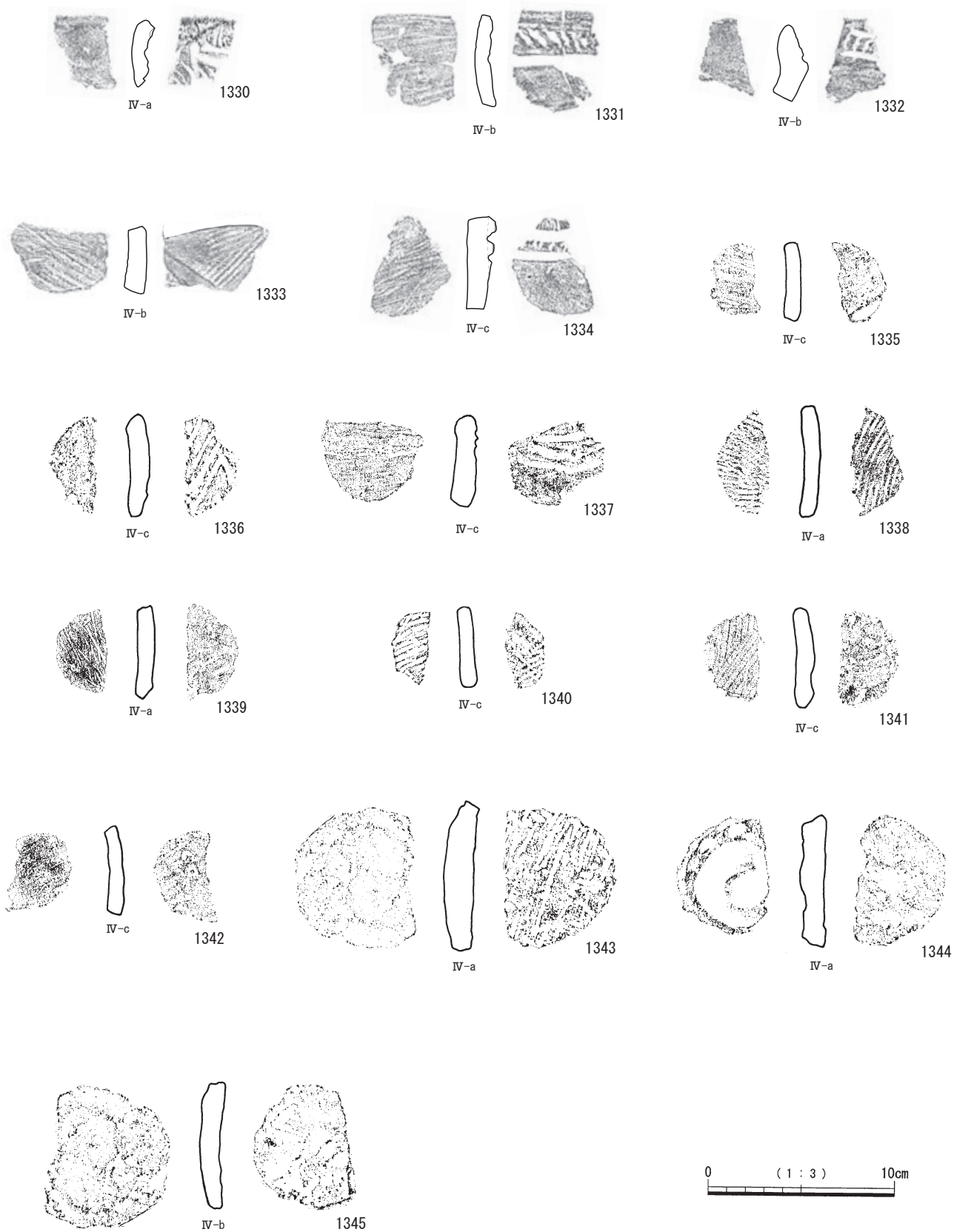
第2-91図 円盤状土製加工品(6)



第2-93図 円盤状土製加工品(8)



第2-94図 円盤状土製加工品(9)



第2-95図 円盤状土製加工品 (10)



第2-96図 円盤状土製加工品 (11)

第2-1表 後期包含層土器観察表 1

挿入 番号	掲載 番号	器種	分類	出土区	層	器面調整等		色 調		胎 土							取上 番号	備考	写真 図版
						外面	内面	外面	内面	石英 長石	角閃石 輝石	褐色粒	金色 雲母	火山 ガラス	軽石	その他			
2-5	538	深鉢	IV	B-2	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい橙	灰褐	○							40281他	71	
	539	深鉢	IV	C-16	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰赤	にぶい赤褐	○	○	○					7992	71	
2-6	540	深鉢	Va	F-5	IVb	ナデ	ナデ	にぶい褐	灰黄褐	○	○	○			○	45518他	71		
	541	深鉢	Va	F-3	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄褐	にぶい赤褐	◎	○	○	◎			46469	71		
2-7	542	深鉢	Vb	D-4	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕	黄灰	暗灰黄	○	○					37240	71		
	543	深鉢	Vb	D-4	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕	灰褐	にぶい赤褐	○	○					26452	-		
	544	深鉢	Vb	B-C-15	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい褐	にぶい赤褐	○	○			○		34485他	71		
	545	深鉢	Vb	C-3	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕	褐灰	灰褐	○		○	○			40809	71		
	546	深鉢	Vb	C-9	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい黄橙	○	○	○			○	43009	71		
	547	深鉢	Vb	B-3	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	黒褐	○	○	○	○			41163	71		
	548	深鉢	Vb	C-5	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	黒褐	にぶい黄褐	○	○		◎			32938	71		
	549	深鉢	Vc	B-41	IVb	ナデ	ナデ	橙	明赤褐	○	○				○	101952	74		
2-8	550	深鉢	Va	C-14, D-11	IVb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	○			○	12339他	72	
	551	深鉢	Va	C-14	IVb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	○				12338	72	
	552	深鉢	Va	B-5	IVb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○				○	30206他	-	
	553	深鉢	Va	C-15	IVb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○	○					8065他	-	
	554	深鉢	Va	C-15	IVb	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	○				770	-	
	555	深鉢	Va	D-5	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○					32387	72	
	556	深鉢	Va	C-5	IVb・V	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○		◎			43756	71		
	557	深鉢	Va	C-5	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	暗赤褐	にぶい赤褐	○							32932他	72	
	558	深鉢	Va	F-3	IVb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい褐	○	◎			○	○		42973	72	
	559	深鉢	Va	C-5	IVb	貝殻条痕→ナデ	ナデ	灰褐	赤褐	○	○	○					33617	-	
2-10	560	深鉢	Va	C-5	IVb	貝殻条痕→ナデ	ナデ	暗褐	にぶい赤褐	○		○	◎			○	33007	-	
	561	深鉢	Va	B-C-4	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○					34027他	-	
	562	深鉢	Va	E-5	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	黒褐	にぶい赤褐	○	○	○	○				26682	72	
	563	深鉢	Va	C-4	IVb	ナデ	ナデ	暗灰黄	にぶい黄	○	○					○	38031他	72	
	564	深鉢	Va	C-6	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○	○					29509	-	
	565	深鉢	Va	C-6	IVa・IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○	○					23429他	-	
2-11	566	深鉢	Va	D-5	IVb	ナデ	ナデ	橙	橙	○	○	○					25725	72	
	567	深鉢	Va	C-6	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○	○				○	29493	-	
	568	深鉢	Va	B-C-3・4	IVb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○				○	○	○	41160他	72	
	569	深鉢	Va	-	-	ナデ	ナデ	灰褐	灰黄褐	○	○					○	-	72	
	570	深鉢	Va	C-4	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	◎	○	○	◎		○			27116	72
	571	深鉢	Va	B-4	IVb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○						31354他	72	
	572	深鉢	Vb	C-15	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	○		○		14692他	73	
	573	深鉢	Vb	C-15	IVb	貝殻条痕	ナデ	にぶい赤褐	褐灰	○	○	○	○		○		11293	73	
	574	深鉢	Vb	D-5	IVb	貝殻条痕	ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	◎		○		33108	73	
	575	深鉢	Vb	C-4	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○	○				38815	-	
2-12	576	深鉢	Vb	C-4	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい赤褐	橙	○	○						36369他	74	
	577	深鉢	Vb	B-11, C-14-15	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい橙	◎	○	○	○		○	○	18551他	74	
	578	深鉢	Vb	D-5	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕	灰褐	灰褐	◎	○	○		○	○	○	25544	73	
	579	深鉢	Vb	B-5	IVb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい褐	◎	○	○	◎				30126	-	
	580	深鉢	Vb	C-4	IVb	ナデ	ナデ	褐灰	にぶい褐	○	○	○					26947	73	
	581	深鉢	Vb	D-15	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○	○			○		2357他	-	
	582	深鉢	Vb	C-14	IVb	ナデ	ナデ	褐灰	にぶい橙	○	○	○	◎				10293	-	
	583	深鉢	Vb	C-7	IVb	ナデ	ナデ	褐灰	にぶい赤褐	○	○	○			○		29847	73	
	584	深鉢	Vb	D-5	IVa	ナデ	ナデ	褐灰	にぶい褐	○	○					○	25541	73	
	585	深鉢	Vb	C-4	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	橙	にぶい橙	○	○	○	○				42033	73	
2-13	586	深鉢	Vb	B-5	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕	褐灰	にぶい黄橙	○		○	○				32819	-	
	587	深鉢	Vb	C-5	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○					33967	-	
	588	深鉢	Vb	D-22	V	貝殻条痕→ナデ	ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○	○					9350	-	
	589	深鉢	Vb	C-8	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	灰黄褐	褐灰	○	○					○	28944他	73	
	590	深鉢	Vb	C-4	IVb	ナデ	ナデ	暗灰黄	黄褐	○	○						34296他	74	
	591	深鉢	Vb	C-4	IVb	ナデ	ナデ	灰	にぶい黄褐	○	○						36405他	-	
	592	深鉢	Vb	C-4	IVb	ナデ	ナデ	にぶい褐	灰オリープ	○	○			○			37801他	73	
	593	深鉢	Vb	D-7	Va	貝殻条痕	貝殻条痕	灰褐	褐灰	○	○			○			48483他	-	
	594	深鉢	Vb	D-15	IVb	ナデ	ナデ	橙	橙	○	○			○	○	○	11245	-	
	595	深鉢	Vb	D-4	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	灰黄褐	○	○						36759	73	
2-14	596	深鉢	Vb	D-6	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○			◎				47656	-	
	597	深鉢	Vb	D-E-16	IVa	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○				3210他	73	
	598	深鉢	Vb	D-5	IVb	ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○						32366	73	
	599	深鉢	Vb	E-3	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	黒褐	○	○		○				カクラン一括	-	
	600	深鉢	Vb	B-4	IVb	ナデ	ナデ	ケズリ	にぶい黄褐	○	○						33414	-	
	601	深鉢	Vb	D-9	IVb	ナデ	ナデ	赤褐	明褐	○		○	◎				29180	-	
	602	深鉢	Vb	C-15	IVb	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい橙	○	○						10442	-	
	603	深鉢	Vb	C-2	IVb	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○	○						40277	-	
	604	深鉢	Vb	C-4	IVb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○						34246	-	
	605	深鉢	Vb	C-14	IVb	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	橙	○	○		○				19820	-	
2-15	606	深鉢	Vb	D-8	IVb	ヘラナデ	ヘラナデ	灰褐	にぶい褐	○	○	○					28224	-	
	607	深鉢	Vb	D-5	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○	◎		○		33106	-	
	608	深鉢	Vc	E15	IVb	ナデ	ナデ	褐灰	にぶい褐	○	○	○		○			4933他	-	
	609	深鉢	Vc	C-D-5	IV~V	ナデ	ナデ	灰褐	灰褐	○	○			○			-	-	
	610	深鉢	Vc	C-8	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐	褐	○	○	○					48267	-	
	611	深鉢	Vc	C-15	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○	○		○			8951	-	
	612	深鉢	Vc	C-15	IVb	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○		○			1110	-	
	613	深鉢	Vc	G-25	IVb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○	○		○	○	○	39260	-	
	614	深鉢	Vc	C-15	-	ナデ	ナデ	にぶい褐	褐	○	○		○				SD5	SD5→近世SD14	
	615	深鉢	Vc	C-15	-	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	灰褐	○	○			○			-	-	
2-16	616	深鉢	Vc	C-4	IVb	ナデ	貝殻条痕	にぶい赤褐	褐灰	○	○				○	○	27066	-	
	617	深鉢	Vc	B-5	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	黒褐	にぶい橙	○	○						31086	-	
	618	深鉢	Vc	B-5	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○	○		○	○	○	31390	-	

第2-2表 後期包含層土器観察表2

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	器面調整等		色調		胎土							取上番号	備考	写真図版
						外面	内面	外面	内面	石英長石	角閃石輝石	褐色粒	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他			
2-17	619	深鉢	VI	E-16	IVb	ナデ	ナデ	橙	にぶい橙	○	○	○	○	○	○	○	6403		-
	620	深鉢	VI	D-10	VIb	貝殻条痕→ナデ	ナデ	灰黄褐	黒褐	○	○	○	○	○	○	○	53398	年代測定試料	-
	621	深鉢	VI	C-3・4	IVb	ナデ	貝殻条痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○	○	○	○	31413他		-
	622	深鉢	VI	E15	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	○	○	○	○	2453		-
	623	深鉢	VI	C-4	IVb	ヘラナデ	貝殻条痕	灰褐	灰黄褐	○	○	○	○	○	○	○	27110	赤色顔料付着	-
2-18	624	深鉢	VIIa	C-15	-	工具ナデ	工具ナデ	灰	暗オリーブ	○	○	○	○	○	○	-	搬入品か	75	
	625	深鉢	VIIa	B-6・C-15	III・IVb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	○	○	○	○	73他		75
	626	深鉢	VIIa	C-15	IVb	工具ナデ	工具ナデ	褐灰	褐灰	○	○	○	○	○	○	○	4234	搬入品か	75
	627	深鉢	VIIa	E-7	IVb	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○	○	○	○	○	○	28874		-
	628	深鉢	VIIa	E-8	IVb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	○	○	○	○	30516		-
	629	深鉢	VIIa	B-8	IVb	工具ナデ	工具ナデ	黒褐	灰褐	○	○	○	○	○	○	○	28697	搬入品か	75
	630	深鉢	VIIa	C-8	IVb	工具ナデ	工具ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	○	○	○	○	26306		-
	631	深鉢	VIIa	B-5	IVb	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	○	○	○	○	32006		-
	632	深鉢	VIIa	D-8	IVb	ナデ	工具ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	29093		-
	633	深鉢	VIIa	C-15	IVa	ナデ	工具ナデ	灰赤	赤褐	○	○	○	○	○	○	○	2030	圧痕分析試料	-
	634	深鉢	VIIa	D-16	IVb	ナデ	工具ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	○	○	○	○	13852		-
	635	深鉢	VIIa	C-15	IVb	ナデ	工具ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	1464		-
	636	深鉢	VIIa	B-9	IVa	ナデ	ナデ	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○	○	○	○	○	22989		-
637	深鉢	VIIa	D-16	IVb	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	○	○	○	○	6613	磔	-	
2-19	638	深鉢	VIIa	C-8	IVb	工具ナデ	工具ナデ	灰黄褐	褐	○	○	○	○	○	○	○	25800	磔	-
	639	深鉢	VIIa	E-14	VI	ナデ	工具ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	15998		-
	640	深鉢	VIIa	D-14	IVb	ナデ	工具ナデ	明赤褐	明赤褐	○	○	○	○	○	○	○	11057		-
	641	深鉢	VIIa	C-15	IVb	工具ナデ	工具ナデ	褐	黒褐	○	○	○	○	○	○	○	11337		-
	642	深鉢	VIIa	C-15	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	明褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	13700		-
	643	深鉢	VIIa	B-6	IVb	ヘラナデ	ヘラナデ	にぶい黄褐	黄灰	○	○	○	○	○	○	○	38924		-
	644	深鉢	VIIa	B・C-16・17	-	工具ナデ	工具ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	○	○	○	○	SH10埋土	SH10→古墳SH13	-
	645	深鉢	VIIa	D-5	IVb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○	○	○	○	○	○	46813		75
	646	深鉢	VIIa	D-8	IVb	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○	○	○	○	29095		-
	647	深鉢	VIIa	D-9	VI	ナデ	ナデ	暗灰黄	褐灰	○	○	○	○	○	○	○	49271	搬入品か	-
	648	深鉢	VIIa	E-14	IVb	ナデ	工具ナデ	黒	黄褐	○	○	○	○	○	○	○	13986		75
	649	浅鉢	VIIa	D-16	IVb	ナデ	工具ナデ	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○	○	○	6159	搬入品か	75
	650	深鉢	VIIa	C-15	IVb	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	灰褐	○	○	○	○	○	○	○	1107		75
2-20	651	深鉢	VIIa	B-8	IVb	ナデ	ナデ	褐	灰褐	○	○	○	○	○	○	○	28669他		75
	652	深鉢	VIIa	D-11	VI	ナデ	ナデ	灰黄褐	灰黄褐	○	○	○	○	○	○	○	24391		75
	653	深鉢	VIIa	B-5	IVb	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	33728		-
	654	深鉢	VIIa	D-15	IVb	ナデ	工具ナデ→ナデ	褐灰	褐灰	○	○	○	○	○	○	○	13868		-
	655	深鉢	VIIa	C-9	IVb	ナデ	工具ナデ	灰	灰	○	○	○	○	○	○	○	47130		75
	656	深鉢	VIIa	F15	IVb	ナデ	ナデ	褐	褐	○	○	○	○	○	○	○	20370		75
	657	深鉢	VIIa	B-4	IVb	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○	○	○	25805		75
2-21	658	深鉢	VIIa	B-4・D-7	IVb	工具ナデ	工具ナデ→ナデ	明褐	明赤褐	○	○	○	○	○	○	○	28894他		75
	659	深鉢	VIIa	D-16	IVb	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	○	○	○	○	○	○	○	6695		-
	660	深鉢	VIIa	C-5	IVb	ナデ	工具ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	33582		75
	661	深鉢	VIIa	D-9	VI	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	49388		75
	662	深鉢	VIIa	B-8	IVb	ナデ	ナデ	橙	にぶい橙	○	○	○	○	○	○	○	30631		-
	663	深鉢	VIIa	C-14	IVb	ナデ	ナデ	明褐	明褐	○	○	○	○	○	○	○	9863		-
	664	深鉢	VIIa	D-9	IVb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	45678他		75
	665	深鉢	VIIa	C-15	IVb	ナデ	ナデ	灰黄褐	灰褐	○	○	○	○	○	○	○	12063		75
	666	深鉢	VIIa	C-14	IVb	ナデ	ナデ	褐灰	にぶい橙	○	○	○	○	○	○	○	4733		-
	667	深鉢	VIIa	E・F-7・8	IVa・IVb	貝殻条痕→ナデ	ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○	○	○	○	○	○	23530他		75
2-22	668	深鉢	VIIa	B-9	IVb	ナデ	工具ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	○	○	○	○	29672他		75
	669	深鉢	VIIa	E-7	VIIa	ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	53905		75
	670	深鉢	VIIa	-	-	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	○	○	○	○	SH30埋土	SH30→古墳SH6	75
	671	深鉢	VIIa	E-8	IVb	ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい橙	○	○	○	○	○	○	○	30506		75
	672	深鉢	VIIa	C-8	VI	ヘラナデ	ヘラナデ	暗灰褐	黄灰	○	○	○	○	○	○	○	54337他		-
	673	深鉢	VIIa	D-15	-	ナデ	工具ナデ	灰褐	褐灰	○	○	○	○	○	○	○	-		-
	674	深鉢	VIIa	C-15	-	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	黄灰	○	○	○	○	○	○	○	-		-
	675	鉢	VIIa	C-6	IVb	ナデ	ミガキ後ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	36716		75
	676	深鉢	VIIa	D-9	VI	ナデ	ナデ	にぶい橙	褐灰	○	○	○	○	○	○	○	49259	混和材の粒子が大きい	75
	677	深鉢	VIIa	B-8	IVb	ナデ	ナデ	橙	にぶい赤褐	○	○	○	○	○	○	○	32638		75
	678	深鉢	VIIb	C・D-14・15	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	10987他		74
	679	深鉢	VIIb	C-15	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	灰褐	○	○	○	○	○	○	○	17758他		74
	680	深鉢	VIIb	C-14・15	IVb	ナデ	工具ナデ	にぶい橙	褐灰	○	○	○	○	○	○	○	14583他		76
681	深鉢	VIIb	C-14	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○	○	○	○	○	10381他		76	
682	深鉢	VIIb	C-15	IVb	ナデ	ナデ	灰褐	褐灰	○	○	○	○	○	○	○	12121		-	
683	深鉢	VIIb	C-14	IVb	ナデ	ナデ	橙	にぶい赤褐	○	○	○	○	○	○	○	8901他		76	
684	深鉢	VIIb	B-4	IVb	ナデ	ナデ	灰黄褐	暗灰黄	○	○	○	○	○	○	○	37338	磔	-	
2-24	685	深鉢	VIIb	B・C-4・5	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	橙	○	○	○	○	○	○	○	30155他		74
	686	深鉢	VIIb	C-15	-	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	灰黄褐	○	○	○	○	○	○	○	-		-
	687	深鉢	VIIb	D-12	IVa	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	黒褐	○	○	○	○	○	○	○	5296		-
	688	深鉢	VIIb	B-4	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい橙	○	○	○	○	○	○	○	34119		-
	689	深鉢	VIIb	C-15	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○	○	○	○	17666他	磔	-
	690	深鉢	VIIb	C-15	IVa・IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	橙	○	○	○	○	○	○	○	2005他		74
	691	深鉢	VIIb	C-4	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○	○	○	○	○	33496他		-
	692	深鉢	VIIb	C-4	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	灰黄褐	灰黄褐	○	○	○	○	○	○	○	39588		-
	693	深鉢	VIIb	C-15	IVb	ナデ	ナデ	橙	にぶい赤褐	○	○	○	○	○	○	○	17823他		-
	694	深鉢	VIIb	C-4	IVb														

第2-3表 後期包含層土器観察表3

挿図 番号	掲載 番号	器種	分類	出土区	層	器面調整等		色 調		胎 土							取上 番号	備考	写真 図版	
						外面	内面	外面	内面	石英 長石	角閃石 輝石	褐色粒	金色 雲母	火山 ガラス	軽石	その他				
2-25	700	深鉢	Ⅶb	C-4	IVb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○						46214		76	
	701	深鉢	Ⅶb	B-5	IVb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○						34528他		-	
	702	深鉢	Ⅶb	C-15	-	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○		○	○				SD3埋	SD3→近世SD13	76	
	703	深鉢	Ⅶb	C-15	IVb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○			○				10517		76	
	704	深鉢	Ⅶb	F-16	-	ナデ	ナデ	明黄褐	明黄褐	○	○						20437他		76	
	705	深鉢	Ⅶb	C-12	Ⅵ	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○			○	○			24774		76	
2-26	706	深鉢	Ⅶb	C-14	IVb	ナデ	工具ナデ→ナデ	にぶい赤褐	灰褐	○		○	○				10398他		76	
	707	深鉢	Ⅶb	C-4	IVb	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○					34253		76	
	708	深鉢	Ⅶb	C-15	IVb	ナデ	工具ナデ→ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	○				9058		-	
	709	深鉢	Ⅶb	E-6	IVb	貝殻条痕→ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○		○	○				35270		76	
	710	深鉢	Ⅶb	C-15	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	○		○	○	○			4212他	年代測定試料	76	
	711	深鉢	Ⅶb	B-4	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	褐灰	にぶい橙	○							31257		-	
	712	深鉢	Ⅶb	C-4	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい黄橙	暗灰黄	○	○			○			38066		-	
	713	深鉢	Ⅶb	C-14	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい褐	○		○	○				10353他		76	
	714	深鉢	Ⅶb	C-D-16・17	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	にぶい橙	○	○	○					6234他		76	
	715	深鉢	Ⅶb	C-18	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	灰褐	○	○	○					8574		-	
	2-27	716	深鉢	Ⅶb	B-11	IVa	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○						5104		-
717		深鉢	Ⅶb	C-14	IVb	ナデ	ケズリ	暗灰黄	にぶい褐	○		○	○				10384		-	
718		深鉢	Ⅶb	B-4	IVb	ナデ	ナデ	黒褐	にぶい褐	○	○	○					34054		-	
719		深鉢	Ⅶb	C-15	IVb	ナデ	ナデ	明褐	灰褐	○	○	○	○				13709		76	
720		深鉢	Ⅶb	C-6	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	灰黄褐	暗灰黄	○	○	○					42789		-	
721		深鉢	Ⅶb	C-4	IVb	ナデ	ナデ	褐灰	灰黄褐	○	○	○			○		36093		76	
722		深鉢	Ⅶb	C-12	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○			○				15484		76	
723		深鉢	Ⅶb	C-4	IVb	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○		○	○				36090		-	
724		深鉢	Ⅶb	E-10	IVa	ナデ	ナデ	褐灰	褐灰	○		○	○				54388		-	
725		深鉢	Ⅶb	C-14	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○					14786	碟	76	
726		深鉢	Ⅶb	E-2	Ⅵ	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○		○	○				50387		-	
2-28	727	深鉢	Ⅶb	C-5	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○					30366		-	
	728	深鉢	Ⅶb	C-15	IVb	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい赤褐	○		○	○				1535		-	
	729	深鉢	Ⅶb	B-4	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	褐灰	○	○	○					一括	-		
	730	深鉢	Ⅶb	B-4	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	○				32071		-	
	731	深鉢	Ⅶb	C-5	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい黄橙	○	○	○					46325		-	
	732	深鉢	Ⅶb	C-5	IVb	ナデ	貝殻条痕	明赤褐	明赤褐	○	○	○					-	外面：貝殻縁線引文	-	
	733	深鉢	Ⅶb	D-16	IVb	工具ナデ	工具ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○						6179他		76	
	734	深鉢	Ⅶa	E-3	IVb	ナデ	ナデ	灰褐	灰褐	○	○	○	○				27696		77	
	735	深鉢	Ⅶa	C-15	-	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	○				SD1_埋土	SD1→近世SD12	-	
	736	深鉢	Ⅶa	E-14	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	橙	○	○	○					14622		77	
	737	深鉢	Ⅶa	E-8	IVa	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○		○	○				24193		77	
2-29	738	深鉢	Ⅶa	D-9	IVb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	◎						28358		77	
	739	深鉢	Ⅶa	B-3	IVb	ナデ	ナデ	灰褐	橙	○			○				40575		-	
	740	深鉢	Ⅶa	C-5	IVb	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	灰褐	○	○	○					32257		-	
	741	鉢	Ⅶa	C-4	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄褐	にぶい橙	○		○	○				36278		-	
	742	深鉢	Ⅶa	B-5	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○					33742		-	
	743	深鉢	Ⅶa	B-10	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい橙	○	○	○	○				28523他		-	
	744	深鉢	Ⅶa	C-4	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	○		○	○				34145他		77	
	745	深鉢	Ⅶa	D-16	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	橙	○		○	○				6205		-	
	746	深鉢	Ⅶa	E-16	IVa	ナデ	ナデ	灰褐	褐灰	○	◎	○					3654		-	
	747	深鉢	Ⅶa	C-15	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	灰褐	○	○	○						埋土	-	
	748	深鉢	Ⅶa	D-12	IVb・Ⅵ	ナデ	貝殻条痕	にぶい赤褐	灰黄褐	○		○	○				24071他		-	
2-30	749	深鉢	Ⅶa	E-5	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	灰褐	○		○	○				26662		-	
	750	深鉢	Ⅶa	12T	Ⅳ	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○	○					12T_260		-	
	751	深鉢	Ⅶa	D-14	IVb	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	○	○	○					11034		77	
	752	深鉢	Ⅶa	B-11	IVa・IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○	○						4544他		78	
	753	深鉢	Ⅶa	B-7	IVb	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○					34658		-	
	754	深鉢	Ⅶa	D-14	IVb	ナデ	ナデ	黒褐	にぶい褐	○		○	○				10051		-	
	755	深鉢	Ⅶa	D-3	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	にぶい黄褐	○		○	○				39187		-	
	756	深鉢	Ⅶa	C-16	IVb	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○		○	○				19415		-	
	757	深鉢	Ⅶa	B-4	IVb	ナデ	ナデ	黄褐	灰黄褐	○	○						32111他		-	
	758	深鉢	Ⅶa	C-4	IVb	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	○		○	○				31415他		77	
	759	深鉢	Ⅶa	B-4	IVb	ナデ	ナデ	橙	にぶい褐	○	○	○					37421		-	
2-31	760	深鉢	Ⅶa	12T	Ⅳ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○					12T_155他	確認調査トレンチ	78	
	761	深鉢	Ⅶa	B-3	IVb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○	○					33270		77	
	762	深鉢	Ⅶa	B-3	IVb	ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい赤褐	○	○	○					26558		-	
	763	深鉢	Ⅶa	B-5	IVb	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	橙	○	○	○					30193他		81	
	764	深鉢	Ⅶa	E-10	IVa	ナデ	ナデ	褐灰	灰褐	○			○				54395		-	
	765	深鉢	Ⅶa	B-3	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○	○					33262他		78	
	766	深鉢	Ⅶa	B-4	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	褐灰	○	○	○					32128他		78	
	767	深鉢	Ⅶa	D-15	IHSD埋土	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい黄褐	○	○	○					SD3	SD3→近世SD13	-	
	768	深鉢	Ⅶa	SD5	-	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○					-		-	
	769	深鉢	Ⅶa	B-10	Ⅲ	ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい橙	○		○	○				55021	碟	-	
	770	深鉢	Ⅶa	D-16	IVb	ナデ	ナデ	黄褐	にぶい褐	○	○	○					6268他		-	
2-32	771	深鉢	Ⅶa	C-4	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○					36165他		-	
	772	深鉢	Ⅶa	F-8	IVb	ナデ	工具ナデ	黄褐	灰黄褐	○	○						26127	碟	77	
	773	深鉢	Ⅶa	C-3	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○	○					41289		-	
	774	深鉢	Ⅶa	D-16	IVb	ナデ	ナデ	橙	にぶい褐	○	○	○					6624他	碟	-	
	775	深鉢	Ⅶa	B-12	IVb	ナデ	工具ナデ	褐	にぶい黄褐	○		○	○				4769	碟	77	
	776	深鉢	Ⅶa	B-6	IVb	ナデ	貝殻条痕	にぶい赤褐	灰褐	○	○	○					30740		77	
	777	深鉢	Ⅶa	C-15	IVb	ナデ	ナデ	灰褐	橙	○	○	○					17853他		78	
	778	深鉢	Ⅶa	B-5	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	灰褐	○							33661	碟	77	
	779	深鉢	Ⅶa	D-14	埋土	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	灰褐	○	○	○					19718		-	
	2-36	780	深鉢	Ⅶa	C-6	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	灰褐	○	○	○					32239他	碟	78

第2-4表 後期包含層土器観察表4

挿入 番号	掲載 番号	器種	分類	出土区	層	器面調整等		色 調		胎 土							取上 番号	備考	写真 図版
						外面	内面	外面	内面	石英 長石	角閃石 輝石	褐色粒	金色 雲母	火山 ガラス	軽石	その他			
2-36	781	深鉢	VIIa	F-3	VI	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○	○			礫	49909	にぶい橙	77
	782	深鉢	VIIa	E-7	VI	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○	○	○			礫	49532	にぶい橙	-
	783	深鉢	VIIa	B-5	IVb	ナデ	ナデ	にぶい橙	明赤褐	○	○	○	○		○		30172他	にぶい橙	78
784	深鉢	VIIa	C-12	IVb・VI	ナデ	ナデ	貝殻条痕	橙	灰黄褐	○	○	○	○				12453他	にぶい橙	77
785	深鉢	VIIa	B-4	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	明褐	にぶい褐	○	○	○	○		○		32204	年代測定試料	79
786	深鉢	VIIa	E-16	IVb	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい橙	○	○	○	○		○		6607		79
787	深鉢	VIIa	C-14	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい褐	○	○	○	○		○		10865		-
788	メンコ	VIIa	D-16	-	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○	○			礫	DKS9-153	DKS9→古墳DKS7	-
789	深鉢	VIIa	C-15	IVb	ナデ	ナデ	工具ナデ	にぶい赤褐	灰黄褐	○	○	○	○		○		11134		79
790	深鉢	VIIa	B・C-16・17	-	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○	○		○		SH10	SH10→古墳SH13	79
791	深鉢	VIIa	C-15	IVb	ナデ	ナデ	ナデ	褐灰	灰褐	○	○	○	○		○		683		-
792	深鉢	VIIa	E-6	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○	○	○				35281		79
793	深鉢	VIIa	C-11	IVa	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい橙	○	○	○	○				5576		-
794	深鉢	VIIa	D-10	VIIb	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい褐	橙	○	○	○	○				54359		-
795	深鉢	VIIa	E-3	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	橙	○	○	○	○		○		44423		-
796	深鉢	VIIa	C-15	IVb	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい黄橙	○	○	○	○				383埋土?	P383(時期不明)	-
797	深鉢	VIIa	D-14	IVb	ナデ	ナデ	ナデ	明赤褐	黒褐	○	○	○	○				10030他		-
798	深鉢	VIIa	C-15	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕	にぶい赤褐	褐灰	○	○	○	○		○		埋土341?	P341(時期不明)	-
799	深鉢	VIIa	D-14	IVb	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○				4714他		-
800	深鉢	VIIa	C-14	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	にぶい赤褐	灰褐	○	○	○	○		○	14375		79
801	深鉢	VIIa	12T	IV	ナデ	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○	○		○		12T_220	確認調査トレンチ	-
802	深鉢	VIIa	B-3	IVb	ナデ	ナデ	ナデ	貝殻条痕	橙	○	○	○	○		○		33214他		79
803	深鉢	VIIa	D-16	IVb	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	褐灰	○	○	○	○				7420		-
804	深鉢	VIIa	C-5	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	灰褐	○	○	○	○			礫	32898		-
805	深鉢	VIIa	C-15	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	明赤褐	○	○	○	○		○		849他		-
806	深鉢	VIIa	B-3	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○	○		○		33327		-
807	深鉢	VIIa	C-4	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	橙	○	○	○	○				26394他		-
808	深鉢	VIIb	D-12	IVa・IVb	ナデ	ナデ	ナデ	灰黄褐	灰黄褐	○	○	○	○		○		5256他		-
809	深鉢	VIIb	F-8	IVa	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	○		○		23597他		80
810	深鉢	VIIb	E-4	IVb	ナデ	ナデ	工具ナデ	にぶい赤褐	にぶい褐	○	○	○	○			礫	31783		-
811	深鉢	VIIb	B-3	IVb	ナデ	ナデ	工具ナデ	褐灰	にぶい赤褐	○	○	○	○				33254他		80
812	深鉢	VIIb	D-12	VI	ナデ	ナデ	工具ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	○		○		24437		80
813	深鉢	VIIb	C-3・12・F-3	IVa	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	ナデ・ハラナデ	灰褐	褐灰	○	○	○	○			429他		-
814	深鉢	VIIb	D-3	IVb	ナデ	ナデ	ナデ	褐灰	灰褐	○	○	○	○		○		36023		-
815	深鉢	VIIb	D-14	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○		○	11044		-
816	深鉢	VIIb	D-15	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰赤	にぶい橙	○	○	○	○			2332他		-
817	深鉢	VIIb	B-4	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	灰褐	○	○	○	○			礫	32147他		80
818	深鉢	VIIb	12T	IV	ナデ	ナデ	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい赤褐	橙	○	○	○	○			12T他		79
819	鉢	VIIb	D-9	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	にぶい赤褐	○	○	○	○		○	27894他		-
820	鉢	VIIb	C-6	IVb	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	明赤褐	○	○	○	○			礫	29467		-
821	深鉢	VIIb	C-12	VI	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	ナデ	灰黄褐	黄灰	○	○	○	○			24452		80
822	深鉢	VIIb	C-15	埋土	ナデ	ナデ	ナデ	黄灰	にぶい黄褐	○	○	○	○		○		5538		-
823	深鉢	VIIb	C-15	-	ナデ	ナデ	工具ナデ	褐灰	黄褐	○	○	○	○				SD1埋土他	SD1→近世SD12	-
824	深鉢	VIIb	D-3	IVb	ナデ	ナデ	ナデ	灰褐	灰黄褐	○	○	○	○				36009他		80
825	鉢	VIIb	C-4	IVb	ナデ	ナデ	ナデ	暗灰黄	橙	○	○	○	○				31432他	年代測定試料	81
826	深鉢	VIIb	F-13	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	褐灰	○	○	○	○		○		23221		-
827	深鉢	VIIb	C-2・3	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	○				41762他		81
828	深鉢	VIIb	B・C-6	IVa	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	橙	○	○	○	○				25535他		-
829	深鉢	VIIb	C-3	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	橙	○	○	○	○		○		41765他		-
830	深鉢	VIIb	B-4	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○	○		○		33431他		-
831	深鉢	VIIb	E-14	IVb	ナデ	ナデ	ナデ	灰褐	褐灰	○	○	○	○			礫	13954		-
832	深鉢	VIIb	D-9	IVb	ナデ	ナデ	工具ナデ	灰褐	灰褐	○	○	○	○			礫	27900		-
833	深鉢	VIIb	C-15	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	にぶい橙	○	○	○	○			礫	1361		80
834	深鉢	VIIb	B-5	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	灰褐	○	○	○	○		○		31104他		-
835	深鉢	VIIb	C-6	VI	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	○		○		52567		80
836	深鉢	VIIb	D-16	IVb	ナデ	ナデ	ナデ	灰黄褐	褐灰	○	○	○	○				6614他		-
837	深鉢	VIIb	B-6	IVa	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○	○	○		○		23366		-
838	深鉢	VIIb	F-5	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰黄褐	黄褐	○	○	○	○		○		45655		-
839	深鉢	VIIb	E-16	IVa	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	黒褐	7にぶい橙	○	○	○	○				5896		-
840	深鉢	VIIb	D-16	IVb	ナデ	ナデ	工具ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○	○	○			礫	5657		-
841	深鉢	VIIb	B-5	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕	貝殻条痕	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○	○			32851他		-
842	深鉢	VIIb	B-5	III~V	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	灰黄褐	○	○	○	○		○		オウテン		-
843	深鉢	VIIb	B・C-3	IVb	ナデ	ナデ	ナデ	灰褐	灰黄褐	○	○	○	○				39763他		79
844	深鉢	VIIb	C-12	IVb	ナデ	ナデ	工具ナデ	にぶい橙	橙	○	○	○	○		○		12587		-
845	深鉢	VIIb	D-16	IVb	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○	○	○				5660		-
846	深鉢	VIIb	C-8	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	橙	○	○	○	○		○		28274他		-
847	深鉢	VIIb	D-16	IVb	ナデ	ナデ	工具ナデ	にぶい黄褐	黄褐	○	○	○	○				-		80
848	深鉢	VIIb	C-5	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	黄褐	にぶい褐	○	○	○	○		○		26511他		80
849	深鉢	VIIb	B-5	IVb	ナデ	ナデ	ナデ	灰黄褐	灰黄褐	○	○	○	○				32838		-
850	深鉢	VIIb	E-8	IVb	ナデ	ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい褐	○	○	○	○		○		31012		-
851	深鉢	VIIb	C-8	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	黄褐	にぶい褐	○	○	○	○		○		35374他		-
852	深鉢	VIIb	B-4	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	灰褐	○	○	○	○		○		32153		-
853	深鉢	VIIb	B・C-6	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○	○		○		31519他		-
854	深鉢	VIIb	C・D-8	IVa・IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	にぶい褐	○	○	○	○		○		21908他		81
855	深鉢	VIIb	B-9	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	褐灰	○	○	○	○		○		45814		-
856	深鉢	VIIb	C-16・D-17・19	埋土	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	灰褐	○	○	○	○				20535他		81
857	深鉢	VIIb	C-8	IVa・IVb・VIIa	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	明赤褐	○	○	○	○			礫	27999他		-
858	深鉢	VIIb	C-8	IVb	ナデ	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○	○	○		○		35356他		-
859	深鉢	VIIb	B-3	IVb	ナデ	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○	○		○		33278		-
860	深鉢	VIIb	C-15	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	灰褐	○	○	○	○			889		-
861	深鉢	VIIb	E・F-10	IVb	ナデ	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○	○		○		35018他		-

第2-5表 後期包含層土器観察表5

挿入 番号	掲載 番号	器種	分類	出土区	層	器面調整等		色 調		胎 土							取上 番号	備考	写真 図版
						外面	内面	外面	内面	石英 長石	角閃石 輝石	褐色粒	金色 雲母	火山 ガラス	軽石	その他			
2-49	862	深鉢	Ⅷb	C-6	IVb	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	灰褐	○	○	○	○			礫	29501他	-	
	863	深鉢	Ⅷb	C-8	IVb	ナデ	ナデ	明赤褐	にぶい赤褐	○		○	○		○		28032他	-	
	864	深鉢	Ⅷb	B-5	IVb	ナデ	ナデ	明赤褐	灰褐	○		○	○		○	礫	31116	-	
2-50	865	深鉢	Ⅷb	D-E-6	IVb	ナデ	ナデ	灰褐	橙	○	○	○	○				32450他	-	
	866	深鉢	Ⅷb	F-8	IVb	ナデ	ナデ	にぶい褐	灰褐	○	○						26137他	-	
	867	深鉢	Ⅷb	8T	IV	ナデ	ナデ	灰褐	橙	○	○		◎		○		8T_34他	確認調査トレンチ	
	868	深鉢	Ⅷb	B-8	IVa・IVb	ナデ	貝殻条痕	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	○				21575他	-	
	869	深鉢	Ⅷb	E-8	IVa	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	○		○		22143	-	
	870	深鉢	Ⅷb	C-3	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	にぶい橙	○	○		○		○		26430	-	
	871	深鉢	Ⅷb	F-14	埋土	ナデ	貝殻条痕→ナデ	黄灰	にぶい褐	○	○	○	○				4288	-	
2-51	872	深鉢	Ⅷb	D-12	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	橙	にぶい褐	○	○	○			○		15524	81	
	873	深鉢	Ⅷb	D-6	IVb	ナデ	ナデ	灰黄褐	褐灰	○	○	○			○		46446他	81	
	874	深鉢	Ⅷb	D-14	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	明赤褐	○	○		◎		○		10013他	-	
2-52	875	深鉢	Ⅷb	D-16	IVb	ナデ	工具ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○	◎		○		6765他	-	
	876	深鉢	Ⅷb	D-E-16	IVb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	○				5641他	80	
2-53	877	深鉢	Ⅷc	C-15	IVa	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	灰褐	にぶい橙	○	○			○			2010	圧痕分析試料	
	878	深鉢	Ⅷb	B-3	IVb	ナデ	ナデ	橙	にぶい赤褐	○	○	○	○		○		33316他	80	
2-54	879	深鉢	Ⅷc	B-9	VI	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○	○				53805	82	
	880	深鉢	Ⅷc	D-15	-	ナデ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○				SD3_埋土	SD3→近世SD13	
	881	深鉢	Ⅷc	D-3	IVb	ナデ	ナデ	暗灰黄	にぶい黄褐	○	○				○		39185	82	
	882	深鉢	Ⅷc	E-14	IVb	ナデ	ナデ	褐灰	灰黄褐	○	○		○				14003	-	
	883	深鉢	Ⅷc	B-3	IVb	工具ナデ	工具ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○	○	◎				26539他	82	
	884	深鉢	Ⅷc	C-14	IVb	ナデ	ナデ	にぶい橙	灰黄褐	○	○	○	○				10236	82	
	885	深鉢	Ⅷc	D13	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	◎		○		20934	82	
	886	深鉢	Ⅷc	B-1・C-16	IVb・VI	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○		◎				14087他	82	
	887	深鉢	Ⅷc	C-4	IVb	ナデ	ナデ	橙	にぶい赤褐	○	○		○		○		39595	82	
2-55	888	深鉢	Ⅷc	C-17	IVb	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○	○	◎				13601	82	
	889	深鉢	Ⅷc	E-4	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○		◎				31774	82	
	890	深鉢	Ⅷc	D-15	-	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○		○				SD3_埋土	SD3→近世SD13	
	891	深鉢	Ⅷc	B-3	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	明赤褐	○	○		◎		○		33207他	-	
	892	深鉢	Ⅷc	12T	IV	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○		○		○	礫	12T_168他	78	
2-56	893	深鉢	Ⅷc	E-14	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	灰褐	○	○	○	○				15229	82	
	894	深鉢	Ⅷc	B-12・C-16	III	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい橙	○	○		○				64他	-	
	895	深鉢	Ⅷc	B-3	IVb	ヘラナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい褐	○	○		○		○		33306他	82	
	896	深鉢	Ⅷc	F-8	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕	灰黄褐	にぶい橙	○	○	○	○				26123他	-	
	897	深鉢	Ⅷc	C-15	IVb	ナデ	ナデ	にぶい橙	灰黄	○	○		○		○		4221	-	
	898	深鉢	Ⅷc	C-15	IVb	工具ナデ	工具ナデ	にぶい褐	橙	○	○		○		○		17687	82	
	899	深鉢	Ⅷc	D-E-4~7	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	黒褐	にぶい赤褐	○	○		◎				30912他	82	
	900	深鉢	Ⅷ	B-5	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	灰赤	褐	○	○	○	○		○		35763他	-	
	901	深鉢	Ⅷ	C-16	IVb	ナデ	ナデ	灰黄褐	褐灰	○	○		○				8009	-	
2-57	902	深鉢	Ⅷ	C-14	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕	にぶい褐	灰黄褐	○	○		◎		○	礫	14127	-	
	903	深鉢	Ⅷ	D-8	IVb	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	黒褐	○	○		○				30996	年代測定試料	
	904	深鉢	Ⅷ	C-2	IVb	ナデ	ヘラナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○		○		○		43901	年代測定試料	
	905	深鉢	Ⅷ	B-3	IVb	ナデ	貝殻条痕	にぶい黄褐	灰黄褐	○	○		◎				42476	年代測定試料	
	906	深鉢	Ⅷ	B-5	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○		○		○		27228他	-	
	907	深鉢	Ⅷ	E-7	IVb	ナデ	貝殻条痕	にぶい黄褐	灰褐	○	○		◎		○		28834他	-	
2-58	908	深鉢	Ⅷ	B-6	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	灰褐	○	○		○				32540他	年代測定試料	
	909	深鉢	Ⅷ	C-D-8	VI	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	にぶい褐	○	○		○		○		48575他	-	
	910	深鉢	Ⅷ	C-3	IVb	ナデ	ヘラナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	○	○		○				31559他	-	
	911	深鉢	Ⅷ	C-9	IVb	ナデ	貝殻条痕→ナデ	灰褐	灰黄褐	○	○		◎				46843	-	
	912	深鉢	Ⅷ	C-8	IVb	ナデ	ナデ	にぶい赤褐	にぶい橙	○	○	○			○		35361	81	
2-59	913	深鉢	Ⅷ	C-7	IVb	ナデ	ナデ	にぶい橙	橙	○	○				○		29829	81	
	914	深鉢	Ⅷ	D-15	IVa	ナデ	ナデ	灰褐	にぶい赤褐	○	○		○				4170	81	
	915	深鉢	Ⅷ	B-16	IVb	ナデ	ナデ	にぶい褐	灰黄褐	○	○		○				13044	81	
	916	深鉢	Ⅷ	B-12	IVb	ナデ	ナデ	にぶい褐	橙	○	○		○		○		11504	81	
	917	深鉢	Ⅷ	D-7	IVb	ナデ・指オサエ	ナデ・指オサエ	橙	橙	○	○		○				25413	81	
	918	深鉢	Ⅷ	D-10	IVb	ナデ	ナデ	にぶい褐	橙	○	○		◎		○		27406	81	
	919	深鉢	Ⅷ	C-15	IVb	ナデ	ヘラナデ	明赤褐	にぶい黄褐	○	○				○		9110	81	
	920	深鉢	IXa	E-3	Ⅷa	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	橙	○	○						52664	-	
	921	深鉢	IXa	D-12	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	褐灰	褐灰	○	○		◎		○		15525	83	
2-60	922	深鉢	IXa	D-5	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕	灰黄褐	にぶい褐	○	○		○		○		32423他	83	
	923	深鉢	IXa	D-4	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○		◎				-	-	
	924	深鉢	IXa	E-16	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○		○		○		6407	83	
	925	深鉢	IXa	D-15	-	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○		○				SD3_埋土	SD3→近世SD13	
	926	深鉢	IXa	B-6	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	橙	○	○		○				31029	83	
	927	深鉢	IXa	B-7	IVb	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい黄褐	灰黄褐	○	○		○				31925	83	
	928	深鉢	IXa	D-15	-	工具ナデ	工具ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○				○		SD3_埋土	SD3→近世SD13	
	929	深鉢	IXa	B-10	IVb	ナデ	貝殻条痕	にぶい黄褐	灰	○	○		○				28812	83	
	930	深鉢	IXa	D-3	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕	褐	褐	○	○		○				40229	83	
	931	深鉢	IXa	C-16	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	にぶい赤褐	灰褐	○	○		○				7682	83	
	932	深鉢	IXa	C-15	-	貝殻条痕	貝殻条痕	黄灰	にぶい赤褐	○	○						SD3_埋土	SD3→近世SD13	
	933	深鉢	IXa	D-14	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	灰褐	橙	○	○		◎				3587他	-	
2-61	934	深鉢	IXa	E-4	VI	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	明褐	にぶい赤褐	○	○						50116	83	
	935	深鉢	IXa	D-12	IVb	貝殻条痕→ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	○	○		○				15523	-	
	936	深鉢	IXa	E-10	Ⅷb	貝殻条痕	貝殻条痕	黒褐	にぶい赤褐	○	○		◎				53312	-	
	937	深鉢	IXa	C-16	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	褐灰	○	○		○		○		8831他	83	
	938	深鉢	IXa	C-5	IVb	貝殻条痕	貝殻条痕→ナデ	灰褐	橙	○	○		◎				31510	-	
	939	深鉢	IXa	12T	IV	ナデ	ナデ	橙	にぶい赤褐	○	○		○				12T_152他	確認調査トレンチ	
	940	深鉢	IXa	D-E-5	Ⅲ~Ⅴ	貝殻条痕→ナデ	貝殻条痕→ナデ	橙	にぶい橙	○	○		○				-	83	
	941	深鉢	IXa	D-7	IVb	貝殻条痕	ナデ	にぶい褐	にぶい赤褐	○	○		◎				32588	83	
	942	深鉢	IXa	D-14	IVb	ナデ	貝殻条痕	灰褐	にぶい赤褐	○	○						4693	-	

第2-7表 土器底部観察表 1

挿図番号	掲載番号	分類	出土区	層	色調		胎土							底径(cm)	器高(cm)	取上番号	備考	写真図版	
					外面	内面	石英長石	角閃石輝石	褐色粒	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他						
2-76	1020	網代	C-4	IVb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○			11.40	(8.50)	37912		88	
	1021	網代	12T	IV	赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○			10.10	(10.50)	12T-035他		-	
	1022	網代	D-E-7	IVa	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○		磔	9.50	(13.20)	21983他		-	
	1023	網代	C-15	IVb	にぶい黄褐	赤褐	○	○	○	○	○			10.40	(12.20)	12047他		-	
2-77	1024	網代	B-C-6	IVb	赤褐	赤褐	○	○	○	○	○		磔	12.70	(12.30)	29439他		-	
	1025	網代	C-15	IVb	褐	黒褐	○	○	○	○	○		磔	(8.80)	(12.10)	1424他		-	
	1026	網代	C-7	VIa	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○	○		(9.00)	(9.20)	53653他		-	
	1027	網代	C-3	IVb	褐	褐	○	○	○	◎	○			10.90	(4.60)	41696		-	
	1028	網代	B-3	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○	○			(10.00)	(5.20)	43644他		-	
	1029	網代	C-7	IVb	明褐	明褐	○	○	○	○	○			(9.00)	(4.80)	35419		-	
	1030	網代	F-5	IVb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	◎	○			10.20	(5.50)	45658		88	
	1031	網代	C-4-D-3	IVb	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○		磔	12.00	(4.90)	36108他		-	
2-78	1032	網代	B-5	IVb	褐	褐	○	○	○	○	○			7.80	(6.80)	32850		-	
	1033	網代	F-4	IVb	明赤褐	明赤褐	○	○	○	○	○			12.20	(5.80)	25931		-	
	1034	網代	D-14	IVb	にぶい黄褐	褐	○	○	○	○	○			9.80	(5.10)	9986		-	
	1035	網代	C-7	IVb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○			8.20	(4.40)	29809		-	
	1036	網代	F-7	VIIb	赤褐	赤褐	○	○	○	○	○			6.40	(5.30)	53527		-	
	1037	網代	B-5	IVb	褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○			9.00	(4.50)	33776他		88	
	1038	網代	C-16	IVb	褐	褐	○	○	○	○	○			7.50	(4.40)	13078		88	
	1039	網代	B-4	IVb	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○	○	○			6.50	(4.50)	38363		-	
	1040	網代	D-14	IVb	黄褐	にぶい橙	○	○	○	○	○			(6.40)	(3.70)	10023		-	
	1041	網代	B-5	IVb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○			9.00	(4.80)	33802		-	
	1042	網代	E-14	IVb	褐	褐	○	○	○	○	○			10.00	(2.70)	14002		88	
	1043	網代	D-16	IVa	褐	褐	○	○	○	◎	○			9.80	(5.00)	3154		-	
	1044	網代	B-19	IVb	褐	褐	○	○	○	◎	○	○		9.90	(3.90)	4924他		88	
	1045	網代	B-6	IVb	にぶい橙	にぶい橙	◎	○	○	◎	○			(11.00)	(4.30)	31959	クロゴキブリ卵鞘圧痕土器	88	
	2-79	1046	網代→ナデ	D-3	IVb	褐	赤褐	○	○	○	○	○		○	10.70	(9.80)	41892		-
1047		網代→ナデ	B-4・5	IVb	にぶい黄褐	暗褐	○	○	○	○	○			9.20	(9.90)	31385他		88	
1048		網代→ナデ	C-32	IVb	にぶい赤褐	暗赤褐	○	○	○	○	○			7.80	(5.80)	104319		-	
1049		網代→ナデ	B-6	IVa	赤褐	褐	○	○	○	○	○			7.20	(7.30)	23373他		-	
1050		網代→ナデ	12T	IV	にぶい黄褐	明赤褐	○	○	○	○	○			(12.00)	(7.50)	12T-089他		-	
1051		網代→ナデ	B-3	IVb	にぶい黄褐	赤褐	○	○	○	○	○			10.80	(4.50)	33363		-	
1052		網代→ナデ	D-17	IVb	赤褐	赤褐	○	○	○	◎	○		磔	10.20	(6.30)	7800		-	
1053		網代→ナデ	B-7	IVb	にぶい黄褐	明赤褐	○	○	○	○	○	○	磔	9.20	(4.10)	32694他		-	
2-80	1054	網代→ナデ	B-4	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○	○		磔	9.10	(3.60)	32215他		-	
	1055	網代→ナデ	B-6	IVa	褐	褐	○	○	○	○	○			9.60	(4.00)	25493他		-	
	1056	網代→ナデ	C-4	IVb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○			8.20	(5.50)	39930他		-	
	1057	網代→ナデ	B-4	IVb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○			9.40	(5.20)	32073他		-	
	1058	網代→ナデ	D-14	IVb	にぶい褐	橙	○	○	○	○	○		磔	9.20	(2.70)	4704		-	
	1059	網代→ナデ	B-3	IVb	にぶい褐	灰黄褐	○	○	○	○	○			(8.00)	(4.10)	41206		-	
	1060	網代→ナデ	12T	IV	褐	にぶい黄橙	○	○	○	○	○			7.60	(3.00)	12T-埋土		-	
	1061	網代→ナデ	D-3	IVb	にぶい黄橙	にぶい黄橙	◎	○	○	○	○			7.50	(2.40)	27644		-	
	1062	網代→ナデ	C-15	IVb	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	◎	○			10.00	(9.80)	17828		-	
	1063	網代→ナデ	B-5	IVb	にぶい褐	明赤褐	○	○	○	○	○	○			8.00	(7.20)	30205他		-
	1064	網代→ナデ	D-5	IVa	褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○			10.00	(5.70)	25540		-	
	1065	網代→ナデ	B-3	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○	○			9.90	(2.10)	40548		-	
	1066	網代→ナデ	C-10	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○			10.00	(3.70)	28800		-
1067	網代→ナデ	D-11	IVa	にぶい黄橙	褐灰	○	○	○	○	○	◎		(11.00)	(3.60)	5335		-		
2-81	1068	網代→ナデ	C-9	IVb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○			9.10	(4.10)	28173		-	
	1069	網代→ナデ	F-7	IVa	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○	○			8.20	(5.10)	23487他		-	
	1070	網代→ナデ	B-4	IVb	にぶい黄褐	赤褐	○	○	○	○	○			(9.00)	(3.70)	35553他		-	
	1071	網代→ナデ	D-35	IVa	褐	黒褐	○	○	○	○	○		磔	6.40	(3.50)	101359他	内面に煤付着	-	
	1072	モジリ	B-5	IVb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○			11.20	(5.10)	32041他		88	
	1073	モジリ	C-4	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○	○			10.20	(6.80)	36114他		-	
	1074	モジリ	B-9・10・C-10	IVb	にぶい黄褐	褐	○	○	○	◎	○			9.50	(5.70)	47074他		88	
	1075	モジリ	D-5	IVb	褐	褐	○	○	○	○	○			9.80	(4.50)	32420		-	
	1076	葉脈	C-4	IVb	褐	にぶい褐	○	○	○	○	○			6.80	(2.90)	26374		88	
	1077	葉脈	B-7	VIIb	褐	にぶい褐	○	○	○	◎	○			6.20	(4.00)	54178		88	
2-82	1078	葉脈	E-7	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○	○			5.60	(4.60)	38210		-	
	1079	その他	B-5	IVb	褐	褐	○	○	○	○	○			12.30	(6.70)	30112他		-	
	1080	高台	D-7	IVb	にぶい黄褐	黒褐	○	○	○	○	○		磔	9.60	(7.70)	47707		-	
	1081	高台	F-5	IVb	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	○	○			8.80	(3.50)	25928		-	
	1082	高台	C-6	IVb	明褐	明褐	○	○	○	○	○			6.80	(3.40)	29468		-	
	1083	高台	C-7	IVb	明褐	褐	○	○	○	○	○			9.40	(2.70)	29805		-	
	1084	高台	B-9	IVa	にぶい黄褐	黒褐	○	○	○	○	○			8.60	(3.60)	28144		-	
	1085	その他	C-4	IVb	褐	褐	○	○	○	○	○		磔	10.30	(5.30)	31404		88	
	1086	高台	C-8	IVb	褐	褐	○	○	○	○	○			9.40	(6.10)	35373		-	
	1087	高台	F-15	IVb	にぶい黄褐	褐	○	○	○	○	○			8.90	(4.20)	20364		-	
	1088	高台	B-9	IVb	明褐	明褐	○	○	○	○	○			11.90	(4.00)	29644		-	
2-83	1089	高台	C-9	VIIb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○			8.30	(3.20)	54800		-	
	1090	高台	C-11	IVb	褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○			7.30	(3.40)	24977他		-	
1091	高台	D-15	IVb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○			9.20	(5.50)	6889		-		

第2-8表 土器底部観察表2

挿図番号	掲載番号	分類	出土区	層	色調		胎土							底径(cm)	器高(cm)	取上番号	備考	写真図版
					外面	内面	石英長石	角閃石輝石	褐色粒	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他					
2-83	1092	高台	E-8	IVa	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○		○			9.30	(5.50)	28039		-
	1093	高台	C-6	IVa	黒褐	にぶい黄褐	○	○	○		○	○	礫	7.20	(2.70)	25562		-
	1094	高台	D-8	IVb	にぶい黄褐	褐	○	○	○		○		礫	8.00	(3.20)	28626他		-
	1095	高台	C-6	IVa	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○	○		○		9.90	(4.30)	23402他		-
	1096	高台	E-11	IVb	にぶい黄褐	赤褐	○	○	○	○				9.60	(3.30)	18288		88
	1097	高台	D-15	IVb	にぶい黄褐	黄褐	○	○	○	○	○	○		8.00	(2.90)	11929		88
	1098	高台	C-9	VI	褐	褐	○	○	○	○				6.80	(3.40)	48769		-
	1099	高台	F-14	IVb	褐	褐	○	○	○	○				7.80	(2.40)	24932		-
	1100	高台	C-12	IVb	にぶい黄褐	サ-ブ 褐	○	○	○	○		○		8.20	(2.50)	10709		-
	1101	高台	C-16	IVb	にぶい黄褐	黄褐	○	○	○	○	○			8.80	(3.00)	4090		-
	1102	高台	B-7	IVb	褐	褐	○	○	○	○		○		6.70	(3.10)	31931		-
	1103	高台	C-8	IVb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○		○		8.20	(2.50)	28322他		-
	1104	高台	C-10	IVb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○				8.40	(2.50)	27525		-
	1105	高台	B-9	IVb	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○		○			7.70	(3.40)	47078他		-
1106	高台	B-3	IVb	褐	褐	○	○	○		○	○		6.80	(4.30)	40636		-	

第2-9表 円盤状土製加工品観察表1

挿図番号	掲載番号	分類	出土区	層	色調		胎土							最大長(cm)	重量(g)	取上番号	備考	写真図版
					外面	内面	石英長石	角閃石輝石	褐色粒	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他					
2-86	1107	I-A-a	C-17	IVb	にぶい橙	橙	◎	○	○	○			○	5.50	32.32	8095	VIa	-
	1108	I-A-a	C-4	IVb	褐灰	黄橙	◎	○	○	○				4.00	20.49	31464	VIc	-
	1109	I-A-a	C-4	IVb	褐灰	にぶい橙	○	○	○	○				5.20	25.14	43172	VIc	-
	1110	I-A-b	C-15	IVb	にぶい赤褐	にぶい黄褐	◎	○	○	○		○	礫	6.30	38.10	18670		-
	1111	I-A-a	B-4	IVb	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○				礫	5.10	29.00	18670		87
	1112	I-A-b	D-5	IVb	にぶい褐	にぶい褐	◎	○	○	○				4.80	23.90	32429		-
	1113	I-A-a	B-5	IVb	褐灰	にぶい褐	○	○	○	◎		○	礫	4.50	19.46	40093	VIIb	-
	1114	I-A-b	D-16	IVb	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	○		◎		5.00	20.52	5602	VIIb	-
	1115	I-A-b	B-4	IVb	にぶい黄褐	灰黄褐	○	○	○	○				4.70	17.93	39425		-
	1116	I-A-c	D-16	IVb	橙	橙	◎	○	○	○		○		4.20	22.75	6961		-
	1117	I-A-b	D-12	IVb	にぶい赤褐	黒褐	○	○	○	◎		○		4.20	17.33	24465		-
	1118	I-A-b	C-15	IVb	にぶい褐	にぶい褐	◎	○	○	○				5.60	30.99	14710		87
	1119	I-A-a	E-3	IVb	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○	○			○		6.20	47.40	27707		87
	1120	I-A-b	D-14	IVb	にぶい褐	灰黄褐	◎	○	○	◎				5.50	24.25	10024	VIIc	-
	1121	I-A-a	D-12	IVb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	◎		○		4.60	34.80	20911		-
	1122	I-A-c	C-15	IVb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○		○		4.80	25.13	19829		-
	1123	I-A-c	B-4	IVb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○		○	○		4.20	18.26	38432		-
	1124	I-A-b	12T	IV	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○				4.00	13.61	143		-
	1125	I-A-a	B-10	IVb	灰褐	にぶい褐	◎	○	○	○				4.80	24.26	45284	VIIIa	-
	1126	I-A-a	F-7	VI	明赤褐	明赤褐	○	○	○		○			4.50	20.19	48828	VII	87
	1127	I-A-a	E-6	IVb	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○				4.90	29.28	44858		87
	1128	I-A-b	D-2	IVb	にぶい赤褐	にぶい黄褐	○	○	○					4.20	17.73	42887		-
	1129	I-B-a	B-3	VIb	にぶい褐	黒	○	○	○					4.80	31.02	33362		-
	1130	I-B-a	D-9	IVa	黒褐	褐	○	○	○	○		○		4.20	17.23	22626		-
1131	I-B-c	E-6	VII	明褐	黒褐	○	○	○					4.80	31.21	52961		-	
1132	I-B-b	F-7	IVb	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○					4.60	29.94	47415		-	
1133	I-B-a	F-4	IVb	赤褐	赤褐	○	○	○	○				4.30	20.80	43041		-	
2-87	1134	II-A-a	C-2	IVb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	◎	○	○	◎		○	5.40	33.92	31606		87	
	1135	II-A-a	B-10	IVa	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○		礫	5.20	20.88	27802	V	87	
	1136	II-A-a	B-4	IVb	にぶい赤褐	灰黄褐	○	○	○	○			4.00	17.11	39341	V	87	
	1137	II-A-a	C-5	IVb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○			4.70	23.68	32948		-	
	1138	II-A-a	D-14	IVb	にぶい褐	黒褐	○	○	○	○			5.80	26.24	11066		-	
	1139	II-A-a	C-16	IVb	赤褐	褐灰	○	○	○	○		礫・黒雲母	4.60	28.19	9571	VIII	-	
	1140	II-A-a	D-16	IVb	暗褐	暗褐	○	○	○	○			6.70	50.56	6198		-	
	1141	II-A-a	B-5	IVb	褐	褐	○	○	○	○		礫	5.20	25.03	32012		-	
	1142	II-A-a	D-8	IVb	橙	にぶい黄褐	○	○	○				5.00	19.43	30554		-	
	1143	II-A-a	B-6	IVb	にぶい赤褐	褐	◎	○	○	○			4.60	21.31	36692		-	
	1144	II-A-a	B-5	IVb	黒褐	褐	○	○	○	○			4.60	24.03	33679		-	
	1145	II-A-a	C-3	IVb	灰黄褐	赤褐	◎	○	○	○			5.10	32.22	40820	VIIb	87	
	1146	II-A-a	D-12	IVb	にぶい赤褐	にぶい黄褐	○	○	○		○		3.90	15.39	15557		-	
	1147	II-A-a	C-11	IVb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○				4.90	22.87	18425		-	
	1148	II-A-a	F-7	IVa	にぶい赤褐	黒褐	○	○	○	○			3.80	18.25	23549		-	
	1149	II-A-a	D-17	IVb	褐	褐	◎	○	○	○			6.30	35.61	7794	VIII	87	
	1150	II-A-a	C-17	IVb	褐	褐	○	○	○	◎			6.00	39.46	8567		-	
	1151	II-A-a	E-10	IVb	にぶい褐	にぶい褐	◎	○	○				4.80	26.55	35029		87	
	1152	II-A-a	B-17	IVb	黒褐	にぶい赤褐	◎	○	○	○			4.90	35.33	9419	VIII	-	
	1153	II-A-a	D-10	IVb	灰褐	黒褐	○	○	○	○			4.50	21.63	44390		-	
1154	II-A-a	F-11	IVa	灰褐	にぶい赤褐	○	○	○	○			4.10	16.43	23855		-		
1155	II-A-a	C-11	VI	赤褐	黒褐	○	○	○				4.80	21.07	25002	VIII	87		
1156	II-A-a	B-4	IVb	にぶい褐	黒褐	○	○	○				5.10	25.30	35628		-		
1157	II-A-a	C-5	IVb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	◎		○	礫	4.30	19.91	36870		-	

第2-10表 円盤状土製加工品観察表2

挿図 番号	掲載 番号	分類	出土区	層	色 調		胎 土							最大長 (cm)	重量 (g)	取上 番号	備考	写真 図版	
					外面	内面	石英 長石	角閃石 輝石	褐色粒	金色 雲母	火山 ガラス	軽石	その他						
2-87	1158	II-A-a	B-17	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○		○					5.00	23.98	9421		-
	1159	II-A-a	B-3	IVb	赤褐	赤褐	○	○		○	○	○			4.80	31.53	33192		-
	1160	II-A-a	F-18	IVb	赤褐	赤褐	○		○	○		○			5.00	30.53	20464		-
2-88	1161	II-A-a	D-15	IVb	黒褐	にぶい黄褐	○								6.00	48.18	14687	VI	87
	1162	II-A-b	8T	IV	にぶい黄褐	明赤褐	◎	○		○					5.80	36.58	7	VI	-
	1163	II-A-a	C-16	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○		○					4.90	27.37	11818	VI	-
	1164	II-A-a	B-5	IVb	褐	黒褐	○	○	○	○					5.20	28.63	30161	VI	-
	1165	II-A-a	C-15	IVb	暗赤褐	褐	◎		○	◎		○			5.20	29.97	14752	VII b	-
	1166	II-A-b	B-10	VI	灰黄褐	にぶい赤褐	○	○							5.60	32.75	53982	V b	87
	1167	II-A-b	B-4	IVb	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○		○			○			4.70	29.61	41012	V b	-
	1168	II-A-b	D-9	IVb	にぶい褐	にぶい黄褐	○		○	○				礫	5.20	25.94	47232	V a	-
	1169	II-A-b	B-5	IVb	黒褐	にぶい褐	○		○	○					4.90	23.29	44914	VII b	-
	1170	II-A-a	C-14	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○						4.40	23.50	12688	V b	-
	1171	II-A-b	C-16	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○			○					3.40	12.03	8771		-
	1172	II-A-b	C-16	IVb	赤褐	赤褐	○	○							4.40	29.81	9568		-
	1173	II-A-a	C-8	IVb	黒褐	にぶい赤褐	○	○		◎		○			6.00	45.54	34747	VIII	87
	1174	II-A-a	C-4	IVb	黒褐	にぶい褐	○			○					6.00	37.02	44608	VI	87
	1175	II-A-a	B-9	VI	にぶい橙	にぶい赤褐	○			○			礫		5.80	26.58	一括	VII b	87
	1176	II-A-a	B-4	IVb	黒褐	にぶい黄褐	○	○	○	○		○			4.50	20.31	31160	VII c	-
	1177	II-A-b	C-16	IVb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○				○			4.20	16.59	8507		-
	1178	II-A-b	B-11	IVb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○				○		礫		4.40	18.94	10813		-
	1179	II-A-b	12T	VI	にぶい褐	にぶい橙	○		○		○				2.70	7.14	-		-
	1180	II-A-a	B-5	IVb	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	○		○			6.70	45.04	33751		-
	1181	II-A-a	B-3	IVb	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○		○	○					4.70	19.53	41541		-
	1182	II-A-a	C-5	IVb	暗赤褐	にぶい褐	○	○	○			○			4.90	32.11	30405		-
	1183	II-A-a	C-4	IVb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○		○	○					5.30	39.64	32504		-
	1184	II-A-a	C-10	IVb	縹・にぶい黄褐	にぶい黄褐	○			○			礫		5.50	26.99	47036		-
	1185	II-A-b	B-3	IVb	にぶい赤褐	灰褐	○	○			○	○			5.90	31.06	42540		-
	1186	II-A-b	B-4	IVb	にぶい黄褐	にぶい褐	○		○	○		○			4.50	22.25	38399		-
	1187	II-A-a	D-15	IVb	にぶい褐	灰褐	○			○					5.20	17.96	10112		-
1188	II-A-b	D-7	IVb	にぶい赤褐	にぶい褐	○	○	○	◎		○			5.20	24.87	22539		-	
1189	II-A-b	C-3	IVb	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	○		○			3.40	9.96	42799	VI	-	
1190	II-A-b	D-10	IVa	橙	にぶい黄褐	○	◎					礫		4.50	21.01	22679		-	
1191	II-A-b	D-16	IVb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	◎	○	○						5.80	37.20	17003		-	
1192	II-A-b	C-10	IVb	明赤褐	にぶい赤褐	○		○	○			礫		6.40	55.17	34785		-	
1193	II-A-b	B-13	IVb	にぶい黄褐	暗判・褐	○	○	○	○					5.30	32.38	15283		-	
1194	II-A-b	B-4	IVb	褐	褐	○		○		○				5.00	29.06	32324	VII	-	
1195	II-A-b	D-6	IVb	褐	にぶい黄褐	○	○	○	○		○			6.30	45.48	46824		-	
1196	II-A-b	B-3	IVb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○		○			5.10	24.00	41990	VII	-	
1197	II-A-b	C-14	III	褐	褐	○	○							5.50	23.79	356		-	
1198	II-A-b	D-8	IVb	暗褐	赤褐	○	○	○	◎			礫		4.80	34.19	46160		-	
1199	II-A-b	F-10	IVb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○					4.90	30.73	47322		-	
1200	II-A-b	C-11	IVb	暗褐	赤褐	○	○			○	○			4.40	20.83	12468		-	
1201	II-A-b	B-12	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○		○			4.70	26.47	12530		-	
1202	II-A-b	E-5	IVb	にぶい赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	◎		○	礫		4.80	34.77	37272		-	
1203	II-A-b	B-3	IVb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○			○		○			4.30	18.54	33314	VII	-	
1204	II-A-b	D-14	IVb	褐	褐	○	○	○	◎			礫		3.70	14.08	9989		-	
1205	II-A-b	B-5	IVb	にぶい赤褐	にぶい褐	○	○	○		○				4.90	28.66	31997	VII	87	
1206	II-A-b	D-16	IVb	にぶい黄褐	にぶい赤褐	○	○	○	○					4.70	28.43	6927		-	
1207	II-A-b	D-14	IVb	灰黄褐	にぶい褐	○		○	◎					4.60	25.80	一括		-	
1208	II-A-b	B-3	IVb	黒褐	赤褐	○		○						4.30	17.30	41260		-	
1209	II-A-b	C-15	IVb	黒褐	黒褐	○		○	○		○	礫		4.40	25.08	18671		-	
1210	II-A-b	D-10	IVb	明赤褐	褐灰	○	○	○		○		礫		3.70	14.11	46961		-	
1211	II-A-b	E-8	IVa	にぶい赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	○		○			4.20	17.17	22004		-	
1212	II-A-b	D-12	IVb	褐	黒褐	◎			○		○	礫		4.60	23.38	24098		-	
1213	II-A-b	C-14	IVb	にぶい黄褐	赤褐	○	○							5.20	33.24	4609	VII	-	
1214	II-A-b	E-8	IVb	にぶい褐	にぶい赤褐	○		○	◎					4.60	15.66	30533		-	
1215	II-A-b	E-10	VII	にぶい褐	灰黄褐	◎			◎			礫		4.40	23.08	54065		-	
1216	II-A-b	B-3	IVb	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○	○	○					4.60	22.95	26889		-	
1217	II-A-b	D-14	IVb	にぶい赤褐	黒褐	○		○	○		○			5.10	33.53	11058		-	
1218	II-A-b	C-5	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○		○			5.60	40.54	33937		-	
1219	II-A-b	F-11	VII a	暗赤褐	暗赤褐	○		○	○		○			5.40	26.82	23935		-	
1220	II-A-b	C-14	IVb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○			○		○			4.90	21.13	10835	VI	-	
1221	II-A-b	B-3	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○		○			4.00	21.86	40637		-	
1222	II-A-b	E-3	IVb	にぶい褐	黄灰	○						礫		4.20	26.18	37119		-	
1223	II-A-b	B-5	IVb	明赤褐	明赤褐	○	○	○	○		○			5.80	35.71	30256	VII	87	
1224	II-A-b	F-7	IVa	にぶい褐	赤褐	○	○	○	○		○			5.10	27.68	23541		-	
1225	II-A-b	D-7	IVb	にぶい赤褐	赤褐	○	○			○				5.60	26.40	30934		-	
1226	II-A-b	F-11	VII a	にぶい褐	褐	○	○	○	○		○			5.40	38.87	23950	VII	-	
1227	II-A-b	B-7	IVb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○		○			4.10	22.85	26733		-	
1228	II-A-b	C-10	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○					5.10	28.69	28792	VII	-	
1229	II-A-b	D-3	IVb	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○			○			5.10	27.91	39152		-	

第2-11表 円盤状土製加工品観察表3

挿図 番号	掲載 番号	分類	出土区	層	色 調		胎 土							最大長 (cm)	重量 (g)	取上 番号	備考	写真 図版	
					外面	内面	石英 長石	角閃石 輝石	褐色粒	金色 雲母	火山 ガラス	軽石	その他						
2-90	1230	II-A-b	B-8	IVa	にぶい赤褐	赤褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.60	17.84	22391		-
	1231	II-A-b	C-7	IVb	黒褐	黒褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.80	21.51	45776		-
	1232	II-A-b	B-9	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.70	27.86	30723		-
	1233	II-A-b	F-11	VIIb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○	○	○	○	○	5.20	21.94	埋土		-
	1234	II-A-b	D-15	VI	にぶい赤褐	黒褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.50	20.04	一括		-
	1235	II-A-b	12T	IV	にぶい褐	褐	○	○	○	○	○	○	○	○	5.20	33.78	74		-
	1236	II-A-b	D-9	IVb	にぶい赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○	○	○	○	5.70	31.66	34849		-
	1237	II-A-b	D-14	IVb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.70	22.25	9984		-
	1238	II-A-b	C-16	IVb	にぶい褐	灰褐	○	○	○	○	○	○	○	○	5.00	30.03	11827		-
	1239	II-A-b	F-7	IVa	褐	褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.10	16.42	23495		-
	1240	II-A-b	C-2	IVb	褐	明赤褐	○	○	○	○	○	○	○	○	5.10	27.97	42318		-
	1241	II-A-b	D-10	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.90	28.17	29123		-
	1242	II-A-b	C-16	IVb	褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○	○	○	○	5.40	28.54	20286		-
	1243	II-A-b	D-15	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.40	25.81	14538		-
2-91	1244	II-A-b	C-3	IVb	にぶい赤褐	明赤褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.80	29.66	42388		-
	1245	II-A-c	C-9	IVb	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○	○	○	○	○	○	○	4.60	25.63	46837		-
	1246	II-A-c	C-13	IVb	黒褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○	○	○	○	5.40	26.46	9853		87
	1247	II-A-b	F-6	IVb	褐灰	灰黄褐	○	○	○	○	○	○	○	○	6.00	33.10	30020	IX	-
	1248	II-A-b	3T	IV	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	○	3.90	15.55	159		-
	1249	II-A-b	D-15	IVb	黒褐	黒褐	○	○	○	○	○	○	○	○	5.10	27.02	5513	VIII	-
	1250	II-A-b	D-12	IVb	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.40	23.88	10743		-
	1251	II-A-c	E-15	IVa	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	○	○	○	○	○	3.90	20.23	326		-
	1252	II-A-b	D-9	Va	黒褐	にぶい赤褐	○	○	○	○	○	○	○	○	5.70	40.23	48450	VIII	87
	1253	II-A-c	D-15	IVb	赤褐	赤褐	○	○	○	○	○	○	○	○	3.80	14.39	14545		-
	1254	II-A-c	B-16	IVb	赤褐	赤褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.20	24.20	16173		-
	1255	II-A-b	C-15	IVb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○	○	○	○	3.60	12.74	4667		-
	1256	II-A-c	C-16	IVb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○	○	○	○	○	3.70	16.59	19707		-
	1257	II-A-b	C-6	IVa	灰褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.70	21.19	21698	VIIIa	-
	1258	II-A-b	B-10	IVa	黒褐	黒褐	○	○	○	○	○	○	○	○	5.10	28.88	54493		-
	1259	II-A-b	D-4	IVb	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○	○	○	○	5.70	29.44	41006		-
	1260	II-A-b	D-7	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	○	5.50	39.56	32607		-
	1261	II-A-c	E-10	VIIb	にぶい黄橙	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.00	23.03	54664		-
	1262	II-A-b	D-3	IVb	黒褐	褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.50	18.32	39038		-
	1263	II-A-b	B-4	IVb	褐	褐	○	○	○	○	○	○	○	○	3.90	13.92	38502		-
	1264	II-A-b	E-6	VIIb	暗赤褐	黒褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.00	16.28	54581		-
	1265	II-A-b	D-14	IVb	明赤褐	黒褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.20	20.61	11011		-
	1266	II-A-c	D-13	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	○	3.70	13.49	22526		-
	1267	II-A-c	D-5	IVb	にぶい黄橙	黒褐	○	○	○	○	○	○	○	○	3.80	12.63	35116		-
	1268	II-A-c	C-17	IVb	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	○	○	○	○	○	5.40	36.41	9459		-
	1269	II-A-c	B-10	IVb	黒褐	黒褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.30	25.63	28527		-
	1270	II-A-c	C-4	IVb	黒褐	褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.60	23.70	34141		-
2-92	1271	II-A-c	D-8	IVb	黒褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	○	7.70	88.26	45471	VI	87
	1272	II-A-c	C-4	IVb	黒褐	明褐	○	○	○	○	○	○	○	○	5.50	28.94	36359		-
	1273	II-A-c	D-3	VII	明赤褐	明赤褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.10	27.97	52608		-
	1274	II-A-c	B-3	IVb	にぶい橙	にぶい黄褐	○	○	○	○	○	○	○	○	3.70	16.40	44657		-
	1275	II-A-c	D-15	IVa	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○	○	○	○	○	7.10	64.63	12832	VI	-
	1276	II-A-c	F-11	VIIa	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○	○	○	○	○	6.30	39.52	23934	VIII	-
	1277	II-A-c	D-8	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.30	21.85	48250		-
	1278	II-A-c	B-3	IVb	暗褐	暗褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.70	24.86	埋土		-
	1279	II-A-c	C-8	IVb	暗褐	にぶい赤褐	○	○	○	○	○	○	○	○	5.20	28.01	30576		-
	1280	II-A-c	B-5	IVb	赤褐	褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.70	32.78	38563	VIIb	87
	1281	II-A-c	E-3	IVb	黒褐	明赤褐	○	○	○	○	○	○	○	○	5.00	40.34	27737	VII	-
	1282	II-A-c	C-9	IVb	赤褐	黒褐	○	○	○	○	○	○	○	○	5.20	28.96	47181	VII	-
	1283	II-A-c	D-3	IVb	にぶい黄	にぶい橙	○	○	○	○	○	○	○	○	5.00	26.21	39059	VIIb	-
	1284	II-A-c	E-3	VI	赤褐	灰褐	○	○	○	○	○	○	○	○	3.80	13.44	43856	VIII	87
	1285	II-A-c	C-16	IVb	赤褐	にぶい橙	○	○	○	○	○	○	○	○	4.80	14.69	11668		-
	1286	II-A-c	12T	IV	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	○	○	○	○	○	4.50	11.02	33		87
	1287	II-A-c	C-16	IVb	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.10	13.58	13166		-
	1288	II-A-c	B-17	IVb	にぶい黄褐	暗赤褐	○	○	○	○	○	○	○	○	5.50	27.69	9414		-
	1289	II-A-c	E-11	IVa	にぶい赤褐	にぶい橙	○	○	○	○	○	○	○	○	5.30	33.86	44393		-
	1290	II-A-c	F-9	IVb	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.90	21.14	34931		-
	1291	II-A-c	D-9	IVa	褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○	○	○	○	5.10	34.08	28375		-
	1292	II-A-c	D-10	IVb	暗褐	黒	○	○	○	○	○	○	○	○	4.60	22.32	45489		-
	1293	II-A-c	C-6	IVa	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	○	○	○	○	4.60	22.29	23413		-
	1294	II-A-c	C-3	IVb	にぶい赤褐	灰褐	○	○	○	○	○	○	○	○	5.30	36.15	34469		-
	1295	II-A-c	B-12	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	○	5.10	31.75	9130		-
	1296	II-A-c	F-18	IVb	赤褐	にぶい褐	○	○	○	○	○	○	○	○	5.00	30.53	20454他		-
	2-93	1297	II-B-a	F-4	IVb	明赤褐	明赤褐	○	○	○	○	○	○	○	6.10	45.39	31878		-
1298		II-B-c	D-9	IVa	にぶい赤褐	にぶい橙	○	○	○	○	○	○	○	5.40	37.13	24318		-	
1299		II-B-b	B-4	IVb	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	○	○	○	○	5.50	31.57	42285		87	
1300		II-B-a	B-8	IVb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○	○	○	○	4.70	33.26	28277		-	
1301	II-B-b	C-8	IVb	にぶい橙	明赤褐	○	○	○	○	○	○	○	5.90	32.49	28321		-		

第2-12表 円盤状土製加工品観察表4

挿図 番号	掲載 番号	分類	出土区	層	色 調		胎 土							最大長 (cm)	重量 (g)	取上 番号	備考	写真 図版	
					外面	内面	石英 長石	角閃石 輝石	褐色粒	金色 雲母	火山 ガラス	軽石	その他						
2-93	1302	II-B-b	B-4	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○		○					5.30	37.34	43411		-
	1303	II-B-b	E-10	VIIb	黒褐	褐	○	○		◎			○		5.50	35.61	54656		-
	1304	II-B-b	E-10	IV	黒褐	にぶい黄橙	○	○	○			○			5.00	26.99	54396		-
	1305	II-B-a	E-16	IVb	赤褐	赤褐	○	○	○						5.20	31.15	6374		-
	1306	II-B-b	12T	IV	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○			○		5.50	27.29	150		-
	1307	II-B-b	B-5	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○						4.60	21.49	30258		-
	1308	II-B-a	E-9	IVb	黒褐	赤褐	○	○	○	○			○		5.00	35.11	29343		-
	1309	II-B-b	D-5	IVb	灰黄褐	明赤褐	○	○	○	○			○		4.80	30.80	35191		-
	1310	II-B-a	D-16	IVb	暗赤褐	暗赤褐	○	○	○			○			5.00	24.24	7234		-
	1311	II-B-c	C-7	IVb	にぶい橙	褐灰	○	○	○				○		4.60	26.08	46713		-
	1312	II-B-b	C-16	IVb	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○				○		4.90	39.99	9375		-
	1313	II-B-c	B-5	IVb	赤褐	黒褐	○	○	○	○					4.90	27.75	42029		87
	1314	II-B-c	C-4	IVb	にぶい黄橙	黄褐	○	○	○				○		4.50	18.00	39501	孔あり貫通せず	87
	1315	II-B-c	E-16	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○					4.50	26.94	7526		-
	1316	II-B-c	D-15	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	◎					4.00	14.76	12937		-
	1317	II-B-c	B-8	IVb	にぶい褐	明赤褐	○	○	○	○			○		4.40	22.54	29761		-
	1318	II-B-c	D-8	VII	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○			○	○		3.80	21.24	53718		-
	2-94	1319	III-a	C-2	IVb	黒褐	にぶい橙	○	○	○					9.70	143.70	43911		-
1320		III-a	D-11	IVb	褐灰	にぶい橙	○	○	○	○				9.70	131.90	15789	網代	-	
1321		III-c	F-4	IVb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○			○	○		9.20	129.00	37138		-
1322		III-b	F-4	VII	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○				○		5.80	39.48	51716		-
1323		III-a	C-5	IVa	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○				○		7.60	76.26	33020	網代	-
1324		III-a	C-8	IVb	明赤褐	明赤褐	○	○	○				○	礫	5.60	39.97	埋土	網代	-
1325		III-a	C-23	IVb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○					5.80	37.70	9278		87
1326		III-a	D-5	IVb	明褐	明褐	○	○	○					礫	7.60	49.51	35188	網代	-
1327		III-c	B-3	IVb	褐	褐	○	○	○	○					5.80	47.14	39769		-
1328		III-b	C-15	IVb	にぶい褐	にぶい赤褐	○	○	○	○			○		6.70	108.81	8864	網代	-
1329	III-b	C-4	IVb	明褐	明褐	○	○	○				○	礫	5.20	39.14	31437		-	
2-95	1330	IV-a	C-4	IVb	褐灰	にぶい赤褐			○	○		○		4.50	11.17	34236		-	
	1331	IV-b	D-4	IVb	褐灰	にぶい褐	○	○	○	○		○		5.20	28.86	46941	VIc	-	
	1332	IV-b	F-11	IVa	にぶい褐	灰黄褐	○	○	○					4.10	16.49	埋土	IXa	-	
	1333	IV-b	C-14	IVb	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○			○	○	礫	5.70	28.22	18718		-
	1334	IV-c	D-13	埋土	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	○				礫	5.50	34.93	18159	VIIa	-
	1335	IV-c	C-14	IVb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○						4.40	14.49	8930		-
	1336	IV-c	B-3	IVb	赤褐	赤褐	○	○	○	○			○		5.50	17.04	42522		-
	1337	IV-c	B-3	IVb	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○					5.80	36.62	40578	VII	-
	1338	IV-a	B-3	IVb	赤褐	赤褐	○	○	○						6.10	17.76	不明		-
	1339	IV-a	D-16	IVa	明赤褐	灰褐	○	○	○						5.00	17.39	2222		-
	1340	IV-c	C-3	IVb	にぶい橙	黒褐	○	○	○						4.50	10.10	41736		-
	1341	IV-c	B-6	IVb	にぶい褐	黒褐	○	○	○	○					5.40	21.72	26760		-
	1342	IV-c	B-6	IVb	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○	○					5.30	17.59	34683		-
	1343	IV-a	C-4	IVb	にぶい褐	にぶい赤褐	○	○	○	○			○		8.10	94.22	33560		-
	1344	IV-a	B-2	IVb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○						8.10	57.38	31584	V	87
1345	IV-b	B-13	IVb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○						7.30	51.44	9831		-	
2-96	1346	V-a	C-5	IVb	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○				礫	4.70	14.38	33633	VIIa	-	
	1347	V-a	B-5	IVb	褐灰	にぶい橙	○	○	○	○		○		6.70	29.73	30145	VIIb	-	
	1348	V-a	B-10	IVb	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○				礫	5.40	35.11	34756	VIIa	-	
	1349	V-b	8T	-	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○	○					7.30	52.32	不明-029	VIIb	-	
	1350	V-b	E-6	IVa	にぶい橙	灰黄褐	○	○	○				礫	6.10	45.89	22087	VIIb	-	
	1351	V-b	B-5	IVb	褐灰	にぶい橙	○	○	○					6.80	31.87	34486	VIIb	-	
	1352	V-a	C-5	IVb	灰褐	にぶい褐	○	○	○	○					9.80	85.62	30341	VIIb	-
	1353	V-a	C-6	IVb	にぶい褐	にぶい赤褐	○	○	○	○					6.80	31.56	29875		-
	1354	V-a	B-7	IVb	にぶい赤褐	灰黄褐	○	○	○	○			○		4.70	29.76	31914	VIa	-
	1355	V-b	C-16	IVb	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	○					8.00	72.31	13189		-
	1356	V-b	D-15	IVa	灰褐	にぶい褐	○	○	○	○			○		5.70	27.76	4163	VI	-
	1357	V-b	B-6	IVa	にぶい橙	黒褐	○	○	○				○		4.60	31.22	25522		-
	1358	V-b	D-8	IVb	褐灰	暗灰黄	○	○	○	○			○		6.70	41.74	29071	VIIb	-
	1359	V-b	C-4	IVb	にぶい褐	灰黄褐	○	○	○				○		6.10	23.20	31425	VIIb	-
	1360	V-a	F-10	VIIb	褐	にぶい黄褐	○	○	○						6.60	40.20	54649		-
	1361	V-a	D-18	IVb	黒褐	にぶい赤褐	○	○	○						5.40	27.88	8234		-
	1362	V-b	C-4	IVb	灰褐	にぶい黄褐	○	○	○						6.10	32.41	33903		-
	1363	V-a	D-14	IVb	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○			○		8.90	94.40	4719		-
	1364	V-b	F-8	IVa	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○						6.00	40.99	24116		-
	1365	V-b	B-8	IVb	灰黄褐	灰黄褐	○	○	○	○			○		6.20	33.72	30630		-

第Ⅶ章 縄文時代後期末～弥生時代初頭の調査

縄文時代後期末から弥生時代初頭の遺物は調査区の全域にみられ、第2-97図に示したように時期ごとにみるとある程度のまとまりがみられる。時期と生活区域は次のとおりである。

Ⅺ類：中岳Ⅱ式土器…5～20区、32～35区

Ⅻ類：上加世田式・入佐式土器…6～16区、34～37区

Ⅼ類：黒川式土器…8～14区、30～32区

Ⅽ類：干河原段階の土器…6～14区

Ⅾ類：刻目突帯文土器…6～38区

この時期の遺構は土坑4基、集石2基、石斧埋納遺構1基が検出されているが、時期を判断できる遺物がないものもあり、中には新しい時期の遺構が含まれていることも否めない。また、確認できた総数1,963点、74,150gの土器の内224点を掲載した。なお、石器については、20区から東側で出土したもので、明確に前期および中期に属するもの以外は本章の時期に使用された可能性がある。

第1節 遺構

(1) 土坑 (第2-99～102図)

土坑59号 (第2-99図)

検出状況：SK59はD-12区のⅥ層で検出された。後期前半に造成された地点であり、当時の地表面と検出面に極端な差はなかったと考えられる。長軸は0.33m、短軸0.25m、深さ13cm、推定面積は0.06㎡を測る。楕円率0.76の楕円形である。完形に復元できる土器が出土したが、足りない破片が多く底部が口縁部付近の内面に落ち込んだ状態であり、埋設された可能性は低い。掘り込みはほぼ土器が出土した範囲である。

分類：タイプⅡ

埋土：埋土は褐色のやや軟質である。

出土遺物：1366は口径33.4cm、胴部最大径30.8cm、底径8.2cm、器高27.2cmを測る深鉢形土器である。張り出しのある円盤状の底部から外開きして胴上部で内側に屈曲する。肩部は1cmほどと短く、わずかに外反しながら立ち上がる。口縁部から口唇部にかけて同じ器厚であり、口唇部は平らに面取りする。口縁部には2か所もしくは4か所に山形の低い突起が付くと想定され、この部分だけ肥厚する。胴部外面がナデによる器面調整であるのに対し、肩部から口縁部の外面に明瞭な貝殻条痕がみられ、口縁部文様帯を意識しているようにも推察される。一方、内面は胴部以下が貝殻条痕で、口縁部はナデによる器面調整である。これらの特徴からⅬ類の黒川式土器に該当する。

土坑60号 (第2-99図)

検出状況：SK60はD-36区のⅣc層で検出された。長軸は0.84m、短軸0.84m、深さ14cm、推定面積0.56㎡を測る。楕円率1.00の円形である。掘り込みの断面は深めの皿状である。

分類：タイプⅢ

埋土：暗褐色の砂質土である。

出土遺物：黒曜石のチップが1点出土した。周囲にはⅫ類の土器が多く、入佐式土器の時期と考えられる。

土坑61号 (第2-100・101図)

検出状況：SK61はE-36区のⅣc層で検出された。長軸は1.82m、短軸1.00mで、南側が一段深くなっている。深さは浅いところで34cm、深いところで58cmである。床面はどちらも平坦である。推定面積は1.51㎡を測る。楕円率0.55の楕円形である。深い部分の床面から27cm浮いたところに土器や割れた状態の石器を含む礫が全部で26点出土した。土坑が使われなくなり、自然に埋まる途中で土器などが廃棄された可能性もあるが、土坑の廃棄に伴う祭祀的な意味合いも考えられる。土器や石器は故意に割られた可能性もある。土坑の用途は不明である。

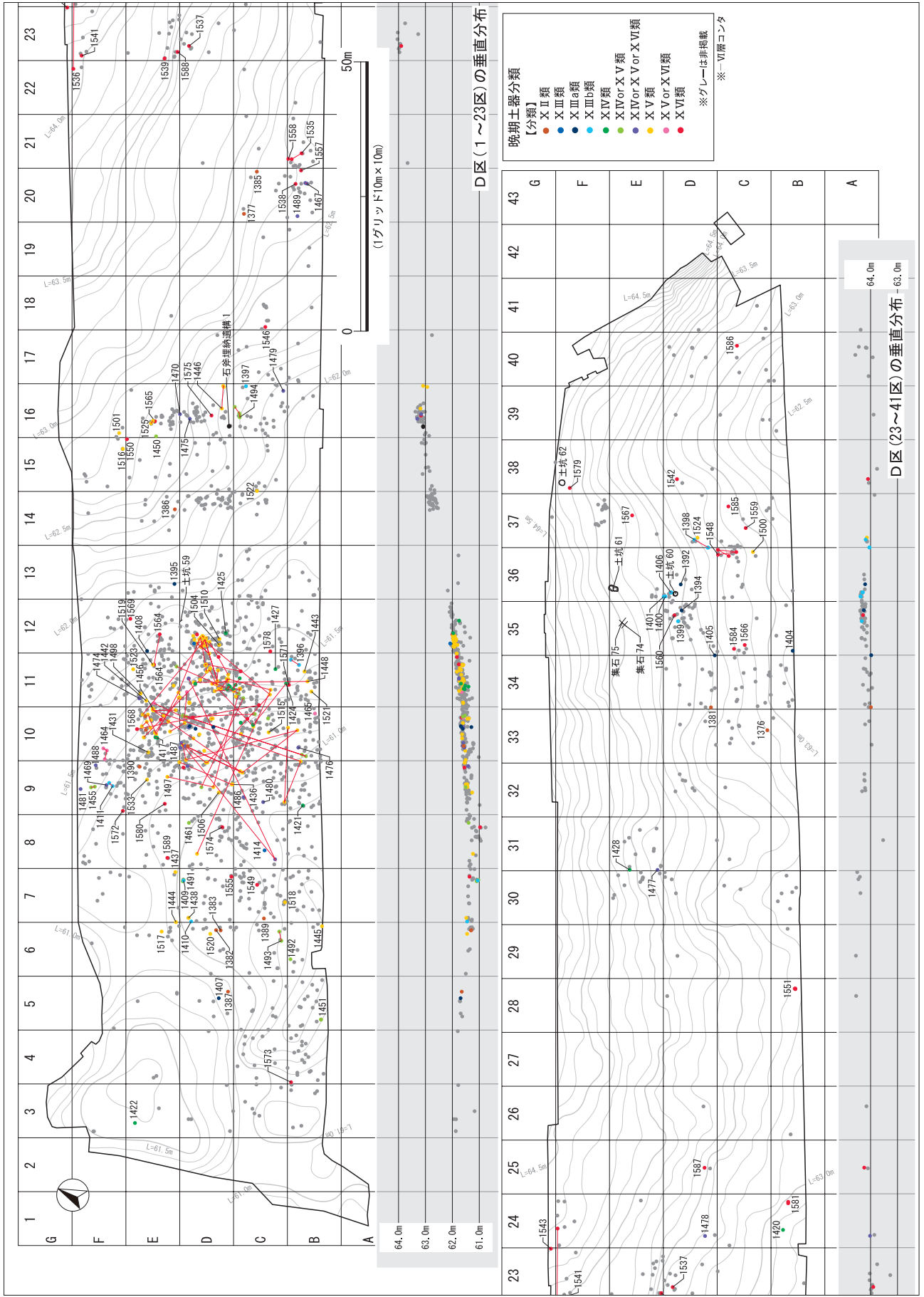
分類：タイプⅡ

埋土：黒褐色の砂質土で、炭化物をわずかに含む。

出土遺物：1367～1371は土器および土製加工品である。1367は深鉢の頸部から口縁部にかけての破片である。内傾する肩部から「く」字状に屈曲して直線的に外開きする口縁部に至る。屈曲部の内面はゆるい稜が入り、外面は調整具の痕跡がみられるが意識して段をつくることはない。口縁部はわずかに膨らむが、口縁部文様帯はみられない。内外面ともミガキ様のナデである。胎土に金色の雲母を多く含む。色調は中岳Ⅱ式土器に類似する。器形からⅫ類の入佐式土器と考えられ、口縁部文様帯がみられないことから新段階に該当する。

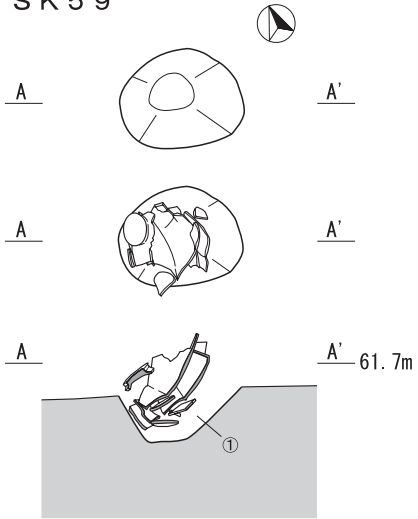
1368は深鉢の胴上部から口縁下部にかけての肩部に相当する破片である。内湾気味の胴上部から稜をもって内傾する肩部に至る。肩部は25mm幅と短く、「く」字状に屈曲して口縁部に至る。内面の肩部境は内湾するのみで明瞭でないが、内面の口縁部境には稜がみられる。外面の器面調整はヘラミガキで、内面はナデである。色調は栗色(極暗赤褐色)に近く中岳Ⅱ式土器に類似するが、器形は入佐式土器と共通することから、この時期が考えられる。

1369は胴上部から内側に屈曲する深鉢の破片である。内湾気味に開く胴上部から内側に屈曲する部分であり、擬似口縁の内側に粘土を貼り付けて成形している状況が観察できる。内外面ともナデによる器面調整である。器

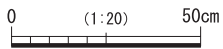


第2-97図 縄文時代後期末～弥生時代初頭の遺構配置図および遺物分布図 1

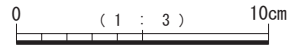
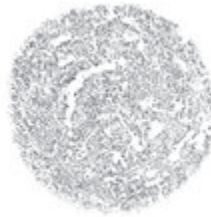
SK 59



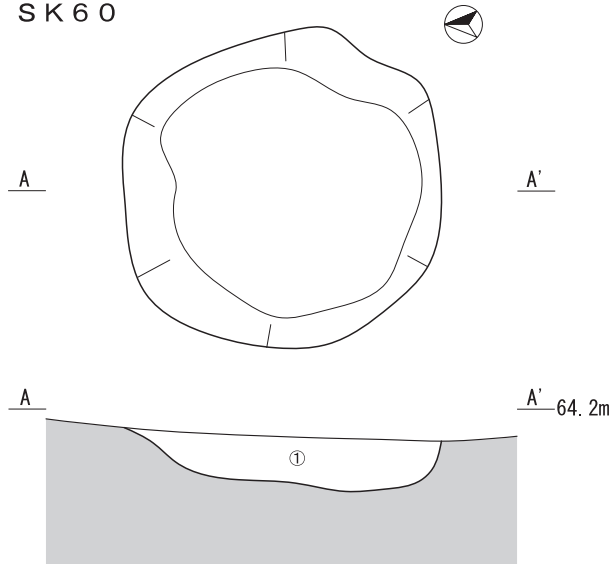
①褐色(10YR4/4) やや軟質
 黄色バミス微粒・白色バミス微粒をわずかに含む
 小レキをごくわずかに含む
 炭化物微粒をわずかに含む
 VI層がわずかに混じる 粒子やや粗い



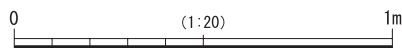
1366



SK 60

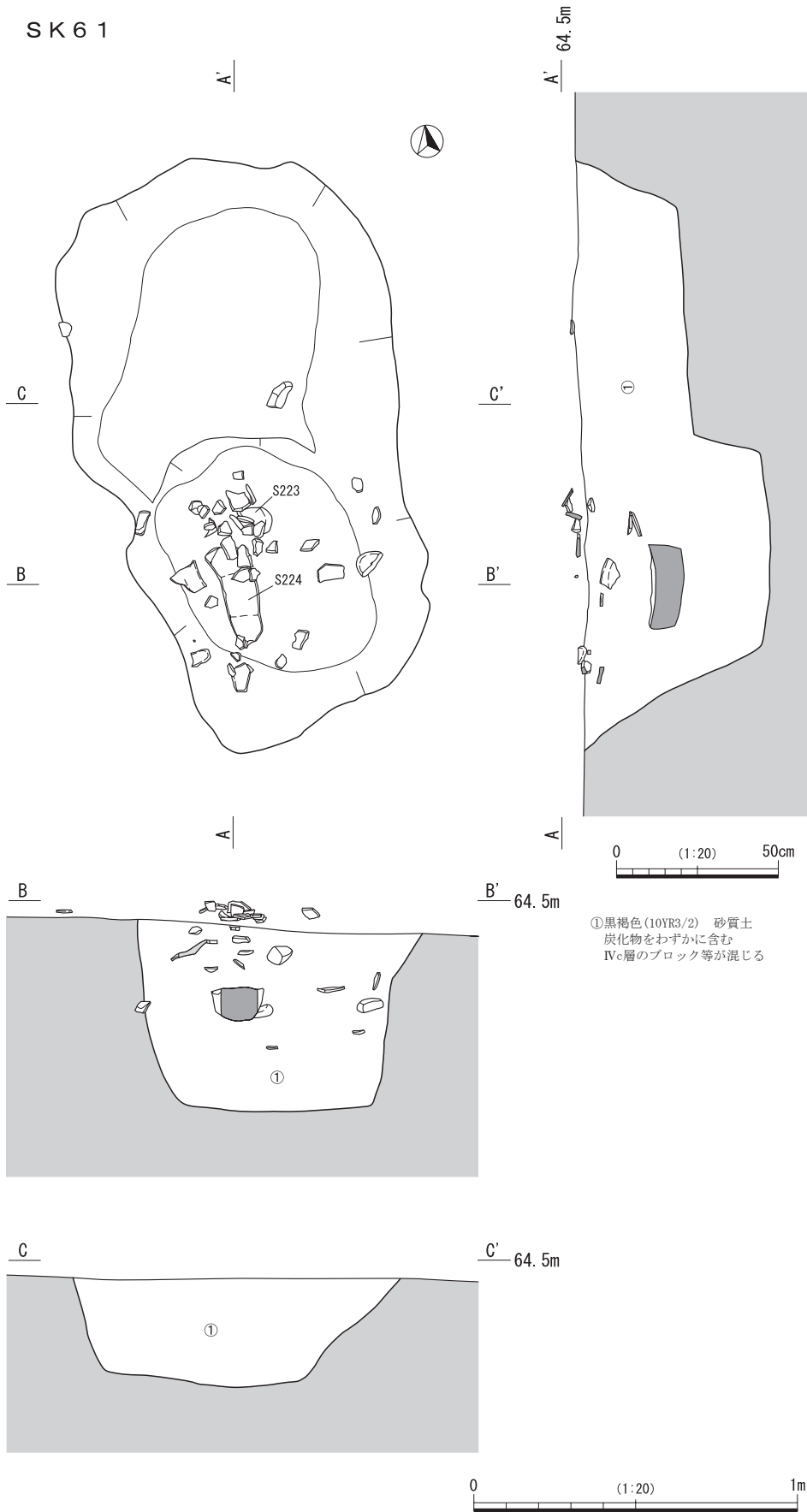


①暗褐色(10YR3/3) 砂質土



第2-99図 土坑59・60号と土坑59号出土遺物

SK61



第2-100図 土坑61号

形は入佐式土器に類似する。

1367～1369の3点は深鉢形土器であるが、胎土が異なりそれぞれ別個体である。

1370は深鉢の胴部破片を利用したもので、長辺の内面端部に磨滅した痕がある。対象物に約20度の角度で押し当てて、何かを研磨する道具として使用した可能性がある。1371は円盤状土製加工品の未製品としたものである。深鉢の胴部破片を利用したものと考えられる。

S223は安山岩製の磨・敲石類である。13.67cm×9.59cm×6.28cmで、重さは1,235gの肉厚である。両面に磨面があり、一端に敲打痕がわずかにみられる。磨面は平坦に近い面と丸みを帯びた面がある。割れた状態で出土し、接合する。尖った様な道具で故意に割られたような状況が窺える。

S224は花崗岩製の石皿V類である。15.7cm×33.4cm×12.1cm、重さ7,700gの四角柱状に割れてはいるが、使用面の凹みは深く27mmを測る。元々は海岸で見られるような50cm大の楕円形をした自然石であり、裏面に使用痕はみられない。凹面に磨面と敲打痕がみられ、敲打は磨面を再生し摩擦を得るためとも考えられる。割れ口の4面は赤色化し、被熱している。表裏面の赤色化が弱いのは鉱物の粒子が密になっているためと推察される。分厚い花崗岩が四角柱状に、しかも主使用面だけが残っており、磨石とともに故意に割られた可能性もある。

石皿や磨石を故意に割って立石とするなど、祭祀的

な遺構を残したのは、縄文時代後期前半における小牧遺跡の特徴でもある。そのような行為が、約800年の時を経て残っている点は、南九州あるいは大隅半島の特徴を示している可能性もある。

土坑内の炭化材を年代測定した結果、 ^{14}C 年代が 3400 ± 20 、 2σ 暦年代範囲が1749-1638calBC (95.4%)で縄文時代後期中半に相当する年代であり、混入の可能性もある。

土坑62号 (第2-102図)

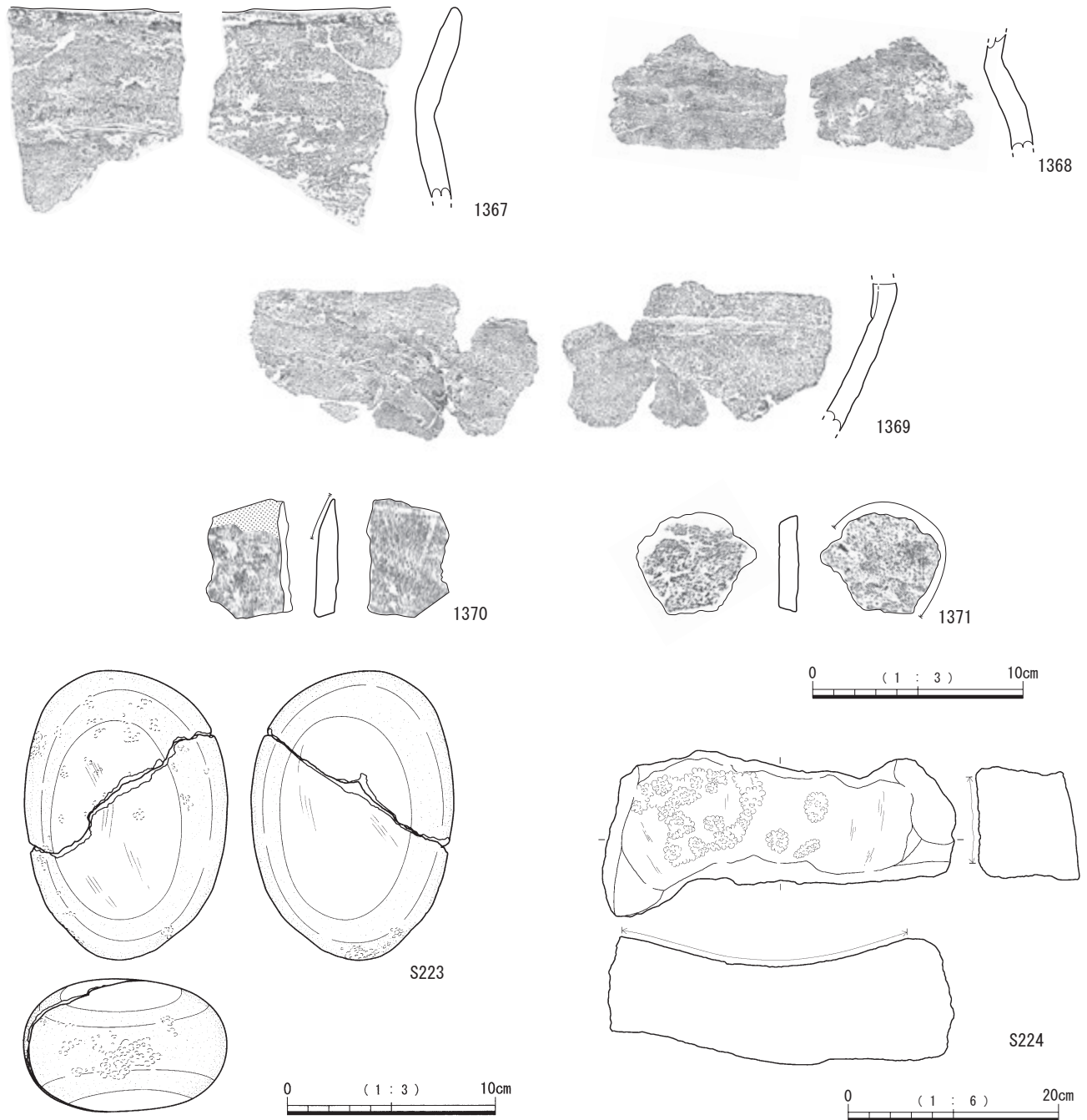
検出状況：SK62はF-38区のIVb層で検出された。検出面

での長軸は1.05m、短軸1.00m、深さ66cm、推定面積は0.21㎡を測る。楕円率0.88の円形である。床面より15cm上が最も広く、長軸1.16m、短軸1.05mとなる。断面形はフラスコ形で、アカホヤ火山灰層下のVI層まで掘り込んでいる。床面は平坦で丁寧に掘られている。

分類：タイプⅢ

埋土：埋土は6層に分かれ、レンズ状に堆積している。埋土の詳細は図中の注記のとおりである。

出土遺物：第3分冊の補遺に図化した刻目突帯文土器(1595)が出土している。S225の石鏃が床直上で出土した。



第2-101図 土坑61号出土遺物

一部が鉄石英のように赤色となる珪質頁岩を素材とする。浅い凹基の三角形をしている。一方の側縁が欠けている点と、凹基部の押圧剥離が丁寧でないことから、製作途中で破損したものとも考えられる。

土坑内の「クリ？炭化子葉」を年代測定した結果、 ^{14}C 年代が 3620 ± 20 、 2σ 暦年代範囲が $2036 - 1912\text{calBC}$ (94.8%)で縄文時代後期前半に相当する年代であり、混入の可能性もある。

検出された区域はⅧ類の土器が多く、埋土から出土した刻目突帯文土器と同じである。埋土下部に黒色の砂質土が含まれることもこの時期の遺構と考えられる。県内での類例はあまりないが、他地域でこの時期のフラスコ状の貯蔵穴が知られている。

(2) 集石 (第2-103図)

集石74号 (第2-103図)

分類：タイプⅢ

検出状況：SS74はE-35区のⅣc層で検出された。掘り込みがあり、床直上出土もあるが、ほとんどの礫は底面よ

り6cm浮いた位置で重なりながらまとまって出土した。構成礫には砂岩96個、頁岩37個、凝灰岩9個、安山岩6個、軽石4個、泥岩2個があり、半数以上の礫89個が被熱している。SS75を切っている。

規模：構成礫数154個、総重量は19,032gで、1個平均の重さが124gである。礫は、長軸1.20m、短軸1.02mの範囲に広がる。掘り込みは114cm×103cmで、深さは検出面から14cmである。埋土は灰黄褐色の砂質土で炭化物を少量含む。

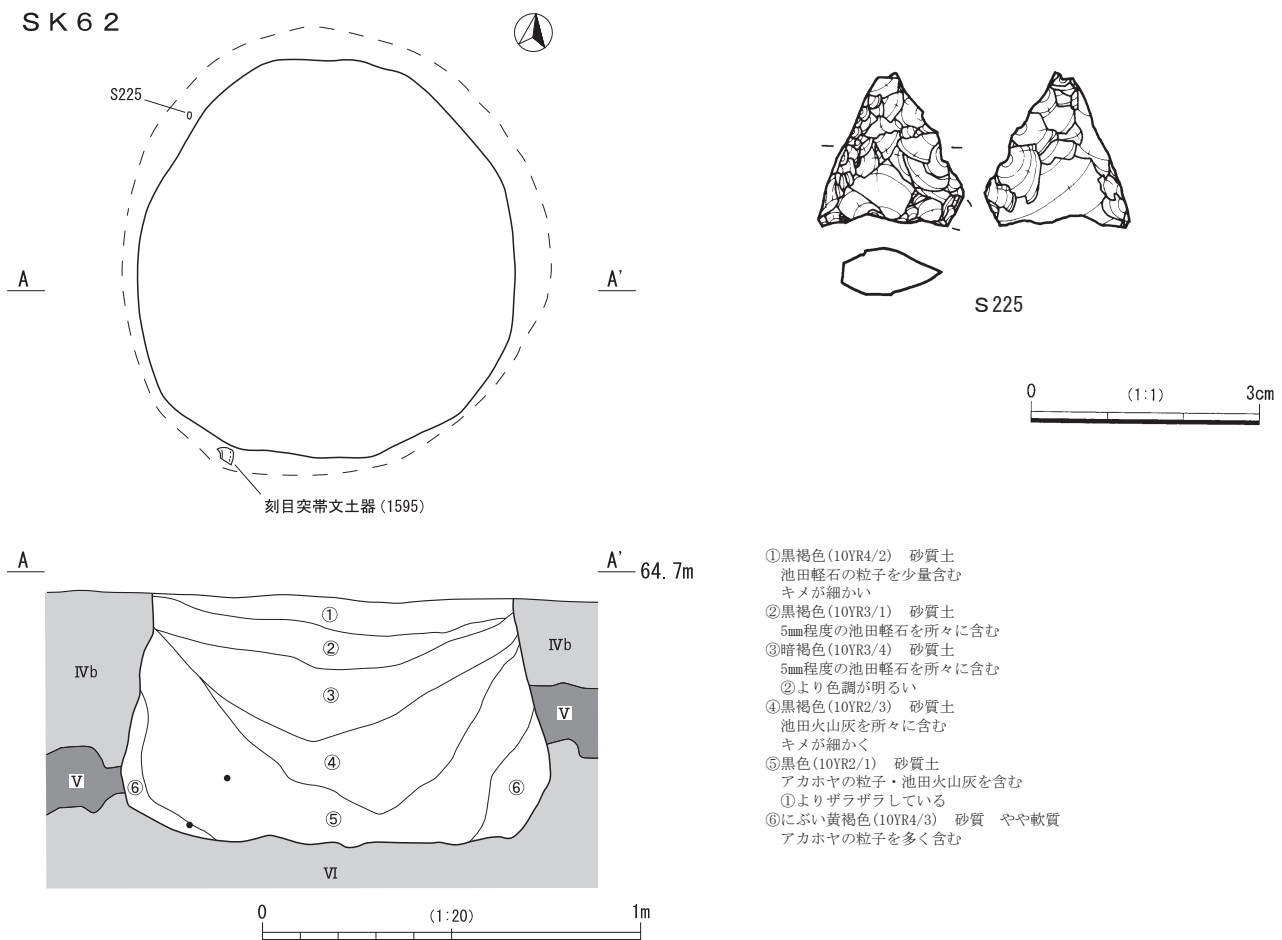
出土遺物：遺物はない。

集石内の炭化材を年代測定した結果、 ^{14}C 年代が 2425 ± 20 、 2σ 暦年代範囲が $545 - 408\text{calBC}$ (79.6%)である。検出された区域はⅧ類が多く、上加世田式や入佐式期の可能性もあるが、年代値は刻目突帯文土器期の弥生時代前期に相当する。隣接する36・37区で刻目突帯文土器が出土しているので、この時期で妥当である。

集石75号 (第2-103図)

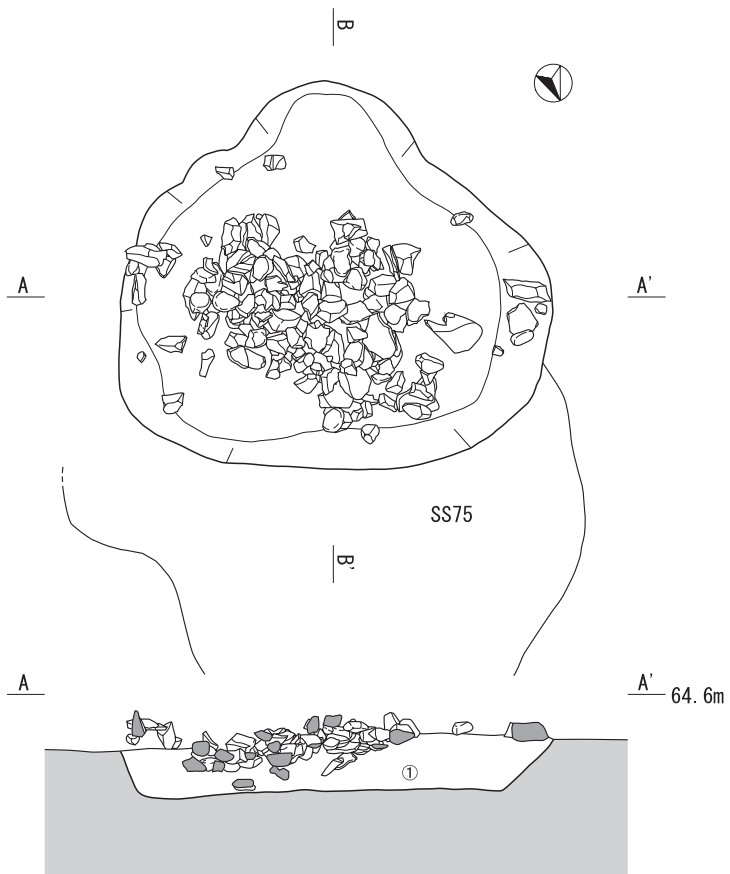
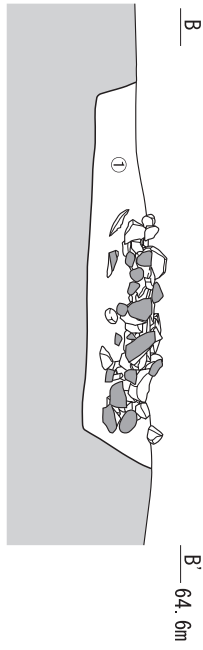
分類：タイプⅢ

検出状況：SS75はE-35区のⅣc層で検出された。集石74



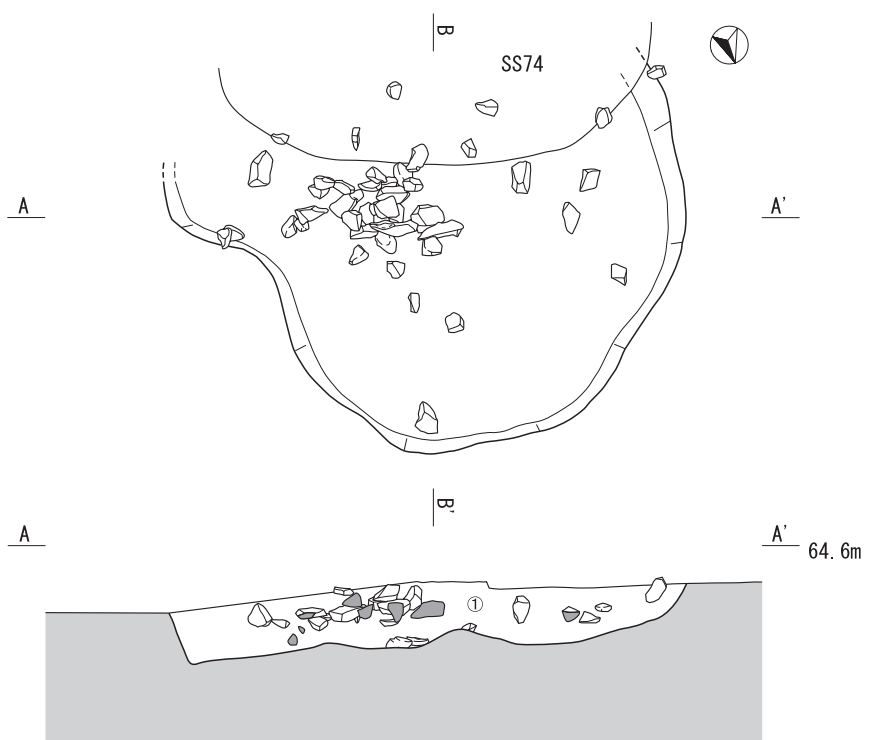
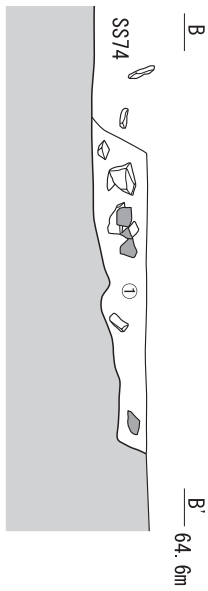
第2-102図 土坑62号と出土遺物

SS74



① 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土
炭化物を少量含む

SS75



① にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質土
レキ片を所々に含む
炭化物微粒をごくわずかに含む
IVa層にIVc層が混じる

0 (1:20) 1m

第2-103図 集石74・75号

号の一部を切られている。掘り込みがあり、床直上出土もあるが、礫は底面より6cm浮いた位置で比較的まとまっている。構成礫には砂岩32個、頁岩10個、凝灰岩4個、軽石1個があり、32個が被熱している。

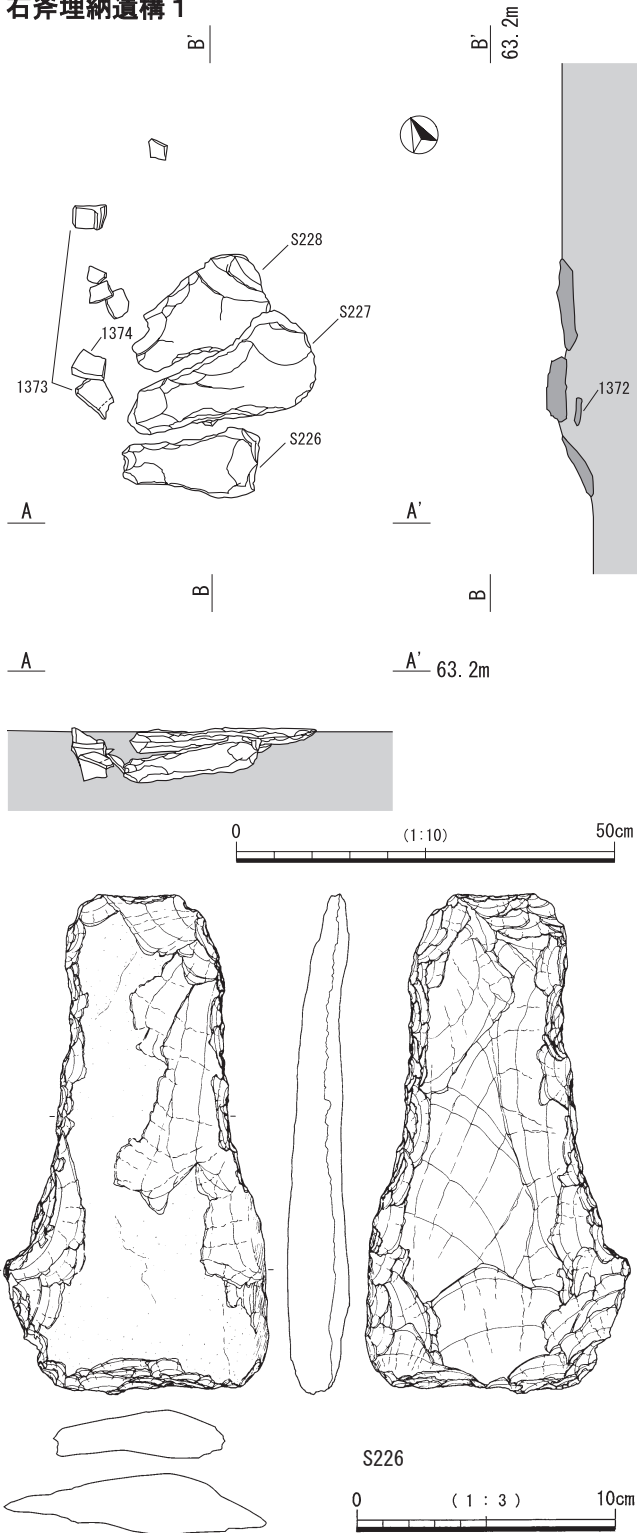
規模：構成礫数47個、総重量は5,484gで、1個平均

の重さが116gであった。礫は、長軸 $1.30m + \alpha$ 、短軸 $0.77m + \alpha$ の範囲に広がる。掘り込みは少なくとも137cmの長さで、深さは14cmである。埋土にはぶい黄褐色の砂質土で、礫片を所々に含み、微粒炭化物をごくわずかに含む。

出土遺物：遺物はない。

集石74号よりも古く位置づけられるが、年代的にはそれほど差のない刻目突帯文土器期の可能性がある。

石斧埋納遺構 1



石斧埋納遺構 1号 (第2-104~106図)

検出状況：石斧埋納遺構はD-16区のIVa層で検出されたが、D-16区の一部はII層およびIII層が削平された区域である。重機で表土を掘削する際、S228が出土したので丁寧に掘り下げたが、掘り込みは確認できなかった。扁平打製石斧が3点出土した。扁平打製石斧は刃部をいずれも東側に向け2点はほぼ水平に、S226はやや傾いて置かれていた。周囲から数点の土器片が確認された。縄文時代後期前半の松山式土器に比定できる土器であるが、扁平打製石斧は縄文時代後期末から弥生時代中期前半に出土例が多いことから、この時期で扱うこととした。

出土遺物：S226~S228の3点の扁平打製石斧が埋納されていた。いずれも刃部と基部がはっきりしているものの、その境が不明瞭な撥形である。石材も同じであり、風化すると白黄色となるが、新鮮な面は青灰色の頁岩である。

S226の背面は自然面をよく残し、腹面は大きな剥離痕がある。刃部・基部ともに周りから丁寧な剥離が加えられる。刃部下縁は使用によるものか剥離が詰まり、平坦な形である。刃部の左側縁は使用による摩滅がみられる。基部の両側縁は両極打法による可能性もある。基部の幅は約6cmで、刃部の幅は約10cmである。長さは19.4cm、厚さ2.4cmである。

S227の背面は自然面をよく残し、腹面は斜位方向からの大きな剥離痕がある。刃部・基部ともに周りから丁寧な剥離が加えられる。刃部は全体的に薄く仕上げられ、下縁は湾曲しており、刃先は鋭い。刃部の右側縁にわずかな摩滅がみられるが、未だ使用の頻度は少なかったと考えられる。基部の両側縁は両極打法による可能性もあり、細かな階段状剥離が多くみられる。さらに、刃潰し状の敲打を加えており、柄に固定するための緊縛の紐が切れにくくする様な工夫がみられる。刃部の薄さに対して、基部は厚く仕上げる。基部の幅は約7cmで、刃部の幅は約13.4cmである。長さは26.9cm、厚さは基部で2.7cm、刃部で1.2cmである。本資料は、これまで県内で出土した扁平打製石斧の中でも大型のものである。使用痕もわずかであり、製作された時の状態を良好に示している可能性が高い。刃部は使用や刃部再生によって形が変わるが、基部の幅・厚さ・長さ・形状は製作時のままであり、扁平打製石斧の時期を位置づけるのには有効な手掛かりに

第2-104図 石斧埋納遺構 1号と出土遺物 (1)

なると考えられる。

S228の背面の自然面は刃部付近のみで、基部には剥離面がある。腹面は縦方向からの大きな剥離痕がある。刃部・基部ともに大ぶりの剥離を入れた後、周りから剥離が加えられる。刃部下縁はほぼ平坦で、刃先は鋭い。基

部の両側縁は両極打法による可能性もある。基部の幅は約7.5cmで、刃部の幅は約12.6cmである。長さは20.6cm、厚さ2.6cmである。

注目される点は、土器数点が水平的にも垂直的にも3点の扁平打製石斧に近接して出土したことである。

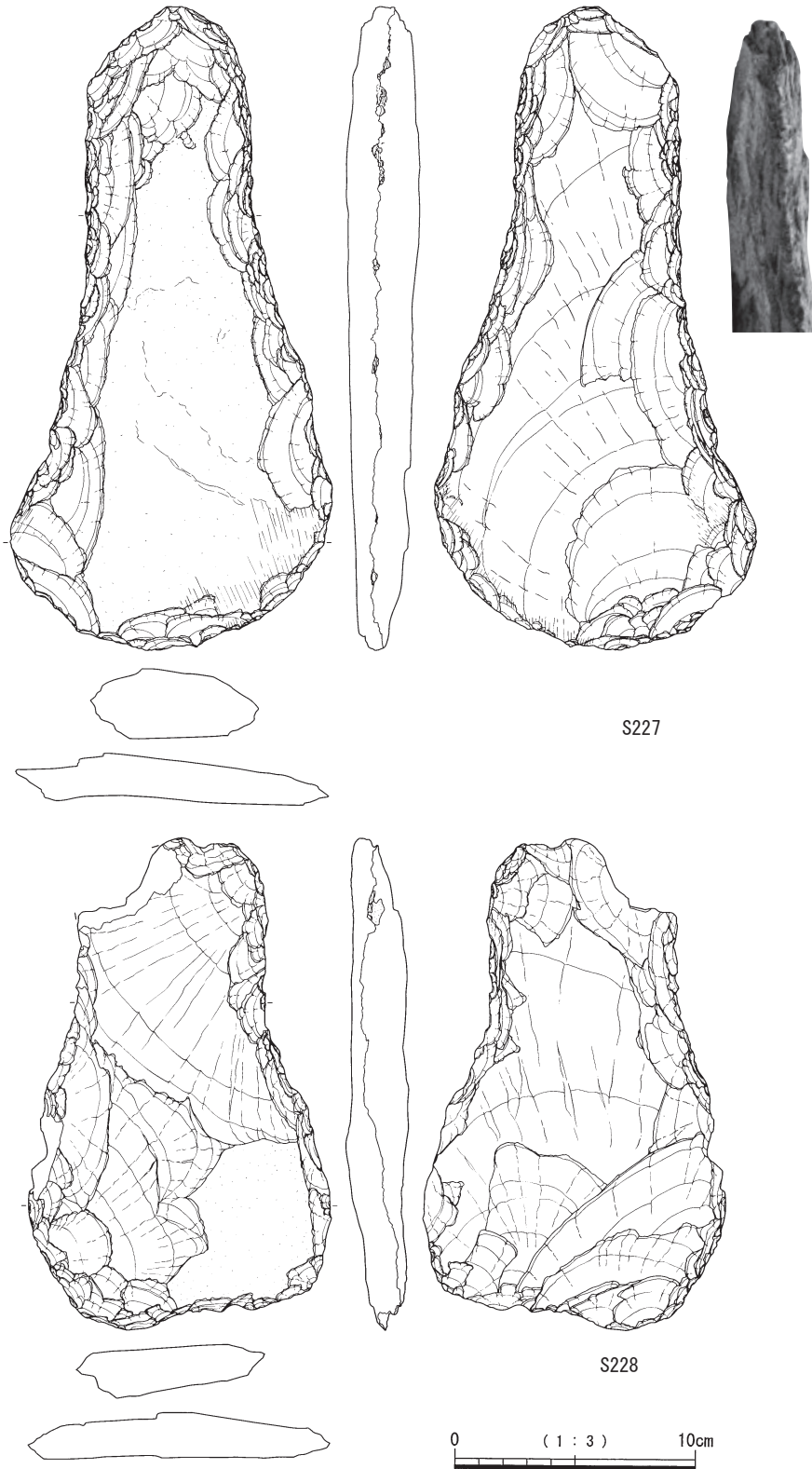
1372は残存部の状態から、波状口縁の深鉢と推測される。口縁部直下を無文とし、胴部上位を横位の沈線により区画する。文様を描く線の始点と終点を刺突する。波頂部の上部内面に棒状工具による円形刺突を連続させる。VIIIb類の範疇と考えられる。S227の下1cmで出土しているが、元々包含層に埋もれていたのか、扁平打製石斧と同時に埋まったのか判断できない。

1373は口縁部外面を三角形に肥厚させ貝殻腹縁刺突文、横位の沈線文、巻貝頂部によると考えられる連続刺突文の組み合わせによる文様帯を有する。口縁端部の稜は丸く、文様帯の貝殻腹縁刺突がおよぶ。IXb類と考えられる。胎土には金色の雲母を多く含む。

1374は口縁部片で、口縁端部を「コ」の字状に明瞭に角付け、口唇部に平坦面を形成する。内外面の調整はやや粗く、外面には全面に煤が付着する。胎土には金色の雲母が多く含まれ、白色粒子や透明感のある赤色粒子を含む特徴から縄文時代後期前半の遺物と判断した。

南九州において扁平打製石斧がいつからいつまで使用されたか明らかにすることが課題となっているので、ここで確認しておきたい。今回の出土例は竪穴建物跡内や土坑内などのように埋土から供伴して出土したものではなく、扁平打製石斧が縄文時代後期前半に位置づけられる松山式土器と供出したものである。扁平打製石斧の下から出土した1372はVIIIb類の指宿式土器であり、松山式土器より古く位置づけられているので、ここでの検討から省く。

前述したように、鹿児島県内における扁平打製石斧の出土は、町田堀遺跡（鹿屋市）で中岳Ⅱ式土器に伴った縄文時代後期末から轟木ヶ追遺跡（錦江町）で入来Ⅱ式土器に伴った弥生時代



第2-105図 石斧埋納遺構1号出土遺物(2)

中期前半までが確実な例である。この前後の時期からも扁平打製石斧が散見されるが、確定できるような例は現在のところないようである。後期中半にさかのぼる可能性のある例としては、干迫遺跡（始良市）で市来式土器に伴って出土した例はあるが、他の市来式土器を主体とする遺跡での追加事例が少ない。仮に干迫遺跡例が市来式土器に伴うとしても、本遺跡の事例は一段階古く位置づけられる。石斧埋納遺構1号周辺では縄文時代後期前半の他に後期末の土器から刻目突帯文土器も出土している。IV層の上部まで削平された表土層直下での出土であり、垂直分布で前後関係を確認することはできない。

次に形状から時期を推測すると、町田堀遺跡出土例は13点が埋納されており、短冊形5点、撥形4点、挟りの浅い有肩形2点、不明2点があり、少なくとも撥形は縄文時代後期末までは遡る。刻目突帯文期の扁平打製石斧

は刃部と基部の明確な有肩形が一般的であるので、この時期まで降りることはないと考えられる。製作技術から推測すると、S227の基部にみられる両極打法での両面剥離の後、刃潰し状の敲打を加える点は、本遺跡でも出土している石錘の製作方法と共通する。本遺跡出土の石錘は19区より西側に限られ、後期前半の土器に伴う可能性が高い。しかし、県内での石錘の出土例では、大坪遺跡（出水市）例のように縄文時代後期末の上加世田式土器以降に伴う例もあり、必ずしも石錘が後期前半に限られるとは言えない。以上のように、扁平打製石斧と松山式土器が接して出土したが、供伴とは言いがたい。いずれにしても、本遺跡で検出された扁平打製石斧埋納遺構については、本県での扁平打製石斧がいつから使い始められたのかを議論する上で、検討されるべき一例となった。今後、事例が増えていくことを期待したい。



第2-106図 石斧埋納遺構1号出土遺物(3)

0 (1:3) 10cm

第2-13表 晩期遺構内出土土器観察表

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	遺構名	器面調整等		色調		胎土						取上番号	備考	写真図版
							外面	内面	外面	内面	石英長石	角閃石輝石	金色雲母	火山ガラス	軽石	その他			
99	1366	深鉢	X IV	D-12	VI	土坑59	ナデ, 貝殻条痕	ナデ, 貝殻条痕	にぶい褐	黒褐	◎	○					24964	-	91
	1367	深鉢	X III b	E-36	埋土	土坑61	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	◎	○	◎				103968	-	91
	1368	深鉢	X III b	E-36	埋土	土坑61	ヘラミガキ	ナデ	極暗赤褐	にぶい黄褐	◎						103964	-	91
	1369	深鉢	X III b	E-36	埋土	土坑61	ナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	◎	○					104322他	-	91
	1370	深鉢	X III b	E-36	埋土	土坑61	ミガキ様のナデ	ナデ	黒褐	暗灰黄	◎	○					103135	-	91
101	1371	円盤状土製加工品	X III b	E-36	埋土	土坑61	丁寧なナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい黄褐	◎	○	◎				104590	-	91
	1372	深鉢	VIII b	D-16	IVa	石斧埋納遺構1	丁寧なナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	◎	○					784	-	91
	1373	深鉢	IX b	D-16	IVa	石斧埋納遺構1	条痕→ナデ	条痕→ナデ	にぶい褐	暗灰黄	◎	○	◎				779	-	91
	1374	深鉢	無文	D-16	IVa	石斧埋納遺構1	粗いナデ	粗いナデ	にぶい橙	灰褐	◎	○	◎				7	煤付着	91

第2-14表 晩期遺構内出土石器観察表

挿図番号	掲載番号	遺構名	出土区	層	器種	分類	器面調整等				石材	石材分類	取上番号	備考	写真図版
							長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)					
101	S223	土坑61	E-36	埋土	磨・敲石	-	13.67	9.59	6.28	1235.00	安山岩	-	104323	-	89-91
	S224	土坑61	E-36	埋土	石皿	-	(15.70)	(33.40)	(12.10)	(7700.00)	花崗岩	-	104320	-	89-91
102	S225	土坑62	F-38	埋土	石鏝	-	2.00	1.90	0.60	2.08	チャート	-	101048	-	91
104	S226	石斧埋納遺構1	D-16	-	扁平打製石斧	撥形	19.40	10.30	2.40	457.40	ホルンフェルス	-	石斧埋納遺構1-1	-	90-91
	S227	石斧埋納遺構1	D-16	-	扁平打製石斧	撥形	26.90	13.40	3.00	1055.00	ホルンフェルス	-	石斧埋納遺構1-2	-	90-91
105	S228	石斧埋納遺構1	D-16	-	扁平打製石斧	撥形	20.60	12.60	2.60	(620.00)	ホルンフェルス	-	石斧埋納遺構1-3	一部欠損	90-91

第2-15表 晩期遺構観察表

挿図番号	遺構番号	区	検出面	埋土基本層	大きさ(cm)		長さ(cm)	面積(m ²)	旧遺構番号	備考	写真図版
					長軸	短軸					
2-99	土坑59号	D-12	VI層	-	33	25	13	0.06	遺物出土状況No.01	黒川式土器	89-91
	土坑60号	D-36	IVc層	IV層土	84	84	14	0.56	土坑223		89
2-100	土坑61号	E-36	IVc層	IV層土	182	100	58	1.51	土坑186	入佐式土器 石皿 磨石 年代測定	89-91
2-102	土坑62号	F-38	IVb層	IV層土	105	100	66	0.21	土坑184	刻目突帯文土器 石鏝 年代測定	89
2-103	集石74号	E-35	IVc層	IV層土	114	103	14	-	集石93	年代測定	90
	集石75号	E-35	IVc層	IV層土	130+a	77+a	14	-	集石126		90
2-104	石斧埋納遺構1	D-16	IVa層	-	-	-	-	-	石斧埋納遺構1	扁平打製石斧3点 土器3点	90-91

第2節 遺物（土器）

小牧遺跡で出土した縄文時代後期末から弥生時代初頭にかけての土器は、大きく5つに分類できる。第1分冊の第IV章に概略は紹介したが、Ⅻ類が中岳Ⅱ式土器、Ⅼ類が上加世田式土器～入佐式土器、Ⅽ類が黒川式土器、Ⅾ類が干河原段階、Ⅿ類が刻目突帯文期の土器である。この時期になると、深鉢や浅鉢など器種の分化が著しくなり、器種ごとの同時性を明確にはできないが、これまでの研究や調査事例等を参考に近いと考えられる時期に寄せてある。また、器種名については未だ一般化されていないものもあるが、単語で器形を思い浮かべることが容易になることを期待して、現代の生活用具の名称を使用することとする。的確な名称があれば、変更していきたい。浅鉢については宮地聡一郎氏の呼称を参考にした。

各類型ごとに紹介する前に、この時期の土器分布状況を第2-97・98図に示す。全体的には発掘調査範囲である1～43区に渡って出土している。特に、8～12区に集中しており、Ⅻ類からⅯ類まで混在して出土している。33～38区にも出土量は少ないものの、Ⅼ類の上加世田式土器・入佐式土器とⅯ類の刻目突帯文土器の集中した地点がみられる。なお、Ⅻ類の中岳Ⅱ式土器とⅭ類の黒川式土器は15区より西側にしかみられず、Ⅿ類の刻目突帯文土器期には16～26区にも分布域がみられる。弥生時代に入ったⅯ類の刻目突帯文土器期には、居住空間の他に作物を育てる生産空間も近くにあったと考えられる。

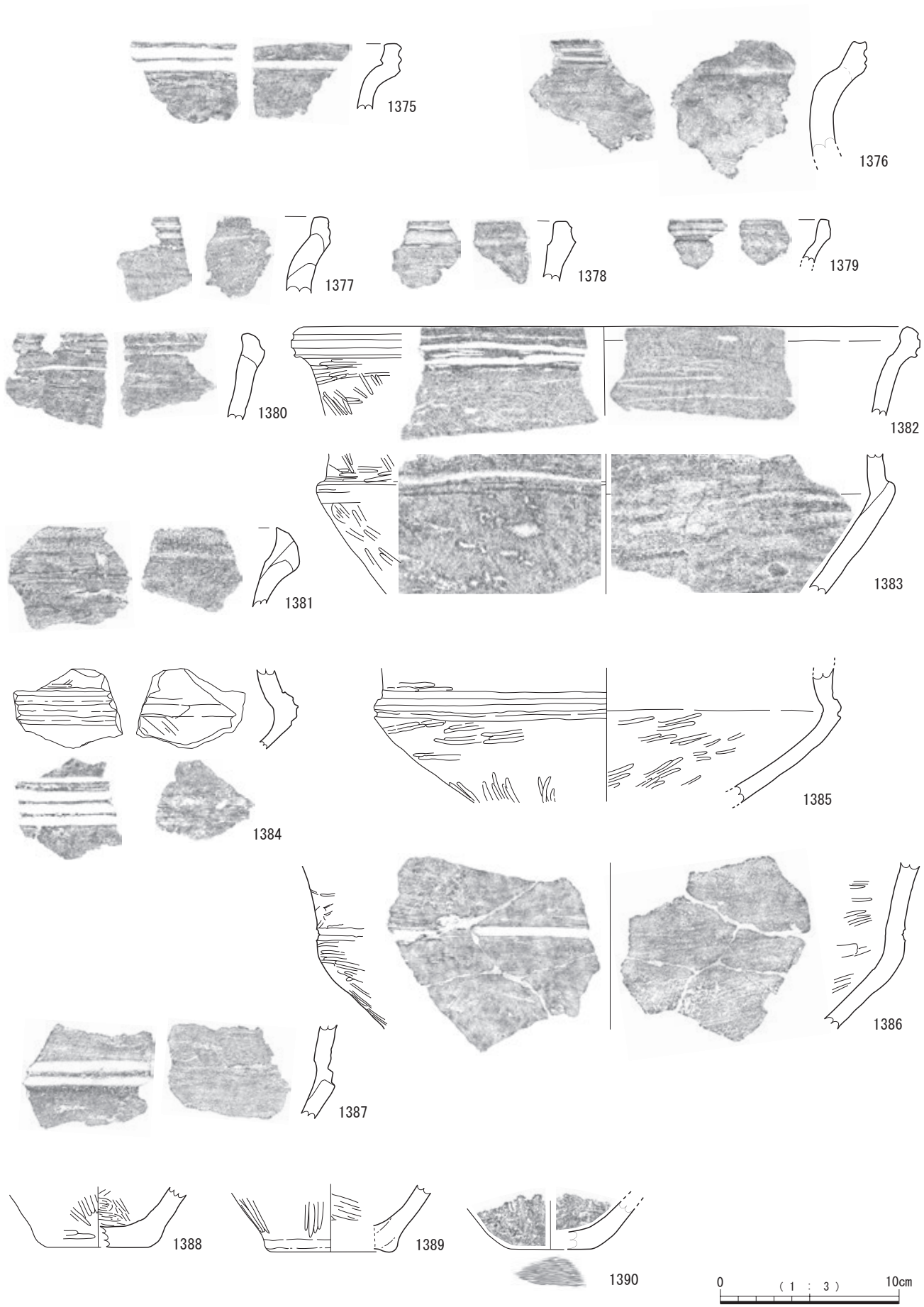
Ⅻ類土器 口縁部文様帯および胴上部屈曲部に凹線を巡らすものや、それに近いと考えられるものである。

1375～1382は深鉢形土器の口縁部である。1375は大きく外反する頸部から内側に強く屈曲した口縁部に至り、口唇部は平らに面取りする。口縁部外面は17mm幅の文様帯があり2条の凹線が巡る。口縁部内面の下には沈線状の切れ込みが入る。内外面ともヘラミガキによる。1376は外湾する頸部から屈曲して立ち上がる口縁部をもつ。口縁部は13mm幅の文様帯に2条の凹線を巡らす。口唇部はくぼみ、両端はシャープである。内面の頸部と口縁部境は沈線等は見られないが明瞭である。器厚は11mmと厚い。胎土は花崗岩質で、色調は極暗赤褐色である。器厚や色調等は中岳Ⅱ式土器に近く、器形や施文方法は上加世田式土器古段階に類似し、両者の特徴をもつ土器である。1377は外反する頸部から屈曲して15mmほど立ち上がる口縁部である。口縁内面の緩い屈曲部から口縁部端部までは10mmであり、口唇部は9mm幅で面取りする。口縁部外面には2条の凹線が巡る。1378は10mm厚の頸部から器厚13mmのやや低い口縁部肥厚帯をもつ。肥厚帯下位は外傾し、上位に8mm幅の凹線が1条巡る。口縁部内面には段がみられ、口唇部は面取りしている。1379は外反する頸部から内側に屈曲した口縁部に至り口唇部を面取りす

る。口縁部外面は11mm幅の文様帯があり2条の浅い凹線が巡る。口縁部内面に沈線等は見られない。内外面とも丁寧なナデである。1380は外見上1381と同様であるが、外面肥厚部に6mm幅の浅い凹線が巡ること、内面の凹みが形骸化し口唇端部が鋭くない点が異なる。1381は7mmほどの器厚の頸部から外反して14mmほどの器厚の口縁部をもつ。口縁部外面の肥厚下部は親指でナデた様に外反し、肥厚部上部は3条の面をもつようになぞかな稜をもちながら丸く収めてある。肥厚部に凹線等は見られない。口縁内面は親指を押し当ててナデたように20mm幅の凹線状となり、口唇部は親指と人差し指で挟むことによって鋭く尖ったのではないかと想定される。口縁部の作りは、外反した器形の内側に粘土を重ねて成形した状況が断面にみられる。1382は復元口径35cmの口縁部である。頸部上位で大きく外反し、内湾気味に立ち上がる口縁部に至る。口縁部内側は指で押さえながら成形したと考えられ、太い凹線状に見える。外面は2cm幅の口縁部肥厚帯があり、2条の凹線を巡らす。口唇部から口縁部肥厚帯は一体化している。復元径や胎土、器面調整ともに1383と違和感はなく、同一個体の可能性がある。

1383～1387は深鉢形土器の胴上部の屈曲部である。1383は復元径32.4cmの胴部最大径部分である。内湾気味に開く胴部の端部を疑似口縁状におさめ、内面上部から粘土紐を重ねることによって内傾する頸部に至る。断面に接合痕が明瞭に残ることから、製作過程が復元できる。肩部境は丸みを帯び明瞭な段となる。口縁部から屈曲部は約10cmであると想定される。前述した様に1382と同一個体の可能性がある。1384は丸く内側に曲がる胴部から外反気味に内傾する頸部に至る。胴部最大径は13mmの厚さがあり、3条の凹線が巡る。頸部境に沈線状の調整が入り、胴部と頸部の境が明瞭である。外面はミガキ様のナデで、内面は丁寧なナデである。1385は復元径26.2cmの胴部である。直線上に開く体部上部で内側に湾曲して丸みのある胴部をもち、内側に粘土を重ねることによって屈曲部としている。胴部と頸部境の屈曲部には2条の凹線が巡り、外反気味の頸部に至る。内外面ともヘラミガキによる。1386は復元径33cmの胴部屈曲部である。直線上に開く体部上部で内側に湾曲して丸みのある胴部をもち、外反気味の頸部に至る。胴部と頸部の境には凹線を巡らす。外面はミガキ様のナデで、内面はナデである。頸部外面に煤が厚く付着する。1387は体部上位で内側に屈曲し、肩部となる部位に2条の凹線を巡らす。内面は屈曲部よりも上位に稜がみられる。

1388～1390は深鉢形土器の底部である。1388は復元径6cmの小さな平底である。縁辺は横方向のヘラミガキによって丸く仕上げ、胴下部への縦方向の丁寧なナデとの境になぞかな段がみられる。約50度の角度で開く胴部に至る。内面はケズリ様のナデである。軽石粒を多く含み、

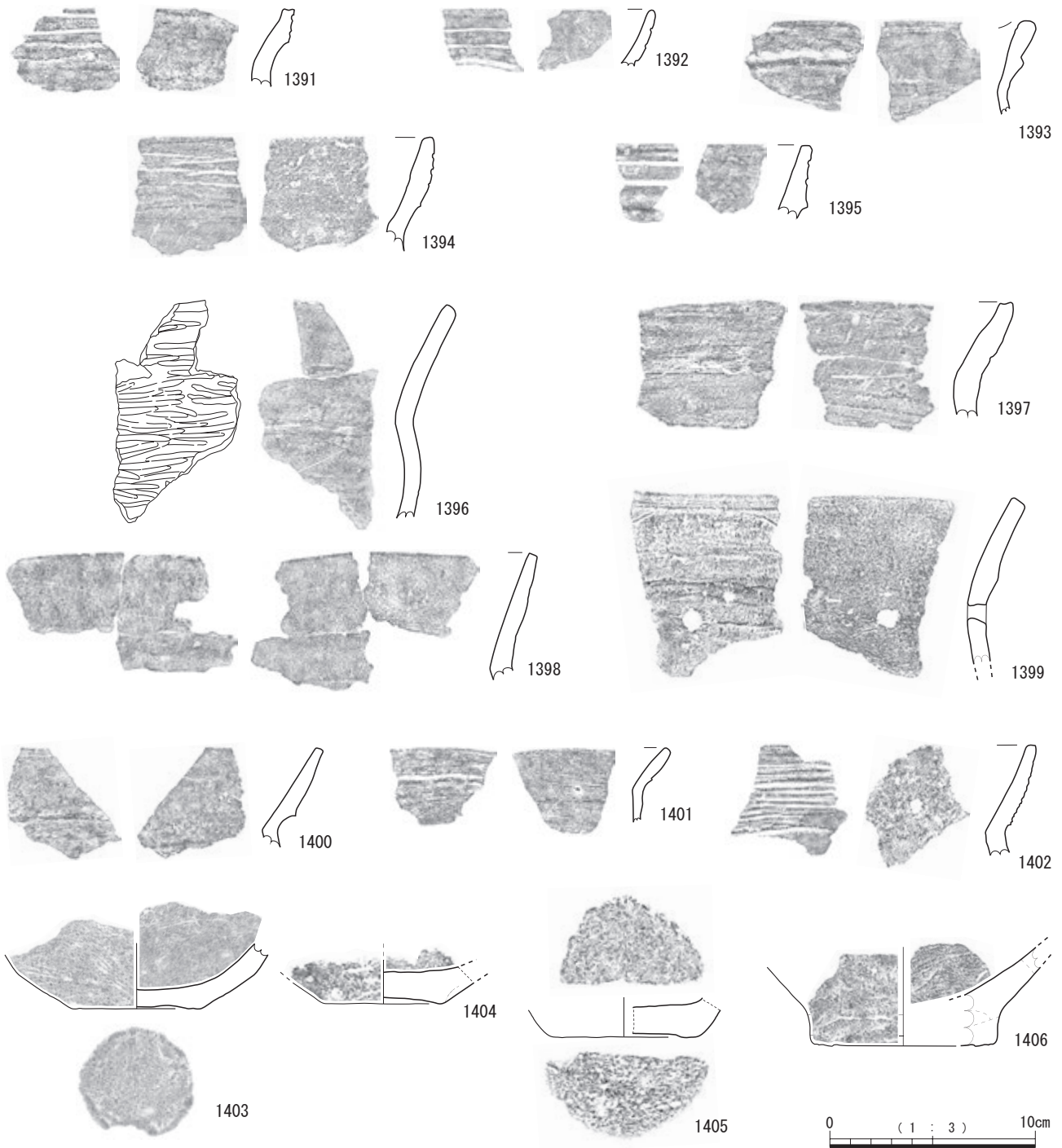


第2-107図 X II類土器

外面の色調が中岳Ⅱ式に近い栗色（極暗赤褐色）を呈する。1389は復元径7.5cmで周縁に粘土を重ねて形成した上げ底である。接地面はごくわずかである。外面はミガキ様のナデである。わずかな立ち上がりがあり、内湾気味に開く。色調が中岳Ⅱ式に近い。1390は復元径4.6cmの小さな平底である。接地面からそのままやや内湾しながら開く。中岳Ⅱ式土器に該当する。

XⅢ類土器 口縁部文様帯に沈線を巡らすものや無文のもの、あるいはそれに近い土器である。

1391～1395は口縁帯をもち、沈線を巡らす口縁部である。1391は外反する頸部から肥厚して立ち上がる15mm幅の口縁部に至る。口縁部内面はわずかに凹み状となり、口唇部は5mm幅で平らに面取りする。口縁肥厚帯下部は10mmの厚さであり、2mm幅の凹線様の沈線が2条巡る。胎土に金色雲母を多く含む。1392は肥厚した口縁部であ



第2-108図 XⅢ類土器

る。24mm幅の口縁部文様帯に2本の沈線を巡らす。肥厚部下面に相当する内面には屈曲や沈線等は見られない。内外面ともミガキによる調整で、黒色処理している。入佐式土器の古段階に該当する。1393は外反する頸部から肥厚して外開きする口縁部に至る。肥厚部の下位の接合部分は凹線が巡ったように見える。口唇部は丸く収め、一部に外側から左手親指を押し当てたような凹点が施され、内面も膨らむ。内面は緩い稜をもって屈曲している。1394は外反する頸部から内湾気味に外傾する33mm幅の口縁部に至る。口唇部は丸く収め、口縁部外面にはつなぎ目がずれている3条の沈線が巡る。器面調整は丁寧なナデであり、入佐式土器に該当する。1395は肥厚した口縁部である。30mm幅の口縁部文様帯に2条の太めの沈線ははっきり巡るが、4条巡る可能性もある。肥厚部下端は指で摘み出すように強調している。内外面ともミガキによる調整である。入佐式土器の古段階に該当する。

1396～1402は口縁部に幅広の肥厚帯をもつものの、文様のない口縁部である。1396は胴上部で内湾させ短めの肩部をもち、外傾する口縁部に至る。内面の口縁部境には稜がみられるが、外面は頸部と口縁部の境はみられない。胎土に金色雲母を含む。入佐式土器に該当する。1397は頸部で屈曲し、外傾する口縁部である。作りは粗いが、口縁部の肥厚は意識しているようである。器面調整は内外面とも粗いナデであり、胎土に金色雲母を多く含む。1398は内面に稜をもって外傾する口縁部である。外面は肩部と頸部境で外反し、わずかに肥厚する口縁部をもつ。口唇部は平らに面取りする。内外面とも丁寧なナデであり、口縁部に文様は見られない。胎土に金色雲母を多く含む。入佐式土器である。1399は内傾する頸部から外反する口縁部に至る。口縁部境に断面が低い二等辺三角形の盛り上がりがあり、口縁部肥厚帯を形成する。口唇部は平らに面取りする。頸部外面は粗いナデで、口縁部外面から内面はヨコナデであり、口縁部肥厚帯は無文である。胎土に金色雲母を含む。外面から穿孔した補修孔がみられる。大型の深鉢と考えられ、ミガキはみられず、口縁部肥厚帯は40mmと幅広く文様もみられないことから、入佐式土器古段階より新しい時期に位置づけられると考える。1400は頸部で強く外反し、内面に稜がみられる。口縁部は2mm増しで肥厚し、口唇部は面取りする。内外面ともミガキが施されるが、口縁部外面に沈線等はみられない。1401は内傾する肩部から屈曲して外傾する口縁部に至る。内面には緩い稜がみられる。口縁部はわずかに肥厚するが、沈線等の文様はみられない。基本的な形状は入佐式土器に該当するものの、古墳時代前半の土師器の可能性も否めない。1402は内傾気味の頸部から外側に屈曲し、内湾気味に開く口縁部であり、口唇部は平らに面取りする。頸部と口縁部の境は低い段があり40mm幅の文様帯をもち、横方向の明瞭な条痕がみら

れる。外面頸部および内面は丁寧なナデである。口縁部文様帯はほとんど肥厚せず沈線等もないことから、入佐式土器の新段階に該当する。

1403～1406はⅧ類土器の底部と考えられる。1403は底径5.5cmの上げ底である。接地面からそのまま内湾して開く。外面は摩耗しているが、ミガキ面がみられる。内面は丁寧なミガキにより平滑である。1404は復元径6cmの上げ底である。外反するように成形した上から粘土を貼り付けて、接地面からそのまま開く。中岳Ⅱ式土器とするには底径が大きいと考えられる。1405は直径7.4cmの浅い上げ底である。接地面から周縁にかけては丸みを帯びる。調整は内外面とも粗い。色調は赤褐色で、花崗岩質の胎土である。縄文時代後期末に位置づけられる。1406は復元径9.2cmの平底である。底面の器厚は25mmと厚く、大きく外湾して約40度の角度で開く。内外面ともミガキ様のナデである。金色雲母が目立ち、入佐式土器の可能性はある。

1407～1415はⅧ類もしくはⅧ類に伴う浅鉢形土器と考えられる。1407はわずかに内湾気味に外開きする体部から、屈曲して13mmほど立ち上がる口縁部に至る。口唇部は丸みを帯びながら面取りする。口縁部内面には上位に、外面には中位に幅2mmの沈線を1条巡らす。内外面ともミガキによる。このような器形や施文方法は、牧B遺跡(曾於市)で見られるような中岳Ⅱ式の新しい段階と共通するものであり、この時期に位置づけられると考えられる。

1408～1411は長めの頸部のある口縁部である。1408は頸部下位で大きく外反し、屈曲して立ち上がる口縁部をもつ。口唇部は凹みをもつように面取りする。口縁部外面は9mm幅の肥厚帯をもち、1条の凹線様の沈線を巡らす。肥厚部下位は接合痕がみられる。深鉢口縁部の類似性から、上加世田式土器の時期が考えられる。1409は復元口径23cmを測る。内湾気味に開く体部上部で内側に強く屈曲し、10mm幅の明瞭な肩部をもつ。肩部上端で内面に稜が残るほど屈曲させ、外反する50mmを超す長い頸部をもつ。頸部端部の内側に粘土紐を重ね、断面楕円形の口縁部を形成する。接合部の外面は沈線状となり、内面は緩やかな段状となる。内外面ともミガキによる。1410は1409と同一個体の可能性もあるが、体部と肩部境の稜のシャープさや、内面の肩部に相当する部分の長さが少し異なることから掲載した。1411は体部上部で内側に強く屈曲し、6～7mm幅の明瞭な肩部をもつ。わずかに外反気味に外開きする35mmの頸部をもち、端部内側に粘土紐を重ね、断面楕円状の口縁部をつくる。口縁外面の接合面は明瞭な細い沈線となる。内面肩部は稜をもつ3mm幅の段となり、内面の口縁部は凹線風の段となる。内外面ともヘラミガキによる。1412は緩く外反する頸部から内側に粘土を重ねた口縁部に至る。口唇部は尖り気味に

丸め、内面に10mm幅の肥厚帯をもつ。口縁部外面には接合痕部分にわずかな細い沈線がみられる。

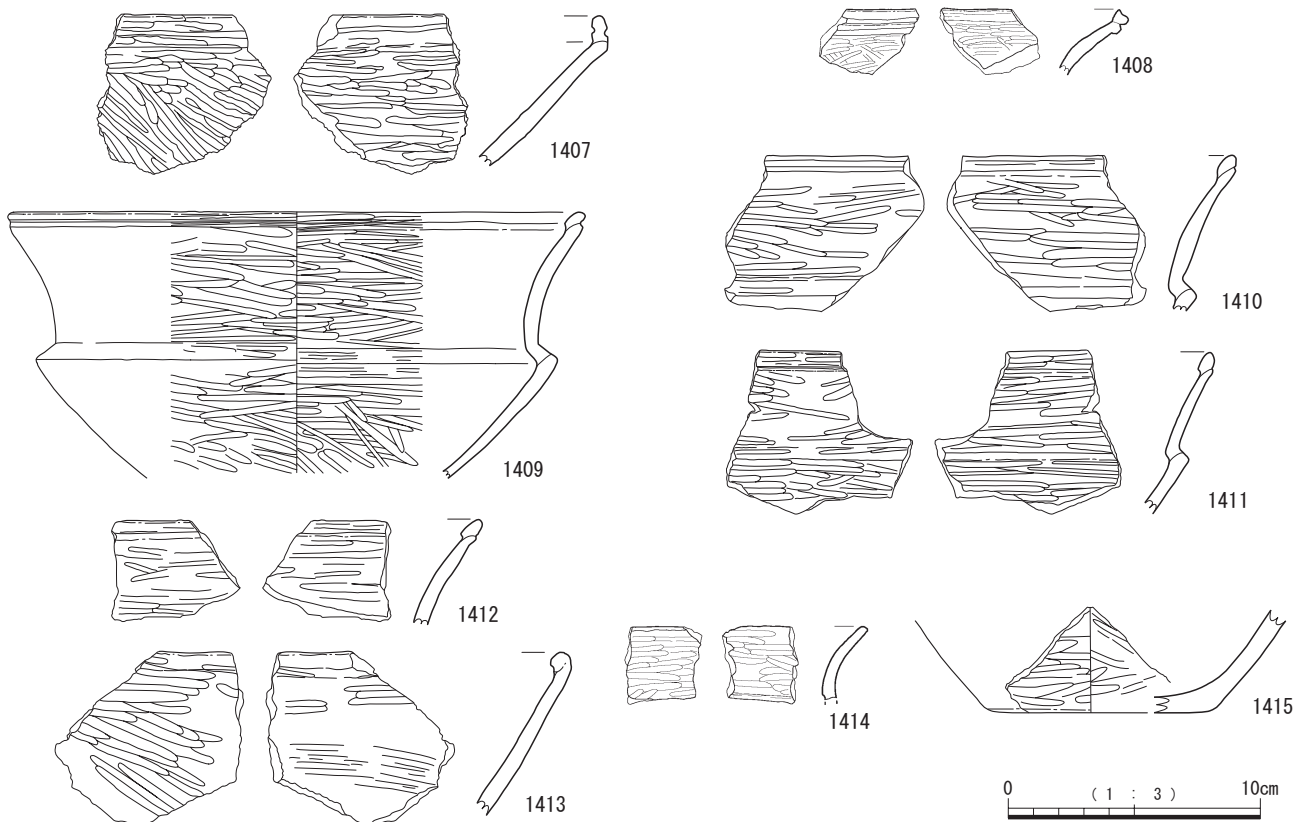
1413はわずかに内湾気味に外開きする。口縁端部の内側に粘土を貼り付け、口唇部も一体化して玉縁状となる。口縁部内外面とも沈線などはみられない。外面はミガキで、内面はナデの痕跡がみられる。胎土に小礫を多く含む。1414は胴上部で内側に屈曲し、大きく外反する口縁部をもつ。口唇部は丸く収め、口縁端部に加飾等は見られない。確実な根拠はないが、上加世田式土器期に近いと思われる。1415は復元径9cmの平底である。約50°の角度で内湾気味に立ち上がる。色調が極暗赤褐色で中岳Ⅱ式に近いが、検討を要する。

XV類土器 深鉢形土器は、口縁部と頸部の境が不明瞭となり、肩部も痕跡程度のもので、器面調整にミガキがみられない土器である。

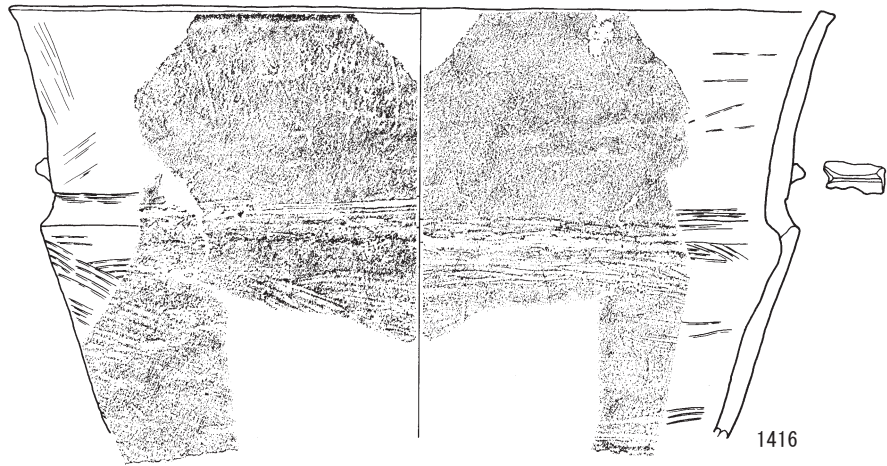
1416は胴部中位から口縁部にかけての破片である。復元口径は32.8cmで、胴部最大径は上位にあり復元径30cmを測る。わずかな凹凸はあるが、直線的に外開きする胴部をもち、上位で内側に屈曲し1cmほどの短い肩部をもつ。口縁部は外反気味に開き、口唇部は外端を強調する様に面とりしている。口縁部は75mmと長めであり、肥厚せず文様等もみられない。口縁部と肩部境を筋のある工具でナデることによって低い段をもち、横長の突起を貼

り付ける。外面は丁寧なナデであり、沈線文などはみられない。胴部内面は横方向の貝殻条痕による。1417は復元口径33cmを測る。胴部近くは外反し、そこから上は直行する口縁部である。口唇部は面取りし、肥厚はしない。鱗状の突起をもち、この部分のみわずかに肥厚する。外面は丁寧なナデであり、内面は横方向の粗いナデである。1418は外傾する胴上部で内側に屈曲し、緩く外反気味に内傾する頸部である。胴部の復元径は40cmである。内外面とも貝殻条痕による器面調整であり、胎土は花崗岩質である。1419はわずかに外反しながら開く口縁部である。口唇部は丸みをもつ部分と平坦面をもつ部分があり、外端部がわずかに膨らむ。意識して肥厚させたのではなく、口唇部を仕上げる際、余分な粘土がはみ出したと思われる。内外面とも条痕による器面調整である。

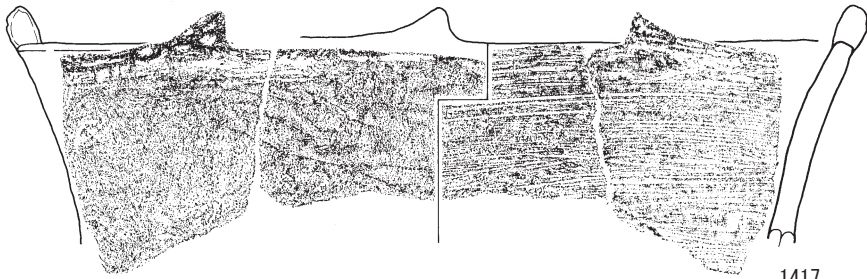
1420～1422は深鉢形土器の底部である。1420は直径11cmの安定した平底の底部である。台形状の張り出しをもつ。約40度の角度で開く。外面は粗いナデで、内面は丁寧なナデである。黒川式土器もしくは干河原段階の土器に該当すると考えられる。1421は直径9.6cmの安定した平底の底部である。台形状の張り出しをもつ。約50度の角度で開く。外面は粗いナデ、内面は貝殻条痕を丁寧にナデ消している。小礫を多く含む。黒川式土器もしくは干河原段階の土器に該当すると考えられる。1422は直径9.8cmの安定した平底である。台形状の円盤形で、約50



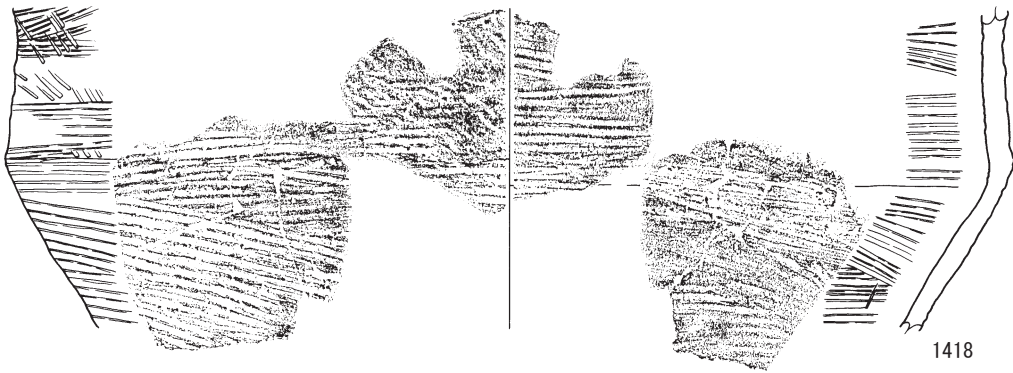
第2-109図 XⅡ・XⅢ類土器（浅鉢形土器）



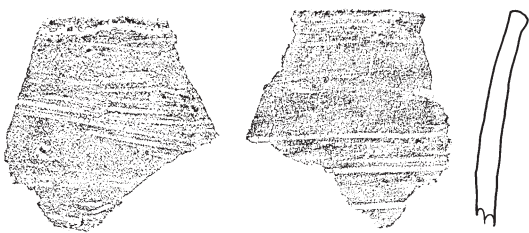
1416



1417



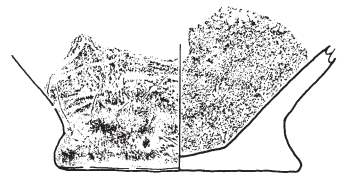
1418



1419



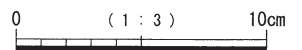
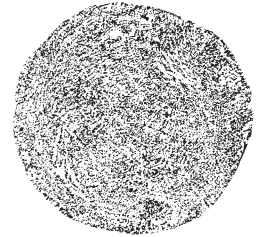
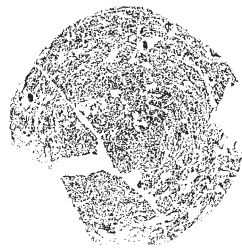
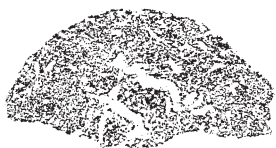
1421



1422



1420

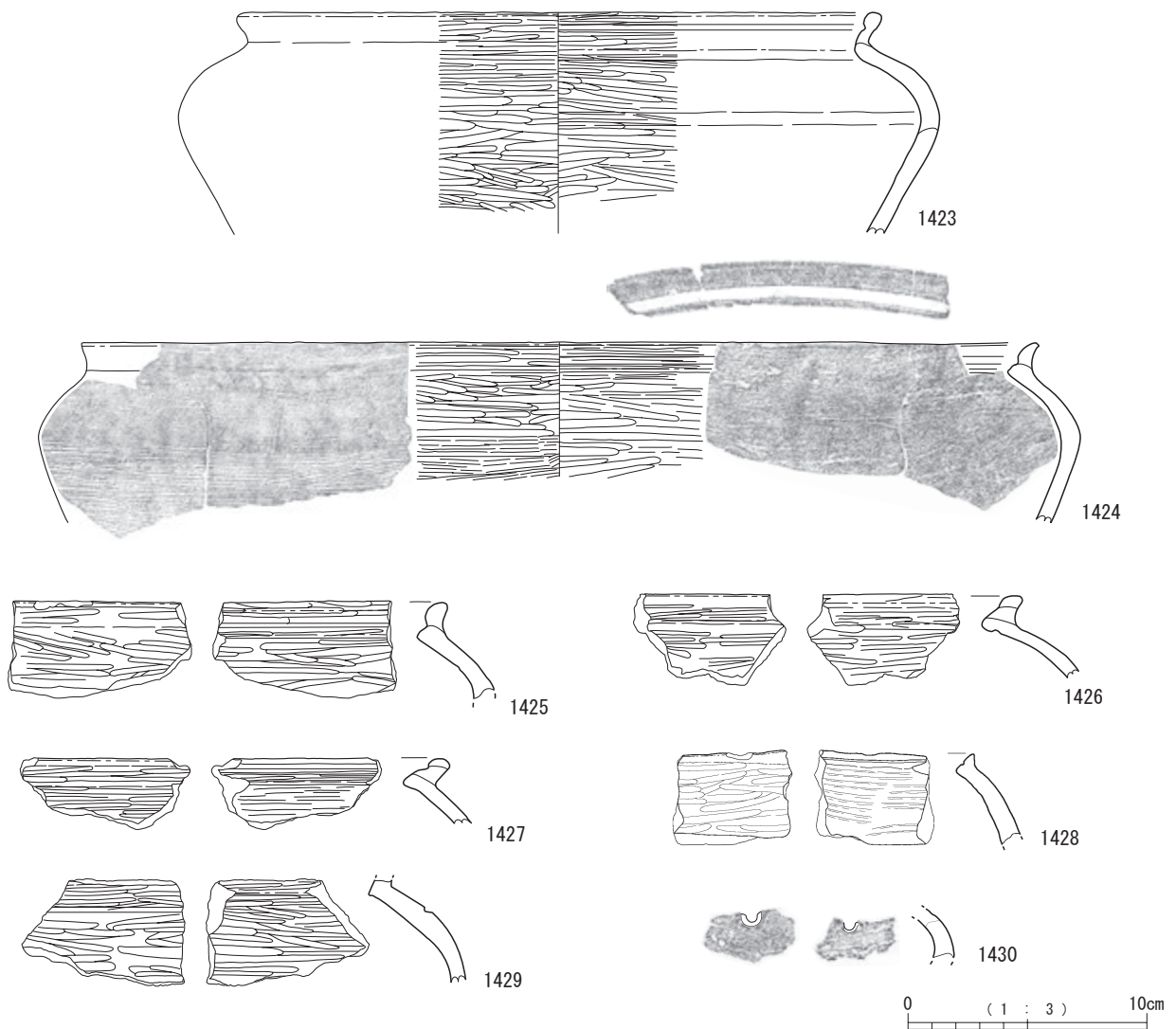


第2-110图 XIV類土器

度の角度で胴部へ開く。外面は貝殻条痕で、内面は丁寧なナデである。黒川式土器もしくは干河原段階の土器に該当すると考えられる。

1423～1430はXIV類土器に伴うと考えられる浅鉢形土器である。1423は復元口径27cm、復元胴部最大径32cmを測る。直行気味に外開きする体部から半球形状に内湾する胴部と肩部に至る、いわゆる胴張りのタイプである。肩部端に粘土紐を重ね、15mmほどの頸部から口縁部を形成する。外面は肩部境から口縁部まで一体化している。内面の肩部と頸部境は稜はなく丸みを帯びており、口縁部境は凹線風の緩い段状となる。内外面ともミガキである。1424は胴張りのタイプであり、復元口径40.2cm、復元胴部最大径43.6cmを測る。内湾する肩部端に粘土紐を縦長に1段重ねることによって口縁部を形成する。口唇部は尖り気味に収める。外面は親指の側面が当てはまるほどに頸部と口縁部が一体化している。内面の接合部は太い凹線状となる。体部外面は横方向の条痕状であり、肩部から上は内外面とも丁寧なミガキである。1425は1424と

同一個体と考えられるが、口唇端部や内面屈曲部のシャープさが異なることから掲載した。1426は胴張りの肩部端部に粘土紐を2段重ねることで短く外開きする口縁部に至る。口縁部外面は一体化した10mm幅の口縁部となるが、内面は1条の凹線風に見える。内外面とも横方向のミガキによる。1427は胴張りの肩部端部に粘土紐を2段重ねることで短く外開きする口縁部に至る。口縁部外面は一体化した11mm幅の口縁部となるが、内面は頸部と口縁部を合わせた長さが22mmとなる。内面の頸部と口縁部の境は1条の凹線風に見える。内外面とも横方向のミガキによる。1428は内湾する肩部から口縁端部のみを上方外側に短く成形するものである。親指と人差し指で軽く摘みながらナデで成形していることが想定される。口縁部内面は10mm幅であり、1条の沈線を巡らす。1429は内湾する肩部であり、胴張りのタイプであると考えられる。肩部の途中に1条の沈線が巡る。沈線内の上の方は鋭く、下の方は緩くくぼむ。口縁部は欠けているが、肩部端部に粘土紐を重ねて形成する。内面の口縁部境は



第2-111図 XIV類土器（浅鉢形土器）

下方に張り出す。内外面とも横方向のヘラミガキによる。内面は黒色で、外面は明赤褐色である。一般的に黒川式土器の胴張り浅鉢には沈線がみられないが、この類に含めた。干河原段階の浅鉢には下の方をケズリ出して段をつくるが、本資料は沈線の上下が同じ厚さの器面であり、干河原段階の初期段階を示すと考えられる。1430は胴張りの肩部で外面から穿孔した補修孔がみられる。

XV類土器 第2-112~114図は口縁端部が粘土を重ねて肥厚するもの、あるいは口縁端部のみ外反させて肥厚したようにみえるもの、また、それらに伴うと考えられる深鉢形土器や浅鉢形土器である。なお、一部の破片だけでは深鉢形土器であるのか組織痕土器を含む中華鍋形の土器であるのか判別できないため、これらの土器についてもここで紹介する。

1431~1434は器形的に口径より器高の方が大きい点や、内面がミガキではなく平滑でないことから、深鉢形土器であると考えられる。1431は復元口径43cmの口縁部から胴上部にかけての破片である。胴上部で逆「く」字状に屈曲し、外面に稜が入る。頸部から口縁部は外反しながら立ち上がる。口縁部外面に幅16~22mmの肥厚帯が巡る。外面は粗いナデであり、内面は横方向の丁寧なナデによる。1432は復元口径41.4cmでわずかに内湾しながら立ち上がる。口縁端部から85mmほど下にわずかに粘土を重ねて膨らんだ部分がみられ、胴部と肩部の境となる。口縁端部をわずかに外反させ、見かけ上肥厚しているようにみえる。口唇部は丸く収める。内面は丁寧なナデにより、外面は粗いナデによる器面調整である。1433は直径11.5cmの安定した張り出しのある円盤状底部である。底部の厚さ11mmよりも薄い高さ8mmで台形の円盤状となる。約45度の角度で内湾気味に開き体部に至る。外面は粗いナデで、内面はミガキ様のナデで滑らかである。1434は復元口径34cmの口縁部から胴上部にかけての破片である。外傾する胴部から約15度内側に屈曲し、直行する口縁部をもつ。内面の屈曲部は丸く内湾し、外面の屈曲部に緩い稜が入る。口唇部は少し面取りし、口縁外端部は玉縁状に肥厚する。外面は条痕をナデ消し、内面はナデによる器面調整である。胎土に金色の雲母を含む。

1435~1442, 1446~1449は深鉢形土器なのか中華鍋形土器なのかはっきりしないものや、寸胴鍋形の土器である。1435は復元口径34.6cmである。内湾気味に外傾する体上部から約20度で内側に屈曲し、内傾気味に直行する口縁部に至る。口唇部は丸く収め、肥厚しない。体部と口縁部境は器壁が厚い。口縁部外面には細めの条痕が明瞭に残る。内面がミガキ様で滑らかであることと体部の器厚に厚薄がみられることから、中華鍋形土器の可能性もある。1436は復元口径46.6cmを測る。外開きする胴上部で、外側のみ内側に屈曲し、直行する口縁部に至る。

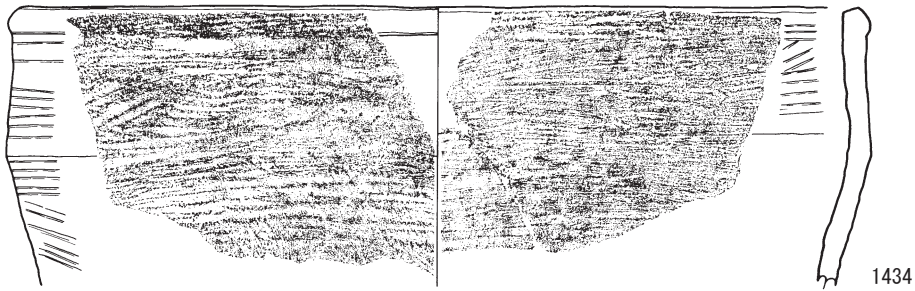
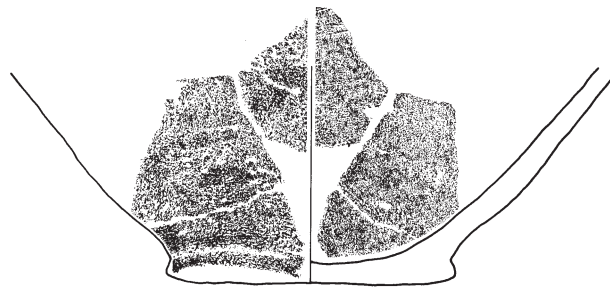
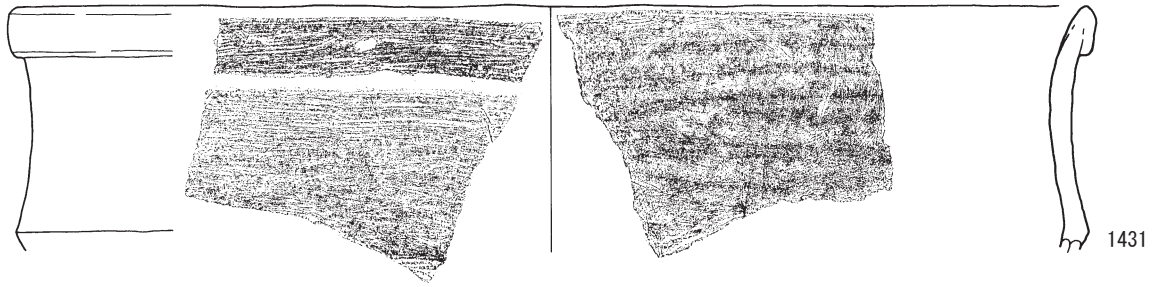
屈曲部のみわずかに肥厚する。口唇部は丸く収め、肥厚しない。中央に山形の突起、両側に片鱗状の突起をもつ。突起部分の口唇部は平らに面取りし、山形の頂部のみ凹点状にくぼめる。突起部分は面取りするため、鱗状部分は両側に、他は外面のみ肥厚する。外面胴部は粗いナデであり、口縁部外面は横方向の条痕である。内面は条痕の後ミガキ様のナデであり、口唇部には条痕がみられる。外面口縁部付近に煤が多く、内面には焦げがみられる。

1437は復元口径34.8cmを測る。丸みをもちながら胴上部から口縁部に至り、口縁部端部のみわずかに直口する。鱗状突起の部分は肥厚するが、一般の部分は肥厚しない。内外面ともケズリ様のナデである。器形と内面の調整から深鉢の可能性もあるが、1490の様に組織痕を施す例もあり、機能的な面を含めて検討を要する。

1438は50mm幅の肥厚帯をもつ口縁部である。肥厚帯の下部がより厚くなり、最も膨らむ部分の内面は緩く凹んでいる。内外面とも器面調整は粗いナデである。1439は内湾する胴上部から外側に屈曲して短めの口縁部に至る。胴部最大径部分で直径38cm前後と思われる。口縁部は欠けているが、山形の突起をもつと想定される。頸部境の口縁部外面は段状となり、山形突起部分は肥厚している。内面の屈曲部分は浅い凹み状となっている。外面は横方向のミガキであり、古相の観がある。類例に乏しいが、干河原段階に位置づけておきたい。1440は直行する口縁で、外面が20mm幅で肥厚し、1条の凹線が巡る。口唇部を丸く収める際、外端の粘土が凹線まではみ出している。器面調整は内外面とも粗いナデである。中岳Ⅱ式にみられる口縁肥厚帯に凹線を巡らすものとは異なり、干河原段階のものと考えられる。

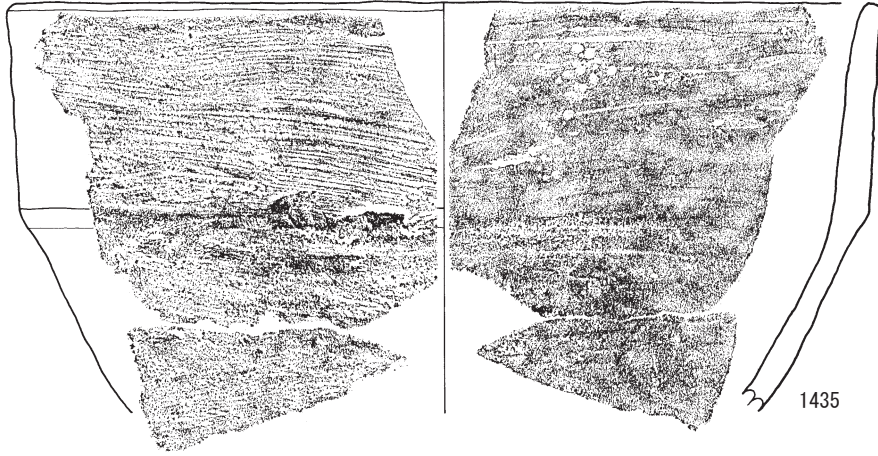
1441は口径22cmである。内湾気味に開く胴上部から内側に丸く湾曲させ、内湾気味に内傾する口縁部に至る。最大径は胴上部にあり22.8cmを測る。湾曲部の一部は外側に粘土を重ねて口縁部を形成するため段がみられる箇所もある。口縁部端部の成形は丁寧ではなく、凹凸がみられる。内面は粗い条痕で、外面は細めの条痕による。口縁部外面に煤が多く付着し、外面に付着した煤を年代測定した結果、 ^{14}C 年代が $2700 \pm 20\text{yrBP} \pm 1\sigma$, 2σ 暦年代範囲が899-808calBC (95.45%) である。1442はほぼ直行する口縁部である。口縁端部から6cm下に無刻目の突帯をもつもので、口縁部にも12~18mm幅の肥厚帯を巡らす。口縁端部内面は口唇部とともに面取りする。干河原段階から刻目突帯文期に移行する頃のものと考えられる。

1443~1445はXV類土器の深鉢形土器の底部であると考えられる。1443は復元径11.4cmの平底で、厚さ15mmで円盤状である。外面はナデにより、内面はミガキで平滑である。底部器形と内面の器面調整との類例が少なく、浅鉢の可能性もある。黒川式~干河原段階と考えられる。

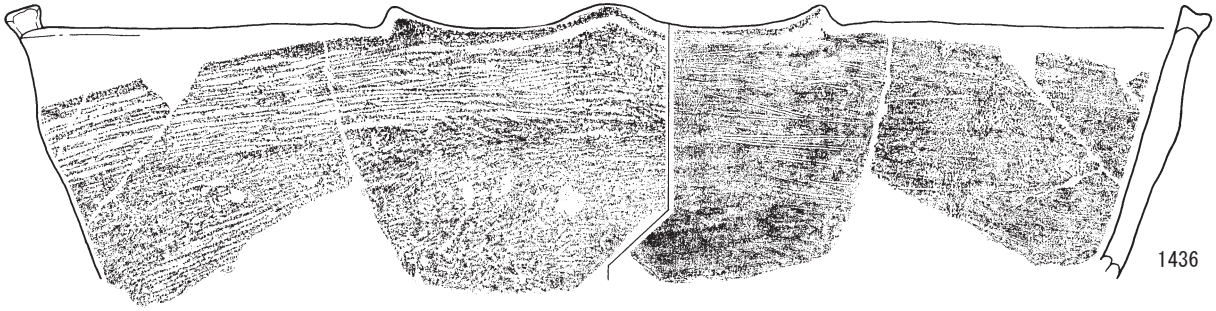


0 (1 : 3) 10cm

第2-112図 XV類土器(1)



1435



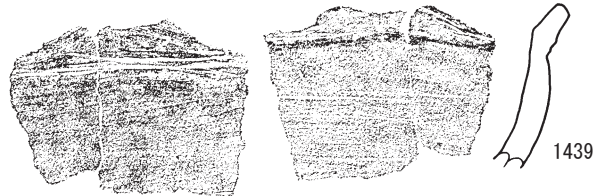
1436



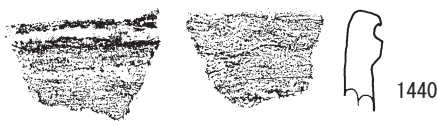
1437



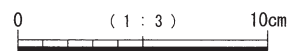
1438



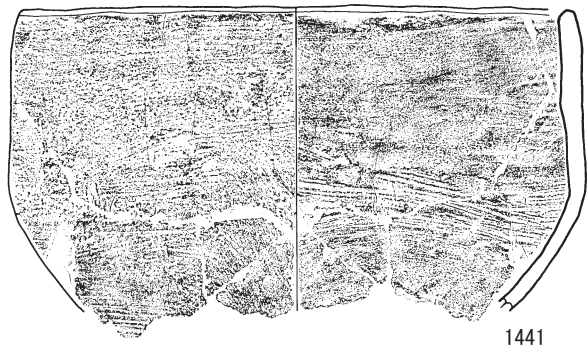
1439



1440



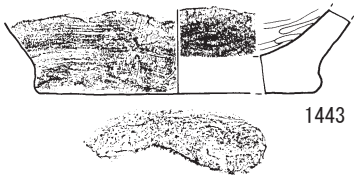
第2-113図 XV類土器(2)



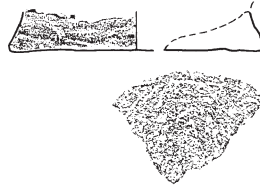
1441



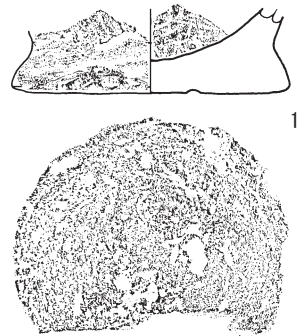
1442



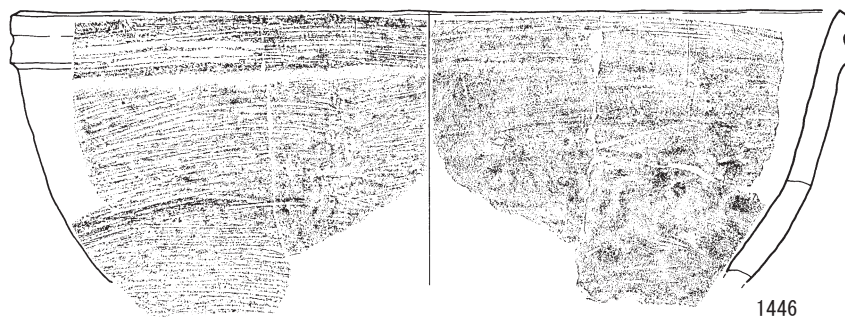
1443



1444



1445



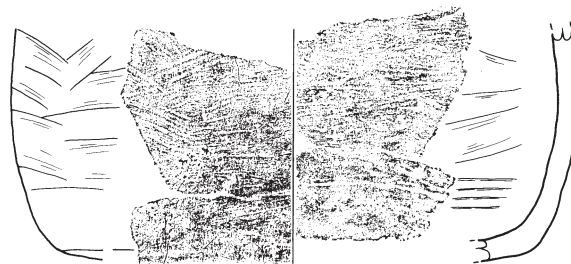
1446



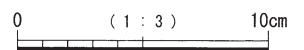
1447



1448



1449



第2-114図 XV類土器(3)

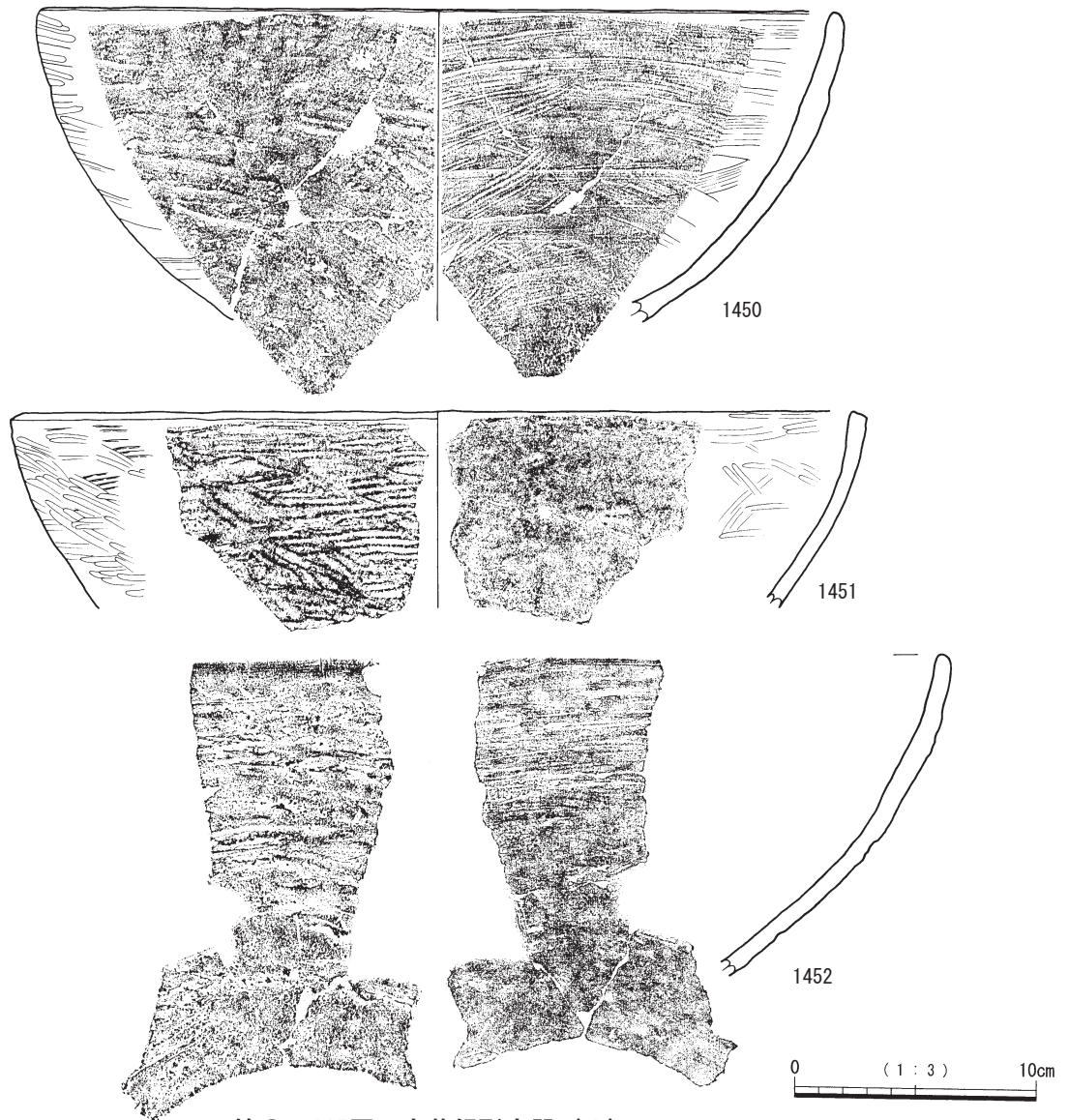
1444は復元径10.2cmの平底である。台形状の張り出しをもつ。深鉢なのか浅鉢なのか不明である。1445は直径11cmの安定した平底の底部である。台形状の張り出しをもつ。内面は貝殻条痕を丁寧にナデ消している。黒川式土器もしくは干河原段階の土器に該当すると考えられる。

1446は復元口径34.5cmで、深鉢か中華鍋形か迷うものである。体上部でわずかに内側に屈曲し、外傾して口縁部に至る。口唇部は面取りし、外面に20mm幅の肥厚帯をもつ。肥厚帯に沈線状の部分がみられるが、器面調整の際偶然付いた可能性もある。外面は条痕で、内面はナデによる器面調整である。煤の付着はみられない。1447は12mm幅の肥厚帯をもつ口縁部である。内面は平滑である。

1448は復元口径20.6cmである。3mmの器厚で外開きする体部から、内側に屈曲して35mm幅で外傾する口縁部に至る。口縁部の器厚は8mmであり、口唇部は丸く収める。内面は粗いナデ調整の後、ミガいている。

1449は復元径22.4cmを測る底部付近から胴部下位である。緩い丸底から屈曲して内湾気味に立ち上がる胴部に至る。外面はナデで、内面は条痕の後ナデている。寸胴鍋形の鉢と考えられるが、類例が少なく検討を要する。

1450～1456は中華鍋形の形状で、内面がミガキ状で平滑であり、組織痕がみられないものの、機能的には組織痕土器と同様であると考えられるものである。1450はおおよその口径は33cm前後である。半球形で組織痕はみられない。口唇部を細くし、肥厚はみられない。外面はヘラナデするが、下地の粗いナデが目立つ。内面は粗いナデであるが、底に近いほど滑らかである。1451は内湾しながら立ち上がる復元口径35cm前後の口縁部で、口唇部は平らに面取りする。器壁は5mmと薄く、内面は平滑で外面に貝殻条痕が明瞭にみられる。中華鍋形土器の類に入れたが、器壁が薄い点は検討を要する。1452は内湾気味に開く。口唇部を丸く収め肥厚しない。外面はナデで、



第2-115図 中華鍋形土器(1)

内面はミガキにより平滑である。組織痕はみられない。

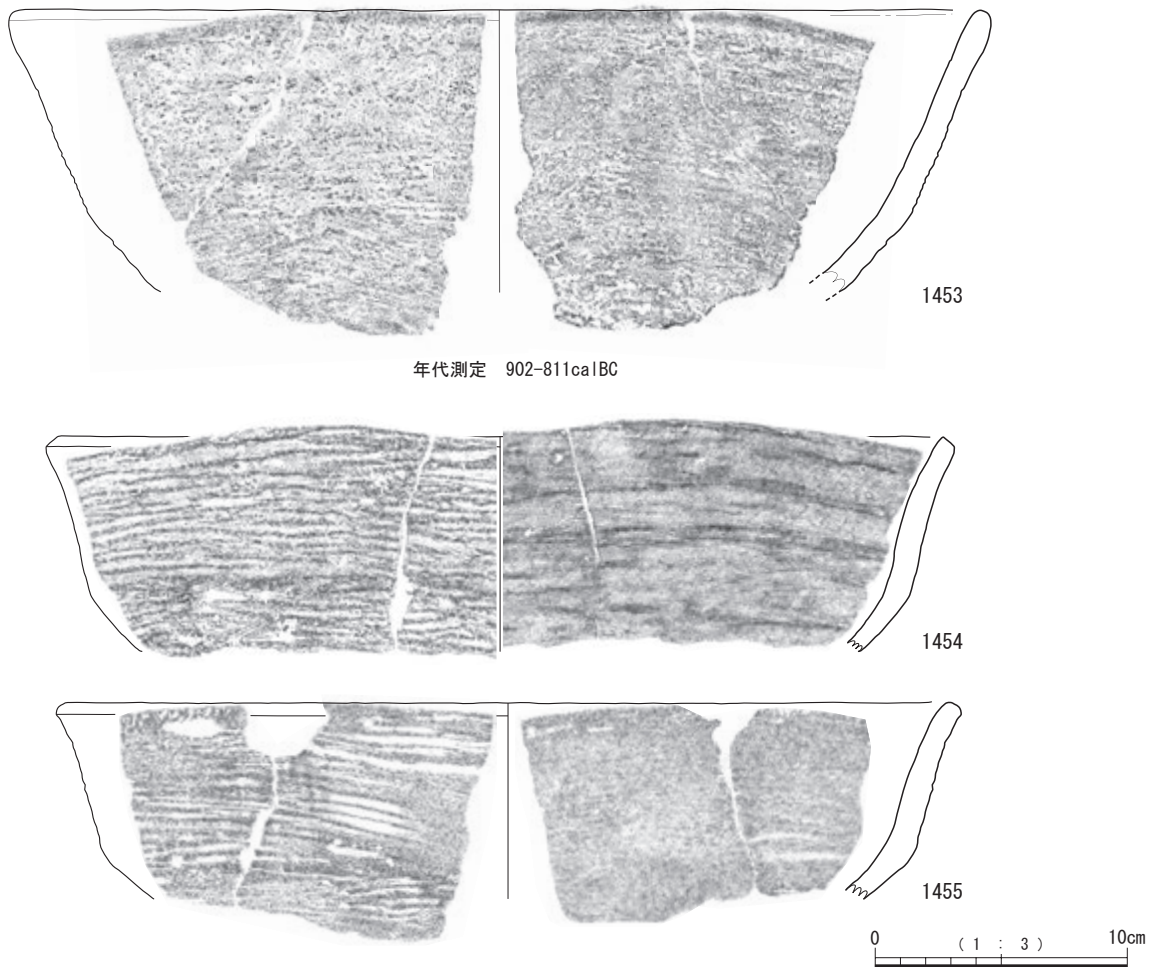
1453は復元口径39cmを測る。内湾気味に開く体上部で約18度と緩く屈曲し、外傾する口縁部に至る。口縁部端近くのみわずかに外反し、口唇部は丸く収め肥厚部はみられない。外面は粗いナデであり組織痕もみられない。内面はナデで平滑である。口縁部に多く付着した煤を年代測定した結果、 ^{14}C 年代が $2710 \pm 20\text{yrBP} \pm 1\sigma$ 、 2σ 暦年代範囲が $902-811\text{calBC}$ (95.45%) である。

1454と1455は同一個体の可能性もあるが、出土地点が異なることから2点とも掲載した。復元口径36cmで、体部上位で逆「く」字状に内側に屈曲し、外反気味に開く口縁部に至る。口縁端部に肥厚はみられない。内面下位は平滑で焦げが著しい。器形と内面の特徴から中華鍋形と考えられる。

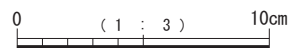
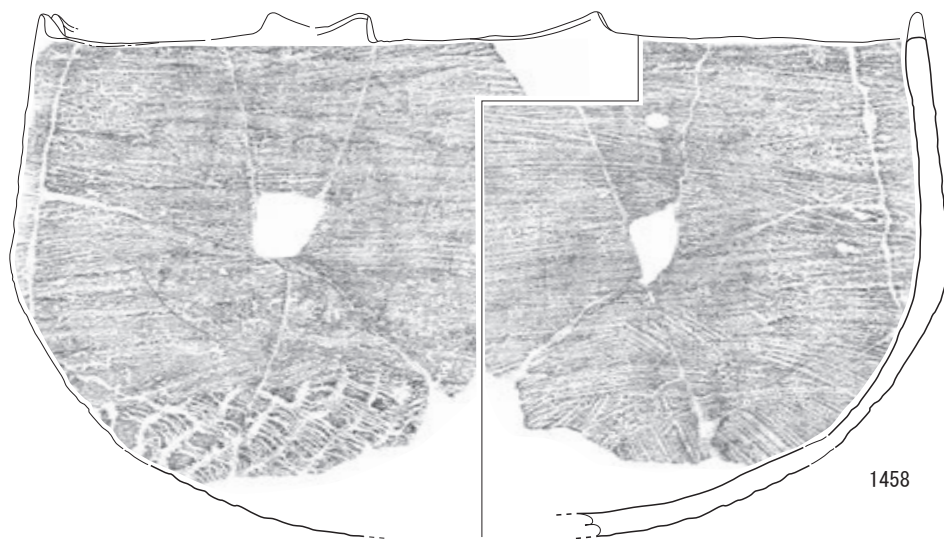
1456は復元口径36cmでやや深めの土器である。半球形に近い底部と体部の境に段があり、膨らみのある体部から少しくびれてわずかに外反する口縁部に至る。口縁部外面には15mm幅の肥厚部があり、口唇部を丸く収める。鱗状の突起部分は内面も肥厚する。体部から口縁部の外面は横方向の粗いナデで、内面は丁寧なナデで平滑であ

る。外面底部に明瞭な組織痕を観察することはできないが、部分的に横糸がみられる。胎土に軽石を多く含む。付着した煤を年代測定した結果(試料1)、 ^{14}C 年代が $2725 \pm 20\text{yrBP} \pm 1\sigma$ 、 2σ 暦年代範囲が $909-818\text{calBC}$ (95.45%) である。肥厚口縁帯をもつことから干河原段階の中華鍋形土器であり、実年代の一事例となった。

1457~1494は編布あるいは網目の圧痕をもつものであり、組織痕土器あるいは中華鍋形の土器としてまとめられるものである。中には、時期的に前後するものもあると考えられるが、文中で紹介したい。組織痕をもつ土器片は、掲載資料以外に54点出土しており全て編布によるものである。1457は復元口径36cmで底部付近から半球形状に立ち上がり、口縁部は直行する。口唇部は丸く収め、口縁部外面に28mm幅の肥厚部があり、鱗状もしくはリボン状の突起を施す。内外面とも粗いナデである。12mm幅の縦糸と1cmあたり6~7本の横糸の編布である。胎土に軽石を多く含む。器形や胎土は1456と類似しており、1456にも編布圧痕があったことが類推できる。これまで組織痕土器については完形品に復元できるものが少なく、全体の形状を知ることができなかった。その中で、本資



第2-116図 中華鍋形土器(2)



第2-117図 中華鍋形土器（組織痕土器）（1）

料では組織痕土器にリボン状あるいは鱗状の突起が付くことがわかり、新たな資料が得られた。1458は復元口径35.2cmである。半球形と想定される底部から大きく内湾し、内傾する口縁部に至る。体部の最大径は37.2cmである。口唇部は丸く収め、突起部分とともに肥厚しない。向かい合った片鱗状の突起の間にリボン状の突起が施されると想定される。口縁部の残りの状態から1か所だけに装飾されたと考えられる。底上部から最大径にかけては組織痕を消すような左から右へのケズリ状のナデであり、外面の口縁部にかけては右から左への横方向の粗いナデである。内面は粗い条痕であり滑らかさはないが、底面は条痕をナデ消している。編布はZ撚りの縦糸間12~13mm幅で1cmあたり8本の横糸がみられる。胎土に軽石を多く含む。口縁部の突起に着目すると、リボン状突起を挟んだ一对の片鱗状突起が付くと想定される。1456や1459と比較すると、1457の突起部分は肥厚せず立体感にも乏しい。口縁部に肥厚帯がなく、口縁部が内傾する点や内面底部付近が条痕のままの器面調整であることなどから、若干の時期差が考えられる。退化したのか、これから進化するのか、今後の検討を要する。

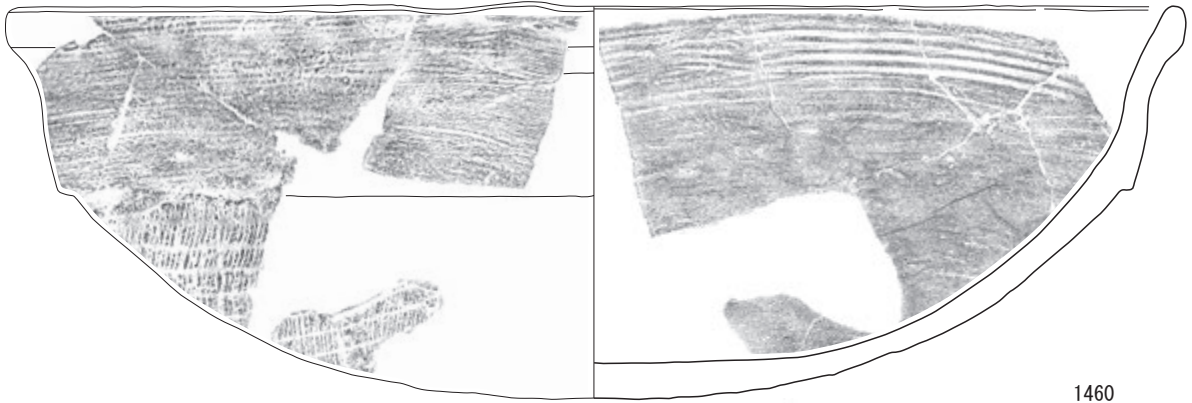
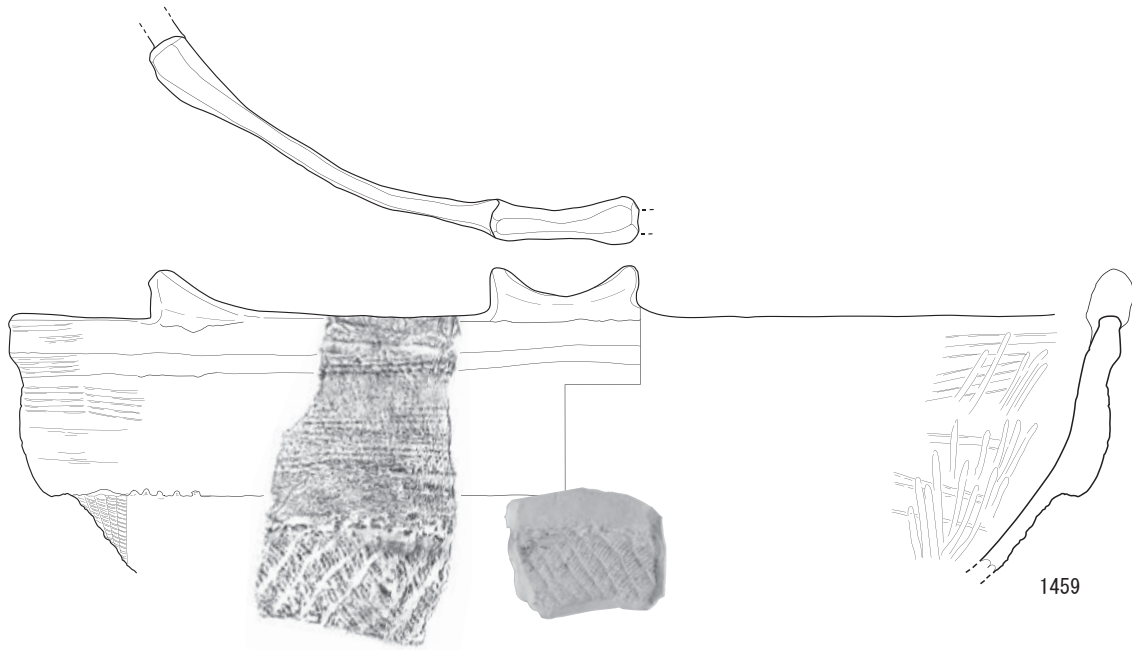
1459は復元口径44.2cmで、外傾気味に開く底部上位から内側に緩く屈曲して口縁部に至る。ほぼ直行した口縁部であるが、屈曲部と口縁部外面を厚くし、横方向の粗い条痕で一体化しており、見た目では外反しているようにみえる。口唇部は丸く収め、口縁部外面に17~20mm幅の肥厚帯をもつ。口唇部の突起はリボン状突起を中心に両側に片鱗状の突起が線対称的に付くと想定される。突起部分は内外面とも肥厚する。リボン状突起中央から片鱗状突起までは18.5cmあり、全体を想定すると1個体の中で1か所みの加飾と考えられる。同じような例は同時期の底部に沈線が巡る浅鉢にもみられ、共通した想いが込められていると考えられる。編布は縦糸間8~9mm幅で、1cmあたりの横糸は6本である。内面はミガキで平滑であるが、口縁部には条痕がみられる。完形品として復元されている1460と特徴が一致し、同一個体の可能性があるが、両者とも全周の6分の1ほどの破片であり、ゆがみも多いため復元した口径には若干の差がみられる。1460は口径47cm、器高15.6cmに復元されている。底部の接地面が狭い丸底であり、底部上位からの特徴は1459と同じである。編布の特徴も同じであり、少なくとも41.5cmの幅に47本の縦糸がみられ、縦方向へも18cmは残っている。この中に縫い合わせはみられず、これまで見つかった編布圧痕では最も広い幅である可能性があり、当時の衣類の様相を復元するのに有効な資料である。

1461は接合点はなかったものの両者に編布圧痕があり、特徴が一致したことから図上復元したものである。復元口径45cm、復元器高20.4cmで半球形に立ち上がる器形である。口唇部は丸く収め、口縁端部に肥厚はみられず、

外面の口縁端部下を指でひとナデする程度に浅く凹む。外面は粗いナデで、内面はナデにより底部付近は平滑である。縦糸間53mm幅の編布であり、1cmあたり6本の横糸である。周辺の編布はナデ消されている。内面は平滑である。胎土に軽石を多く含む。縦糸は幅が広い点を補うように2条1組で編まれたようにも見え、他に事例があるのか検討を要する。1462は復元口径38.4cm、復元器高約11.8cmで、わずかに内湾しながら開く浅い底部から胴部境で強く内湾し、わずかに外反気味に立ち上がる口縁部をもつ。口唇部は軽く面取りし、肥厚部はみられない。底部と胴部の境にわずかな段があり、底面には編布の圧痕がみられる。編布は1cmあたり7~8本の横糸で縦糸は13~15mm幅と3条を単位とする7mm幅の部分がみられる。幅狭の3条単位が入るのは、少なくとも幅広10条の間隔を開けている。外面は粗いナデであり、内面は底に近いほど平滑になる。外面上部に煤がみられ、内面底部近くは黒く焦げている。

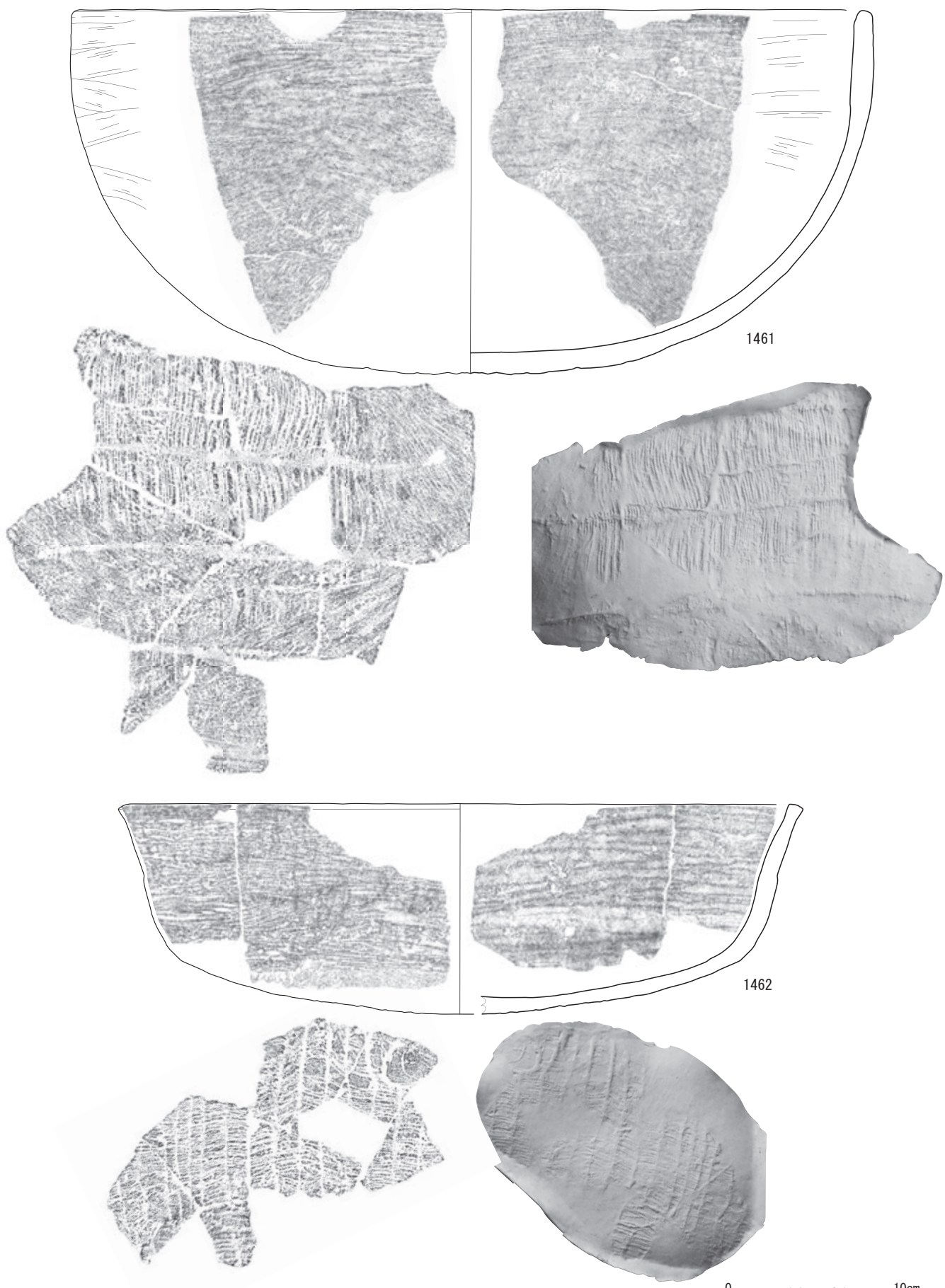
1463は復元口径41.4cmを測る。外傾する底部から粘土を重ねて屈曲部をつくる。内湾気味に立ち上がる口縁部から口唇部は丸く収める。口唇部下に刻目のない1条の三角突帯を巡らす。組織痕は5mm幅の縦糸に7~8本の横糸がみられる編布である。外反する型の縁と直交する様に編布を敷いている。無刻目突帯の時期に該当すると考えられる。1464は復元口径28.2cmであり、底部との境で内側に屈曲し、内傾して立ち上がる口縁部である。口縁端部を外側に短く折り曲げ、口唇部は丸く収める。鱗状もしくはリボン状の突起を施す部分は内外面とも肥厚する。底部の器厚は3~5mmと同一でない。底部境は粘土を重ね8mmと厚くなる。内外面とも粗いナデである。編布は1cmあたり3~4本の縦糸と7~8本の横糸である。1465は接合はしないが同一個体と考えられる。口縁端部の折り曲げは刻目突帯文期の浅鉢に類似するものであり、組織痕土器でも新しい時期に位置づけられると考えられる。本遺跡の中では最も縦糸幅が狭い例である。

1466は丸く湾曲する底部から外面のみわずかに屈曲して口縁部に至る。屈曲部の復元径は39cmである。編布は斜位に敷かれ、5mm幅の縦糸と1cmあたり7~8本の横糸である。1467は1466と同一個体と考えられ、底部境の屈曲部に対してほぼ直角に編布が敷かれており1cmあたり10本の横糸をもつ。1468は底部と体部境で内湾する様に屈曲する。屈曲部の復元径は36cmである。屈曲部は粗いナデで、口縁部近くは条痕をヨコナデしている。1cmあたり5本の横糸の編布である。1469は底部から体部へ緩く屈曲する部分である。底面の厚さは4~11mmと一定せず、屈曲部が最も厚く14mmを測る。編布は底部から体部まで連続して敷かれている。縦糸が18~20mm幅で、1cm当たり9本の横糸をもつ。屈曲部より上位に組織痕がみられる例はほとんどなく興味深い。内面はミガキによ



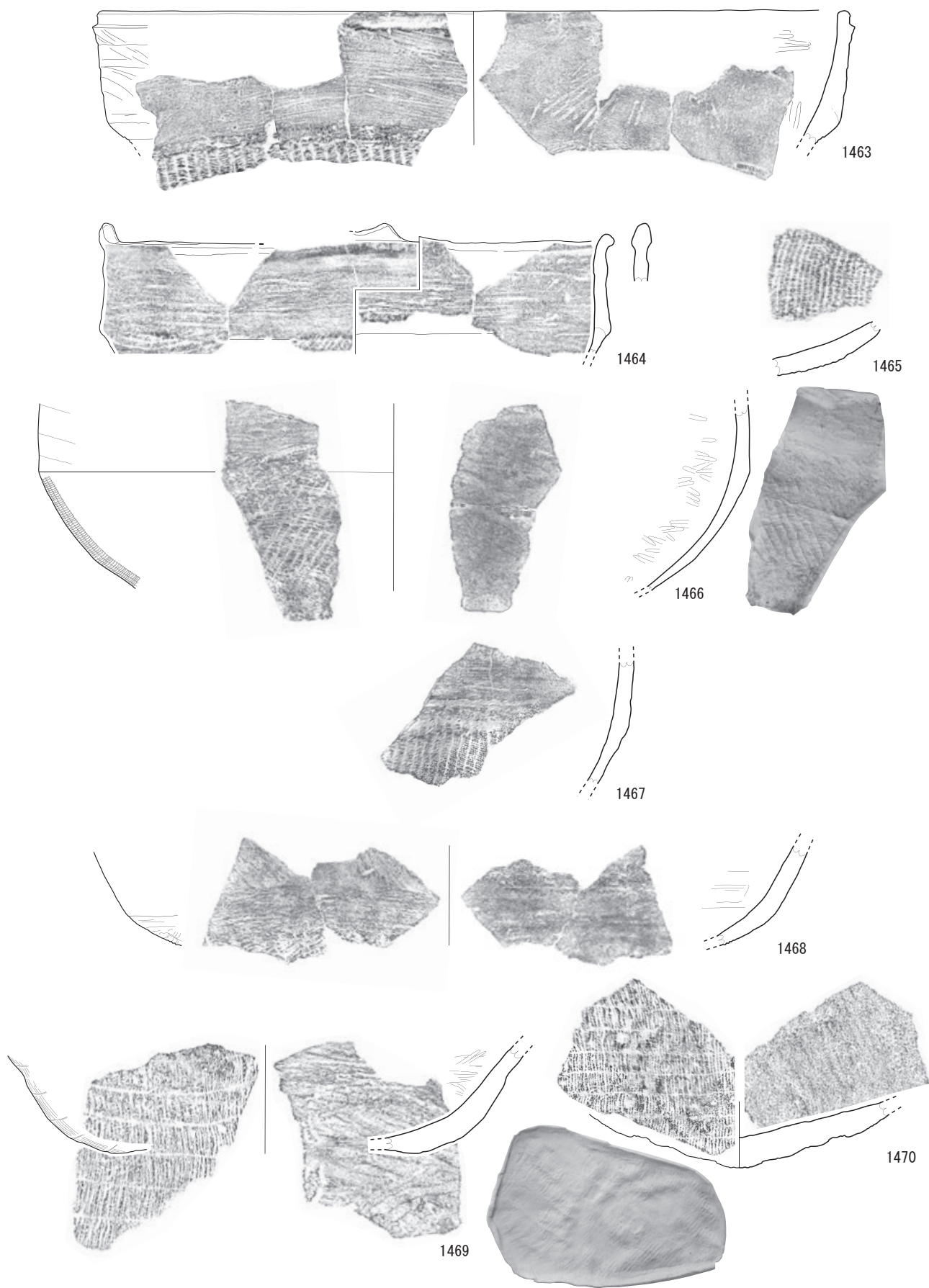
0 (1 : 3) 10cm

第2-118図 中華鍋形土器（組織痕土器）（2）



第2-119図 中華鍋形土器（組織痕土器）(3)

0 (1 : 3) 10cm



第2-120図 中華鍋形土器（組織痕土器）（4）

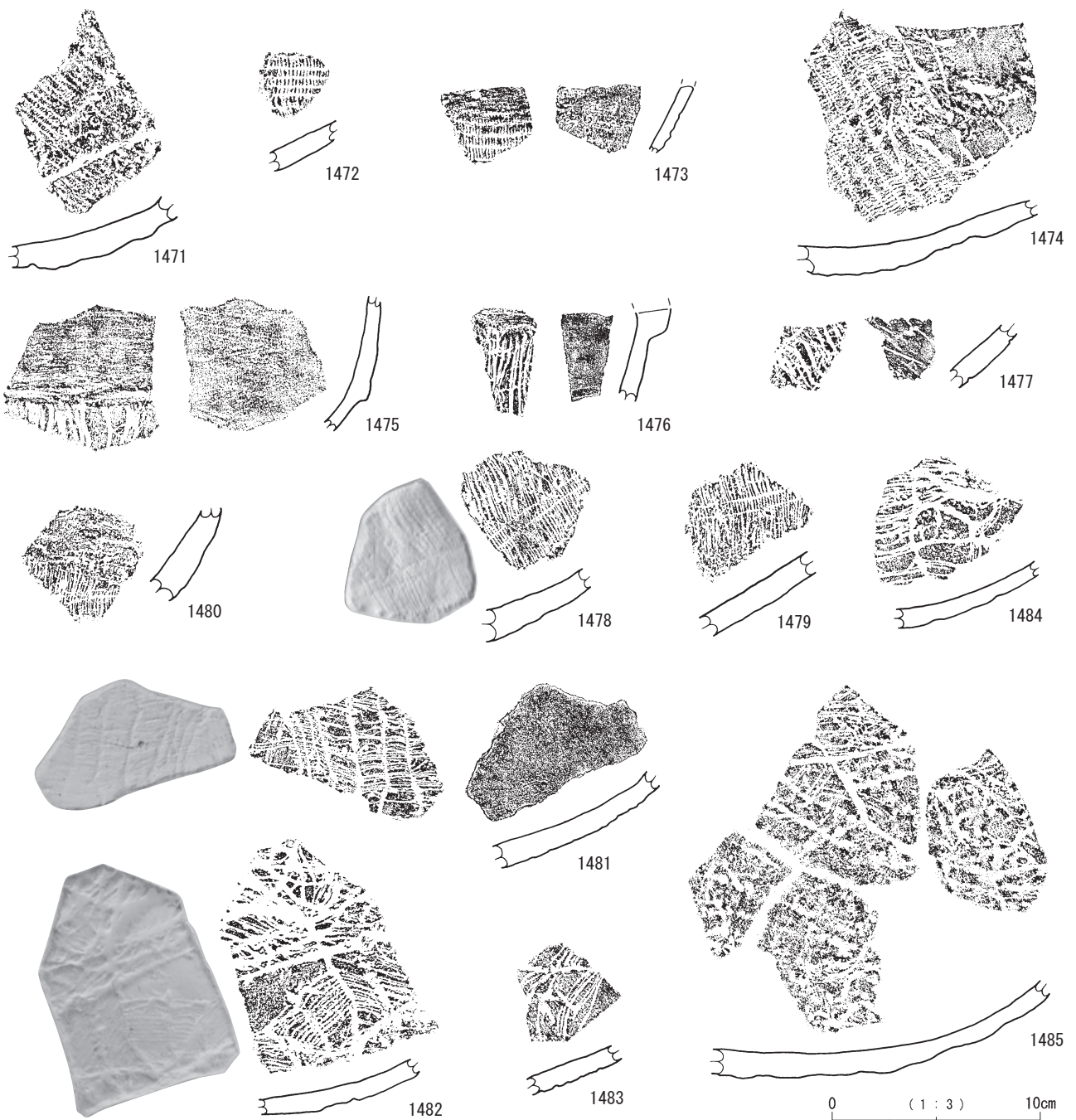
0 (1 : 3) 10cm

り平滑である。1470は10～12mm幅の縦糸に1cmあたり7本の横糸をもつ編布である。型には同心円状もしくは渦巻き状の凹凸が3条はみられる。このような手法で編まれた筧などを型として利用していたことが窺える。

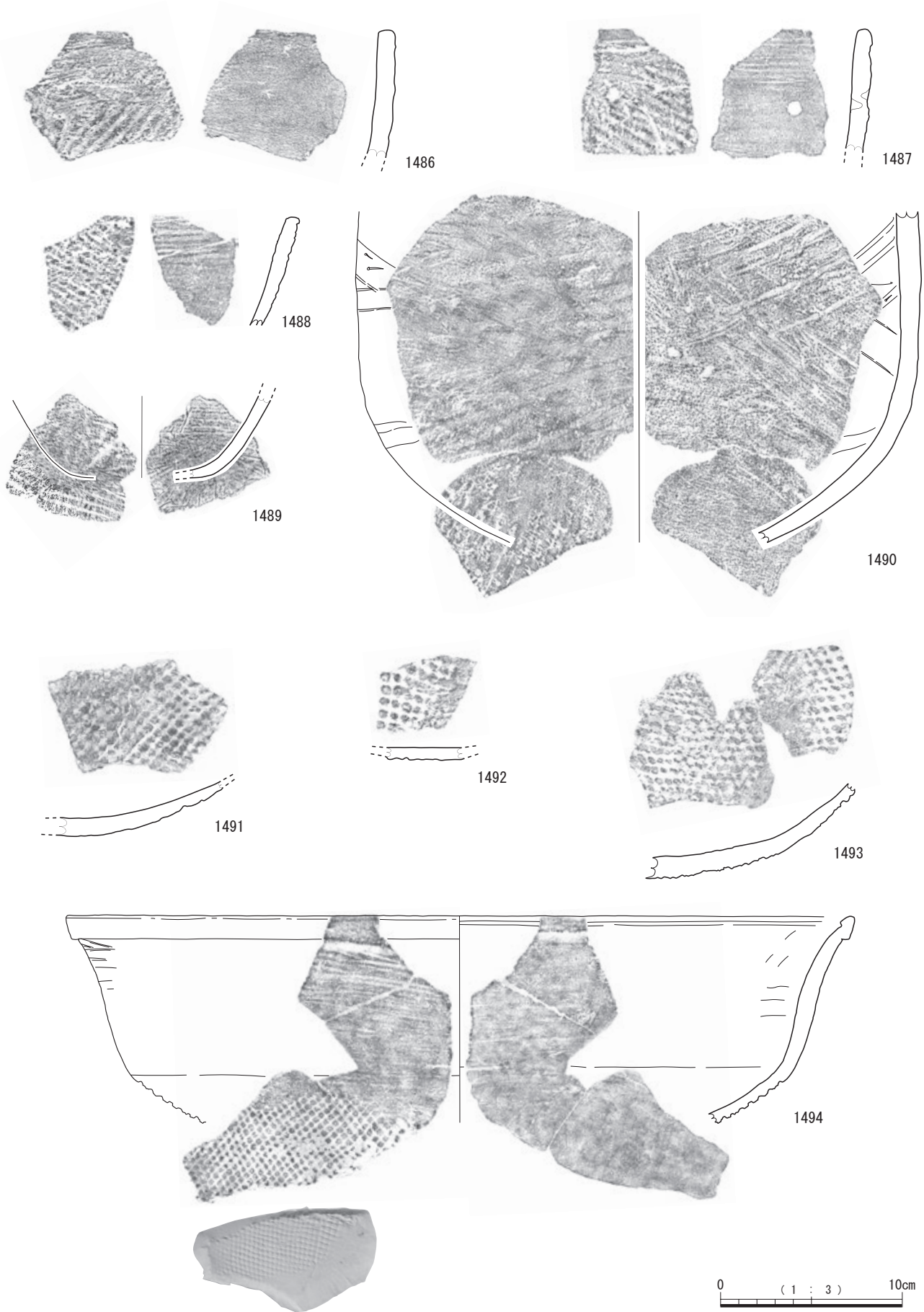
1471～1485は編布圧痕のある土器片であり、小破片のため縦糸間の幅が複数みられるかどうかは不明である。1471は凹凸が著しい。1cmあたり3本の縦糸と7～8本の横糸の編布である。1472は縦糸間3～4mm幅で1cmあたりの横糸は7本である。1473は5mm幅の縦糸に7本の横糸がみられる。無文部分との境に厚みの違いなどはみられない。内面は粗いナデの調整である。金色雲母を多

く含む。1474は7～8mm幅の縦糸に1cmあたり5本の横糸をもつ。また、編布が複雑に重なった部分もみられる。1475は底部と体部の境が段をもって明確である。縦糸間20mm以上ある編布はほつれている。1476は幅25mm以上はある縦糸と1cmあたり5～6本の横糸である。体部境は屈曲せず段をもつ。底部の器厚が8mmで、段の部分は16mmである。1477は24mm幅の縦糸に1cmあたり5本のほつれた横糸である。

1478～1481は幅の狭い縦糸間の両側に幅広の縦糸間がみられるものである。1478は縦6mm幅の編布を挟んで両側に少なくとも縦16mm幅と縦30mm幅を越す編布がみられ、



第2-121図 中華鍋形土器（組織痕土器）(5)



第2-122図 中華鍋形土器（組織痕土器）（6）

横糸は1cmあたり6～7本である。縦糸はZ撚りで編まれており、土器表面に付いた糸くずもZ撚りである。1479は縦6mm幅の編布を挟んで両側に少なくとも縦糸幅16mmおよび25mmを超す編布がみられ、横糸は1cmあたり6～7本である。1480は縦糸が2～3mm幅とその両側に10mm以上の幅をもつ編布である。体部境でわずかに屈曲する。底部分が14mmと厚く、体部は8mmの器厚である。体部のナデ消した部分の下にも編布がみられる。これらは、デザイン性ととも縦糸の強度を高める1461と同じような縦糸の編み方が想定される。1481は14mm幅に4本の縦糸で3単位の編布と12～15mm幅および20mm以上の幅のある編布を合わせもつ。横糸は1cmあたり7本である。糸のつなぎ目もみられる。内面はミガキにより平滑である。

1482～1485は編布のほつれ具合や縦糸が太い点、内面がナデ調整で黒色化していない点など共通点が多い。1482は圧痕にいくつかの様相がみられる。20mm幅の縦糸に1cmあたり5～8本の横糸がみられ、編布がほつれた部分もみられる。点状に深くなった部分は結び目と考えられる。また、編布の縁もしくは縫い合わせたような部分、それに圧痕が空白の部分もみられる。1483と1484はほつれた編布であり、20mm幅の縦糸に1cmあたり4～7本の横糸がみられる。1485もほつれた編布で、10mm幅と20mm以上の幅の縦糸があり、横糸は1cmあたり8本である。

1486～1490は口縁部まで編布圧痕が付着するものや、組織痕土器としては中華鍋形ではなく類例の少ない器形のものである。1487はわずかに内湾気味に直行するものである。口縁部近くまで組織痕がみられ、口唇部までの10mmほどの幅はヘラ状の工具でナデている。口縁部外面から内面にかけては丁寧なナデであり口縁部外面は肥厚しているようにみえる。内外面からの穿孔がみられるが貫通していない。組織痕は縦糸6mm幅の編布であり、横糸は1cmあたり8本みられる。1486も同一個体と思われる。1487が右下がりの編布であるのに対し、1486は左下がりの編布である。1486の編布圧痕は口唇部から40mmほどの間隔をおいている。口縁部端部近くまで組織痕がみられる例はこれまでなく、器形や製作方法の検討が必要となる。1488も口縁部付近まで編布圧痕がみられる。組織痕は縦糸5mm幅の編布であり、横糸は1cmあたり8本みられる。内面は条痕の後、丁寧にミガかれている。どのような器形になるかは不明である。1489は復元径8cmの浅い丸底から緩く屈曲して開く体部に至る。体部はナデ調整であるが、一部の深い部分に編布が残る。内面は条痕調整のままで平滑ではないが、焦げは残る。5mm幅の縦糸に1cmあたり10本の横糸の編布がみられる。器形や内面調整、体部にも編布圧痕がみられることなど一般的な組織痕土器と異なる。1490は胴部の破片と接合し、胴部以下の形が明らかになった。丸底から直立する

胴部に至る。復元胴部径は31cmである。外面はケズリ様のナデの後、ミガキ様のナデを施す。内面はケズリ様のナデで、組織痕土器に一般的なミガキはみられない。底面は編布圧痕をヘラナデして消す様相がみられる。この部分は径約10cmの円形に割れており、型作りの際、1個の粘土の塊を想像できる。厚さは9mmであり、約70.65cm³の粘土を用いたと考えられる。口径に対し深くなる器形に編布圧痕がみられる例はほとんどなく、内面も平滑とはいえないことから、機能的な面も検討しなければならない資料である。

1491～1493は同一個体と考えられ、同じ6～7mm幅の網目をもつ。1493はわずかに屈曲し、この部分の組織痕はナデ消されている。底面から体部にかけて連続して網が敷かれていたと考えられる。組織痕は6～7mm幅の網目である。1494は復元口径41cm前後であり、ゆるやかな丸底に近い底部から胴下部で内側にわずかに屈曲し、緩く外反する口縁部に至る。口縁部外面に14mm幅の口縁部肥厚帯をもつ。口唇部は丸く収め、口唇部内面も段をもって肥厚させ、精製浅鉢にみられるような玉縁状に仕上げる。外面は横方向の粗いナデである。底部には網目の組織痕がみられる。網目の幅は3～4mmと細かい。これまで県内で出土した網目でもっと細かいのが西原段I遺跡(大隅町)の3mmであり、最も大きな網目は計志加里遺跡(薩摩川内市)の37mmである。串良川で小魚や水性昆虫などを獲っていた状況が想定される。内面は平滑であり、底部から胴下部まで焦げている。

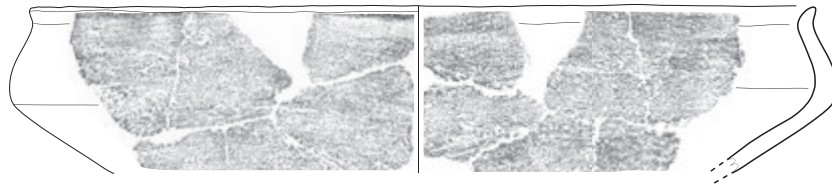
第2-123～125図はXV類土器に含まれると考えられる浅鉢類である。

1495は復元口径29.7cmを測り、屈曲部とほぼ同じである。外開きする胴上部から、内側に屈曲して外反気味に直行する口縁部に至る。口唇部は丸く収め、肥厚しない。外面はミガキ様のナデであり、内面は横方向のナデによる。外面は被熱により赤化している。石鉢谷B遺跡(鹿屋市)の例では浅い丸底となっており、本資料も同様な器形が考えられる(外反口縁屈曲浅鉢)。石鉢谷B遺跡では干河原段階の中でも屈曲せずに2条の無刻目突帯をもつ時期で、刻目突帯土器を全く含まない希少な例である。1496は口縁部復元径30.7cmを測る。直線的に開く体部から胴張りの肩部に至り、屈曲して短く外傾する口縁部をもつ。口縁部外面に肥厚はなく、内外面に凹線等のみみられない。内外面とも摩耗しており器面調整は明確でない。外面に煤が付着しており年代測定した結果、¹⁴C年代が2755±20yrBP±1σ、2σ暦年代範囲が932～830calBC(92.60%)、970～956calBC(2.85%)である。

1497～1506は丸みを帯びた平底の接地面近くに沈線を巡らし、外反して開く体上部を変換点として内湾しながら立ち上がる口縁部をもつ器形の浅鉢(波状口縁内湾浅鉢)である。1497は復元口径26.2cmを測る。4か所の波

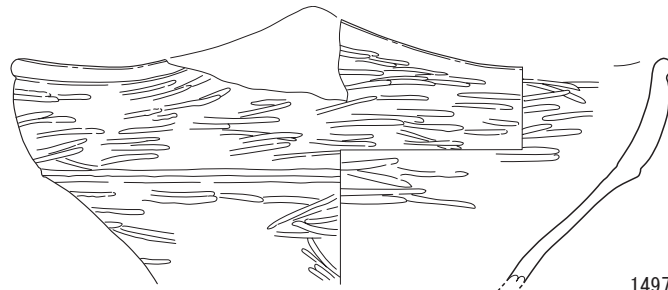


1495

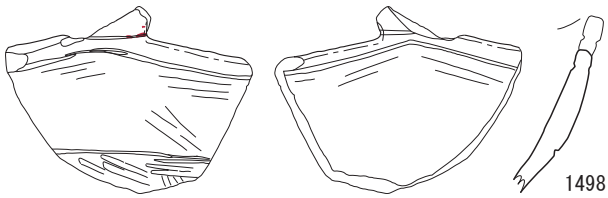


1496

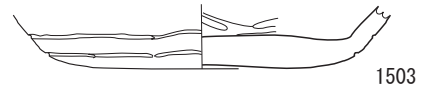
年代測定 932-830 cal BC



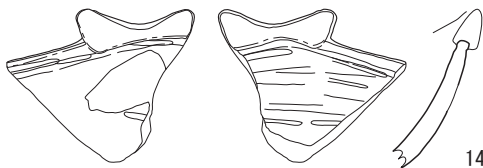
1497



1498



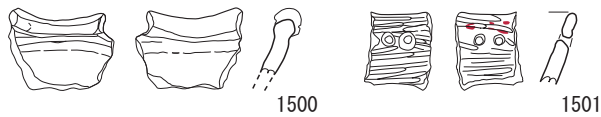
1503



1499



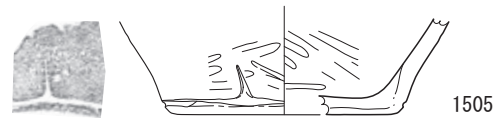
1504



1500



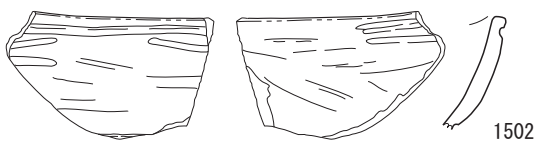
1501



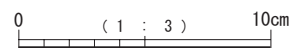
1505



1506



1502



第2-123図 XV類土器 (浅鉢形土器) (1)

頂部をもつと想定される。外反気味に開く体部上端の内側に粘土を重ね、内湾する口縁部に至る。体部と口縁部の境は断面半円状に肥厚する。口縁端部は外面のみ玉縁状に肥厚する。内外面ともヘラミガキし、黒色処理している。1498は波状口縁の土器である。わずかに外反する体上部から沈線を境に内湾しながら開く頸部に至る。口縁部の内外面に沈線を巡らし、膨らみのある端部をつくる。波頂部にリボン状の突起をもつ。突起の下位には内外面とも沈線がみられる。突起の沈線内にベンガラによる赤色顔料が施された痕跡がある。1499は内湾気味に開く波状の口縁部である。口縁端部の内外面を削り出し状にし、玉縁状となる。波頂部にリボン状の突起が付き、内外面とも粘土を重ねて肥厚する。1500は玉縁状の口唇部にリボン状の突起をもつものである。口唇部との接合面には内外面とも沈線を弧状に施す。1501は口縁端部をヘラミガキにより削り出したものである。内面にベンガラによる赤色顔料がみられる。補修孔が2つ並んでみられ、左側は両面から、右側は外面からの穿孔である。孔の直径は3mmと同じであるが、片面穿孔の右側が大きくみえる。1502は内湾して開く口縁部である。体部境に沈線がみられ、口縁端部外面を削り出し気味に肥厚させる。口唇部は面取りする。

1503～1506は沈線を巡らす底部である。1503は復元径12cmで周縁が丸みを帯びる大型の平底である。約45度の角度で外反気味に開く。底面に接して2条の沈線を巡らす。沈線は丁寧な描き方ではなく乱れている。1504は復元径13cmで周縁が丸みを帯びる平底である。約45度の角度で外反気味に開く。底面に接して2条の沈線を巡らす。1505は復元径9.4cmの底部である。やや丸みを帯びた底面から約55度の角度で外反気味に開く。底面に接して1条の沈線が巡り、一部に三叉文を施す。内外面とも丁寧なミガキである。1506は復元径10cmで底面が丸みを帯びる平底である。底面に接して少なくとも2条の太い沈線を巡らす。

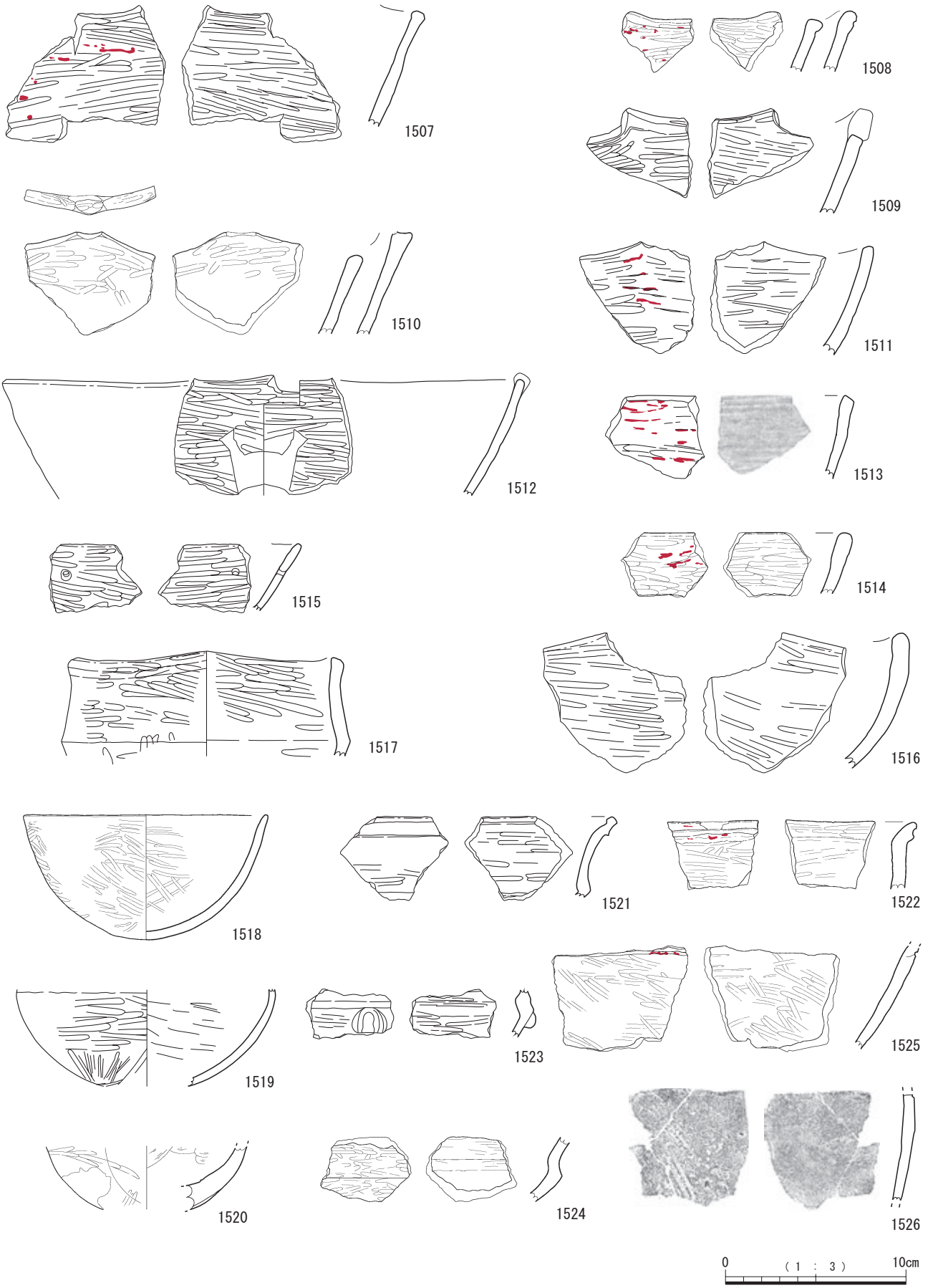
1507～1516は外傾あるいは内湾しながら開く口縁部をもつ浅鉢であり、全体の器形は不明である。1507は内湾気味に開く波状の口縁部である。口唇部を平らに面取りし、外側を玉縁状に肥厚させる。内外面ともヘラミガキであり、外面の調整痕の隙間内にベンガラによる赤色顔料が残る。1508は山形の波頂部である。口唇部は面取りし、外面を肥厚させる。外面はヘラミガキで、内面はナデである。外面の調整痕の隙間内にベンガラによる赤色顔料が観察できる。1509は内湾気味に開く波状の口縁部である。波頂部に鱗状の突起が付き、この部分のみ外面は粘土紐を重ねて肥厚する。1510は直行気味に開く波状の口縁部である。口唇部は面取りし、外端をわずかに丸く肥厚する。波頂部に楕円形の凹点を施す。1511は内湾気味に立ち上がる波状の口縁部である。口唇部を丸く収

め肥厚はしない。内外面もヘラミガキであり、外面にベンガラによる赤色顔料を施す。1512は復元口径29cmで内湾気味に体部から口縁部へ外開きする。口縁端部に変化はなく、そのまま口唇部を丸く収める。両端は欠けてはいるが膨らみのある鱗状の突起をもつ。内外面ともミガキによる。内外面とも黒色処理している。全体の器形はそのまま丸底となるのではないかと考えられる。1513は1514に近いもので、わずかに内湾する。口唇部は同じ器厚で緩く面取りする。器面調整は内外面ともミガキ様のナデである。外面の調整痕の隙間内にベンガラによる赤色顔料が残っている。1514は特徴的な部分がなく器形は不明である。器面調整はミガキによるもので、外面の調整痕の隙間内にベンガラによる赤色顔料が観察できる。1515はほぼ直線的に開く口縁部であり、口唇部は尖り気味に丸く収める。内外面ともミガキによる。外面は明赤褐色で、内面は黒色処理している。内面から穿孔した補修孔がみられる。1516は大きく内湾して直行気味に立ち上がる口縁部である。口唇部は丸く収め、波状口縁になると考えられる。口縁部下は2本の指で挟むように成形しており、内外面ともわずかに凹むが、肥厚しない。器壁は10mmと厚い。内外面ともヘラミガキである。外面に煤が付着する。

1517は体部上部から口縁部にかけての破片であり、復元口径15.2cmである。体上部屈曲部も口縁部と同じように波状になると考えられる。波頂部は直行し、波底部は口縁部を外反させ端部をわずかに肥厚させる。内外面ともヘラミガキによるが、内面は粗い。

1518～1520は半球形状の器形のものである。1518は口唇部の残りは5mmほどであるが、完形に復元できた。復元口径13.6cm、器高6.9cmを測る丸椀形の鉢である。ほぼ半球形で口縁部は外傾する。器壁は4～5mmと薄く、口唇部は軽く面取りする。内外面ともミガキによる器面調整である。1519は底部付近から胴上位へ半球形状に開く破片である。胴上部ではより強く内湾する。復元径14.4cmで器厚も4mm弱と薄く、小型の茶家形（内湾口縁胴張浅鉢）の浅鉢と想定される。1520は丸底の底部で、一旦成形した表面に1mmに満たない厚さの粘土を重ねて仕上げたものである。

1521と1522は口縁部に文様帯のある浅鉢である。1521は内側に強く屈曲する体部境から大きく外反する頸部をもつ。口縁部の外面下位と内面端部に粘土を重ね肥厚する。内面は段をもって玉縁状にし、外面は浅く凹む10mm幅の口縁部肥厚帯となる。内外面ともヘラミガキである。1522は内湾気味に立ち上がる肩部から短く屈曲して外開きする口縁部に至る。口縁部下に粘土紐を重ね口縁部と一体化させ、間を凹線風に仕上げている。口縁肥厚部にベンガラによる赤色顔料がわずかに残る。器種については検討を要する。

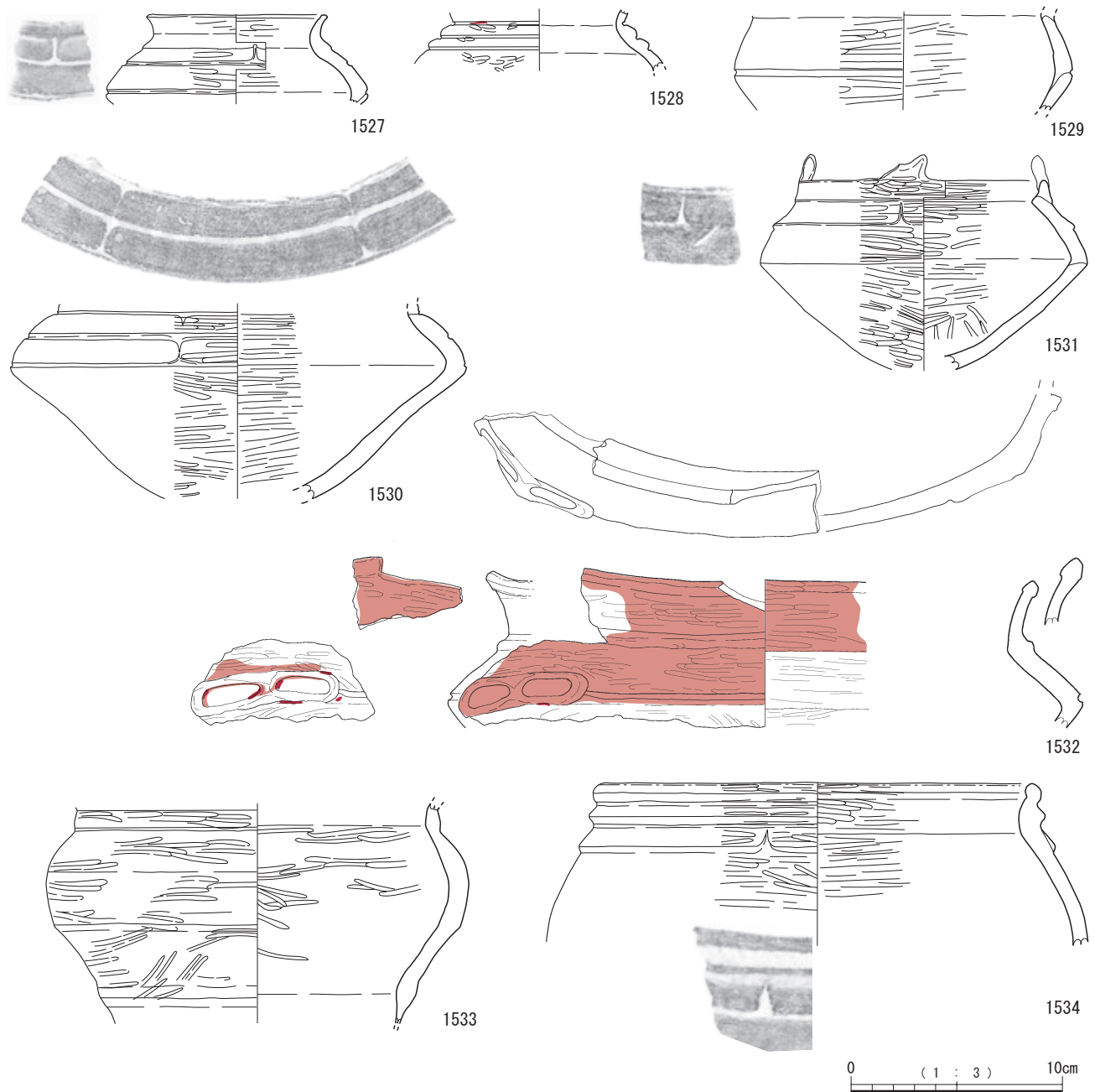


第2-124図 XV類土器（浅鉢形土器）（2）

1523~1526は体部の一部であり、全形は不明である。1523は肩部から口縁部付近の破片である。胴上部で内側に屈曲し10mm弱の肩部をもち、さらに屈曲して口縁部に至ると考えられる。肩部の器厚は8mmであるが、口縁部境は4mmである。肩部に接した胴上部にリボン状の小突起をもつ。内外面ともミガキによる。1524は胴上部で内側に強く屈曲し、外反する頸部をもつ。口縁部が欠けており時期判定は難しい。厚さが7mmと浅鉢の中では厚めであることは古相の観があり、出土区からは刻目突帯文土器が多く出土している。1525は内湾気味に開きながら立ち上がり、体上部で疑似口縁となる。この部分の外面に沈線がみられ、沈線内に赤色顔料が残るが、ベンガラ

と判断できるような分析結果は得られなかった。内外面ともミガキ様のナデである。全体の器形は不明であるが、深めの浅鉢が想定される。1526は1525に近い器形と考えられるが、体部は開かず内湾気味に立ち上がる。径は1525よりも小さく、外面に沈線がみられる。外面はナデにより、内面は平滑なミガキによる器面調整である。縄文時代後期前半の可能性もある。

1527~1534は茶家(ちやか)形あるいは算盤玉形の器形の浅鉢(内湾口縁胴張浅鉢)である。1527は復元口径8.5cmの小型のものである。体部と肩部の境で内側に強く湾曲し、内湾気味の肩部をもつ。口縁部は短く外反させ、口唇部は丸く収める。口縁端部内面にわずかなくぼ



第2-125図 XV類土器(浅鉢形土器)(3)

みが巡る。体部と肩部境および肩部中央には沈線を巡らす。三叉文部分を除いて肩部上位に削り出し様の低く緩い段をもち、頸部には調整時のわずかな段がみられる。肩部中央の沈線から上方を削り出して三叉文を施す。1528は頸部での復元径8cmを測る。肩部に2本の沈線を巡らせ、下面を削り出すように磨くことによって突帯状に見える。屈曲して立ち上がる口縁部境にも沈線を施し、沈線内にベンガラによる赤色顔料が観察できる。内外面ともミガキによるもので、黒色処理している。1529は胴部最大径16cmを測る。直行気味に開く体部から、丸く内湾する肩部に至る。さらに外反しながら開く口縁部に至ると考えられる。体部上端の内面に粘土を重ねて肩部をつくり、接合部分の胴部最大径には3mm幅の沈線を巡らす。

1530は胴部最大径21.6cmを測る。丸底と想定される底部から外反気味に開く体上部で内側に強く屈曲する。肩部は内湾し、直立もしくは外傾する口縁部に至ると思われる。肩部中央と口縁部境に沈線を巡らす。沈線の下端は角を落とすようにミガいている。両沈線から下に向けて削り出し、三叉文を描く。また、同じ位置の体部屈曲部から上に向けて三叉文を施す。胴屈曲部の三叉文付近にも沈線が巡るが、一周はしない。三叉文は4か所に施されていたと想定される。沈線の下端の角を滑らかにすることによって、三叉文に囲まれた区画が浮き出したように見える。1531は丸底と想定される底部から内湾気味に開く体上部で内側に強く屈曲する。肩部は内湾気味に内傾し、段をもって立ち上がる短い口縁部に至る。体屈曲部の復元径は15.4cmで、復元口径は11.8cmである。推定される器高は9.2cm前後である。口縁部外面は内傾するが、内面は外側に屈曲し明瞭な稜をもち、口縁内面は浅い凹線状となる。口唇部は丸く収め、一部にリボン状の突起が付く。肩部中央は下位が強調された段状の盛り上がりが見られ、リボン状突起の位置で上方に削り出して三叉文を施している。内外面ともミガキによるもので、内外面とも黒色処理している。口縁部下と肩部中央の段状となる部分は削り出すようにミガいて浮かせたものであり、1530にみられる様な沈線下端の角を落とす手法と共通する。両者の手法が進化もしくは退化の前後関係を示すのか不明であるが、これらの肩部から口縁部にかけて装飾をもつこの種類の器形が、茶家形（内湾口縁胴張浅鉢）の祖型となる可能性がある。

1532は体上部で内側へほぼ直角に強く屈曲し、内傾する40mm幅の肩部をもつ。さらに外側に約60度の角度で折り曲げ、外反気味に開く波状の口縁部に至る。体部と肩部の境には1条の凹線を施し、肩部と頸部の境には5mm幅の低い突帯を巡らす。口縁端部は肥厚し、内外面が緩い段状となる。口唇部は丸みを帯びた面取りを行う。口縁部の一部に片鱗状の突起をもつと考えられる。波頂部

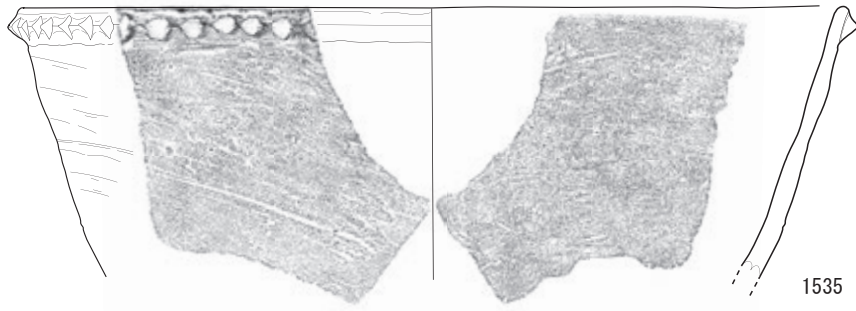
と想定される部分の体部と肩部の境には、眼鏡形の浮文を施す。浮文の中央下部は外側に張り出す。上面からみると浮文部分のカーブはきつく、一般的な部分より急である。このことから各辺は丸みを帯び、浮文部分すなわち波頂部分に角をもつ隅丸方形をした器形が復元できる。残った破片から想定復元すると、浮文の頂部間が約24cm、屈曲部での横幅が約30cmと想定される。復元口径は26cmである。内外面とも丁寧にミガいてあり、外面は煤を吸着させ黒色化し、ベンガラによる赤色顔料は外面肩部から頸部内面まで施している。口縁端部にみられる内外面の緩い段状の肥厚部は突起部分にはみられなくなり、突起自体が内面に段をもって肥厚する。突起の端に近い部分で欠けていると考えられる。レイアウト後、全ての破片が接合でき実測図と若干の差が生じた。

1533と1534はこれまで類例のない器形のものである。1533は接合しないものの、3点の破片を図上復元したもので、胴部最大径は19.8cmに復元される。外反して開く体部の一部が膨らみ、体上部の稜を境に胴張りの丸い肩部から屈曲して立ち上がる口縁部が付くと想定される。頸部には膨らみがあり、各部位の境は明瞭である。体上部と体下部の器厚が7mmと3mmで、底部に近い方が極端に薄い。内外面とも丁寧なヘラミガキによる器面調整で、外面に煤が付着しているが、製作時の炭化処理なのか使用時のものか不明である。今後類例が出てくれば、器形の変更が求められる。1534は復元口径21.2cm、胴部最大径25.7cm前後を測る。基本的には内湾する肩部から外反気味に26mmほど立ち上がる口縁部をもつもので、口縁端部が内外面とも玉縁状に膨らむものである。口縁端部の内面は凹線状の段をもつ。外面の頸部には口縁端部と同じ高さの突帯を巡らし、突帯の上下を丁寧にナデることによって2条の太い凹線を巡らしているようにもみえる。肩部上位は段をもって盛り上がり、一部を削り出して三叉文を施している。器形・施文方法とも県内では類例がなく、呼び方や機能、出自など検討を要する。

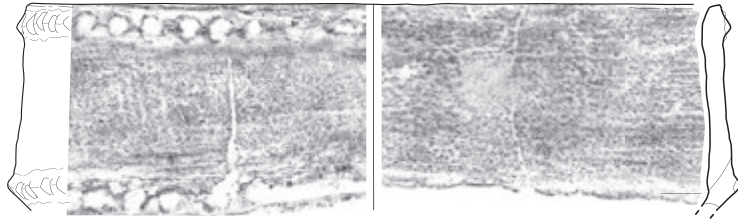
XVII類土器

第2-126~129図はXVII類としたもので、刻目突帯文土器とそれに伴う鉢類や壺類などを含む。本来は既に弥生時代に入っていると考えられ、弥生時代前期を扱った『小牧遺跡3』の掲載遺物と併せて閲覧していただきたい。本県における刻目突帯文期の土器を扱う場合、刻目突帯文土器を縄文時代晩期とし、壺形土器を弥生時代として紹介している報告書もあるため注意を要する。

1535~1548は刻目突帯文を巡らす甕形土器であり、1535が一条甕、1536~1539が二条甕に該当するものである。1535は復元口径32.8cmである。内湾気味の胴部からほぼ直行して外傾する口縁部に至る。口唇部は丸く収め、口唇下3mmに刻目突帯文が巡る。刻目は爪痕のある指頭



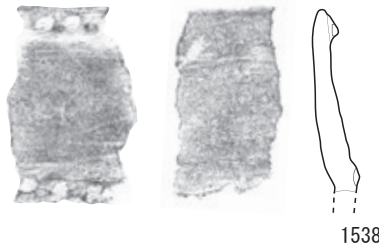
1535



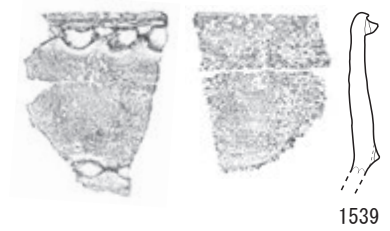
1536



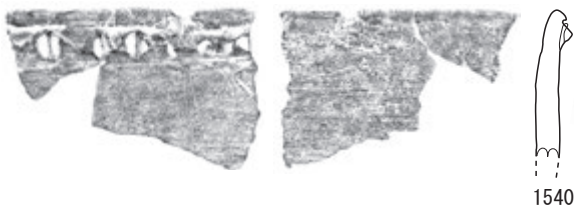
1537



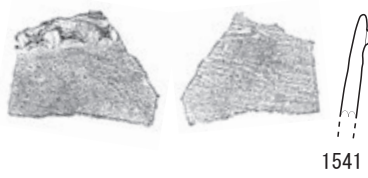
1538



1539



1540



1541



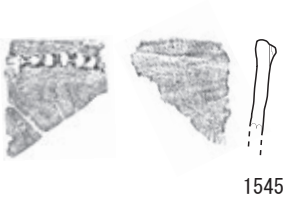
1542



1543



1544



1545

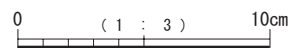


1546



1547

第2-126図 XVI類土器(1)



である。器面調整は外面が斜位の粗いナデで、内面は丁寧なナデである。口唇部下4cmの外面には爪痕がみられる。1536は復元口径27.4cmを測る。体上部で逆「く」字に屈曲し、内傾して口縁部に至る。口唇部は丸く収める。口唇部から3mmほど下がった位置と屈曲部に刻目突帯文を巡らす。刻目は爪痕のある指頭による。刻目を入れた後、突帯をヨコナデした箇所もある。器面調整は外面がナデで内面は横方向の条痕である。

1537は口縁部と屈曲部に刻目突帯文を巡らす。やや外傾する口縁部で端部近くのみわずかに外反する。口唇部は面取りする部分と丸く収める部分があり、口唇部下5mmに刻目突帯文を巡らす。屈曲部の突帯は上下の接合痕がはっきりしている。刻目は両方とも爪痕のある指頭で、口縁部は密に施す。1538は2条の刻目突帯文をもつ甕である。体上部で屈曲し内傾する口縁部である。口唇部は尖り気味に収める。屈曲部と口唇部下5mmに刻目のある突帯を巡らす。刻目の施文具は不明である。口縁部は突帯に刻目を入れた後、上下をナデている。1539は2条の刻目突帯文をもつ甕である。体上部で屈曲し内傾して口縁部のみわずかに外反する。屈曲部と口唇部に接した刻目のある突帯を巡らす。刻目は指頭と考えられる。口唇部は刻目を施した後面取りしている。内外面ともミガキ様のナデで、突帯のみヨコナデによる。調整や色調が高橋貝塚（南さつま市）出土品に類似する。

1540～1547は一条甕か二条甕になるか判断がつかないものである。1540はわずかに外反する口縁部で、口唇部下5mmに刻目突帯文を巡らす。刻目は爪痕のある指頭である。口唇部は丸く収めるが、余分な粘土が外端部にはみ出す。1541はほぼ外傾する口縁部で、口唇部は丸く収める。口唇部下5mmに貼付突帯が巡り、爪痕のある指頭で刻目を施す。内外面とも丁寧なナデである。1542はほぼ直行して開く口縁部で、口唇部は丸く収める。口唇部下2mmに刻目突帯文が巡り、タテ筋のある施文具で刻目を施す。1543は内湾気味に内傾し口縁端部を外反させ、口唇部下5mmの凹んだ部分に刻目突帯文を巡らす。刻目は爪痕のある指頭による。内外面とも粗い条痕である。1544は外傾する口縁で端部をわずかに外反させ、口唇部下5mmの凹んだ部分に刻目突帯文を巡らす。刻目は爪痕のある指頭による。外面はナデで、内面は粗い条痕である。1545は外傾する口縁部で端部のみ内湾気味となる。口唇部にほぼ接して巡る細めの刻目突帯文である。刻目は棒状工具による。金色雲母を多く含む。1546は屈曲部に刻目突帯を巡らす。刻目は棒状工具による。1547は緩く屈曲する部分に太めの刻目のある突帯を巡らす。外面は横方向の条痕で、内面はミガキ様のナデである。

1548～1550は焼成前に穿孔するもので、孔列文土器である。1548は復元口径38.6cmである、体上部で約17度の角度で内側に屈曲し、直行して口縁部に至る。口唇部は

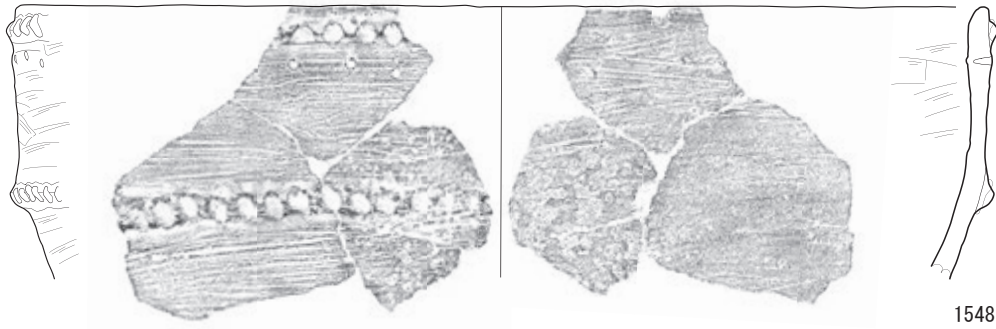
内面を丸く外端部を尖り気味に仕上げる。口唇部から5mmほど下がった位置と屈曲部に刻目突帯文を巡らす。刻目は爪痕のある指頭による。器面調整は内外面とも横方向の条痕である。口唇部下21～23mmに外面から串状工具で18～25mmの間隔をおいて刺突するが、貫通していない。1548と同一個体と考えられる破片では、貫通した穿孔が3か所に観察できる。1549は内湾気味に直行する。内外面とも横方向の貝殻条痕である。焼成前の穿孔が3か所で確認できる。口唇部下10～15mmに外面から穿孔し、直径は2mmである。1550は内湾気味の胴上部から外傾する口縁部に至ると想定される。口縁部境の内面に凹線を施し、焼成前の穿孔がみられる。内外面ともヘラミガキによる。全形は不明であるが、鉢形土器の可能性もある。

1551は復元口径26.5cmを測る。ほぼ直行して開く体部から逆「く」字状に屈曲し、ほぼ直立し口縁端部のみわずかに外反させる。口唇部は平らに面取りするが、外端を強調し無刻目の突帯状となる。屈曲部外面には粘土を重ね断面三角形の突帯を巡らす。口唇外端および口縁下位の突帯は、親指と人差し指の先で挟み込んだ状態に近い。口縁下位の突帯にはヘラ状工具で鋭利な刻目を密に施す。内外面ともミガキによる器面調整で、外面に煤が付着する。付着した煤を年代測定した結果、 ^{14}C 年代が $2450 \pm 20\text{yrBP} \pm 1\sigma$ 、 2σ 暦年代範囲が $590 - 415\text{calBC}$ (52.38%)、 $750 - 684\text{calBC}$ (29.90%)、 $667 - 635\text{calBC}$ (12.17%)、 $620 - 613\text{calBC}$ (0.99%) である。この年代は、刻目突帯文土器を主体とする弥生時代前期に該当する。

1552は傾き不明のほぼ直行する口縁部である。口唇部は平らに面取りし、口縁端部下に上下裾部が不明瞭な低い突帯を巡らす。外面は条痕状の調整をナデており、内面は横方向のナデである。1553は傾きや波状口縁かどうか把握できない資料である。直行する頸部から口縁部のみ緩く外反させる。口唇部はわずかに面取りしてあり、口縁端部下に上下裾部が不明瞭な突帯を巡らす。外面は貝殻条痕状の調整で、内面は丁寧なナデによる。胎土は金色雲母を多く含む花崗岩質である。

1554は復元口径26.4cmで、屈曲部の方が復元径26.8cmと大きい。体部上位で内側に強く屈曲し、内傾する肩部から大きく外反する口縁部に至る。口縁部は9mm幅で肥厚し、口唇部は尖り気味に収める。外面はミガキによるものである。全体の器形は不明であるが、浅い丸底となる可能性もある。

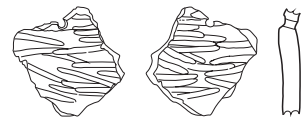
1555は傾きも器形も不明である。55mm幅でわずかに内湾気味の口縁部をもち、内側へ屈曲気味に曲がる体部に至る。口唇部は一部面取りしてある。内外面とも条痕調整をナデ消している。1556はやや外湾気味に開く体部から外面のみ内側に屈曲させ、外反する口縁部に至る。復元した口径は32cm前後とやや大きくなる。内面は内湾し



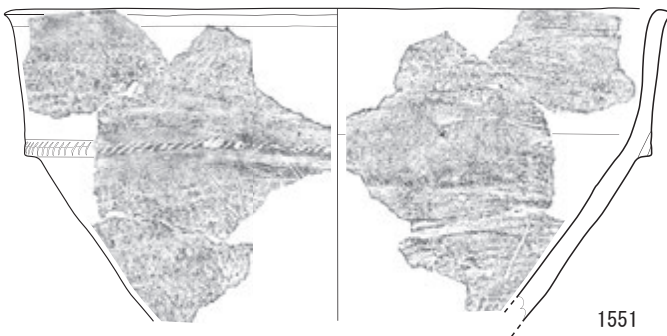
1548



1549



1550



1551

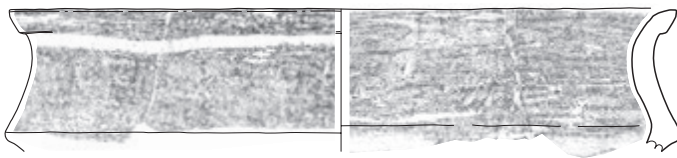
年代測定 590-415 cal BC



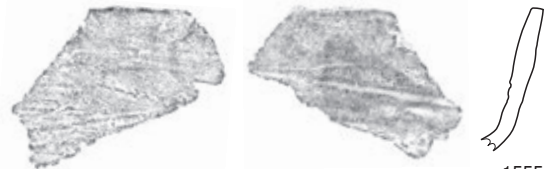
1552



1553



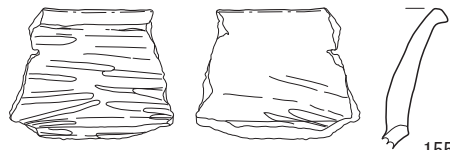
1554



1555



1556



1557



1558



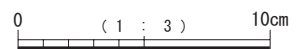
1559



1560



1561

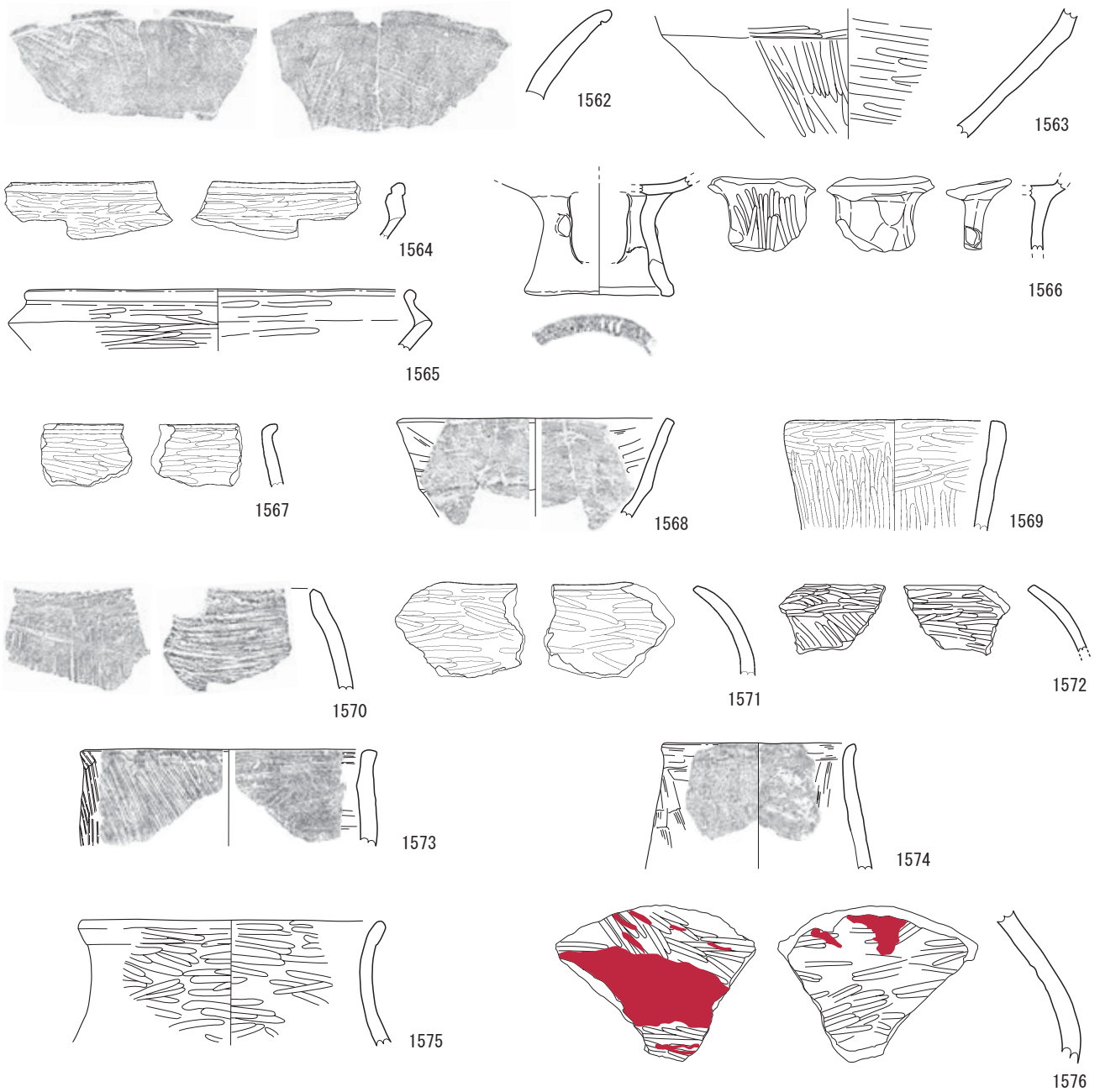


第2-127図 XVI類土器(2)

口縁端部のみ稜をもって短く外傾させる。体部上端の内面に粘土を重ねて口縁部を形成することから、屈曲部のみ器壁が厚くなる。内外面ともミガキによる。刻目突帯文土器に伴う円盤状の底部をもつ浅鉢と考えられる。1557は体上部で内側に屈曲し、外反気味に開く50mm幅の口縁部に至る。屈曲部分および口縁外端部は指で摘みだすようにナデることによって明瞭な稜がみられる。外面は横方向のミガキによる。1558は体部上位外面で内側に強く屈曲し、外反気味に立ち上がる口縁部に至る。口唇部はやや平らに面取りする。内面の屈曲部は外面屈曲部より下位にあり緩く屈曲する。1559は大きく外開きす

る体上部で内側に屈曲し外傾する口縁部である。屈曲部と口縁端部を肥厚させる。口唇部から口縁端部は玉縁状となり、屈曲部はシャープな突帯状となる。内外面とも丁寧なナデである。体部との境付近の外面にはベンガラによる赤色顔料の痕跡が確認できる。

1560は体部上位で内側に屈曲し、内湾気味に立ち上がる22mm幅の口縁部である。口唇部は平らに面取りする。器面調整は内外面ともミガキ様のナデである。1561は38cm前後の口径が想定される。内湾気味に外傾する口縁部で、口縁端部下に下がり気味の突帯を巡らす。突帯下部は接合痕がみられるが、突帯上部は指頭が当てはまるほ



第2-128図 XVI類土器 (3)

ど口縁端部と一体化している。口唇部および突帯端は少し面取りしている。外面は条痕による器面調整で、内面は丁寧なナデによる。

1562～1573は類例が乏しく位置づけに苦慮する資料であるが、まとめて紹介する。1562は25cm前後の口径が想定され、外反気味に大きく開く口縁部である。口縁端部近くの外面に1条の沈線を巡らし、口唇部は丸く収める。器面調整は内外面とも丁寧なナデである。1563はほぼ直行し開く体部から外面のみやや緩く屈曲する。復元径は19.4cmであり、屈曲部には肥厚も沈線もみられない。内外面とも丁寧なミガキによる。どのような形の口縁部や底部が付くか不明である。1564は体部上位の内側への強い屈曲部から口縁端部まで16mmしかない浅鉢である。口縁端部外側上部に粘土紐を重ね、内面は凹線状に、外面は段状に成形し、外見上は1565のような折り返し口縁の浅鉢に見える。口縁端部の作り方は入佐式土器にみられる手法と同じであり、新しい器形に古い手法を用いていると想定される。1565は復元口径18.6cmである。内湾気味に開く体上部で逆「く」字状に屈曲し、12mmほどの肩部をもつ。口縁部は短く玉縁状となる。内外面ともミガキによる。胎土に黒色鉱物が目立つ。

1566は高坏の脚部と考えられる。高さ5cm、復元径7cmの底部で器厚7mmの中空となる。坏部から弧状に広がる脚部であり、透かしをもつ。透かしは坏部との接点部分から空けてあり、縦に32mmを測る。それぞれの透かし両端の中程には11mm幅の粘土紐が橋状につながれていたことが想定される。接合しなかったが2点の破片があり、坏部との接点部分での透かし間の幅が48mmと43mmである。透かしが3か所とすれば透かしの幅は18mm前後となる可能性がある。坏部の器厚は4mmであり、内面は丁寧なミガキによる。脚部外面の器面調整はミガキであり、接地部分の一部には何らかの圧痕がみられる。

1567は内湾気味に内傾する頸部から、短く外反する口縁部をもつ。口唇部は丸く収める。1568は復元口径13.2cmであり、小型の粗製浅鉢になるのではないかと考えられる。体部は内湾気味であり、肥厚部分を境にした口縁部は外傾して開く。口唇部は平らに面取りする。内面はミガキ様のナデであり、外面はナデによる器面調整である。1569は復元口径10.4cmであり、外傾気味に立ち上がり、口縁部付近をわずかに内湾させる。口唇部は同じ器厚で面取りするが、外端は丸く、内端は稜をもつように成形する。内外面とも下位は縦方向に、口縁部付近は口唇部を含めて横方向のミガキがみられる。全体の器形は不明である。1570は12cm前後の口径が想定され、内湾気味の肩部から口縁端部のみ角度を変えて成形する。口縁端部の内外面は肥厚したようにみえるが、器厚は変わらない。口唇部は同じ器厚で丸く収める。内面の頸部は横方向の条痕であり、頸部外面はタテ方向のハケメ状の調

整にミガキ様のナデを加えている。口縁部内外面はナデによる器面調整である。無頸の壺状になるのかどうかも含めて、全体の器形は不明である。

1571と1572は同一個体ではないが、ほぼ同じような形状をもつ。球形状に内湾したまま口縁部に至るものである。1571が胎土に金色雲母を含み、6mmで若干肉厚であるのに対し、1572は器厚が4mmで内外面とも丁寧なミガキである。器形の類例は少なく文様もみられないが、高橋貝塚（南さつま市）で出土している小型の鉢形土器に近いと考えられ、刻目突帯文土器期に該当すると考えられる。

1573は復元口径14cmで、内傾気味に立ち上がり、口縁部をわずかに外反させる。口唇部は器厚を変えずに平らに面取りする。外面はハケメ状の粗いナデであり、内面はハケメ状をナデ消す。全体の器形は不明である。

1574～1576は壺形土器である。1574は復元口径9.2cmの口縁部で、直行気味に内傾する頸部から口縁端部付近のみを外反させる。口唇部は尖り気味に収めている。外面は縦方向のミガキ様のナデであり、口縁部のみを横方向にナデる。胎土に4mm大の小礫を含むが、表面の粒子は細かい。1575は外反しながら内傾する頸部に、外開きする膨らみのある口縁部をもつ。復元口径は14.4cmを測る。器面調整は横方向のミガキ様のヘラナデである。1576は張りのある胴部からわずかに内湾する肩部をもち、外側に反る頸部へ至ると想定される。頸部境には段や沈線はみられない。外面は丁寧なミガキ、内面はナデである。外面にベンガラによる赤色顔料が施され、内面上部にも赤色顔料の痕跡がある。刻目突帯文土器に伴うと考えられる。

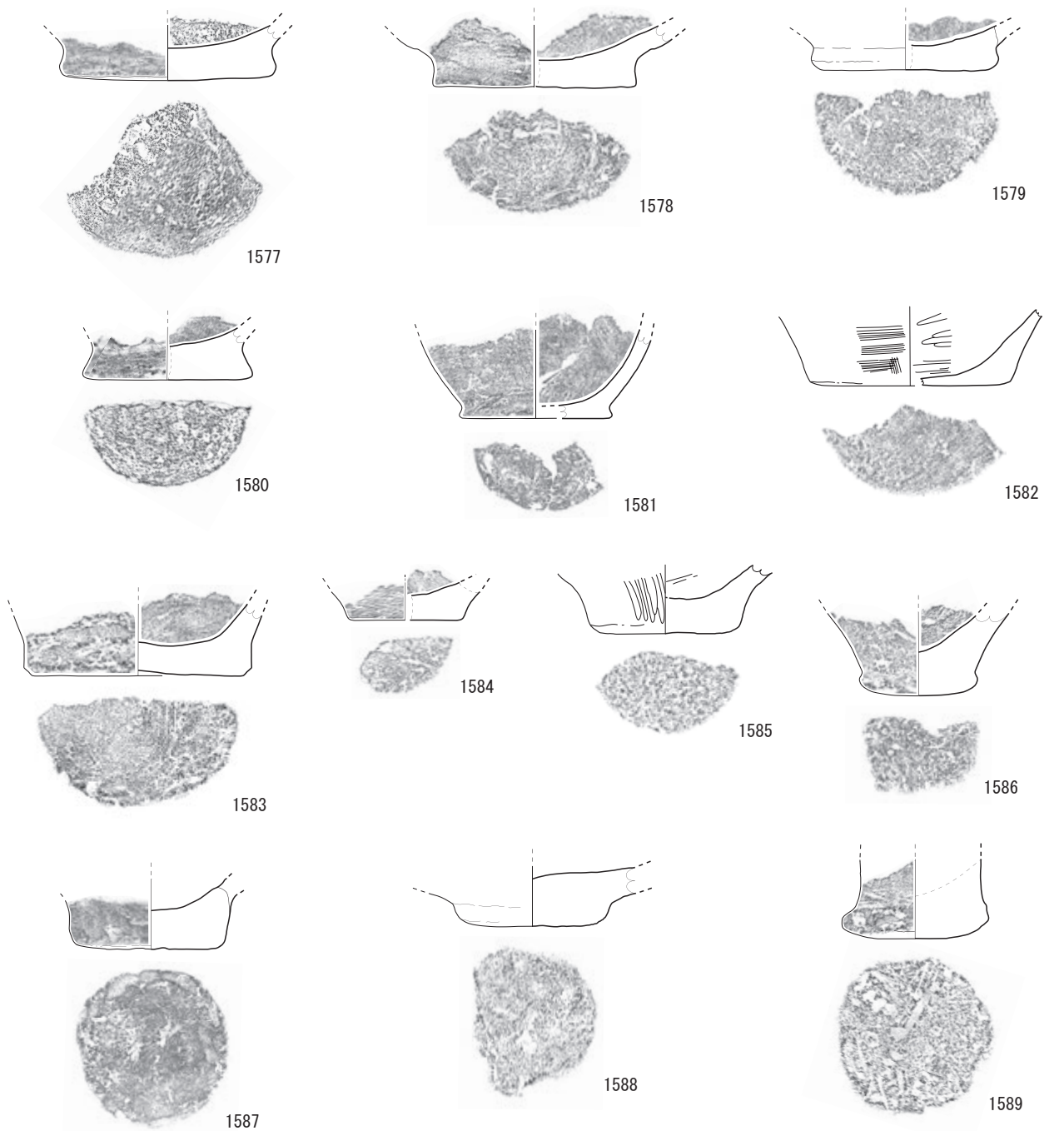
1577～1589は刻目突帯文土器期および弥生時代前期に該当すると考えられる底部である。1577は直径10.2cmの安定した平底の底部である。16mmの厚さで台形状の張り出しをもつ。内面は丁寧なミガキによる。花崗岩質の胎土で、浅鉢の可能性もある。1578は直径9.6cmの安定した平底の底部で、台形状の張り出しをもち、約30度の角度で開く。外面はナデで、内面は丁寧なナデによる。干河原段階もしくは刻目突帯文土器期の浅鉢の可能性もある。1579は復元径9cmの平底で、台形状の張り出しをもつ。内面は丁寧なナデで、浅鉢の可能性もある。1580は直径8cmの平底で、台形状の張り出しをもつ円盤状である。内外面ともミガキ様の調整である。胎土に金色雲母を含む。底面は摩耗している。刻目突帯文土器期の浅鉢の可能性もある。

1581は復元径7.2cmの平底である。厚さ4mmほどの張り出す立ち上がりから内湾気味の体部に至る。内外面ともミガキ様のナデによる。干河原段階もしくは刻目突帯文土器期に位置づけられると思うが全体の器形は不明である。1582は復元径9.5cmの平底である。約50度の角度

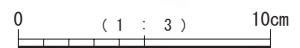
をもって外反気味に開く。外面はナデで、内面はミガキ様のナデであり平滑である。器厚は3～4mmと薄く、浅鉢の可能性もある。

1583は中心部がわずかに浮く直径10.8cmの平底である。10mm幅の立ち上がりをもって胴部下半へ開く。1584は復元径6.1cmの平底である。外反しながら体部へ開く。金色雲母を含み、弥生時代前期の壺形土器の可能性もある。1585は復元径8cmを測る底部である。底面が摩耗しているため正確な形状は不明であるが、現状は平底である。厚い底面から外反して体部に至る。外面はタテ方向の細

かなミガキによる。花崗岩質の胎土で、弥生時代前期の壺形土器と考えられる。1586は直径6cmの丸みを帯びた平底である。接地面周縁がわずかに張り出す。弥生時代前期の甕形土器と考えられる。1587は直径7cmの平底である。厚さ20mm前後で立ち上がり、開く体部に至ると想定される。弥生時代前期の壺形土器と考えられる。1588は直径7cmの平底で、5mmほどの立ち上がりがあり大きく開く。弥生時代の壺形土器の可能性もある。1589は直径7cmの脚台状の底部で、弥生時代中期前半の甕形土器の可能性もある。



第2-129図 XVI類土器(4)



第2-16表 晩期包含層出土土器観察表1

挿図 番号	掲載 番号	器種	分類	出土区	層	文様・器面調整等		色 調		胎 土					取上 番号	備考	写真 図版		
						外面	内面	外面	内面	石英 長石	角四石 輝石	金色 雲母	火山 ガラス	軽石				その他	
2-107	1375	深鉢	X II	-	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	にぶい赤褐	黒	◎	○	◎				カクラン		92	
	1376	深鉢	X II	C-33	IVb	丁寧なナデ	丁寧なナデ	極暗赤褐	にぶい褐	◎	○	◎				104552		92	
	1377	深鉢	X II	C-20	IVb	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	にぶい橙	灰黄褐	◎	○	◎				4984		92	
	1378	深鉢	X II	E-10	IVb	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	褐灰	褐灰	◎	○	◎				29282		92	
	1379	深鉢	X II	-	-	丁寧なナデ	丁寧なナデ	黒褐	にぶい褐	◎	○	◎					カクラン		-
	1380	深鉢	X II	E-10	IVb	ナデ	ナデ	橙	にぶい橙	◎	○	◎				29277		92	
	1381	深鉢	X II	D-34	IVb	丁寧なナデ	丁寧なナデ	にぶい橙	にぶい橙	◎	○	◎				104639		92	
	1382	深鉢	X II	D-6	IVb	ミガキ	ミガキ	黒	黒	◎	○					赤色粒	31533	92	
	1383	深鉢	X II	D-6	IVb	ミガキ	ミガキ	橙	黒褐	◎	○						36640		92
	1384	深鉢	X II	-	-	ミガキ様のナデ	丁寧なナデ	明赤褐	にぶい黄褐	◎	○	◎					カクラン		92
	1385	深鉢	X II	C-20	IVb	ヘラミガキ	ヘラミガキ	明褐	黒褐	◎	○						16792		92
	1386	深鉢	X II	E-14	IVb	ミガキ様のナデ	ナデ	黒褐	灰黄褐	◎	○						14619	煤付着	92
	1387	深鉢	X II	D-5	IVb	丁寧なナデ	丁寧なナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	◎	○	◎					32408		-
	1388	深鉢	X II	D-10	IVa	ヘラミガキ、 丁寧なナデ	ケズリ様の ナデ	極暗赤褐	赤褐	◎				◎			22647		-
1389	深鉢	X II	C-7	IVb	ミガキ様のナデ	ナデ	極暗赤褐	赤褐	○	◎						29848		-	
1390	深鉢	X II	E-9	IVa	ケズリ様のナデ	丁寧なナデ	極暗赤褐	灰黄褐	○	○			◎			24266		92	
1391	深鉢	X IIIa	D-10	IVb	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	暗褐	明黄褐	◎	○	◎				赤色粒	47804	92		
1392	深鉢	X IIIa	D-36	IVa	ミガキ	ミガキ	褐灰	褐灰				○				102804		92	
1393	深鉢	X IIIa	D-10	IVa	丁寧なナデ	ミガキ様のナデ	黒褐	褐灰	◎	○	◎					23065		92	
1394	深鉢	X IIIa	D-35	IVa	丁寧なナデ	丁寧なナデ	橙	橙	◎	◎			○			101352		92	
1395	深鉢	X IIIa	C-15	IVb	ミガキ	ミガキ	赤褐	にぶい赤褐	○	○					赤色粒	1881	92		
1396	深鉢	X IIIa	B-11	IVa	ミガキ	ミガキ	にぶい赤褐	灰黄褐	◎		◎					2517他		92	
1397	深鉢	X IIIb	C-16	IVb	粗いナデ	粗いナデ	黒	赤褐	○	○	◎					13177		92	
1398	深鉢	X IIIb	D-36・37	IVa・IVb	丁寧なナデ	丁寧なナデ	赤褐	赤褐	◎	○	◎					103263他		-	
1399	深鉢	X IIIb	D-35	IVa	粗いナデ	横ナデ	橙	にぶい赤褐	◎	○	◎					101115	補修孔	92	
1400	深鉢	X IIIb	D-36	IVa	ミガキ	ミガキ	黒褐	黒褐	◎	○	◎				赤色粒	101301	92		
1401	深鉢	X IIIb	D-36	IVa	丁寧なナデ	ミガキ様のナデ	明赤褐	にぶい橙	◎	○						101299		92	
1402	深鉢	X IIIb	-	-	丁寧なナデ	丁寧なナデ	明褐	明褐	○	◎					赤色粒	オウテン	92		
1403	深鉢	X IIIa	D-10	IVa	ミガキ	丁寧なナデ	にぶい黄橙	黒褐	◎	○		○				22658		-	
1404	深鉢	X IIIa	B-35	IVb	ミガキ様のナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	◎	○	◎					104645		-	
1405	深鉢	X IIIa	D-34	IVb	粗いナデ	粗いナデ	極暗赤褐	灰黄褐	◎	○	◎					103623		-	
1406	深鉢	X IIIb	D-36	IVa	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	にぶい褐	灰黄褐	◎	○	◎					102795他		-	
2-109	1407	浅鉢	X IIIa	D-5	IVb	ミガキ	ミガキ	にぶい橙	にぶい橙	○	○					25731		92	
	1408	浅鉢	X IIIa	E-12	IVa	ミガキ	ミガキ	褐灰	灰黄褐	○	○					5387		92	
	1409	浅鉢	X IIIb	D-7	IVb	ミガキ	ミガキ	黒	黒褐	○	○					47735		92	
	1410	浅鉢	X IIIb	D-7	IVa	ミガキ	ミガキ	灰黄褐	黒褐	○	○					21980		-	
	1411	浅鉢	X IIIb	F-9	IVa・VIIb	ヘラミガキ	ヘラミガキ	明褐	黒	○	○					23763他		92	
	1412	浅鉢	X IIIb	-	-	ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙	黒褐	○	○					SH30		92	
	1413	浅鉢	X III	D-12	IVa	ミガキ	ナデ	橙	黒褐	○				○	礫、赤色粒	36		92	
	1414	浅鉢	X III	C-8	IVb	ミガキ	ナデ	黒褐	明赤褐	○						35366		92	
	1415	浅鉢	X IIIa	C-11	IVb	ミガキ	ナデ	極暗赤褐	黒褐	○	○					埋土		92	
2-110	1416	深鉢	X IV	C・D-11	IVa・IVb	丁寧なナデ	貝殻条痕	黒	にぶい褐	◎	○	◎				5183他		93	
	1417	深鉢	X IV	E-10	IVa	丁寧なナデ	粗いナデ	黒褐	黒褐	◎	○					27808他		93	
	1418	深鉢	X IV	C-11	VI	貝殻条痕	貝殻条痕	暗褐	橙	◎	○	◎				-	H2510T	93	
	1419	深鉢	X IV	C-12	-	条痕	条痕	明赤褐	にぶい赤褐	○	○			◎	礫	3T-040		93	
	1420	深鉢	X IV	B-24	IVb	粗いナデ	丁寧なナデ	にぶい黄橙	褐灰	◎	○				礫	36885		93	
	1421	深鉢	X IV	B-9	IVa	粗いナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○				赤色粒	22178		93	
	1422	深鉢	X IV	E-3	IVb	貝殻条痕	丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○				礫、赤色粒	31685		93	
2-111	1423	浅鉢	X IV	D-11	IVb・VI	ミガキ	ミガキ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○				礫、赤色粒	23995他		93	
	1424	浅鉢	X IV	C-10・11	IVa・IVb	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	黒	黒褐	○	○		○			5152他		93	
	1425	浅鉢	X IV	D-12	IVa	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	赤褐	にぶい褐	○	○				赤色粒	5298		93	
	1426	浅鉢	X IV	C-10	IVb	ミガキ	ミガキ	褐灰	褐灰	○	○					27496		93	
	1427	浅鉢	X IV	C-11	IVb	ミガキ	ミガキ	褐灰	褐灰	○	○					15693		93	
	1428	浅鉢	X IV	E-31	IVb	ナデ	ナデ	褐灰	浅黄橙	○					礫	104371		93	
	1429	浅鉢	X IV	C-12	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	明赤褐	黒	○						3T-157	肩部に沈線	93	
	1430	浅鉢	X IV	D-11	IVb	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○					21098	補修孔	93	
2-112	1431	深鉢	X V	E-10	IVa	粗いナデ	丁寧なナデ	黒褐	にぶい黄橙	○	○				赤色粒	27825		94	
	1432	深鉢	X V	D-10	IVa	粗いナデ	丁寧なナデ	にぶい褐	にぶい褐	○	○				赤色粒	21227他		94	
	1433	深鉢	X V	D-11	VI	粗いナデ	ミガキ様のナデ	明褐	橙	○	○					25213他		94	
	1434	深鉢	X V	D-11・12	IVa・IVb	条痕→ナデ	ナデ	黒褐	黒	◎	○	◎			礫	1832他		94	
2-113	1435	深鉢	X V	D-12	IVa	条痕、ナデ	ミガキ様のナデ	にぶい橙	黒褐	○	○		○			5268		94	
	1436	深鉢	X V	D-E-9	IVa・IVb	粗いナデ	条痕→ミガキ 様のナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	◎	○				礫	24259他	煤付着	94	
	1437	深鉢	X V	E-7	IVb	ケズリ様のナデ	ケズリ様のナデ	灰褐	にぶい黄橙	◎	○				礫、赤色粒	28861		94	
	1438	深鉢	X V	D-7	IVa	粗いナデ	粗いナデ	にぶい橙	灰黄褐	○	○				赤色粒	21981		94	
	1439	深鉢	X V	D-11	IVa	ミガキ	丁寧なナデ	黒	にぶい橙	◎	○					44077他		94	
	1440	深鉢	X V	C-11	IVb	粗いナデ	粗いナデ	浅黄	灰黄	◎	○					24968		94	
2-114	1441	深鉢	X V	D-10	IVa・IVb	細めの条痕	粗い条痕	にぶい褐	にぶい橙	○	○					29125他	炭素年代測定	95	
	1442	深鉢	X V	E-11	IVb	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい褐	○	○					22276		95	
	1443	深鉢	X V	B-11	IVb	ナデ	ミガキ	にぶい橙	黒	○	○		○		赤色粒	5060		-	
	1444	深鉢	X V	E-7	IVa	ナデ	-	にぶい橙	-	○	○				赤色粒	22023		-	
	1445	深鉢	X V	B-6	IVa	ナデ	貝殻条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○				赤色粒	23352		-	
	1446	深鉢or中華銅形	X V	D-16	IVa・IVb	条痕	ナデ	橙	にぶい赤褐	○	○		○			2799他		95	
	1447	深鉢or中華銅形	X V	D-11	IVb	ケズリ様のナデ	ミガキ	褐灰	にぶい黄褐	○	○				赤色粒	18361		95	

第2-17表 晩期包含層出土土器観察表2

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層	文様・器面調整等		色調		胎土					取上番号	備考	写真図版	
						外面	内面	外面	内面	石英長石	角四石輝石	金色雲母	火山ガラス	軽石				その他
2-114	1448	深鉢or中華鍋形	X V	B-11	IVb	ナデ	粗いナデ→ミガキ	浅黄橙	にぶい黄橙	○	○				5086他		95	
	1449	寸胴鍋形?	X V	D・E-10	IVb	ナデ	条痕→ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○				赤色粒 27440他		95	
2-115	1450	中華鍋形	X IVor X V	E-16	IVb	粗いナデ→ヘラナデ	粗いナデ、ミガキ	明赤褐	にぶい黄橙	○	○			○	礫 5976		95	
	1451	中華鍋形	X IVor X V	B-5	IVb	貝殻条痕	ミガキ	黒	灰	○	○				30151他		95	
	1452	中華鍋形	X IVor X V	B・C-10	IVa・IVb	ナデ	ミガキ	にぶい黄褐	黒褐	○	○			○	21518他		95	
2-116	1453	中華鍋形	X IVor X V	C-10	IVb	粗いナデ	ナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	○	○				29730		95	
	1454	中華鍋形	X IVor X V	C・E-11	IVb	条痕	ミガキ	明黄褐	にぶい黄橙	○	○				礫 18292他		95	
	1455	中華鍋形	X IVor X V	F-9	IVa・IVb	条痕	ミガキ	にぶい橙	にぶい褐	○	○				23755他		95	
	1456	中華鍋形	X V	B・C-9, E-10	IVa・IVb	横方向の粗いナデ	丁寧なナデ	にぶい橙	灰黄褐	○	○			◎	礫 21283他		96	
2-117	1457	中華鍋形	X V	D・E-10~12	IVa	粗いナデ	粗いナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○			◎	2425他		96	
	1458	中華鍋形	X V	D・E-10~12	IVa・IVb・VIIb	横方向の粗いナデ	粗い条痕	にぶい橙	にぶい橙	○	○			◎	5214他	編布圧痕	96	
	1459	中華鍋形	X V	E-12	-	横方向の粗い条痕	ミガキ	灰褐	灰黄褐	○	○			○	-	リボン状突起 編布圧痕 モデリング	96	
2-118	1460	中華鍋形	X V	B~E-9~12	IVa・IVb	横方向の粗い条痕	ミガキ	にぶい黄褐	黒	○	○				5222他	編布圧痕	96	
	1461	中華鍋形	X IVor X V	D-8	IVb	粗いナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			◎	礫 25962	図上復元による 編布圧痕 モデリング	96	
2-119	1462	中華鍋形	X IVor X V	C・D-9-11	IVa	粗いナデ	ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			◎	礫 5572他	図上復元による 編布圧痕 煤付着	96	
2-120	1463	中華鍋形	X Vor X VI	D・E-10-11	IVa・IVb	粗いナデ	貝殻条痕→ミガキ	褐灰	黒褐	○	○				23319他	編布圧痕	97	
	1464	中華鍋形	X Vor X VI	F-10	IVa	粗いナデ	粗いナデ	にぶい橙	灰褐	○	○			○	23779他	編布圧痕	97	
	1465	中華鍋形	X Vor X VI	B-10	IVa	-	丁寧なナデ	にぶい黄橙	黒褐	○	○			○	礫 21466	編布圧痕	97	
	1466	中華鍋形	X IVor X V or X VI	B-16・21, C-19-20	IVa・IVb	粗いナデ	ミガキ	灰褐	褐灰	○	○				3326他	編布圧痕 モデリング	97	
	1467	中華鍋形	X IVor X V or X VI	B-20	IVb	粗いナデ	ミガキ	灰黄褐	にぶい褐	○	○				8636他	編布圧痕	97	
	1468	中華鍋形	X IVor X V or X VI	D-9	IVb	粗いナデ、条痕→横ナデ	丁寧なナデ	灰黄褐	にぶい橙	◎				○	27884	編布圧痕	97	
	1469	中華鍋形	X IVor X V or X VI	F-9	IVa	-	ミガキ	にぶい橙	褐灰	○	○				23758	編布圧痕	97	
	1470	中華鍋形	X IVor X V or X VI	D-16	IVb	-	丁寧なナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○				礫 7468	編布圧痕 モデリング	97	
	1471	中華鍋形	X IVor X V or X VI	-	IVa	ナデ	-	にぶい黄橙	灰白	○	○					埋土	97	
	1472	中華鍋形	X IVor X V or X VI	B-11	-	-	ミガキ	にぶい橙	にぶい橙	○	○					古墳SH8	編布圧痕	97
2-121	1473	中華鍋形	X IVor X V or X VI	-	-	ナデ	粗いナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○			◎	-	編布圧痕	97	
	1474	中華鍋形	X IVor X V or X VI	E-11	IVb	-	ミガキ様のナデ	にぶい橙	灰褐	○	○					18272他	編布圧痕	97
	1475	中華鍋形	X IVor X V or X VI	D-16	IVa	粗いナデ	ナデ	灰白	淡黄	◎	○				赤色粒 3161	編布圧痕	97	
	1476	中華鍋形	X IVor X V or X VI	B-10	IVb	ナデ	ミガキ	灰黄褐	褐灰	○	○			○	28537	編布圧痕	97	
	1477	中華鍋形	X IVor X V or X VI	E-31	IVb	-	ミガキ	褐灰	褐灰	○	○				104353	編布圧痕	97	
	1478	中華鍋形	X IVor X V or X VI	D-24	IVb	-	ナデ	灰黄褐	暗灰黄	○	○				礫 36910	編布圧痕 モデリング	97	
	1479	中華鍋形	X IVor X V or X VI	C-16	IVb	-	丁寧なナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○				礫 9371	編布圧痕	97	
	1480	中華鍋形	X IVor X V or X VI	C-9	IVb	粗いナデ	ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			○	赤色粒 25785	編布圧痕	97	
	1481	中華鍋形	X IVor X V or X VI	F-9	IVb	-	ミガキ	にぶい黄橙	黒褐	○	○			○	54953	編布圧痕 モデリング	97	
	1482	中華鍋形	X IVor X V or X VI	D-10	IVa	-	ナデ	にぶい橙	灰黄褐	○	○				21244	編布圧痕 モデリング	97	
	1483	中華鍋形	X IVor X V or X VI	E-11	-	-	丁寧なナデ	黄灰	灰黄	○	○				古墳SH10	編布圧痕	-	
	1484	中華鍋形	X IVor X V or X VI	D-10	IVa	-	ナデ	にぶい黄橙	灰白	○	○				22767	編布圧痕	97	
	1485	中華鍋形	X IVor X V or X VI	C-8, D-11	IVa・IVb	-	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○				12380他	編布圧痕	97	
	1486	中華鍋形	X IVor X V or X VI	C-9	IVb	ケズリ	ミガキ	黒褐	にぶい黄橙	○	○				赤色粒 29698	編布圧痕	97	
	1487	中華鍋形	X IVor X V or X VI	D-10	IVb	ヘラナデ	丁寧なナデ	褐灰	にぶい黄橙	○	○				赤色粒 27466	編布圧痕	97	
2-122	1488	中華鍋形	X IVor X V or X VI	F-9	IVb	粗いナデ	条痕→丁寧なミガキ	にぶい黄橙	明黄褐	○	○				赤色粒 47300	編布圧痕	97	
	1489	中華鍋形	X IVor X V or X VI	B-20	IVb	ナデ	条痕	橙	にぶい橙	○	○				4943	編布圧痕	97	
	1490	中華鍋形?	X IVor X V or X VI	D-10	IVa	ケズリ様のナデ→ミガキ様のナデ	ケズリ様のナデ	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○				赤色粒 22750	編布圧痕	97	
	1491	中華鍋形	X IVor X V	D-7	Va	ナデ	丁寧なナデ	にぶい橙	灰黄褐	○	○				赤色粒 48491他	網目圧痕	-	
	1492	中華鍋形	X IVor X V	B-6	IVb	ナデ	丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○				赤色粒 29443	網目圧痕	-	
	1493	中華鍋形	X IVor X V	C-6	IVa・IVb	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○				礫、赤色粒 23461他	網目圧痕	-	
	1494	中華鍋形	X IVor X V	C-16	IVa	横方向の粗いナデ	ミガキ	明黄褐	浅黄	○	○				2861他	網目圧痕 モデリング	97	
	1495	浅鉢	X V	E-10	IVb	ミガキ様のナデ	横方向のナデ	にぶい橙	にぶい橙	○	○				26198		98	
	1496	浅鉢	X V	D-12	IVa	ナデ	ナデ	橙	橙	○	○			○	5242他	炭素年代測定	98	
	1497	浅鉢	X V	D-11	IVa	ヘラミガキ	ヘラミガキ	黒褐	灰褐	○	○				1720他		98	
2-123	1498	浅鉢	X V	E-11	IVb	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	浅黄橙	浅黄橙					◎	14826	赤色顔料 リボン状突起	98	
	1499	浅鉢	X V	C-8	-	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	浅黄橙	浅黄橙	○	○			◎	14T092他	リボン状突起	-	
	1500	浅鉢	X V	C-36	IVb	ミガキ	ミガキ	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○				103379	リボン状突起	-	
	1501	浅鉢	X V	F-16	IVa	ヘラミガキ	ミガキ	暗褐	褐	○	○			○	3700	赤色顔料、補修孔	98	
	1502	浅鉢	X V	D-11	IVb	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	灰黄褐	灰黄褐					◎	18336		-	
	1503	浅鉢	X V	C-10	IVa	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	淡黄	淡黄	○	○				22954	三文文、沈線文	-	
	1504	浅鉢	X V	D-12	IVb	ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙	灰黄					◎	15563	沈線文	-	
	1505	浅鉢	X V	D-10	IVa	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	灰黄褐	灰黄褐	◎	○				21228	三文文、沈線文	98	
	1506	浅鉢	X V	D-9	IVb	ナデ	ナデ	橙	明褐	○	○				29384	沈線文	98	
	1507	浅鉢	X V	E-10-11	IVa・IVb	ヘラミガキ	ヘラミガキ	黒褐	黒褐	○	○				18350他	赤色顔料	98	
2-124	1508	浅鉢	X V	E-10	IVa	ヘラミガキ	ナデ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○					埋土	98	
	1509	浅鉢	X V	E-11	IVb	ミガキ	丁寧なナデ	にぶい黄橙	褐	○	○				14815	赤色顔料	-	
	1510	浅鉢	X V	D-12	IVb	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	明黄褐	にぶい黄褐	○	○			◎	12421		-	
	1511	浅鉢	X V	D-12	IVa	ヘラミガキ	ヘラミガキ	灰黄褐	黒褐	○	○			○	5220	赤色顔料	98	
	1512	浅鉢	X V	D-11, E-10	IVb	ミガキ	ミガキ	黒褐	にぶい黄褐	○	○				18333他		-	
	1513	浅鉢	X V	D-10	表土	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	灰黄褐	黒褐	○	○				-	赤色顔料	-	
	1514	浅鉢	X V	D-10	IVa	ミガキ	ミガキ様のナデ	にぶい橙	浅黄橙	○	○				22673	赤色顔料	98	
	1515	浅鉢	X V	C-10	IVb	ミガキ	ミガキ	明赤褐	黒	○	○				27504	補修孔	-	
	1516	浅鉢	X V	F-15	VI	ヘラミガキ	ヘラミガキ	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○				17428	外面煤付着	-	
	1517	浅鉢	X V	E-6	IVa	ヘラミガキ	粗いヘラミガキ	赤褐	赤褐	○	○				22075		-	
	1518	マリ形	X V	C-7	IVb	ミガキ	ミガキ	暗褐	暗褐	○	○				29794		98	
	1519	マリ形?	X V	E-11	IVa	ミガキ	丁寧なナデ	暗褐	暗褐	○	○				5478		-	
	1520	マリ形?	X V	D-6	IVa	ミガキ	ナデ	浅黄橙	灰白	○	○				22035		-	

第2-18表 晩期包含層出土土器観察表3

挿図 番号	掲載 番号	器種	分類	出土区	層	文様・器面調整等		色 調		胎 土						取上 番号	備考	写真 図版
						外面	内面	外面	内面	石英 長石	角四石 輝石	金色 雲母	火山 ガラス	軽石	その他			
2-124	1521	浅鉢	X V	B-11	IVb	ヘラミガキ	ヘラミガキ	黒褐	灰黄褐	◎	○					5092		98
	1522	浅鉢	X V	C-15	IVb	ミガキ	ナデ	黒褐	にぶい黄褐	◎	○				1829	赤色顔料	98	
	1523	浅鉢	X V	E-11	IVb	ミガキ	ミガキ	にぶい橙	灰黄褐	○	○			○	14796	突起	-	
	1524	浅鉢	X V	D-37	IVa	ミガキ	ミガキ	明赤褐	明赤褐	○	○			○	103262		-	
	1525	浅鉢	X V	E-16	IVa	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	にぶい赤褐	黒	○	○			○	5904他	赤色顔料	-	
2-125	1526	浅鉢?	X V ?	E・F-4	V	ナデ	ミガキ	にぶい褐	黒	◎		○			-	縄文時代後期前半の可能性あり	-	
2-125	1527	茶家形浅鉢	X V	D-12	IVa	ミガキ	ミガキ様のナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	◎				5266	三叉文	98	
	1528	茶家形浅鉢	X V	C-11	IVa	ミガキ	ミガキ	黒褐	黒	◎	○				5581	赤色顔料	98	
	1529	茶家形浅鉢	X V	C・D-10・11	IVa・IVb	ミガキ	ミガキ様のナデ	にぶい黄	にぶい黄	◎	○				22956他		98	
	1530	茶家形浅鉢	X V	E-10	IVb	ミガキ	ナデ	明黄褐	褐灰	○	○			○	29017	三叉文	98	
	1531	茶家形浅鉢	X V	E-11	IVb・VI	ミガキ	ミガキ	黒	黒	○	○			○	24548他	三叉文	98	
	1532	茶家形浅鉢	X V	C・D-8・11	IVb	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	にぶい橙	黄灰	◎	◎			○	18373他	平面方形 浮文 赤色顔料 煤付着	98	
	1533	茶家形浅鉢	X V	E-9	IVb	丁寧なヘラミガキ	丁寧なヘラミガキ	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○			○	29330	図上復元による	98	
2-126	1534	茶家形浅鉢	X V	E-10	IVa・IVb	丁寧なナデ	縦→丁寧なナデ	にぶい黄橙	浅黄	○	○			○	27838他	三叉文 煤付着	98	
2-126	1535	甕	X VI	B-21	IVa	粗いナデ	丁寧なナデ	褐灰	灰褐	○	○				7347他	赤色粒	99	
	1536	甕	X VI	F-22・24	IVb	ナデ	横方向の条痕	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○			○	20414他		99	
	1537	甕	X VI	D-23	IVb	粗いナデ	粗いナデ	褐灰	褐灰	◎	○				55486		-	
	1538	甕	X VI	B-20	IVb	ナデ	ナデ	灰黄褐	にぶい黄橙	○	◎				4946		-	
	1539	甕	X VI	E-23	IVa	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	にぶい褐	にぶい橙	○	○			○	57101		-	
	1540	甕	X VI	-	-	丁寧なナデ	ナデ	にぶい褐	にぶい橙	◎	○					埋土	-	
	1541	甕	X VI	F-23	IVb	丁寧なナデ	丁寧なナデ	灰黄褐	暗灰黄	◎	○				20422		-	
	1542	甕	X VI	D-38	IVb	ナデ	ナデ	にぶい橙	橙	◎	○				102024	赤色砂粒	-	
	1543	甕	X VI	G-23	IVa	粗い条痕	粗い条痕	暗灰黄	にぶい黄橙	◎	◎			○	40885		-	
	1544	甕	X VI	G-24	-	ナデ	粗い条痕	黒褐	暗褐	◎	○					弥生SH4		-
	1545	甕	X VI	-	-	ナデ	粗いナデ	灰褐	灰褐	◎	○	◎				不鮮明		-
	2-127	1546	甕	X VI	C-18	IVb	ケズリ→ナデ	ナデ	褐灰	にぶい黄褐	◎	○				8581		-
2-127	1547	甕	X VI	-	-	横方向の条痕	ミガキ様のナデ	褐	明褐	◎	○				ウツ		-	
	1548	甕	X VI	C-36	IVa	横方向の条痕	横方向の条痕	にぶい橙	にぶい黄橙	◎	◎			○	103279他	孔列文	99	
	1549	甕	X VI	C-7	IVa	横方向の貝殻条痕	横方向の貝殻条痕	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○			○	21869	孔列文	99	
	1550	甕or鉢	X VI	E-15	IVa	ヘラミガキ	ヘラミガキ	橙	黒褐	◎	◎			○	261	孔列文?	99	
	1551	甕or鉢	X VI	B-28	IVa	ミガキ	ミガキ	褐灰	にぶい橙	◎	○			○	44324他	炭素年代測定	99	
	1552	甕or鉢	X VI	D-10	表土	条痕→ナデ	横方向のナデ	赤褐	橙	◎	○				-		-	
	1553	甕or鉢	X VI	C-10	IVb	貝殻条痕	丁寧なナデ	にぶい黄橙	にぶい褐	◎	○			○	45970		99	
	1554	甕or鉢	X VI	C・D-11	IVb	ミガキ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	◎	○				15735他		99	
	1555	不明	X VI	D-7	IVa	条痕→ナデ	条痕→ナデ	黄橙	褐灰	◎	○				21930		99	
	1556	浅鉢	X VI	D-9	IVa	ミガキ	ミガキ	浅黄橙	浅黄橙	◎	○				21170		-	
	1557	浅鉢	X VI	B-20	IVb	横方向のミガキ	ナデ	明赤褐	赤褐	◎	○				8899		-	
	2-128	1558	浅鉢	X VI	B-21	IVa	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	橙	褐灰	◎	○				9250		99
	2-128	1559	浅鉢	X VI	C-37	IVa	丁寧なナデ	丁寧なナデ	橙	橙	◎	○				102965		99
1560		浅鉢	X VI	D-35	IVa	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	橙	橙	◎	○			○	101332		99	
1561		甕or鉢	X VI	B-3	表土	条痕	丁寧なナデ	赤褐	明赤褐	◎	○				表土一括		99	
1562		浅鉢	X VI	C-11	-	丁寧なナデ	丁寧なナデ	赤褐	橙	◎	○				古墳SH9		-	
1563		浅鉢	X VI	E-10	IVa	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	にぶい橙	黒褐	◎	○				27783		-	
1564		浅鉢	X VI	E-11・12	IVa・IVb	ミガキ	ミガキ	黒	黒	○	○			○	5479他		99	
1565		浅鉢	X VI	E-16	IVa	ミガキ	ミガキ	にぶい橙	にぶい橙	◎	◎				5900	黒色鉱物が 目立つ	99	
1566		高坏	X VI	C-35	IVa	ミガキ	丁寧なミガキ	橙	灰褐	○	○			○	103667	透かし入り	99	
1567		浅鉢	X VI	E-37	IVb	ミガキ	ミガキ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	◎	○				101457		-	
1568		浅鉢	X VI	C-11E-10	IVa	ナデ	ミガキ様のナデ	灰黄褐	灰黄褐	○	○			○	44120他		-	
1569		不明	X VI	E-12	VI	ミガキ	ミガキ	にぶい橙	黒褐	◎	○				25150		99	
1570		不明	X VI	C-10	IVa	ハケメ状→ミガキ様のナデ	横方向の条痕→ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	◎	○				28567		99	
1571		無頭丸鉢?	X VI	B-11	IVa	ミガキ	丁寧なナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	◎	○	◎			999		99	
1572		無頭丸鉢?	X VI	F-9	IVb	丁寧なミガキ	丁寧なミガキ	にぶい赤褐	黒褐	◎	○				34901		-	
1573		不明	X VI	B-4	IVb	ハケメ状の粗いナデ	ハケメ→ナデ	黒	黒	◎	○				46512		-	
1574		壺	X VI	D-8	IVb	ミガキ様のナデ	丁寧なナデ	にぶい赤褐	橙	◎	○				45261		-	
1575		壺	X VI	D-16	IVb	ミガキ様のヘラナデ	ナデ	灰褐	灰褐	◎	○				5690		-	
2-129	1576	壺	X VI	D-12	IVa	丁寧なミガキ	ナデ	にぶい褐	浅黄橙	◎	○			○	5269	赤色顔料	99	
1577	浅鉢	X VI	D-12	IVa	丁寧なミガキ	ナデ	にぶい橙	灰黄褐	○	○				5224		-		
1578	浅鉢	X VI	C-12	IVb	ナデ	丁寧なナデ	にぶい橙	褐灰	○	○			○	11469		-		
1579	浅鉢	X VI	F-38	IVb	-	丁寧なナデ	にぶい黄橙	浅黄橙	◎	○				100054		-		
1580	浅鉢	X VI	E-9	IVa	ミガキ	ミガキ	にぶい褐	褐灰	◎	○	○			27930		-		
1581	鉢	X VI	B-24	IVb	ミガキ様のナデ	ミガキ様のナデ	にぶい橙	黄灰	◎	○				36881他		-		
1582	浅鉢	X VI	D-10	IVa	ナデ	ミガキ様のナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	◎	○				22664		-		
1583	甕	X VI	D-11	IVa	ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	◎	○	○			5344		-		
1584	壺	X VI	C-35	IVb	丁寧なナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	◎	◎				104064		-		
1585	壺	X VI	C-37	IVa	細かなミガキ	ミガキのナデ	赤褐	黒褐	◎	○				102957		-		
1586	甕	X VI	C-40	IVa	ナデ	ナデ	橙	にぶい橙	◎	○	○			100314		-		
1587	壺	X VI	D-25	IVb	ミガキのナデ	丁寧なナデ	灰褐	にぶい橙	◎	○	○			40389		-		
1588	壺	X VI	E-23	IVb	ナデ	丁寧なナデ	褐灰	にぶい橙	◎	○	◎			56101		-		
1589	甕	X VI	E-8	IVa	ナデ	-	にぶい橙	刺がれ	○	○	○			22007		-		

第Ⅳ章 縄文時代前期から弥生時代初頭の石器

概要

Ⅲ層～Ⅴ層の包含層から出土した石器・石製品等については、帰属時期が縄文時代前期末から弥生時代初頭に該当する。石器組成から土器との相伴関係を明確に示すことが難しい点もあるため、ここではこれらの資料を一括して報告する。出土層が明確でない石器類についても、残存状況が良いものについては一部掲載している。遺跡全体の出土土器の総量に占める割合が最も高く、出土区（1～20区）が重なる縄文時代後期前半の石器・石製品が主体をなす可能性も考えられる。

包含層や石器の帰属時期が縄文時代前期末から弥生時代初頭に該当する包含層以外の出土の石器・石製品等の総数は3,609点であり、622点を図化し掲載した。

器種別の内訳は、石鏃100点、石錐9点、石匙23点、スクレイパー25点、二次加工剥片11点、使用痕剥片17点、石核・原石11点、磨製石斧125点、打製石斧（扁平打製石斧）48点、礫器13点、磨石・敲石類118点、石皿34点、砥石17点、擦切石器8点、石錐45点、石製品6点、軽石加工品12点である。

なお、石器の出土状況（分布）については第2-130図～第2-133図、石材及び石器分類については凡例、石材や出土層、計測値等の詳細については、石器観察表（第2-19表～第2-28表）を参照いただきたい。

包含層出土石器の状況

石鏃（第2-134図～第2-138図 S229～S328）

S229～S328は、石鏃及び石鏃未製品の可能性があるものである。すべて凹基無茎鏃または平基無茎鏃に該当する。形状や部位の特徴、残存状況によってⅠ～Ⅴ類に分類した。

掲載遺物における出土層の内訳は、Ⅳa層33点、Ⅳb層54点、Ⅴ・Ⅴa層4点、Ⅶ層1点である。

Ⅰ類 S229～S249は、形状が三角形で基部と側縁の長さの比が1.2倍以内に収まる。基部は平基または浅い抉りがある。身部の側縁が直線的なものと外湾するものがある。S229は、やや横長で基部に浅い抉りをもつ。S230は、正面左側縁から右側縁に長い剥離面が延びる。S231は、大きな剥離で成形後、正面の左側縁を微細な剥離で整形する。S232は、両面を大きな剥離で成形後、正面の両側縁を微細な剥離で調整する。S233は、先端を欠損する。正面の欠損部に剥離がみられ再加工されている。S234は両面を丁寧な剥離で成形後、微細な剥離で整形する。S235は、大きな剥離で整形され、先端を欠損する。S236は、両面を丁寧な剥離で整形する。S237は、裏面左側縁の剥離が疎であり、基部に半円形の浅い抉りを整形

する。S239は、正面の周縁、裏面は全体を丁寧に剥離整形する。基部には緩やかな弧状の抉りを整形し、先端は欠損する。S240～S242・S244は、素材剥片の形状を残す。両面の側縁や基部を剥離によって整形し、主要剥離面が残存する。S240・S241は基部に弧状の浅い抉りを整形し両脚の先端が尖る。S242は半円形の浅い抉りをもつ。裏面左側縁に剥離がみられないため未製品の可能性が残る。S243は、裏面の右側縁から中心に剥離が延びる。基部に浅い半円形の抉りをもち、両脚は「U」字状となる。S244は、両面とも素材剥片の周縁を剥離整形し、主要剥離面が残存する。S245は、素材剥片を多方向から整形し、基部にごく浅い抉りがある。S246は、正面が丁寧な剥離、裏面は周縁のみ整形を施し、主要剥離面が残存する。基部にごく浅い抉りをもつ。S247は、両面の周縁を剥離成形し、主要剥離面が残存する。基部は平基で先端を欠損する。S248は、厚みのある剥片の両面を大きな剥離で整形する。基部にごく浅い抉りが入る。S249は、両面が大きな剥離で整形され先端部を欠損する。基部にごく浅い抉りをもつ。

S229・S249は黒曜石C類製、S230・S231・S235は黒曜石A類製、S234は黒曜石B類製、S233・S238は頁岩A類製、S240は頁岩B類製、S232・S236・S237・S239・S241・S245～S247の8点は安山岩A類製、S244・S248の2点がチャート製、S242・S243の2点は、玉髓製である。

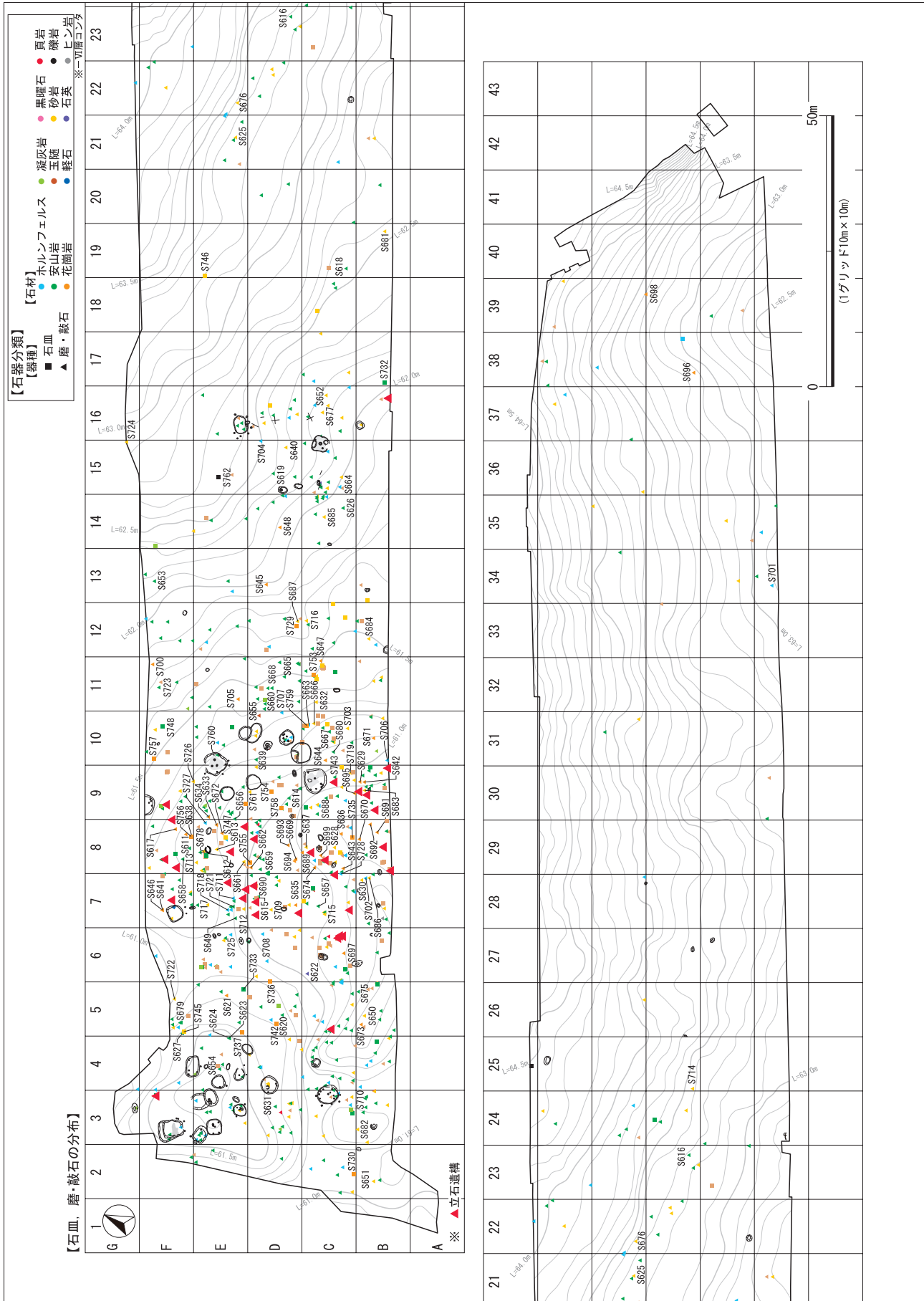
Ⅱ類 S250～S266は、形状が二等辺三角形でやや身部長く、基部辺と側縁の辺の長さの比が1.2倍以上になる。基部は平基もしくは浅い半円形の抉りを整形する。部分磨製石鏃や磨製石鏃を含む。

S250・S251は、側縁の押圧剥離が細かく、S252～S256は大きい。S255・S256は、残存長が4cmを越える大型の石鏃である。一端の脚部を欠損するが、逆「U」字状の深い抉りをもつ。S257～S260は、両面とも両側縁のみ整形する。素材剥片の特徴を残し、主要剥離面が残存する。S258は、側縁が鋸歯状となる。

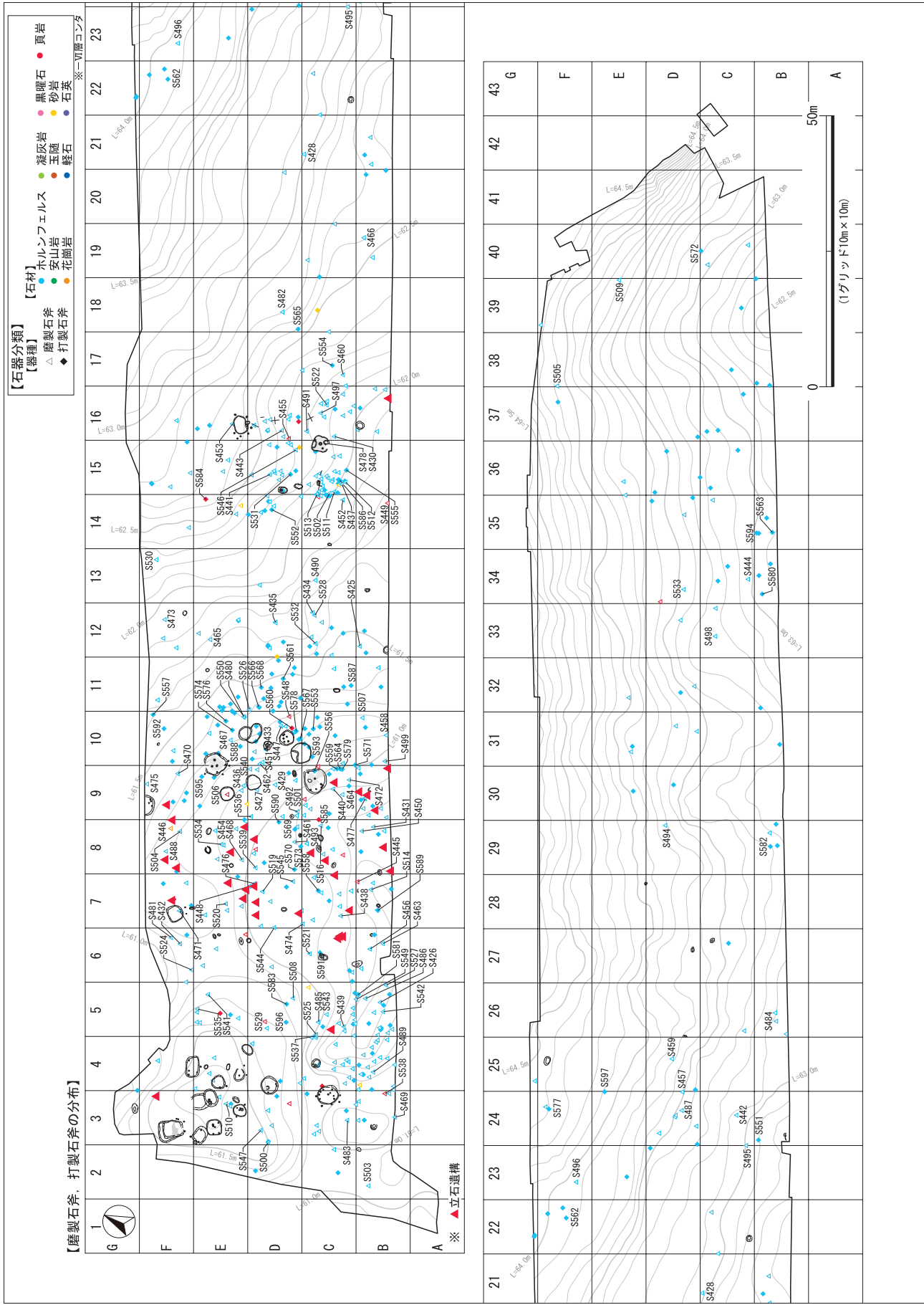
S261とS265は、基部に対して側縁の長さの比が約2倍近くある。

S262～S265は、部分的に研磨を施した部分磨製石鏃である。S262、S263は両面、S264は正面のみ研磨され、裏面は主要剥離面が残る。研磨後に剥離調整が行われる。S262～S265はいずれも最大厚の付近が研磨される。後期前半の可能性が高い。

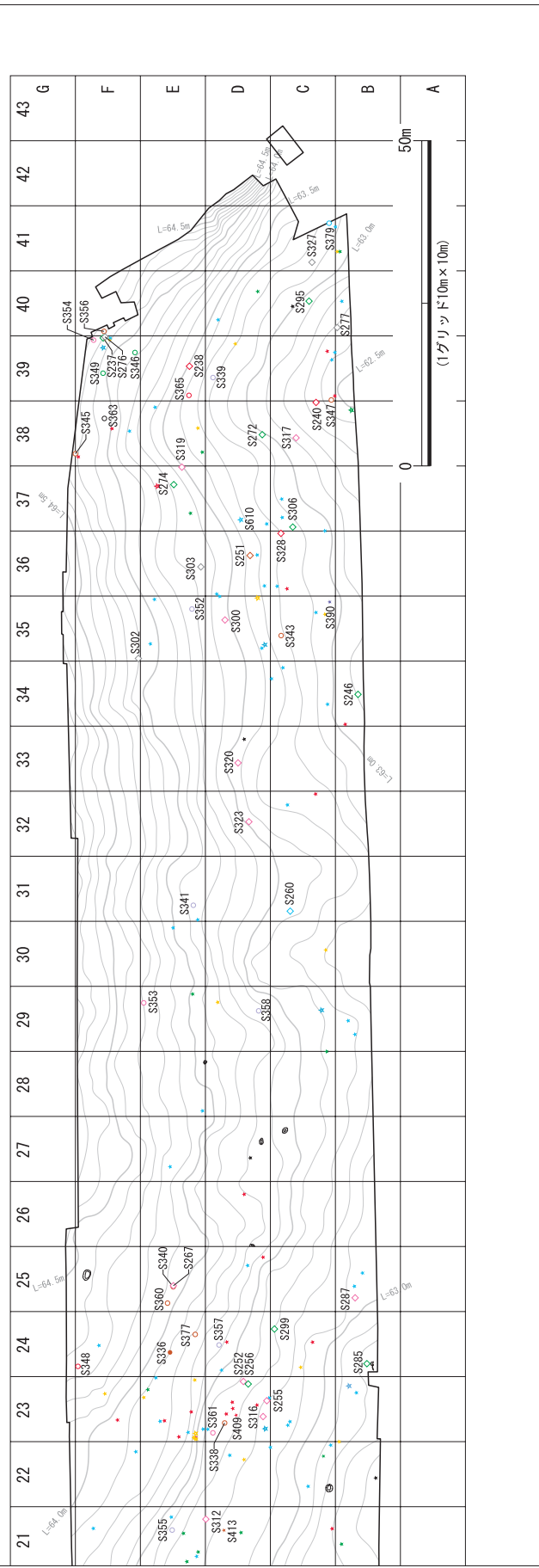
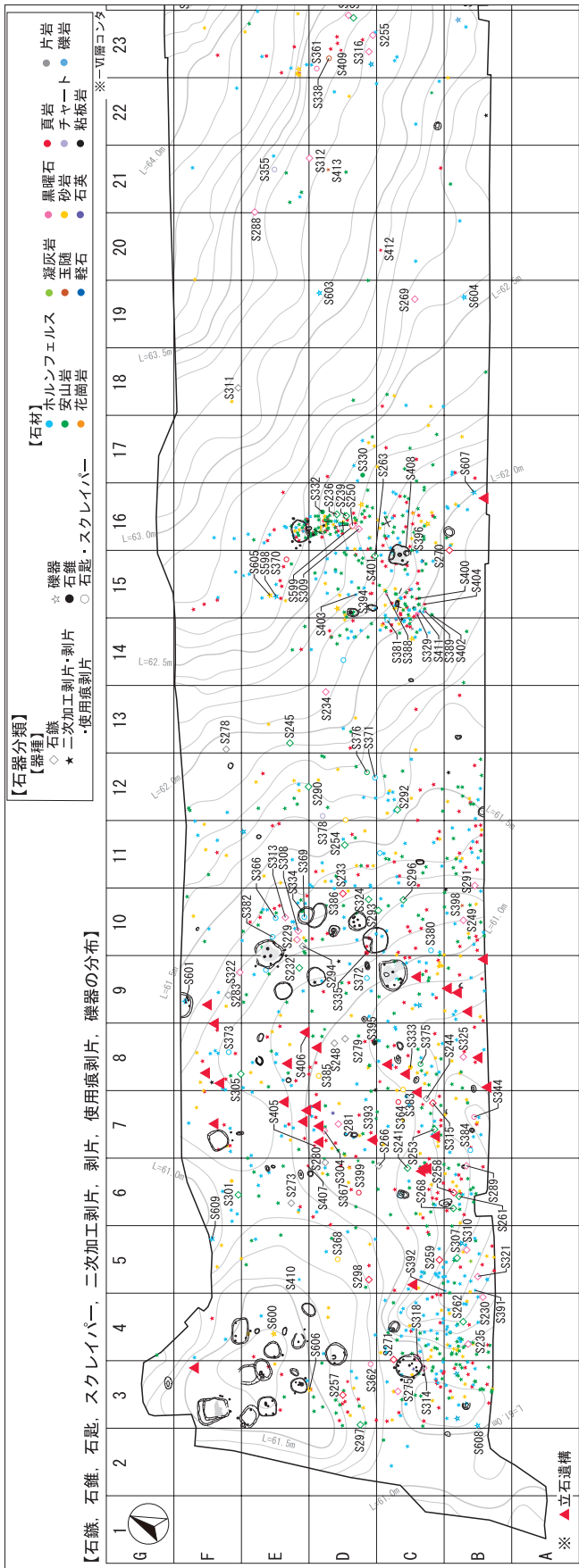
S266は、磨製石鏃である。全面に研磨痕が残る。S257・S258は平基、他は基部に浅い抉りをもつ。S255・S260・S261は先端を欠損する。S252・S254～S256・S259・S261・S266は基部を欠損する。



第2-130図 縄文時代前期～弥生時代初頭の石器分布図(1)



第2-131図 縄文時代前期～弥生時代初頭の石器分布図(2)



第2-132図 縄文時代前期～弥生時代初頭の石器分布図(3)

S250・S255の2点は黒曜石C類製，S252は黒曜石B類製，S257～S259・S265の4点は頁岩B類製，S253・S254・S256・S261～S264の7点が安山岩A類製，S260はホルンフェルス製，S266はチャート製である。

Ⅲ類 S267～S289は，基部に深い抉りを整形する凹基鏃である。形状は，側縁が外湾し紡錘形となるもの，二等辺三角形となるものがある。基部の両脚が尖るもの，丸みのあるものがある。側縁が鋸歯状となるものも含む。

S267～S272は，側縁が外湾し，抉りが半円形または山形となる。S273～S278は，側縁がほぼ直線状またはわずかに外湾し，基部の抉りは半円状もしくは山形となる。

S285～S289は，剥離調整によって側縁が鋸歯状となる。S270・S274・S276・S279・S281・S286・S287・S288・S289は先端を欠損する。S275は，先端を欠損後，再加工した剥離痕がみられる。S267・S274・S276・S278・S280・S281・S283・S284・S285・S287・S288・S289は，基部を欠損する。

S267・S269・S287・S289の4点は黒曜石C類製，S275・S286の2点は黒曜石D類製，S288は黒曜石E類製，S281は黒曜石A類製である。S268・S272・S274・S284・S285の5点が安山岩A類製である。

Ⅳ類 S290～S307は，側縁が外湾する紡錘形のもの，側縁の途中に角（頂点）をもつ五角形鏃，側縁下部から基部が張り出すいわゆる「ロケット」状のもの，側縁がわずかに内湾するものを含む。

S290は，両側縁が外湾し基部付近が最大幅となる。S291～S299は，側縁に角をもつ五角形鏃である。S290～S294，S296～S298は，平基である。S295は，基部にごく浅い抉りをもつ。S299は，基部に山形の深い抉りをもつ凹基鏃である。S300～S305は，側縁下部が内湾し，基部の両脚が張り出す「ロケット」状のものである。S300・S302・S303・S305は，基部に半円形状の抉りがある。S306・S307は，側縁の中央がわずかに内湾し，基部に浅い抉りをもつ。

S291・S300・S304の3点は黒曜石C類製，S294・S302・S303の3点はチャート製，S290・S292・S293・S295～S297・S299・S301・S305～S307の11点が安山岩A類製，S298は頁岩A類製である。

Ⅴ類 S308～S328は，欠損のため分類することが難しいものや未製品の可能性があるものをまとめた。S308～S311は，基部を欠損する。S312は，基部の一端，S313～S320は，先端と基部を欠損する。S321～S328は，製作途中で欠損した未製品の可能性がある。S322は，下端をつまみとする石匙か，錐部とする石錐の未製品の可能性がある。S321は，正面右側縁を刃部とする搔器の未製品の可能性もある。S327は基部の整形，S328は両面とも剥離整形が進んでいない。

S308～S310・S312・S314・S318～S320・S322・S325の

10点は黒曜石C類製，S313・S326の2点は黒曜石D類製，S316・S317・S321の3点が黒曜石A類製である。

石錐（第2-139図 S329～S337）

S329～S337は，石錐である。素材剥片の一端に両面左右から丁寧な剥離を加え，小さく突起する錐部を作っている。錐部の断面形は，菱形や三角形に近い。

掲載した遺物のうち包含層のものはすべてIVa・IVb層から出土している。

S329・S330は，逆三角形状に成形される。S329は，微細な剥離によって整形され，正面の一部に自然面が残存する。S330は，両面の下端に微細剥離を施し，錐部を作り出す。S331～S333は，剥片の上端につまみ様の成形がなされる。S332・S333は，横長剥片を利用し，両面側縁に剥離を行い，刃部を整形する。菱形状で主要剥離面が残存する。S334は，錐部が長く，素材剥片の両側縁から横方向の剥離によって整形される。つまみ部と先端部を欠損する。S335は，素材剥片の形状をよく残し，上面は整形剥離によって平坦に仕上げられる。錐部は微細な剥離によって整形される。S336は，縦長剥片を利用し，正面は右側縁，裏面は両側縁からの剥離によって整形される。錐部には回転痕が顕著である。S337は，器面全体が大きめの剥離によって成形された後，つまみ様で丸みを帯びる上端と錐部が微細な剥離によって整形される。錐部に回転痕はみられないが形状から石錐と判断した。

S329は黒曜石A類製，S330・S332・S334の3点は安山岩A類製，S331・S336・S337の3点が玉髓製である。

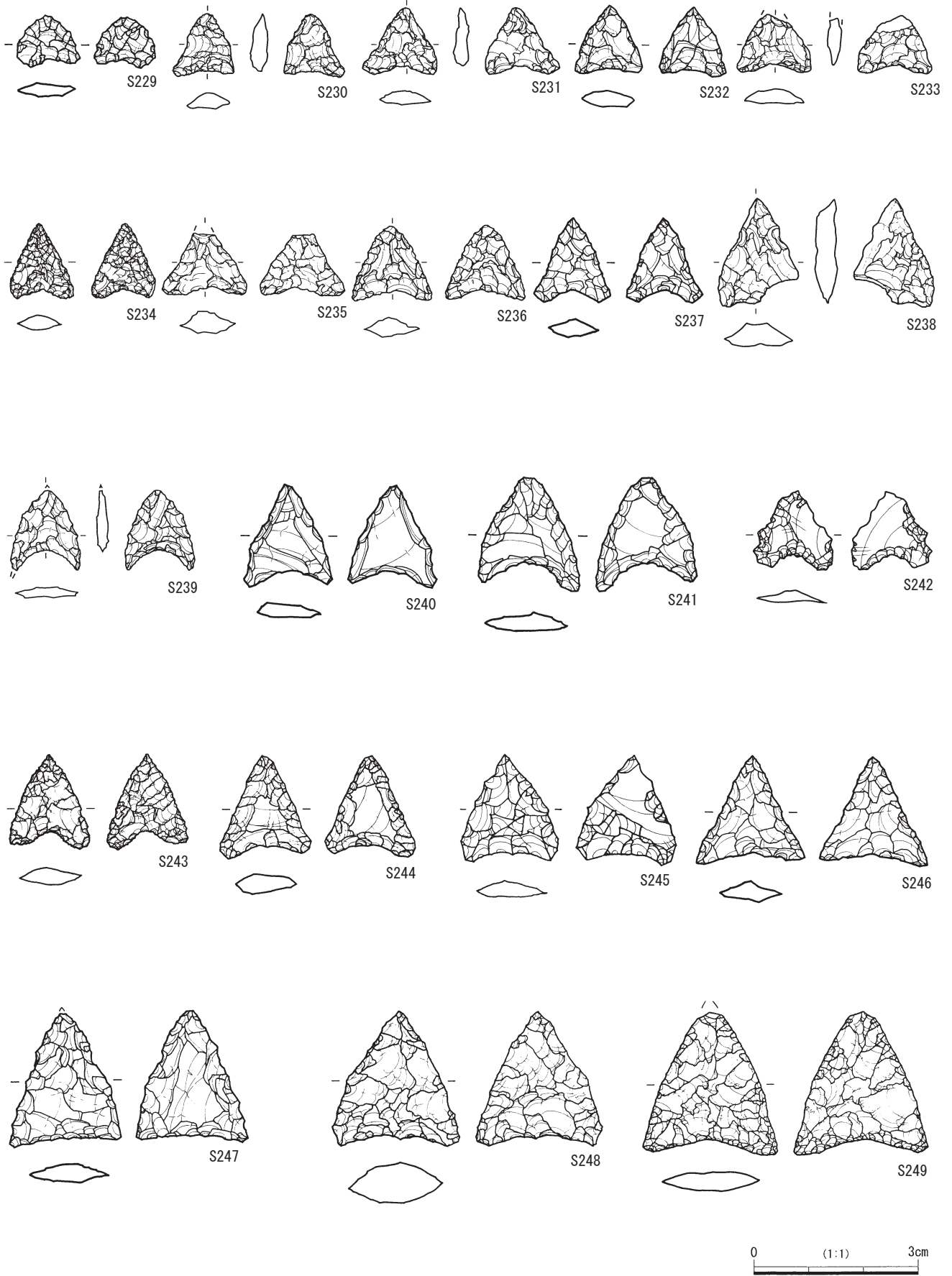
石匙（第2-140図～第2-143図 S338～S360）

S338～S360は，石匙である。素材剥片の上端につまみ部を整形し，剥片の下縁や側縁の両面に剥離調整を加え，刃部を作り出す。形状によって2類に分類した。

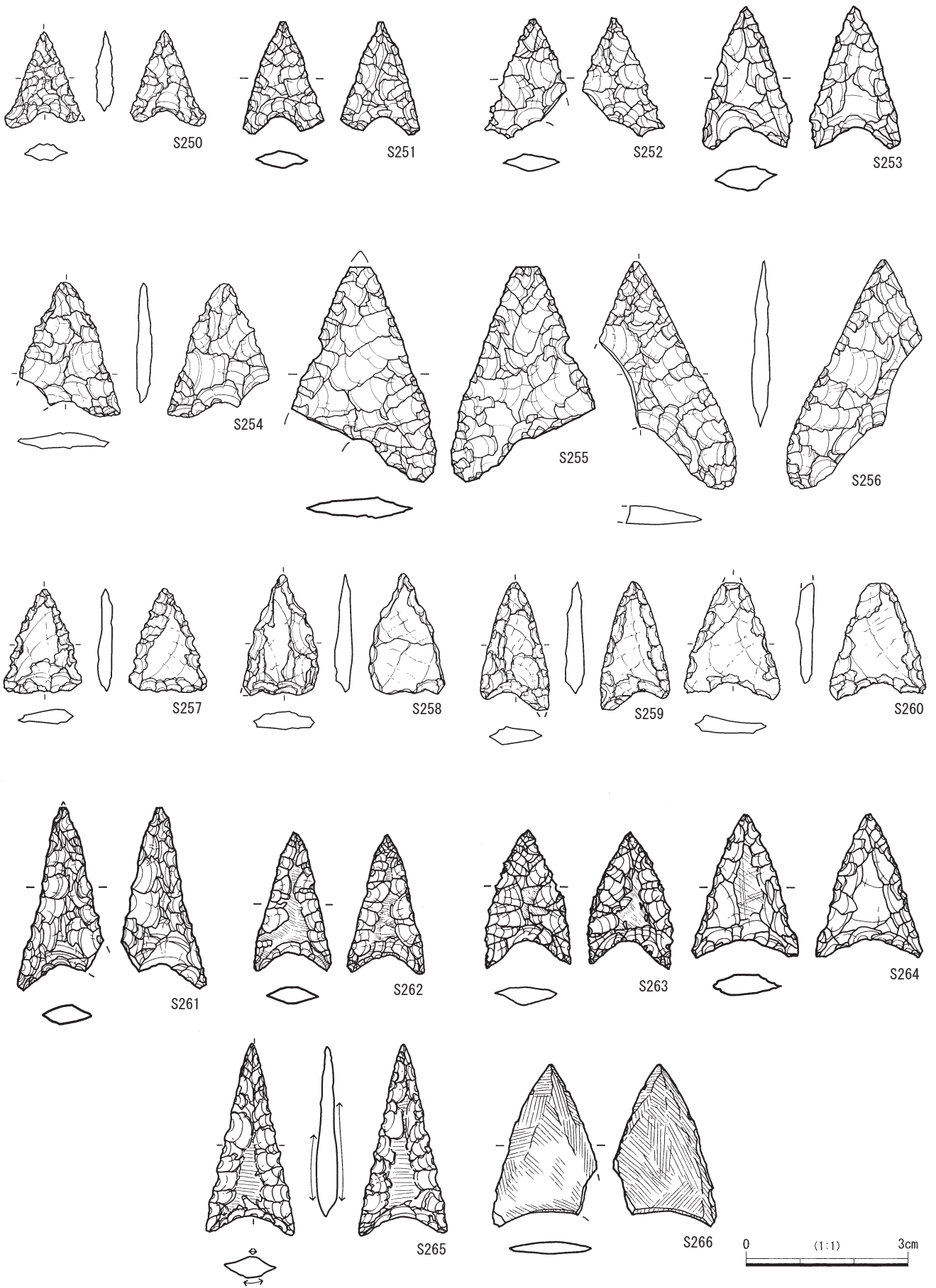
掲載遺物における出土層の内訳は，IVa層3点，IVb層16点である。

I類 S338～S343は，縦型で，刃部が側縁に整形されるものである。S338は，素材剥片の厚みがある部分につまみ部を成形し，刃部は両面から丁寧な剥離によって仕上げられる。S339・S340は，両面ともつまみ部と刃部の整形剥離が顕著で主要剥離面が残存する。

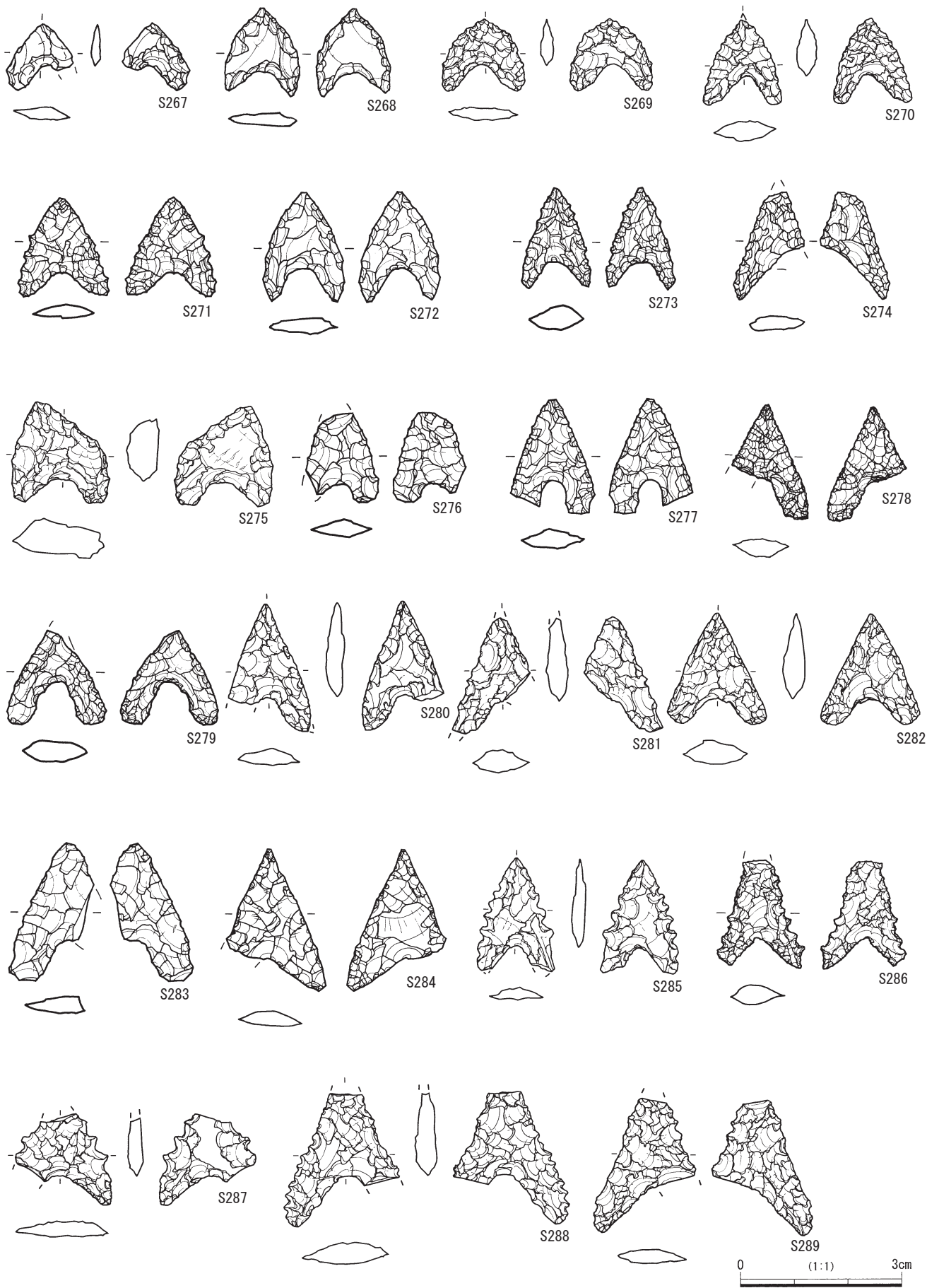
S341は，縦長剥片を利用し，剥片上端に両面からの剥離によって幅広のつまみ部が整形される。刃部は剥片の打点側，正面の右側縁にのみ整形される。S342は，縦長剥片の上端に両側縁からの剥離によってつまみ部を作り出し，刃部先端を欠損する。下縁に向かうにつれ中央部の刃部角は浅く鋭利となる。主要剥離面が残存する。つまみ部の幅は，S338・S339はやや小さく，S340～S342は幅広で大きく作られる。S343は，明瞭なつまみ部がみられない。石匙として分類したが，スクレイパーの可能性



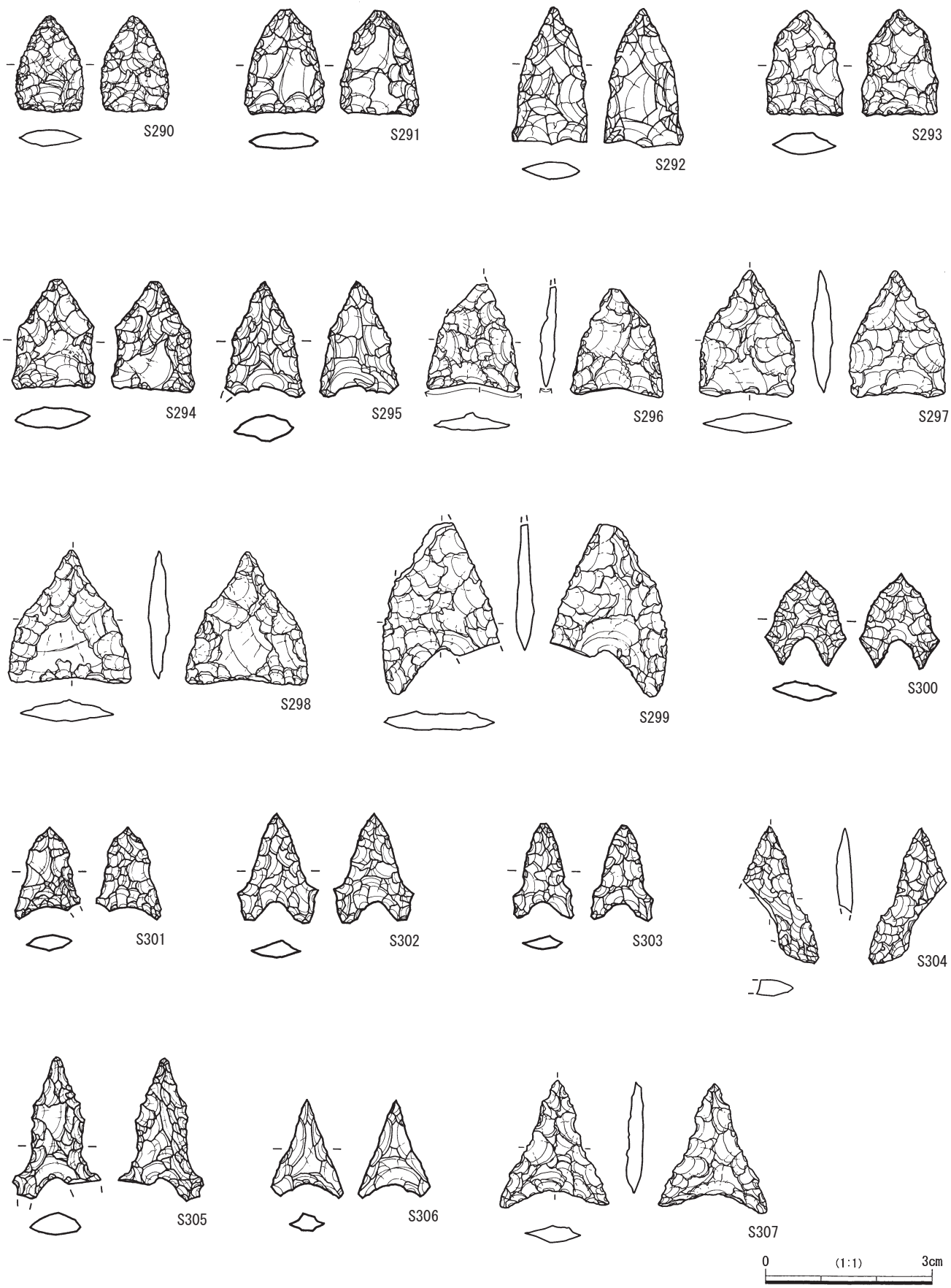
第2-134図 石鏃(1)



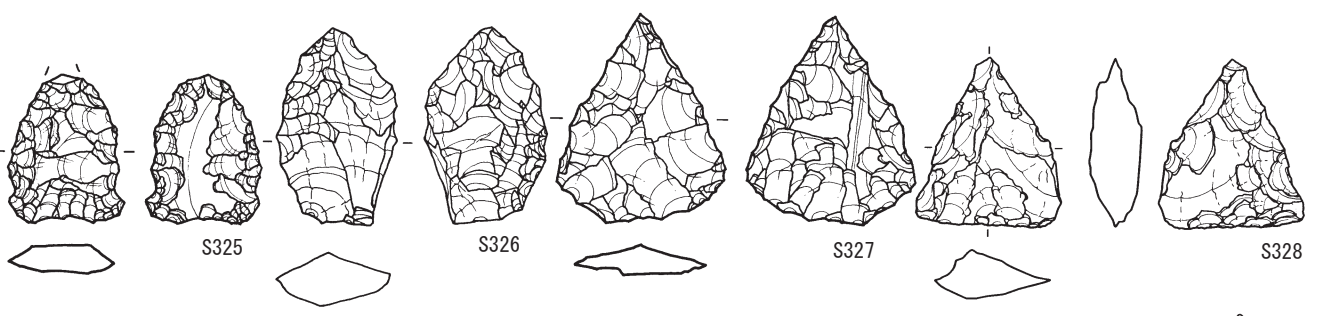
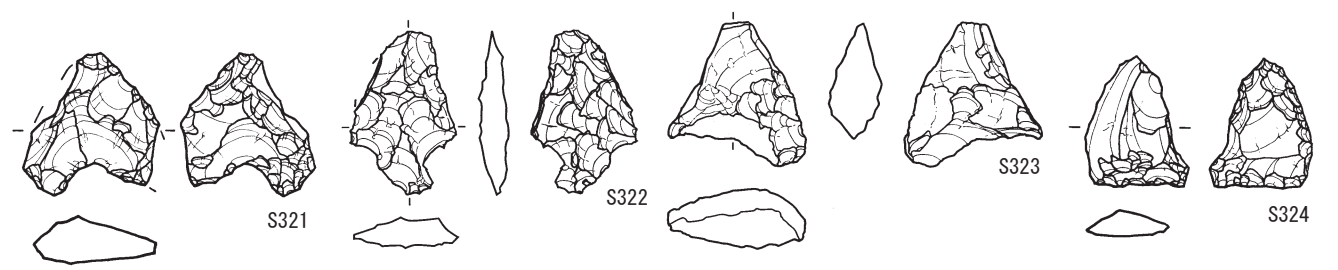
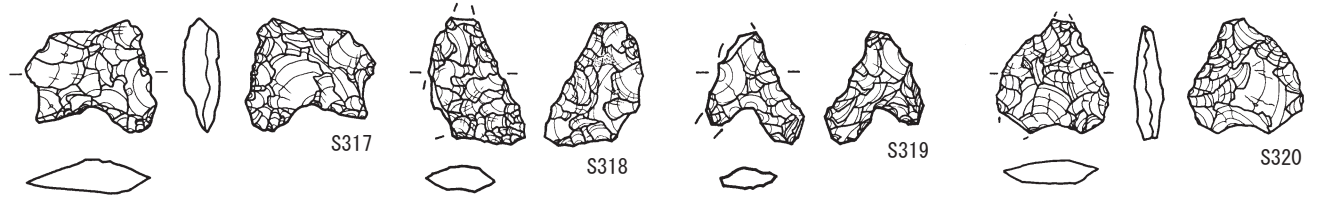
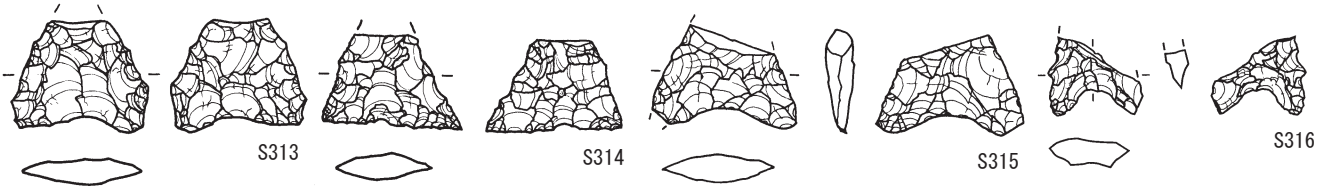
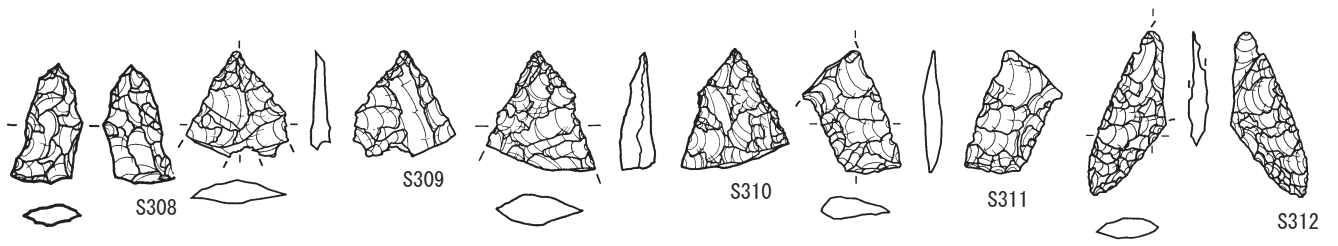
第2-135図 石鏃 (2)



第2-136図 石鏃 (3)



第2-137图 石鏃(4)



0 (1:1) 3cm

第2-138图 石鏃(5)



第2-139図 石錐

が残る。

S338・S340・S343は玉髓製，S339・S341・S342はチャート製である。

Ⅱ類 S344～S360は，基本的に横型で刃部が下縁に整形されるものである。S344～S349は，刃部が直刃状となる。S344・S345は小型の石匙である。S344は，正面のつまみ部や刃部の整形剥離は密に施されるが，裏面は両側縁の一部にとどまり，主要剥離面が残存する。S345は，

両面とも丁寧な剥離によって整形され，刃部が作り出される。刃部に対してつまみ部が大きく刃部には厚みがある。S346は，体部の平面形が三角形となる。S347は，厚みのある剥片を素材とし，刃部はやや幅広の剥離によって整形される。刃部に対してつまみ部が大きく，刃部角は鈍い。S348は，剥片の形状をよく残し，つまみ部と刃部の整形に伴う剥離が顕著である。正面のつまみ部上端には微細な剥離が集中し，主要剥離面が残存する。

S349は、剥片を幅広の剥離によって成形後、微細な剥離で仕上げている。素材の形状をよく残し、主要剥離面や自然面が一部残存する。S350～S356は、刃部が丸みを帯び弧状となる。S350は、つまみ部を欠損する。両面とも整形剥離が長く伸び、厚みを減じつつ刃部を作出する。S351は、素材剥片の打点側につまみ部を作出したと考えられ、両面とも成形剥離が密である。刃部の剥離は疎であることから未製品の可能性も残る。S352は、つまみ部と正対して刃部は斜状となる。I類とII類の中間的な形状であるがII類に含めた。剥片の両側縁から幅広の剥離によって整形後、つまみ部と刃部は微細剥離によって仕上げられる。S353は、小型の石匙である。大きさに対し厚みのある剥片が用いられ、刃部は両面からの丁寧な剥離によって整形される。S354～S356は、横長剥片を利用したと考えられ、素材剥片の打点側につまみ部を作り出す。刃部は両面からの剥離によって整形され、主要剥離面が残存する。S357～S359は、体部の平面形が角張り、四角形に近い形状のものである。いずれも主要剥離面を残し、刃部を微細剥離によって整形する未製品の可能性がある。S360は、刃部整形の剥離が両面から密に施される。つまみ部を欠損している可能性があることから石匙として分類した。S353は黒曜石B類製、S354は黒曜石A類製、S344は石英製、S345・S347・S350・S351・S356・S359・S360の7点は玉髓製、S346・S349の2点は安山岩C類製、S352・S355・S357・S358の4点がチャート製である。

スクレイパー（第2-144図～第2-146図 S361～S385）

S361～S385は、スクレイパーである。原石や石核等から剥出した剥片の縁辺に両面または片面から微細な剥離による調整を加え、刃部を作り出している。

掲載遺物における出土層の内訳は、Ⅲ層2点、Ⅳa層4点、Ⅳb層18点、Ⅴa層1点である。

S361～S375は、縦長で刃部が側縁から下縁に整形される。S361は、やや厚みのある小型の縦長剥片を用い、正面側の左側縁、右側縁下半、上端に微細剥離による調整が行われる。S362は、正面の左側縁の片面にのみ微細剥離がある。S363は、正面の右側縁、裏面は左側縁にはほぼ同じ幅の剥離がみられる。裏面の右側縁は微細剥離が連続する。S364は、上端につまみがあった可能性がある。S365は、縦長剥片を利用し、正面の右側縁、裏面の左側縁に剥離がみられる。正面には自然面が残り、正面左側縁に微細剥離がある。使用に伴う擦痕が顕著である。

S366は、両面とも側縁から剥離調整が行われ、上部は両面から微細剥離によってつまみ部にみえる整形がなされる。S367は、縦長剥片を利用し、両面ともに側縁から微細剥離によって調整される。周縁に使用による擦痕がみられる。形状から縄文時代早期の可能性もある。S368

は、厚みのある縦長剥片を利用し、正面は左側縁と下縁の一部、裏面は左側縁下部と右側縁上部に微細な剥離を施し、刃部を整形する。敲打痕がみられることから剥離後に刃潰しが行われた可能性がある。S369は、正面に風化面が残存し、裏面は左側縁を剥離によって成形する。厚みを減じるためと考えられる。刃部は成形部分に微細剥離によって仕上げられる。S370は、正面の右側縁、裏面の左側縁に剥離を施し、刃部を整形しており、使用痕もみられる。裏面の左側縁に微細な剥離が連続する。S371は、正面の右側縁、裏面の左側縁を剥離整形によって刃部を作り出す。S372は、正面の右側縁に両側から交互に整形剥離を施し刃部とする。

S373は、両面ともに側縁部に微細な剥離がみられる。

S374は、正面の両側縁、裏面の左側縁に微細剥離があり、正面には自然面が残存する。S375は、正面左側縁と裏面の左側縁に剥離がみられる。S369～S375は、打製石斧などの破片を再加工し、スクレイパーとして利用した可能性がある。

S376～S385は、基本的に横長で下縁に刃部が整形されるものである。S376・S377は、横長の剥片を利用し、下縁部の両面に剥離を行い、刃部を整形する。S376は、上面に自然面が残存し、S377は、上面に微細な剥離を施し厚みを減じている。S378は、両面ともに球心状の剥離がみられる。周縁に微細な剥離がみられることから楔形石器の可能性も残る。S379・S381は、自然面が残る横長の剥片を利用し、正面の剥片末端に連続する微細な剥離がみられるのに対し、裏面側の微細剥離は疎である。

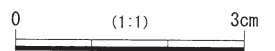
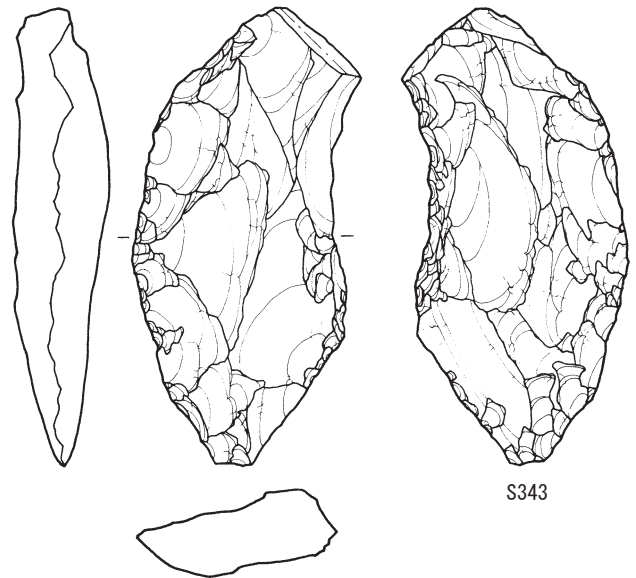
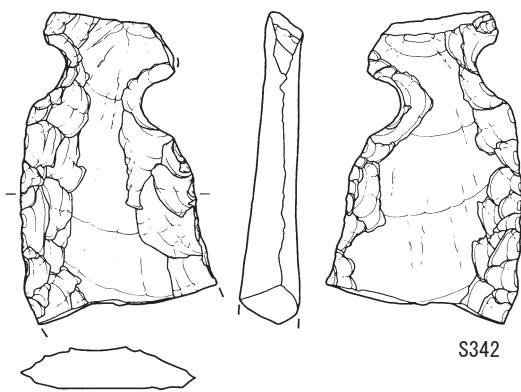
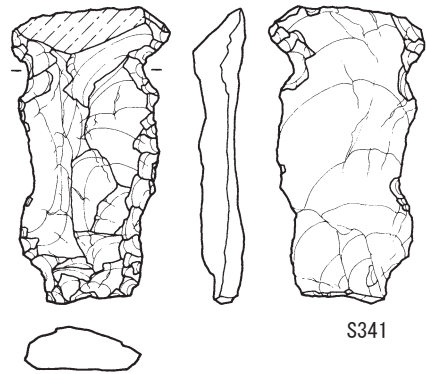
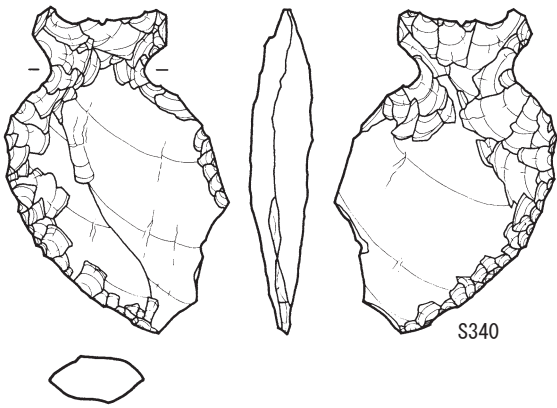
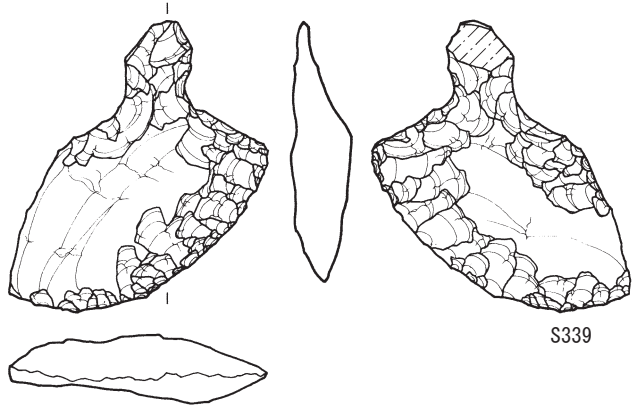
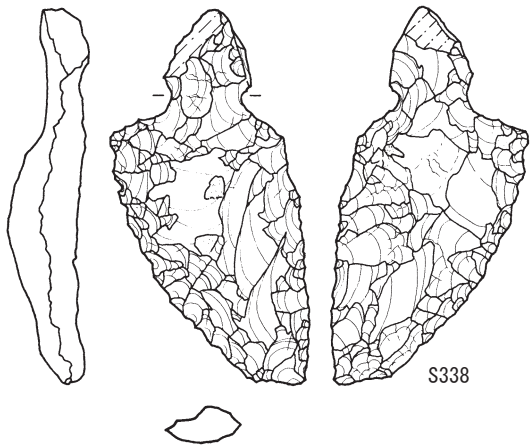
S380は、両側縁と下縁に微細な剥離によって刃部を作り出している。S382は、裏面の左側縁が幅の広い剥離によって成形された後、微細な剥離が行われている。S384は、横長の剥片を利用し、下縁の両面に微細な剥離を行い刃部としている。S385は、横長の剥片下縁に片面に裏側から微細な剥離を施し、正面の一部に自然面が残る。

S361は、黒曜石D類製である。S362は、黒曜石E類製である。S363は頁岩A類製、S364・S365・S370・S374の4点は頁岩B類製、S367は頁岩C類製、S366・S369・S371～S373・S379～S382・S384の10点はホルンフェルス製、S375・S376の2点は安山岩C類製、S377は玉髓製、S378はチャート製、S368・S383・S385の3点は砂岩製である。

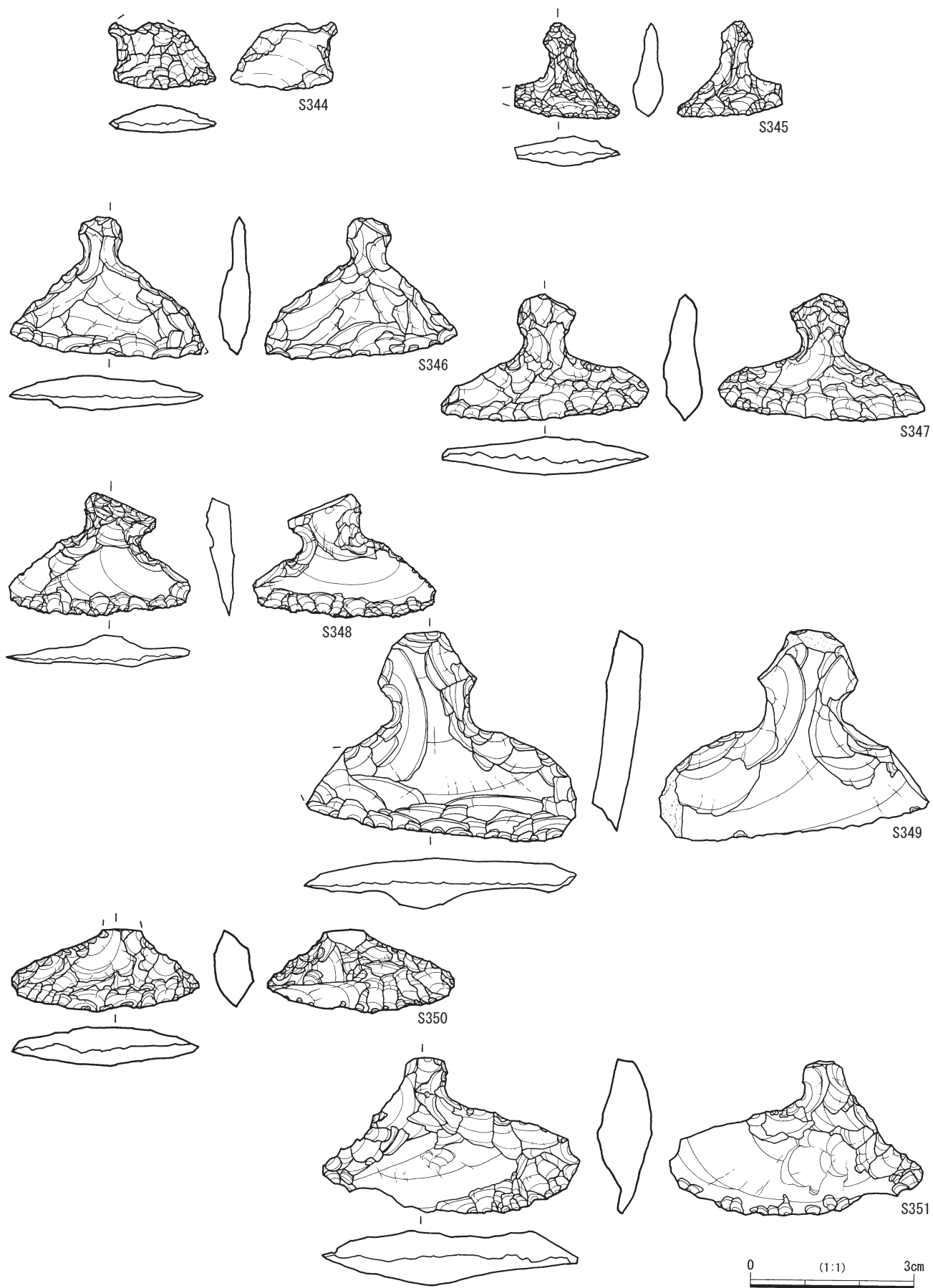
二次加工剥片（第2-147図 S386～S396）

S386～S392は、二次加工剥片である。素材剥片に対し二次加工とみられる剥離痕のあるものである。

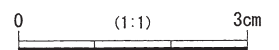
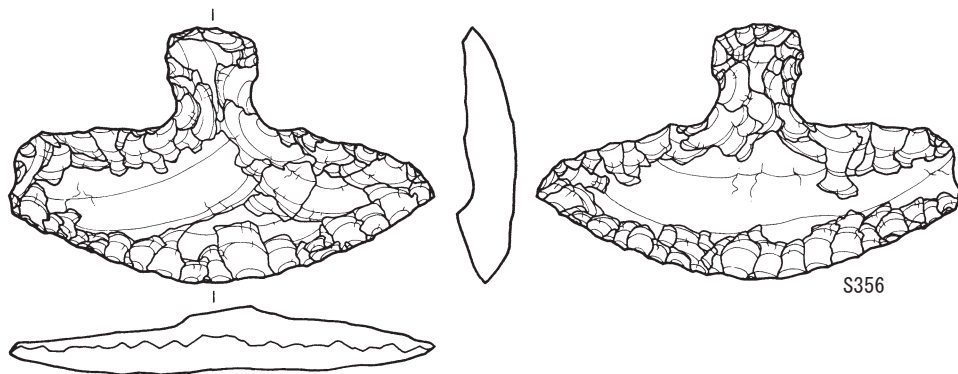
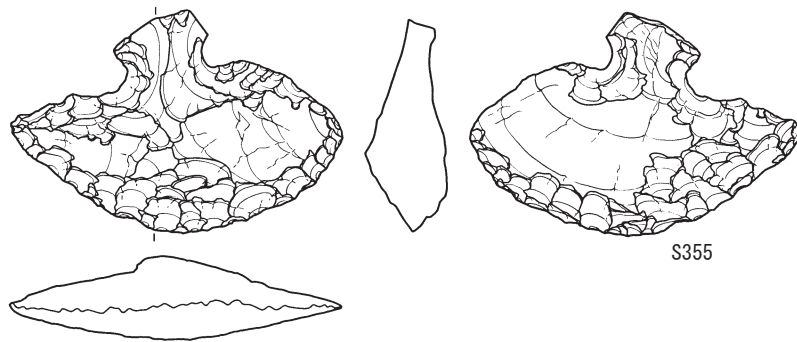
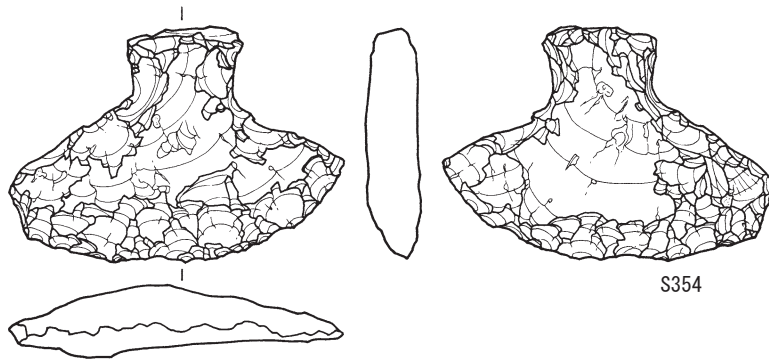
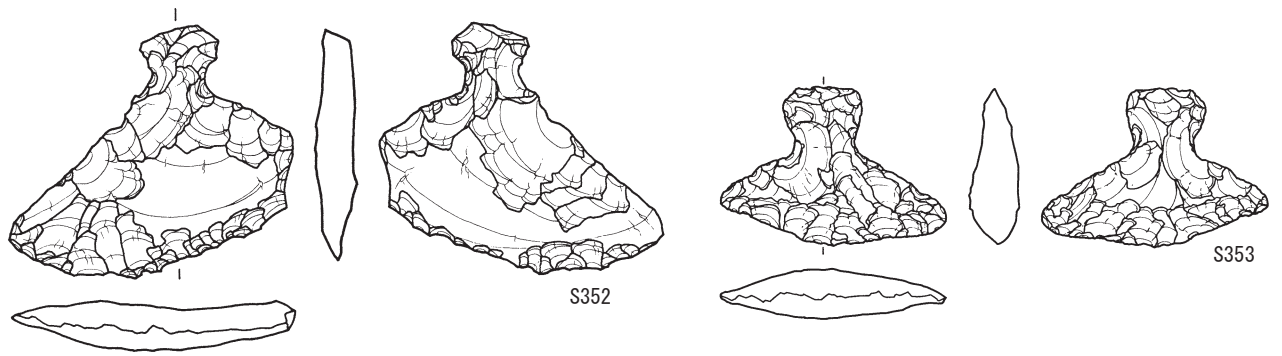
石器製作時に生じた副産物の可能性があるものを含んでいる。明瞭な微細剥離などの調整や使用痕はみられないが、包含層から安山岩や頁岩等の剥片が多く出土したことから掲載した。



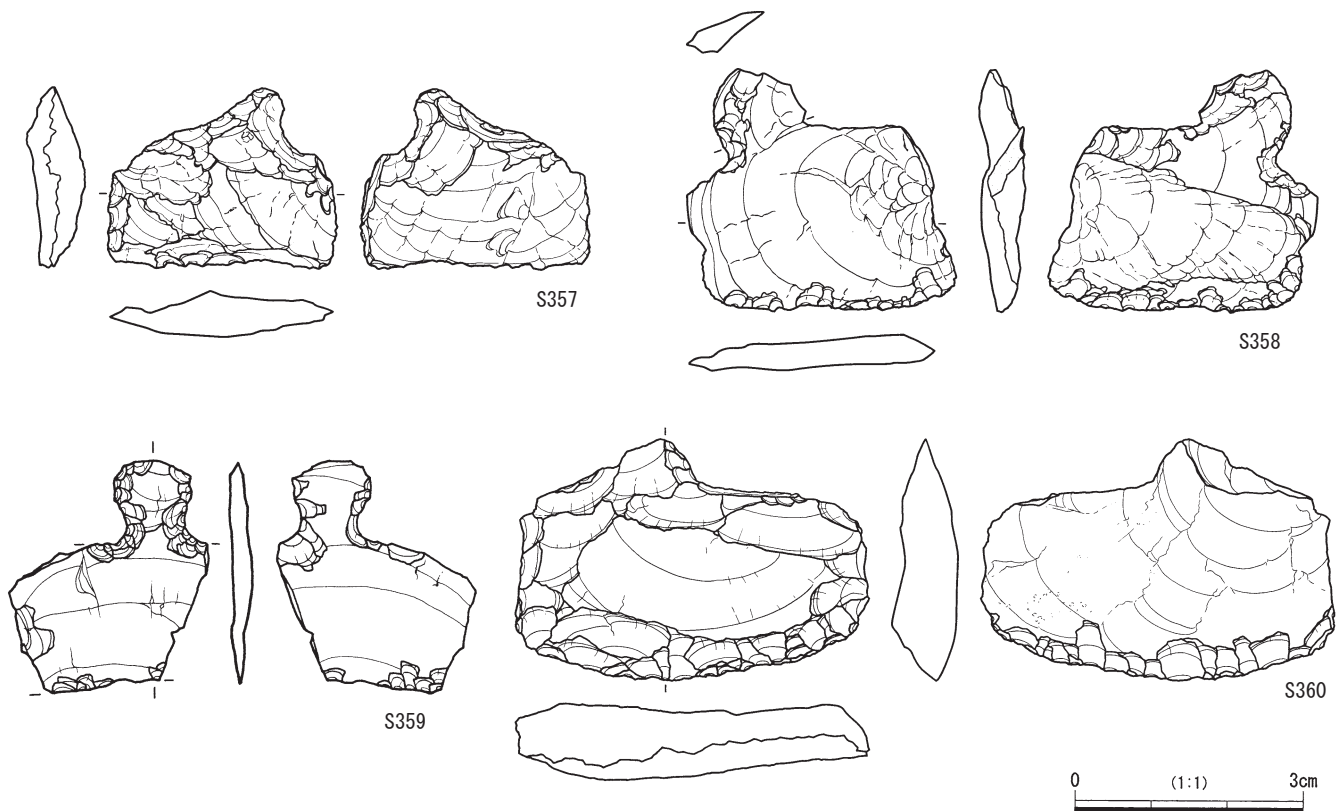
第2-140图 石匙(1)



第2-141图 石匙 (2)



第2-142图 石匙 (3)



第2-143図 石匙(4)

掲載遺物における出土層の内訳は、Ⅲ層4点、Ⅳa層1点、Ⅳb層3点、Ⅴa層2点である。

S386は、両面から微細な剥離による調整を行っており、石錐の欠損品の可能性もある。S387は、正面の側縁の剥離はよく延びており中央に稜を形成する。裏面も同様の剥離調整が行われ、主要剥離面が残存する。石匙の欠損品の可能性もある。S388は、上端に二次加工がみられ、S389は、左上端と右側縁に二次加工がある。左上端に潰れがみられることから楔形石器の可能性もある。S390は、正面の左側縁と上端、裏面の下端に微細な剥離が集中する。S391は、両面の周縁から中心に向かって剥離が行われ、側縁の一部には敲打痕もみられる。正面には自然面が残る。石槍の未製品の可能性もある。S392は、正面の右側縁と裏面の左側縁に微細剥離が集中する。打製石斧の欠損品を転用した可能性がある。

S393・S394・S395は剥片である。S396は、剥片末端の両縁に微細な剥離がみられる。

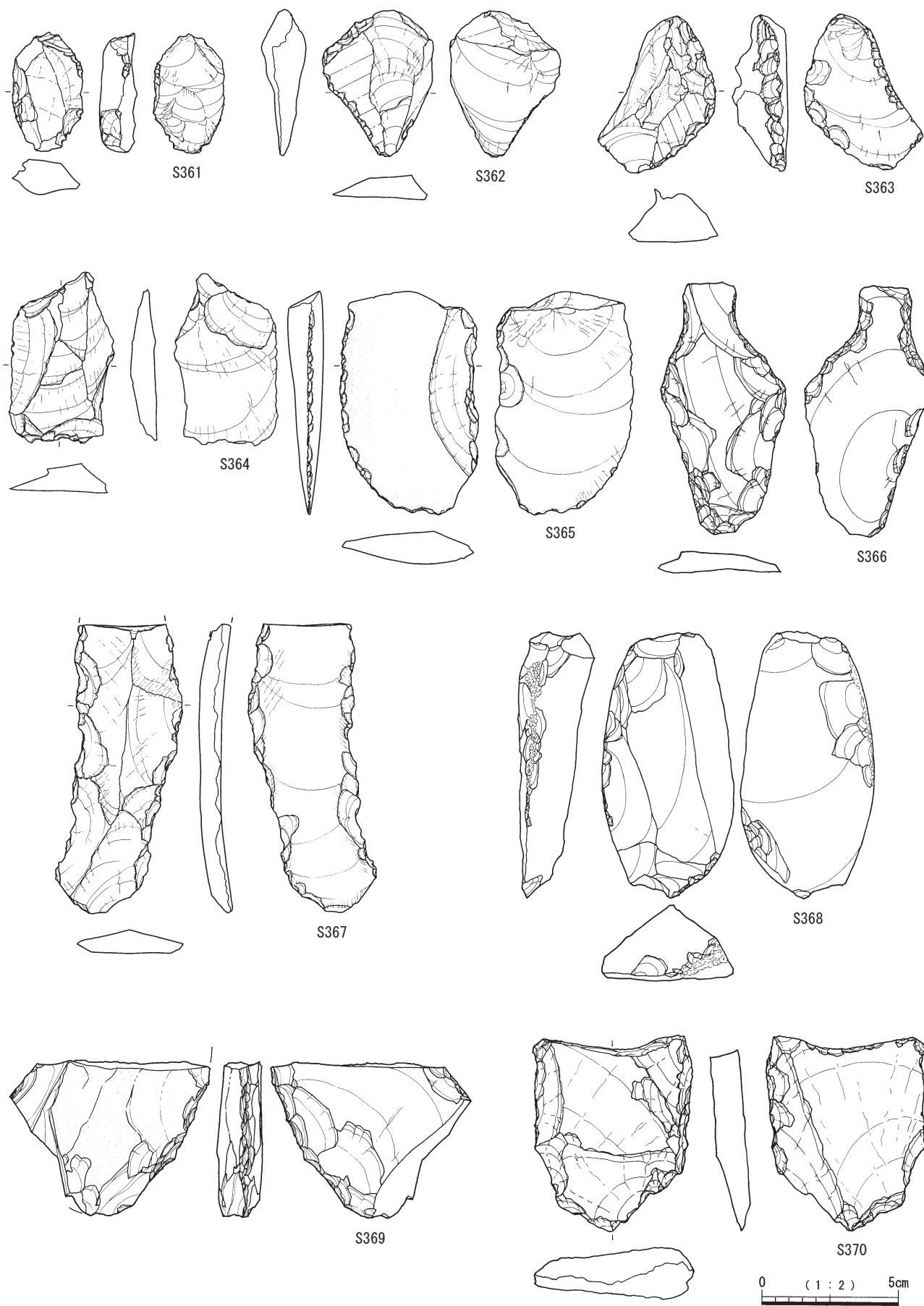
S387は、黒曜石D類製である。S388は、黒曜石B類製である。S389は、黒曜石A類製である。S390は鉄石英製である。S391・S392は、ホルンフェルス製である。S386・S393・S396は、安山岩C類製である。S394・S395は、頁岩B類製である。

使用痕剥片(第2-148図・第2-149図 S397~S413)

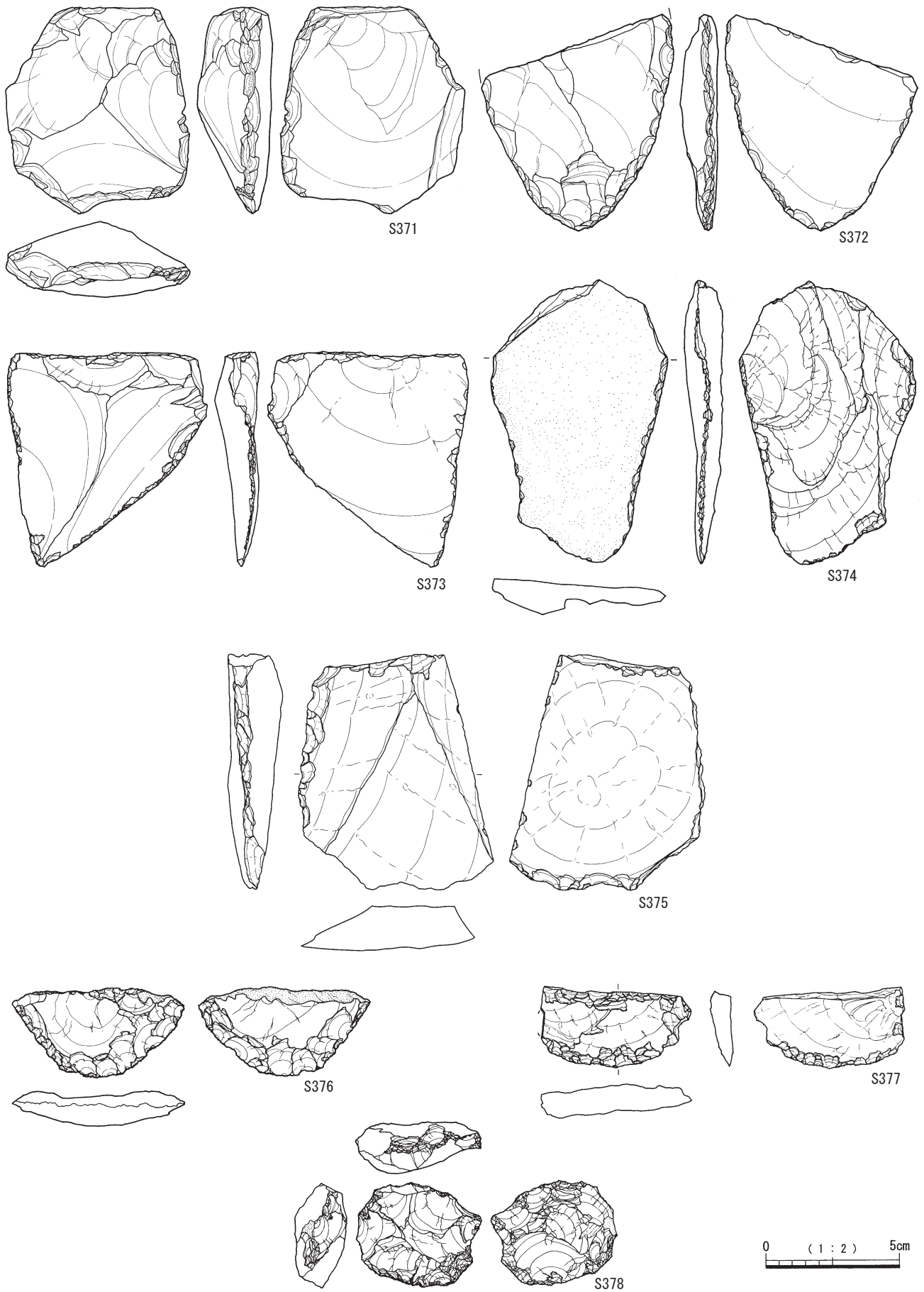
S397~S413は、素材剥片に微細な剥離など、刃こぼれ状の使用痕がみられるものである。

掲載遺物における出土層の内訳は、Ⅲ層6点、Ⅳa層1点、Ⅴ層2点、Ⅴa層7点である。

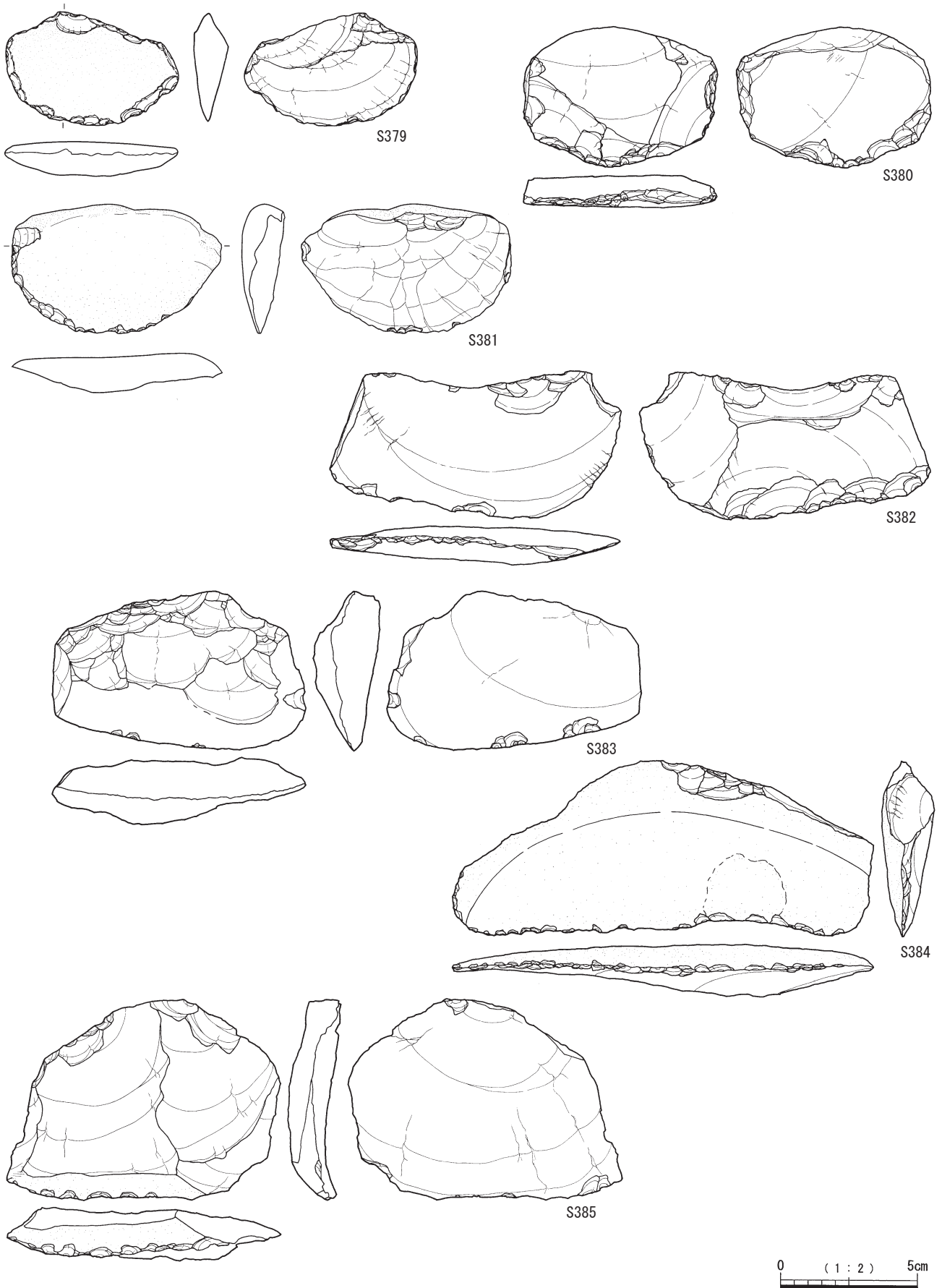
S397~S401は、側縁や下縁の一辺に使用痕がみられるものである。S397は、正面の右側縁に使用痕がみられる。正面に節理面と古い剥離面がある。S398は、やや縦長の剥片を用い、下縁に微細剥離がみられる。上縁と左側縁上部にも加工痕がある。S399は、台形状の剥片末端の最も薄い部分に使用痕がある。S400は、正面の側縁に使用痕があり、裏面には節理面がある。S401は、やや厚みのある剥片の左側縁に微細剥離がみられ、正面には自然面が残る。正面の稜線に摩滅痕、裏面上端・稜線に線状痕と摩耗痕がみられる。S402は、厚みのある剥片の下端に使用痕がみられ、裏面の下縁には微細剥離がある。右側面は折断されたと考えられる。S403は、正面には複数の剥離があり、上面と正面の一部に自然面が残る。剥片の下縁に使用痕があり、両面とも微細剥離がみられる。S404は、両面の両側縁に微細な剥離がある。S405~S413は側縁と下縁、上縁と下縁、両側縁など、二辺または三辺に使用痕がみられる。S405は、剥片の打面側、厚みのある部分に使用痕がみられる。



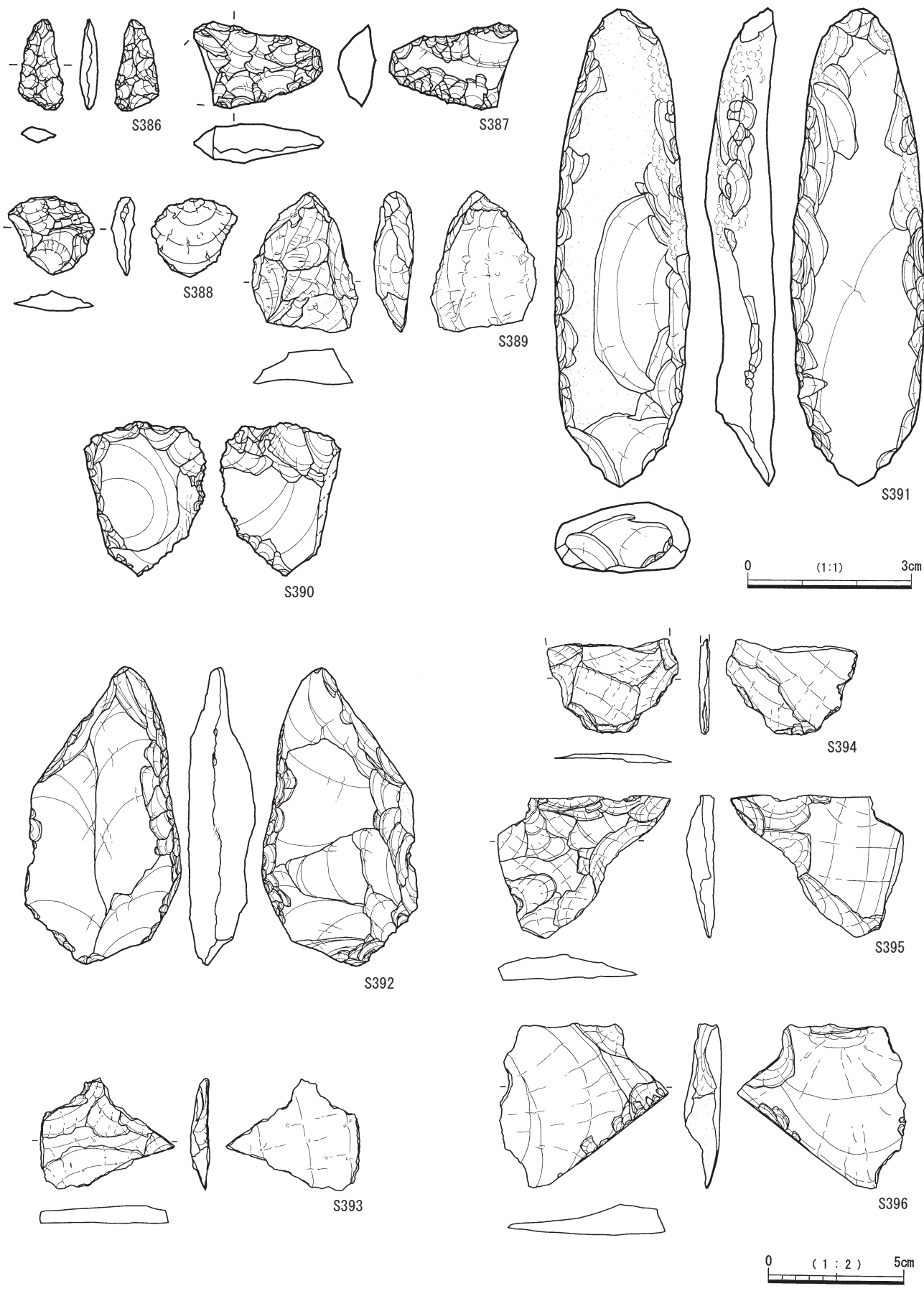
第2-144図 スクレイパー (1)



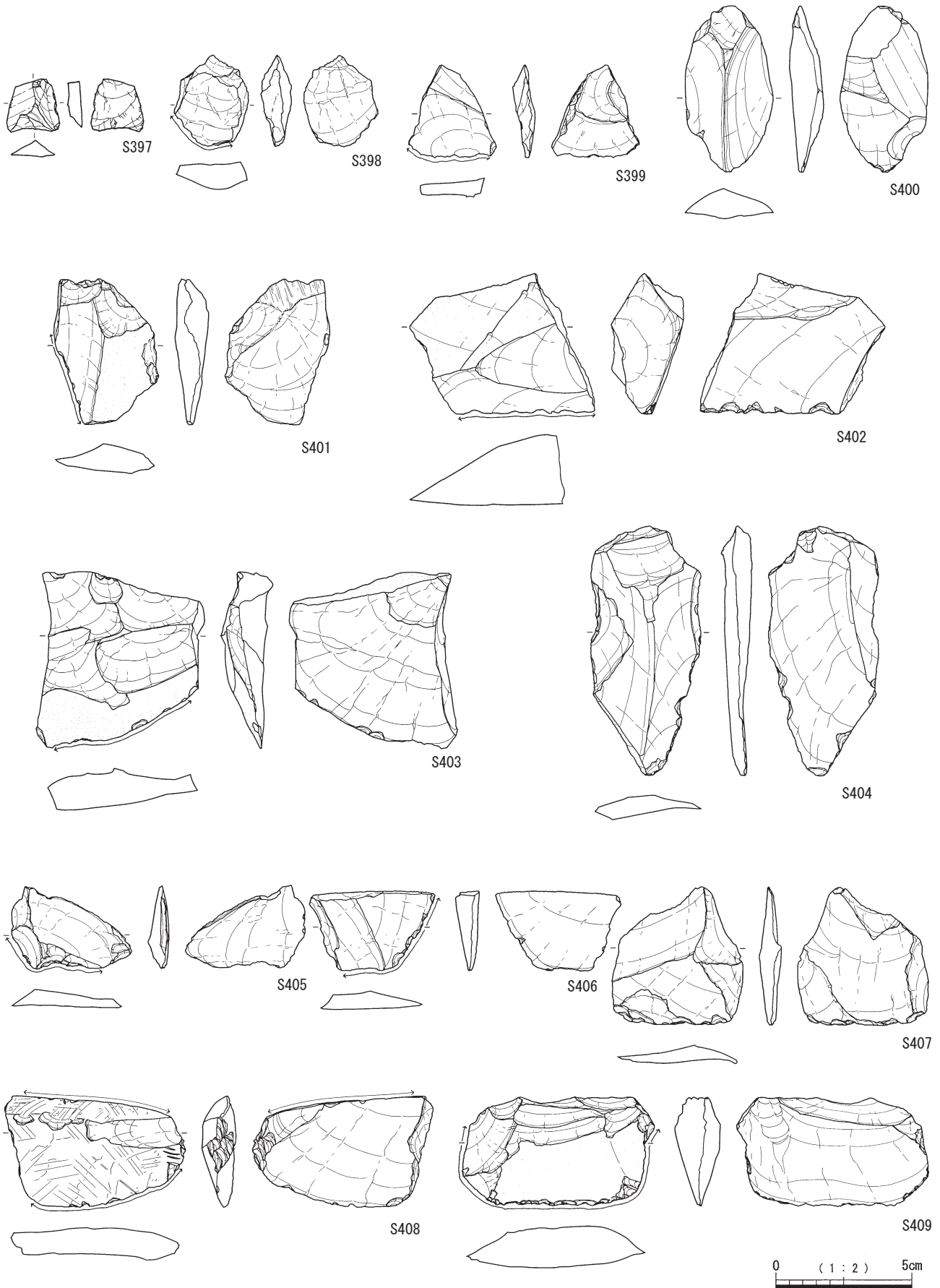
第2-145図 スクレイパー (2)



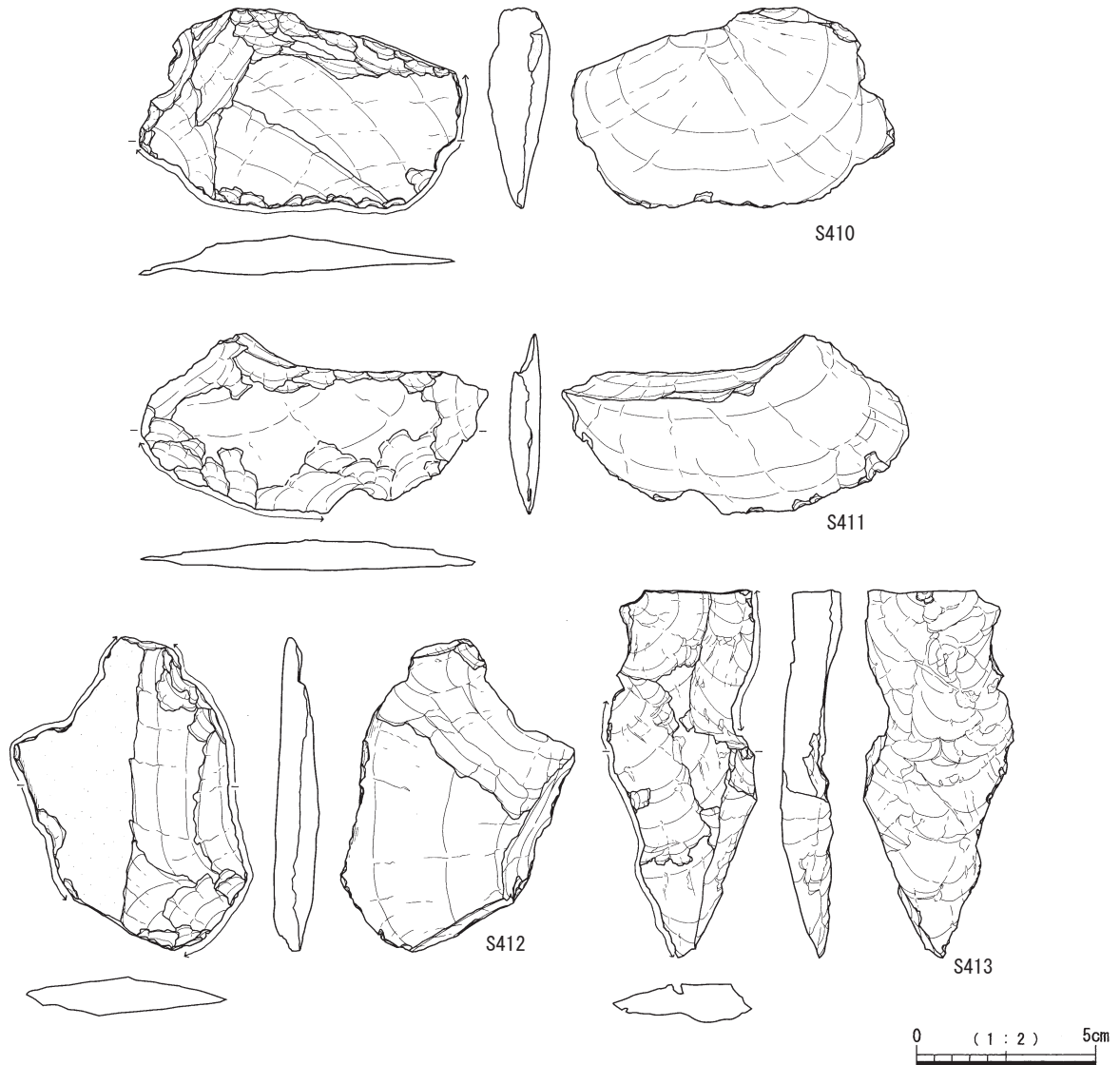
第2-146図 スクレイパー (3)



第2-147图 二次加工剥片



第2-148图 使用痕剥片(1)



第2-149図 使用痕剥片(2)

S406は、剥片末端の最も鋭利な部分に使用痕があり、正面の右側縁には微細な剥離がみられる。煤が付着している。S407は、剥片の下縁と側縁に使用痕、下端の両面に微細な剥離がある。S408は、剥片の厚みがある上面端と最も厚みの薄い末端に使用痕がみられる。裏面の左側縁には微細な剥離が集中する。形状から磨製石斧の破片が再利用されたと考えられる。S409は、正面の下縁に微細な剥離があり、左右側縁と下縁の稜線に摩耗痕がみられる。

S410・S411は、横長剥片の下端、最も厚みの薄い部分に使用痕がある。S410は両面、S411は裏面の下縁に微細な剥離がある。S412・S413は両側縁に使用痕がみられるものである。S412は、使用痕がみられる両側縁の断面が鋭角となる。S413は、縦長剥片を利用しており、正面の

右側上部は階段状に大きく剥離しており、使用痕は剥離後の側縁にみられる。

S397はチャート製、S398・S413の2点は玉髓製、S399・S402・S406の3点は安山岩C類製、S400・S401・S404・S405・S407・S409・S412の7点は頁岩B類製、S403・S410・S411の3点はホルンフェルス製である。S408は、砂岩製である。

石核・原石（第2-150図、第2-151図 S414～S424）

S414～S424は、石核・原石である。礫及び分割礫を素材とし、小型の剥片が剥出されたものを石核、剥出されていない自然礫のものを原石とした。原石については、石器製作の原料として遺跡に持ち込まれた時点の大きさがわかるものを2点図化した。

掲載遺物における出土層の内訳は、IVa層1点、IVb層5点、Va層3点である。原石はV・Va層2点である。

S414・S416～S418は、残核と考えられる。S414は、打面転移を繰り返し、上面は左右、正面は上下、裏面は上・右方向など多方向から剥離を行っている。S415は、不純物を多く含み、剥片剥離が円滑に進まなかった可能性がある。亜円礫を素材とし、打面・作業面以外に自然面が残存する。S416は、正面は上方向、裏面は上下左右に打面転移を繰り返し、多方向から剥離が行われたことが窺える。S417は、上面・正面・裏面ともに少なくとも2方向からの剥離痕がみられ、一部に自然面が残存する。S418は、正面には上方向から剥離痕があり、上端に微細な剥離が集中する。裏面は上下2方向からの剥離がみられる。上面の一部に自然面が残る。S419は、亜円礫を素材としており、礫の長軸端部に連続する剥離がみられるが、剥片剥離は進んでいない。

S420～S422は、礫面を打面として剥片の剥離が繰り返されている。S420は、正面に上下方向、裏面に下方向からの剥離がある。正面の剥離が行われた後、上面左側と下端部に微細な剥離が行われている。打面や作業面を調整した可能性があるが、礫器の可能性が残る。S422は、上面は左右2方向、正面から右側面にかけては上方向、右側面が上・左方向、裏面は下・右方向からの剥離がみられる。

S423・S424は、原石である。

S414は黒曜石C類製、S415～S417の3点は黒曜石A類製、S418はチャート製、S419・S423・S424の3点は石英製、S420～S422の3点はホルンフェルス製である。

磨製石斧（第2-152図～第2-173図 S425～S549）

S425～S549は、磨製石斧である。形状や大きさ、残存状態によってI～VI類に分類した。なお、本遺跡出土の磨製石斧は、伐採具や加工具として使用された後、敲打具（敲石）や両極石器（楔形石器）として転用されたものが多い。欠損後に再加工し転用されたもの、欠損前に意図的に再加工し転用されたことが想定される。

本節では、本来の磨製石斧として使用された形態を基本として分類を行い、各類ごとに磨製石斧から敲打具や両極石器として転用された経過をたどれるように掲載している。掲載遺物における出土層の内訳は、III層2点、IV層3点、IVa層16点、IVb層95点、IVc層1点、V・Va層5点である。

I類 形状が撥形をなし、刃部の幅に対して基部の幅が細くなるものである。体部の断面は楕円形で厚みがあり、刃部付近が最大幅となる。いわゆる乳棒状石斧を含む。I類には、完形となるものがない。

S425～S427は、基部から体部を残し体部途中から刃部を欠損する。S425は、研磨で整形され両面と側面の境は弱い稜をなす。下端の両面に刃部破断時の剥離面を残す。S426は、敲打整形後、研磨によって仕上げられ、刃部を欠損する。S427は、基部先端がやや幅広である。器面の一部に剥離整形痕が残り、全体に敲打整形痕がみられる。下面に敲打による潰れ、下端には剥離が残ることから、刃部を破断後、敲打具として転用されたと考えられる。

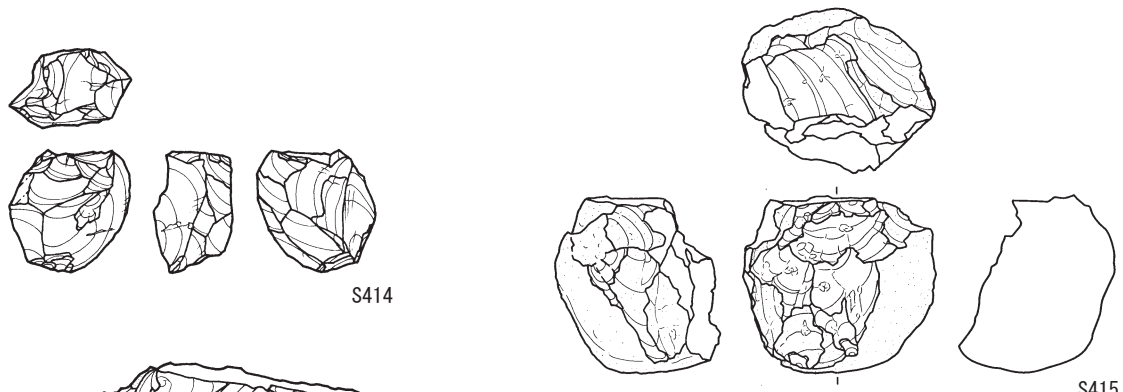
S428～S433は、刃部を欠損し、基部の先端に剥離がみられる。S428は、剥離整形後、敲打によって仕上げられる。基部の両面には小さな剥離が集中し、端部は敲打による潰れが確認できる。敲打具として転用されている。S429は、剥離成形後、敲打整形を行い研磨によって仕上げられ、裏面と側面の境は弱い稜をなす。基部の両面に剥離が集中し、上端は潰れているため敲打具として転用されている。S430は、器面の一部に敲打整形痕が残り、研磨によって仕上げられる。基部上端に剥離と敲打による刃潰れがみられ、敲打具に転用されたと考えられる。

S431は、器面の一部に剥離成形と敲打整形痕が残る。基部上端に剥離が集中する。S432は、一部に整形剥離痕を残す。研磨によって整形される。基部上端に剥離痕と敲打による潰れ、刃部側の下面には敲打による潰れがみられる。敲打具として転用されたと考えられる。S433は、剥離・敲打による整形痕をわずかに残し、研磨によって仕上げられる。刃部破断後の下端には剥離と敲打による潰れがみられる。敲石として転用された可能性がある。基部先端に赤色顔料が付着する。

S434は、敲打と研磨によって整形され、敲打痕が顕著である。基部及び刃部を破断し、刃部側の破断面に敲打痕と潰れがみられることから敲石として転用されている。

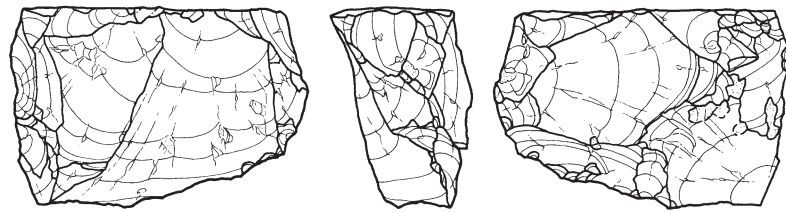
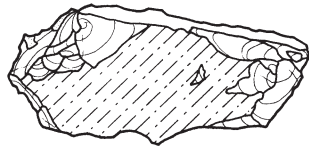
S435～S439は、基部及び刃部の破断面に敲打痕や潰れがみられるため、楔形石器などの両極石器または敲石に転用されたと考えられる。S435は、敲打による整形後、研磨によって仕上げられ、基部・刃部の両端に複数の剥離面がみられる。

S436は、敲打整形と研磨によって仕上げられ、正面と側面の境が弱い稜をなす。基部・刃部の両端に複数の剥離面があり、下面には微細剥離と刃潰れがみられる。S437は、敲打整形と研磨によって整形され、基部と刃部の両端に複数の剥離面がある。剥離面には敲打痕がわずかに残る。基部の上端に潰れがみられることから敲打具として転用された可能性がある。S438は、両側面からの剥離成形痕をよく残し、敲打によって整形される。基部・刃部の両端に微細剥離がみられ、刃部側には潰れがみら

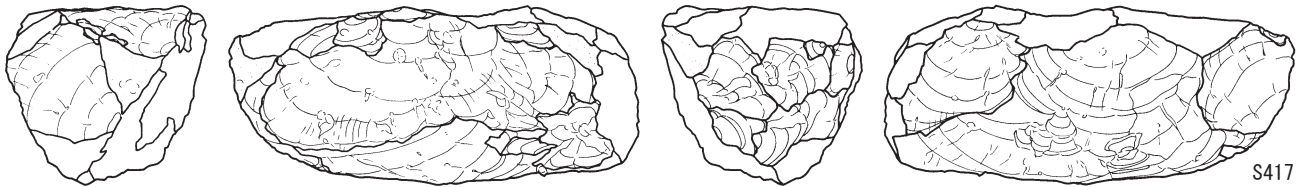


S414

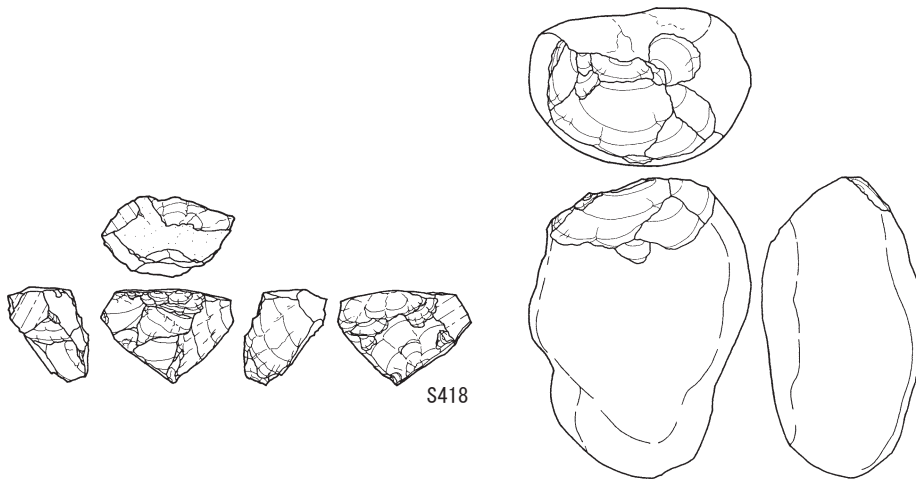
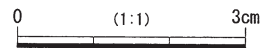
S415



S416

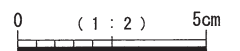


S417

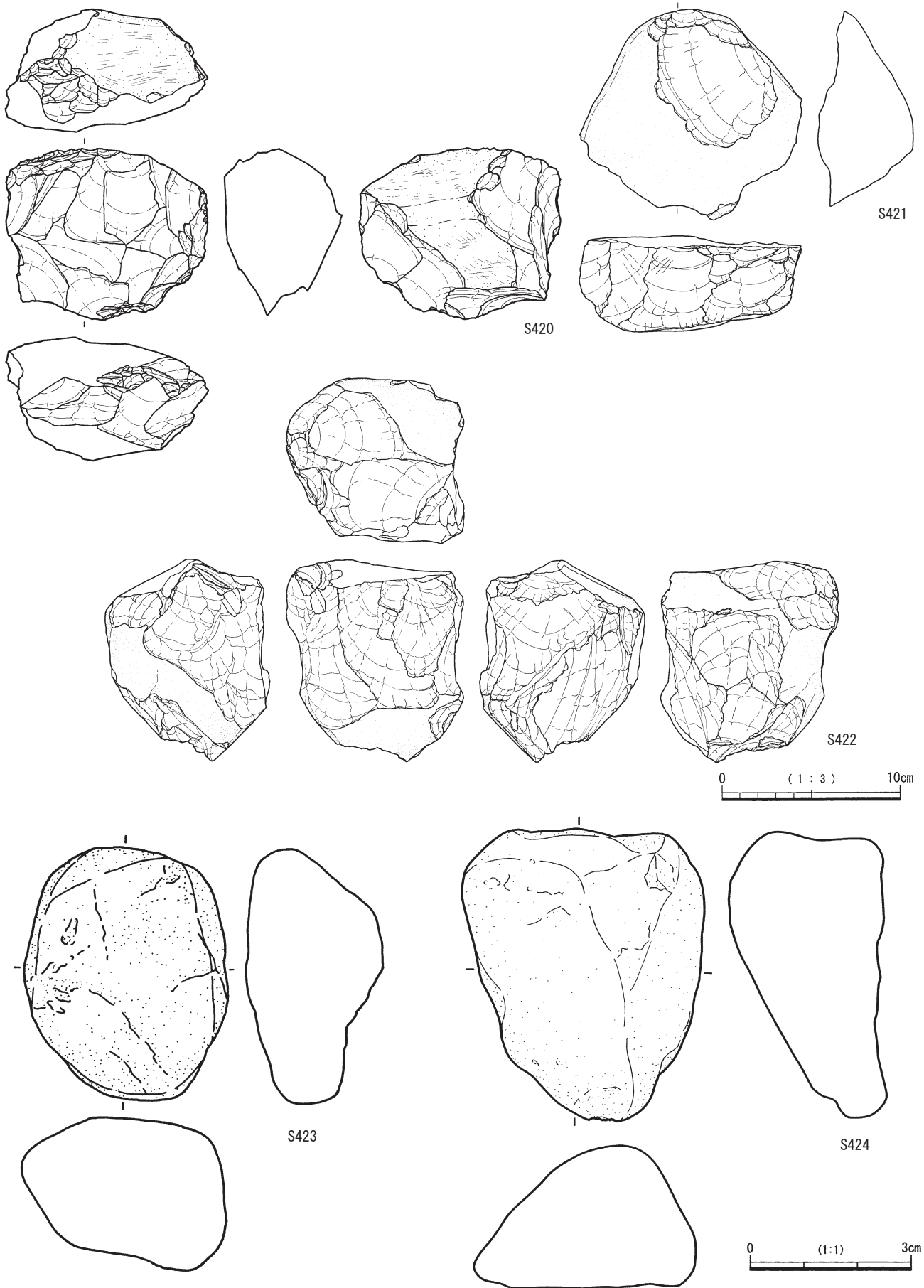


S418

S419



第2-150图 石核·原石 (1)



第2-151图 石核·原石(2)

れる。S439は、基部・刃部の両端に明瞭な敲打痕がみられ、敲石として利用された可能性がある。

S440は、敲打と研磨によって整形されている。基部の裏面と刃部の正面に剥離が集中する。刃部は敲打によって丸みを帯びるほど潰れており、敲石として転用されたと考えられる。

S441は、基部及び刃部を欠損する。基部は横方向、刃部は下方向からの加撃によって破断されており、刃部側には微細剥離もみられる。I類の欠損品である。

I類は、すべてホルンフェルス製である。

II類 形状が撥形または台形をなし、刃部の幅に対し、基部の幅が細くなる。体部の断面は両面にやや丸みがあるが、両側面が研磨によって平滑に仕上げられるため、扁平な楕円形や方形状となる。刃部は両刃（蛤刃）である。いわゆる定角式磨製石斧を含む。

S442～S446は、完形である。S442は、正面の上部右側と裏面上部中央に成形剥離が残る。側面部を中心に敲打痕があり、全体を研磨によって整形する。両面と側面の境が稜をなし、刃部に刃こぼれがみられる。S443は、正面の両側と裏面の左側面に成形剥離が残る。敲打整形痕がわずかに残り、全体が研磨によって仕上げられる。両面と側面の境は弱い稜をなし、基部に複数の剥離がみられる。S444は、正面の両側、裏面の左側面に成形剥離を残す。正面の中央、裏面の下部に敲打による整形痕がみられる。両面と側面の境は明瞭な稜をなす。

S442～S444はいわゆる定角式石斧である。

S445は、石材の性質上、両側面からの成形剥離痕をよく残す。敲打整形痕が両面・側面全体にみられ、研磨によって仕上げられる。刃部には使用痕がある。S446は、光沢をもつほど丁寧に磨きあげている。両面・側面の一部は敲打によって凹み、基部端にも敲打痕が集中する。敲打具として転用されたと考えられる。短身であり、刃部が作り直された可能性もある。S447は、基部もしくは基部に近い部分の破片の可能性もある。

S448～S452・S454は、刃部を欠損する。S448は、敲打整形後、研磨によって仕上げられる。両面と側面の境に明瞭な稜をなし、厚みがある。両面の下端に複数の剥離、敲打痕が集中しているため、敲打具として転用されたと考えられる。S449は、敲打整形後、研磨によって仕上げられ、両面から側面の下端にかけて下方向からの剥離が巡る。刃部破断後の剥離面に敲打痕がみられ、敲打具として転用されたと考えられる。

S450は、敲打整形後、研磨によって仕上げられ、裏正面と側面の境が稜をなす。基部の両面に複数の剥離があり端部は潰れている。両面から側面の下端に下方向からの剥離が巡る。刃部破断後の剥離面には敲打による潰れがみられ、敲打具として転用されている。S451は、剥離成形後、敲打整形と研磨によって仕上げられ、基部の両

面には複数の剥離がみられる。刃部破断後の剥離面には敲打による潰れがみられるため敲打具として利用されたと考えられる。S452は、右側面に剥離成形後、器面全体に敲打整形痕を残す。基部の両面に複数の剥離がみられ、端部は摩滅する。両面から側面の下端には下方向からの剥離が巡る。刃部破断後の剥離面には敲打による潰れがみられ、敲打具として転用されたことが窺える。S453は、敲打整形と研磨によって仕上げられている。基部の両面に複数の剥離と敲打痕がみられる。刃部破断後の剥離面には敲打が集中することから敲石として転用されたと考えられる。S454は、剥離成形後、敲打整形、研磨によって仕上げられる。両面と側面の境は稜をなす。基部・刃部ともに両面にわたって複数の剥離がある。剥離面に敲打痕がみられるため敲打具や両極石器として転用されたと考えられる。S455は、刃部片である。敲打成形後、研磨整形される。両面と側面の境は明瞭な稜をなし、基部側の正面は剥離が延び、剥離面に敲打痕がみられる。刃部の裏面にも複数の剥離があり、端部は潰れている。敲打具として利用されたことが窺える。

S456は、両面と側面の境が明瞭な稜をなす。基部端と刃部が両面剥離によって再加工され、剥離面には敲打痕が残存する。敲打具として再利用されたと考えられる。

S457～S477は体部～刃部片または刃部片である。

S457は、研磨整形され、両面と側面の境が明瞭な稜をなす。刃部端に微細な刃こぼれがみられる。S459は、側面に敲打整形痕が残る。S460は、基部を欠損する。正面や側面の一部に敲打整形痕が残り、研磨によって仕上げられる。両面と側面の境が稜をなす。

S461は、正面が敲打整形と研磨によって仕上げられ、裏面は剥離面と敲打痕がみられ、刃部の研磨は剥離面に及ぶ。基部は両面から細かい剥離があり、刃部端には使用による刃こぼれがみられる。S462は、敲打整形痕がわずかに残り、研磨によって仕上げられる。両面と側面の境が稜をなし、刃部端には両面とも刃こぼれ状の剥離がみられる。S463は、研磨によって整形される。両面と側面の境が稜をなす。基部の正面左側と裏面右側に複数の剥離があり端部は刃潰れしている。刃部は両面にわたる剥離があり、敲打による潰れが認められる。敲打具として利用されたと考えられる。

S464は、敲打整形後、研磨によって仕上げられる。正面と側面の境が稜をなす。基部側の両面に細かな剥離があり、基部の上面に敲打痕が密に残る。刃部端にも刃こぼれ状の剥離、敲打による潰れがみられる。敲打具として転用されたことが窺える。

S465～467は、両面に敲打整形後、研磨によって仕上げられる。両面と側面の境は稜をなす。基部の上面には複数の剥離と敲打痕、刃部の両面には細かい剥離が連続し、端部に敲打による潰れがみられる。

S468・S470～S473は、敲打整形痕が残り、研磨によって仕上げられる。両面と側面の境が稜をなし、基部の両面に複数の剥離と敲打による潰れがある。刃部は両面に剥離があり端部は敲打によって潰れている。敲打具として利用された可能性がある。

S469は、正面に剥離成形痕を残し、研磨によって仕上げられる。側面に敲打痕がのこり、両面との境に稜をなす。刃部は両面に複数の剥離と敲打による潰れがみられる。

S474は、わずかに敲打整形痕を残し、研磨によって仕上げられる。上面・下面の剥離面に敲打による潰れがみられる。側面は全周にわたって敲打痕がみられることから敲石として転用されたと考えられる。S475は、両面とも刃部から体部に向かって大きな剥離が延びる。

S476は上端から体部に向かって大きな剥離が延びる。使用時の加撃あるいは再加工によって生じたと考えられる。敲石に転用されたことが窺え、刃部端は密な敲打によって丸みを帯びる。S477は、敲打整形後、研磨によって仕上げられる。両端に剥離がみられるため敲石に転用されたと考えられる。側面・裏面に敲打痕が残り、正面中央は凹石のように浅くくぼむ。

Ⅱ類は、S445・S449・S455が頁岩B類製、S446は花崗岩製、その他はすべてホルンフェルス製である。

Ⅲ類 形状が撥形や台形をなし、体部の断面は楕円形や方形状となる。全長が15cm以下の中型のものでⅡ類よりも小さい。

S478～S483は、ほぼ完形である。S478は、正面に敲打整形痕、裏面の側面側に剥離成形・敲打整形痕を残す。研磨によって仕上げられ、両面と側面の境が弱い稜をなす。刃部端に刃こぼれがみられる。S479は、両面に剥離整形痕が明瞭に残り、敲打痕がわずかにみられる。研磨整形によって両面と側面の境が明瞭な稜をなす。刃部端が刃こぼれしている。S480は、正面の刃部側に剥離成形痕が残り、敲打と研磨によって整形され、基部及び刃部の両面と側面の境が稜をなす。

S481は、正面が敲打・研磨によって整形され、刃部に研磨痕が顕著である。正面の左側縁に微細剥離がみられる。裏面は右側縁端の上部に敲打痕、下部に微細剥離、刃部端に刃こぼれ状の剥離が集中する。右側縁と刃部は二次加工された可能性がある。S482は、縦長の剥片を利用し、正面は剥離成形後、敲打整形と研磨に拠って仕上げられる。裏面は両側縁からの剥離で整形される。刃部は両面とも研磨される。S483は、横長剥片を利用し、正面が敲打整形と研磨によって仕上げられる。裏面は敲打痕がみられず研磨されている。両側縁から剥離が施される。側縁には敲打痕がみられる。

S484は、正面・側面が敲打整形と研磨によって仕上げられ、裏面は剥離面のみで敲打・研磨痕はみられないが、

両側縁に剥離がみられる。使用によって欠損した後、再加工された可能性がある。S485は、正面が研磨され敲打痕はみられない。裏面は剥離面のみ残存することから、使用によって破断したと考えられる。側面には敲打による整形痕が残る。基部両面に大きな剥離と微細剥離がみられる。

S486～S491は、刃部片である。S486は、研磨によって仕上げられ、裏面の左側縁に微細な剥離がみられる。両面と側面の境が稜をなす。S487は、敲打痕はわずかで研磨によって仕上げられている。側面に剥離痕がある。両面と側面の境が稜をなす。S488は、敲打整形痕はわずかで研磨されている。やや肉厚で、両面と側面の境が稜をなす。S489は、両面とも研磨痕のみ確認できる。基部上端には微細な剥離、刃部端に刃こぼれ状の剥離がみられる。S490は、研磨によって仕上げられ、両面と側面の境が明瞭な稜をなす。両面に刃面を2面もつ。S491は、正面が研磨され、裏面は剥離面を残す。刃部側の剥離は研磨によって摩滅していることから研ぎ直されたと考えられる。刃部端に刃こぼれがみられる。

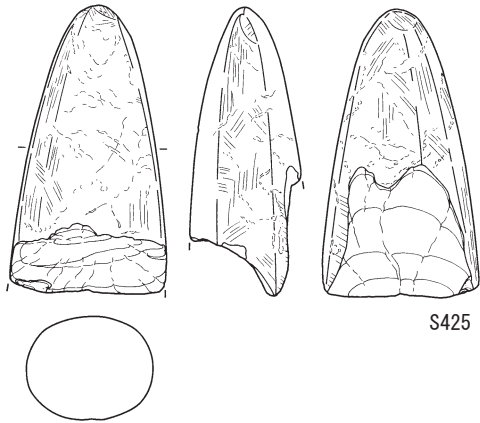
S492は、研磨によって整形される。両面と側面の境が稜をなす。両端に剥離痕がみられる。剥離痕を潰す敲打痕がみられることから、基部及び刃部を破断後、敲石として転用されたと考えられる。S493は、敲打と研磨によって整形される。基部端と刃部端に微細な剥離と敲打痕がみられることから、敲打具に転用されたと考えられる。

Ⅲ類は、すべてホルンフェルス製である。

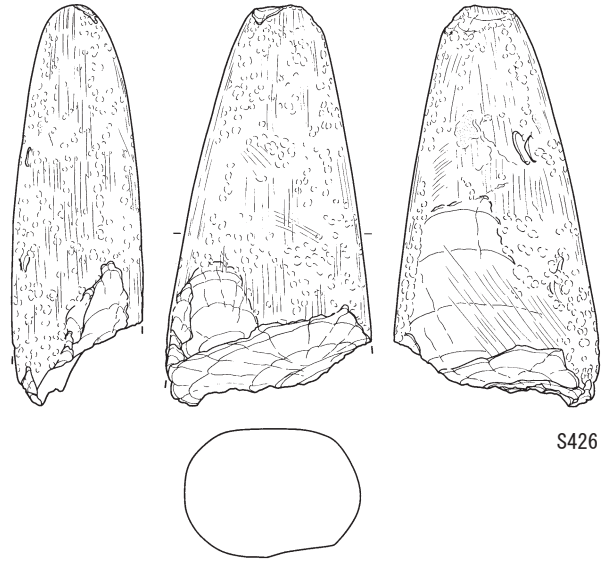
Ⅳ類 形状が撥形や台形、短冊形をなし、体部の断面は楕円形や方形状となる。厚さが3cm以下で、Ⅲ類よりも薄いものである。

S494～S496は、完形もしくは完形に近いものである。S494は、基部と両側縁に剥離成形痕があり、研磨によって仕上げられる。S495は、両面の一部に剥離成形痕、敲打整形痕がみられ、研磨によって仕上げられる。刃部は直刃状で一部を欠損し、刃こぼれがみられる。S496は、剥離成形後、研磨によって仕上げられる。両面と側面の境が稜をなす。刃部に刃こぼれがみられる。磨製石斧V類-S508に類似している。

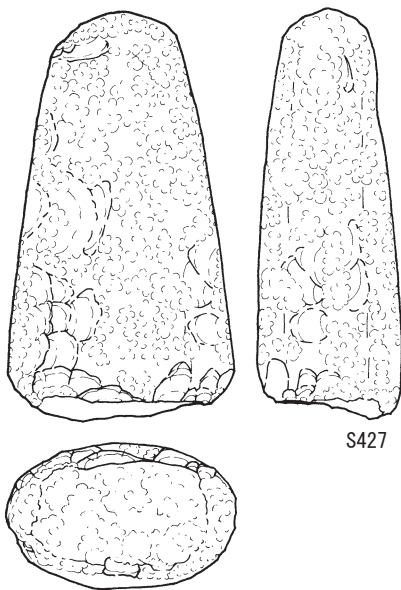
S497～501は刃部を欠損する。S497は、両面に剥離痕と敲打痕がわずかにあり、研磨によって仕上げられる。両面と側面の境が稜をなし、基部端には剥離がみられる。S498は、両面に敲打痕がみられ、研磨によって仕上げられる。やや短身である。正面の刃部剥離面が研磨されており、欠損後に研ぎ直されている。基部の側面と裏面の刃部に敲打痕がみられるため敲打具として転用された可能性がある。S499は、剥離成形後、敲打と研磨で整形される。両端に剥離と潰れがみられるため敲打具として転用されたと考えられる。



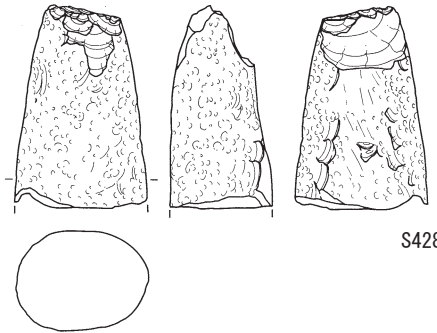
S425



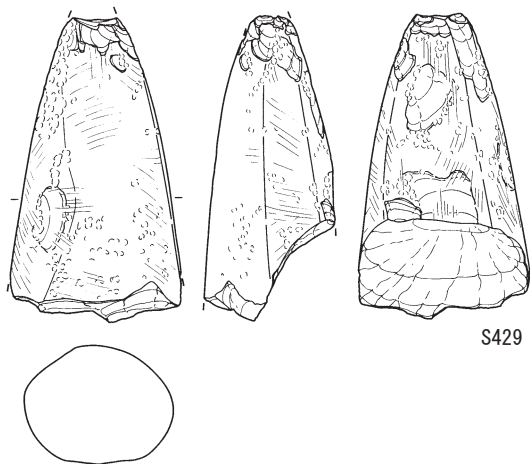
S426



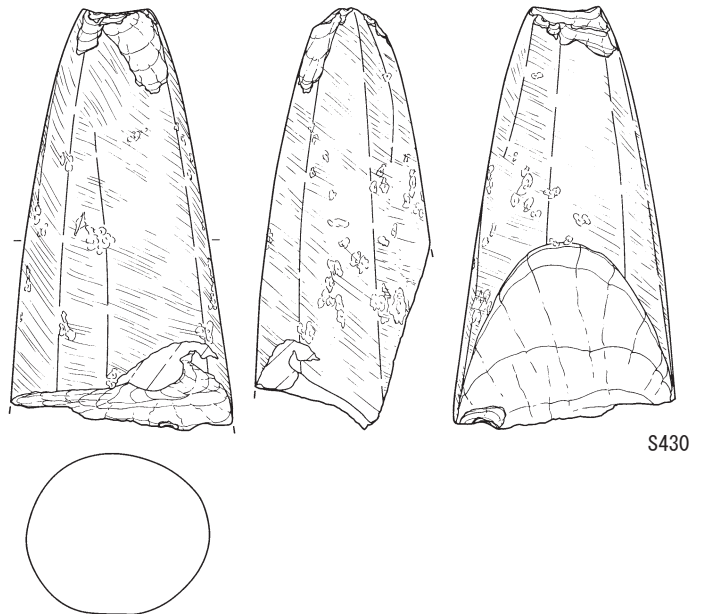
S427



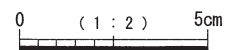
S428



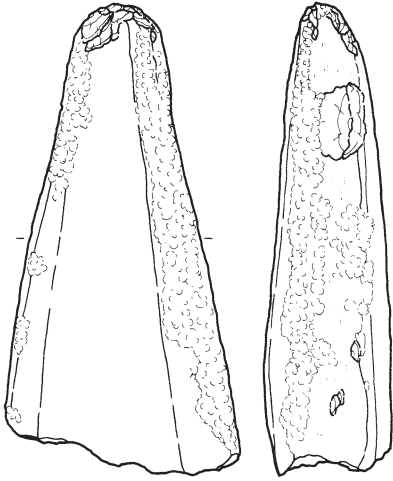
S429



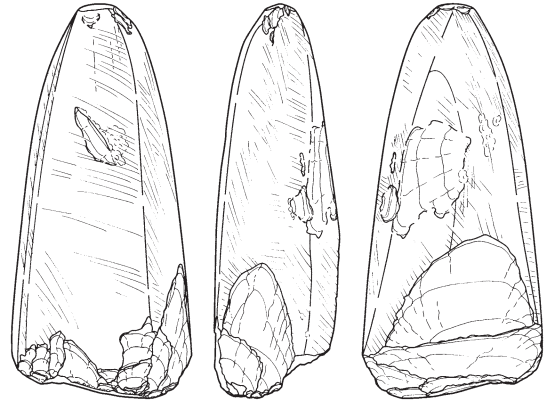
S430



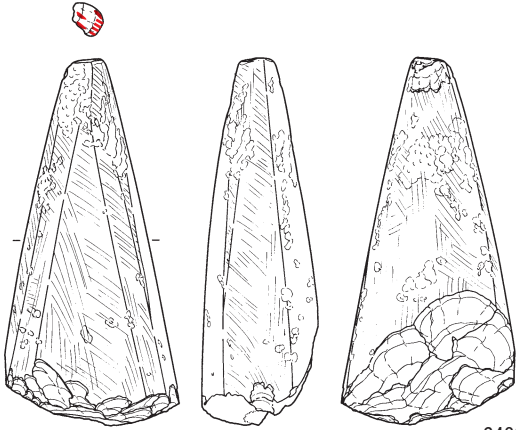
第2-152図 磨製石斧(1)



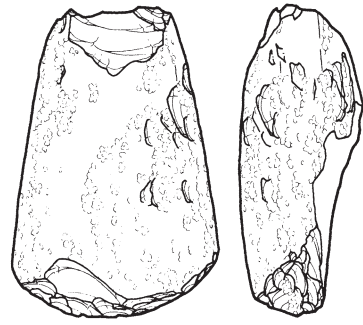
S431



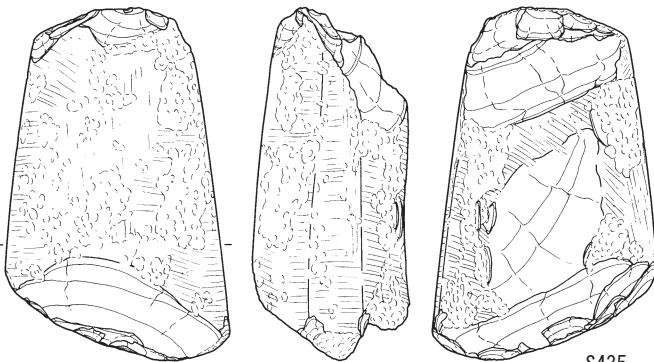
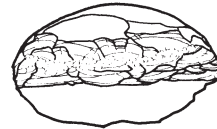
S432



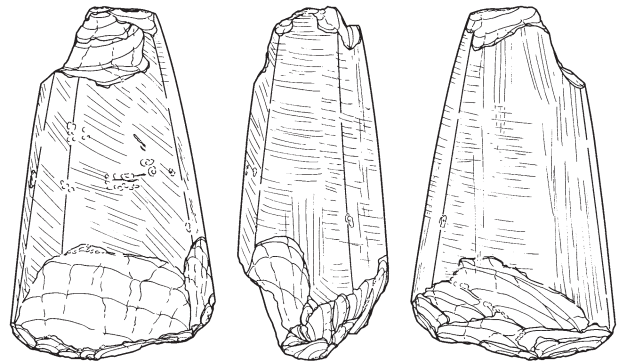
S433



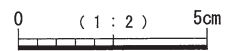
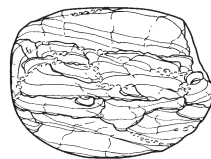
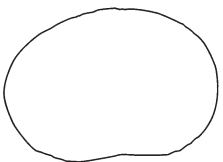
S434



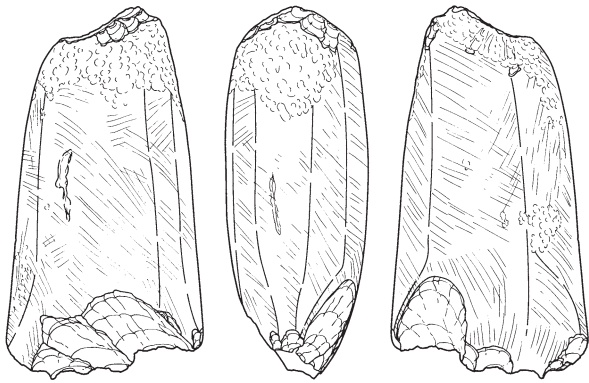
S435



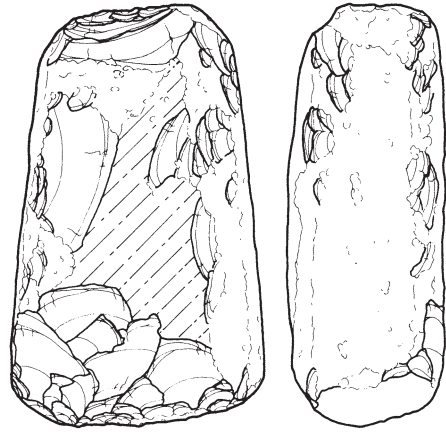
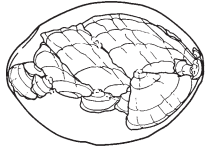
S436



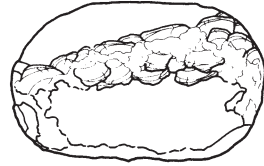
第2-153図 磨製石斧(2)



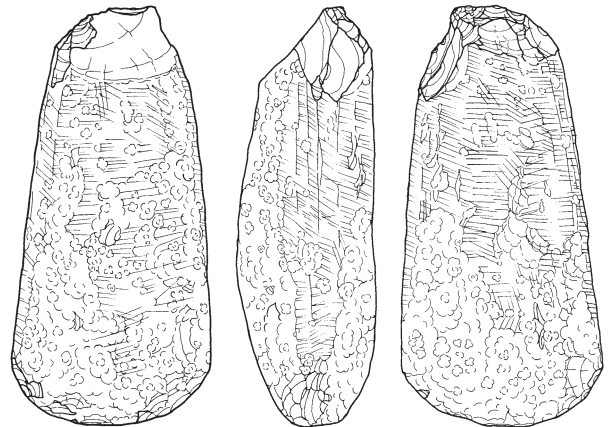
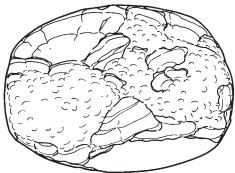
S437



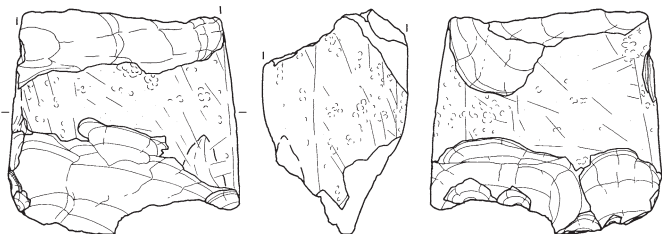
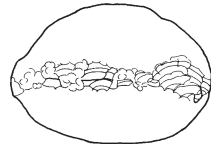
S438



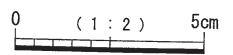
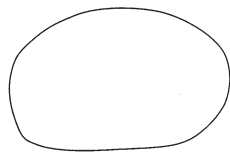
S439



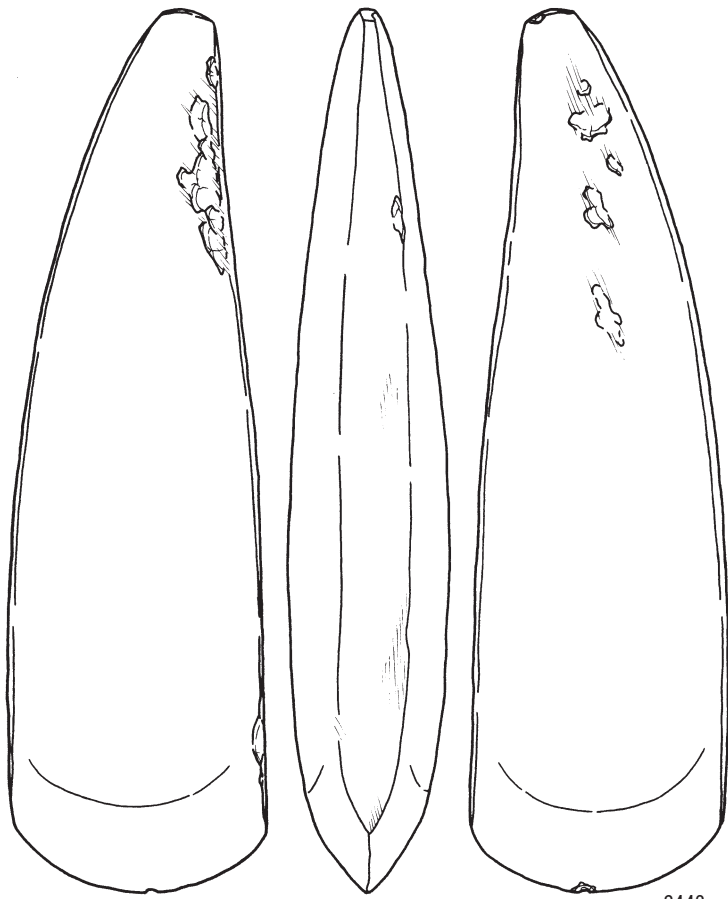
S440



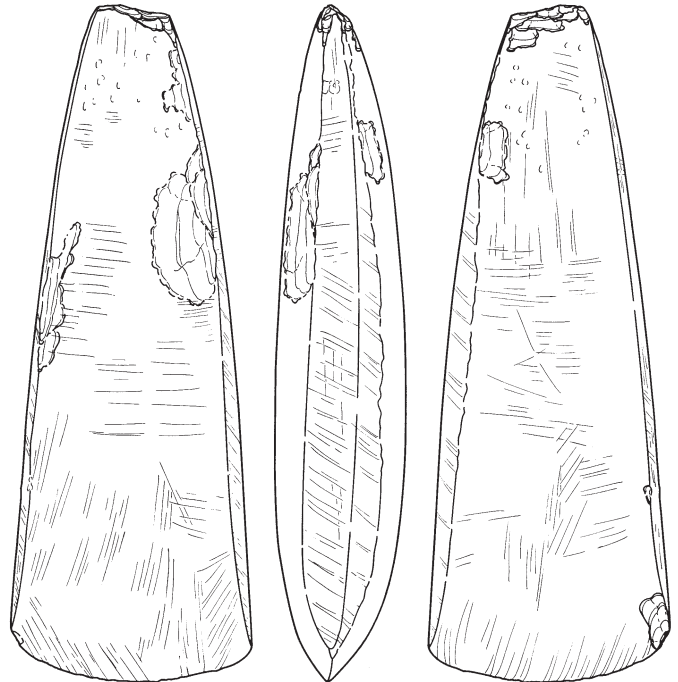
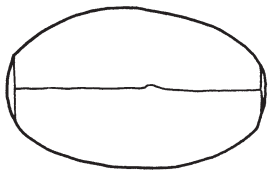
S441



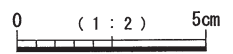
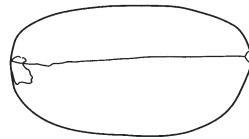
第2-154图 磨製石斧(3)



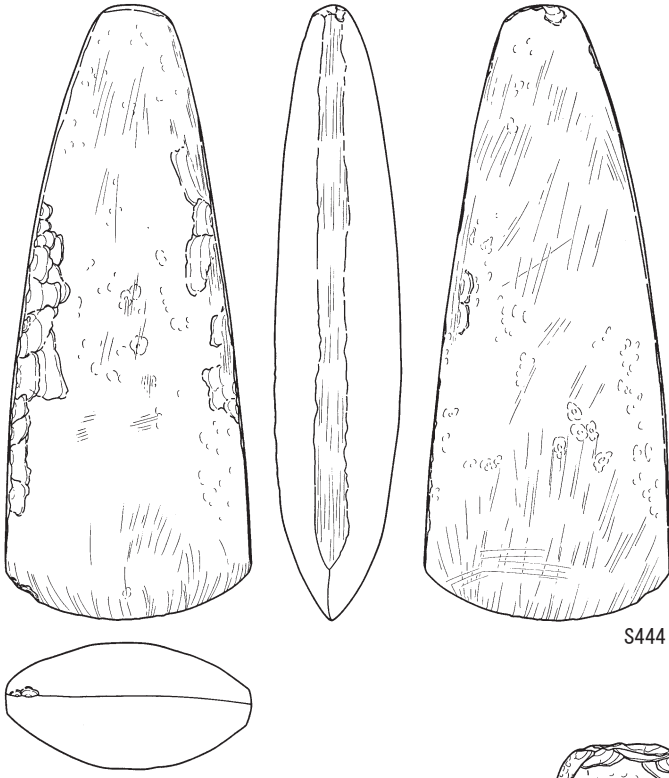
S442



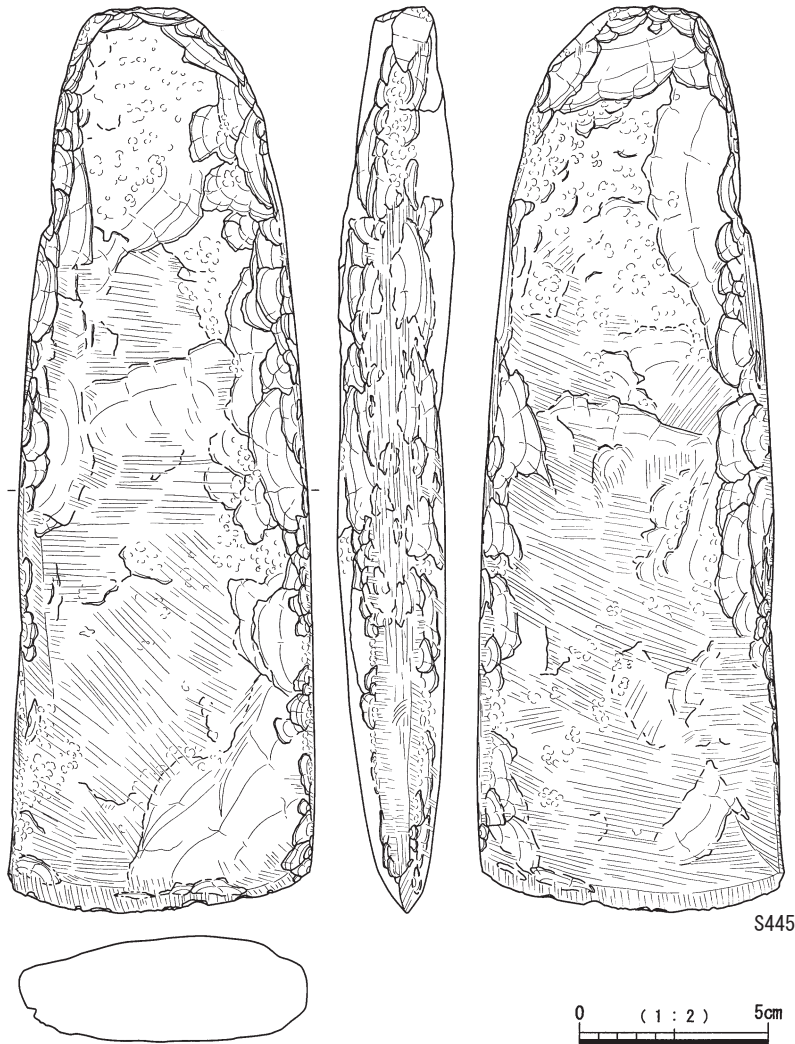
S443



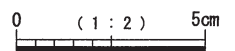
第2-155図 磨製石斧(4)



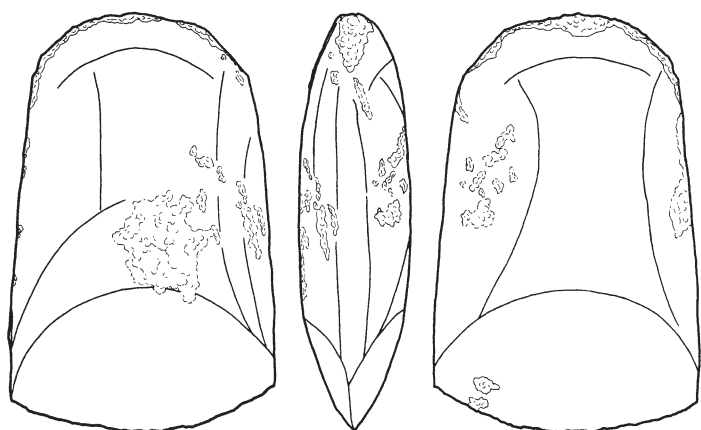
S444



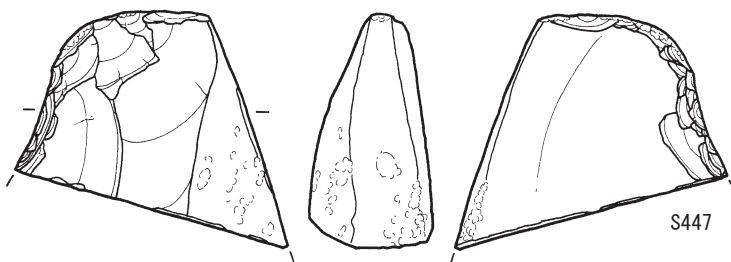
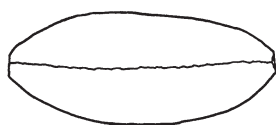
S445



第2-156図 磨製石斧(5)



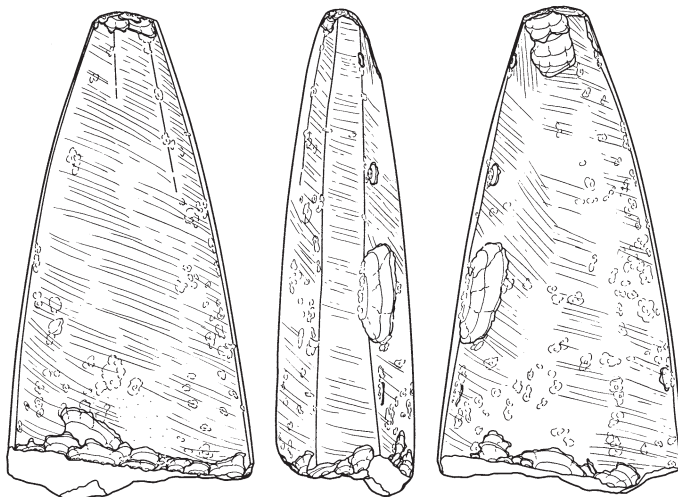
S446



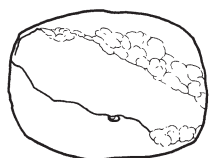
S447



S448



S449

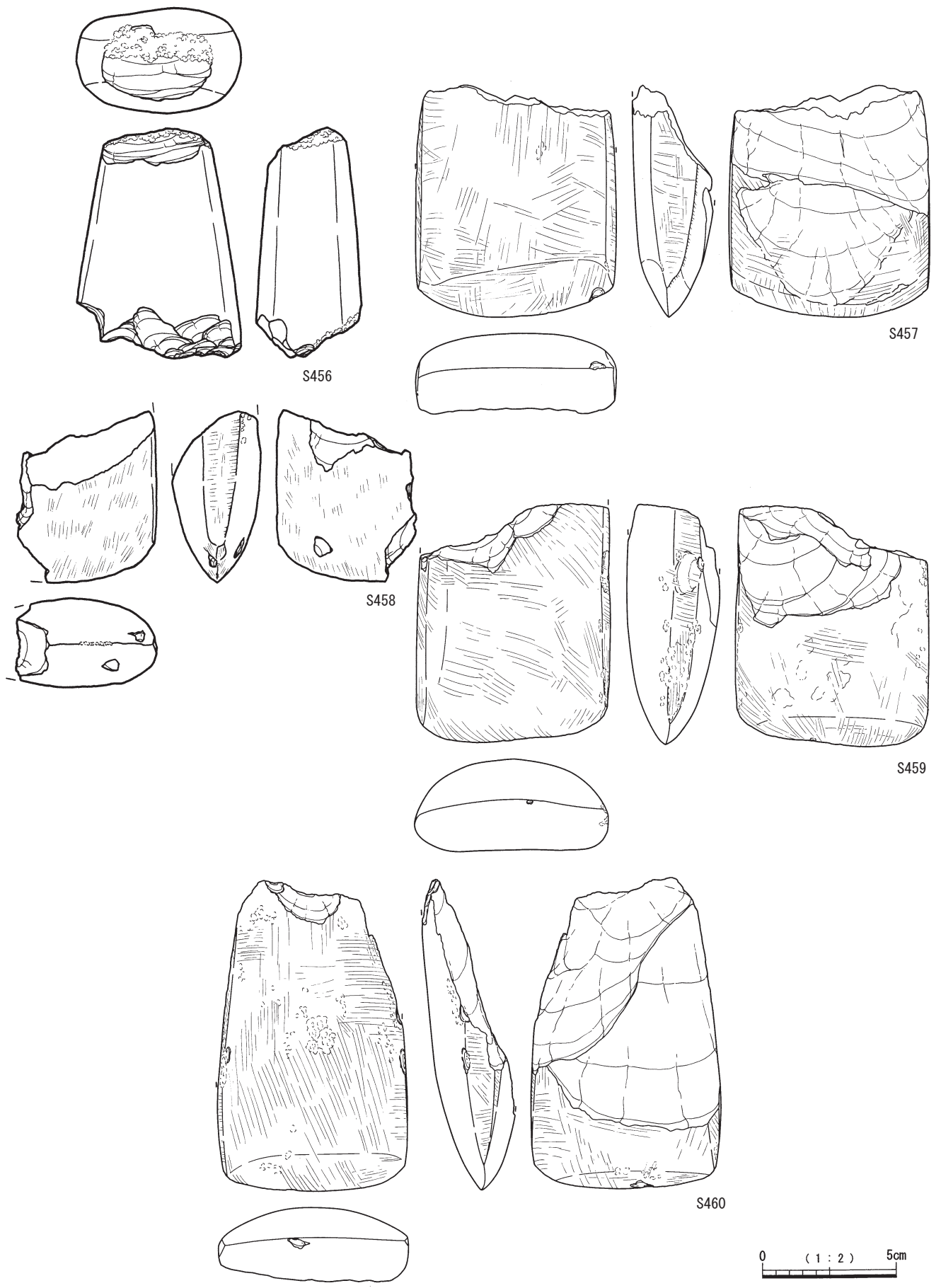


0 (1:2) 5cm

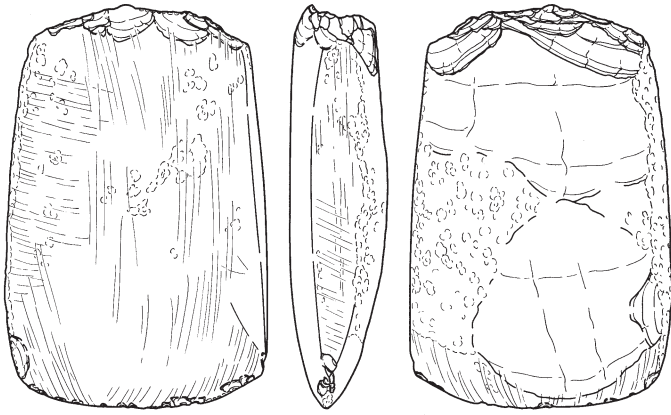
第2-157図 磨製石斧(6)



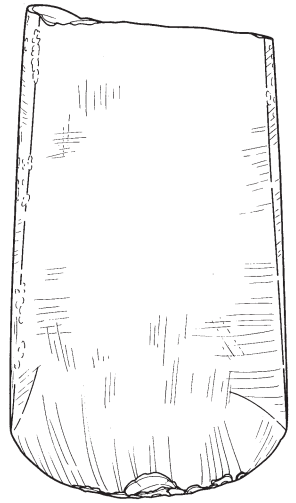
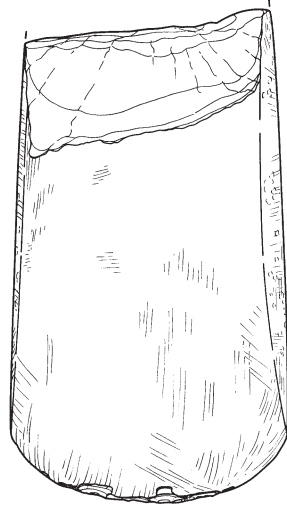
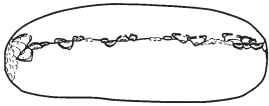
第2-158図 磨製石斧(7)



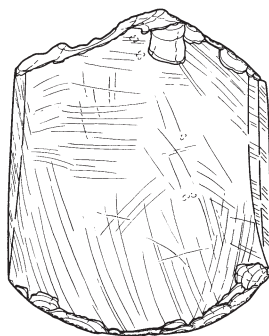
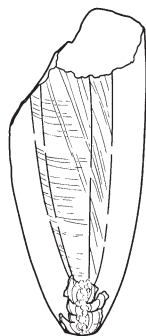
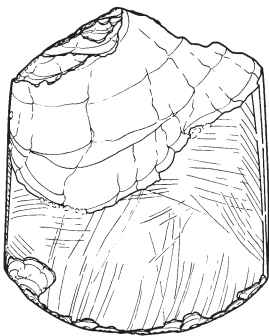
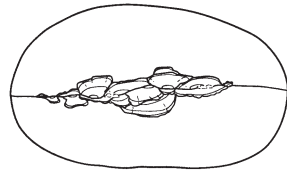
第2-159图 磨製石斧(8)



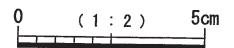
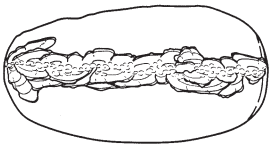
S461



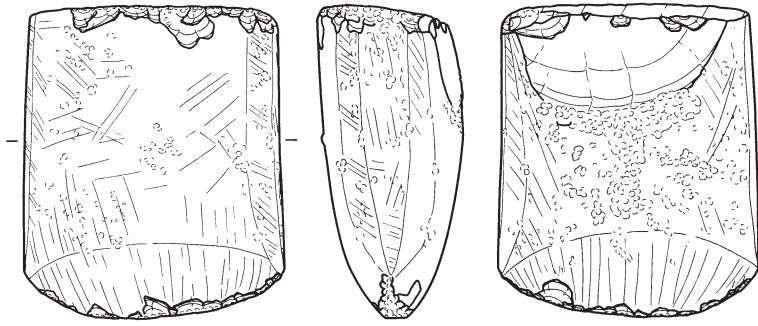
S462



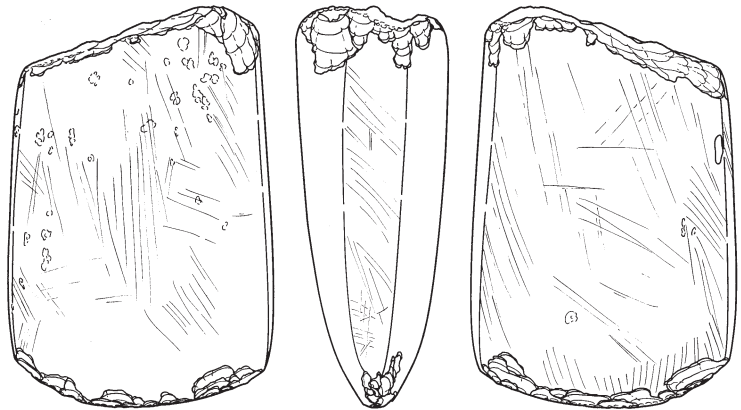
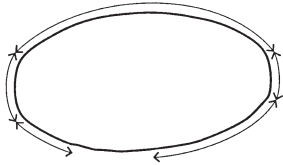
S463



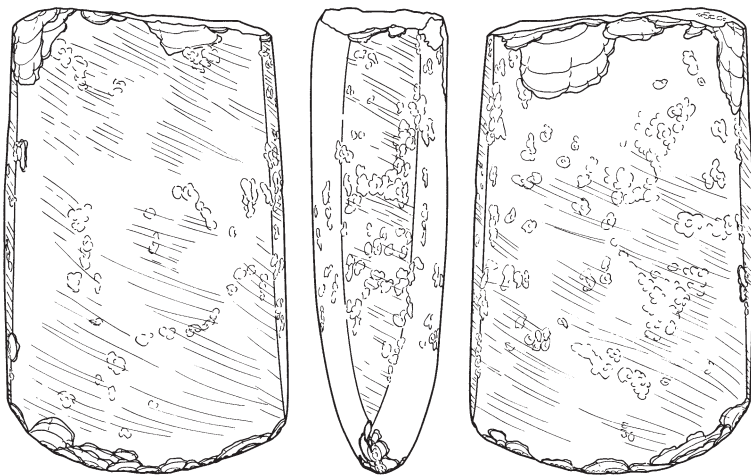
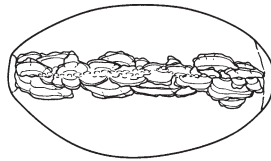
第2-160图 磨製石斧(9)



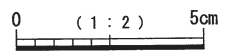
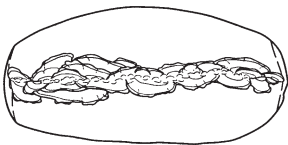
S464



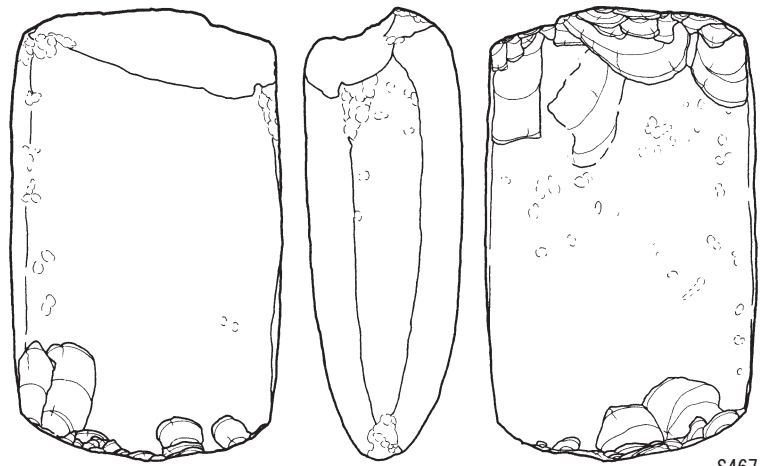
S465



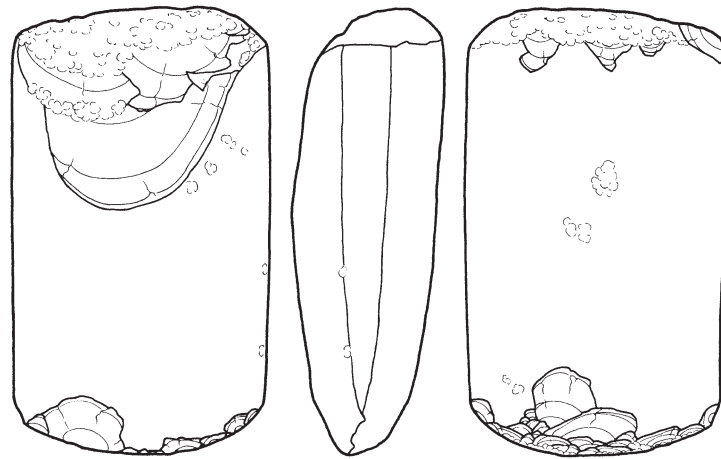
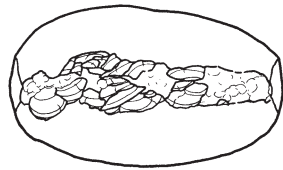
S466



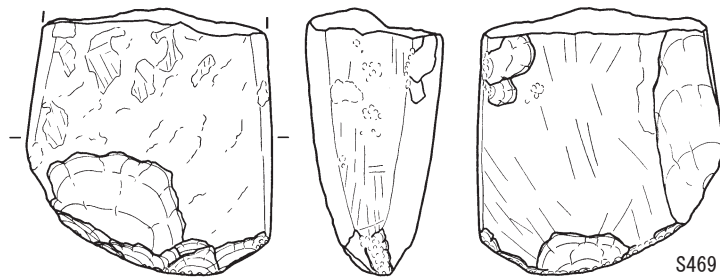
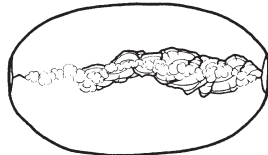
第2-161图 磨製石斧 (10)



S467



S468



S469

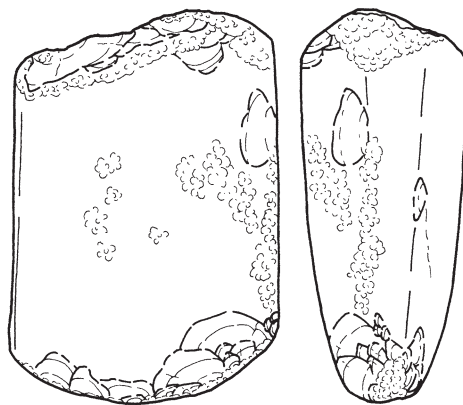


0 (1:2) 5cm

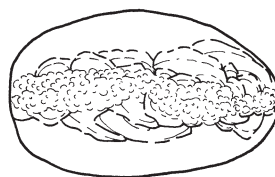
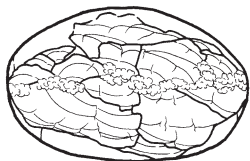
第2-162図 磨製石斧 (11)



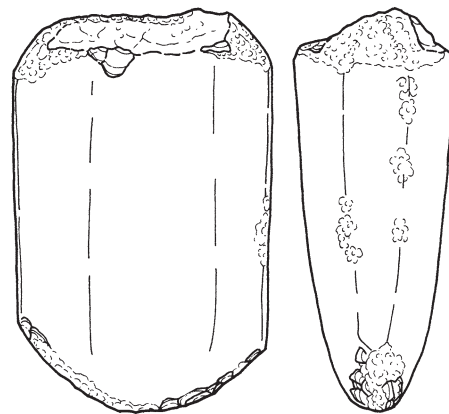
S470



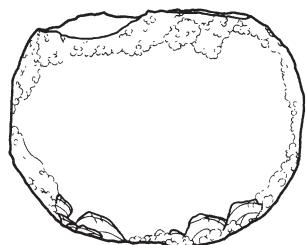
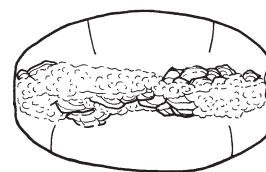
S471



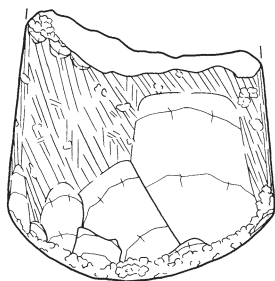
S472



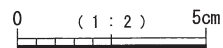
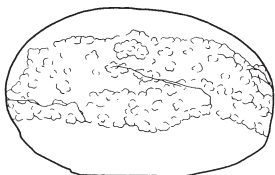
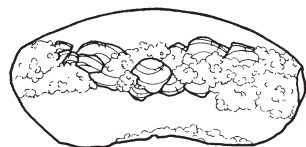
S473



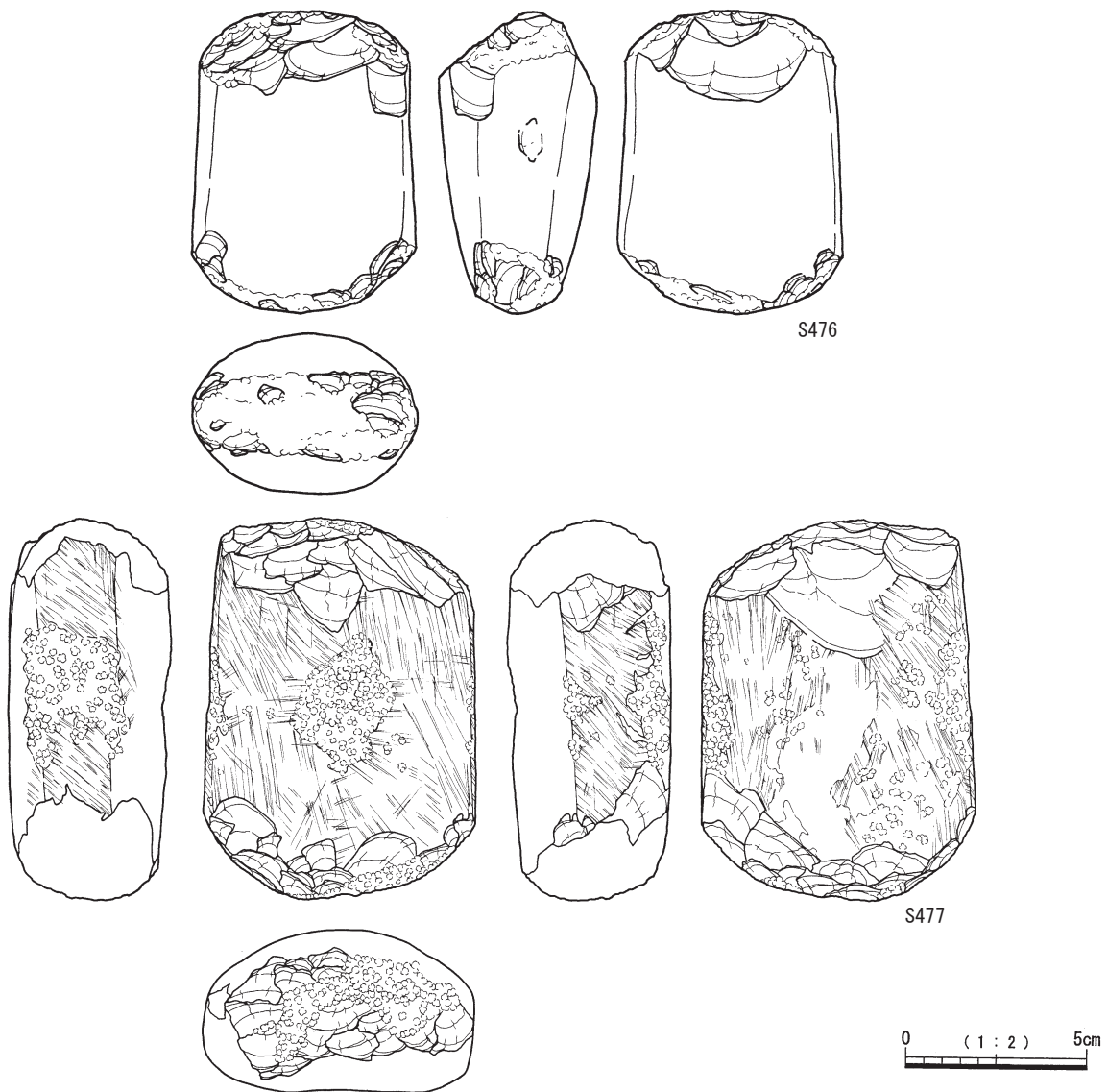
S474



S475



第2-163图 磨製石斧 (12)



第2-164図 磨製石斧 (13)

S500は、下半を欠損するが素材礫の形状をよく残す。正面下端に微細剥離と刃潰れがみられ、敲打具として転用されている。S501は、剥離成形されており研磨整形は目立たない。正面の右側面は研磨され両面の境が稜をなす。S502は、基部を欠損する。剥離成形後、研磨整形される。両面と側面の境が明瞭な稜をなす。刃部は直刃状で、正面は体部に向けて刃こぼれ状の剥離が延びる。S503は、基部と刃部を欠損しており、研磨で整形される。

S504～S507は、刃部片である。S504～S506は、研磨整形され、S504・S506は刃部端に使用による刃こぼれがみられる。

IV類は、S501・S506が頁岩B類製で、その他はすべてホルンフェルス製である。

V類 形状が楕円形や撥形、短冊形となり、断面は扁

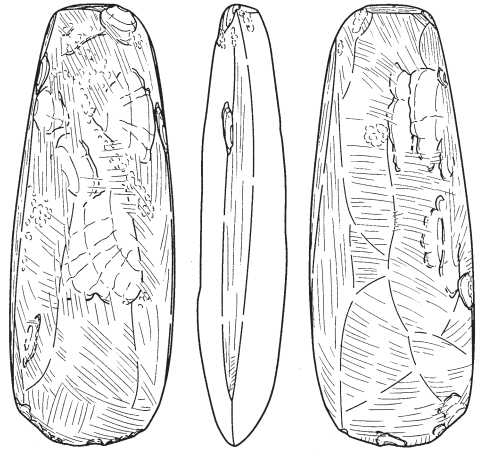
平な楕円形あるいは方形、円形となる。IV類より小型で加工具として使用された可能性のあるものである。いわゆる扁平片刃石斧や石鑿状のものを含む。

S508・S509は完形である。S508は、研磨整形され、刃部に微細な刃こぼれがある。磨製石斧IV類-S496に類似する。S509は、剥離成形後、敲打と研磨で整形される。

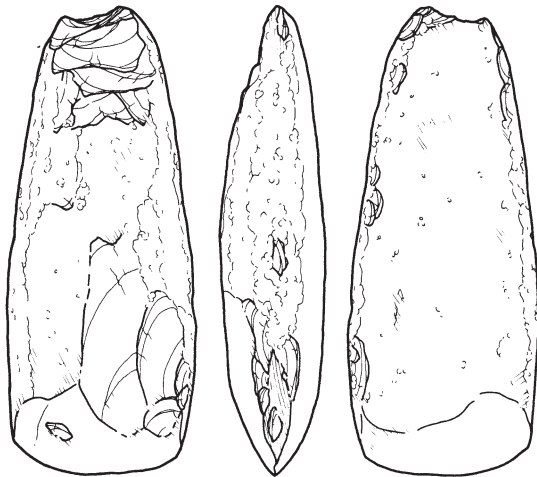
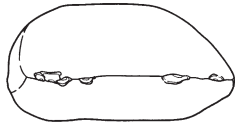
S510～S515は、基部を欠損する。S510は、剥離成形後、研磨整形され、両面と両側面の境が稜をなす。S511は、全面を研磨によって整形し、両面と両側面の境が明瞭な稜をなす。刃部は直刃状となる。S512は、剥離成形痕をよく残し、研磨整形される。正面と両側面の境が稜をなし、刃部には微細な刃こぼれがみられる。S513は、敲打整形痕がわずかにあり、刃部は直刃状で研磨整形が顕著である。



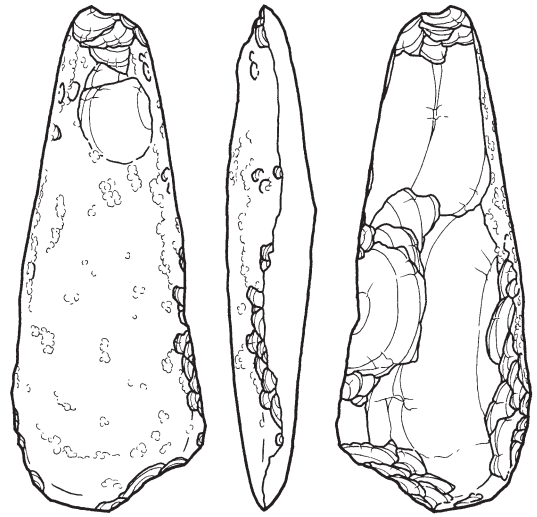
S478



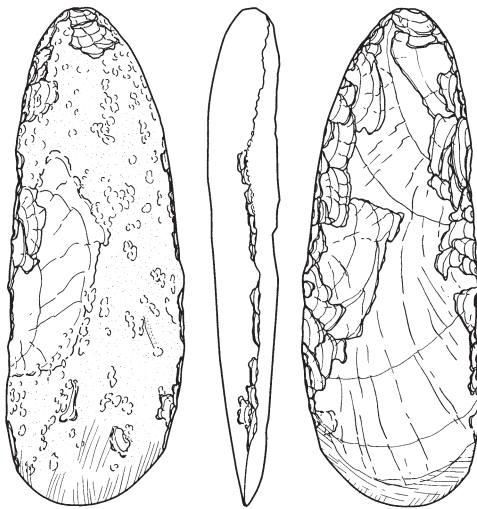
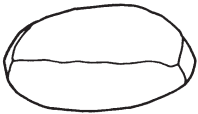
S479



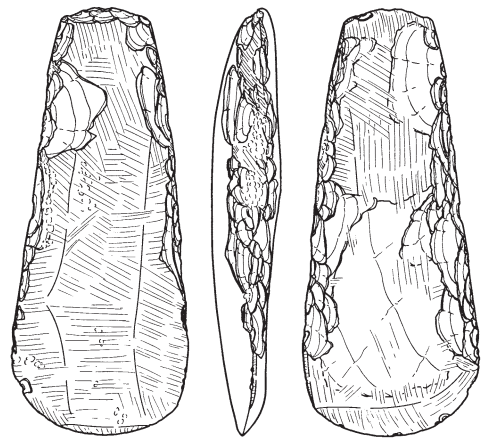
S480



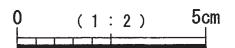
S481



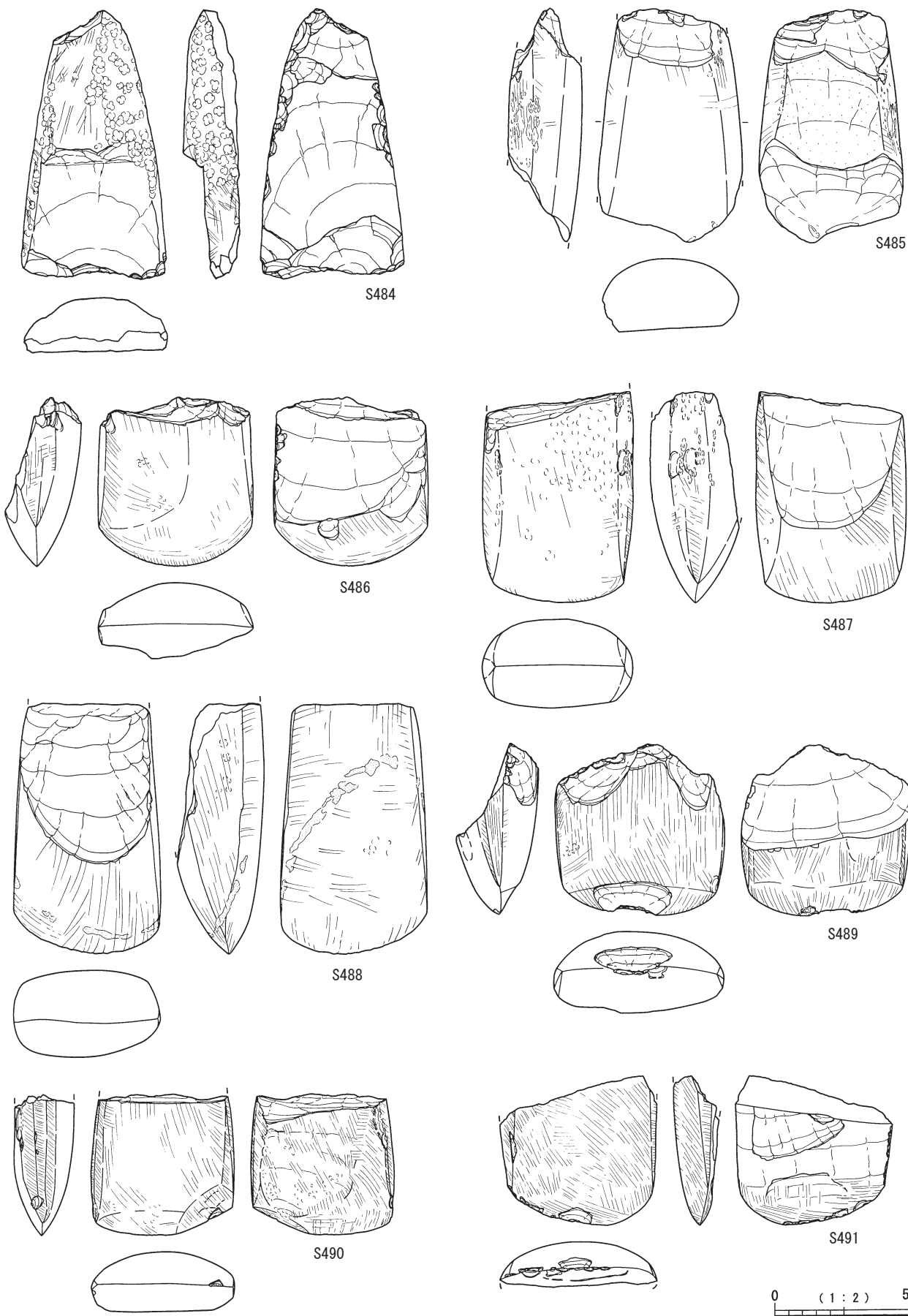
S482



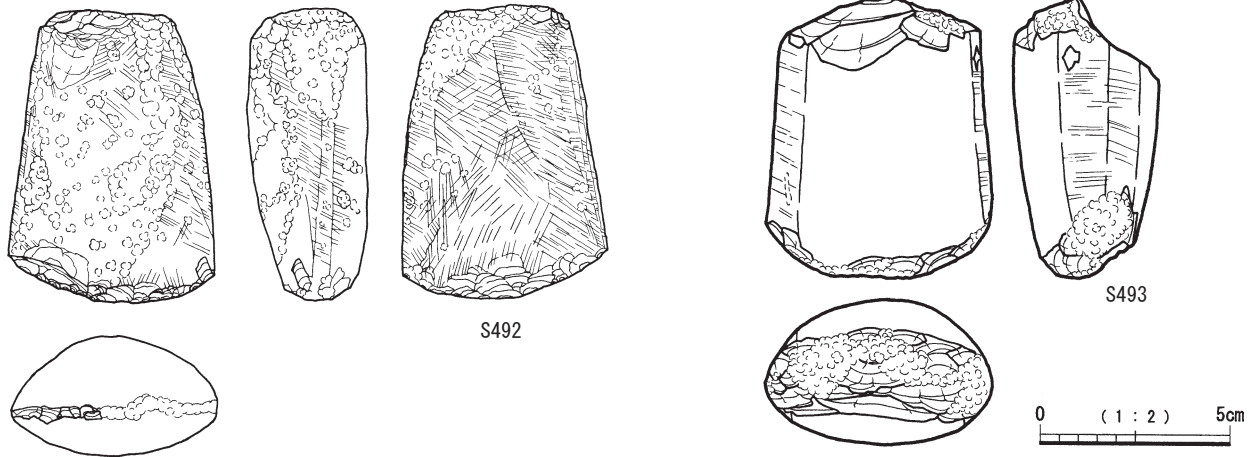
S483



第2-165图 磨製石斧 (14)



第2-166图 磨製石斧 (15)



第2-167図 磨製石斧 (16)

S514は、剥離成形後、研磨で仕上げられる。基部端と正面側の左側面に剥離がみられる。刃部の裏面を欠損し、刃部端に微細な刃こぼれがある。

S515は、敲打整形痕がわずかに残り研磨整形される。両面と両側面の境は明瞭な稜をなし、基部を欠損する。

S516は、刃部片である。両面に側縁からの剥離があり、刃部は直刃に研磨され微細な刃こぼれがみられる。

S517～527は、柱状のものである。S517～S520は、ほぼ完形である。S517は、敲打整形後、研磨で整形される。刃部は片刃である。S518は、剥離成形痕と敲打整形痕がわずかにあり、研磨で仕上げられる。両端に片刃の刃部が研ぎ出され、両端とも刃こぼれしている。S519は、剥離成形・敲打整形痕がわずかにあり研磨整形される。基部を欠損し、刃部は片刃である。S520は、剥離成形痕がわずかにあり、研磨整形される。両端に円刃で両刃となる刃部が研ぎ出され、両端とも刃こぼれしている。

S521は、刃部を欠損する。研磨整形され、基部端に微細剥離がみられる。S522は、基部から刃部に向けて幅が広がる。研磨整形され、基部先端と刃部を欠損する。S523は、敲打整形痕がわずかにあり、研磨によって仕上げられる。刃部は両刃の円刃となる。基部を欠損する。S524は、研磨整形され、刃部は両刃の円刃に研ぎ出されている。S525は、剥離成形後、研磨整形される。基部を欠損するが、上部に微細剥離がみられる。刃部は両刃で円刃状となる。S526は、体部～刃部片である。剥離成形痕がわずかにあり、研磨整形される。刃部は両刃で円刃状に研ぎ出される。S527は、研磨整形される。基部から体部を欠損する。刃部は片刃で直刃となる。

S528は、刃部を欠損する。研磨整形され器厚がとても薄い。

S529は、横長剥片を利用し、剥離成形後、研磨整形さ

れる。刃部を欠損後、二次加工が施される。S530は、剥離成形後、周縁からの剥離と研磨で整形する。両側縁と刃部に敲打痕がある。S531は、剥離整形され、正面と両側縁の中央に敲打痕がみられる。S532は、剥離成形痕をわずかに残し、全面が研磨整形される。基部及び刃部両端に剥離痕と剥離面を潰す敲打痕がみられる。敲打具に転用された可能性がある。

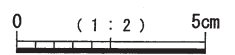
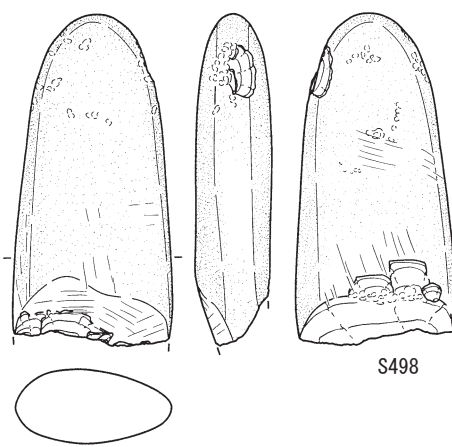
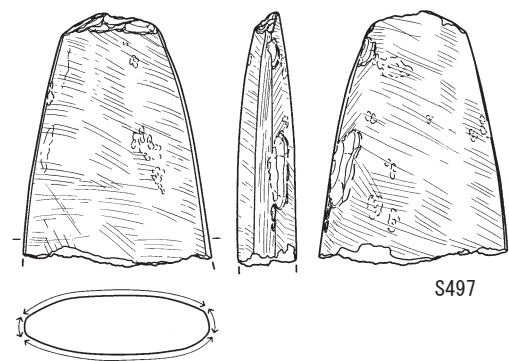
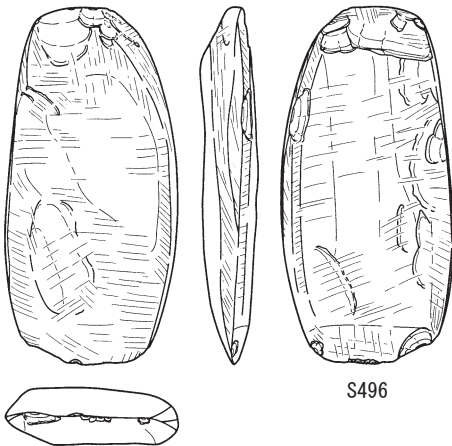
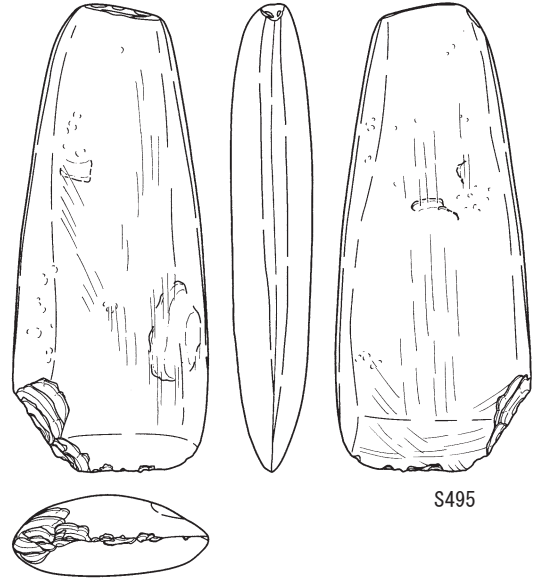
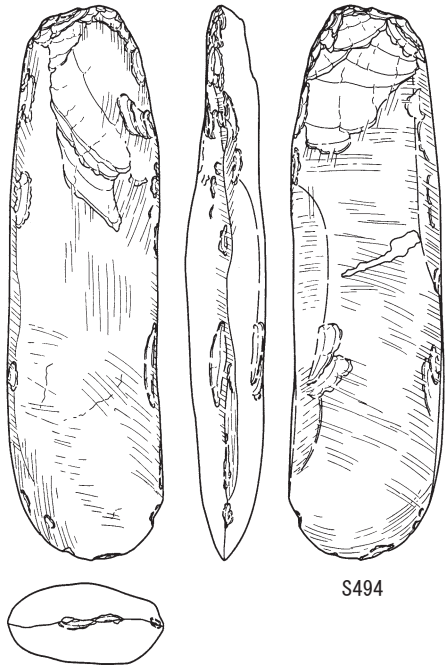
V類は、S529が頁岩B類製で、その他はすべてホルンフェルス製である。

VI類 S533～S549は、磨製石斧の欠損品である。破損の際に生じた破片と、破片に剥離や敲打、研磨によって調整されたものがある。楔形石器や敲石へ転用された可能性があるが欠損品としてまとめた。

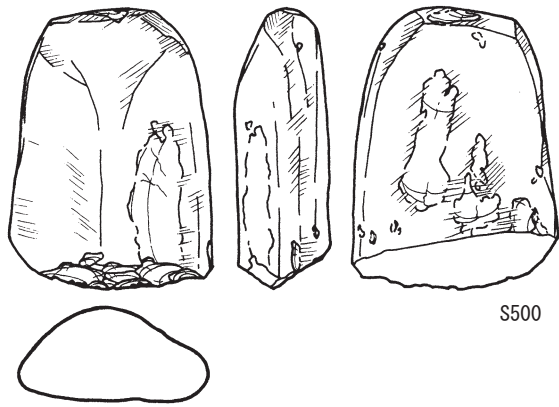
S533は、正面と側面に研磨整形痕があり、上端に剥離がみられる。S534・S535は、両端の両極に剥離がみられる。S536は、両面の左側縁と下端に剥離痕がある。S537・S538は、両面の周縁に剥離があり下端に敲打痕がみられる。S540は、裏面の先端に研磨によって刃部を整形する。下端に敲打痕がある。

S541～S545は、磨製石斧から剥離した破片に微細な剥離がみられるものである。S548・S549は、磨製石斧の破片である。

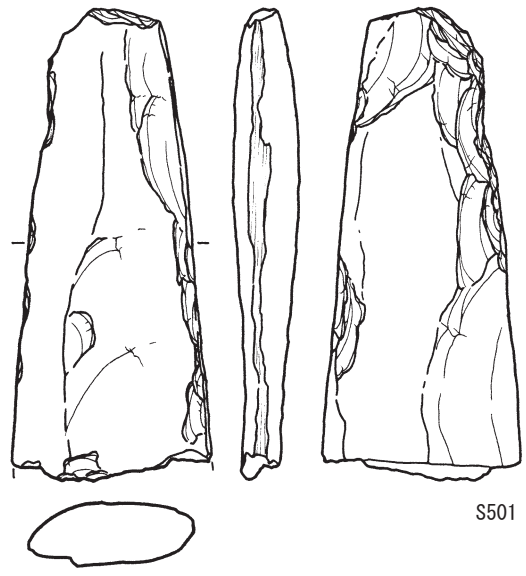
S538・S548は頁岩B類製、その他はすべてホルンフェルス製である。



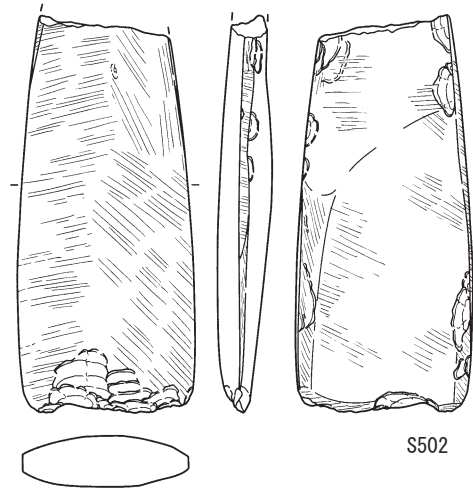
第2-168图 磨製石斧 (17)



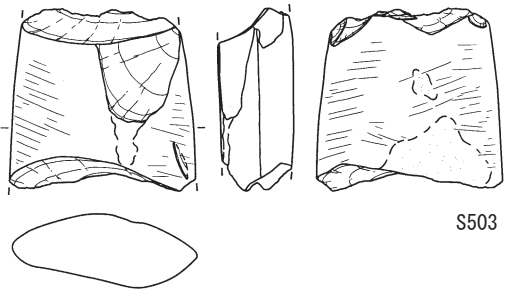
S500



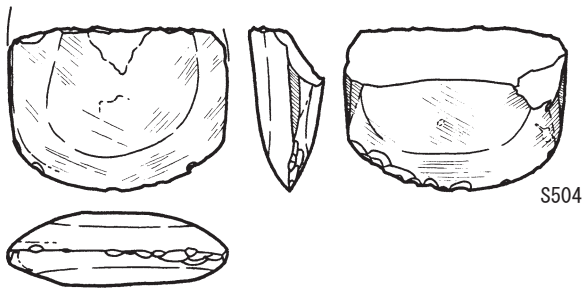
S501



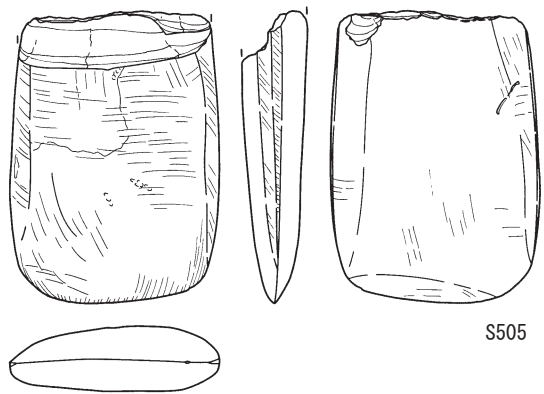
S502



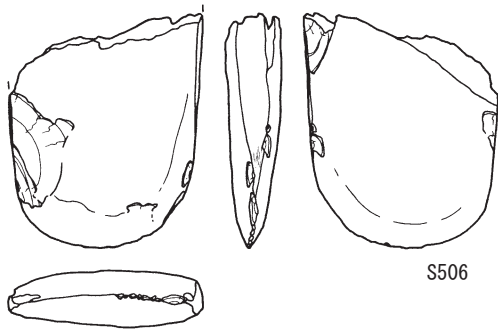
S503



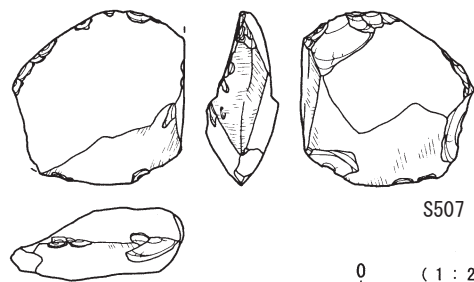
S504



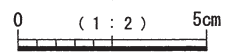
S505



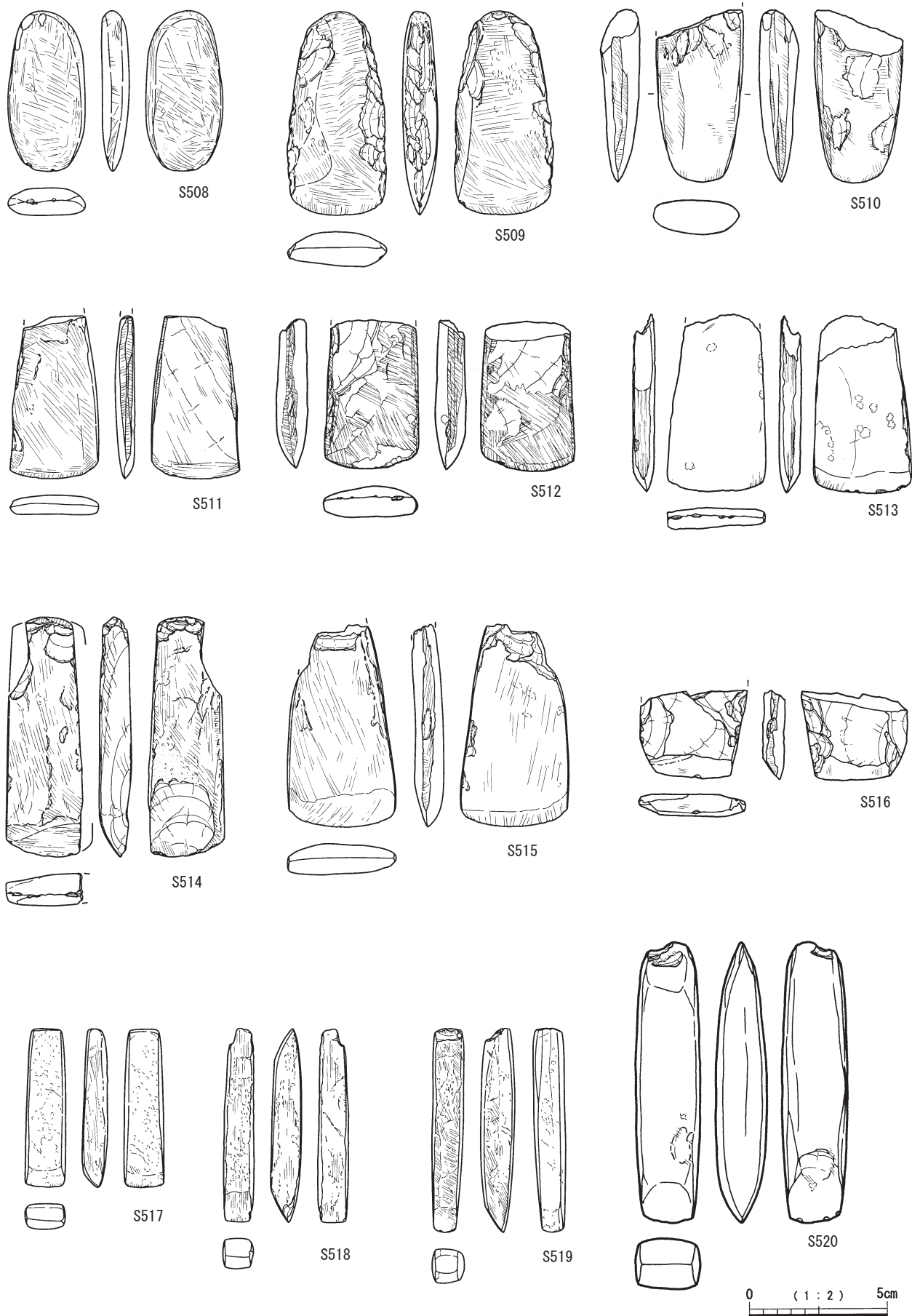
S506



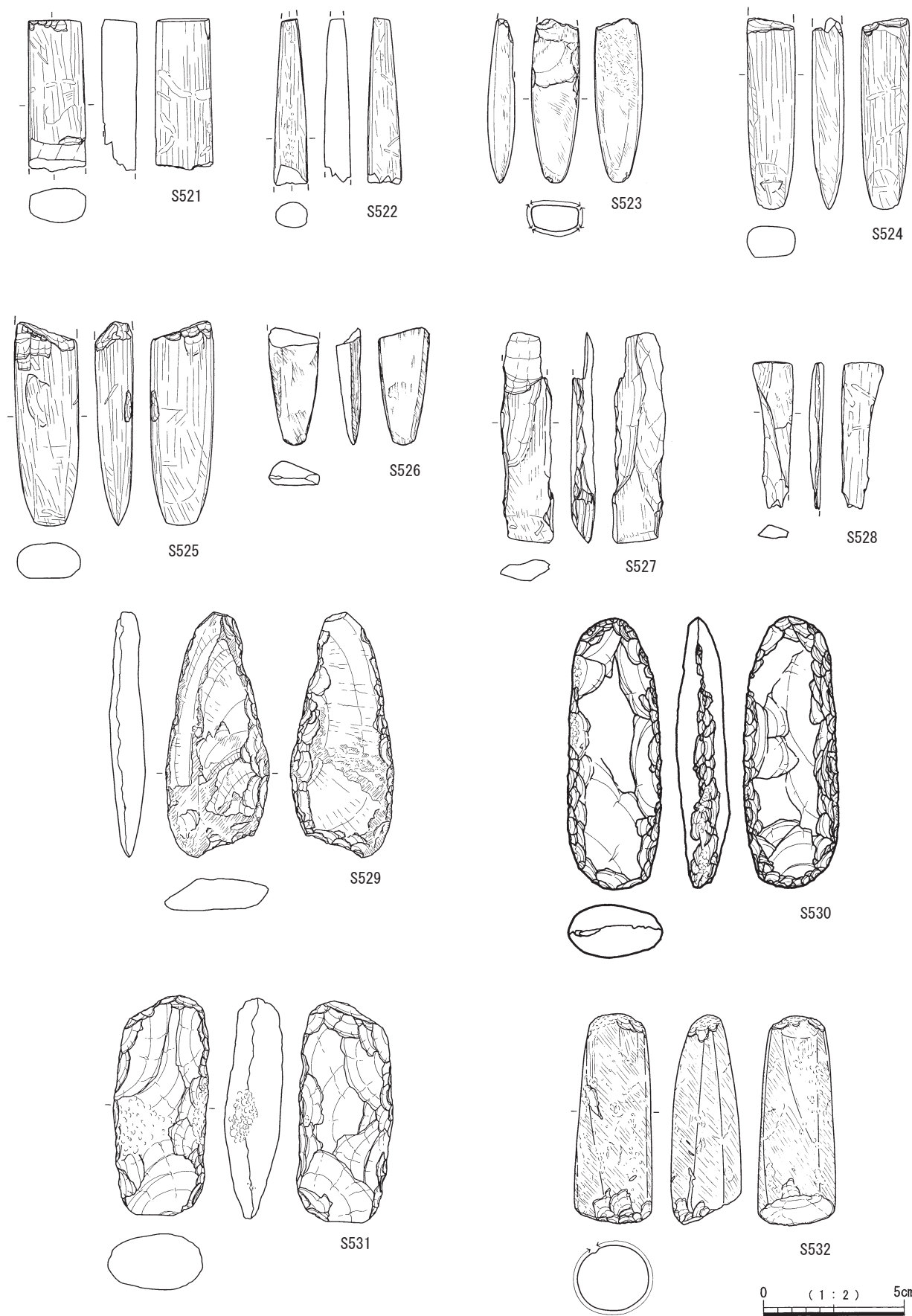
S507



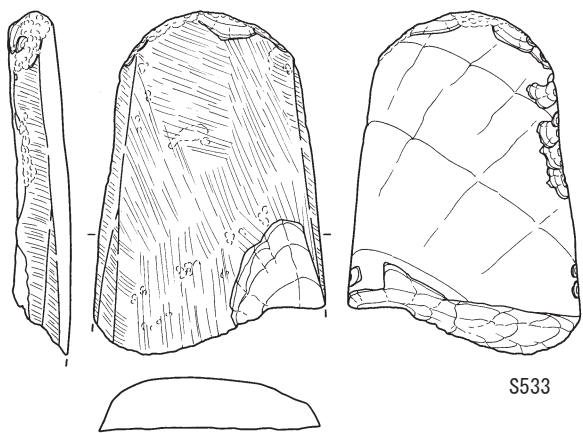
第2-169图 磨製石斧 (18)



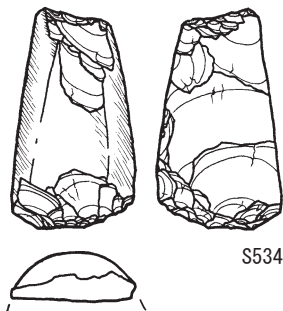
第2-170图 磨製石斧 (19)



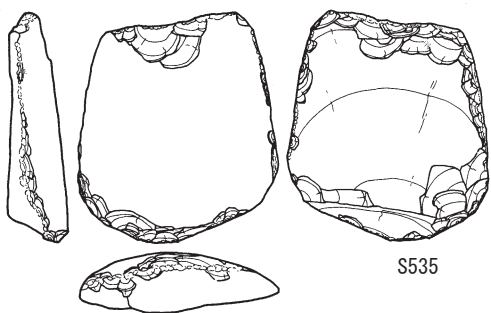
第2-171図 磨製石斧 (20)



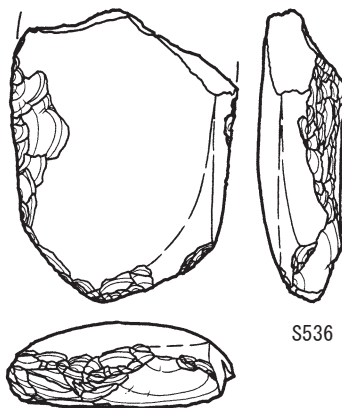
S533



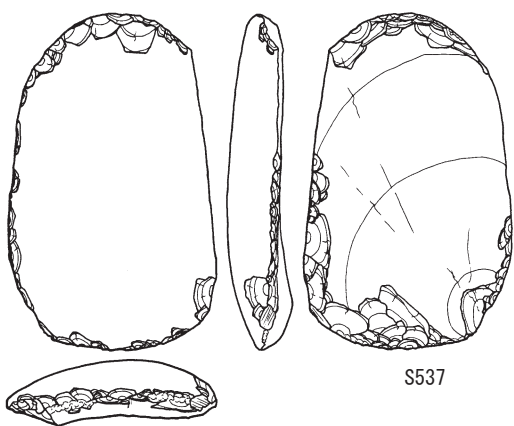
S534



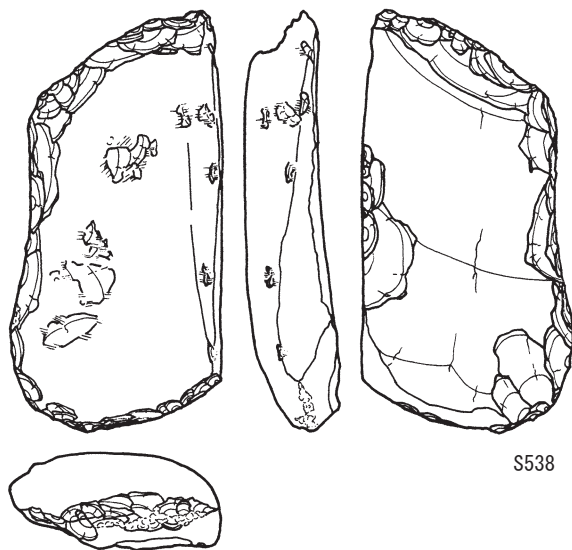
S535



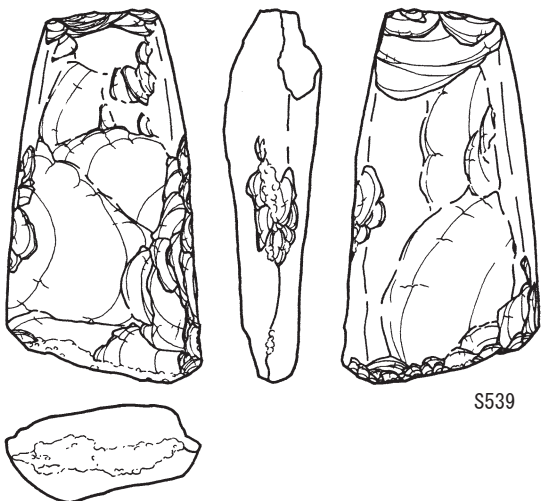
S536



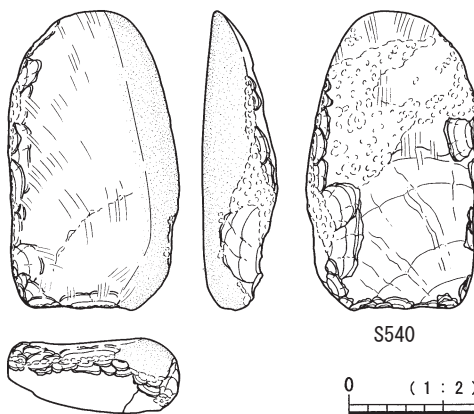
S537



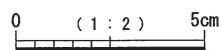
S538



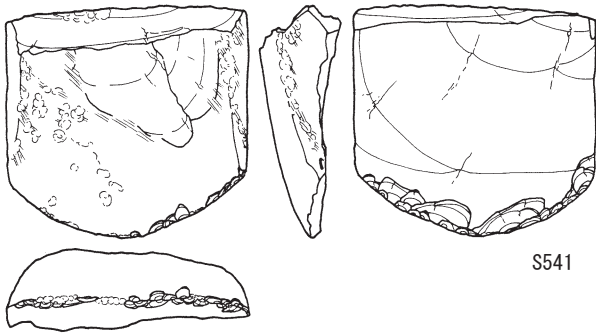
S539



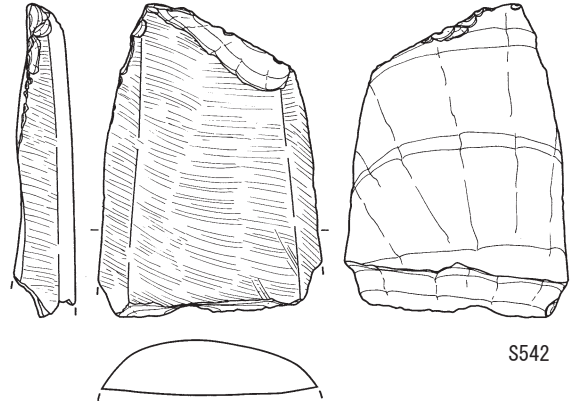
S540



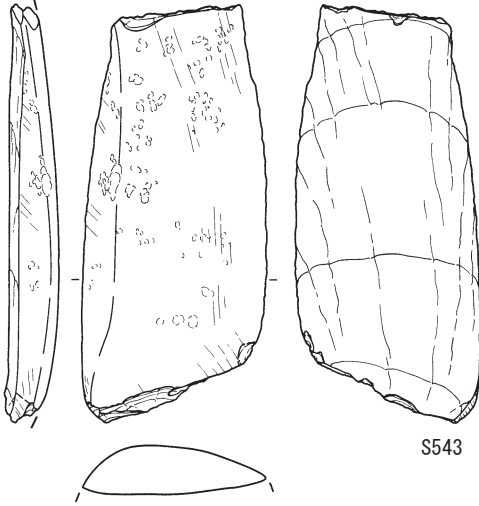
第2-172图 磨製石斧 (21)



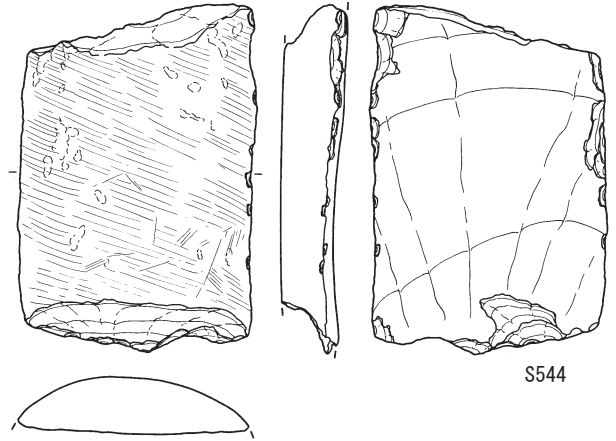
S541



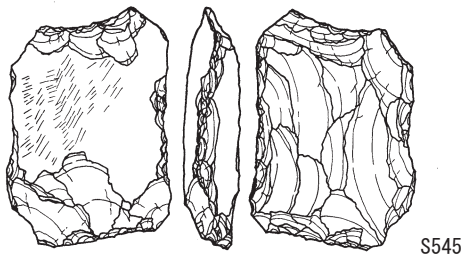
S542



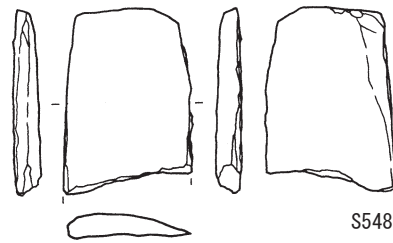
S543



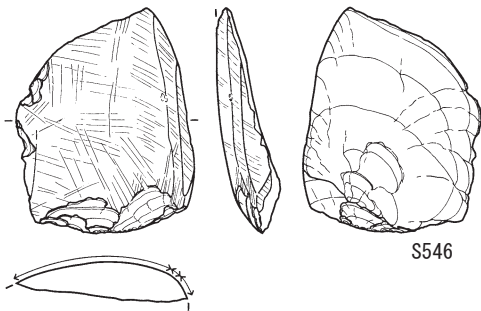
S544



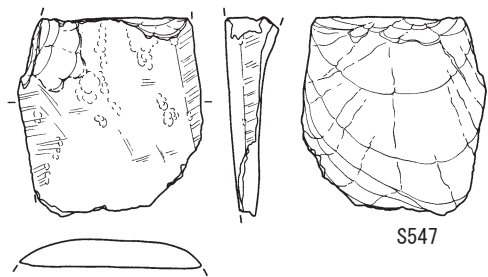
S545



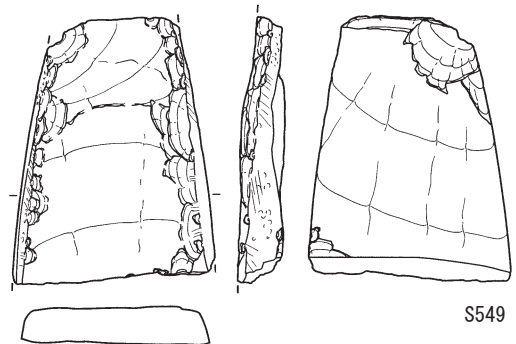
S548



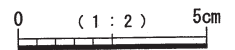
S546



S547



S549



第2-173图 磨製石斧 (22)

打製石斧（扁平打製石斧）

（第2-174図～第2-184図 S550～S597）

S550～S597は、打製石斧である。扁平な礫素材や剥片を利用し、周縁を剥離によって整形する。形状は、短冊形や撥形、いわゆる有肩石斧、ラケット形、杓文字状など多様である。形状によってⅠ類～Ⅳ類に分類した。

掲載遺物における出土層の内訳は、Ⅲ層2点、Ⅳa層15点、Ⅳb層30点である。

Ⅰ類 S550～S562は、基部の幅と刃部の幅に大きな差がなく、長方形に近い形状でいわゆる撥形や短冊形を呈する。刃部が研磨によって整形された局部磨製石斧の可能性もあるものも含む。

S550～S554は、完形である。S550は、周縁からの剥離整形後、体部下半から刃部、側面が研磨によって整形される。側面の一部に磨面がみられる。S551は、周縁からの剥離整形後、体部から刃部が研磨によって整形される。側面にわずかに研磨痕が残る。敲打整形痕はみられない。S550・S551は、局部磨製石斧の可能性はある。

S552・S553は、横長剥片を素材とし、周縁から剥離整形される。S552は、正面に自然面、裏面に主要剥離面を残す。刃部には使用による擦痕がみられる。

S554は、横長剥片を素材とし、周縁から剥離整形される。刃部には使用による潰れがみられる。S555は、縦長剥片を素材とし、周縁から剥離整形される。刃部を欠損する。

S556～S558は、刃部を欠損する。S556は、周縁から丁寧剥離整形される。S557は、横長の素材に対し周縁から剥離整形が行われ、正面の右側縁には刃潰しがみられる。S558は、やや厚みのある素材を剥離整形し、正面の左側縁と裏面の右側縁に丁寧剥離が集中する。製作途中で欠損した可能性がある。

S559は、横長剥片を素材とし、側縁から剥離整形される。左側縁の2か所、右側縁の1か所に刃潰し状の敲打痕がみられ、基部を欠損する。S560は、横長剥片を素材とし、側縁から剥離整形後、両側縁のやや括れた部分に刃潰しが施される。基部及び刃部を欠損する。

S561は、縦長剥片を素材とし、側縁から剥離整形後、両側縁のほぼ中央に刃潰し状の加工が施される。

S562は、横長の素材を利用し、側縁から剥離整形される。正面の左側縁には刃潰し状の加工がみられ、基部を欠損する。

Ⅰ類は、S560が頁岩B類製で、その他はすべてホルンフェルス製である。

Ⅱa類 S563～S570は、基部の幅と刃部の幅がほぼ同じか刃部がやや広く、基部から体部にかけて両側縁がわずかに括れるものである。先端の刃部から括れ部に至るまでの両側縁が使用部位と考えられる。

S563～S569は完形である。S563は、両側縁から丁寧

剥離整形される。刃部は剥離調整が疎かであるが研磨によって仕上げられ、刃こぼれ状の剥離がみられる。両側縁の浅い括れ部には敲打加工がみられ、基部を欠損する。S564は、横長剥片を利用し、周縁から剥離整形される。両側縁に浅い括れ部があり、敲打による刃潰しが施される。S565は、扁平な素材を利用したと考えられ、両面の一部に自然面が残存する。正面は両側縁のみ剥離整形され、裏面は大きな剥離によって自然面を除去した後、剥離整形が行われる。両側縁の浅い括れ部には敲打による刃潰しがみられる。S566は、周縁から全体を剥離によって整形後、両側縁に浅い括れ部がある。括れ部は敲打による刃潰し状の加工が顕著である。S563～S566は基部の左右両端が丸みをもつように整形される。

S567は、素材の厚みを減じるため大きな剥離によって成形後、周縁から丁寧に剥離整形される。両側縁の形状は対称ではないが、刃部先端に擦痕がみられることから使用されている。側縁の浅い括れ部には刃潰し状の加工が施される。S568は、横長剥片を利用し、周縁から全体が剥離整形される。両側縁の浅い括れ部にはわずかに刃潰し状の加工が行われる。

S569は、大きな剥離によって成形後、周縁から丁寧に剥離整形される。両側縁の浅い括れ部には刃部付近まで刃潰し状の加工が施される。刃部は研磨で整形され直刃状となる。S567～S569は、基部の左右両端が角をもつように整形される。S570は、刃部が欠損したと考えられるものである。

Ⅱa類は、すべてホルンフェルス製である。

Ⅱb類 S571～S577は、基部の幅と刃部の幅がほぼ同じか刃部がやや広く、基部から体部にかけての両側縁が深く括れるものである。いわゆる有肩石斧である。先端の刃部から括れ部に至るまでの両側縁が使用部位と考えられる。

S573～S576は、刃部に刃こぼれや欠損による剥離がみられるがほぼ完形である。S571・S572は、横長剥片を利用し、周縁を剥離整形する。両側縁の深い括れ部には、敲打によって刃潰し状の加工が施される。基部の左右両端が丸みをもつように整形される。S573は、周縁全体を丁寧に剥離整形し、両側縁にやや深い括れ部をもつ。括れ部には敲打による刃潰し状の加工がみられる。S574は、両面とも成形剥離がよく延び、周縁から剥離整形する。両側縁のやや深い括れ部には敲打による刃潰し状の加工が施される。刃部には刃こぼれの剥離がみられる。S575は、両面とも成形剥離がみられ、周縁から剥離整形する。正面の一部に自然面が残存する。両側縁の括れ部には敲打による刃潰しが施され、刃部を欠損する。側縁下部に使用に伴う擦痕がみられる。S576は、横長剥片を利用し、周縁を剥離によって整形する。基部端と両側縁の括れ部に敲打による刃潰し状の加工が行われる。S577は、両面

に成形剥離痕がみられ、正面に自然面が残存する。成形後、周縁を剥離によって整形する。両側縁の括れ部から刃部にかけて敲打による刃潰し状の加工がみられる。

Ⅱb類は、すべてホルンフェルス製である。

Ⅲ類 S578～S584は、幅の狭い基部に対し刃部の幅が広く、形状がいわゆるラケット形や杓文字状となるものである。先端の刃部から基部に至るまでの両側縁が使用部位と考えられる。

S578～S580は、ラケット状のものである。S578は、横長剥片を利用し、基部は大きな剥離で成形される。基部の両側縁に敲打による刃潰しが施される。刃部を欠損するが、両面とも刃こぼれの剥離がみられる。S579は、横長の素材を利用し、両面の周縁を剥離整形する。基部の両側縁には敲打による刃潰しが施される。刃部を欠損後、剥離調整を行い刃部を再加工する。靴形に見えるが、本来はラケット形であったと考えられる。刃部の両面に使用による擦痕がみられる。S580は、横長剥片を利用し、基部は大きな剥離で成形される。基部の両側縁には敲打による刃潰しがみられる。刃部を大きく欠損する。

S581～S584は、杓文字状のものである。S581は、完形である。横長剥片を利用し、正面の左側縁と裏面の両縁から大きな剥離によって成形後、周縁を丁寧に剥離整形する。S582は、基部を正裏両側縁から剥離整形し、側縁部には刃潰しがみられる。基部の裏面にやや光沢があり装着痕の可能性はある。刃部には使用による擦痕がみられる。S583は、横長剥片を利用し、周縁から大きな剥離で成形後、丁寧に剥離整形される。基部の両側縁には敲打による刃潰しが行われる。S584の刃部は使用によって短くなったと考えられ、直刃状で両面全体に擦れがみられる。基部を欠損する。

Ⅲ類は、584が頁岩B類製で、そのほかはすべてホルンフェルス製である。

Ⅳ類 S585～S597は、Ⅰ～Ⅲ類の基部や刃部片、不明な欠損品、他器種に転用されたと考えられるものや打製石斧の未製品である。

S585～S588は、基部片である。S585・S587はⅢ類、S586はⅡb類、S588はⅡa類に該当する。S589・S590は刃部片でⅡb類またはⅢ類に該当する。S591は、正面に自然面、裏面に主要剥離面が残存する。未製品の可能性がある。

S592～S594は、他の石器に転用された可能性のあるものである。S592は、基部を欠損し、全長が短い刃部を丁寧な研磨によって整形しており、中央部に挟りがあることから局部磨製石斧の可能性はある。挟り部を利用して石錘に転用された可能性も残る。S594は、刃部を欠損後、剥離調整を行い刃部を再形成している。S596は、剥離成形後、両側縁を剥離によって整形し刃部としている。側縁端には敲打による刃潰しがみられる。横刃型石器へ

転用された可能性もある。S595・S597は、打製石斧の未製品である。Ⅳ類は、S585は頁岩B類製で、その他はすべてホルンフェルス製である。

礫器（第2-185図・第2-186図 S598～S610）

S598～S610は礫器である。基本的に扁平で角の取れた礫の一端に剥離調整を行い、両刃もしくは片刃の刃部を成形するものである。

掲載遺物における出土層の内訳は、Ⅲ層2点、Ⅳ層1点、Ⅳb層7点、Ⅴ層2点である。

S598は、磨製石斧の刃部片を利用したと考えられる。剥離調整を行い、両刃の刃部を再加工している。使用痕がみられる。S599は、両面と上面に研磨痕がみられる。断面形は逆三角形を呈し、刃部側を上天地逆で据えた場合、石冠のような形状となるが、砥石から転用したものと考えられる。刃部に敲打痕がみられる。

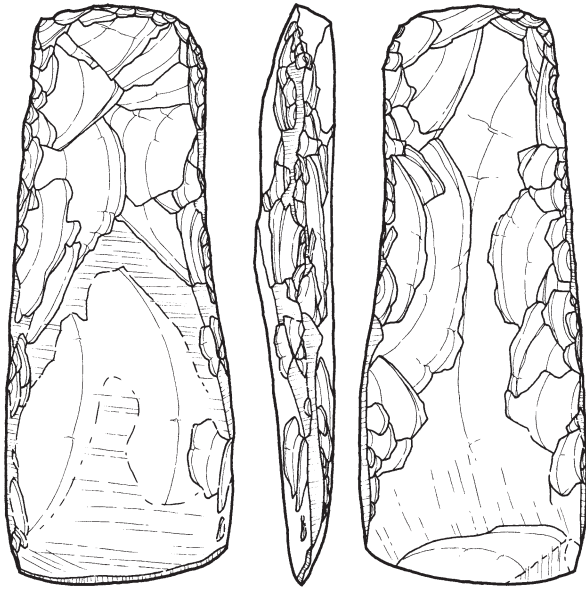
S600～S604は、片面にのみ剥離調整を行い、刃部を成形する片刃のものである。

S600は、刃部が小さい剥離によって整形され、側面は両面とも横方向からの剥離で成形される。

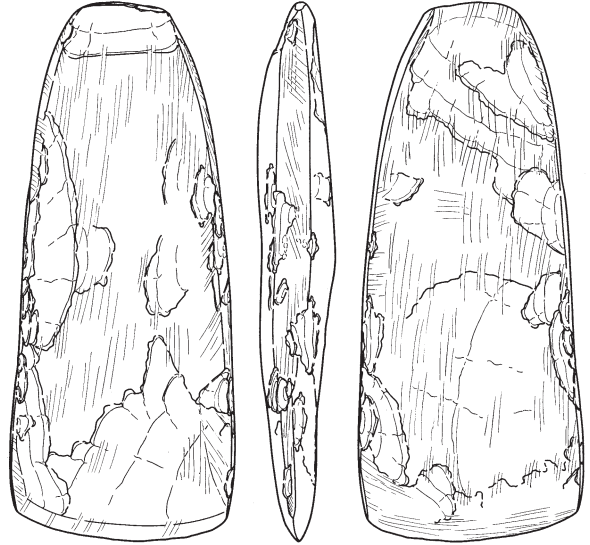
S601は、正面下端から右側面が刃部となる。正面下端は大きな剥離による成形後、細かい剥離が施される。正面の右側面から裏面の左側面にかけて敲打痕がみられ、両面には擦痕がある。S602は、裏面下端を大きな剥離で成形後、幅が狭く連続する細かい剥離によって整形される。S603は、裏面下端を幅の広い剥離によって刃部を整形する。S604は、素材となる礫の長軸の一端に剥離加工を施し、片刃の刃部としており、刃部端に微細な剥離がみられる。

S605～S610は、両面に剥離調整を行い、両刃となる。S605は、分割礫を素材とし、両面の下端に剥離調整によって刃部を整形する。刃部には敲打痕がある。S606は、礫から剥出した剥片を素材とする。正面は右側縁と下縁に大きな剥離、下縁に微細な剥離がみられる。裏面は右側縁から下縁にかけて微細剥離がみられる。S607は、正面と裏面の一部を大きな剥離で成形後、微細な剥離で刃部を整形する。S608は、刃部整形の剥離調整が正面下端は幅広の剥離が連続するのに対し裏面は部分的である。S609は、両面の下端に剥離調整によって刃部が整形され、刃部には敲打痕がみられる。S610は、正面の刃部が幅広の剥離と微細な剥離で整形される。裏面は下縁と左側縁が剥離調整によって整形される。左側縁の上半は大きな剥離によって厚みを減じている。

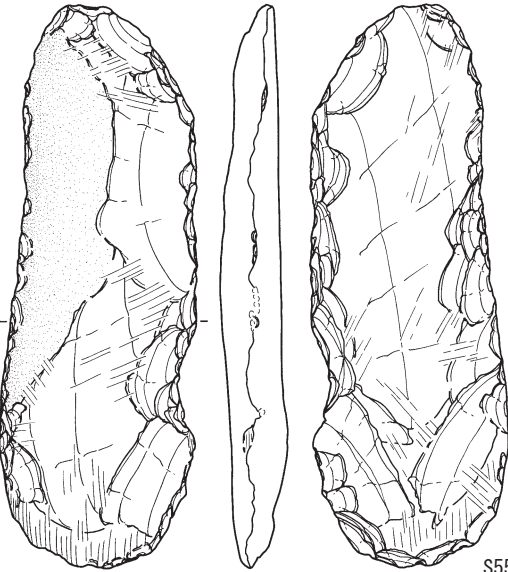
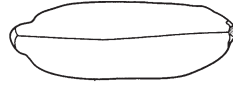
S598・S601～S604、S607～S610の9点はホルンフェルス製、S599・S600・S605・S606の4点は砂岩製である。



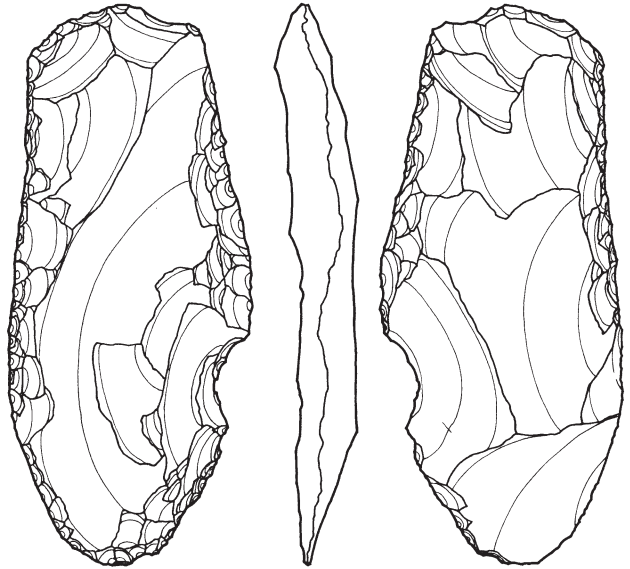
S550



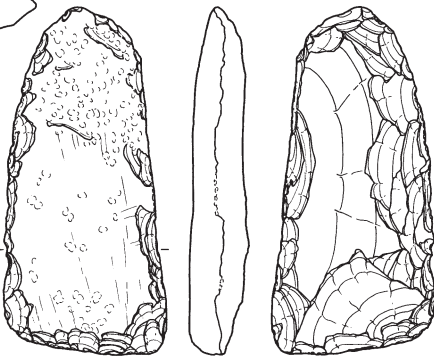
S551



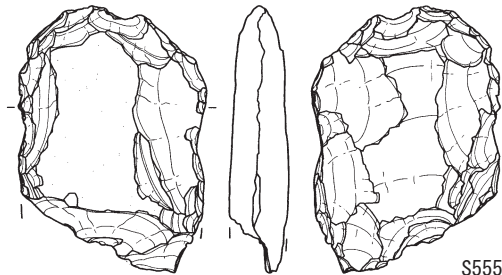
S552



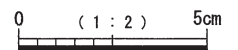
S553



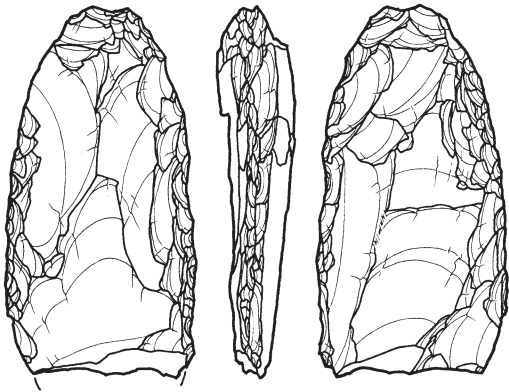
S554



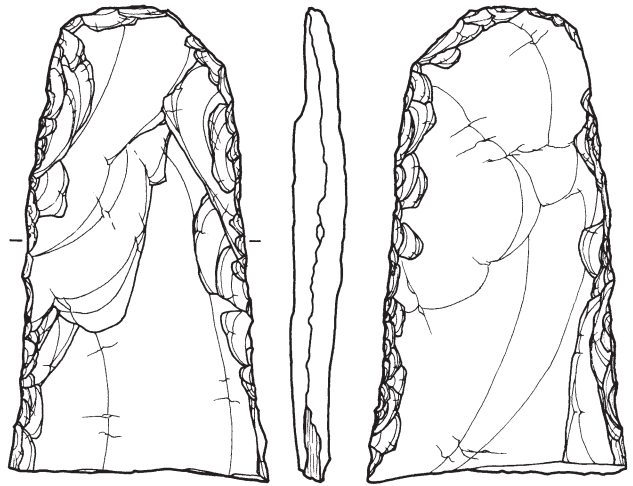
S555



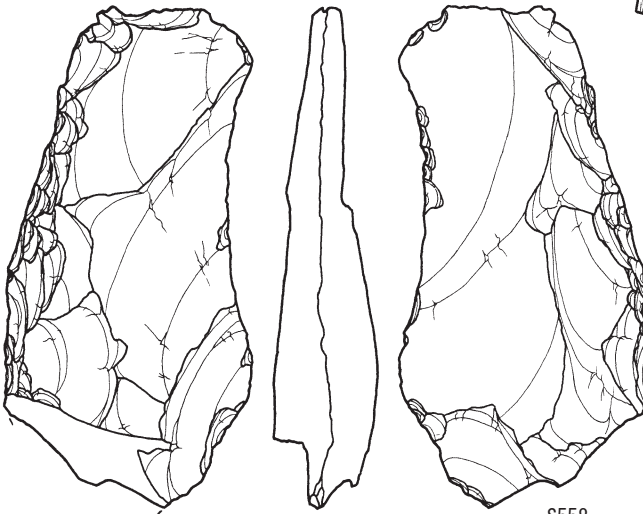
第2-174图 打製石斧(1)



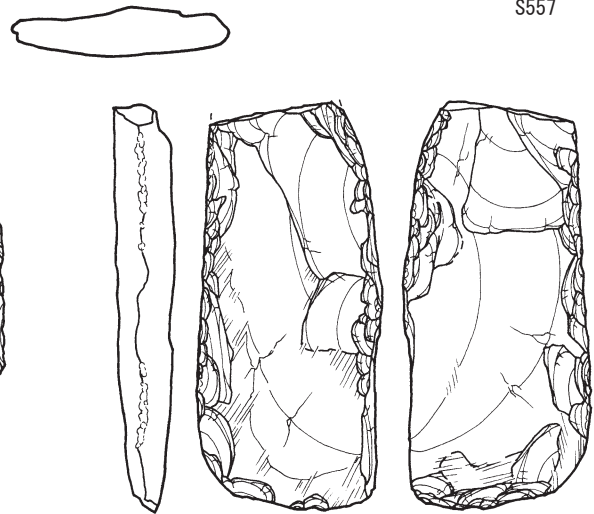
S556



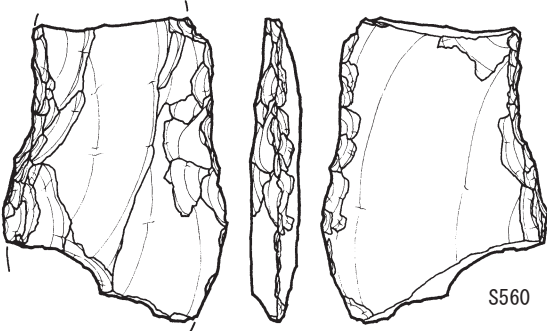
S557



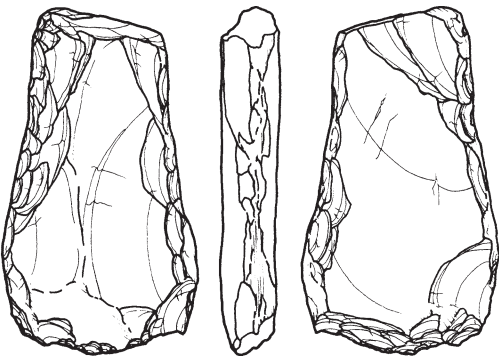
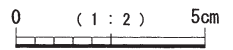
S558



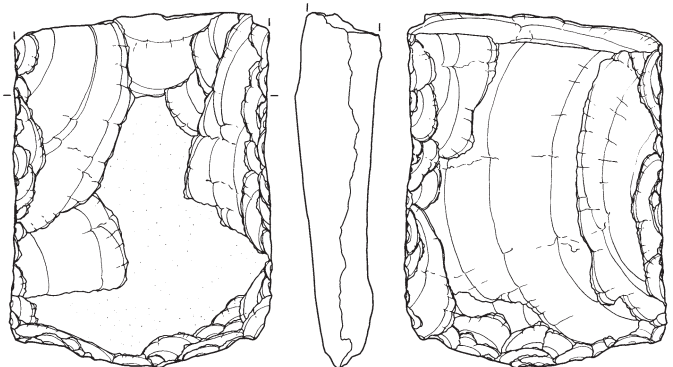
S559



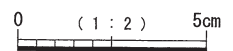
S560



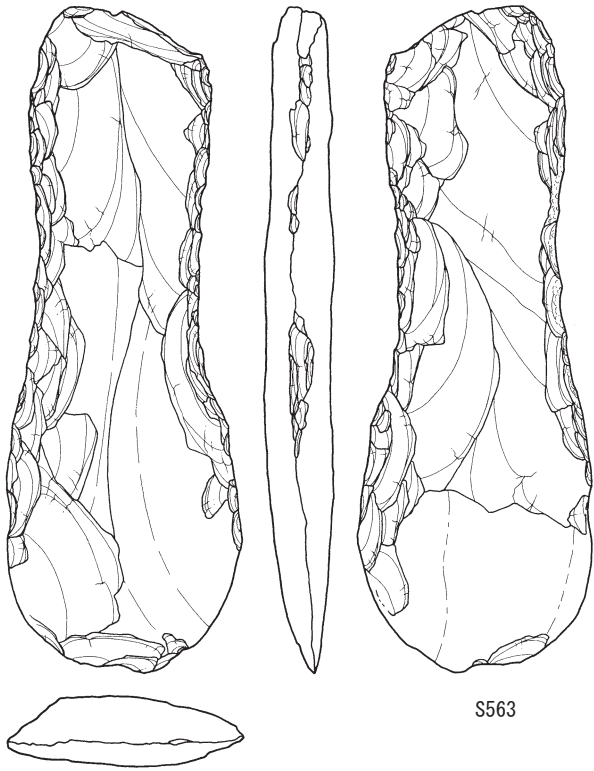
S561



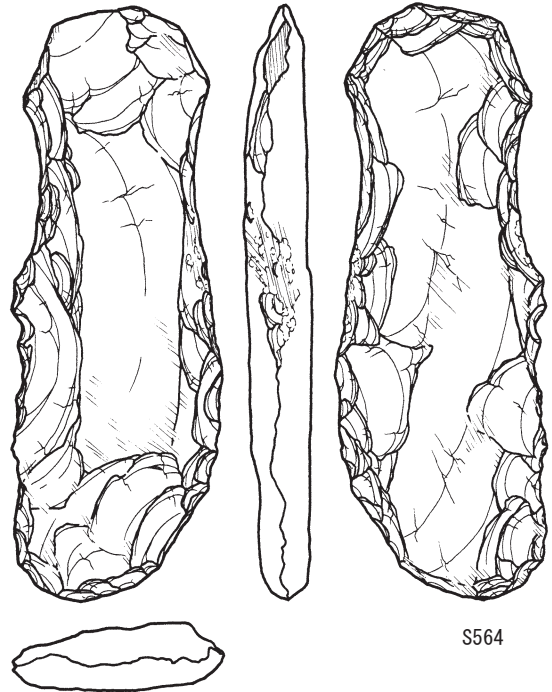
S562



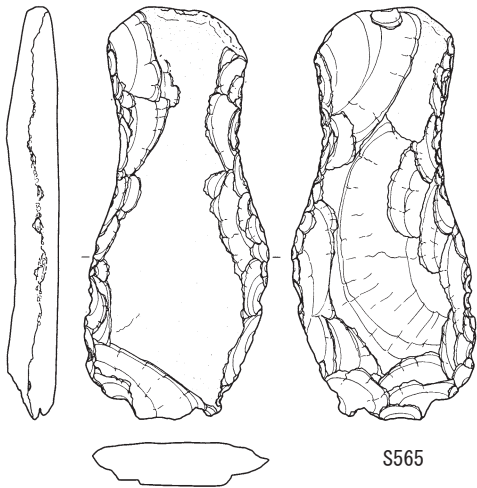
第2-175図 打製石斧(2)



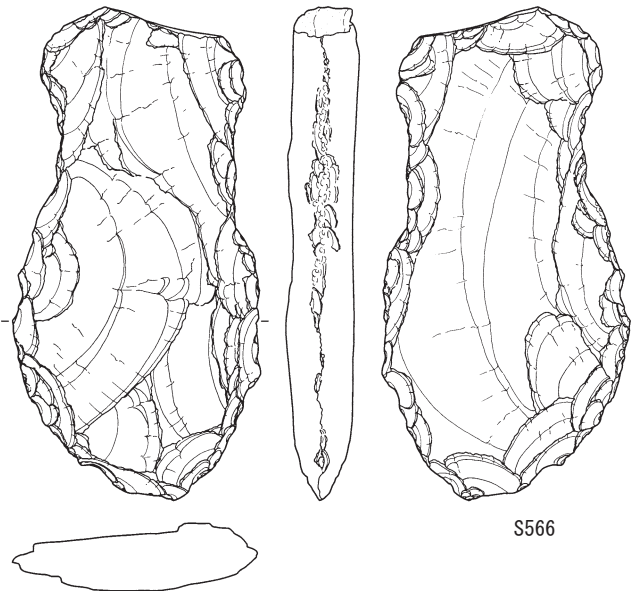
S563



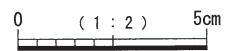
S564



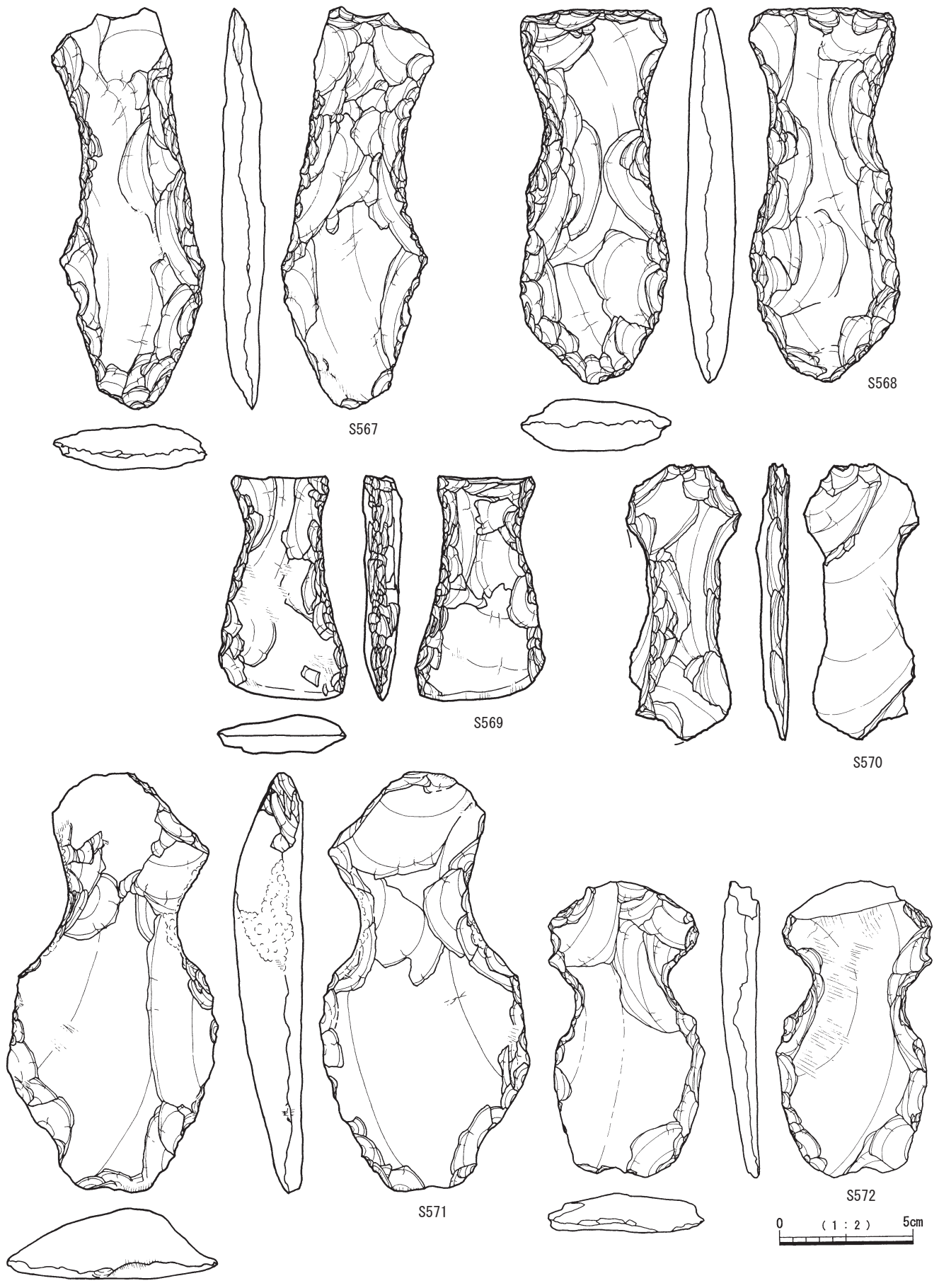
S565



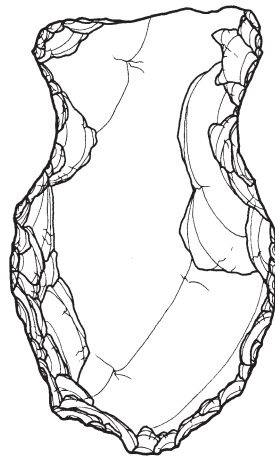
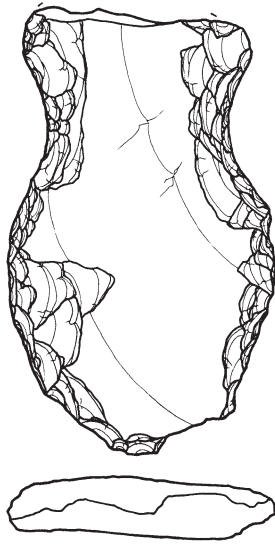
S566



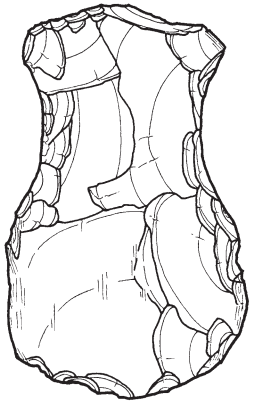
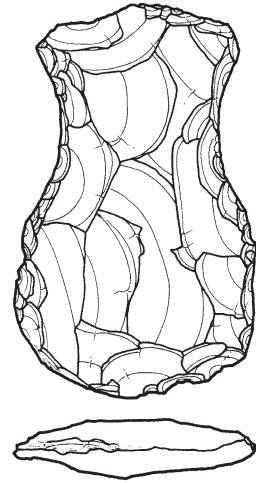
第2-176图 打製石斧(3)



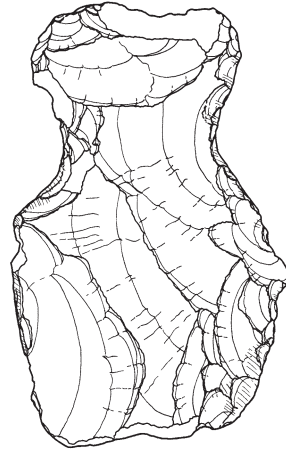
第2-177图 打製石斧(4)



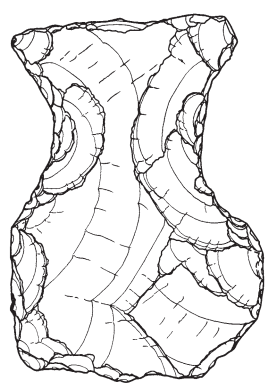
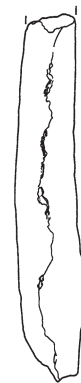
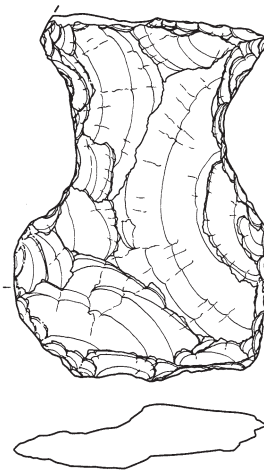
S573



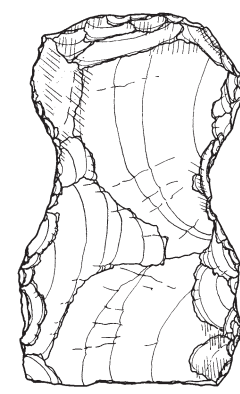
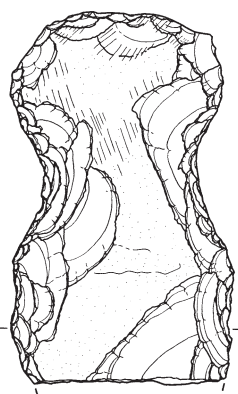
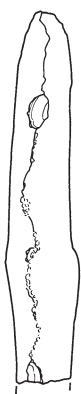
S574



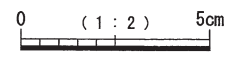
S575



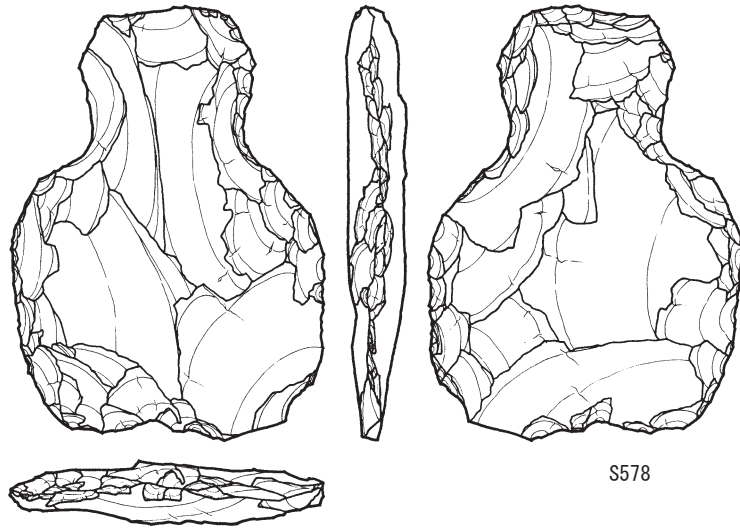
S576



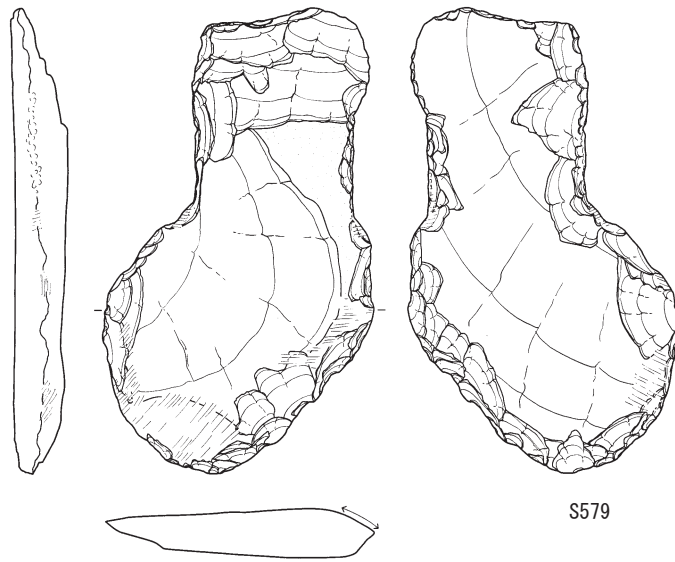
S577



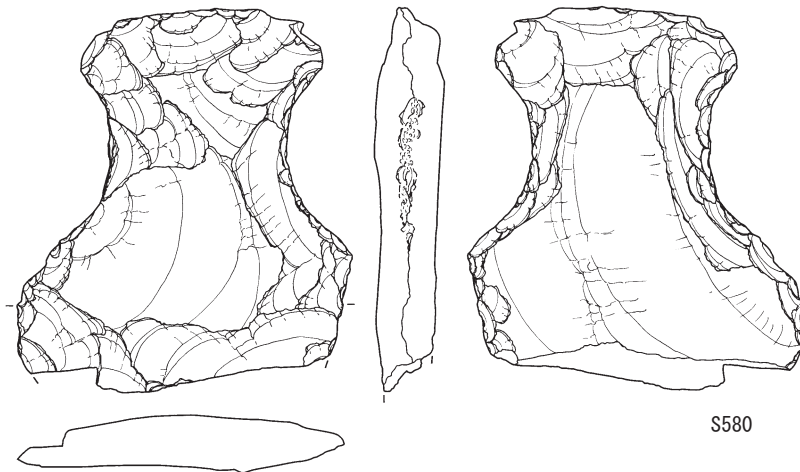
第2-178图 打製石斧(5)



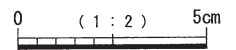
S578



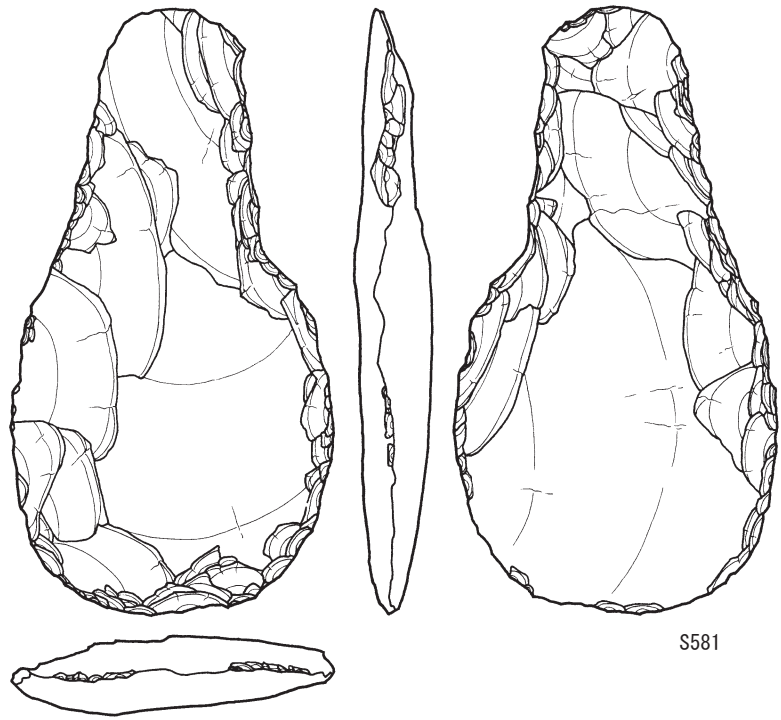
S579



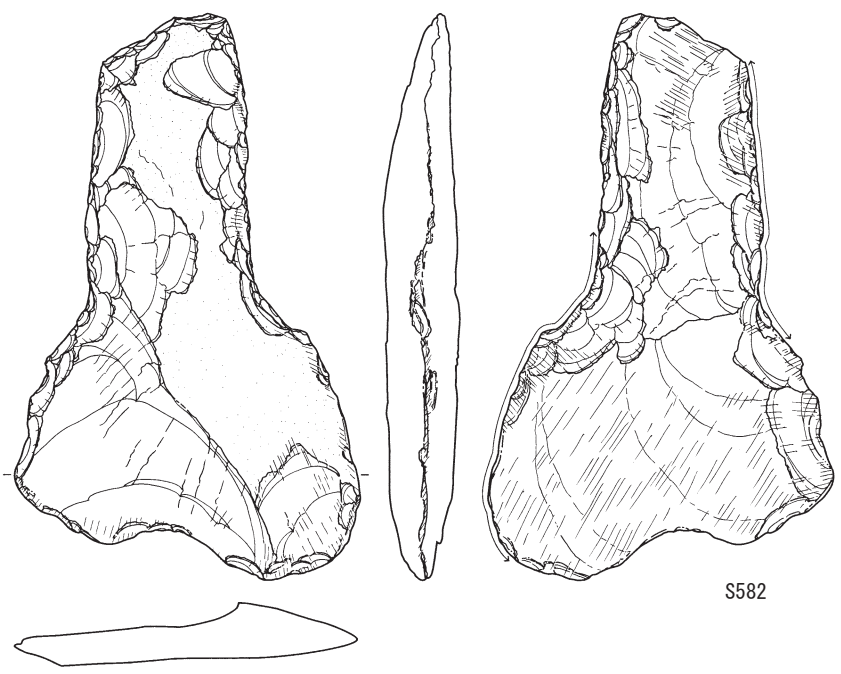
S580



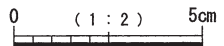
第2-179图 打製石斧(6)



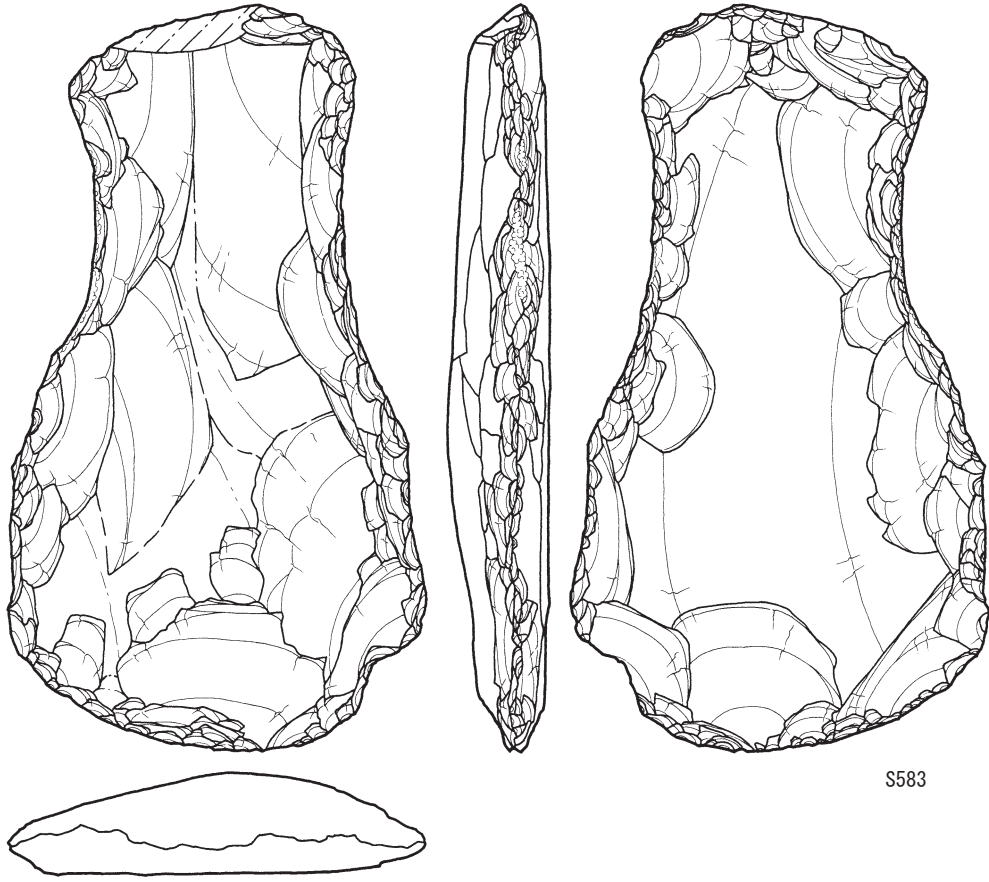
S581



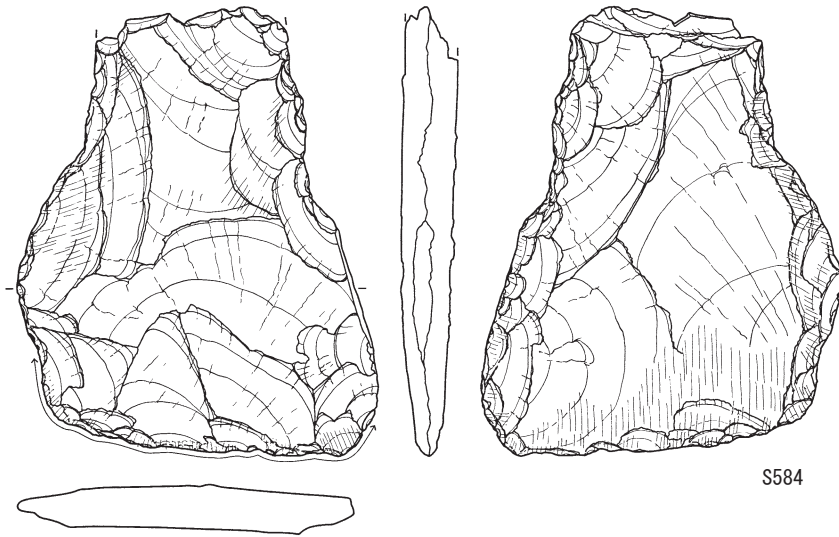
S582



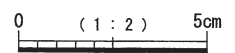
第2-180図 打製石斧(7)



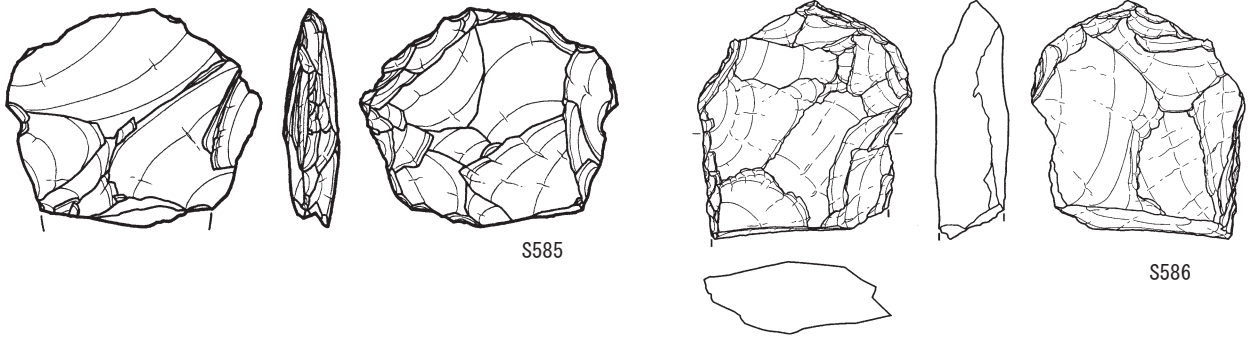
S583



S584

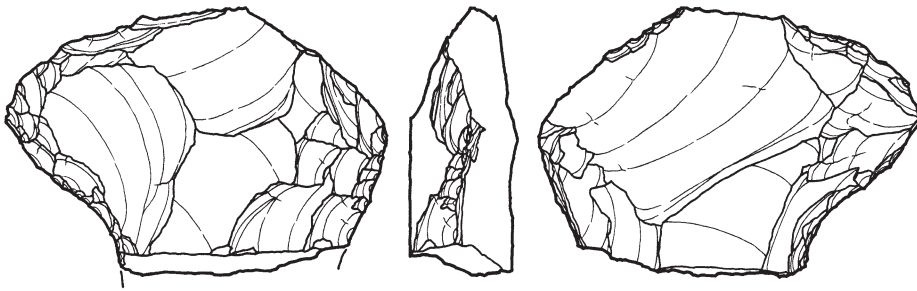


第2-181图 打製石斧(8)

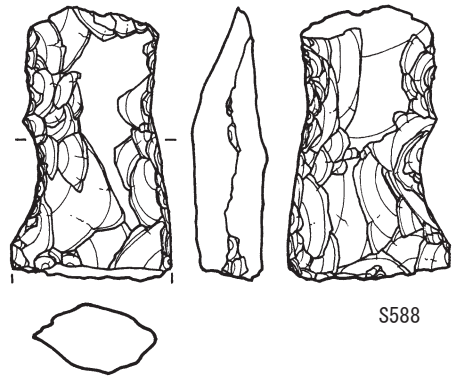


S585

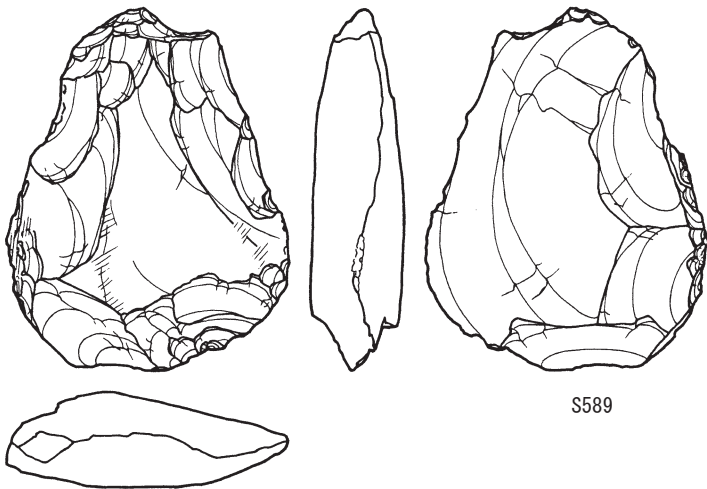
S586



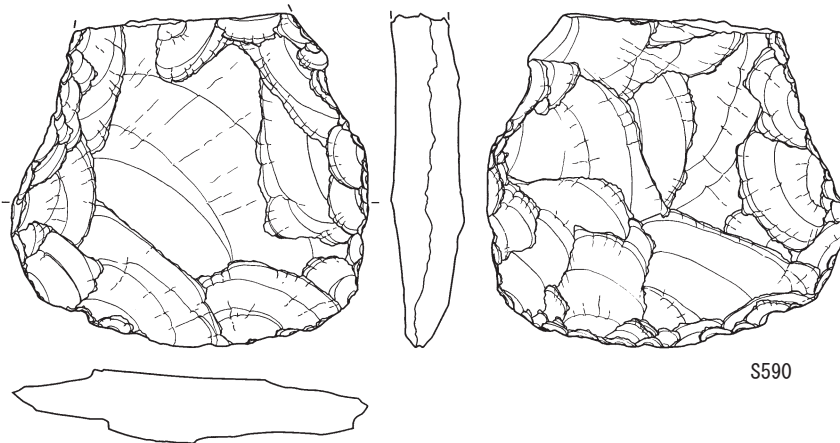
S587



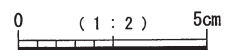
S588



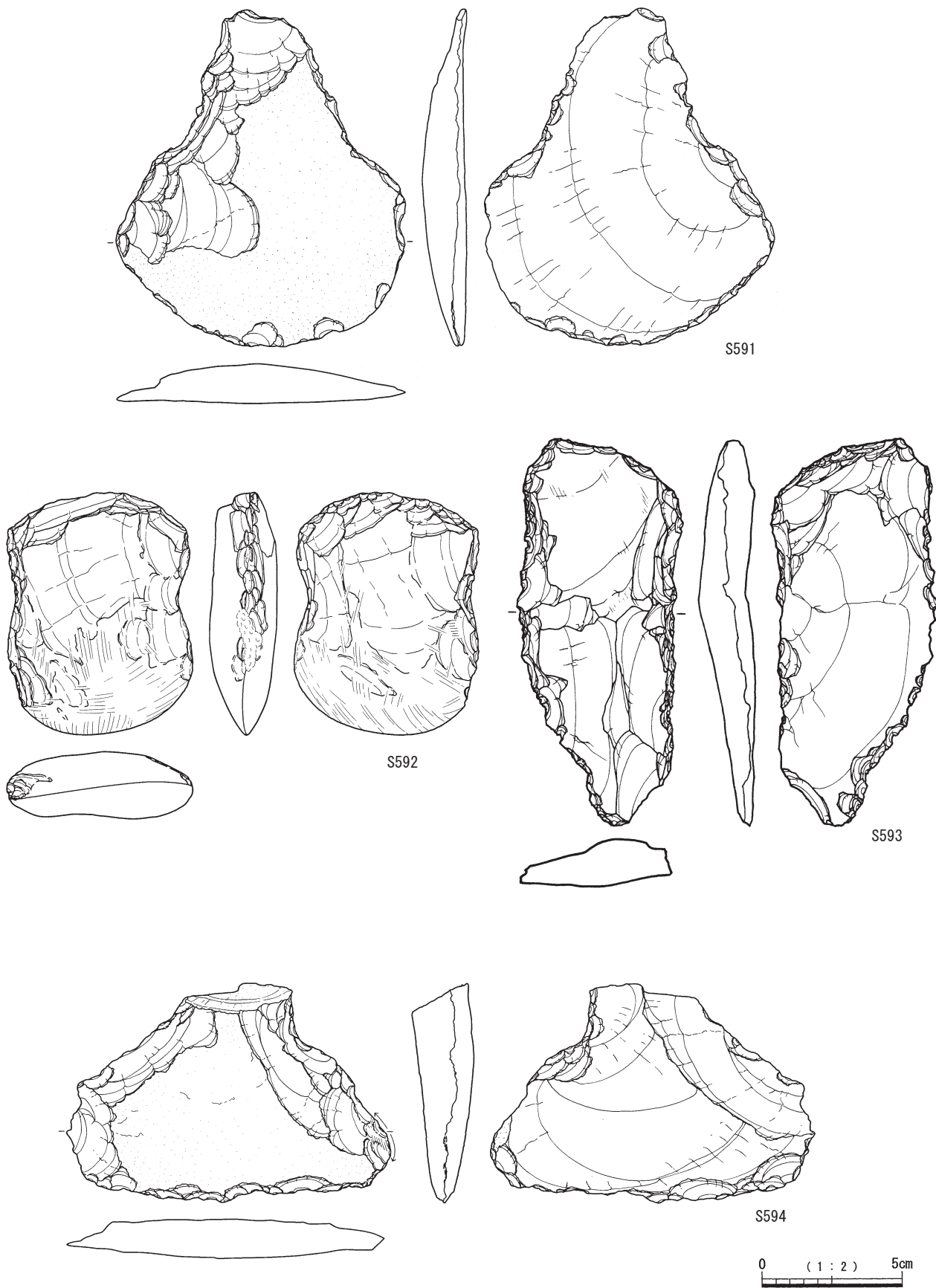
S589



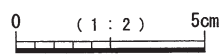
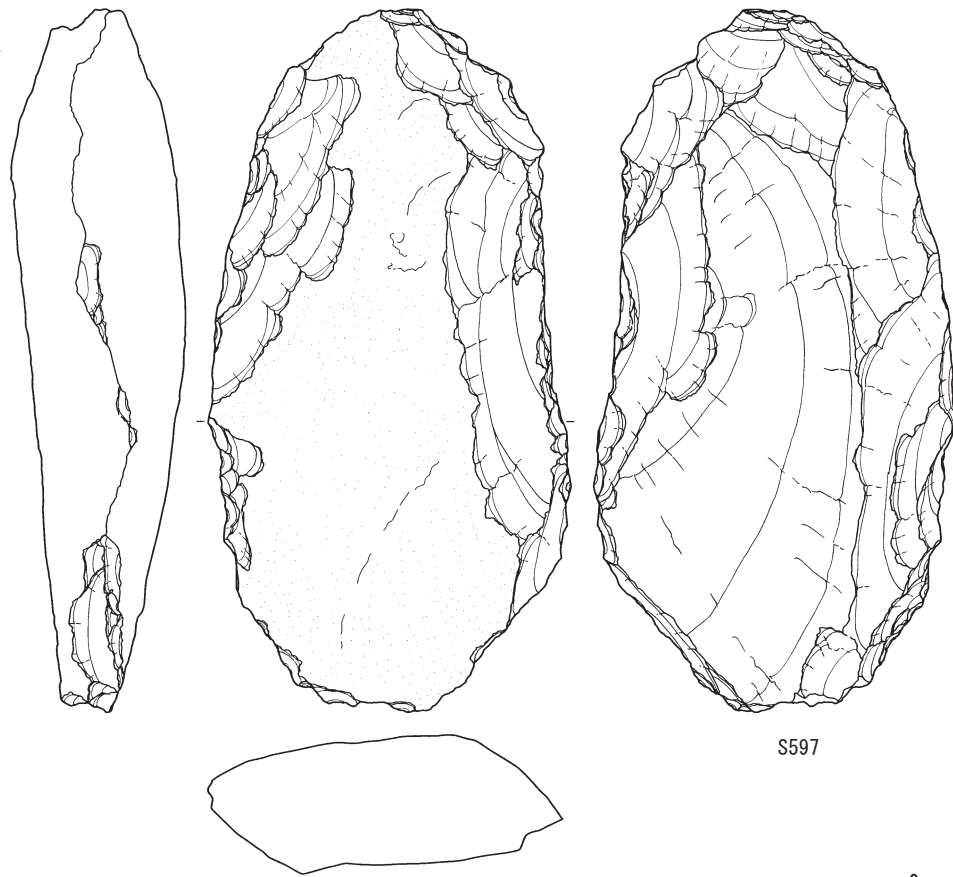
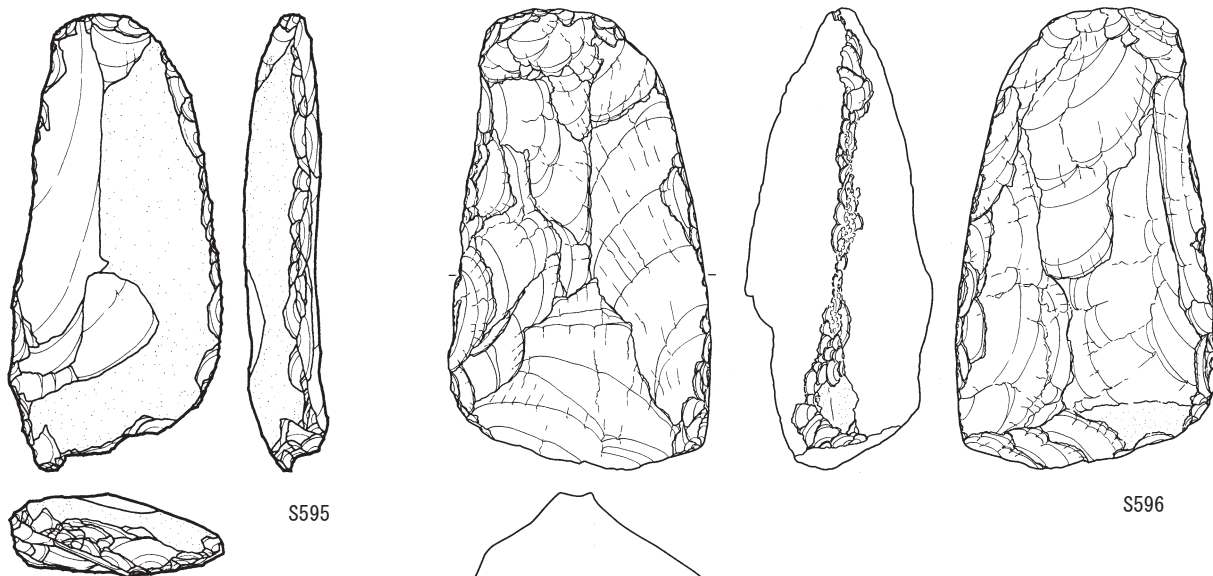
S590



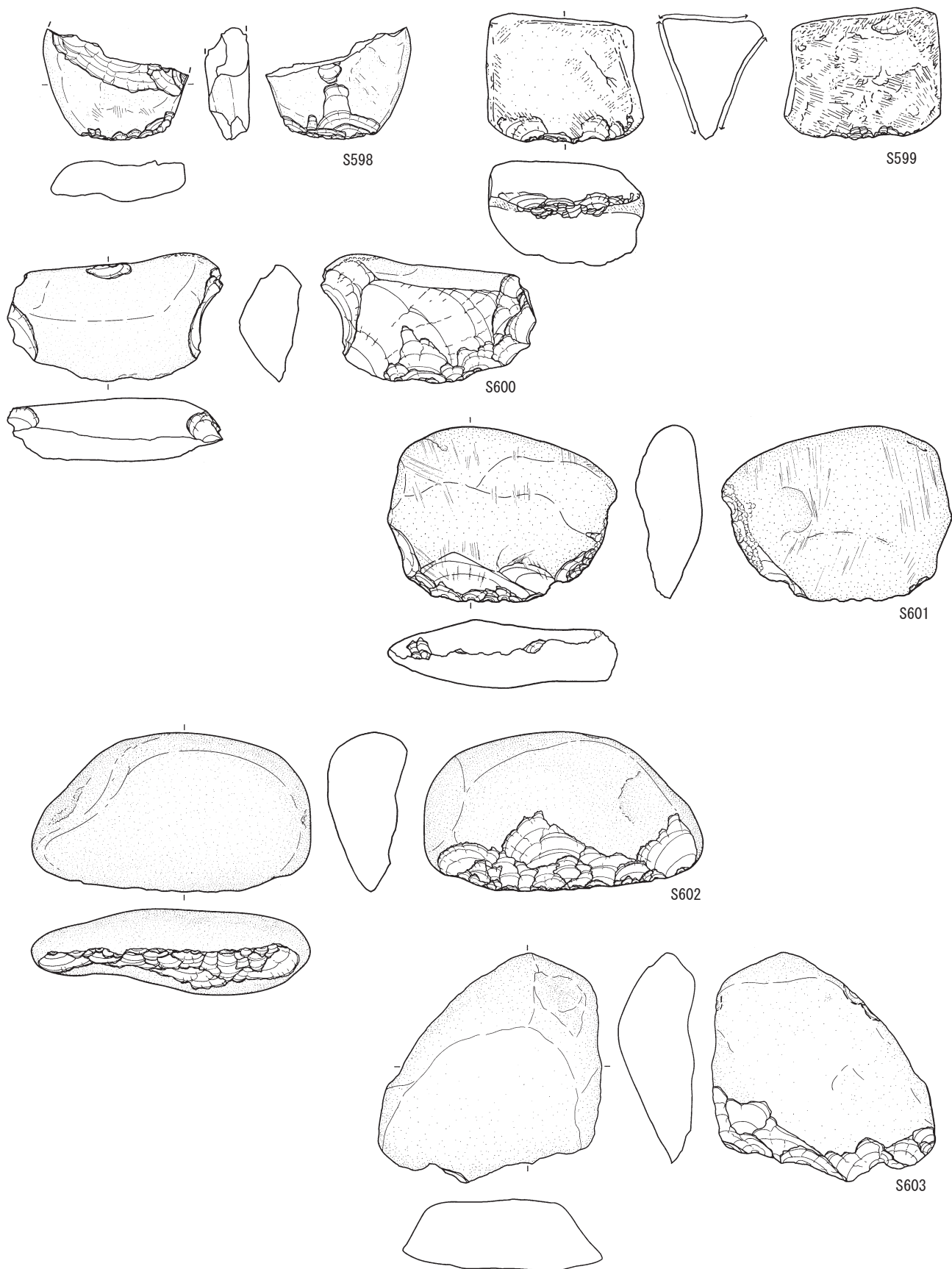
第2-182図 打製石斧(9)



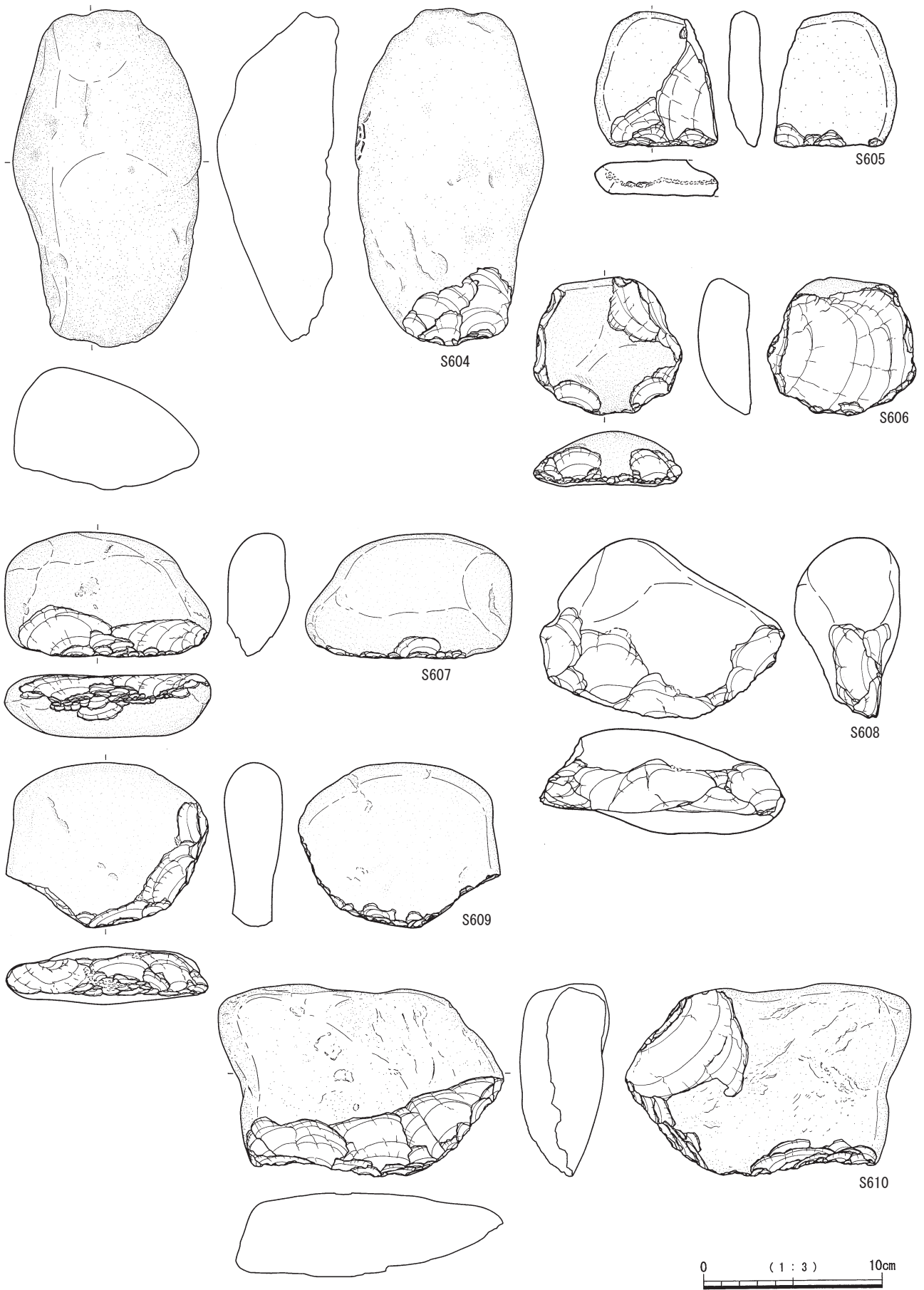
第2-183図 打製石斧 (10)



第2-184图 打製石斧 (11)



第2-185图 礫器 (1)



第2-186图 磔器 (2)

磨・敲石類（第2-187図～第2-200図 S611～S728）

S611～S728は、磨・敲石類である。使用面数、使用部位によってⅠ類～Ⅵ類に分類した。

掲載遺物における出土層の内訳は、Ⅲ層2点、Ⅳa層25点、Ⅳb層80点、Ⅴ・Ⅴa層9点、Ⅵ層1点である。

Ⅰ類 S611～S628は、形状や断面形が不定形で素材礫の形状を残すものである。ほぼすべてに敲打痕や磨面を確認できる。

S612は、両面の一部に敲打痕、側面に敲打痕が巡る。S613は、正面の上半に磨面、下端に敲打痕がみられる。S614は、長軸方向の両端に敲打痕が集中する。S615は、正面に磨面と敲打痕、裏面下端に敲打痕がみられる。正面に光沢があり煤が付着する。S616は、両面に磨面、下端に敲打痕があり、被熱している。S617は、正面に磨面、下部に敲打痕が集中する。S618は、全面に敲打痕があるが摩滅している。赤色顔料が付着する。S619は、長軸方向下端部に敲打による剥離が生じている。剥離後も使用され微細な潰れがみられる。S620は、両面の磨面形成が弱く、下端から側縁にかけて敲打痕が顕著である。赤色顔料が付着する。S618・S620の付着物を蛍光X線で分析した結果、鉄分が多く検出されたことからベンガラの可能性ある（第Ⅸ章 科学分析を参照）。S622・S628はの下端は敲打による剥離が生じた後もよく使用されており敲打痕が集中する。

S612・S614～S616・S618～S620・S623・S624・S626・S627の11点は、安山岩B類製、S611・S617・S621の3点は花崗岩製、S613・S625・S628の3点は砂岩製、S622は石英製である。

Ⅱa類 S629～S656は、形状が円形・楕円形で基本的に両面の2面に磨面、側面に敲打痕がみられるものである。敲打痕のあり方に差異があり、側面の敲打痕が全周を巡るものが多いが、S629・S631・S653～S656は部分的に留まる。S653～S656は、形状が垂円形で他と比べ少し薄手である。S654・S656は煤が付着する。S637は下端を欠損するが、欠損部で敲打を行っている。S633・S634・S641・S642は、風化が著しい。

S629・S633～S636・S641～S648の13点は花崗岩製、S632・S637～S640、S650～S652の8点は砂岩製、S630・S631・S649・S653・S654・S656の6点は安山岩B類製、S655は凝灰岩製である。

Ⅱb類 S657～S668は、形状が楕円形で、基本的に両面の2面に磨面、側面に敲打痕がみられるものである。側面の敲打痕が全周を巡るものが多いが、S657・S658・S664は部分的な敲打痕に留まる。S658は、上・下端を断面が尖るほどよく敲打に使用している。磨・敲石類Ⅲ類のように多面的に磨面をもつものに近づきつつある。S665・S666は、裏面は磨りにより平坦であるが、正面の磨りはみられるものの素材礫の形状を残している。

S667・S668は、他と比べて少し薄手である。

S657～S660・S665・S667・S668の7点は安山岩B類製、S661・S666の2点は砂岩製、S663・S664の2点はホルンフェルス製、S662は花崗岩製である。

Ⅱc類 S669～S674は、形状が方形や長方形に近く、基本的に両面の2面に磨面があり、敲打痕は明瞭ではなく、風化による形状の変形や石製品の可能性が残るものも含む。

S669～S674はすべて花崗岩製である。

Ⅱd類 S675～S681は、形状が円形や楕円形で、正面や裏面または両面に凹みが確認できるものである。石錘や打製石斧などの石器を製作する際の敲打具や小さな台石として使われた可能性がある。凹みの深さの程度によってレイアウトしている。S676・S677は、溝状の敲打痕がみられ楔状の工具等による可能性がある。S676は、被熱しており、裏面には欠損があり、火はね（ポット・リッド）の可能性ある。

S676～S678・S681の4点は砂岩製、S675・S679・S680の3点は安山岩B類製である。

Ⅲ類 S682～S688は、形状が円形や楕円形で多面的に磨面のあるものである。小型の磨製石斧などを敲打成形する際に使用され多面となった可能性が考えられる。S683・S686は、被熱している。7点すべて砂岩製である。

Ⅳ類 S689～S700は、磨・敲石が分割されたもので形状がほぼ半円形（カマボコ状）となる。分割面の稜を敲打によって潰し、分断面を下面としスタンプ状の敲打面として使用したものである。

S689～S700の12点はすべて花崗岩製である。

Ⅴa類 S701～S708は、いわゆるハンマータイプで敲打痕が長軸方向の上・下端もしくは両端にあり、上・下面の太さが異なるものである。基本的にはハンマーとして使用しやすい棒状礫の形状を利用して使用したと考えられる。

S701～S705は、側面にも敲打痕がみられる。S706は、礫器の転用品の可能性もあるが敲打痕を優先した。S701は、煤が付着する。

S701・S702・S704・S706～S708の6点はホルンフェルス製、703は砂岩製、S705は花崗岩製である。

Ⅴb類 S709～S717は、形状が楕円形、長方形、不定形ものがある。いわゆるハンマータイプで、敲打痕がほぼ長軸の両端にあり、上・下面の太さがほぼ同じとなるものである。S712・S714・S715は、側面にも敲打痕がある。S711・S712・S714は、磨面が多面的になりつつあるため、磨製石斧の外形を敲打によって成形するために使われた可能性が高い。S714・S715は、磨製石斧から転用した可能性がある。被熱しており、S714には煤も付着する。S717は、左側面が黒色化しており被熱の可能性ある。

S709・S710・S712～S716の7点は砂岩製，S711はホルンフェルス製，S717は安山岩B類製である。

Vc類 S718は，ハンマータイプで敲打痕が側面にあるものである。打製石斧や石錘など，両極打法で成形する際に棍棒のように使用された可能性がある。S718は，ホルンフェルス製である。Va類・Vb類で側面に敲打痕があるものも，使用法はVc類と同様の可能性がある。

VI類 S719～S728は，欠損品である。S720は，敲打面に赤色顔料が付着している。蛍光X線分析の結果，鉄分が多く検出されたことからベンガラの可能性ある（第IX章 科学学分析を参照）。

S721は，被熱が確認される。S724は断面は研磨はされていないが，真っ二つと表現できるほど綺麗な破断面で左側を欠損する。両面に鏡面状の光沢がみられるくらい使用されている。敲打面が上・下端にあり，磨・敲石として使用されていた使用痕である。煤が付着する。

S719は，I類の欠損品の可能性がある。S720～S724は，II類の欠損品の可能性がある。S725～S728は，V類の欠損品の可能性がある。S725は，磨製石斧のV類(鑿状)の欠損品の可能性もある。

S719・S722・S724・S726の4点は砂岩製，S725・S727・S728の3点はホルンフェルス製，S720・S721・S723の3点は安山岩B類製である。

石皿（第2-201図～第2-207図 S729～S762）

S729～S762は，石皿である。形状や使用痕，石皿で粉砕された対象物を取り出したと考えられる掻き出し口の有無等によってI～VI類に分類した。凹みの深さについては，観察表の備考欄に記載した。

掲載遺物における出土層の内訳は，Ⅲ層1点，Ⅳ・Ⅳa層4点，Ⅳb層20点，Ⅴ・Ⅴa層2点，Ⅵ層3点である。

Ia類 S729～S731は，平面形が楕円形で，図上の平面の上部から下部にかけて，摩耗面である凹みや平滑面があり，一方向に掻き出し口をもつものである。

S729は，摩耗面の横断面が浅い「U」字状に磨り窪みよく使用されている。摩耗面には使用による擦痕がみられ，下部中央の右寄りに掻き出し口がある。

S730は，摩耗面の縦・横断面ともに浅い「U」字状に磨り窪みよく使用されている。摩耗面の下部中央の右寄りに掻き出し口がある。摩耗面全体に擦痕，中央に敲打痕がみられる。摩耗面で磨りつぶされた対象（残留）物の把握を目的として，科学分析（デンプン粒分析）を実施した結果，作業面の凹みから残存デンプン粒の原形の識別が困難ではあったものの，デンプンの成分が検出されている（第IX章 科学分析を参照）。

S731は，図上の上部を欠損する。摩耗面の横断面はやや深い「U」字状となるほど磨り窪みよく使用されている。縦断面は摩耗面中央に向かって器厚が薄くなる。摩

耗面の下部中央に掻き出し口をもつ。

S729～S731は，3点とも花崗岩製である。

Ib類 S732～S736は，平面形が楕円形で，図上の平面の上部から下部にかけて摩耗面である凹みや平滑面があり，下部と左の2方向に掻き出し口をもつものである。

S732は，摩耗面の横断面が浅い「U」字状となるほど磨り窪んでいる。摩耗面中央に小単位の敲打痕を内包する大きな敲打痕，中央右と上部に小さい敲打痕がある。摩耗面の下部中央と摩耗面中央から左斜め下方向に延びる掻き出し口をもつ。

S733は，平面形が楕円形で，やや厚手の礫を利用して磨り窪んでいる。摩耗面は横断面ともに使用による磨り窪みが浅い。摩耗面の下部中央と摩耗面中央から左斜め下方向へ延びる掻き出し口をもつ。

S734は，図上の上部を欠損する。摩耗面の横断面が深い「U」字状となるほど磨り窪みよく使用されている。縦断面も中央部がやや磨り窪む。摩耗面下部中央と摩耗面中央から左斜め下方向へ延びる掻き出し口をもつ。摩耗面の上部に敲打痕，摩耗面と左の掻き出し口に擦痕がみられる。

S735は，図上の上部と右側の一部を欠損している。全体が被熱しており，被熱によって破碎した可能性がある。摩耗面の横断面は浅い「U」字状となるほど磨り窪んでいる。摩耗面全体に敲打痕，摩耗面と摩耗面中央から左斜め下方向に延びる掻き出し口に擦痕がみられる。

S736は，右半分程度を欠損しており，原形は略方形に近いと考えられる。摩耗面の横断面は浅い「U」字状に磨り窪んでおりよく使用されている。縦断面は摩耗面中央より上部の窪みが深くなる。摩耗面中央下部と摩耗面下部から左斜め下方向に延びる掻き出し口をもつ。摩耗面の上部に敲打痕がみられる。

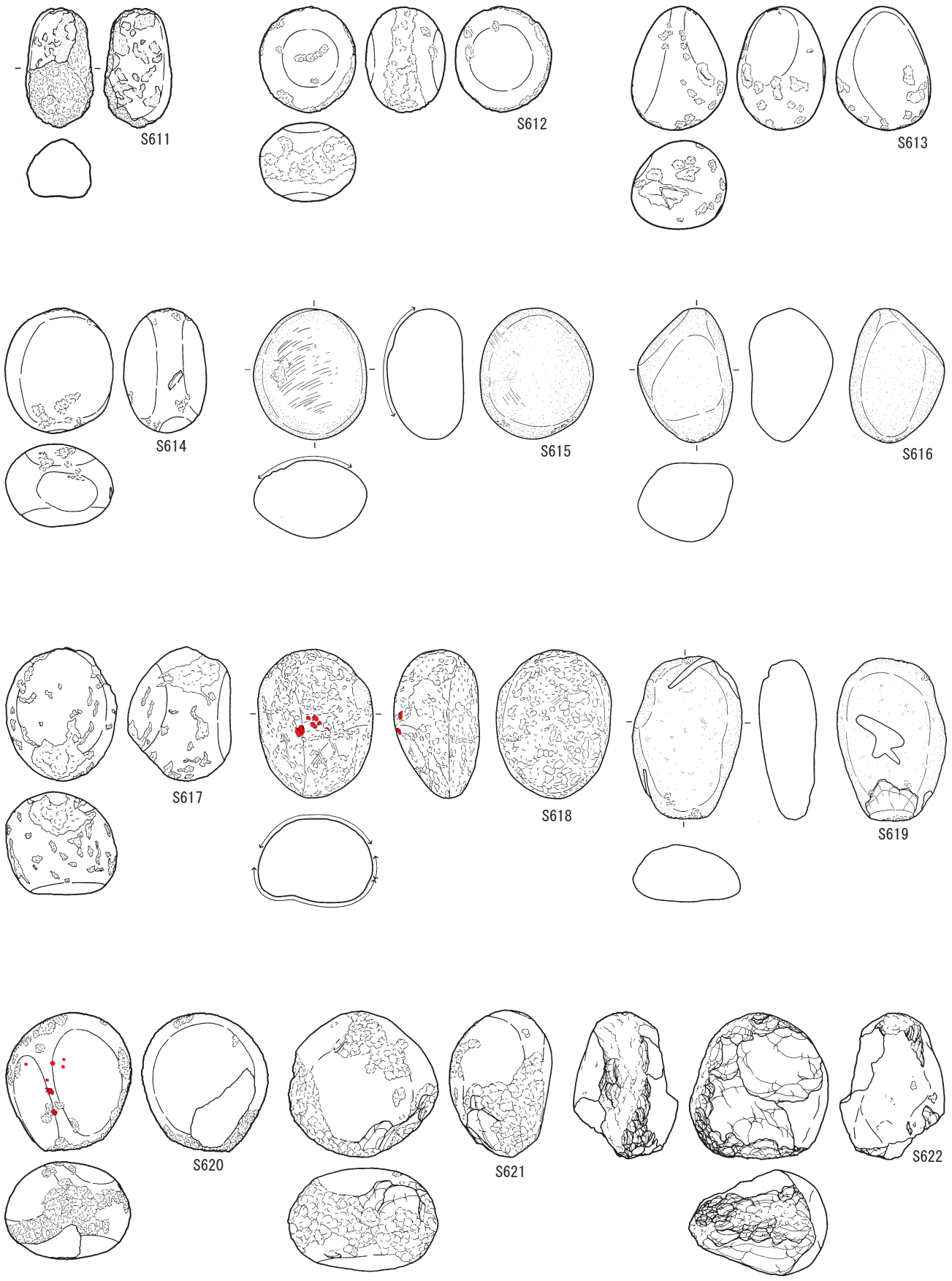
S734～S736の3点は花崗岩製，S732・S733は，安山岩B類製である。

II類 平面形は楕円形で，図上の中央上部から下部の全体にかけて摩耗面である凹みや平滑面があるが，掻き出し口が一定の幅をもって形成されず不明瞭なものである。

S737は，摩耗面の横断面が浅い「U」字状となるほど磨り窪んでいる。横断面は摩耗面中央の上部が深く磨り窪んでおり，S730・S735に類似する。摩耗面の中央から下部にかけて平滑面と擦痕がみられる。花崗岩製である。

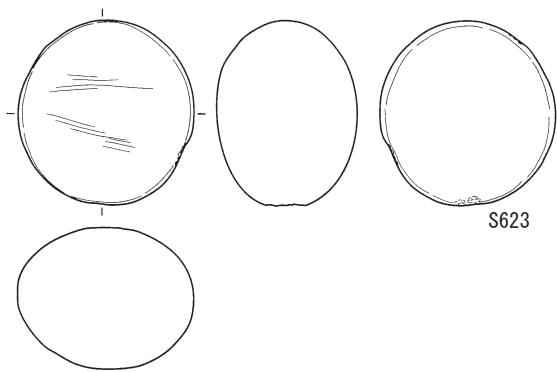
III類 平面形は方形で，図上の中央やや上部から中央部にかけて摩耗面である凹みや平滑面があるものである。III類は，遺構内からのみ出土し，包含層からは出土していない。遺構出土資料は，集石56号のS168他である（第IV章 第3節を参照）。

IV類 S738～S747は，平面形は様々な形状のものがある。板状のものが多く，厚さや裏面の形状によらず摩耗

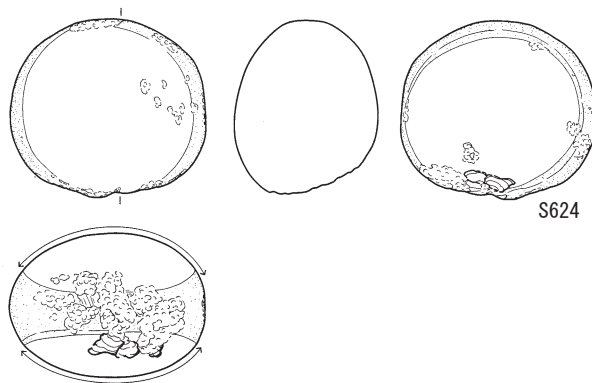


0 (1 : 3) 10cm

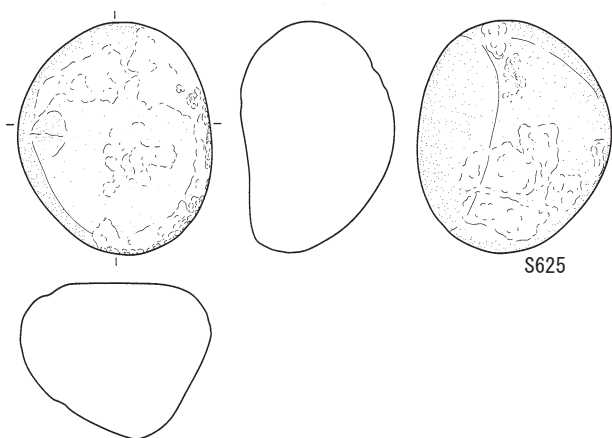
第2-187図 磨・敲石 (1)



S623



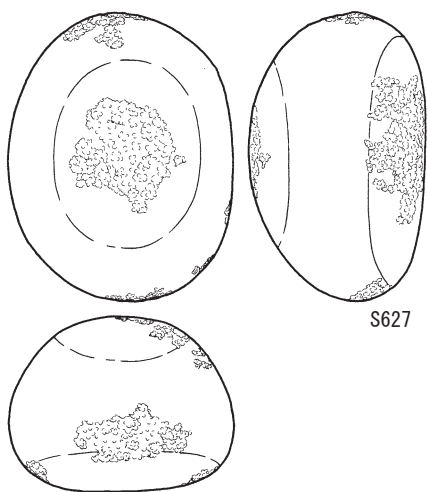
S624



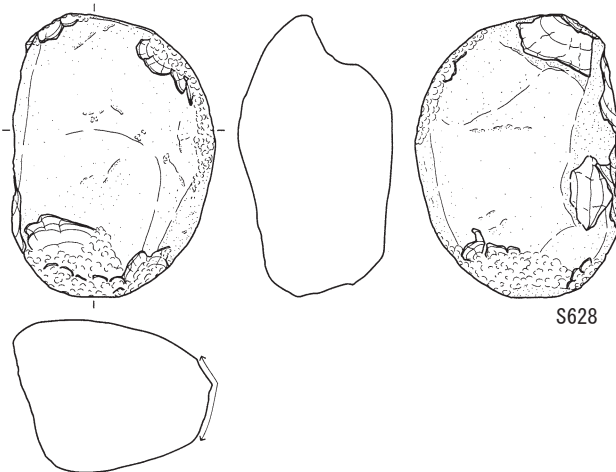
S625



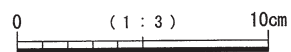
S626



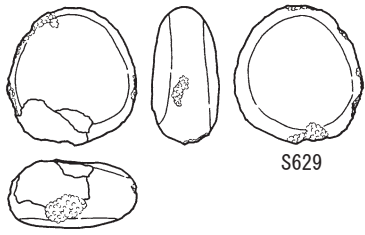
S627



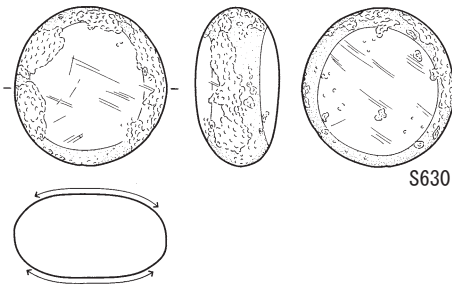
S628



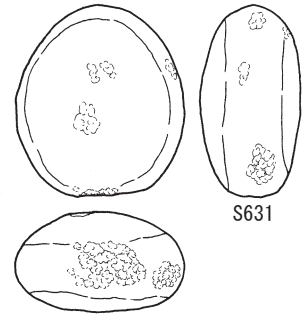
第2-188図 磨・敲石(2)



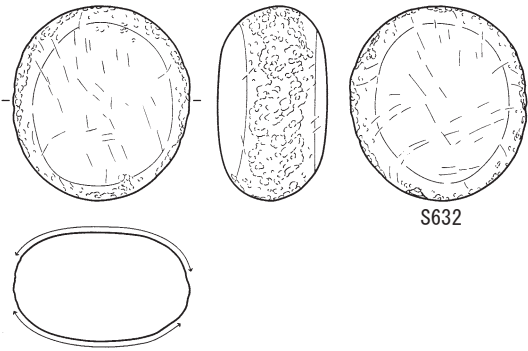
S629



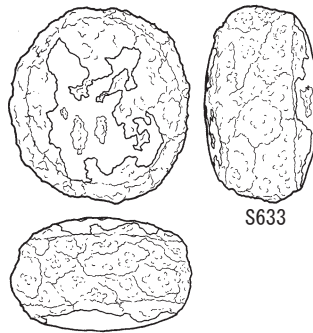
S630



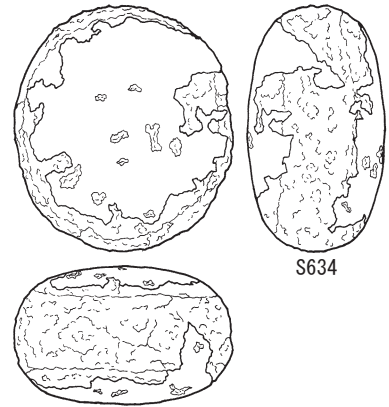
S631



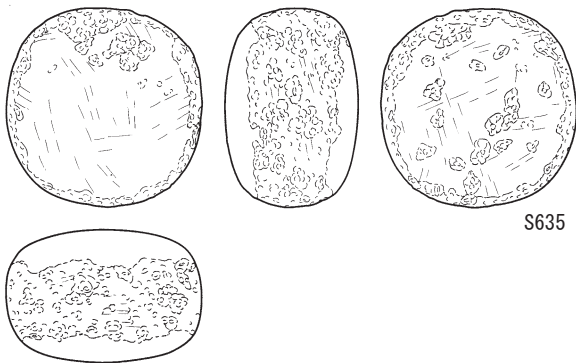
S632



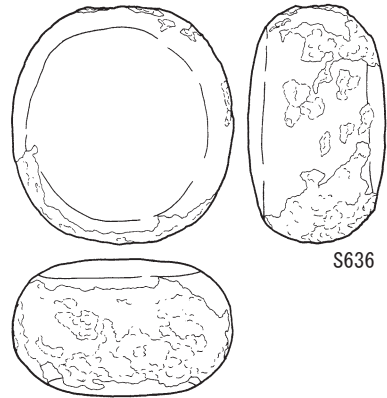
S633



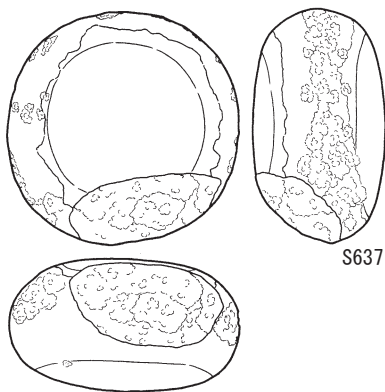
S634



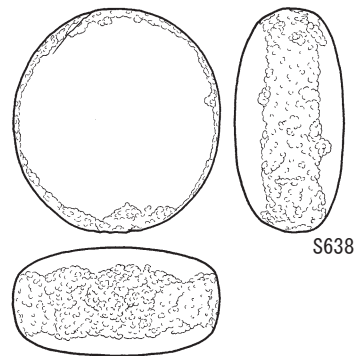
S635



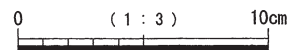
S636



S637



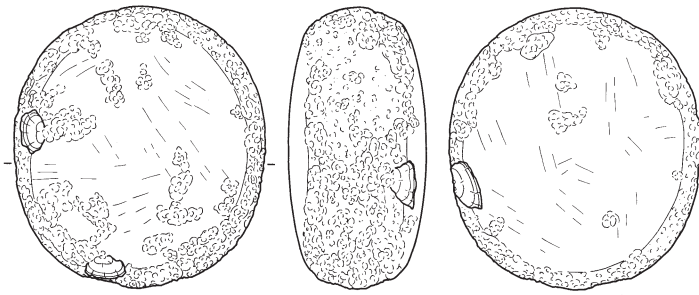
S638



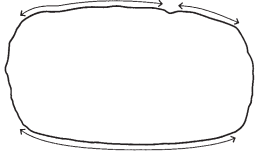
第2-189図 磨・敲石(3)



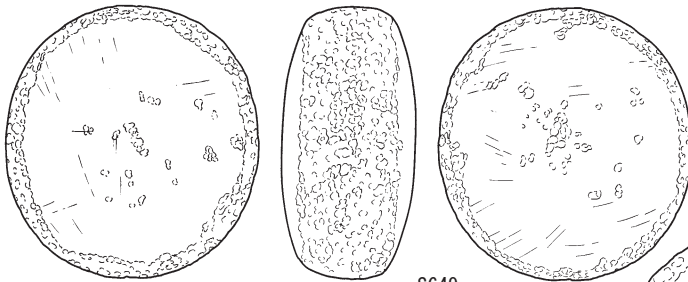
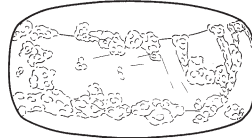
第2-190図 磨・敲石(4)



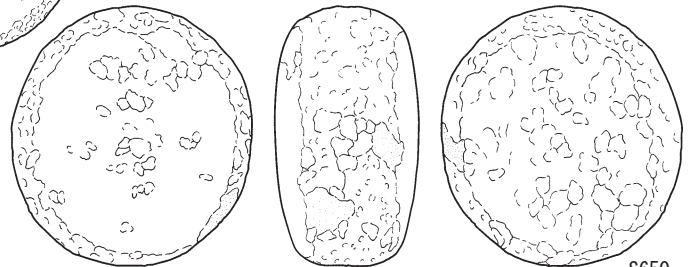
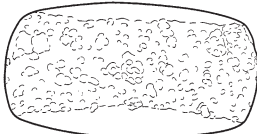
S647



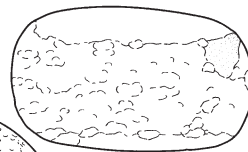
S648



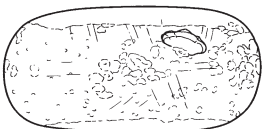
S649



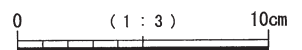
S650



S651

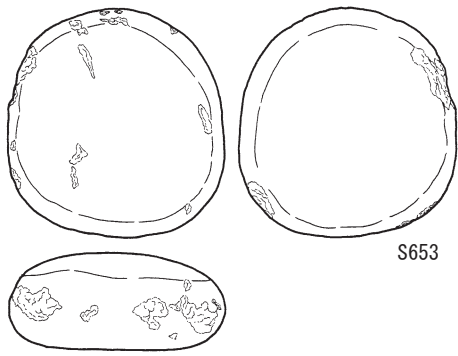


第2-191図 磨・敲石(5)

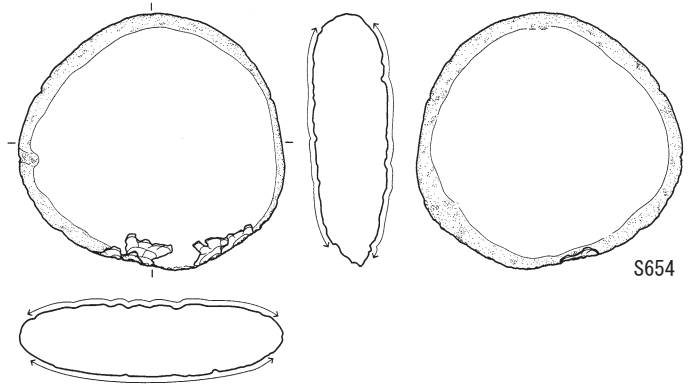




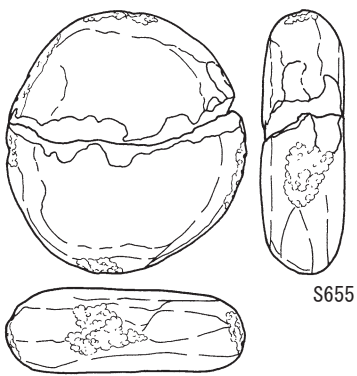
S652



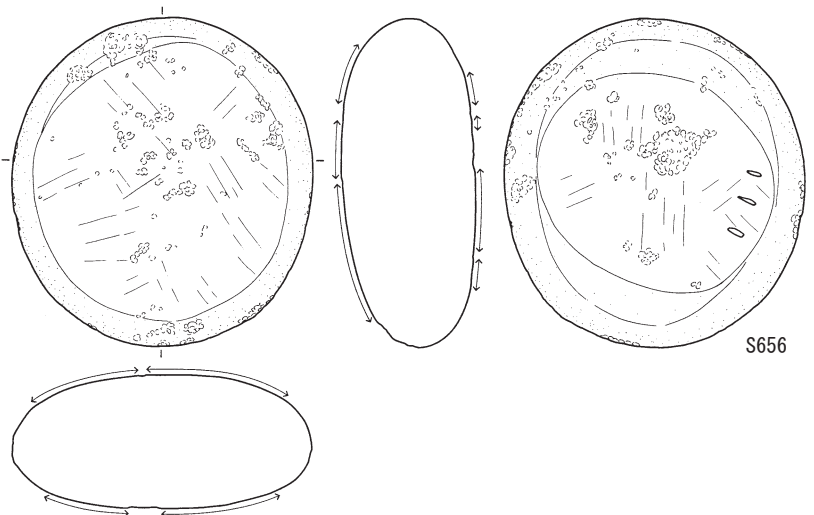
S653



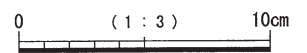
S654



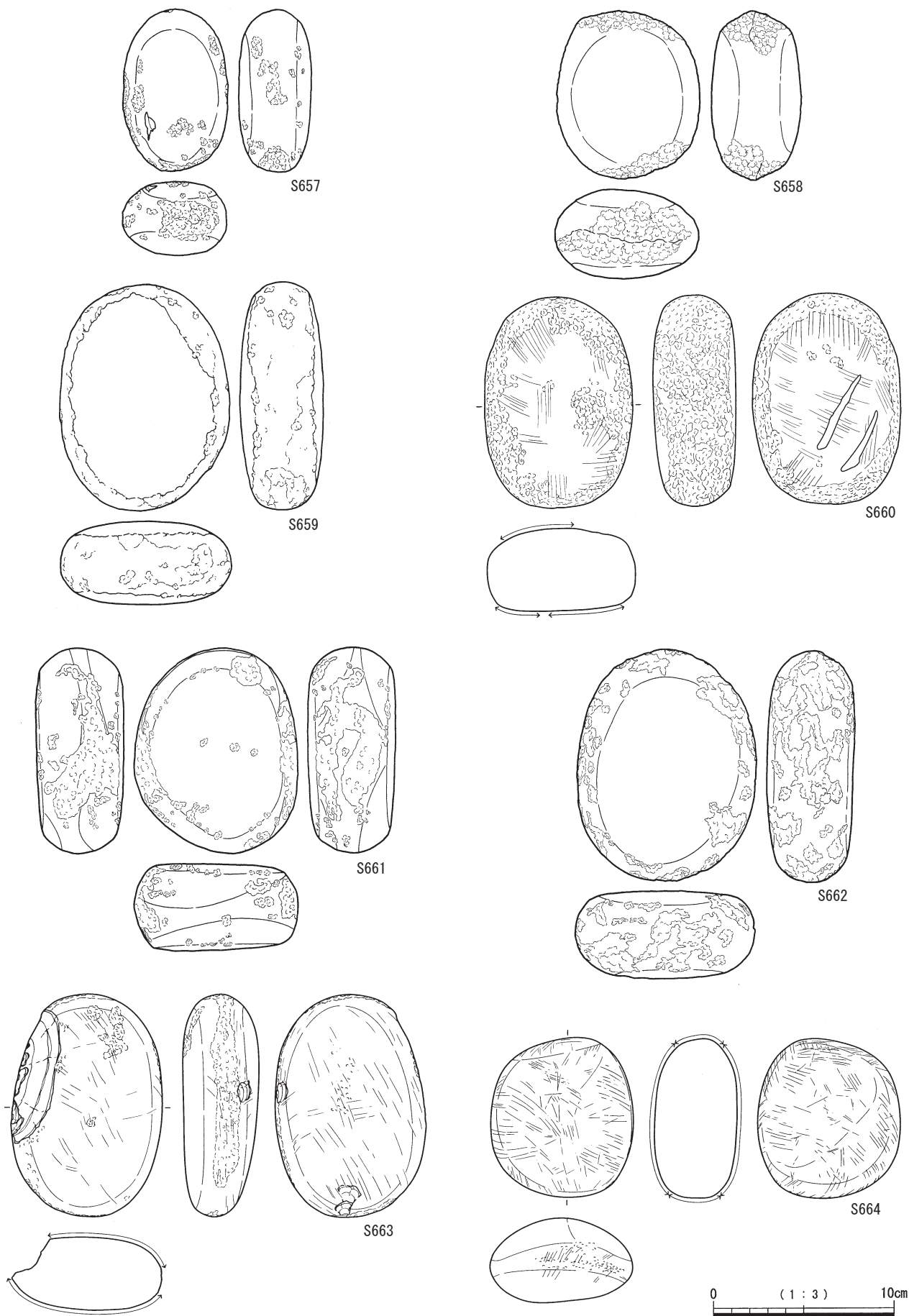
S655



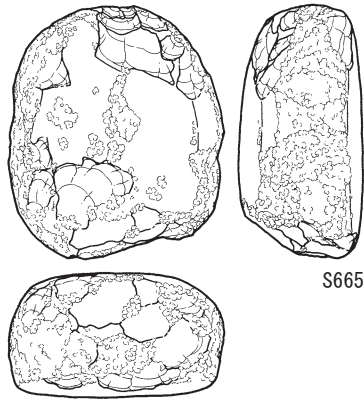
S656



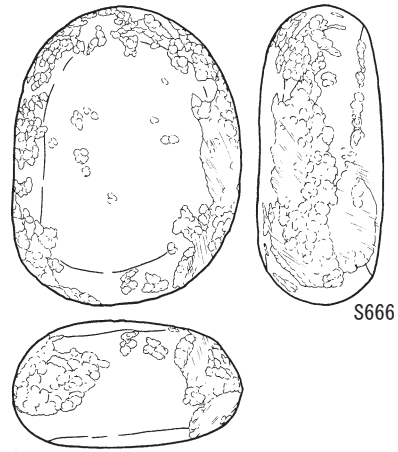
第2-192図 磨・敲石(6)



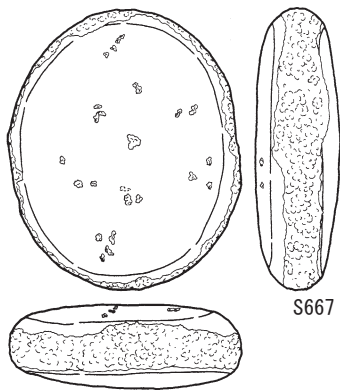
第2-193図 磨・敲石(7)



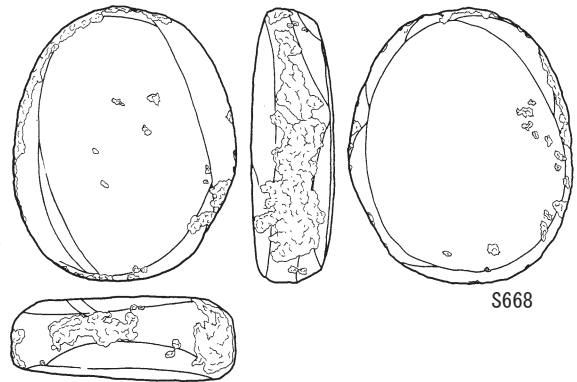
S665



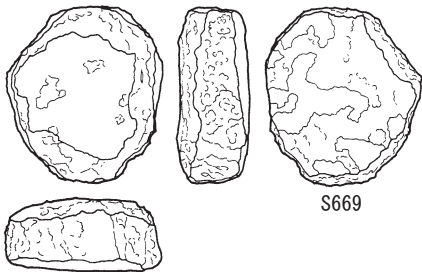
S666



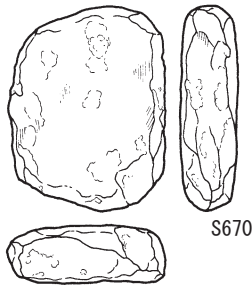
S667



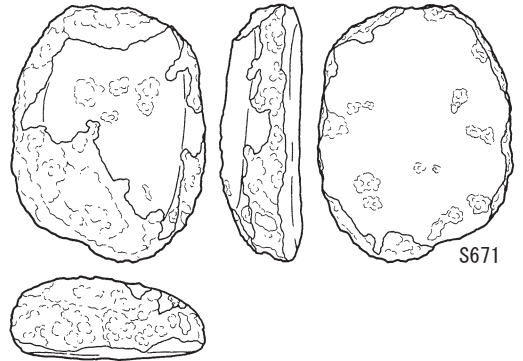
S668



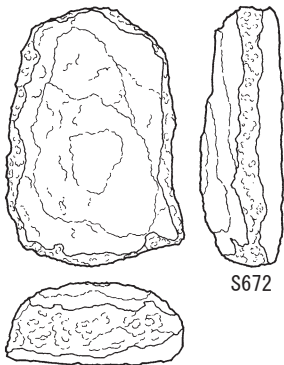
S669



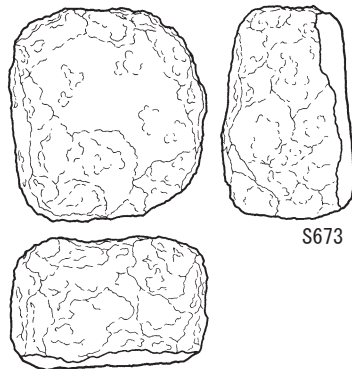
S670



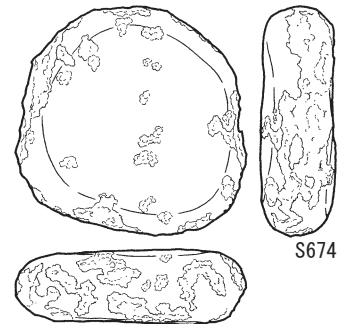
S671



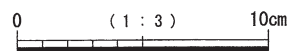
S672



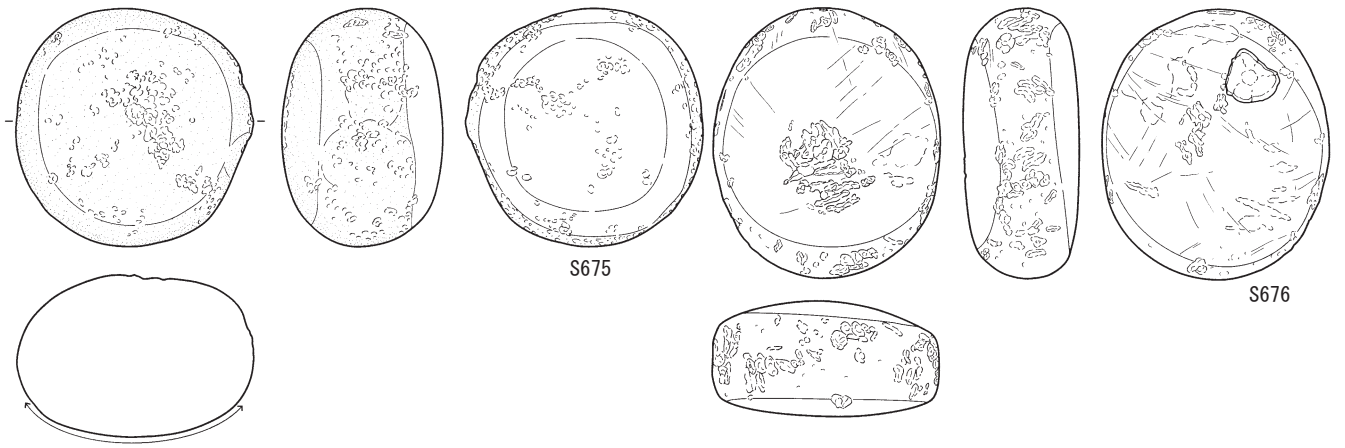
S673



S674

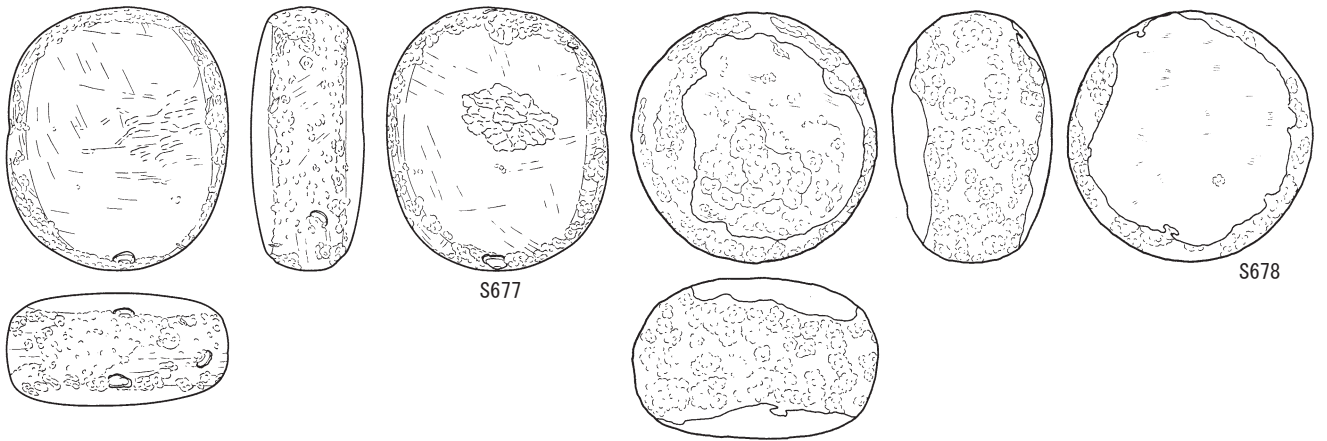


第2-194図 磨・敲石(8)



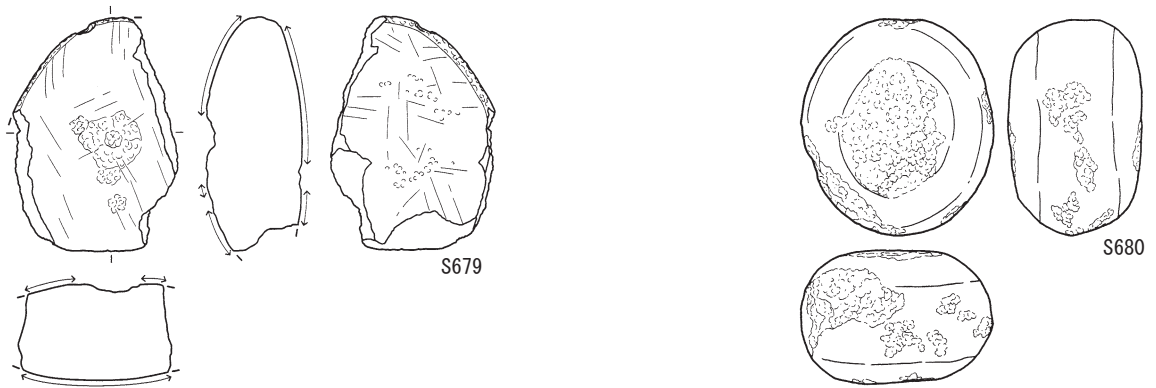
S675

S676



S677

S678

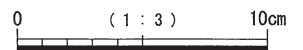


S679

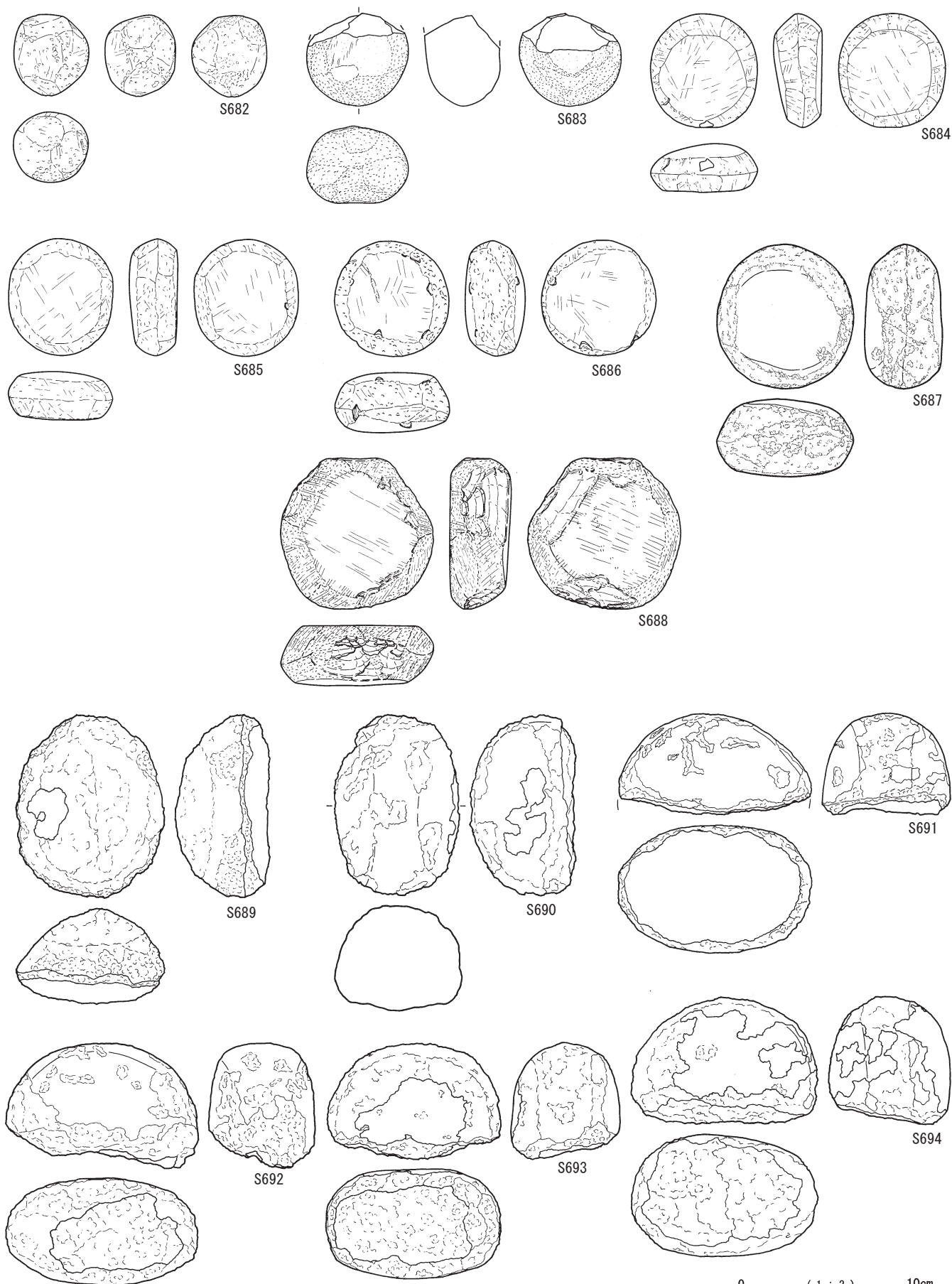
S680



S681



第2-195図 磨・敲石(9)

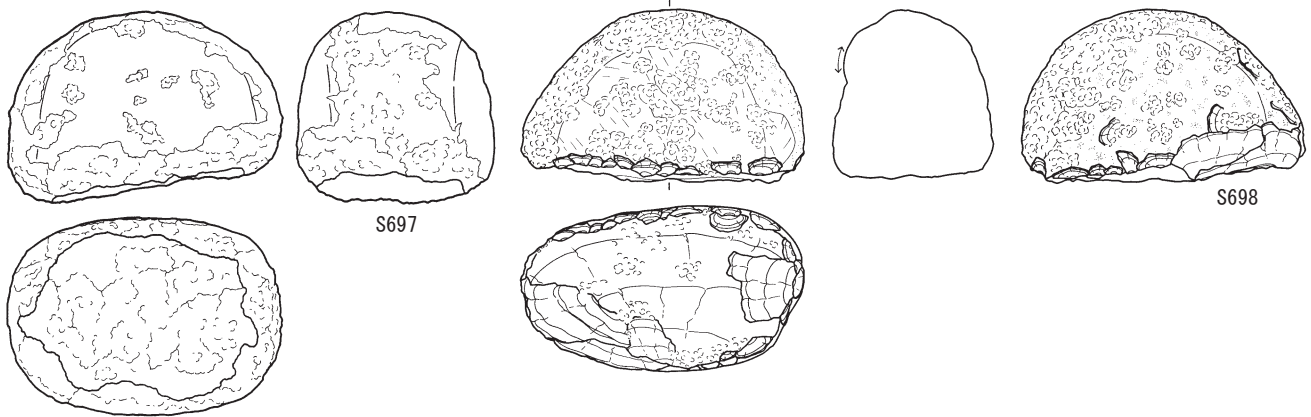


第2-196図 磨・敲石 (10)



S695

S696



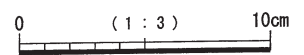
S697

S698

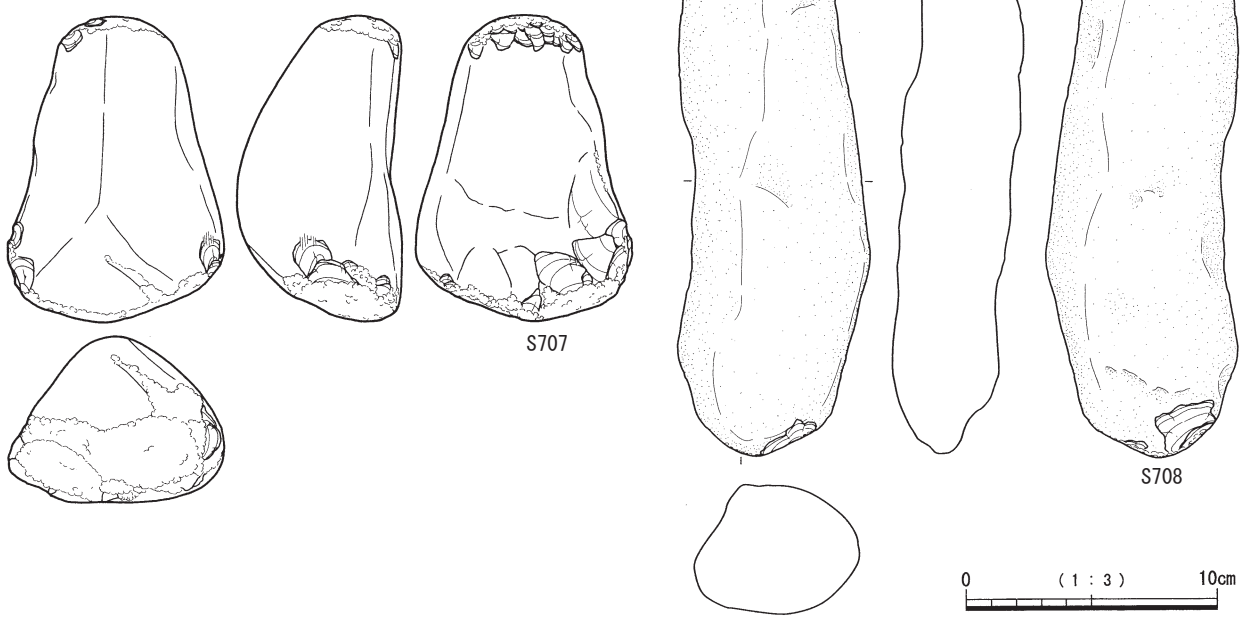
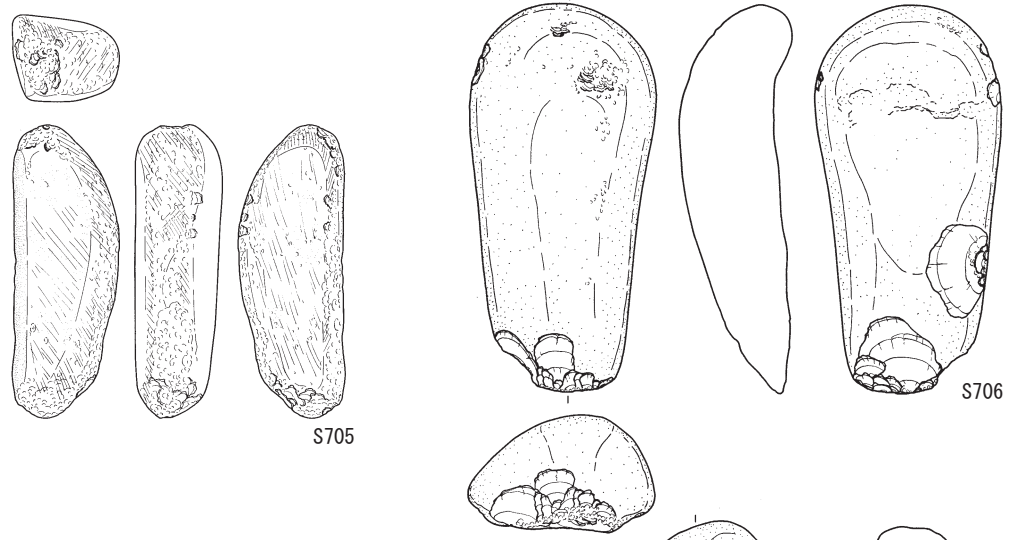
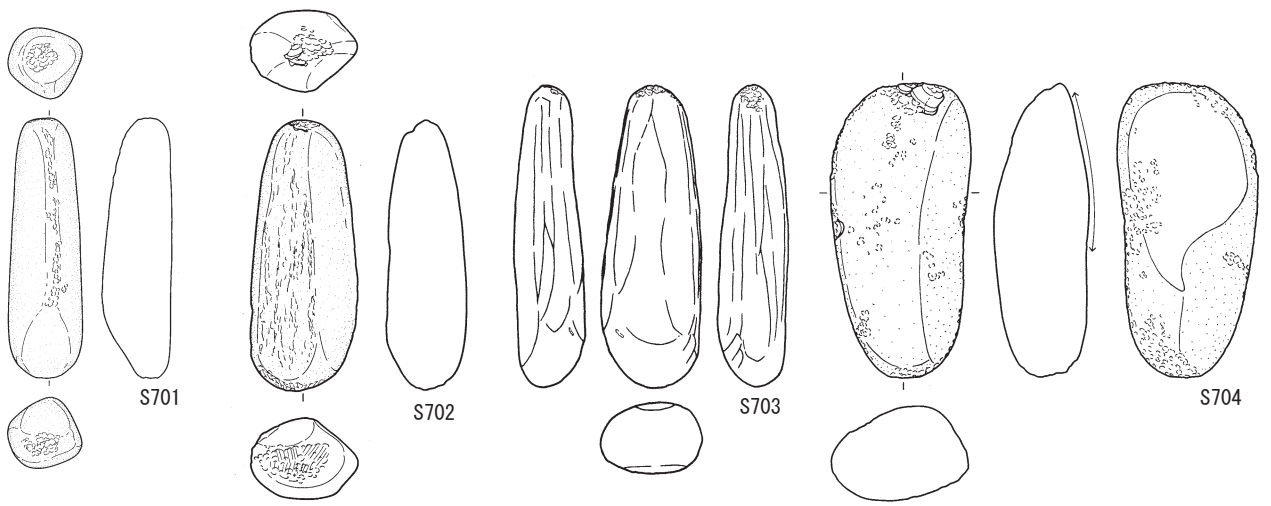


S699

S700

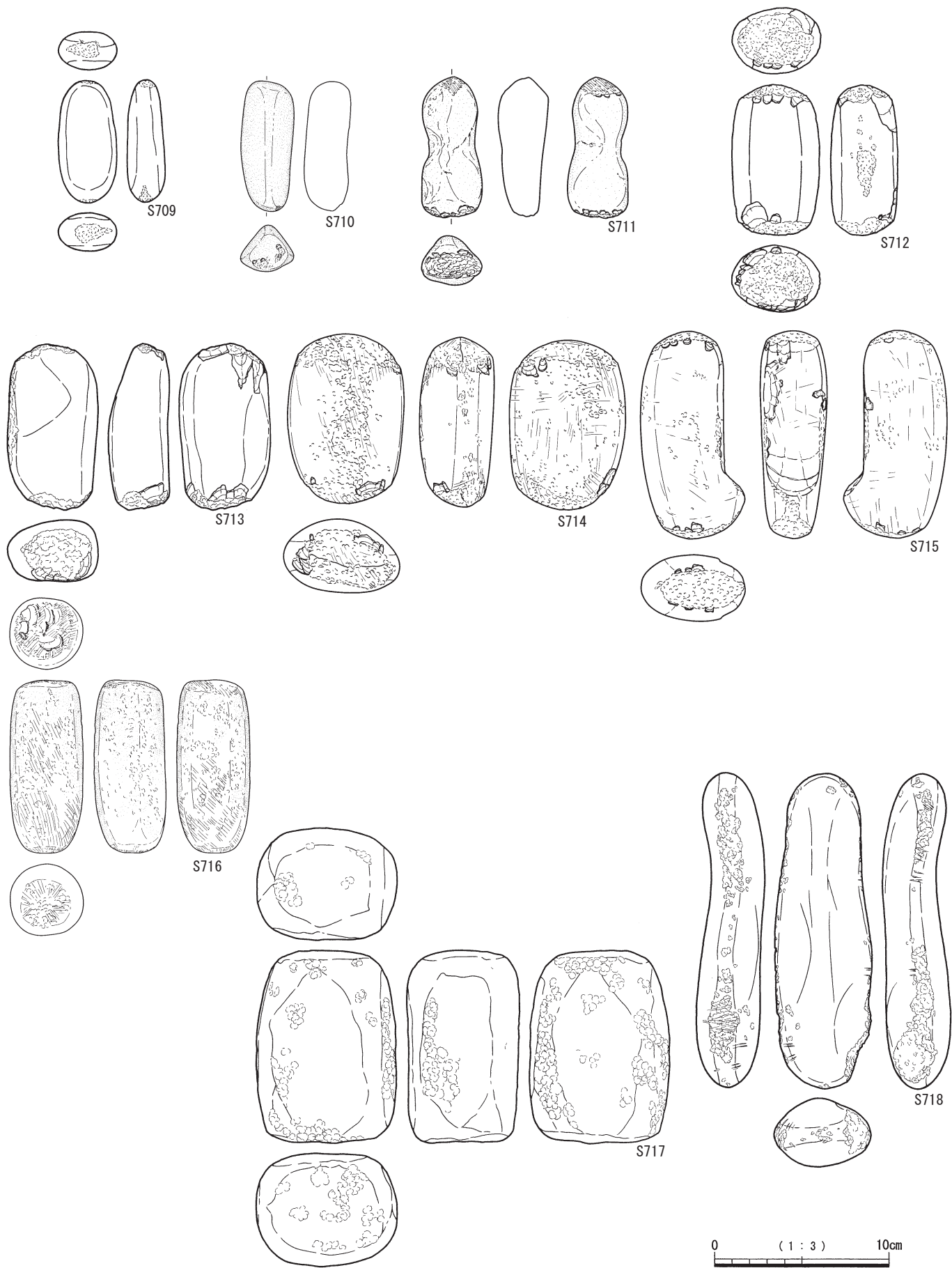


第2-197図 磨・敲石 (11)

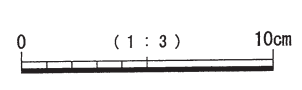
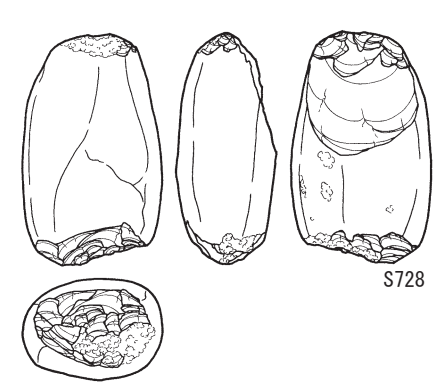
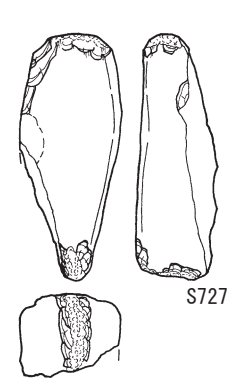
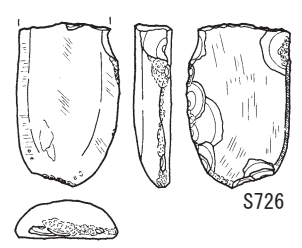
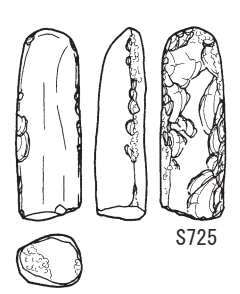
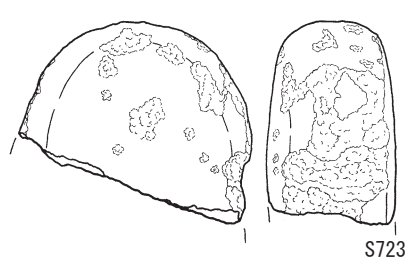
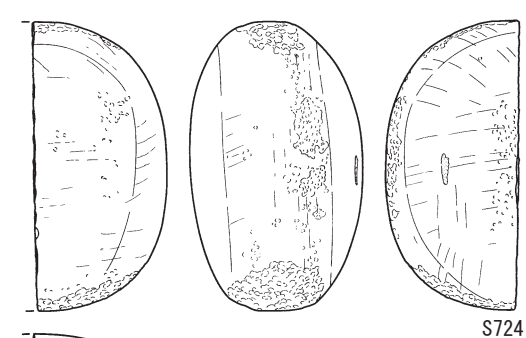
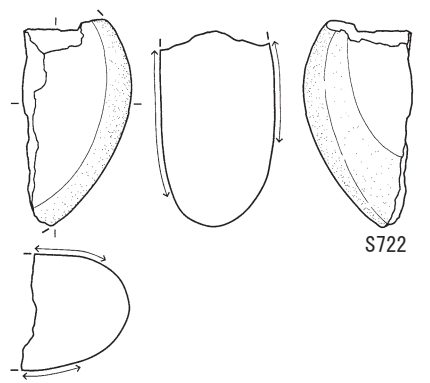
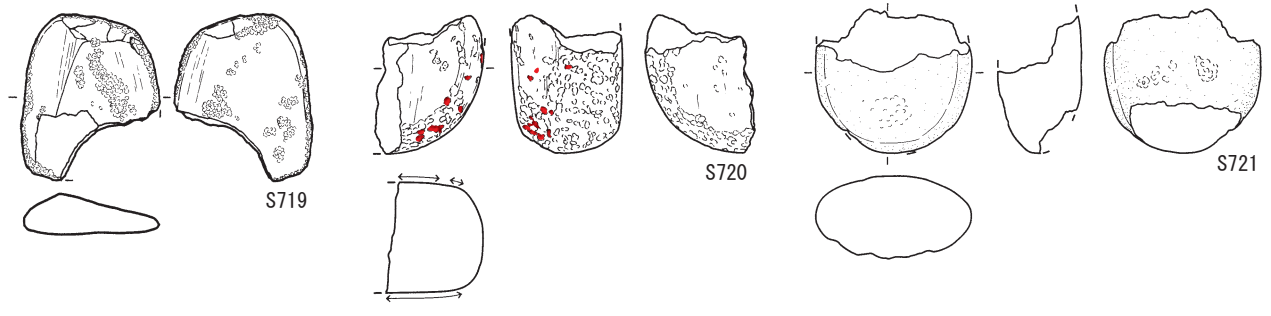


0 (1 : 3) 10cm

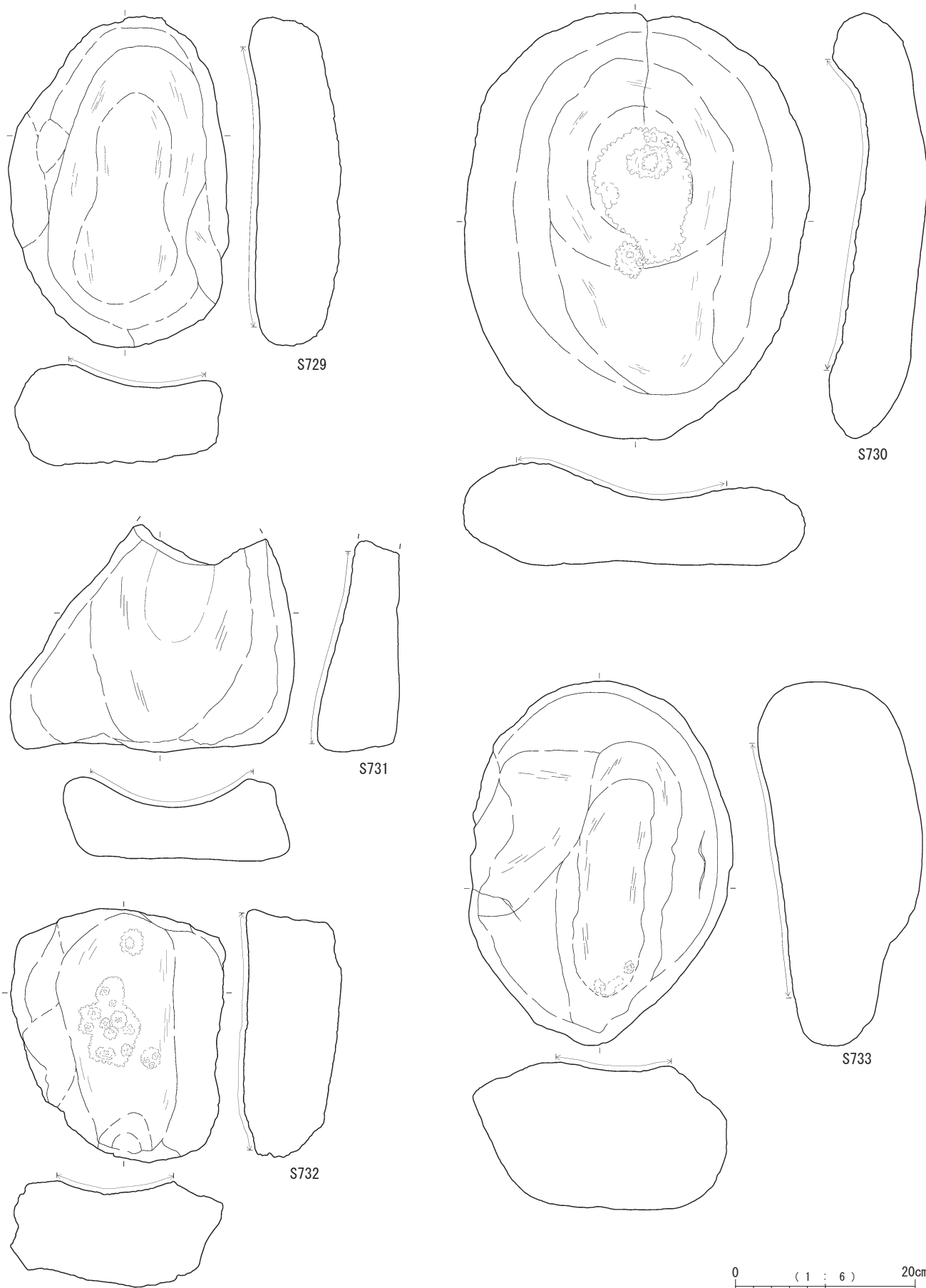
第2-198図 磨・敲石 (12)



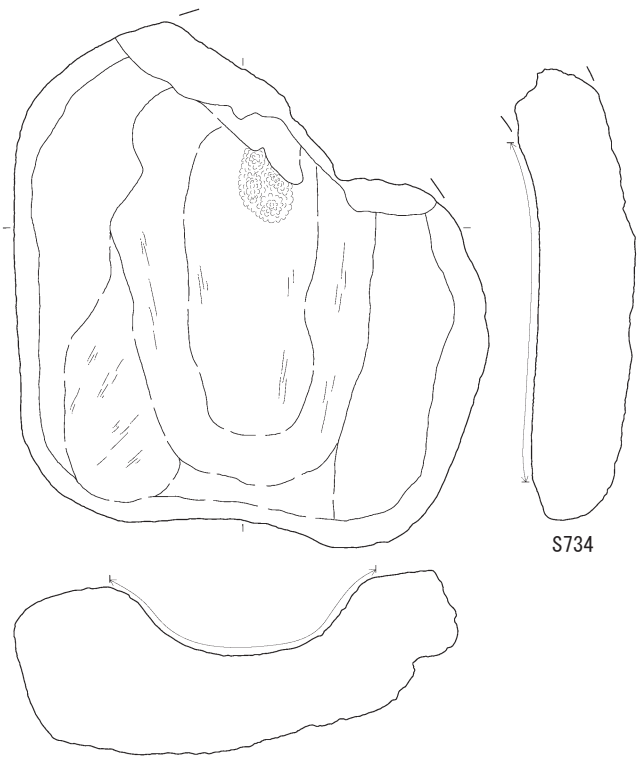
第2-199図 磨・敲石 (13)



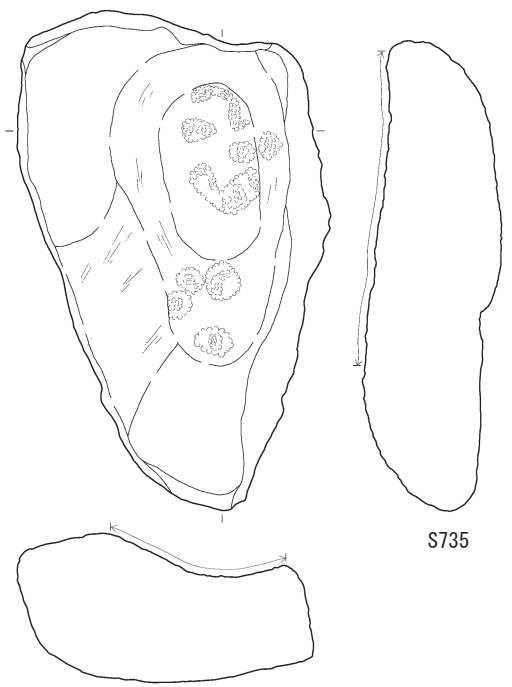
第2-200図 磨・敲石 (14)



第2-201图 石皿(1)



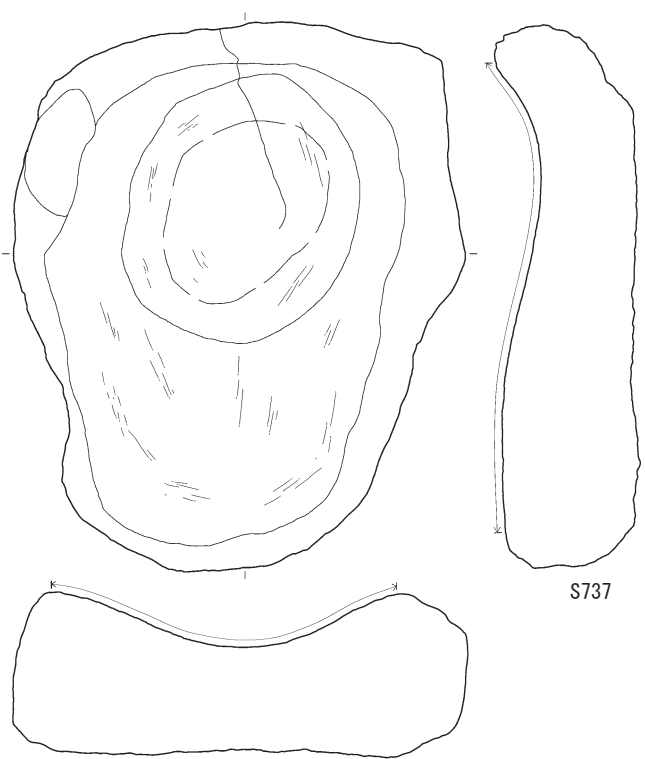
S734



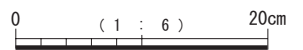
S735



S736



S737

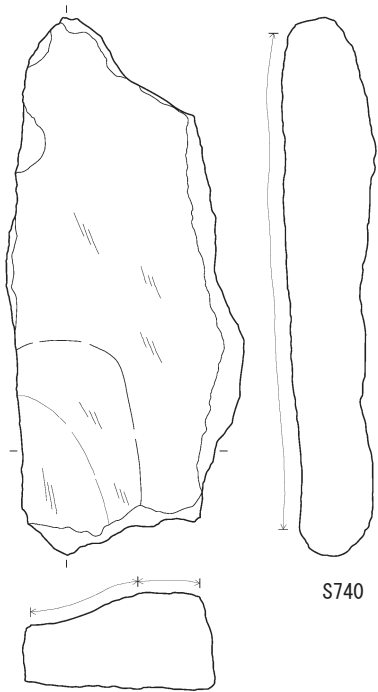


第2-202图 石皿(2)

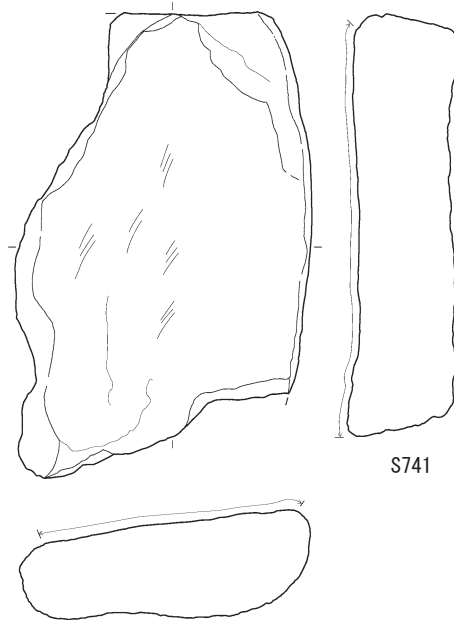


S738

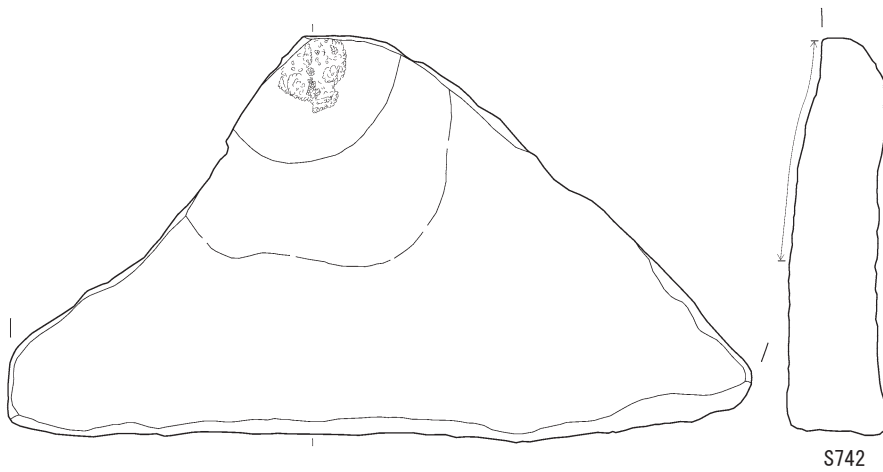
S739



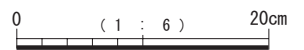
S740



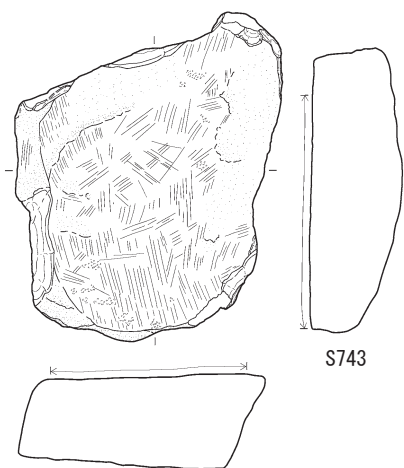
S741



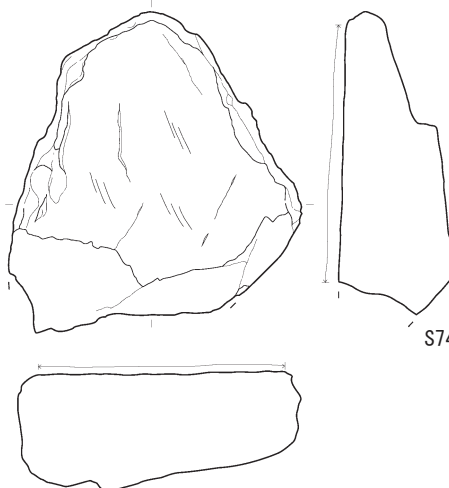
S742



第2-203图 石皿(3)



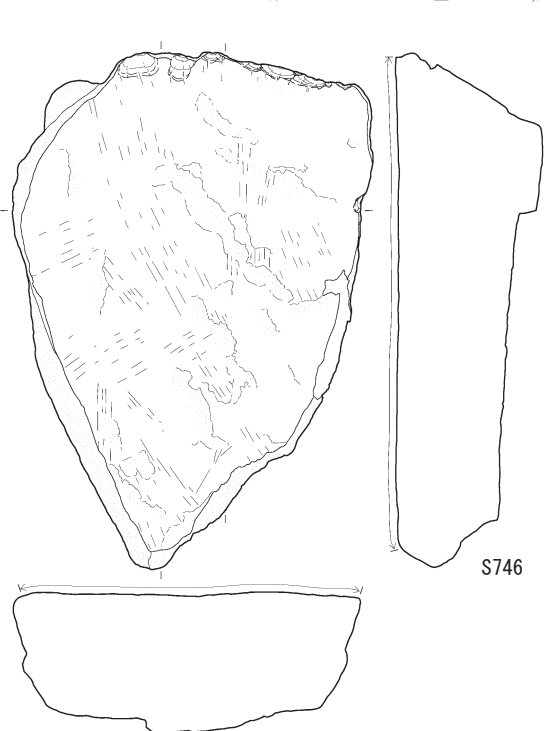
S743



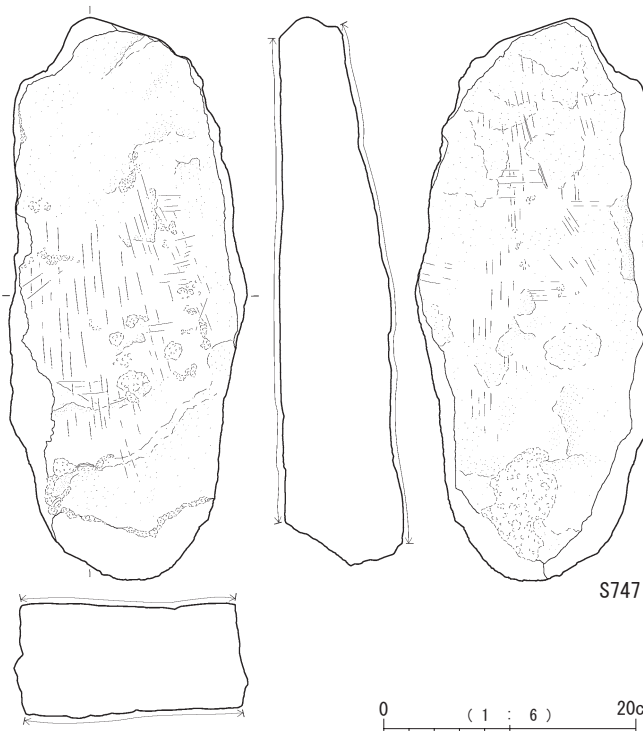
S744



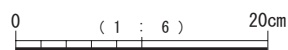
S745



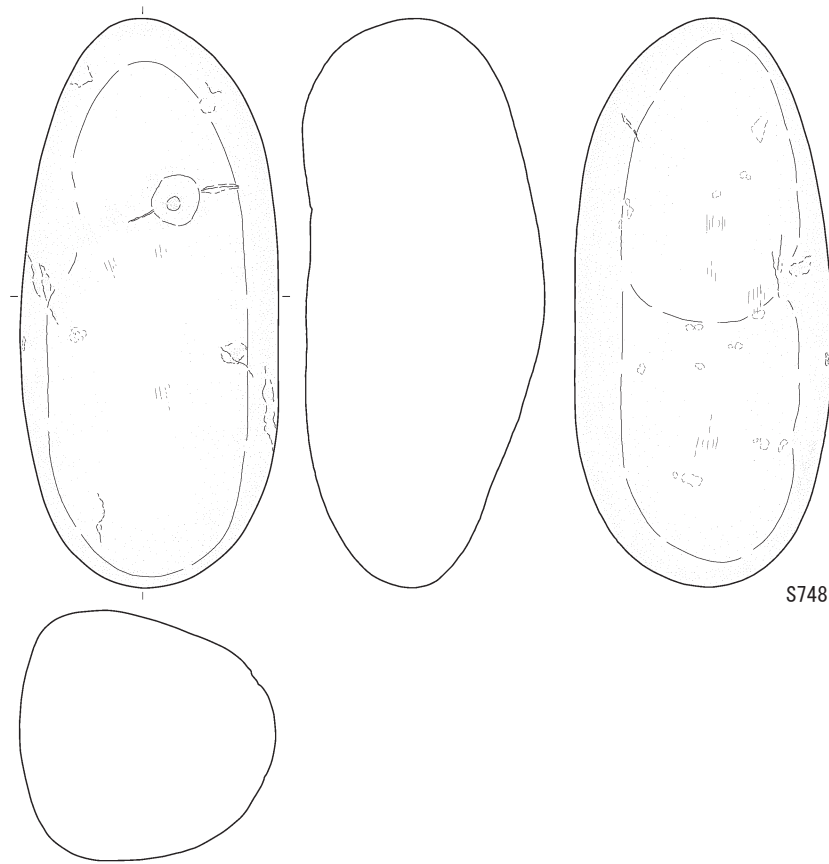
S746



S747



第2-204图 石皿(4)



第2-205図 石皿（5）

面がほぼ平坦な石皿（台石）である。

S738は、両面に摩耗面があり、縦断面は三角形状となる。

S739～743は、片面に摩耗面がある。S740は摩耗面の横断面が浅く磨り窪んでいる。S742は、平面形は三角形状であるが図上の上部を欠損している。摩耗面中央上部に浅い磨り窪みと敲打痕がみられる。S743は、側面にも複数の剥離痕がみられる。

S744は、図上の下部を欠損する。S745は、正面に浅い皿状、裏面には平坦な摩耗面をもつ。正面には磨面よりも古い多数の敲打痕が観察されることから、敲打整形された可能性もある。摩耗面で磨りつぶされた対象（残留物）の把握を目的として、科学分析（残存デンプン粒分析）を実施した結果、摩耗面と摩耗面ではない部分の2か所から、原形が円形や半楕円形の残存デンプン粒が検出され、コナラ属や堅果類のデンプンである可能性が指摘されている（第IX章 科学分析を参照）。

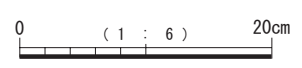
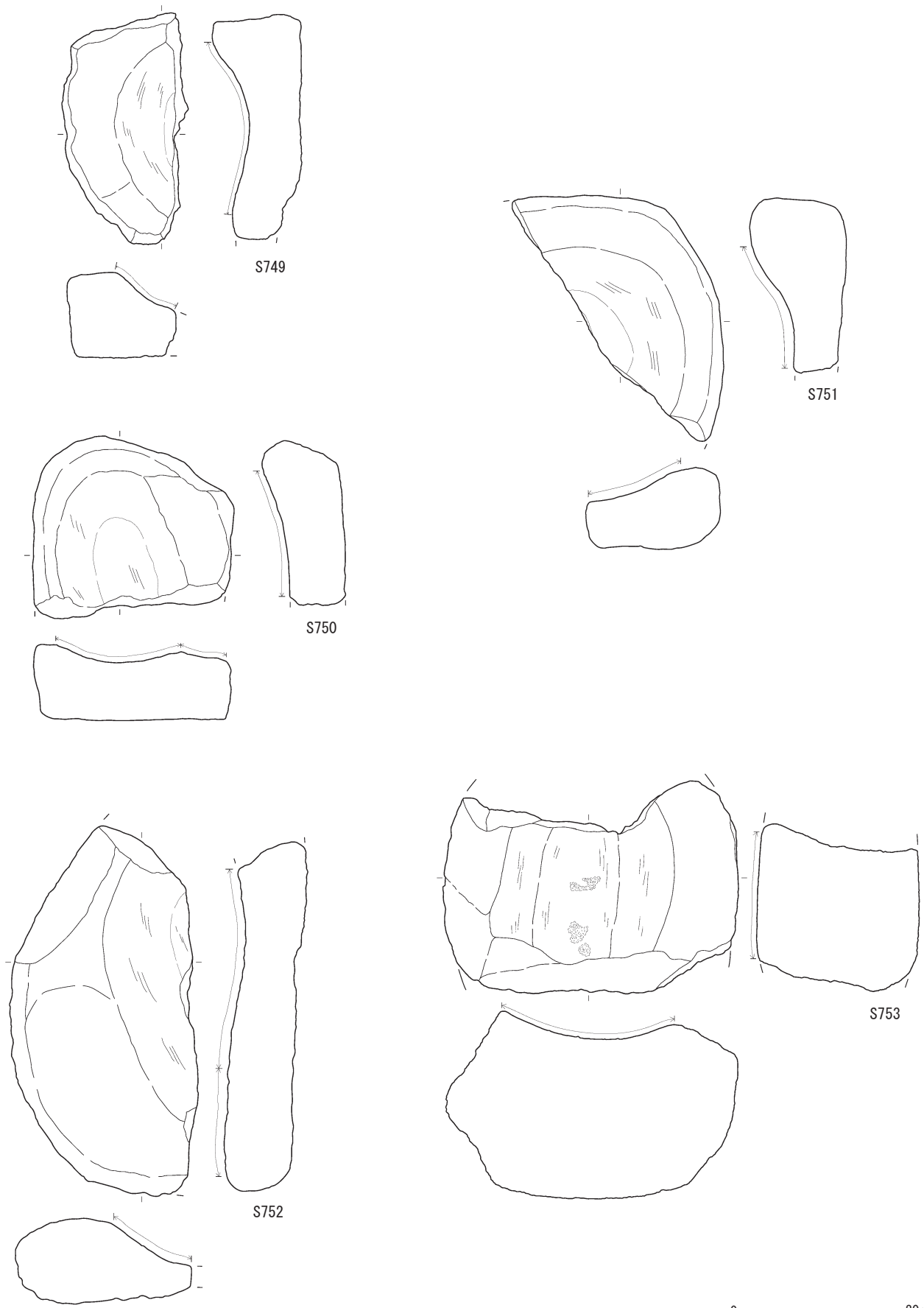
S746は、正面の平坦な摩耗面が鏡面のような光沢をもつ。S747は、両面に摩耗面があり、磨面や敲打痕がみられる。摩耗面で磨りつぶされた対象（残留物）の把握を

目的として、科学分析（残存デンプン粒分析）を実施した結果、摩耗面から原形が五角形の残存デンプン粒が検出され、クルミ属のものである可能性が指摘されている（第IX章 科学分析を参照）。

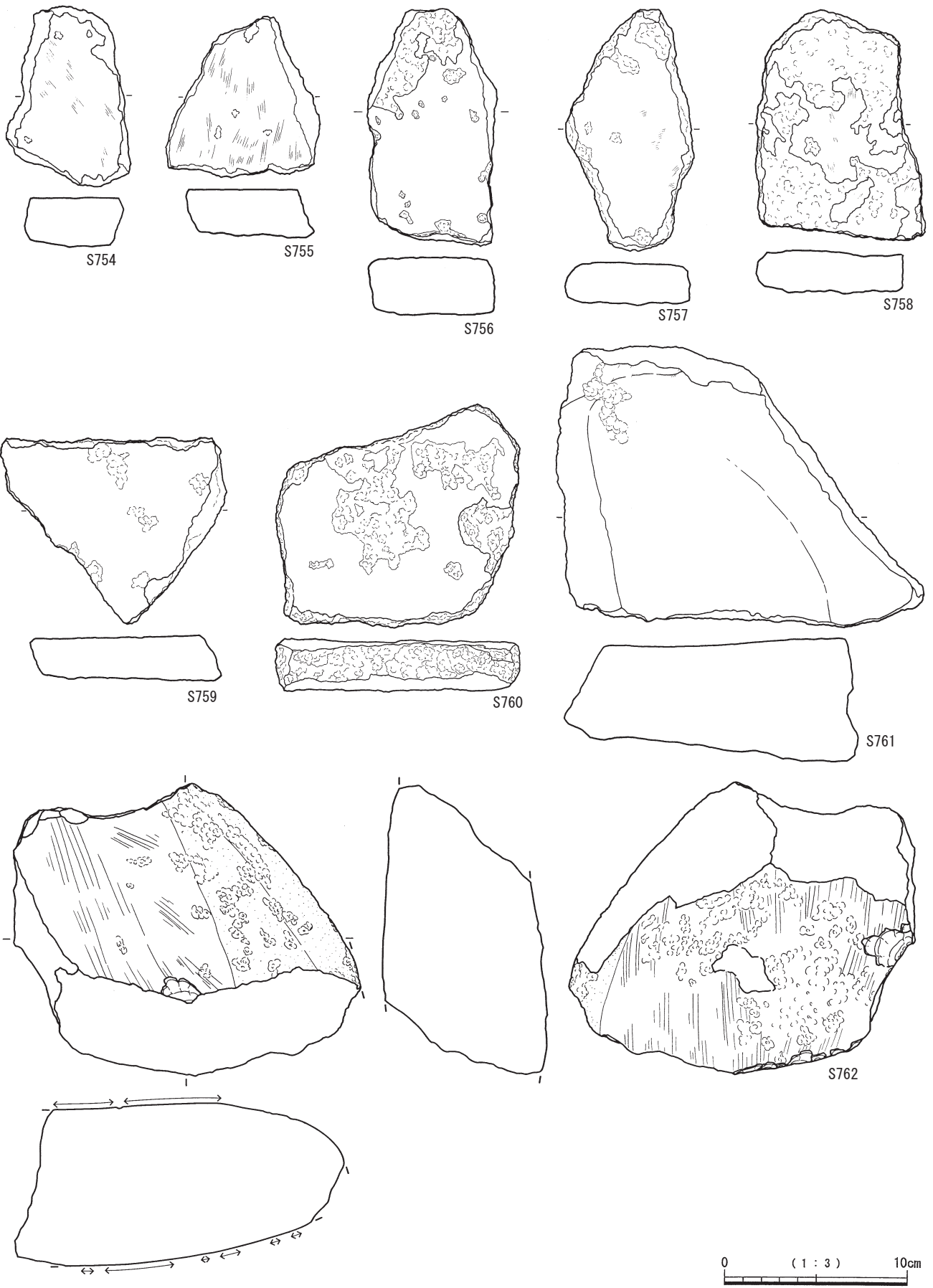
S738～S742の5点は花崗岩製、S743～S747の5点は砂岩製である。

V類 S748は、縦長の楕円礫で部分的に擦痕がみられる。台石の可能性があり掲載したが、摩耗面の使用痕は顕著ではない。安山岩B類製である。

VI類 S749～S762は、石皿の欠損品または小型の石皿である。S749～S753は、摩耗面の縦・横断面が深い「U」字となるほどよく磨り窪んでおり、I～III類の破片である可能性が高い。S753は、厚手で摩耗面中央に敲打痕がみられる。S754～S762は、IV類の欠損品または小型の石皿（台石）である。S754・S755は、片面のみが作業面で摩耗面がある。S756～S759は、摩耗面に敲打痕がある。S760は、摩耗面である正面と側面に敲打痕が巡る。S761は、正面に磨面と敲打痕、裏面に磨面がある。S762は、作業面に磨面と敲石痕があり被熱が認められる。



第2-206图 石皿(6)



第2-207图 石皿(7)

砥石（第2-208図～第2-209図 S763～S779）

S763～S779は、砥石である。素材礫の形状が磨・敲石と類似するものもあるが、厚みから砥石として分類した。

S763・S765は扁平な剥片を利用し、両面ともに作業面（砥面）がある。S764は、一部を欠損する。正面から右側面にかけて擦痕がみられる。裏面はわずかに敲打痕と剥離面が残存する。

S766～S770は、据え置き型の平砥石の可能性があるのである。S766は、右側面に敲打痕がみられる。S767は、残存部正面のほぼ全体に作業面（砥面）がある。S768は、正面から向かって右側の欠損部の断面の角を面取りするように研磨されている。S769は、右側面に敲打痕がある。S770は、正面に明瞭な作業面（砥面）があり、よく使用された結果、断面が凹んでいる。

S771～S775は、扁平な楕円礫などを利用した砥石である。いずれも小型で、携帯用砥石の可能性はある。

S771は、両面ともに作業面（砥面）がある。S772は、正面に擦面、側面の一部に敲打痕がみられる。S773は、両面に擦痕、右側面に敲打痕、剥離面が残存する。

S774は、両面とも使用される。S775は、正面のみが使用され、右側面には敲打痕がみられる。S766・S774は、欠損後に敲打を行った可能性がある。

S776・S777は、正面に「U」字状となる深い凹みがある有溝砥石である。S776は玉砥石、S777は磨製石斧のV類（鑿型）用砥石の可能性はある。S778は、正面に5面の作業面があり、断面も作業面として利用している。作業面の形状から磨製石斧を研磨した可能性がある。

S779は、「U」字や「V」字状の凹みが正面に13条、裏に12条ほど認められる。石器を研磨するには砥石の粒度が粗いことから、骨角器を製作するための砥石、あるいは筋砥石の可能性はある。S765・S769・S770は被熱の跡が確認でき、S769には煤が付着する。

S777・S779の2点のみ凝灰岩で、その他の15点は砂岩製である。

擦切石器（第2-210図 S780～S787）

S780～S787は、擦切石器である。扁平な剥片の上面と左右両側辺を剥離成形し、剥片の一边あるいは二辺を研磨によって刃部に仕上げたものである。

使用の度合いにより違いがあるものの、刃部の断面は基本的に三角形となる。鑿状の磨製石斧（磨製石斧V類）などを製作する際、石英製の砂などを研磨剤として用い、研ぎ続けることによって原石から石斧の素材を分割するための石器である。

掲載遺物における出土層は、すべてIVb層である。

S780～S783は、下辺に刃部があり、ほぼ全体に研磨痕がみられる。S784は、両面ともに研磨痕があり、刃部の断面は四角形に近く、使用による結果と考えられる。

S785は、下辺に刃部があり正面上部に剥離面が残存する。S786は、下辺に刃部があり、裏面に整形前の素材としての剥離面を残す。S787は、下辺及び左側辺の二辺に刃部がある。裏面に剥離面が残存する。

S780～S787の8点はすべてキラキラした雲母質を含む砂岩製である。

石錘（第2-211図～第2-213図 S788～S832）

S788～S832は、石錘である。扁平な円礫・楕円礫・方形礫の長軸の両端あるいは短軸の両端を打ち欠き製作された、いわゆる打ち欠き石錘である。

打ち欠き部の数によってI・II類に大別し、さらにI類については、形状や残存状況によって細分した。

打ち欠き部を成形する両極剥離を行った後、剥離面を潰すための敲打痕が確認されるもの、紐を掛け使用した紐ずれの痕が確認できるものがある。

掲載遺物における出土層の内訳は、III層1点、IV層1点、IVa層9点、IVb層32点、V層1点である。

I a類 S788～S805は、扁平な円礫・楕円礫の長軸の両端を打ち欠いて整形される。S795・S797・S803・S804は、打ち欠き部に剥離面を潰すための敲打痕がみられる。打ち欠け部に掛けた紐が痛むことを防ぐためと考えられる。S791～S793・S796・S797・S805には、両面に紐ずれ痕と考えられる摩耗がみられる。S805は、被熱した礫を使用している。

S793～S797・S803～S805の8点は、砂岩製である。S789・S790・S792・S799・S801・S802の6点は、ホルンフェルス製である。S788・S791・S798・S800の4点は、安山岩B類製である。

I b類 S806～S817は、扁平な方形礫の長軸の両端を打ち欠いて製作されたものである。S806は、側面に敲打痕がみられる。S807・S808は、側面のほぼ全周にわたり敲打痕がある。S814は正面に敲打痕がある。S816は、両極の打ち欠き部に敲打痕が集中しており、剥離面を潰すために入念に加工している。S817は、打ち欠き部の剥離面を潰すための敲打を含め、側面のほぼ全周に敲打痕がみられる。

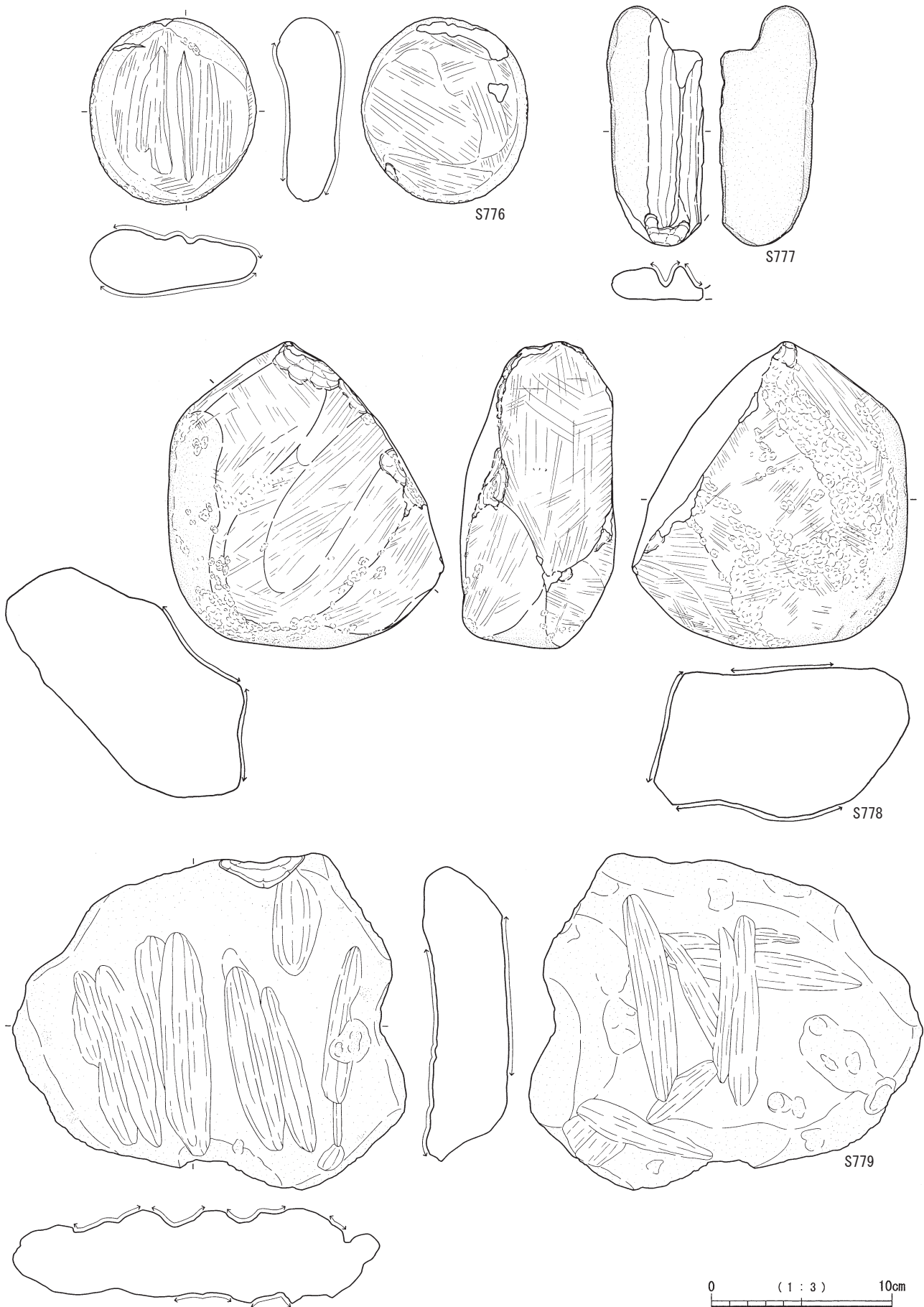
S808～S813の6点は、ホルンフェルス製である。S806・S814～S817の5点は、砂岩製である。S807は、花崗岩製である。

I c類 S818～S821は、扁平で角のとれた三角形の礫の長軸両端を打ち欠いたものである。素材となる礫の尖った部分と対極する部分を打ち欠いている。

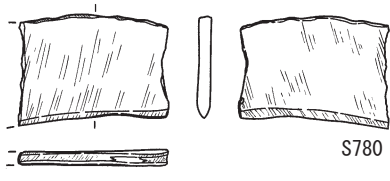
S818は、打ち欠き部に刃潰しのための敲打痕がみられる。S819は、正面の左側面に打ち欠きがないことから、素材礫の形状を利用したのと考えられる。S821は、正面の右側面に敲打痕が集中しており、石錘から敲石に転用、または敲石から石錘に転用された可能性がある。



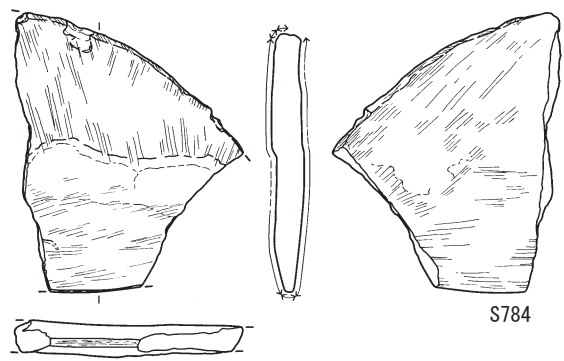
第2-208图 砥石(1)



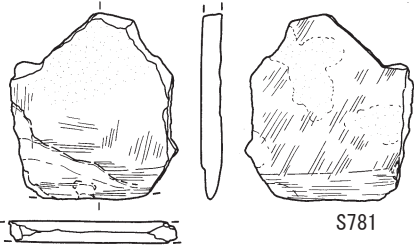
第2-209图 砥石 (2)



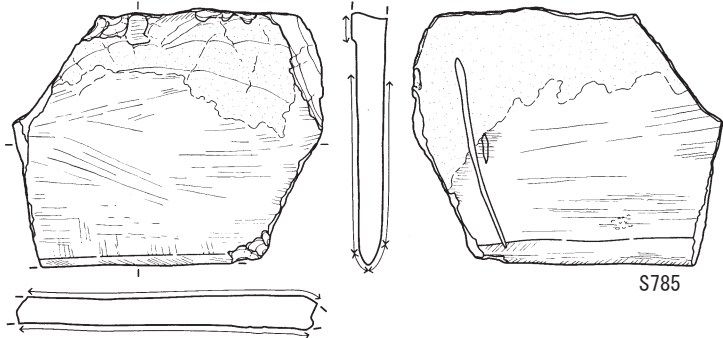
S780



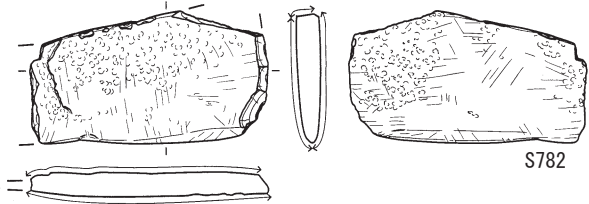
S784



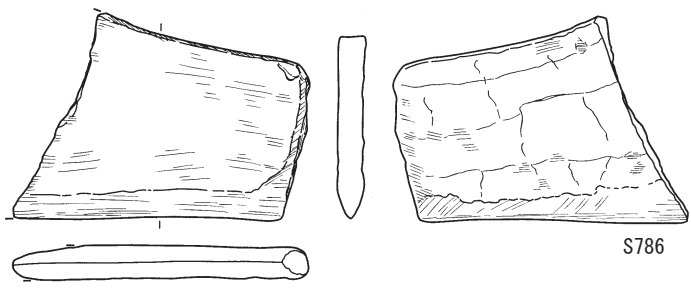
S781



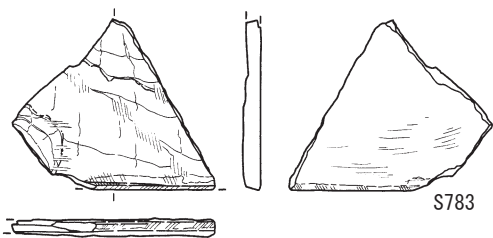
S785



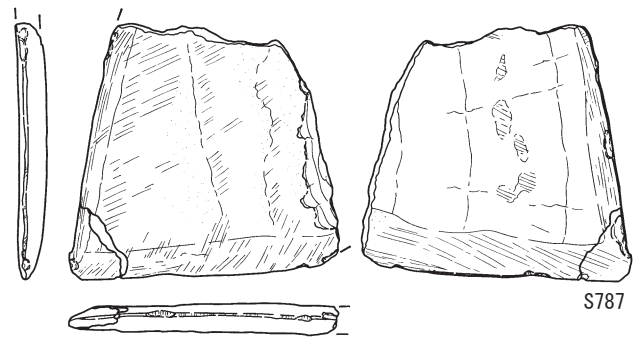
S782



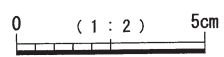
S786



S783



S787



第2-210图 擦切石器

4点ともすべて砂岩製である。

I d類 S822～S826は、扁平な楕円礫・不定形な礫の両極を打ち欠いたものである。打ち欠き部を中心に一部を欠損するもの、製作途上の可能性があるものである。

S822は、裏面の打ち欠き部から大きな剥離が延び、製作途中で破棄された可能性がある。S823・S824は、正面から正対し左側を欠損する。S825は、両極の打ち欠き部が明瞭に作出されていないため製作途上の可能性がある。S826は、正面の打ち欠き部から左側の一部を欠損する。打ち欠き部は凹状に整形されており特徴的である。打ち欠き部も含め、側面の全周に敲打痕がみられる。

S822・S823・S825の3点はホルンフェルス製である。S824は、花崗岩製である。S826は、砂岩製である。

II類 S827～S832は、扁平ではほぼ方形の礫を素材とする。紐を十字に掛けて結束したと考えられ、長軸、短軸の両端を合わせ、計3～4か所の打ち欠き部をもつ。打ち欠き部を整形せず素材礫の形状を利用したと考えられるものを含む。

S827は、裏面の短軸下縁にのみ打ち欠き部の剥離がみられる。S828は、短軸方向下縁に打ち欠きがみられず、素材礫の形状を利用して紐を掛けたと考えられる。S829は、短軸両極の剥離が延びていないため、素材礫の形状を利用したものと考えられる。S830は、正面上端に複数の剥離面がみられる。両面とも短軸方向の下端には剥離がみられないことから、素材礫の形状を利用したと考えられる。S831は、長軸、短軸双方の両端に打ち欠き部の剥離がみられる。S832は、両面とも長軸に打ち欠き部整形のための剥離がある。短軸は正面の上端にのみ剥離がみられ、素材礫の形状を利用して紐を掛けたと考えられる。

S828・S831・S832の3点は、ホルンフェルス製である。S829・S830は、砂岩製である。S827は、花崗岩製である。

石製品 (第2-214図・第2-215図 S833～S838)

S833～S838は、石製品である。装飾品や用途不明の石製品を含む。

掲載遺物における出土層の内訳は、IVa層1点、IVb層5点である。

S833は、砂岩製である。上部中央が穿孔されている。断面形状から両面穿孔と考えられる。完形で右側縁には2本を1単位とする刻みが4か所、計8本施される。垂飾品の可能性がある。S834は、蛇紋岩製の玦状耳飾りである。右半分と左側の下端部を欠損している。左半分は欠損後、破断面が研磨されている。玦部の上位に両面穿孔を施し、垂飾品に転用されたと考えられる。S835は、長楕円形を呈する有孔石製品である。穿孔は、器面に残る剥離の前に行われている。正面の側縁両端と裏面右側縁の下端に大きな剥離面が残存するほか、両面ともに整

形時のものと考えられる敲打痕がある。いわゆる「鯉節形大珠」の可能性もある。頁岩B製である。S836は、ホルンフェルス製の石製品である。半分程度を欠損する。両面とも剥離痕が残存する。中央部に孔があり、左側面の全体には刻み状の痕跡が連続してみられるが、いずれも自然面である可能性を残す。S837は、砂岩製の石製品である。下部を欠損しているが、残存部の形状は隅丸長方形形状である。断面は長方形であったと考えられる。側面には研磨によって細い刻み状の加工が連続して施される。刻み状の加工は、右側面では裏面側に上部にのみ残り、下部は研磨が施されており対照的である。刻み状の加工は鋭利な工具で施されたと考えられるが、その後の敲打によって一部が消滅している。用途は不明である

S838は、やや厚みのあるホルンフェルス製の楕円形礫で、全面に光沢がみられるためペットストーンの可能性もある。S834が縄文時代前期末に、S835が縄文時代後期前半に該当すると考えられる。

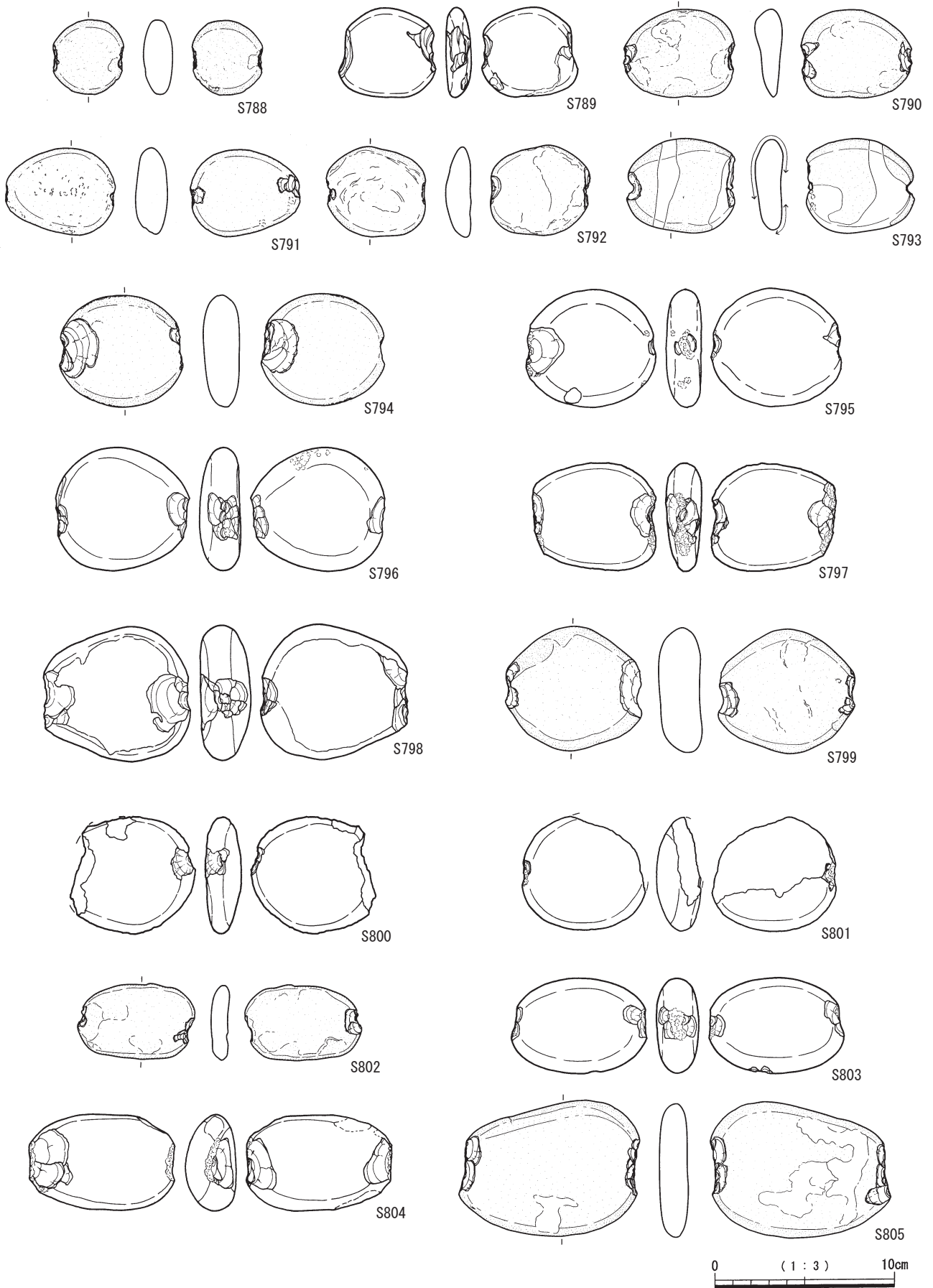
軽石加工品 (第2-216図・第2-217図 S839～S850)

S839～S850は、軽石加工品である。人為的な穿孔や溝状の凹み、磨面があるものなど、使用痕跡がみられるものを含めて軽石加工品とした。

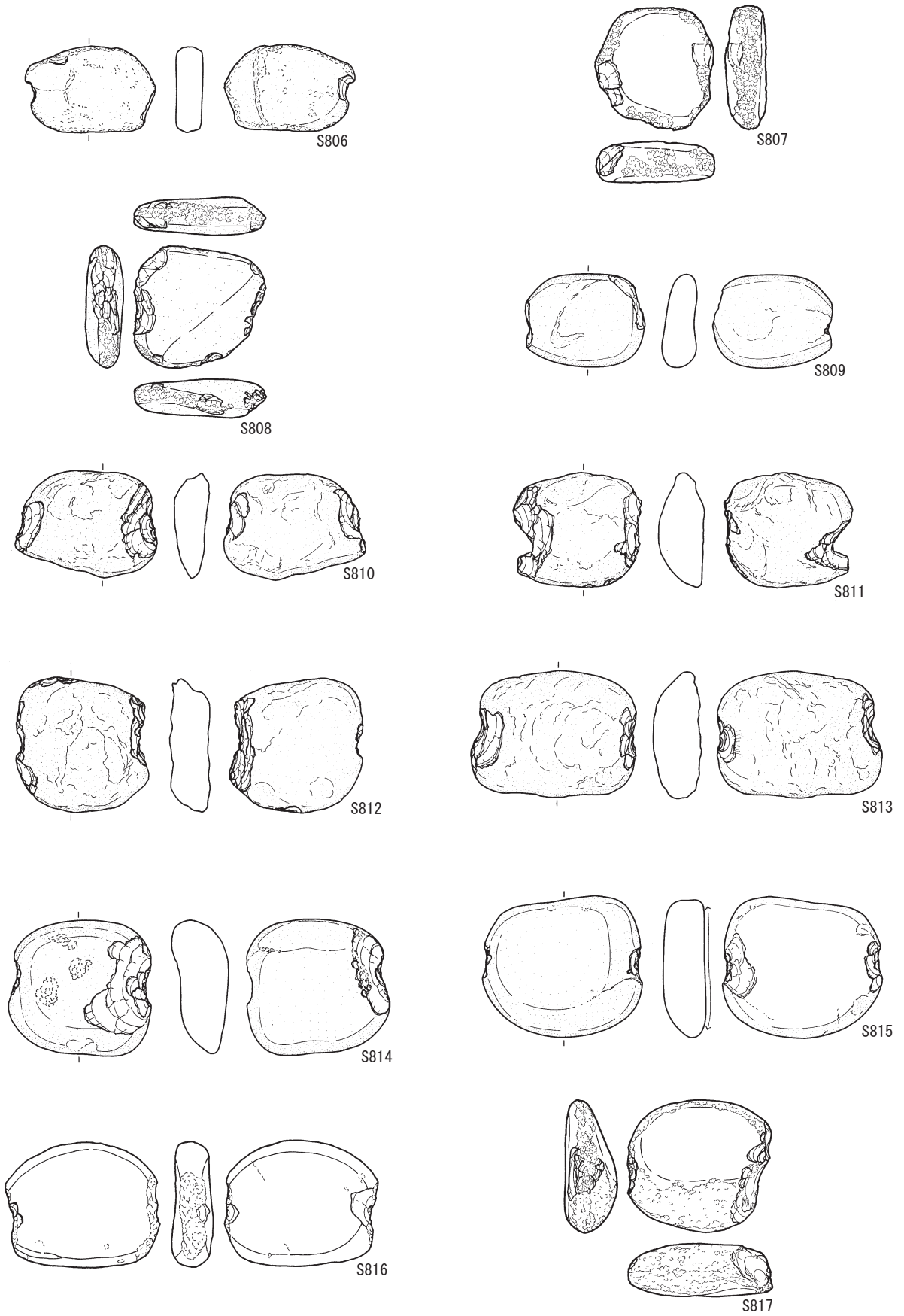
軽石加工品は、総点で124点出土している。判別が難しいものや原石は数量に含んでいない。

掲載遺物における出土層の内訳は、IVa層3点、IVb層8点、VI層1点である。

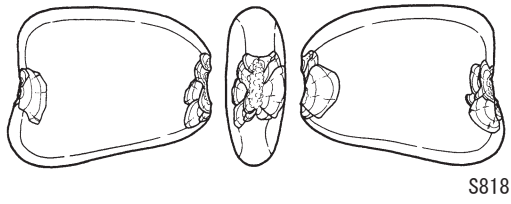
S839は、両面、側面ともに面取りされ、中央部やや上位に孔径6～9mmの貫通孔が2か所ある。下位の貫通孔は一部を欠損する。断面形状から両面穿孔と考えられる。垂飾品の可能性がある。S840は、ほぼ円形を呈し、厚みがあり断面形は楕円形となる。ほぼ中央部に両面穿孔による貫通孔がある。垂飾の可能性がある。S841は、上部端を巡るような凹みがみられることから浮子の可能性がある。S842は、正面上端の左側縁が逆「L」字状に抉る加工が施されており、貫通孔の一部が再加工された可能性がある。S843～S845は、正面に「U」字状となる溝状の凹みと平坦面がある。下面も面取りされており、沈線状の擦痕がみられる。S844は、正面に「U」字状の凹み、右側面に3か所、沈線状の凹み痕がある。左上の側面は明瞭に面取りされる。S845は裏面と右側面の2か所に磨面がみられる。S846は、両面が研磨によって面取りされ、「V」字状となる溝状の加工が施される。裏面の溝状の加工痕を挟み、中央部に赤色顔料の可能性のある付着物がみられる。S847は両面、S848は正面の2面、裏面が1面、面取りされる。S849は、裏面全体が研磨によって面取りされ、断面は凹状に窪んでいる。S850は、正面全体に擦痕が確認できることから石皿の可能性もある。



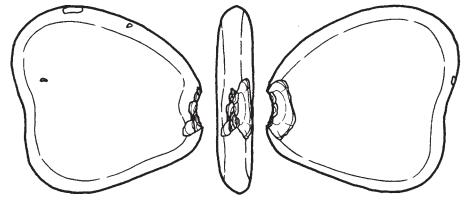
第2-211図 石錘 (1)



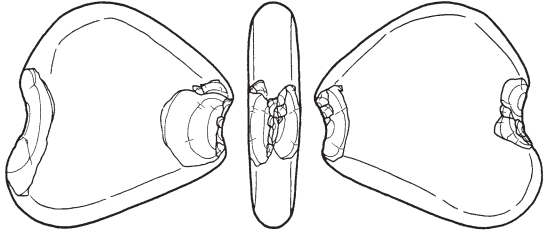
第2-212図 石錘(2)



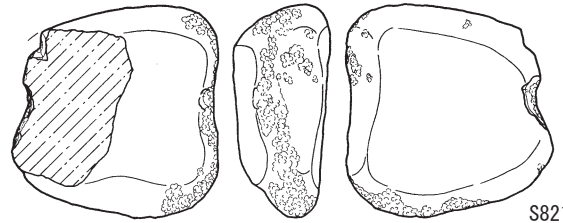
S818



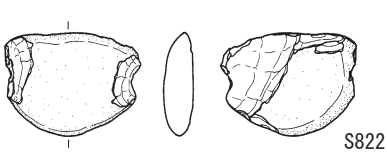
S819



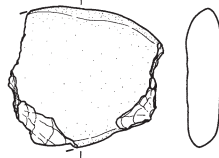
S820



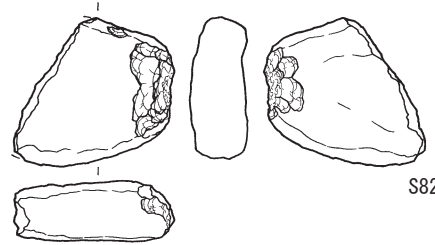
S821



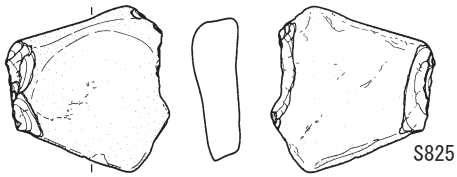
S822



S823



S824



S825



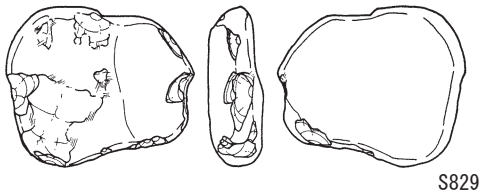
S826



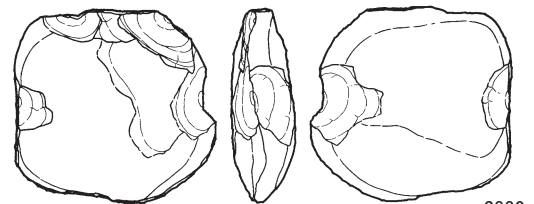
S827



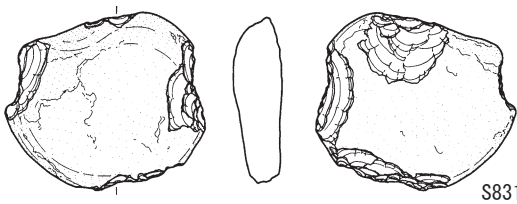
S828



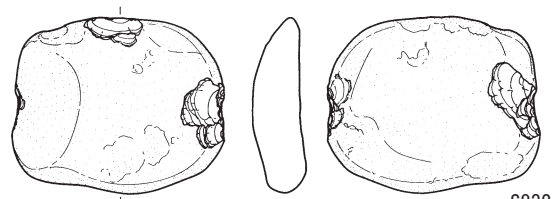
S829



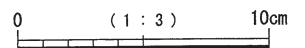
S830



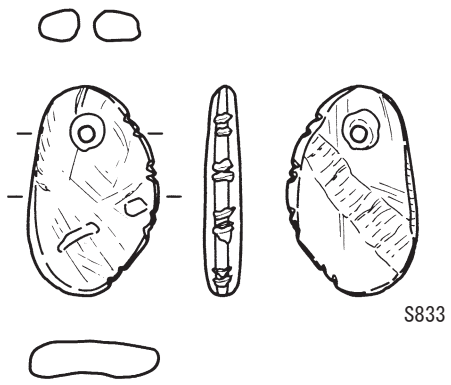
S831



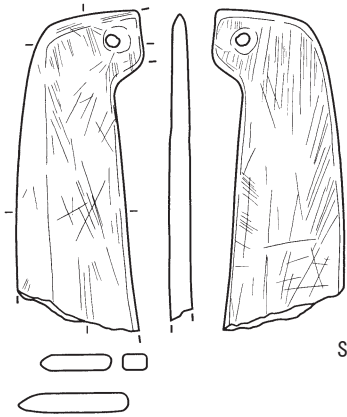
S832



第2-213図 石錘 (3)



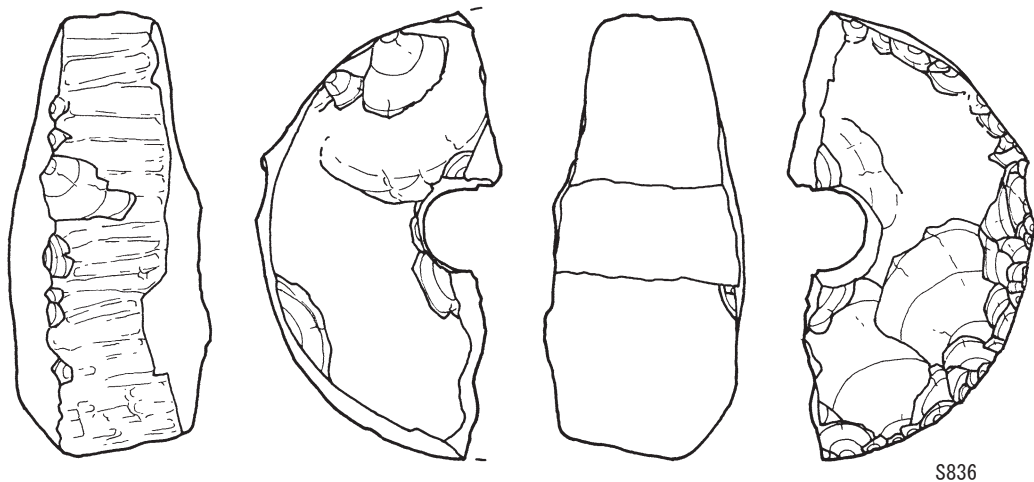
S833



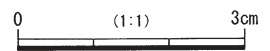
S834



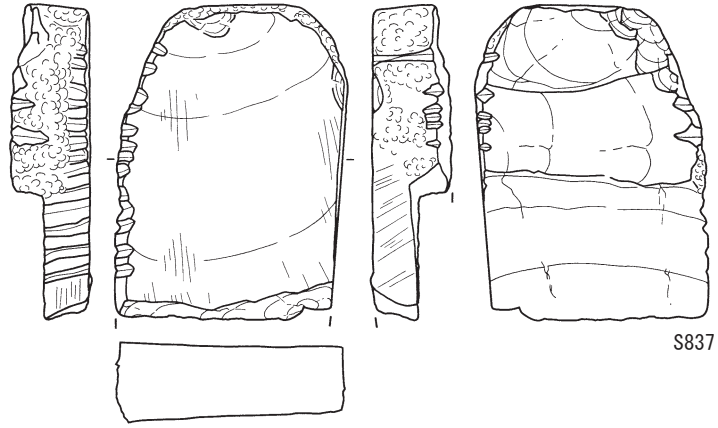
S835



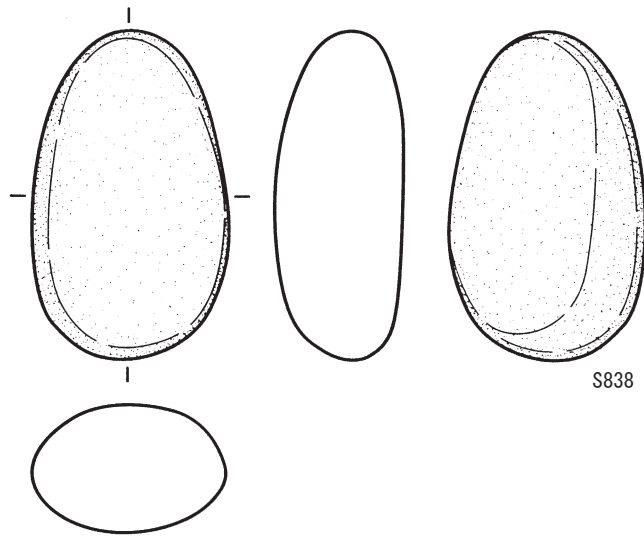
S836



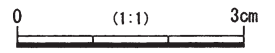
第2-214図 石製品(1)



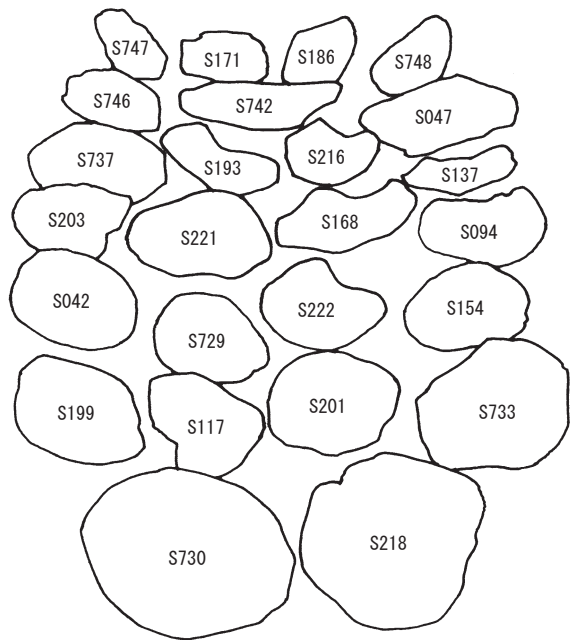
S837



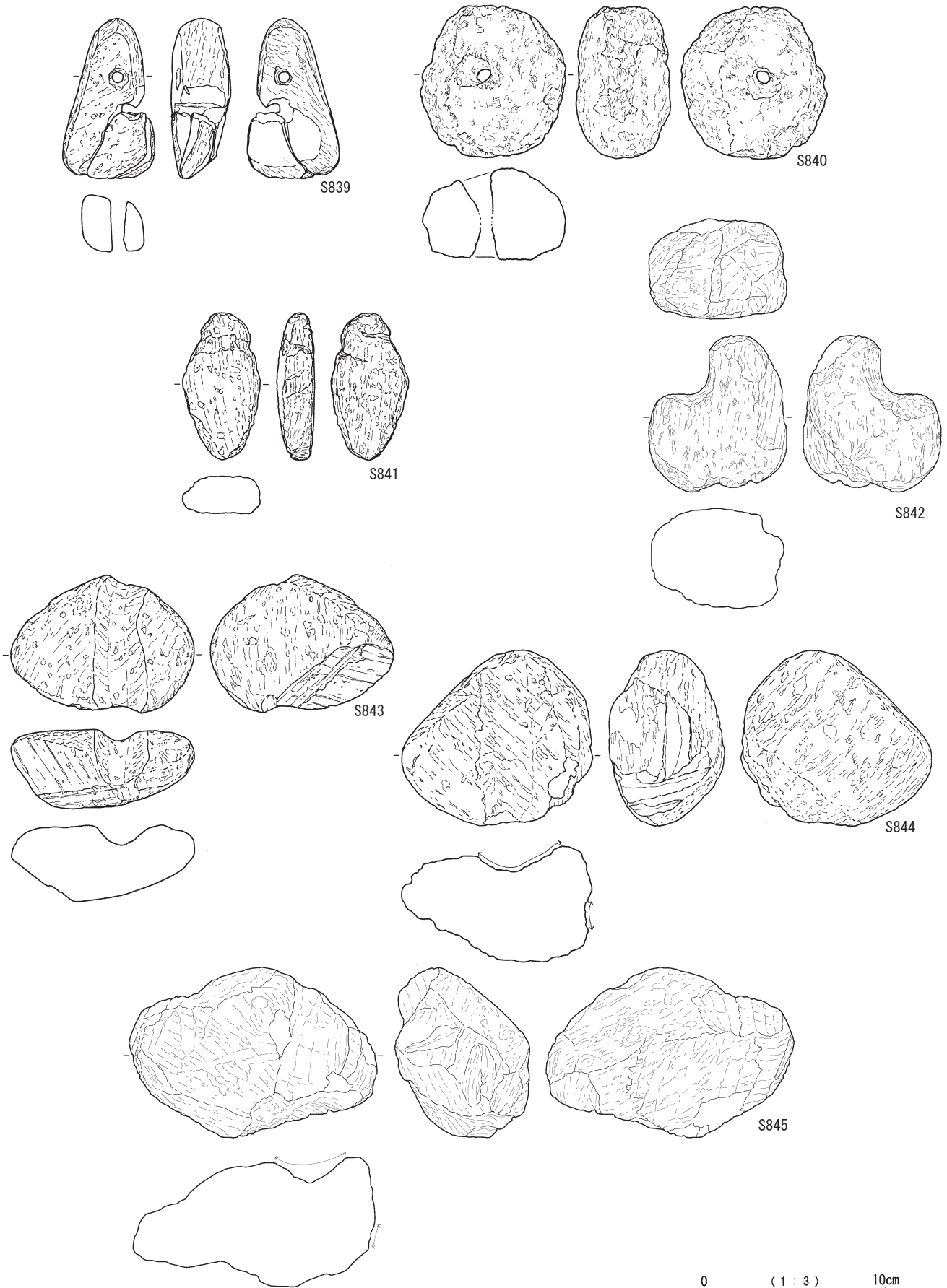
S838



石製品 (2)

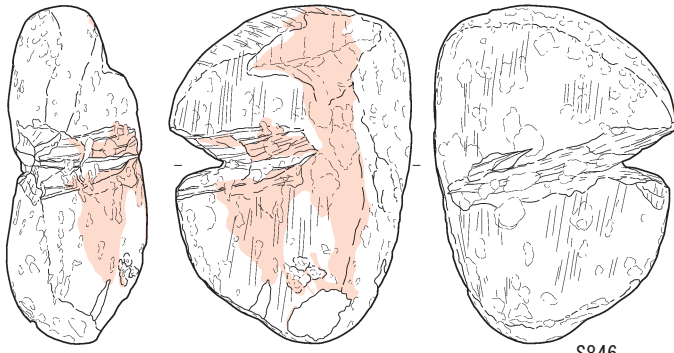


石皿集合写真 (巻頭4)

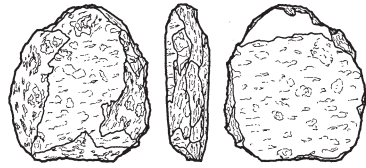


第2-216図 軽石加工品(1)

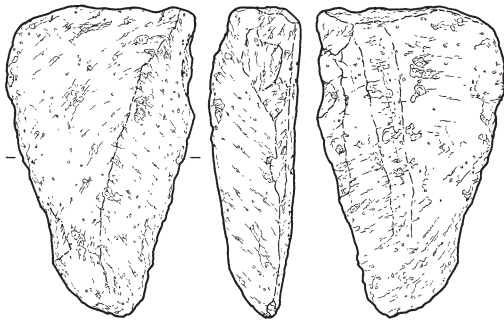
0 (1:3) 10cm



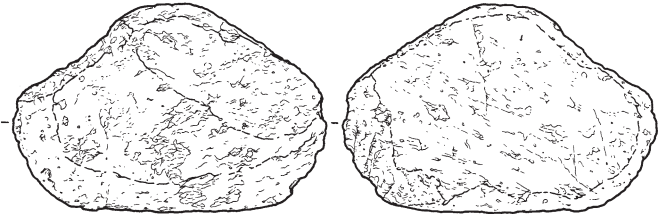
S846



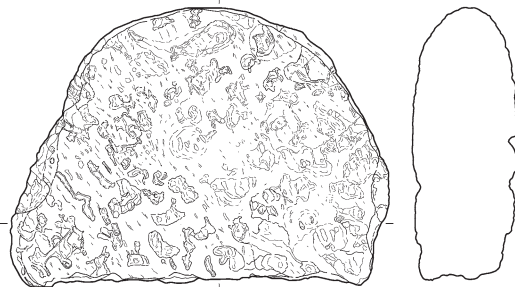
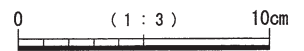
S847



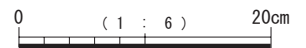
S848



S849



S850



第2-217図 軽石加工品(2)

第2-19表 包含層石器観察表1

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考	写真 図版
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)					
2-134	S229	E-10	IVa	石鏃	I	0.90	1.10	0.29	0.19	黒曜石	黒曜石C	27569	-	100
	S230	B-4	IVb	石鏃	I	1.15	1.11	0.30	0.29	黒曜石	黒曜石A	31290	-	100
	S231	D-15	-	石鏃	I	1.22	1.36	0.25	0.29	黒曜石	黒曜石A	カクラン	完形品	100
	S232	E-9	IVb	石鏃	I	1.25	1.24	0.30	0.36	安山岩	安山岩A	29352	-	100
	S233	D-10	IVa	石鏃	I	1.06	1.34	0.25	0.28	頁岩	頁岩A	21217	一部欠損	100
	S234	D-13	IVb	石鏃	I	1.40	1.20	0.30	0.38	黒曜石	黒曜石B	15442	-	100
	S235	B-4	IVb	石鏃	I	(1.13)	1.55	0.40	0.46	黒曜石	黒曜石A	31197	一部欠損	100
	S236	D-16	IVa	石鏃	I	1.37	1.46	0.30	0.48	安山岩	安山岩A	3372	-	100
	S237	F-39	IVb	石鏃	I	1.52	1.38	0.40	0.50	安山岩	安山岩A	100017	-	100
	S238	E-39	IVa	石鏃	I	1.98	1.46	0.40	0.90	頁岩	頁岩A	104855	一部欠損	100
	S239	D-16	IVa	石鏃	I	(1.47)	1.27	0.20	0.30	安山岩	安山岩A	2837	-	100
	S240	C-38	IVa	石鏃	I	1.83	1.59	0.27	0.64	頁岩	頁岩B	103140	-	100
	S241	C-6	IVa	石鏃	I	2.08	1.82	0.35	1.01	安山岩	安山岩A	21713	-	100
	S242	-	-	石鏃	I	1.42	1.48	0.25	0.32	玉髄	-	埋土	-	100
	S243	-	-	石鏃	I	1.75	1.50	0.30	0.57	玉髄	-	埋土	-	100
	S244	C-7	IVa	石鏃	I	1.84	1.63	0.40	0.89	チャート	-	23681	-	100
	S245	E-13	IVb	石鏃	I	1.95	1.82	0.25	0.67	安山岩	安山岩A	13518	-	100
	S246	B-34	IVa	石鏃	I	1.93	1.93	0.38	0.79	安山岩	安山岩A	104513	-	100
	S247	C-39	IVa	石鏃	I	2.40	1.99	0.36	1.18	安山岩	安山岩A	カクラン一括	-	100
	S248	D-8	IVa	石鏃	I	2.45	2.31	0.74	2.90	チャート	-	21256	-	100
S249	B-10	IVb	石鏃	I	2.61	2.47	0.36	1.88	黒曜石	黒曜石C	29575	-	100	
2-135	S250	D-16	IVb	石鏃	II	1.78	(1.40)	0.30	0.46	黒曜石	黒曜石C	7818	完形品	100
	S251	D-36	IVb	石鏃	II	2.06	1.47	0.35	0.63	玉髄	-	104760	-	100
	S252	D-23	IVa	石鏃	II	2.17	1.50	0.30	0.65	黒曜石	黒曜石B	55813	-	100
	S253	C-7	IVa	石鏃	II	2.60	1.65	0.46	1.55	安山岩	安山岩A	21733	-	100
	S254	D-11	IVa	石鏃	II	2.49	(1.87)	0.30	1.05	安山岩	安山岩A	972	-	100
	S255	D-23	IVb	石鏃	II	3.98	2.65	0.40	2.61	黒曜石	黒曜石C	55940	-	100
	S256	D-23	Va	石鏃	II	4.24	(2.51)	(0.40)	2.19	安山岩	安山岩A	56238	-	100
	S257	D-3	IVb	石鏃	II	1.93	1.44	0.25	0.71	頁岩	頁岩B	44487	完形品	100
	S258	B-6	IVb	石鏃	II	2.24	1.41	0.25	1.01	頁岩	頁岩B	42792	完形品	100
	S259	C-5	IVb	石鏃	II	(2.38)	1.28	0.40	0.93	頁岩	頁岩B	34623	完形品	100
	S260	C-31	IVb	石鏃	II	(2.21)	1.81	0.35	1.21	ホルンフェルス	-	104610	完形品	100
	S261	B-6	IVa	石鏃	II	3.36	1.59	0.48	1.38	安山岩	安山岩A	23370	-	100
	S262	B-4	IVb	石鏃	II	2.53	1.40	0.35	0.83	安山岩	安山岩A	27279	-	100
	S263	D-15	IVb	石鏃	II	2.50	1.60	0.30	1.14	安山岩	安山岩A	12992	-	100
	S264	C-5	-	石鏃	II	2.63	1.98	0.40	1.57	安山岩	安山岩A	カクラン一括	-	100
	S265	C:D-3	IVb	石鏃	II	3.55	1.63	0.40	1.46	頁岩	頁岩B	12T-489	完形品	100
	S266	C-6	IVb	石鏃	II	2.99	1.93	0.23	1.40	チャート	-	26851	-	100
	2-136	S267	E-25	IVa	石鏃	III	1.25	1.25	0.30	0.26	黒曜石	黒曜石C	42181	一部欠損
S268		B-6	IVa	石鏃	III	1.63	1.40	0.26	0.44	安山岩	安山岩A	26810	-	101
S269		C-19	IVb	石鏃	III	1.54	1.34	0.25	0.38	黒曜石	黒曜石C	3324	完形品	101
S270		B-16	IVb	石鏃	III	(1.58)	1.45	0.40	0.50	頁岩	頁岩B	4776	完形品	101
S271		C-4	IVb	石鏃	III	1.80	1.65	0.22	0.49	頁岩	頁岩B	26357	-	101
S272		D-38	IVa	石鏃	III	2.01	1.49	0.30	0.65	安山岩	安山岩A	103032	-	101
S273		E-6	IVb	石鏃	III	1.87	1.29	0.46	0.60	チャート	-	25840	-	101
S274		E-37	IVb	石鏃	III	2.00	1.30	0.28	0.50	安山岩	安山岩A	101456	-	101
S275		C-3	IVb	石鏃	III	1.86	1.83	0.60	1.87	黒曜石	黒曜石D	42395	一部欠損	101
S276		F-39	IVb	石鏃	III	1.62	1.31	0.40	0.64	チャート	-	100025	-	101
S277		B-40	IVa	石鏃	III	2.10	1.52	0.36	0.88	チャート	-	101180	-	101
S278		F-13	IVb	石鏃	III	2.15	1.00	0.30	0.61	チャート	-	14309	-	101
S279		D-8	IVa	石鏃	III	1.74	1.81	0.42	0.74	チャート	-	21255	-	101
S280		D-6	IVb	石鏃	III	2.38	(1.52)	0.30	0.79	チャート	-	36625	一部欠損	101
S281		D-7	IVa	石鏃	III	2.15	1.45	0.40	0.68	黒曜石	黒曜石A	21973	一部欠損	101
S282		F-7	VII	石鏃	III	2.07	1.84	0.40	1.00	チャート	-	-	完形品	101
S283		F-9	IVa	石鏃	III	2.51	1.54	0.32	0.90	チャート	-	26718	-	101
S284		-	-	石鏃	III	2.60	1.85	0.30	0.93	安山岩	安山岩A	埋土	-	101
S285	B-24	IVb	石鏃	III	(2.11)	1.44	0.25	0.57	安山岩	安山岩A	36878	完形品	101	
S286	D-17	-	石鏃	III	2.05	1.60	0.37	0.70	黒曜石	黒曜石D	19847	-	101	
S287	B-25	IVb	石鏃	III	1.70	1.79	0.30	0.68	黒曜石	黒曜石C	40403	一部欠損	101	
S288	E-21	IVb	石鏃	III	2.48	2.15	0.40	1.28	黒曜石	黒曜石E	7654	一部欠損	101	
S289	B-6	IVb	石鏃	III	(2.51)	(1.88)	0.35	0.90	黒曜石	黒曜石C	45604	一部欠損	101	
2-137	S290	E-12	IVb	石鏃	IV	1.75	1.20	0.30	0.62	安山岩	安山岩A	13504	-	101
	S291	B-11	IVb	石鏃	IV	1.90	1.40	0.36	0.91	黒曜石	黒曜石C	25899	-	101
	S292	C-12	IVb	石鏃	IV	2.40	1.40	0.30	1.39	安山岩	安山岩A	10828	-	101
	S293	C-10	IVa	石鏃	IV	1.89	1.40	0.45	0.98	安山岩	安山岩A	23124	-	101

第2-20表 包含層石器観察表2

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考	写真 図版
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)					
2-137	S294	E-10	IVb	石鏃	IV	2.00	1.50	0.43	1.11	チャート	-	25902	-	101
	S295	C-40	IVa	石鏃	IV	2.02	1.40	0.45	0.97	安山岩	安山岩A	101660	-	101
	S296	C-10	IVb	石鏃	IV	1.93	1.67	0.35	0.84	安山岩	安山岩A	43069	完形品	101
	S297	D-3	IVb	石鏃	IV	2.28	1.72	0.35	1.24	安山岩	安山岩A	41904	完形品	101
	S298	D-5	IVb	石鏃	IV	2.40	2.21	0.40	1.69	頁岩	頁岩A	33129	完形品	101
	S299	C-24	IVb	石鏃	IV	3.10	2.09	0.30	1.63	安山岩	安山岩A	42124	一部欠損	101
	S300	D-35	IVa	石鏃	IV	1.67	1.39	0.32	0.46	黒曜石	黒曜石C	101353	-	101
	S301	F-6	IVa	石鏃	IV	1.66	1.17	0.36	0.41	安山岩	安山岩A	27295	-	101
	S302	F-35	IVb	石鏃	IV	1.95	1.40	0.33	0.55	チャート	-	101912	-	101
	S303	E-36	IVb	石鏃	IV	1.70	1.09	0.28	0.33	チャート	-	102903	-	101
	S304	D-7	Va	石鏃	IV	(2.47)	(1.38)	(0.40)	0.68	黒曜石	黒曜石C	48506	-	101
	S305	F-8	IVb	石鏃	IV	2.52	1.57	0.46	0.91	安山岩	安山岩A	25918	-	101
	S306	C-37	IVa	石鏃	IV	1.70	1.27	0.32	0.41	安山岩	安山岩A	100439	-	101
S307	B-5	IVb	石鏃	IV	2.32	1.95	0.03	0.83	安山岩	安山岩A	31118	完形品	101	
2-138	S308	E-10	IVb	石鏃	V	1.52	0.90	0.27	0.30	黒曜石	黒曜石C	27293	-	102
	S309	D-16	IVa	石鏃	V	1.39	1.34	0.30	0.40	黒曜石	黒曜石C	3438	-	102
	S310	B-5	IVb	石鏃	V	1.60	1.45	0.45	0.67	黒曜石	黒曜石C	33718	一部欠損	102
	S311	F-18	V	石鏃	V	(1.62)	(1.28)	(0.30)	0.53	チャート	-	16072	-	102
	S312	D-21	V	石鏃	V	(2.16)	(1.02)	(0.30)	0.42	黒曜石	黒曜石C	16162	-	102
	S313	E-10	IVa	石鏃	V	1.48	1.79	0.35	0.84	黒曜石	黒曜石D	27565	-	102
	S314	C-3	IVb	石鏃	V	1.20	1.80	0.35	0.61	黒曜石	黒曜石C	27270	-	102
	S315	C-7	IVb	石鏃	V	1.22	1.95	0.40	0.68	頁岩	頁岩A	29777	一部欠損	102
	S316	D-23	Va	石鏃	V	(1.03)	1.24	0.40	0.32	黒曜石	黒曜石A	56202	-	102
	S317	C-38	IVa	石鏃	V	1.50	1.72	0.48	0.93	黒曜石	黒曜石A	100217	一部欠損	102
	S318	C-4	IVb	石鏃	V	1.65	1.25	0.40	0.55	黒曜石	黒曜石C	26353	-	102
	S319	E-37	IVb	石鏃	V	1.43	1.27	0.33	0.36	黒曜石	黒曜石C	102075	-	102
	S320	D-33	IVb	石鏃	V	1.50	1.48	0.38	0.65	黒曜石	黒曜石C	104629	一部欠損	102
	S321	B-5	IVb	石鏃	V	1.85	1.76	0.63	1.25	黒曜石	黒曜石A	30168	-	102
	S322	F-9	IVb	石鏃	V	2.15	1.39	0.40	0.97	黒曜石	黒曜石C	25906	-	102
	S323	D-32	IVb	石鏃	V	1.90	1.80	0.79	1.90	黒曜石	黒曜石B	104632	-	102
	S324	D-10	IVa	石鏃	V	1.71	1.35	0.46	0.81	安山岩	安山岩A	21212	-	102
	S325	B-8	-	石鏃	V	1.95	1.53	0.42	1.05	黒曜石	黒曜石C	22386	-	102
S326	-	-	石鏃	V	2.60	1.60	0.70	2.74	黒曜石	黒曜石D	埋土	-	102	
S327	C-41	IVa	石鏃	V	2.70	2.18	0.47	2.10	チャート	-	101636	-	102	
S328	C-36	IVb	石鏃	V	2.24	1.91	0.65	2.33	頁岩	頁岩A	103450	-	102	
2-139	S329	C-15	IVb	石鏃	-	1.65	1.70	0.55	0.97	黒曜石	黒曜石A	12106	-	102
	S330	D-17	IVb	石鏃	-	2.35	2.40	0.40	1.84	安山岩	安山岩A	14288	-	102
	S331	-	-	石鏃	-	2.10	1.20	0.20	0.53	玉髄	-	埋土	-	102
	S332	D-16	IVb	石鏃	-	2.50	1.35	0.20	1.32	安山岩	安山岩A	7225	-	102
	S333	C-8	IVb	石鏃	-	3.05	1.15	0.60	1.66	砂岩	-	48270	-	102
	S334	E-10	IVb	石鏃	-	2.98	1.17	0.45	1.12	安山岩	安山岩A	29220	-	102
	S335	D-10	IVb	石鏃	-	3.45	1.80	0.60	3.38	頁岩	頁岩B	48379	-	102
2-140	S336	E-24	IVb	石鏃	-	2.55	0.84	0.54	1.01	玉髄	-	39271	-	102
	S337	C-11	IVa	石鏃	-	4.70	1.50	1.10	5.70	玉髄	-	6T-198	-	102
	S338	D-23	IVb	石匙	I	4.93	2.60	0.97	8.38	玉髄	-	55873	-	103
	S339	D-39	IVb	石匙	I	3.80	3.37	0.90	7.78	チャート	-	101808	-	103
	S340	E-25	IVb	石匙	I	4.25	2.90	0.80	7.23	玉髄	-	41000	-	103
	S341	E-31	IVb	石匙	I	3.86	2.08	0.64	4.89	チャート	-	104634	-	103
	S342	B-C-10	IVb	石匙	I	(4.11)	2.57	0.84	7.59	チャート	-	一括	-	103
2-141	S343	C-35	IVb	石匙	I	3.01	6.02	1.27	18.53	玉髄	-	103948	-	103
	S344	B-7	IVa	石匙	II	1.19	1.94	0.48	1.14	石英	-	25630	-	103
	S345	G-38	IVb	石匙	II	1.72	1.95	0.56	1.12	玉髄	-	101485	-	103
	S346	F-39	IVb	石匙	II	2.59	3.51	0.62	3.51	安山岩	安山岩C	101050	-	103
	S347	C-39	IVa	石匙	II	2.31	3.79	0.70	3.56	玉髄	-	103145	-	103
	S348	F-24	-	石匙	II	2.30	3.35	0.00	2.27	頁岩	頁岩B	43299	-	103
	S349	F-39	IVb	石匙	II	3.87	4.95	0.55	9.85	安山岩	安山岩C	101033	-	103
	S350	D-35	-	石匙	II	1.50	3.40	0.72	3.13	玉髄	-	カクラン一括	-	103
	S351	C-34	-	石匙	II	2.88	4.70	1.05	8.15	玉髄	-	カクラン一括	-	103
2-142	S352	E-35	IVa	石匙	II	3.29	3.71	0.67	5.54	チャート	-	101382	-	103
	S353	E-29	IVb	石匙	II	2.10	2.96	0.66	2.42	黒曜石	黒曜石B	45721	-	103
	S354	F-39	IVb	石匙	II	3.08	4.40	0.90	9.11	黒曜石	黒曜石A	100019	-	103
	S355	E-21	IVb	石匙	II	2.95	4.36	1.10	8.12	チャート	-	7652	-	103
2-143	S356	F-40	IVb	石匙	II	3.37	5.10	0.89	9.72	玉髄	-	100050	-	103
	S357	D-24	IVb	石匙	II	2.38	3.01	0.77	4.21	チャート	-	42141	-	103
	S358	D-29	IVb	石匙	II	3.19	3.53	0.61	5.29	チャート	-	45415	-	103

第2-21表 包含層石器観察表3

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考	写真 図版
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)					
2-143	S359	F-38	-	石匙	II	3.02	2.60	0.32	1.95	玉髄	-	カクラン一括	-	103
	S360	E-25	IVb	石匙	II	3.18	4.65	1.01	14.70	玉髄	-	43960	-	103
2-144	S361	D-23	IVb	スクレイパー	-	4.35	2.59	1.36	14.50	黒曜石	黒曜石D	55862	-	104
	S362	D-3	IVb	スクレイパー	-	5.34	4.04	1.62	22.74	黒曜石	黒曜石E	40155	-	104
	S363	F-38	IVb	スクレイパー	-	5.72	4.31	2.02	24.50	頁岩	頁岩A	100078	-	104
	S364	C-7	IVb	スクレイパー	-	6.27	3.83	1.10	24.80	頁岩	頁岩B	26330	-	104
	S365	E-39	IVb	スクレイパー	-	8.17	5.05	1.30	55.70	頁岩	頁岩B	101817	-	104
	S366	E-10	IVb	スクレイパー	-	9.13	4.49	0.92	30.68	ホルンフェルス	-	29274	-	104
	S367	D-6	IVb	スクレイパー	-	10.56	4.65	1.18	44.90	頁岩	頁岩C	31523	-	104
	S368	D-5	IVb	スクレイパー	-	9.67	4.80	2.70	109.90	砂岩	-	26496	-	104
	S369	E-10	IVb	スクレイパー	-	5.65	7.25	1.68	70.98	ホルンフェルス	-	28073	-	104
	S370	E-15	III	スクレイパー	-	5.84	7.16	1.88	80.80	頁岩	頁岩B	269	-	104
2-145	S371	D-12	IVb	スクレイパー	-	7.65	6.82	2.80	156.64	ホルンフェルス	-	23267	-	104
	S372	D-9	IV a	スクレイパー	-	7.99	7.10	1.39	62.28	ホルンフェルス	-	28374	-	104
	S373	F-8	IVb	スクレイパー	-	7.96	7.45	1.63	75.92	ホルンフェルス	-	28410	-	104
	S374	D-16	IVa	スクレイパー	-	10.52	6.54	1.44	74.80	頁岩	頁岩B	一括	-	104
	S375	C-8	Va	スクレイパー	-	8.76	7.29	2.05	119.80	安山岩	安山岩C	48658	-	104
	S376	D-12	IVb	スクレイパー	-	3.35	6.40	1.30	20.96	安山岩	安山岩C	15531	-	104
	S377	E-24	IVb	スクレイパー	-	5.62	3.05	1.26	16.80	玉髄	-	36942	-	104
	S378	D-12	IVb	スクレイパー	-	3.90	4.65	1.90	31.09	チャート	-	15558	-	104
2-146	S379	C-41	IVb	スクレイパー	-	6.30	4.10	1.25	34.00	ホルンフェルス	-	103199	-	104
	S380	C-10	IVb	スクレイパー	-	7.05	5.10	1.20	54.40	ホルンフェルス	-	27510	-	104
	S381	C-14	III	スクレイパー	-	4.71	7.67	1.58	59.50	ホルンフェルス	-	258	-	104
	S382	E-10	IVb	スクレイパー	-	10.60	5.37	1.40	81.38	ホルンフェルス	-	28111	-	104
	S383	C-8	IVa	スクレイパー	-	5.75	9.25	2.30	114.30	砂岩	-	23654	-	104
	S384	B-7	IVa	スクレイパー	-	6.40	15.30	1.93	152.66	ホルンフェルス	-	25637	-	104
	S385	D-8	IVb	スクレイパー	-	7.29	9.98	1.91	108.20	砂岩	-	30448	-	104
2-147	S386	D-10	IVa	二次加工剥片	-	1.65	0.82	0.34	0.37	安山岩	安山岩C	23138	-	105
	S387	F-39	-	二次加工剥片	-	1.57	2.33	0.70	2.11	黒曜石	黒曜石D	カクラン一括	-	105
	S388	C-15	III	二次加工剥片	-	1.43	1.57	0.43	0.67	黒曜石	黒曜石B	404	-	105
	S389	C-15	III	二次加工剥片	-	2.58	1.93	0.73	3.13	黒曜石	黒曜石A	169	-	105
	S390	C-35	IVb	二次加工剥片	-	2.76	2.19	0.67	3.47	鉄石英	-	103579	-	105
	S391	B-5	IVb	二次加工剥片	-	8.72	2.42	1.30	33.41	ホルンフェルス	-	30096	-	105
	S392	B-5	IVb	二次加工剥片	-	10.93	5.22	2.43	134.58	ホルンフェルス	-	30117	-	105
	S393	D-7	Va	二次加工剥片	-	4.10	4.92	0.71	11.36	安山岩	安山岩C	48641	-	105
	S394	D-15	III	二次加工剥片	-	(3.51)	4.82	0.41	6.20	頁岩	頁岩B	192	-	105
	S395	D-8	Va	二次加工剥片	-	5.26	6.35	1.03	25.50	頁岩	頁岩B	48688	-	105
	S396	C-16	III	二次加工剥片	-	6.07	6.20	1.35	32.40	安山岩	安山岩C	48	-	105
2-148	S397	C-11	IVa	使用痕剥片	-	1.90	1.90	0.60	1.90	チャート	-	-	-	105
	S398	B-10	Va	使用痕剥片	-	3.34	2.72	1.12	8.50	玉髄	-	48718	-	105
	S399	D-6	Va	使用痕剥片	-	3.40	3.21	0.82	5.84	安山岩	安山岩C	48511	-	105
	S400	C-15	III	使用痕剥片	-	6.08	3.21	1.25	17.60	頁岩	頁岩B	122	-	105
	S401	D-15	III	使用痕剥片	-	5.34	3.83	1.23	20.50	頁岩	頁岩B	1066	-	105
	S402	C-15	III	使用痕剥片	-	5.14	6.79	2.66	75.40	安山岩	安山岩C	171	-	105
	S403	D-15	III	使用痕剥片	-	6.46	6.16	1.91	55.30	ホルンフェルス	-	185	-	105
	S404	C-15	III	使用痕剥片	-	9.16	4.03	1.13	29.20	頁岩	頁岩B	164	-	105
	S405	D-7	Va	使用痕剥片	-	3.02	4.39	0.77	7.40	頁岩	頁岩B	48502	-	105
	S406	E-8	Va	使用痕剥片	-	2.92	4.59	0.87	9.90	安山岩	安山岩C	48463	-	105
	S407	E-6	Va	使用痕剥片	-	5.06	4.78	0.80	15.10	頁岩	頁岩B	48525	-	105
	S408	C-15	III	使用痕剥片	-	4.08	6.61	1.25	36.00	砂岩	-	82	-	105
	S409	D-23	Va	使用痕剥片	-	3.99	7.03	1.66	48.80	頁岩	頁岩B	56211	-	105
2-149	S410	E-5	Va	使用痕剥片	-	5.56	8.99	1.73	67.60	ホルンフェルス	-	51623	-	105
	S411	C-15	III	使用痕剥片	-	4.99	9.66	0.87	38.10	ホルンフェルス	-	387	-	105
	S412	C-20	V	使用痕剥片	-	8.74	6.49	1.25	53.10	頁岩	頁岩B	16823	-	105
	S413	D-21	V	使用痕剥片	-	10.25	4.17	1.71	49.80	玉髄	-	9331	-	105
2-150	S414	D-9	IVb	石核	-	1.58	1.57	1.05	2.67	黒曜石	黒曜石C	29368	-	106
	S415	D-7	Va	石核	-	2.34	2.53	2.17	12.60	黒曜石	黒曜石A	48469	-	106
	S416	E-4	IVb	石核	-	2.60	3.90	1.85	17.56	黒曜石	黒曜石A	25835	-	106
	S417	D-23	Va	石核	-	2.35	5.39	2.60	36.80	黒曜石	黒曜石A	55892	-	106
	S418	D-23	Va	石核	-	2.49	3.50	2.14	15.50	チャート	-	55958	-	106
	S419	C-6	IVa	石核	-	7.90	5.90	4.20	254.52	石英	-	23456	-	106
2-151	S420	C-12	IVb	石核	-	9.42	11.12	6.78	743.00	ホルンフェルス	-	15950	-	106
	S421	F-22	IVb	石核	-	11.70	12.29	5.36	781.00	ホルンフェルス	-	20677	-	106
	S422	C-18	IVb	石核	-	11.18	9.86	9.16	1245.00	ホルンフェルス	-	8300	-	106
	S423	E-22	V	原石	Cd	4.70	3.78	3.00	58.10	石英	-	16099	-	106

第2-22表 包含層石器観察表4

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考	写真 図版
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)					
2-151	S424	D-7	Va	原石	Cc	5.44	4.52	3.00	89.50	石英	-	48472	-	106
2-152	S425	B-12	IVb	磨製石斧	I	(7.59)	(4.14)	(2.92)	106.00	ホルンフェルス	-	10690	-	-
	S426	B-5	IVb	磨製石斧	I	(10.60)	(5.41)	(3.46)	227.00	ホルンフェルス	-	31103	-	107
	S427	D-9	IVb	磨製石斧	I	10.71	6.01	3.79	355.87	ホルンフェルス	-	27907	-	107
	S428	C-21	V	磨製石斧	I	(5.38)	(3.50)	(2.71)	71.00	ホルンフェルス	-	16813	-	-
	S429	D-9	IVb	磨製石斧	I	(8.07)	(4.51)	(3.47)	135.00	ホルンフェルス	-	34837	-	-
	S430	C-16	IVb	磨製石斧	I	(11.17)	(5.85)	(4.62)	349.00	ホルンフェルス	-	11805	-	107
2-153	S431	B-8	IVb	磨製石斧	I	12.38	6.22	3.40	307.08	ホルンフェルス	-	28285	-	-
	S432	F-6	IVb	磨製石斧	I	10.44	4.74	3.32	220.00	ホルンフェルス	-	30030	-	-
	S433	D-10	IVb	磨製石斧	I	9.72	4.59	3.08	148.00	ホルンフェルス	-	43020	赤色顔料付着	107
	S434	C-12	IVb	磨製石斧	I	8.12	5.40	3.22	174.79	ホルンフェルス	-	24470	-	-
	S435	D-12	IVb	磨製石斧	I	9.30	5.95	4.16	307.00	ホルンフェルス	-	21115	-	-
	S436	E-9	IVa	磨製石斧	I	9.35	5.39	3.98	262.00	ホルンフェルス	-	27968	-	-
2-154	S437	C-15	IVb	磨製石斧	I	9.81	5.21	3.78	268.00	ホルンフェルス	-	4286	-	107
	S438	C-7	IVb	磨製石斧	I	11.10	6.71	4.14	505.03	ホルンフェルス	-	29811	-	-
	S439	C-5	IVb	磨製石斧	I	10.57	6.03	4.42	460.00	ホルンフェルス	-	32944	-	107
	S440	F-8	IVb	磨製石斧	I	11.30	5.30	3.70	310.00	ホルンフェルス	-	43004	-	107
2-155	S441	D-15	III	磨製石斧	I	(5.95)	(6.13)	(3.85)	168.10	ホルンフェルス	-	203	-	-
	S442	C-24	IVb	磨製石斧	II	23.20	6.73	4.19	933.00	ホルンフェルス	-	36900	-	107
2-156	S443	D-16	IVb	磨製石斧	II	17.91	6.36	3.45	547.00	ホルンフェルス	-	6899	-	107
	S444	C-34	IVb	磨製石斧	II	16.29	6.48	3.35	468.50	ホルンフェルス	-	104124	-	107
	S445	B-7	Va	磨製石斧	II	23.92	8.13	3.10	896.00	頁岩	頁岩B	47501	-	107
2-157	S446	F-8	IVa	磨製石斧	II	10.99	7.00	2.93	360.00	花崗岩	-	23146	-	108
	S447	D-10	IVb	磨製石斧	II	6.12	7.10	3.22	146.57	ホルンフェルス	-	29128	-	-
	S448	D-7	IVb	磨製石斧	II	13.50	5.22	3.95	362.41	ホルンフェルス	-	28882	-	-
	S449	B-14	IVb	磨製石斧	II	12.85	6.53	3.67	390.00	頁岩	頁岩B	15444	-	108
2-158	S450	B-8	IVb	磨製石斧	II	13.30	6.80	3.90	513.77	ホルンフェルス	-	28312	-	-
	S451	D-10	IVb	磨製石斧	II	12.25	6.29	4.29	444.00	ホルンフェルス	-	29141	-	-
	S452	C-14	IVb	磨製石斧	II	(10.37)	6.00	(3.33)	290.50	ホルンフェルス	-	10380	-	-
	S453	E-16	IVa	磨製石斧	II	(10.23)	6.27	3.79	395.00	ホルンフェルス	-	5878	-	-
	S454	E-8	IVb	磨製石斧	II	12.13	6.63	3.80	471.50	ホルンフェルス	-	28459	-	108
	S455	D-16	IVb	磨製石斧	II	8.02	6.60	3.16	246.00	頁岩	頁岩B	6997	-	-
2-159	S456	B-6	IVa	磨製石斧	II	8.50	6.07	3.88	278.90	ホルンフェルス	-	25484	-	-
	S457	D-24	IVb	磨製石斧	II	(8.63)	7.51	(3.01)	257.00	ホルンフェルス	-	39294	-	108
	S458	B-10	IVb	磨製石斧	II	6.36	5.20	3.29	129.52	ホルンフェルス	-	29581	-	-
	S459	D-25	IVb	磨製石斧	II	(8.93)	(7.23)	(3.47)	320.00	ホルンフェルス	-	40393	-	-
	S460	C-17	IVb	磨製石斧	II	(11.58)	(7.09)	(2.79)	266.00	ホルンフェルス	-	9431	-	108
2-160	S461	D-8	IVb	磨製石斧	II	(10.75)	7.01	2.61	325.00	ホルンフェルス	-	29020	-	-
	S462	D-10	IVb	磨製石斧	II	(13.15)	7.41	4.36	664.50	ホルンフェルス	-	34938	-	-
	S463	B-6	IVb	磨製石斧	II	8.71	7.05	3.65	282.00	ホルンフェルス	-	46268	-	-
2-161	S464	C-9	Va	磨製石斧	II	8.25	6.84	3.80	349.90	ホルンフェルス	-	48780	-	-
	S465	E-12	IVa	磨製石斧	II	10.64	7.07	4.05	470.00	ホルンフェルス	-	4408	-	108
	S466	B-19	IVb	磨製石斧	II	12.34	7.55	3.64	607.00	ホルンフェルス	-	4926	-	-
2-162	S467	E-10	IVb	磨製石斧	II	11.89	7.15	4.20	605.17	ホルンフェルス	-	29238	-	-
	S468	E-8	IVb	磨製石斧	II	11.75	6.80	4.00	510.77	ホルンフェルス	-	30466	-	-
	S469	B-5	Va	磨製石斧	II	(7.02)	(6.45)	(3.60)	241.10	ホルンフェルス	-	52710	-	-
2-163	S470	F-9	IVb	磨製石斧	II	10.15	6.30	4.00	421.00	ホルンフェルス	-	26093	-	-
	S471	F-7	IVb	磨製石斧	II	10.30	7.10	4.30	512.51	ホルンフェルス	-	23484	-	-
	S472	C-9	IVb	磨製石斧	II	10.62	6.04	3.46	378.55	ホルンフェルス	-	28740	-	-
	S473	F-12	IVb	磨製石斧	II	10.60	6.80	4.19	472.00	ホルンフェルス	-	23216	-	108
	S474	C-7	IVa	磨製石斧	II	6.24	7.77	3.62	259.90	ホルンフェルス	-	23724	-	-
2-164	S475	F-9	IVb	磨製石斧	II	7.16	7.00	4.45	300.50	ホルンフェルス	-	48911	-	-
	S476	D-7	IVb	磨製石斧	II	8.22	6.13	4.35	335.63	ホルンフェルス	-	28881	-	-
2-165	S477	B-9	IVb	磨製石斧	II	10.55	7.50	4.50	617.00	ホルンフェルス	-	46650	-	108
	S478	C-15	IVb	磨製石斧	III	14.03	5.99	3.09	340.00	ホルンフェルス	-	10000	-	108
	S479	14T	IVb	磨製石斧	III	11.67	4.34	2.35	174.00	ホルンフェルス	-	14T-194	-	108
	S480	E-10	IVb	磨製石斧	III	12.31	5.00	2.80	240.92	ホルンフェルス	-	29225	-	108
	S481	F-6	IVb	磨製石斧	III	13.24	5.05	2.33	167.10	ホルンフェルス	-	30014	-	-
	S482	D-18	IVb	磨製石斧	III	13.19	4.70	1.90	140.10	ホルンフェルス	-	5703	-	-
	S483	C-3	IVb	磨製石斧	III	11.31	4.65	1.82	120.80	ホルンフェルス	-	31565	-	-
	S484	C-13	IVa	磨製石斧	III	9.72	5.20	2.00	116.93	ホルンフェルス	-	13252	-	-
2-166	S485	C-5	-	磨製石斧	III	(8.43)	(5.20)	(2.66)	145.00	ホルンフェルス	-	33642	-	-
	S486	B-5	IVb	磨製石斧	III	(6.12)	(5.59)	(2.75)	102.50	ホルンフェルス	-	31112	-	-
	S487	D-24	IVb	磨製石斧	III	(7.64)	(5.43)	(3.22)	197.00	ホルンフェルス	-	39290	-	108
	S488	F-8	IVb	磨製石斧	III	(9.05)	5.32	3.14	239.00	ホルンフェルス	-	30764	-	-

第2-23表 包含層石器観察表5

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考	写真 図版
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)					
2-166	S489	B-4	IVb	磨製石斧	Ⅲ	(6.20)	(6.13)	(2.95)	113.80	ホルンフェルス	-	34065	-	-
	S490	C-13	IVb	磨製石斧	Ⅲ	(5.10)	(5.17)	(2.17)	89.90	ホルンフェルス	-	18560	-	-
	S491	C-16	IVb	磨製石斧	Ⅲ	(5.40)	(5.66)	(1.64)	55.50	ホルンフェルス	-	13123	-	-
2-167	S492	D-9	IVb	磨製石斧	Ⅲ	7.80	5.45	3.15	199.90	ホルンフェルス	-	47230	-	-
	S493	C-8	IVb	磨製石斧	Ⅲ	7.32	5.90	3.80	232.93	ホルンフェルス	-	28236	-	108
2-168	S494	D-29	IVb	磨製石斧	Ⅳ	14.62	4.11	2.13	176.00	ホルンフェルス	-	45697	-	109
	S495	C-23	IVb	磨製石斧	Ⅳ	12.41	5.16	2.15	204.00	ホルンフェルス	-	55342	-	109
	S496	F-23	IVc	磨製石斧	Ⅳ	9.45	4.55	1.52	94.96	ホルンフェルス	-	104811	-	109
	S497	C-16	IVa	磨製石斧	Ⅳ	(6.73)	(4.97)	(1.56)	80.44	ホルンフェルス	-	3517	-	109
	S498	C-33	IVb	磨製石斧	Ⅳ	(8.79)	4.21	2.04	111.61	ホルンフェルス	-	104564	-	109
	S499	B-10	IVa	磨製石斧	Ⅳ	8.58	4.93	2.41	134.10	ホルンフェルス	-	54487	-	-
2-169	S500	D-3	IVb	磨製石斧	Ⅳ	7.36	5.33	2.51	146.80	ホルンフェルス	-	26874	-	-
	S501	C-9	IVb	磨製石斧	Ⅳ	12.41	5.21	1.75	134.11	頁岩	頁岩B	28775	-	109
	S502	C-15	IVb	磨製石斧	Ⅳ	(10.47)	4.70	1.46	106.00	ホルンフェルス	-	4624	-	-
	S503	B-2	Va	磨製石斧	Ⅳ	(4.84)	(4.92)	(2.00)	65.30	ホルンフェルス	-	47885	-	-
	S504	F-8	IVb	磨製石斧	Ⅳ	4.22	5.78	1.93	60.00	ホルンフェルス	-	28414	-	109
	S505	F-38	IVb	磨製石斧	Ⅳ	(7.73)	(5.53)	(1.73)	104.62	ホルンフェルス	-	101573	-	109
	S506	E-9	IVb	磨製石斧	Ⅳ	6.21	5.13	1.50	62.56	頁岩	頁岩B	29342	-	109
	S507	B-10	IVa	磨製石斧	Ⅳ	4.61	4.56	1.93	37.99	ホルンフェルス	-	22870	-	-
2-170	S508	D-5	IVb	磨製石斧	V	5.82	2.79	1.00	23.20	ホルンフェルス	-	46235	-	109
	S509	E-39	IVb	磨製石斧	V	7.40	3.59	1.28	48.00	ホルンフェルス	-	101831	-	109
	S510	E-3	IVb	磨製石斧	V	6.24	3.16	1.45	39.00	ホルンフェルス	-	39020	-	109
	S511	C-15	IVb	磨製石斧	V	(5.92)	3.20	0.71	22.10	ホルンフェルス	-	12107	-	109
	S512	C-15	IVb	磨製石斧	V	5.50	3.45	1.15	33.61	ホルンフェルス	-	14140	-	109
	S513	C-15	IVb	磨製石斧	V	6.50	3.55	0.80	29.54	ホルンフェルス	-	14428	-	109
	S514	B-7	IVb	磨製石斧	V	8.73	2.76	1.17	45.47	ホルンフェルス	-	31923	-	109
	S515	14T	IV	磨製石斧	V	(7.37)	3.94	1.14	50.00	ホルンフェルス	-	177	-	109
	S516	C-8	IVa	磨製石斧	V	3.20	3.87	0.80	13.88	ホルンフェルス	-	22356	-	-
	S517	C-6	-	磨製石斧	V	5.74	1.46	0.93	14.99	ホルンフェルス	-	カクラン一括	-	109
	S518	12T	IV	磨製石斧	V	7.04	1.11	1.11	15.36	ホルンフェルス	-	236	-	109
	S519	D-7	IVb	磨製石斧	V	7.42	1.17	1.24	19.33	ホルンフェルス	-	47723	-	109
	S520	E-7	IVb	磨製石斧	V	10.10	2.32	1.82	77.81	ホルンフェルス	-	30428	-	109
	2-171	S521	C-6	IVb	磨製石斧	V	(5.38)	2.04	1.25	27.60	ホルンフェルス	-	44488	-
S522		C-16	IVa	磨製石斧	V	(5.92)	(1.20)	0.90	9.80	ホルンフェルス	-	2569	-	109
S523		C-13	-	磨製石斧	V	5.83	1.71	0.96	14.76	ホルンフェルス	-	横転一括	-	109
S524		F-6	IVb	磨製石斧	V	(6.80)	1.72	1.13	23.40	ホルンフェルス	-	35338	-	109
S525		C-5	IVb	磨製石斧	V	(7.25)	2.27	1.36	36.54	ホルンフェルス	-	33607	-	109
S526		D-11	IVa	磨製石斧	V	4.20	1.80	0.85	7.19	ホルンフェルス	-	44072	-	109
S527		B-5	IVb	磨製石斧	V	(7.50)	(1.89)	0.87	14.90	ホルンフェルス	-	35724	-	109
S528		C-12	IVb	磨製石斧	V	(5.22)	(1.71)	0.48	3.70	ホルンフェルス	-	15485	-	109
S529		D-5	IVb	磨製石斧	V	8.71	3.68	1.28	45.20	頁岩	頁岩B	33147	-	109
S530		F-13	IVa	磨製石斧	V	9.50	3.26	1.86	75.40	ホルンフェルス	-	23980	-	109
S531		D-15	Ⅲ	磨製石斧	V	7.87	3.36	2.01	73.10	ホルンフェルス	-	188	-	109
S532		C-12	IVb	磨製石斧	V	(7.45)	2.76	2.49	77.00	ホルンフェルス	-	18480	-	-
2-172		S533	D-34	IVb	磨製石斧	Ⅵ	(9.07)	(6.11)	(1.64)	113.20	ホルンフェルス	-	104410	-
	S534	E-8	IVb	磨製石斧	Ⅵ	5.80	3.24	1.30	31.61	ホルンフェルス	-	28470	-	-
	S535	E-5	IVb	磨製石斧	Ⅵ	6.10	5.30	1.59	60.71	ホルンフェルス	-	26673	-	-
	S536	D-9	IVa	磨製石斧	Ⅵ	7.63	5.95	2.25	140.50	ホルンフェルス	-	21179	-	-
	S537	C-5	IVb	磨製石斧	Ⅵ	8.89	5.50	1.75	100.55	ホルンフェルス	-	30295	-	-
	S538	B-3	IVb	磨製石斧	Ⅵ	11.05	5.52	2.52	181.30	頁岩	頁岩B	26530	-	-
	S539	D-8	IVb	磨製石斧	Ⅵ	9.80	5.10	2.58	154.26	ホルンフェルス	-	28896	-	-
	S540	D-9	IVb	磨製石斧	Ⅵ	7.92	4.52	1.99	91.00	ホルンフェルス	-	47793	-	-
2-173	S541	E-5	IVb	磨製石斧	Ⅵ	6.12	6.40	2.18	92.77	ホルンフェルス	-	26665	-	-
	S542	B-5	IVb	磨製石斧	Ⅵ	(8.29)	(5.90)	(1.63)	100.00	ホルンフェルス	-	33705	-	-
	S543	C-5	IVb	磨製石斧	Ⅵ	(11.02)	(4.91)	(1.44)	99.30	ホルンフェルス	-	32985	-	-
	S544	D-7	IVb	磨製石斧	Ⅵ	(9.24)	(6.30)	(1.73)	136.00	ホルンフェルス	-	26338	-	-
	S545	D-7	IVa	磨製石斧	Ⅵ	6.28	4.30	1.45	48.97	ホルンフェルス	-	21932	-	-
	S546	D-15	IVb	磨製石斧	Ⅵ	(5.96)	(4.70)	(1.65)	37.00	ホルンフェルス	-	2326	-	-
	S547	D-3	IVb	磨製石斧	Ⅵ	(5.27)	(4.87)	(1.40)	34.80	ホルンフェルス	-	39079	-	-
	S548	D-10	IVb	磨製石斧	Ⅵ	4.88	3.45	0.71	16.41	頁岩	頁岩B	29114	-	-
2-174	S549	B-5	IVb	磨製石斧	Ⅵ	(7.05)	(5.34)	(1.28)	62.60	ホルンフェルス	-	32776	-	-
	S550	E-10	IVb	打製石斧	I	15.25	6.00	2.15	248.00	ホルンフェルス	-	28077	-	110
	S551	B-24	IVb	打製石斧	I	14.26	5.93	2.05	238.30	ホルンフェルス	-	36886	-	110
	S552	D-14	IVb	打製石斧	I	14.85	5.23	1.78	161.10	ホルンフェルス	-	3580	-	110
	S553	C-10	IVa	打製石斧	I	14.80	6.41	2.16	177.23	ホルンフェルス	-	28570	-	110

第2-24表 包含層石器観察表6

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考	写真 図版
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)					
2-174	S554	C-17	IVb	打製石斧	I	9.17	4.31	1.58	79.00	ホルンフェルス	-	13597	-	-
	S555	C-15	III	打製石斧	I	(7.07)	4.97	1.58	62.80	ホルンフェルス	-	115	-	-
2-175	S556	C-9	IVb	打製石斧	I	9.72	4.99	2.05	97.30	ホルンフェルス	-	25757	-	-
	S557	F-10	IVb	打製石斧	I	12.47	6.79	1.45	135.07	ホルンフェルス	-	26216	-	110
	S558	C-7	IVa	打製石斧	I	13.15	6.55	2.73	194.05	ホルンフェルス	-	22300	-	-
	S559	C-9	IVb	打製石斧	I	10.67	4.88	1.58	117.94	ホルンフェルス	-	28748	-	-
	S560	D-10	IVa	打製石斧	I	7.91	5.90	1.32	66.28	頁岩	頁岩B	21210	-	-
	S561	D-11	IVb	打製石斧	I	9.12	5.77	1.60	104.34	ホルンフェルス	-	24030	-	-
	S562	F-22	IVb	打製石斧	I	9.37	6.95	2.29	190.00	ホルンフェルス	-	20404	-	110
2-176	S563	B-35	IVb	打製石斧	IIa	17.63	6.20	1.87	245.28	ホルンフェルス	-	103700	-	110
	S564	C-9	IVb	打製石斧	IIa	15.65	5.59	1.77	202.12	ホルンフェルス	-	28747	-	110
	S565	D-18	IVa	打製石斧	IIa	10.91	4.88	1.40	92.00	ホルンフェルス	-	7301	-	110
	S566	D-11	IVa	打製石斧	IIa	13.03	6.58	1.95	202.80	ホルンフェルス	-	44078	-	110
2-177	S567	D-10	IVa	打製石斧	IIa	14.91	5.60	1.68	131.59	ホルンフェルス	-	22692	-	110
	S568	D-11	IVb	打製石斧	IIa	13.91	5.53	1.89	172.27	ホルンフェルス	-	22288	-	110
	S569	D-8	IVb	打製石斧	IIa	8.29	4.74	1.43	62.20	ホルンフェルス	-	28220	-	-
	S570	D-8	IVa	打製石斧	IIa	10.19	4.20	1.20	45.19	ホルンフェルス	-	22599	-	-
	S571	C-10	IVb	打製石斧	IIb	15.62	7.85	2.60	307.30	ホルンフェルス	-	27336	-	111
2-178	S572	C-40	IVa	打製石斧	IIb	11.05	5.81	1.48	94.64	ホルンフェルス	-	101834	-	111
	S573	D-8	IVa	打製石斧	IIb	11.77	7.01	1.62	164.14	ホルンフェルス	-	21994	-	111
	S574	E-10	IVb	打製石斧	IIb	13.50	6.02	1.52	112.34	ホルンフェルス	-	29235	-	-
	S575	4T・C-37	-	打製石斧	IIb	11.76	7.38	1.59	155.50	ホルンフェルス	-	4T	-	111
	S576	E-10	IVb	打製石斧	IIb	9.71	6.69	1.83	132.60	ホルンフェルス	-	35046	-	-
2-179	S577	F-24	IVb	打製石斧	IIb	9.85	5.94	1.96	145.00	ホルンフェルス	-	39234	-	-
	S578	D-10	IVb	打製石斧	III	11.32	8.25	1.60	140.67	ホルンフェルス	-	25942	-	111
	S579	C-9	IVb	打製石斧	III	12.29	7.19	1.50	144.00	ホルンフェルス	-	43017	-	111
2-180	S580	B-34	IVa	打製石斧	III	10.13	8.88	1.86	166.80	ホルンフェルス	-	103476	-	-
	S581	B-5	IVb	打製石斧	III	15.90	8.49	2.09	255.90	ホルンフェルス	-	30238	-	111
2-181	S582	B-29	IVb	打製石斧	III	15.00	9.13	2.02	228.30	ホルンフェルス	-	45685	-	111
	S583	D-5	IVa	打製石斧	III	19.55	10.94	2.69	644.00	ホルンフェルス	-	25538	-	111
2-182	S584	E-14	IVa	打製石斧	III	11.86	9.57	1.52	175.60	頁岩	頁岩B	923	-	-
	S585	C-8	IVa	打製石斧	IV	5.67	6.70	1.40	50.49	頁岩	頁岩B	21795	-	-
	S586	C-15	III	打製石斧	IV	6.29	5.64	1.96	79.60	ホルンフェルス	-	160	-	-
	S587	C-11	IVb	打製石斧	IV	7.00	10.04	2.88	199.56	ホルンフェルス	-	24091	-	-
	S588	E-10	IVa	打製石斧	IV	7.20	4.20	1.97	60.73	ホルンフェルス	-	27795	-	-
	S589	B-7	IVb	打製石斧	IV	9.49	7.38	2.49	176.55	ホルンフェルス	-	29975	-	-
2-183	S590	D-8	IVb	打製石斧	IV	9.06	9.39	1.95	187.00	ホルンフェルス	-	28031	-	111
	S591	C-6	IVb	打製石斧	IV	11.96	10.32	1.62	170.00	ホルンフェルス	-	46741	-	-
	S592	F-10	IVb	打製石斧	IV	(8.64)	6.58	(2.39)	189.80	ホルンフェルス	-	35012	-	-
	S593	C-10	IVb	打製石斧	IV	13.62	5.88	1.99	140.77	ホルンフェルス	-	27519	-	-
	S594	B-35	IVb	打製石斧	IV	7.81	11.51	2.20	169.50	ホルンフェルス	-	103691	-	-
2-184	S595	E-9	IVa	打製石斧	IV	12.00	5.60	2.12	147.21	ホルンフェルス	-	27946	-	-
	S596	D-5	IVb	打製石斧	IV	12.21	6.94	4.95	422.00	ホルンフェルス	-	33140	-	-
2-185	S597	E-24	IVb	打製石斧	IV	18.63	9.57	4.61	875.50	ホルンフェルス	-	40907	-	-
	S598	E-15	III	礫器	-	(6.00)	(7.78)	(2.36)	109.80	ホルンフェルス	-	317	-	-
	S599	D-16	IVb	礫器	-	6.94	8.39	5.65	369.50	砂岩	-	7837	-	112
	S600	E-4	IVb	礫器	-	11.51	6.91	3.40	289.00	砂岩	-	45767	-	112
	S601	F-9	-	礫器	-	9.45	12.35	3.70	507.50	ホルンフェルス	-	45504	-	112
	S602	8T	IV	礫器	-	14.99	8.54	4.62	706.00	ホルンフェルス	-	10	-	112
	S603	D-19	V	礫器	-	12.31	12.03	4.10	592.10	ホルンフェルス	-	16104	-	112
2-186	S604	B-19	V	礫器	-	18.66	10.43	6.75	1515.10	ホルンフェルス	-	19736	-	112
	S605	E-15	III	礫器	-	7.48	(6.80)	(1.98)	156.80	砂岩	-	311	-	-
	S606	D-3	IVb	礫器	-	7.67	8.19	3.08	227.50	砂岩	-	39041	-	112
	S607	B-16	IVb	礫器	-	6.92	11.44	3.55	400.00	ホルンフェルス	-	19245	-	112
	S608	B-3	IVb	礫器	-	9.96	13.55	5.83	761.06	ホルンフェルス	-	26561	-	112
	S609	F-5	IVb	礫器	-	9.13	11.19	3.21	414.00	ホルンフェルス	-	37300	-	112
	S610	D-37	IVb	礫器	-	10.67	15.84	4.96	1042.70	ホルンフェルス	-	103437	-	112
2-187	S611	F-8	IVb	磨・敲石	I	6.40	3.67	3.15	98.65	花崗岩	-	28412	-	-
	S612	E-8	IVb	磨・敲石	I	5.60	5.13	4.23	150.91	安山岩	安山岩B	30537	-	113
	S613	E-8	IVb	磨・敲石	I	7.27	5.09	4.26	200.64	砂岩	-	30524	-	113
	S614	D-9	IVb	磨・敲石	I	6.72	5.80	4.42	244.71	安山岩	安山岩B	39397	-	113
	S615	D-7	Va	磨・敲石	I	7.10	6.12	4.30	261.50	安山岩	安山岩B	54513	-	113
	S616	D-23	Va	磨・敲石	I	7.28	5.13	4.50	197.70	安山岩	安山岩B	55953	-	-
	S617	F-8	IVb	磨・敲石	I	7.18	6.02	5.58	302.50	花崗岩	-	28415	-	113
	S618	C-19	IVa	磨・敲石	I	8.04	6.21	4.60	285.50	安山岩	安山岩B	19747	赤色顔料付着	113

第2-25表 包含層石器観察表7

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考	写真 図版
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)					
2-187	S619	D-14	Ⅲ	磨・敲石	I	8.81	5.91	3.10	213.00	安山岩	安山岩B	209	-	-
	S620	D-5	Ⅳb	磨・敲石	I	7.45	6.78	5.24	302.95	安山岩	安山岩B	25735	赤色顔料付着	-
	S621	E-5	Ⅳb	磨・敲石	I	7.90	8.12	5.52	433.50	花崗岩	-	27371	-	113
	S622	C-6	Ⅳa	磨・敲石	I	7.90	7.50	5.67	352.50	石英	-	26822	-	113
2-188	S623	E-4	Ⅳb	磨・敲石	I	7.28	6.94	5.56	402.20	安山岩	安山岩B	45951	-	-
	S624	E-4	Ⅳb	磨・敲石	I	7.03	7.72	5.69	451.50	安山岩	安山岩B	45952	-	113
	S625	E-21	V	磨・敲石	I	9.18	7.68	6.10	564.00	砂岩	-	8682	-	-
	S626	C-14	Ⅲ	磨・敲石	I	9.88	7.65	5.10	542.90	安山岩	安山岩B	354	-	-
	S627	F-5	Ⅳa	磨・敲石	I	11.40	8.90	6.98	1072.50	安山岩	安山岩B	25659	-	-
	S628	C-8	V a	磨・敲石	I	11.18	8.02	6.10	743.20	砂岩	-	53964	-	-
2-189	S629	B-9	Ⅳa	磨・敲石	Ⅱa	5.40	5.08	2.69	81.39	花崗岩	-	22973	-	-
	S630	C-7	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	6.26	5.99	3.30	165.30	安山岩	安山岩B	35416	-	113
	S631	D-3	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	7.50	6.68	3.95	265.74	安山岩	安山岩B	27622	-	-
	S632	C-11	Ⅳa	磨・敲石	Ⅱa	7.68	6.95	4.31	340.00	砂岩	-	5568	-	113
	S633	E-8	Ⅳa	磨・敲石	Ⅱa	7.73	7.19	4.44	353.50	花崗岩	-	28435	-	-
	S634	E-9	Ⅳa	磨・敲石	Ⅱa	9.70	8.63	5.40	674.50	花崗岩	-	27926	-	-
	S635	D-7	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	7.87	7.70	5.25	509.80	花崗岩	-	46189	-	113
	S636	C-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	9.40	8.21	5.40	693.50	花崗岩	-	28936	-	113
	S637	C-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	9.16	9.10	5.20	611.00	砂岩	-	30562	-	-
	S638	F-8	Ⅳa	磨・敲石	Ⅱa	8.82	8.18	4.27	461.00	砂岩	-	28403	-	113
2-190	S639	D-9	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	9.80	9.00	6.28	794.00	砂岩	-	43022	-	113
	S640	D-15	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	10.16	9.46	5.11	763.50	砂岩	-	11899	-	-
	S641	F-7	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	10.09	9.40	5.11	682.50	花崗岩	-	45834	-	-
	S642	B-9	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	9.77	9.08	5.18	673.00	花崗岩	-	48396	-	-
	S643	C-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	10.41	9.35	5.05	797.00	花崗岩	-	35385	-	113
	S644	C-10	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	10.21	9.46	4.56	740.00	花崗岩	-	47022	-	113
	S645	D-13	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	10.79	9.59	4.87	866.50	花崗岩	-	20935	-	-
	S646	F-7	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	10.36	9.58	5.03	830.50	花崗岩	-	45835	-	-
2-191	S647	C-11	Ⅵ	磨・敲石	Ⅱa	11.11	9.93	5.46	977.50	花崗岩	-	25255	-	-
	S648	D-14	Ⅳa	磨・敲石	Ⅱa	11.48	9.82	5.39	973.00	花崗岩	-	1011	-	-
	S649	E-7	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	10.71	10.00	5.31	877.50	安山岩	安山岩B	47445	-	113
	S650	B-5	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	10.23	9.51	5.70	871.00	砂岩	-	31995	-	-
	S651	B-2	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	11.74	10.16	4.96	913.00	砂岩	-	44809	-	-
2-192	S652	C-16	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	11.29	10.22	6.35	1052.50	砂岩	-	13800	-	-
	S653	F-13	Ⅳa	磨・敲石	Ⅱa	9.03	8.52	3.80	450.50	安山岩	安山岩B	23973	-	-
	S654	E-4	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	10.14	10.50	2.90	401.70	安山岩	安山岩B	45769	-	-
	S655	D-10	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	10.38	9.44	3.31	397.30	凝灰岩	-	27860	-	113
	S656	E-9	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱa	12.98	11.87	5.29	1297.20	安山岩	安山岩B	30989	-	-
2-193	S657	C-7	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱb	8.85	5.75	4.00	309.96	安山岩	安山岩B	29837	-	-
	S658	F-8	Ⅳa	磨・敲石	Ⅱb	9.20	7.90	4.90	481.00	安山岩	安山岩B	24111	-	-
	S659	D-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱb	12.48	9.32	4.57	899.00	安山岩	安山岩B	27427	-	114
	S660	D-11	Ⅳa	磨・敲石	Ⅱb	11.61	8.12	4.52	772.00	安山岩	安山岩B	960	-	-
	S661	D-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱb	11.12	8.99	4.74	761.00	砂岩	-	31007	-	114
	S662	D-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱb	12.65	9.80	4.75	940.00	花崗岩	-	30446	-	114
	S663	C-10	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱb	12.24	8.27	4.17	625.00	ホルンフェルス	-	25969	-	114
	S664	C-15	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱb	8.79	7.82	4.66	479.00	ホルンフェルス	-	13671	-	114
2-194	S665	D-11	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱb	9.95	8.50	4.90	696.00	安山岩	安山岩B	24057	-	-
	S666	C-10	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱb	11.80	9.10	5.00	846.50	砂岩	-	27524	-	-
	S667	C-10	Ⅳa	磨・敲石	Ⅱb	11.00	9.15	3.30	467.00	安山岩	安山岩B	22957	-	114
	S668	D-11	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱb	10.80	8.80	3.30	545.50	安山岩	安山岩B	23325	-	-
	S669	D-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱc	6.98	6.12	2.88	181.68	花崗岩	-	26324	-	-
	S670	B-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱc	8.05	6.22	2.29	184.00	花崗岩	-	28314	-	114
	S671	B-10	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱc	10.10	6.69	3.23	350.53	花崗岩	-	29577	-	-
	S672	E-8	Ⅳa	磨・敲石	Ⅱc	10.20	7.08	3.28	326.60	花崗岩	-	28447	-	-
	S673	B-5	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱc	8.40	7.80	5.20	526.00	花崗岩	-	30125	-	114
	S674	C-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱc	8.98	9.03	2.90	372.96	花崗岩	-	30578	-	-
2-195	S675	B-5	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱd	9.36	9.38	6.37	859.00	安山岩	安山岩B	33681	-	-
	S676	E-22	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱd	10.68	8.94	4.57	666.00	砂岩	-	7648	-	-
	S677	C-16	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱd	10.41	8.72	4.46	653.50	砂岩	-	6033	-	-
	S678	E-8	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱd	9.90	9.70	6.31	852.00	砂岩	-	30534	-	-
	S679	F-5	V a	磨・敲石	Ⅱd	(9.20)	(6.50)	3.80	322.00	安山岩	安山岩B	48547	-	114
	S680	C-10	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱd	8.50	7.59	5.29	539.73	安山岩	安山岩B	27367	-	-
2-196	S681	B-19	Ⅳb	磨・敲石	Ⅱd	12.21	10.80	5.53	1140.00	砂岩	-	3311	-	114
	S682	B-3	Ⅳb	磨・敲石	Ⅲ	4.51	4.15	3.91	100.40	砂岩	-	41532	-	-
	S683	B-9	V a	磨・敲石	Ⅲ	(5.15)	5.64	4.29	163.30	砂岩	-	49364	-	114

第2-26表 包含層石器観察表8

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考	写真 図版
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)					
2-196	S684	B-12	IVb	磨・敲石	Ⅲ	6.30	5.92	2.71	149.70	砂岩	-	462	-	114
	S685	C-14	IVa	磨・敲石	Ⅲ	6.50	5.78	2.69	164.50	砂岩	-	1948	-	-
	S686	B-7	IVb	磨・敲石	Ⅲ	6.41	6.34	3.33	204.70	砂岩	-	32689	-	-
	S687	D-12	IVb	磨・敲石	Ⅲ	8.00	7.59	4.33	390.08	砂岩	-	24074	-	-
	S688	C-9	IVb	磨・敲石	Ⅲ	8.40	8.47	3.42	384.00	砂岩	-	47198	-	114
	S689	C-8	IVb	磨・敲石	Ⅳ	10.15	8.30	5.30	528.86	花崗岩	-	27982	-	-
	S690	D-7	IVb	磨・敲石	Ⅳ	10.00	6.91	5.87	547.50	花崗岩	-	28883	-	-
	S691	B-8	IVb	磨・敲石	Ⅳ	5.60	10.79	7.10	552.50	花崗岩	-	28689	-	-
	S692	B-8	IVb	磨・敲石	Ⅳ	6.93	10.69	5.90	596.50	花崗岩	-	28922	-	115
	S693	D-8	IVb	磨・敲石	Ⅳ	6.40	9.67	6.00	539.00	花崗岩	-	28638	-	115
S694	D-8	IVb	磨・敲石	Ⅳ	7.03	10.39	6.73	691.50	花崗岩	-	26326	-	-	
2-197	S695	C-9	IVb	磨・敲石	Ⅳ	8.49	10.96	6.49	805.50	花崗岩	-	27366	-	-
	S696	D-38	IVa	磨・敲石	Ⅳ	7.28	11.19	5.46	650.70	花崗岩	-	103151	-	115
	S697	C-6	IVb	磨・敲石	Ⅳ	7.50	10.83	7.79	910.00	花崗岩	-	29880	-	-
	S698	D-39	IVa	磨・敲石	Ⅳ	11.20	6.86	6.54	696.60	花崗岩	-	101051	-	-
	S699	C-8	IVb	磨・敲石	Ⅳ	9.19	10.40	7.42	881.00	花崗岩	-	27993	-	-
	S700	F-11	IVa	磨・敲石	Ⅳ	(8.09)	(11.14)	(7.30)	942.50	花崗岩	-	23891	-	-
2-198	S701	B-34	IVa	磨・敲石	Va	10.13	2.87	2.76	122.00	ホルンフェルス	-	104510	-	115
	S702	B-7	IVb	磨・敲石	Va	10.70	4.22	3.21	201.50	ホルンフェルス	-	34709	-	115
	S703	C-10	IVa	磨・敲石	Va	11.78	4.00	2.88	188.47	砂岩	-	22500	-	-
	S704	D-15	IVb	磨・敲石	Va	11.68	5.55	3.90	359.60	ホルンフェルス	-	534	-	-
	S705	E-11	IVa	磨・敲石	Va	11.42	4.14	3.38	238.00	花崗岩	-	5460	-	115
	S706	B-10	IVa	磨・敲石	Va	15.37	7.36	4.65	614.20	ホルンフェルス	-	54488	-	115
	S707	E-7	IVb	磨・敲石	Va	12.04	8.49	6.52	771.00	ホルンフェルス	-	30828	-	115
	S708	D-6	Va	磨・敲石	Va	21.81	7.59	6.65	1170.40	ホルンフェルス	-	48527	-	-
2-199	S709	D-7	IVb	磨・敲石	Vb	6.90	3.30	2.13	72.01	砂岩	-	26344	-	115
	S710	C-3	IVb	磨・敲石	Vb	7.29	2.96	2.59	74.80	砂岩	-	39800	-	-
	S711	E-7	IVb	磨・敲石	Vb	8.00	3.42	2.80	99.44	ホルンフェルス	-	47432	-	115
	S712	E-7	IVa	磨・敲石	Vb	8.53	4.97	3.74	258.96	砂岩	-	22021	-	115
	S713	E-8	IVb	磨・敲石	Vb	9.34	5.09	3.45	235.64	砂岩	-	30539	-	-
	S714	D-25	IVb	磨・敲石	Vb	9.62	6.57	4.16	366.00	砂岩	-	40376	-	115
	S715	C-7	IVb	磨・敲石	Vb	11.79	5.88	3.77	363.00	砂岩	-	45788	-	115
	S716	C-12	IVb	磨・敲石	Vb	9.66	4.07	3.99	241.00	砂岩	-	10750	-	115
	S717	E-7	IVa	磨・敲石	Vb	10.90	7.90	6.40	933.00	安山岩	安山岩B	23145	-	115
	S718	D-10	IVb	磨・敲石	Vc	17.89	5.48	3.89	489.50	ホルンフェルス	-	26071	-	115
2-200	S719	C-9	IVb	磨・敲石	Ⅵ	6.50	5.44	1.80	65.13	砂岩	-	28172	-	-
	S720	F-4	表土	磨・敲石	Ⅵ	(5.45)	(4.30)	(4.38)	133.00	安山岩	安山岩B	一括	赤色顔料付着	114
	S721	E-7	Va	磨・敲石	Ⅵ	(5.67)	6.19	3.20	114.80	安山岩	安山岩B	48824	-	-
	S722	F-5	Va	磨・敲石	Ⅵ	(8.16)	(4.30)	(4.60)	193.60	砂岩	-	48545	-	-
	S723	F-11	IVa	磨・敲石	Ⅵ	7.99	9.20	5.10	517.91	安山岩	安山岩B	23875	-	-
	S724	G-15	IVb	磨・敲石	Ⅵ	11.44	(5.30)	6.82	609.00	砂岩	-	20399	-	114
	S725	E-6	IVb	磨・敲石	Ⅵ	7.53	2.51	1.99	60.51	ホルンフェルス	-	30866	-	-
	S726	F-9	IVb	磨・敲石	Ⅵ	6.40	4.00	1.49	60.07	砂岩	-	26151	-	-
	S727	E-8	IVb	磨・敲石	Ⅵ	9.70	4.00	3.21	144.42	ホルンフェルス	-	28451	-	-
	S728	C-7	IVb	磨・敲石	Ⅵ	9.06	5.48	3.96	273.58	ホルンフェルス	-	30606	-	-
2-201	S729	D-12	IVb	石皿	I a	36.60	24.30	11.20	13750.00	花崗岩	-	20929	①1.7②0.4	-
	S730	C-2	IVb	石皿	I a	47.20	38.30	11.40	27500.00	花崗岩	-	43236	①3.75②1.7	117
	S731	D-12	Ⅶb	石皿	I a	25.30	31.40	9.10	10300.00	花崗岩	-	25301	-	-
	S732	B-17	IVb	石皿	I b	28.00	23.80	11.70	7800.00	安山岩	安山岩B	11612	-	-
	S733	E-5	IVb	石皿	I b	40.20	29.20	18.20	22300.00	安山岩	安山岩B	45455	①0.75	117
2-202	S734	表土一括	I	石皿	I b	(41.40)	37.50	14.50	24000.00	花崗岩	-	一括	①5.95②1.7③0.7	-
	S735	C-8	IVb	石皿	I b	39.40	24.60	11.70	13700.00	花崗岩	-	46297	①(3.0)②0.8	-
	S736	D-6	IVa	石皿	I b	(45.90)	(19.90)	10.30	13600.00	花崗岩	-	25539	-	-
	S737	E-5	Va	石皿	Ⅱ	43.10	35.60	12.90	29200.00	花崗岩	-	49883	①4.8	117
2-203	S738	C-7	-	石皿	Ⅳ	27.40	18.70	13.90	6500.00	花崗岩	-	45599	-	-
	S739	C-7	IVb	石皿	Ⅳ	35.00	25.30	6.10	8200.00	花崗岩	-	47500	-	-
	S740	C-2	IVb	石皿	Ⅳ	42.50	18.70	7.70	8300.00	花崗岩	-	42959	-	-
	S741	B-4	IVb	石皿	Ⅳ	36.80	23.40	8.20	10700.00	花崗岩	-	45770	-	-
	S742	D-5	Ⅵ	石皿	Ⅳ	(31.40)	58.60	7.70	19600.00	花崗岩	-	52382	①(1.1)	117
2-204	S743	C-9	IVb	石皿	Ⅳ	25.81	21.07	7.40	5200.00	砂岩	-	45500	①0.5	-
	S744	D-27	IVb	石皿	Ⅳ	24.00	23.20	9.20	5700.00	砂岩	-	44335	-	-
	S745	F-5	IVa	石皿	Ⅳ	31.58	26.63	8.70	12500.00	砂岩	-	25658	-	-
	S746	E-19	V	石皿	Ⅳ	40.79	28.39	11.60	16500.00	砂岩	-	16524	①0.25	-
	S747	E-8	Ⅵ	石皿	Ⅳ	44.41	18.77	9.80	11700.00	砂岩	-	45877	①0.4	117
2-205	S748	F-10	Ⅵ	石皿	V	44.93	20.45	19.70	27000.00	安山岩	安山岩B	45484	-	117

第2-27表 包含層石器観察表9

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考	写真 図版
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)					
2-206	S749	F-4	IVb	石皿	VI	24.90	13.50	9.20	4400.00	花崗岩	-	45898	-	-
	S750	C-7	-	石皿	VI	19.80	21.70	9.00	5300.00	花崗岩	-	45598	-	-
	S751	F-4	IVb	石皿	VI	26.20	22.70	10.20	5800.00	花崗岩	-	25	-	-
	S752	3T	IV	石皿	VI	36.90	20.00	9.20	9200.00	花崗岩	-	170	-	-
	S753	C-11	IVb	石皿	VI	(22.70)	31.70	20.00	19100.00	花崗岩	-	20960	-	-
2-207	S754	D-9	IVb	石皿	VI	9.85	6.80	2.80	277.82	花崗岩	-	27415	-	-
	S755	D-10	IVb	石皿	VI	8.85	8.49	2.70	292.40	花崗岩	-	27425	-	-
	S756	F-8	IVa	石皿	VI	13.12	7.16	3.20	457.25	花崗岩	-	28404	-	-
	S757	F-10	IVb	石皿	VI	13.22	7.02	2.40	306.56	花崗岩	-	26212	-	-
	S758	D-9	IVb	石皿	VI	12.65	9.37	2.35	445.76	花崗岩	-	27477	-	-
	S759	C-10	IVb	石皿	VI	10.25	12.40	2.70	447.25	花崗岩	-	27495	-	-
	S760	E-10	IVb	石皿	VI	12.30	13.40	2.89	696.16	花崗岩	-	29312	-	-
	S761	E-9	IVb	石皿	VI	15.45	20.22	7.10	2940.00	花崗岩	-	29359	-	-
S762	E-15	III	石皿	VI	(16.11)	(19.03)	(8.97)	2968.90	礫岩	-	312	-	-	
2-208	S763	B-2	Va	砥石	-	6.14	5.95	1.00	48.80	砂岩	-	47884	-	119
	S764	C-4	IVb	砥石	-	(7.44)	8.46	1.66	130.00	砂岩	-	36387	-	119
	S765	B-4	IVb	砥石	-	(6.73)	(8.19)	(2.15)	112.80	砂岩	-	38507	-	119
	S766	D-10	IVb	砥石	-	7.25	5.95	3.60	226.12	砂岩	-	29159	-	119
	S767	C-12	IVb	砥石	-	(14.24)	(7.48)	(2.88)	392.00	砂岩	-	20928	-	119
	S768	F-5	Va	砥石	-	(8.83)	(3.31)	4.50	151.50	砂岩	-	48548	-	119
	S769	F-6	IVb	砥石	-	(10.09)	(9.10)	(2.63)	345.50	砂岩	-	45152	-	119
	S770	B-11	IVa	砥石	-	9.40	11.50	2.60	352.50	砂岩	-	5121	-	-
	S771	B-17	IVb	砥石	-	7.68	5.30	1.25	75.10	砂岩	-	9412	-	119
	S772	D-8	IVb	砥石	-	13.86	7.19	2.31	359.00	砂岩	-	30455	-	119
	S773	E-32	IVb	砥石	-	12.28	9.86	2.55	433.50	砂岩	-	104681	-	119
	S774	B-3	IVb	砥石	-	6.75	6.09	1.93	97.30	砂岩	-	39765	-	119
	S775	D-4	IVb	砥石	-	7.10	6.70	2.08	143.52	砂岩	-	25685	-	-
	S776	E-35	IVb	砥石	-	6.84	6.15	2.40	123.10	砂岩	-	100523	-	119
2-209	S777	F-38	IVb	砥石	-	8.84	3.56	1.44	35.92	凝灰岩	-	100203	-	119
	S778	C-12	VI	砥石	-	16.87	15.12	8.52	2520.00	砂岩	-	24451	-	-
	S779	E-24	IVb	砥石	-	18.54	21.60	6.28	1511.00	凝灰岩	-	41001	-	-
	S780	C-15	IVb	擦切石器	-	2.96	(3.95)	0.44	7.50	砂岩	-	17605	-	119
2-210	S781	12T	-	擦切石器	-	(4.94)	(4.44)	(0.57)	19.20	砂岩	-	一括	-	119
	S782	C-4	IVb	擦切石器	-	3.50	6.30	0.64	24.20	砂岩	-	39970	-	119
	S783	D-11	IVb	擦切石器	-	4.52	5.35	0.50	11.80	砂岩	-	一括	-	119
	S784	C-4	IVb	擦切石器	-	(7.41)	(6.02)	0.98	39.00	砂岩	-	37809	-	119
	S785	D-2	IVb	擦切石器	-	(6.85)	(8.19)	0.95	78.33	砂岩	-	46559	-	119
	S786	C-4	IVb	擦切石器	-	5.45	7.83	0.98	50.59	砂岩	-	36260	-	119
	S787	C-15	IVb	擦切石器	-	6.79	7.11	0.85	49.09	砂岩	-	772	-	119
	S788	C-15	IVb	石錘	Ia	3.88	4.09	1.72	36.36	安山岩	安山岩B	17600	-	118
2-211	S789	C-9	IVb	石錘	Ia	5.25	4.90	1.40	52.99	ホルンフェルス	-	25777	-	118
	S790	D-15	IVb	石錘	Ia	6.11	4.83	1.65	56.64	ホルンフェルス	-	9079	-	118
	S791	C-4	表土	石錘	Ia	6.04	4.78	1.80	69.10	安山岩	安山岩B	393	-	118
	S792	D-9	IVa	石錘	Ia	5.46	4.95	1.55	55.49	ホルンフェルス	-	24319	-	118
	S793	C-17	IVb	石錘	Ia	5.96	5.20	1.63	78.56	砂岩	-	8255	-	118
	S794	E-14	IVb	石錘	Ia	6.79	6.12	2.13	119.73	砂岩	-	15228	-	118
	S795	E-5	IVb	石錘	Ia	6.45	7.08	1.90	132.65	砂岩	-	26636	-	118
	S796	C-5	IVb	石錘	Ia	6.80	7.30	2.25	154.58	砂岩	-	30398	-	118
	S797	C-10	IVa	石錘	Ia	5.88	6.75	1.93	107.24	砂岩	-	28574	-	118
	S798	D-11	IVb	石錘	Ia	7.37	8.00	2.72	233.50	安山岩	安山岩B	24050	-	-
	S799	C-16	IVb	石錘	Ia	7.51	6.83	2.53	192.90	ホルンフェルス	-	9531	-	-
	S800	C-7	IVa	石錘	Ia	6.40	6.82	1.99	91.93	安山岩	安山岩B	22296	-	-
	S801	C-6	IVb	石錘	Ia	6.26	6.80	2.47	121.88	ホルンフェルス	-	29537	-	-
	S802	C-3	IVb	石錘	Ia	6.44	4.15	1.33	44.56	ホルンフェルス	-	40712	-	118
	S803	B-9	IVb	石錘	Ia	5.20	7.36	2.30	134.70	砂岩	-	30735	-	118
	S804	F-10	IVa	石錘	Ia	5.29	7.99	2.80	161.40	砂岩	-	21456	-	118
	S805	B-8	IVb	石錘	Ia	9.94	7.47	1.68	179.30	砂岩	-	31934	-	-
2-212	S806	C-12	IVb	石錘	Ib	6.86	4.54	1.70	79.47	砂岩	-	20917	-	118
	S807	F-14	IVb	石錘	Ib	6.40	6.20	2.17	21.60	花崗岩	-	24225	-	118
	S808	C-9	IVb	石錘	Ib	6.88	6.40	1.98	121.20	ホルンフェルス	-	25782	-	118
	S809	B-17	IVb	石錘	Ib	6.30	4.87	2.08	95.12	ホルンフェルス	-	31898	-	118
	S810	D-16	IVb	石錘	Ib	7.46	5.62	2.16	97.00	ホルンフェルス	-	11728	-	-
	S811	C-9	IVb	石錘	Ib	6.75	6.04	2.47	115.98	ホルンフェルス	-	47146	-	118
	S812	C-8	IVb	石錘	Ib	6.98	7.08	2.51	143.20	ホルンフェルス	-	35365	-	118
	S813	F-15	IVb	石錘	Ib	8.68	6.63	2.65	236.00	ホルンフェルス	-	20386	-	-

第2-28表 包含層石器観察表10

挿図 番号	掲載 番号	出土区	層	器種	分類	法量				石材	石材分類	取上番号	備考	写真 図版
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)					
2-212	S814	F-9	IVb	石錘	I b	7.50	7.11	3.17	218.00	砂岩	-	47277	-	118
	S815	14T	IV	石錘	I b	8.41	7.40	2.35	224.00	砂岩	-	201	-	-
	S816	C-8	IVa	石錘	I b	8.09	6.56	2.20	168.70	砂岩	-	21788	-	118
	S817	B-6	IVa	石錘	I b	7.50	6.96	2.77	192.20	砂岩	-	25490	-	-
2-213	S818	E-8	IVa	石錘	I c	6.25	8.00	2.40	186.30	砂岩	-	28062	-	118
	S819	E-7	IVa	石錘	I c	7.31	7.50	1.45	122.60	砂岩	-	22089	-	118
	S820	D-8	IVb	石錘	I c	8.89	8.95	2.07	221.60	砂岩	-	30432	-	118
	S821	C-10	IVb	石錘	I c	8.39	8.10	3.83	333.50	砂岩	-	29736	-	-
	S822	F-15	V	石錘	I d	5.36	4.07	1.20	34.50	ホルンフェルス	-	16034	-	-
	S823	C-15	III	石錘	I d	(6.13)	(5.57)	1.50	75.00	ホルンフェルス	-	125	-	-
	S824	E-8	IVa	石錘	I d	6.30	5.83	2.38	114.76	花崗岩	-	24186	-	-
	S825	C-4	IVb	石錘	I d	6.47	6.52	2.14	100.30	ホルンフェルス	-	31394	-	-
	S826	D-8	IVb	石錘	I d	5.00	7.45	2.55	114.73	砂岩	-	28664	-	118
	S827	D-16	IVb	石錘	II	6.66	5.61	2.46	126.10	花崗岩	-	6999	-	118
	S828	D-5	IVb	石錘	II	7.71	5.48	2.19	126.80	ホルンフェルス	-	32347	-	118
	S829	D-9	IVb	石錘	II	6.30	7.39	2.15	123.60	砂岩	-	27479	-	-
	S830	C-8	IVb	石錘	II	7.61	7.95	2.57	218.80	砂岩	-	27988	-	118
	S831	C-17	IVb	石錘	II	7.90	6.99	2.19	152.60	ホルンフェルス	-	3285	-	118
	S832	C-16	IVb	石錘	II	8.40	6.93	2.44	187.70	ホルンフェルス	-	6040	-	-
	2-214	S833	D-2	IVb	石製品	-	2.77	1.72	0.49	2.60	砂岩	-	46903	-
S834		E-24	IVa	石製品	-	(4.22)	(1.71)	0.25	3.21	蛇紋岩	-	57000	-	120
S835		E-8	IVb	石製品	-	11.17	3.45	1.48	72.97	頁岩	頁岩B	30087	-	120
S836		B-4	IVb	石製品	-	5.88	3.25	2.65	60.69	ホルンフェルス	-	31627	-	120
2-215	S837	B-16	IVb	石製品	-	(4.16)	3.07	1.07	18.09	砂岩	-	12000	-	120
	S838	D-12	IVb	石製品	-	4.35	2.60	1.72	28.97	ホルンフェルス	-	24063	-	120
2-216	S839	B-3	IVb	軽石加工品	-	8.76	5.01	3.25	21.04	軽石	-	41068	-	120
	S840	B-5	IVb	軽石加工品	-	8.30	7.95	5.20	79.77	軽石	-	31060	-	120
	S841	C-4	IVb	軽石加工品	-	8.05	4.22	2.07	13.53	軽石	-	39947	-	120
	S842	C-6	IVa	軽石加工品	-	8.53	7.51	5.47	123.50	軽石	-	23435	-	120
	S843	C-5	IVb	軽石加工品	-	7.54	9.98	4.34	56.00	軽石	-	42032	-	120
	S844	B-11	IVb	軽石加工品	-	9.57	10.44	6.31	112.00	軽石	-	9112	-	120
	S845	C-4	IVb	軽石加工品	-	9.28	13.55	7.37	131.00	軽石	-	39988	-	120
2-217	S846	C-15	IVb	軽石加工品	-	13.36	9.53	5.52	181.50	軽石	-	668	赤色顔料付着	120
	S847	E-8	IVa	軽石加工品	-	6.10	5.59	1.73	21.06	軽石	-	28061	-	-
	S848	C-8	IVa	軽石加工品	-	12.25	7.40	3.10	50.33	軽石	-	28978	-	-
	S849	E-10	IVb	軽石加工品	-	8.25	12.45	4.05	92.38	軽石	-	26265	-	-
	S850	E-10	VI	軽石加工品	-	(22.00)	29.90	8.50	1793.00	軽石	-	45485	-	-

第2-29表 包含層石器掲載一覧表

	黒曜石 A	黒曜石 B	黒曜石 C	黒曜石 D	黒曜石 E	頁岩 A	頁岩 B	頁岩 C	安山岩 A	安山岩 B	安山岩 C	砂岩	凝灰岩	ホルンフェルス	花崗岩	蛇紋岩	チャート	玉髓	鉄石英	石英	軽石	その他	計
石鏃	7	3	21	4	1	5	7		32					1			16	3					100
石錘	1						1		3			1						3					9
石匙	1	1					1				2						7	10		1			23
スクレイパー				1	1	1	4	1			2	3		10			1	1					25
二次加工剥片	1	1		1			2				3			2					1				11
使用痕剥片							7				3	1		3			1	2					17
石核・原石	3		1											3			1			3			11
磨製石斧							8							116	1								125
打製石斧							3							45									48
礫器												4		9									13
磨・敲石									31			36	1	13	36					1			118
石皿									3			5			25							1	34
砥石												15	2										17
擦切石器												8											8
石錘									4			20		18	3								45
石製品							1					2		2	1								6
軽石加工品																					12		12
合計	13	5	22	6	2	6	34	1	35	38	10	95	3	222	65	1	26	19	1	5	12	1	622

公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（52）
東九州自動車道建設（志布志IC～鹿屋串良JCT間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

小牧遺跡 4（縄文時代前期～弥生時代初頭編） 第2分冊（全3分冊）

発行年月 2023年3月

編集・発行 鹿児島県教育委員会
公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-70-0574 FAX 0995-70-0576

印 刷 株式会社 トライ社
〒892-0834 鹿児島市南林寺町12-6
TEL 099-226-0815 FAX 099-225-7933



鹿児島県